県道那珂川宇美線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告１

御笠の森遺跡Ⅰ

―第９次調査（１）―

大野城市文化財調査報告書

―第63集―

２００４

大野城市教育委員会

県道那珂川宇美線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告1

御笠の森遺跡 I

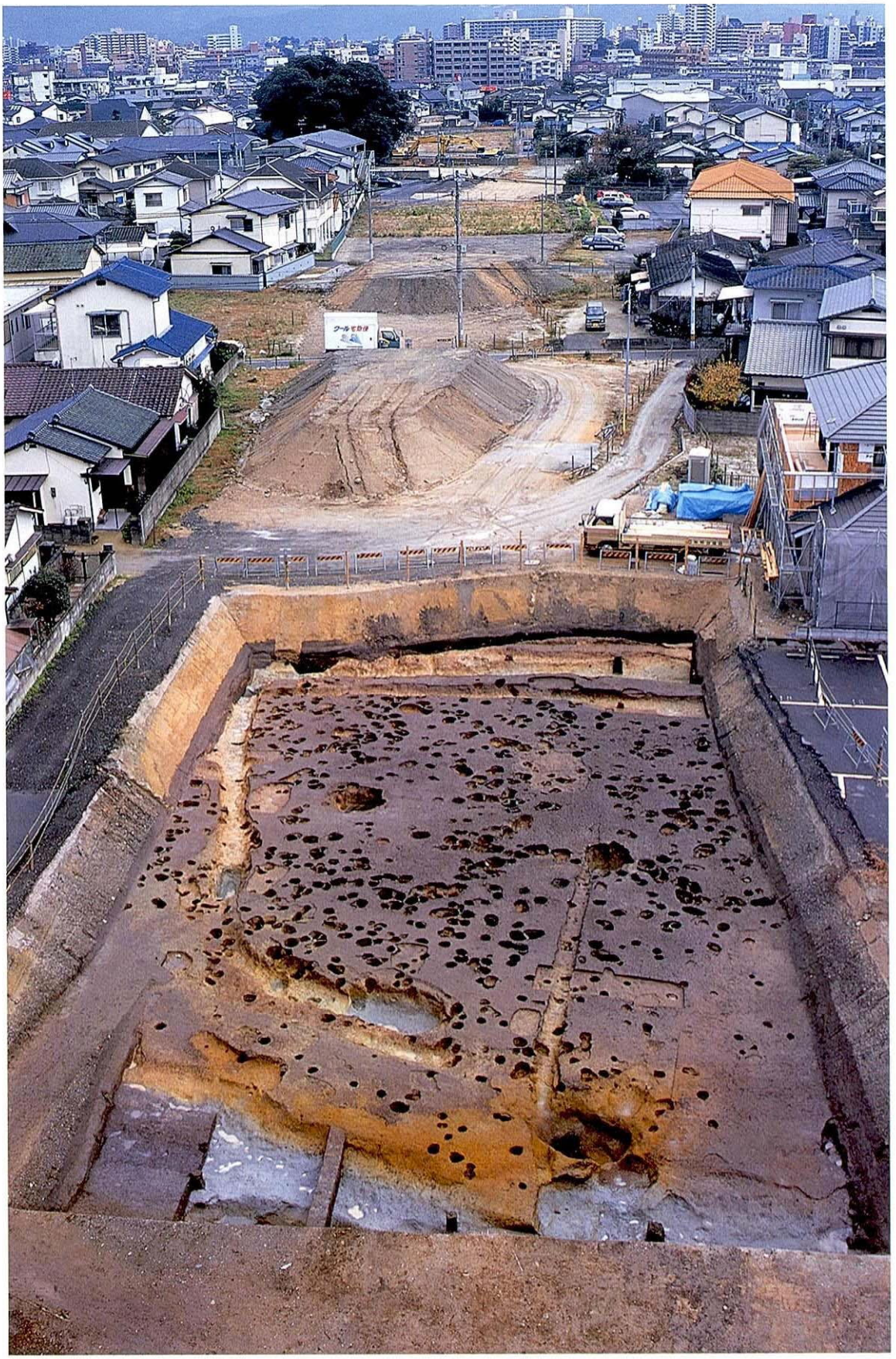
—第 9 次 調 査 (1)—

大野城市文化財調査報告書

— 第 63 集 —

2004

大野城市教育委員会



１区から「御笠の森」と県道建設予定地を望む（北東から）



（1）近世前期の土器・陶磁器類



（2）独楽と羽子板

序

本書で報告いたします御笠の森遺跡は、大野城市山田に所在する市指定文化財「御笠の森」の周囲に広がる遺跡です。

この度、県道那珂川宇美線の建設に伴って発掘調査を実施いたしました。その結果、弥生時代から人々の生活の痕跡が確認され、特に鎌倉時代から江戸時代のはじめ頃にかけては、当時の「山田村」に相当する大きな集落が営まれていたことが分かりました。また、遺跡からは土器や陶磁器だけでなく、独楽、羽子板、下駄、火縄銃の弾、茶臼など、当時の生活をうかがい知ることのできる重要な遺物も発見されました。

市内では、こうした時期の遺跡は少なく、数百年前の先人の暮らしを直接感じることのできる極めて貴重な遺跡といえるでしょう。

遺跡は、発掘調査が終わった後、二度とみることはできませんが、今回の発掘調査の成果が、多くの方々に活用され、地域史解明の手掛かりとなれば幸いです。

最後になりましたが、県道建設の事業主である福岡県那珂土木事務所をはじめ、周辺住民の方々、発掘調査・整理作業に携わられた方々には、多大なご協力を頂きました。心から感謝申し上げます。

平成16年３月31日

大野城市教育委員会
教育長　古賀　宮太

例　言

1．本書は、大野城市教育委員会が県道那珂川宇美線建設に伴って発掘調査を実施した、大野城市山田２・３丁目所在「御笠の森遺跡第９次調査」の報告である。
2．御笠の森遺跡第９次調査は１～７区まで調査範囲があり、本書は１～４区までの調査結果を収録している。５区以降については次年度の報告を予定している。
3．遺構の分類番号は、SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SX：土坑・不明遺構、SP：ピットとしている。
4．遺構写真は、林潤也・平島義孝が撮影し、４区全景写真は（有）空中写真企画に委託した。
5．遺物写真は、フォトハウスOKA（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会会員）による。
6．遺構図は、平島・林・江上正高が作成したほか、１・２区を（株）写測エンジニアリング、３・４区を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
7．遺物実測図は、西堂将夫・元吉知子・平島・上田恵・島田拓・林が作成したほか、（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
8．製図は、遺構と遺物の一部を平島が、それ以外の遺物は（株）九州文化財研究所と（有）文化財テクノアシストに委託した。
9．観察表は、平島・西堂が作成した。
10．瓦については、岸見泰宏が実測・製図・観察表作成を行なった。
11．遺物番号は、１区は１～、２区は301～、３区は401～、４区は601～の通し番号とし、挿図と図版で番号を統一した。
12．木製品の保存処理に関しては、福岡市埋蔵文化財センターに、金属器の透過Ｘ線撮影ならびに墨書遺物の赤外線写真分析については、太宰府市文化ふれあい館にご協力いただいた。
13．第１図は、国土地理院発行の地形図『福岡南部』を基に作成した。
14．本文中の出土遺物の分類については、次の文献に準拠している。
　太宰府分類：山本信夫 2000『太宰府条坊跡XV』太宰府市教育委員会
　森田分類：森田　勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」
　　『貿易陶磁研究 NO.2』日本貿易陶磁研究会
　小野分類：小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」
　　『貿易陶磁研究 NO.2』日本貿易陶磁研究会
15．本遺跡の遺物・実測図・写真は全て大野城市教育委員会にて管理・保管している。
16．本書の執筆は、Ⅲ章の一部を平島が、それ以外を林が行なった。

序

本書で報告いたします御笠の森遺跡は、大野城市山田に所在する市指定文化財「御笠の森」の周囲に広がる遺跡です。

この度、県道那珂川宇美線の建設に伴って発掘調査を実施いたしました。その結果、弥生時代から人々の生活の痕跡が確認され、特に鎌倉時代から江戸時代のはじめ頃にかけては、当時の「山田村」に相当する大きな集落が営まれていたことが分かりました。また、遺跡からは土器や陶磁器だけでなく、独楽、羽子板、下駄、火縄銃の弾、茶臼など、当時の生活をうかがい知ることのできる重要な遺物も発見されました。

市内では、こうした時期の遺跡は少なく、数百年前の先人の暮らしを直接感じることのできる極めて貴重な遺跡といえるでしょう。

遺跡は、発掘調査が終わった後、二度とみることはできませんが、今回の発掘調査の成果が、多くの方々に活用され、地域史解明の手掛かりとなれば幸いです。

最後になりましたが、県道建設の事業主である福岡県那珂土木事務所をはじめ、周辺住民の方々、発掘調査・整理作業に携わられた方々には、多大なご協力を頂きました。心から感謝申し上げます。

平成16年３月31日

大野城市教育委員会
教育長　古賀　宮太

例　言

1．本書は、大野城市教育委員会が県道那珂川宇美線建設に伴って発掘調査を実施した、大野城市山田２・３丁目所在「御笠の森遺跡第９次調査」の報告である。
2．御笠の森遺跡第９次調査は１～７区まで調査範囲があり、本書は１～４区までの調査結果を収録している。５区以降については次年度の報告を予定している。
3．遺構の分類番号は、SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SX：土坑・不明遺構、SP：ピットとしている。
4．遺構写真は、林潤也・平島義孝が撮影し、４区全景写真は（有）空中写真企画に委託した。
5．遺物写真は、フォトハウスOKA（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会会員）による。
6．遺構図は、平島・林・江上正高が作成したほか、１・２区を（株）写測エンジニアリング、３・４区を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
7．遺物実測図は、西堂将夫・元吉知子・平島・上田恵・島田拓・林が作成したほか、（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
8．製図は、遺構と遺物の一部を平島が、それ以外の遺物は（株）九州文化財研究所と（有）文化財テクノアシストに委託した。
9．観察表は、平島・西堂が作成した。
10．瓦については、岸見泰宏が実測・製図・観察表作成を行なった。
11．遺物番号は、１区は１～、２区は301～、３区は401～、４区は601～の通し番号とし、挿図と図版で番号を統一した。
12．木製品の保存処理に関しては、福岡市埋蔵文化財センターに、金属器の透過Ｘ線撮影ならびに墨書遺物の赤外線写真分析については、太宰府市文化ふれあい館にご協力いただいた。
13．第１図は、国土地理院発行の地形図『福岡南部』を基に作成した。
14．本文中の出土遺物の分類については、次の文献に準拠している。
太宰府分類：山本信夫 2000『太宰府条坊跡XV』太宰府市教育委員会
森田分類：森田　勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」
『貿易陶磁研究 NO.2』日本貿易陶磁研究会
小野分類：小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」
『貿易陶磁研究 NO.2』日本貿易陶磁研究会
15．本遺跡の遺物・実測図・写真は全て大野城市教育委員会にて管理・保管している。
16．本書の執筆は、Ⅲ章の一部を平島が、それ以外を林が行なった。

本文目次

Ⅰ．はじめに

1．調査に至る経緯…… 1

2．調査体制…… 1

3．調査の経過…… 2

Ⅱ．位置と環境

1．地理的環境…… 3

2．歴史的環境…… 5

3．これまでの調査…… 6

Ⅲ．調査の結果

1．1区の調査…… 8

(1) 掘立柱建物跡…… 9

(2) 井戸跡…… 18

(3) 土　坑…… 23

(4) 溝　跡…… 29

(5) その他の出土遺物…… 41

(6) 小　結…… 41

2．2区の調査…… 43

(1) 掘立柱建物跡…… 45

(2) 井戸跡…… 46

(3) 土　坑…… 46

(4) 溝　跡…… 52

(5) その他の出土遺物…… 52

(6) 小　結…… 52

3．3区の調査…… 54

(1) 井戸跡…… 55

(2) 土　坑…… 60

(3) 溝　跡…… 65

(4) 小　結…… 82

4．4区の調査…… 83

(1) 掘立柱建物跡…… 83

(2) 井戸跡…… 88

(3) 土　坑…… 95

(4) 溝　跡…… 130

(5) ピット…… 144
(6) 小 結…… 145
Ⅳ. ま と め…… 147

挿図目次

第 1 図 周辺遺跡分布図…… 4
第 2 図 御笠の森遺跡の調査地点と旧村境…… 7
第 3 図 1区 遺構配置図…… 8
第 4 図 1区 SB01・02実測図…… 9
第 5 図 1区 SB03・05実測図…… 10
第 6 図 1区 SB04実測図…… 11
第 7 図 1区 SB06実測図…… 12
第 8 図 1区 SB07・10実測図…… 13
第 9 図 1区 SB08実測図…… 14
第 10 図 1区 SB09実測図…… 15
第 11 図 1区 SB01～03・05～08・10遺物実測図…… 16
第 12 図 1区 柱穴・柱材実測図…… 17
第 13 図 1区 SE01・02実測図…… 18
第 14 図 1区 SE01遺物実測図 1 …… 19
第 15 図 1区 SE01遺物実測図 2 …… 20
第 16 図 1区 SE02・03遺物実測図…… 21
第 17 図 1区 SE03実測図…… 22
第 18 図 1区 SX01～04実測図…… 24
第 19 図 1区 SX05～10・12・13実測図…… 25
第 20 図 1区 SX11実測図…… 26
第 21 図 1区 SX14・18・19・22実測図…… 27
第 22 図 1区 SX01～03・05・08・11遺物実測図…… 27
第 23 図 1区 SD03～08土層実測図…… 29
第 24 図 1区 SD01・03遺物実測図…… 31
第 25 図 1区 SD04遺物実測図…… 32
第 26 図 1区 SD05遺物実測図 1 …… 33
第 27 図 1区 SD05遺物実測図 2 …… 34
第 28 図 1区 SD06・07遺物実測図…… 36
第 29 図 1区 SD08遺物実測図 1 …… 37

第30図　1区 SD08遺物実測図2 …… 38
第31図　1区 溝跡石臼実測図 …… 39
第32図　1区 金属製品・石製品実測図 …… 40
第33図　1区 ピット等遺物実測図 …… 40
第34図　2区 遺構配置図 …… 43
第35図　2区 SB01・02実測図 …… 44
第36図　2区 SB01・02遺物実測図 …… 45
第37図　2区 SE01実測図 …… 45
第38図　2区 SE01遺物実測図 …… 46
第39図　2区 SX01～04・07～09実測図 …… 47
第40図　2区 SX06・10・13実測図 …… 48
第41図　2区 SX16・17・20・27・28実測図 …… 50
第42図　2区 SX01・05～07・09・10・13・17・20・27遺物実測図 …… 51
第43図　2区 ピット遺物実測図 …… 52
第44図　3区 遺構配置図 …… 54
第45図　3区 SE01～04実測図 …… 56
第46図　3区 SE01・02・04遺物実測図 …… 57
第47図　3区 SE03木製品実測図 …… 58
第48図　3区 SE05遺物実測図1 …… 59
第49図　3区 SE05遺物実測図2 …… 60
第50図　3区 SE05・06実測図 …… 61
第51図　3区 SE06遺物実測図 …… 61
第52図　3区 SX01・03・05・07実測図 …… 62
第53図　3区 SX08・09・13・17実測図 …… 63
第54図　3区 SX16・18実測図 …… 64
第55図　3区 SX01・04・07・09遺物実測図 …… 64
第56図　3区 SD01～05・07土層図 …… 66
第57図　3区 SD01遺物実測図1 …… 67
第58図　3区 SD01遺物実測図2 …… 68
第59図　3区 SD01遺物実測図3 …… 69
第60図　3区 SD01遺物実測図4 …… 70
第61図　3区 SD01遺物実測図5 …… 71
第62図　3区 SD02遺物実測図 …… 71
第63図　3区 SD03遺物実測図1 …… 72
第64図　3区 SD03遺物実測図2 …… 73
第65図　3区 SD03遺物実測図3 …… 74

第66図　3区 SD03遺物実測図4 …… 75
第67図　3区 SD04・07遺物実測図 …… 75
第68図　3区 SD01・03木製品・金属製品実測図1 …… 76
第69図　3区 SD01・03木製品・金属製品実測図2 …… 77
第70図　3区 石臼実測図1 …… 78
第71図　3区 石臼実測図2 …… 79
第72図　3区 瓦実測図1 …… 80
第73図　3区 瓦実測図2 …… 81
第74図　4区 遺構配置図 …… 折り込み
第75図　4区 SB01・02実測図 …… 84
第76図　4区 SB03・04実測図 …… 85
第77図　4区 SB05実測図 …… 86
第78図　4区 SB02～06遺物実測図 …… 86
第79図　4区 SB06遺物実測図 …… 87
第80図　4区 SE01～03・06実測図 …… 89
第81図　4区 SE04・05実測図 …… 90
第82図　4区 SE01～04遺物実測図 …… 91
第83図　4区 SE05井戸枠部材実測図1 …… 92
第84図　4区 SE05井戸枠部材実測図2 …… 93
第85図　4区 SE05・06遺物実測図 …… 94
第86図　4区 SX01～05実測図 …… 96
第87図　4区 SX06・09～13・16実測図 …… 97
第88図　4区 SX07・08・15実測図 …… 98
第89図　4区 SX01～05・08・11～14遺物実測図 …… 99
第90図　4区 SX14・17・19実測図 …… 100
第91図　4区 SX20・21・26実測図 …… 101
第92図　4区 SX15・18・20～23遺物実測図 …… 102
第93図　4区 SX22・23・27・31・38実測図 …… 103
第94図　4区 SX24・25・33～37実測図 …… 106
第95図　4区 SX24・26～31遺物実測図 …… 107
第96図　4区 SX28～30・39・40実測図 …… 108
第97図　4区 SX41・42実測図 …… 111
第98図　4区 SX33・34・36・39～41遺物実測図 …… 112
第99図　4区 SX43・44実測図 …… 113
第100図　4区 SX42・43遺物実測図 …… 114
第101図　4区 SX45～48実測図 …… 116

第102図　4区 SX49～51・53実測図…… 117
第103図　4区 SX45・47～51遺物実測図…… 118
第104図　4区 SX52・54～58実測図…… 120
第105図　4区 SX59～62・64実測図…… 121
第106図　4区 SX65～67実測図…… 122
第107図　4区 SX68実測図…… 123
第108図　4区 SX69～71実測図…… 124
第109図　4区 SX55・57・58・60～64・68～71遺物実測図…… 127
第110図　4区 SX72～74実測図…… 128
第111図　4区 SX72遺物実測図…… 129
第112図　4区 SD01～06土層実測図…… 130
第113図　4区 SD01遺物実測図…… 131
第114図　4区 SD04遺物実測図1…… 132
第115図　4区 SD04遺物実測図2…… 133
第116図　4区 SD04遺物実測図3…… 134
第117図　4区 SD04遺物実測図4…… 135
第118図　4区 SD05遺物実測図…… 136
第119図　4区 SD06遺物実測図1…… 137
第120図　4区 SD06遺物実測図2…… 138
第121図　4区 SD06遺物実測図3…… 139
第122図　4区 SD06遺物実測図4…… 140
第123図　4区 SD04・06木製品実測図…… 141
第124図　4区 板碑・石臼実測図…… 142
第125図　4区 瓦実測図…… 143
第126図　4区 SP100・318・681遺物出土状況実測図…… 144
第127図　4区 ピット出土遺物実測図…… 144

表目次

第1表　御笠の森遺跡調査一覧…… 6
第2表　遺物観察表……149～168
・1区……149～153
・2区……153～154
・3区……154～158
・4区……158～168

図版目次

巻頭図版１　１区から「御笠の森」と県道建設予定地を望む（北東から）

巻頭図版２ (1) 近世前紀の土器・陶磁器類　(2) 独楽と羽子板

図版１ (1) １区 調査区全景（南西から）　(2) １区 SB01・03・04（北東から）

図版２ (1) １区 SB06～08・10（南西から）　(2) １区 SD03～07（南東から）

図版３ (1) １区 SE01完掘状況（西から）　(2) １区 SE02遺物出土状況（東から）
(3) １区 SE02完掘状況（東から）

図版４ (1) １区 SE03井筒検出状況（北から）　(2) １区 SE03井筒完掘状況（北から）
(3) １区 SX05完掘状況（北から）

図版５ (1) １区 SX06完掘状況（東から）　(2) １区 SX11完掘状況（北から）
(3) １区 SX22完掘状況（北東から）

図版６ (1) １区 SX10完掘状況（北東から）　(2) １区 SD03・05土層観察状況（南東から）
(3) １区 SD06土層観察状況（南東から）

図版７ (1) １区 SD07土層観察状況（南東から）　(2) １区 SP357（SB10）柱材検出状況（北東から）
(3) １区 SP552柱材検出状況（南西から）

図版８ (1) ２区 調査区全景（北東から）　(2) １区 SB01完掘状況（北東から）

図版９ (1) ２区 SE01完掘状況（北から）　(2) ２区 SX06完掘状況（東から）
(3) ２区 SX07完掘状況（東から）

図版10 (1) ２区 SX10完掘状況（北東から）　(2) ２区 SX16完掘状況（北から）
(3) ２区 SX17完掘状況（西から）

図版11 (1) ２区 SX08・20検出状況（北西から）　(2) ２区 SX08・20遺物出土状況（北西から）
(3) ２区 SX08・20完掘状況（北西から）

図版12 (1) ３区 調査区全景（南西から）　(2) ３区全景（南東から）

図版13 (1) ３区 SE01完掘状況（南西から）　(2) ３区 SE02完掘状況（北から）
(3) ３区 SE03井筒部材出土状況（北東から）

図版14 (1) ３区 SE03完掘状況（北東から）　(2) ３区 SE04遺物出土状況（南から）
(3) ３区 SE04完掘状況（南西から）

図版15 (1) ３区 SE05完掘状況（南から）　(2) ３区 SE06完掘状況（北西から）
(3) ３区 SX01茶臼出土状況（西から）

図版16 (1) ３区 SX01完掘状況（南から）　(2) ３区 SX04完掘状況（西から）
(3) ３区 SX05完掘状況（南から）

図版17 (1) ３区 SX07完掘状況（南西から）　(2) ３区 SX08完掘状況（北から）
(3) ３区 SX09完掘状況（北西から）

図版18 (1) ３区 SX17完掘状況（北から）　(2) ３区 SP01鉄製品出土状況（東から）

(3) 3区 SD01土層観察状況（南東から）
図版19 (1) 3区 SD03下駄・獣骨出土状況（北から） (2) 3区 SD03土層観察状況（南から）
(3) 3区 SD07土層観察状況（南から）
図版20 (1) 4区北東から県道建設予定地を望む (2) 4区調査区全景（真上から）
図版21 (1) 4区－2・3調査区全景 (2) 4区－2調査区全景
図版22 (1) 4区 SB01・02・06完掘状況（南西から） (2) 4区 SD04～06完掘状況（北西から）
図版23 (1) 4区 SB03完掘状況（南西から） (2) 4区 SE01遺物出土状況（南東から）
(3) 4区 SE01完掘状況（南東から）
図版24 (1) 4区 SE02墨書土器出土状況（西から） (2) 4区 SE02井筒内完掘状況（西から）
(3) 4区 SE02完掘状況（西から）
図版25 (1) 4区 SE03検出状況（南西から） (2) 4区 SE03石組内完掘状況（南西から）
(3) 4区 SE03完掘状況（北西から）
図版26 (1) 4区 SE04井筒内完掘状況（北から） (2) 4区 SE04球状木製品出土状況（東から）
(3) 4区 SE04木片出土状況（東から）
図版27 (1) 4区 SE04完掘状況（北西から） (2) 4区 SE05井筒内完掘状況（東から）
(3) 4区 SE05井筒最上部除去状況（東から）
図版28 (1) 4区 SE05井筒下部木組状況（東から） (2) 4区 SE05完掘状況（東から）
(3) 4区 SE06完掘状況（南東から）
図版29 (1) 4区 SX02完掘状況（東から） (2) 4区 SX04完掘状況（南東から）
(3) 4区 SX10完掘状況（南から）
図版30 (1) 4区 SX11完掘状況（南から） (2) 4区 SX12完掘状況（南から）
(3) 4区 SX13・14完掘状況（南から）
図版31 (1) 4区 SX15完掘状況（東から） (2) 4区 SX22～25・33完掘状況（東から）
(3) 4区 SX27完掘状況（南東から）
図版32 (1) 4区 SX28～30完掘状況（南東から） (2) 4区 SX38完掘状況（南西から）
(3) 4区 SX39完掘状況（南から）
図版33 (1) 4区 SX40遺物出土状況（南から） (2) 4区 SX41・42完掘状況（東から）
(3) 4区 SX47完掘状況（東から）
図版34 (1) 4区 SX45・48完掘状況（西から） (2) 4区 SX49～51完掘状況（北東から）
(3) 4区 SX54完掘状況（南東から）
図版35 (1) 4区 SX56・57完掘状況（南から） (2) 4区 SX58完掘状況（南から）
(3) 4区 SX62完掘状況（北西から）
図版36 (1) 4区 SX68完掘状況（北東から） (2) 4区 SX69完掘状況（南から）
(3) 4区 SX71完掘状況（南東から）
図版37 (1) 4区 SX72完掘状況（南西から） (2) 4区 SP100遺物出土状況（北から）
(3) 4区 SP681遺物出土状況（西から）

図版38　(1) 4区 SD04羽子板出土状況（東から）　(2) 4区 SD04土層観察状況（南東から）
(3) 4区 SD05土層観察状況（南東から）
図版39　(1) 4区 SD06土層観察状況（南東から）　(2) 4区 SD06完掘状況（南西から）
(3) 4区 SD06調査区南隅完掘状況（東から）
図版40～42　各調査区出土遺物（カラー図版）
図版43～49　1区 出土遺物
図版50　2区 出土遺物
図版51～60　3区 出土遺物
図版61～72　4区 出土遺物

付　図

御笠の森遺跡第9次調査 調査区配置図（1/200）

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

御笠の森遺跡は、1988年に福岡県教育委員会により発掘調査が行なわれて以来、これまで共同住宅建設などに伴い10次にわたる調査が実施され、奈良時代から江戸時代にわたる集落遺跡であることが明らかになっている。

今回の発掘調査の要因である県道那珂川宇美線の建設は、福岡市周辺の交通量の増加に基づき以前から計画されていた。これに伴ない、平成13年５月に福岡県那珂土木事務所、本市街路課、社会教育課との間で埋蔵文化財の取扱いについての三者協議が行なわれ、まず埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を早急に実施することとなった。試掘調査は、用地買収が完了した区域において６月27日から７月３日にかけて実施した。この結果、広範囲にわたり遺構・遺物が確認された。これを受けた那珂土木事務所は、早急な発掘調査の実施を要望し、教育委員会では、この協議に基づき、予算措置の決定を受けて平成13年９月21日に委託契約を締結し、10月１日より本調査を開始した。調査期間中、構造物の撤去等で長期間の中断があったものの、平成16年２月20日に本調査を終了した。

なお、出土遺物の整理・報告書作成については、当初平成15年度中に完了する予定であったが、出土遺物量が多い上に、調査の完了が平成16年２月まで及んだことから、平成15年度と16年度に分け整理・報告を行うこととなった。

２．調査体制

発掘調査時および整理作業時の体制は、次のとおりである。

大野城市教育委員会	教育長	堀内貞夫	（～平成15年６月）
		古賀宮太	（平成15年６月～）
	教育部長	青木克正	（～平成14年２月）
		鬼塚春光	（平成14年３月～）
	社会教育課長	片岡猛	（平成13年度）
		秋吉正一	（平成14・15年度）
	社会教育係長	舟山良一	
	主査	徳本洋一	（試掘調査担当）
	〃	石木秀啓	
	主任技師	丸尾博恵	
	〃	林潤也	（本調査・整理担当）
	主任主事	大道和貴	（庶務担当）
	嘱託	元吉知子	（平成13・14年度）
	〃	平島義孝	（本調査・整理担当）
	〃	岸見泰宏	（平成14年４月～）
	〃	島田拓	（平成14年４月～15年６月）

嘱　託	上　田	恵（平成14年４月～15年４月）
〃	西　堂　将	夫（平成15年４月～）
〃	一　瀬	智（平成15年12月～）

発掘作業員

高木冴子、藤田和子、西田幸子、那波幸子、吉田香織、前田チエ子、三原ひろみ、寺垣みゆき、馬場孝子、田中照子、中垣　親、松山洋子、日野律子、釣屋種利、田浦秀子、山口きく代、溝口　忍、川岸晶子、金沢好子、飯田三治、吉村秀子、松尾純子、末永　勝、安達はるみ、西本福雄、田中悦子、田野和代、岩切ふえ、宮原ゆかり、江上正高（別府大学大学院）

整理作業員

松岡信子、町井裕子、渡辺直美、鬼塚穂子、高群朱美、白井典子、村山律子、橋本悦子、渡部美香

なお、今回の発掘調査・報告書作成に関して、費用負担者である福岡県那珂土木事務所には多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。また、下記の方々および諸機関には、発掘調査および遺物整理の過程で様々なご教示・ご協力を頂きました。合わせて感謝申し上げます。

大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）　森本朝子（福岡市埋蔵文化財調査指導員）
比佐陽一郎・片多雅樹（福岡市埋蔵文化財センター）　横田義章（元 九州歴史資料館）
狭川真一（元 興寺文化財研究所）　山村信榮・中島恒次郎・井上信正・下川可容子（太宰府市教育委員会）
中村昇平（春日市教育委員会）　赤司岩雄（大野城市史跡対策委員会会長）
福岡市埋蔵文化財センター　太宰府市文化ふれあい館

3．調査の経過

平成13年10月１日	１区表土剥ぎ開始
10月19日	遺構掘下げ開始
11月16日	SD05より独楽状木製品出土
11月20・29日	御陵中学校体験発掘（約70名）
12月27日	全景写真撮影、航空写真測量実施
12月27日	１区埋め戻し開始
平成14年１月７日	２区表土剥ぎ開始
１月17日	遺構掘下げ開始
２月１日	２区全景写真撮影、航空写真測量実施、４－１区表土剥ぎ開始
２月６日	４－１区遺構掘下げ開始
２月14日	SD04より石帯（丸鞆）出土
２月18日	SD04より羽子板出土
２月21日	２区埋め戻し開始
５月16日	６区表土剥ぎ開始
５月29日	４－１区全景写真撮影
６月３日	６区遺構掘下げ開始
６月10日	６区全景写真撮影

7月15日	6区埋め戻し開始
7月16日	4－1区埋め戻し開始
7月23日	3区表土剥ぎ開始
7月30日	4－2・3区表土剥ぎ開始
8月5日	4－2・3区遺構掘下げ開始
9月5日	3区遺構掘下げ開始
9月11日	4－2・3区全景写真撮影
9月13日	3区SD01文様入り漆器皿出土
9月27日	キャッスルヒルハイスクール（オーストラリア）生徒体験発掘（13名）
10月1日	大野東中学校体験発掘（計37名）
10月17日	調査成果記者発表（毎日、読売、朝日、西日本各紙翌日朝刊掲載）
10月19日	現地説明会開催（約70名来跡）
11月7日	5－1区表土剥ぎ、3区，4－2・3区埋め戻し
11月18日	5－1区遺構掘下げ
11月28日	大野城市適応指導学級生徒体験発掘（11名）
12月5日	5－1区全景写真撮影
12月5日	5－2区表土剥ぎ、5－1区埋め戻し
12月24日	5－2区遺構掘下げ
平成15年2月26日	7区表土剥ぎ開始
2月27日	5－2区全景写真撮影
2月26日	7区遺構掘下げ開始
4月23日	7区全景写真撮影
5月26日	7区埋め戻し開始
平成16年1月19日	5－3区表土剥ぎ開始
1月26日	5－3区遺構掘下げ開始
2月10日	全景写真撮影
2月20日	遺構平面図作成終了、機材等撤収し発掘調査完了

Ⅱ．位置と環境

1．地理的環境

御笠の森遺跡は、大野城市山田2・3丁目に所在する。御笠川西岸の沖積平野上に立地し、遺構面の標高は13.8～14.1mを測る。今回報告する1～4区では、御笠川に近い1区が相対的に標高が低い。近世集落の廃絶後、長らく水田地帯として利用され、戦後になって急激に宅地化が進展した地域である。



1.**御笠の森遺跡**　2.持田ヶ浦古墳群C群　3.塚口遺跡　4.森園遺跡　5.中・寺尾遺跡　6.薬師の森遺跡　7.仲島遺跡　8.井相田C遺跡　9.麦野A遺跡　10.麦野B遺跡　11.麦野C遺跡　12.南八幡遺跡　13.雑餉隈遺跡（福岡市）　14.雑餉隈遺跡（大野城市）　15.石勺遺跡　16.後原遺跡　17.御供田遺跡　18.先ノ原遺跡　19.春日公園内遺跡　20.九州大学構内遺跡　21.池ノ上遺跡　22.谷川遺跡　23.水城跡

第1図　周辺遺跡分布図（1/25000）

遺跡は、市指定文化財「御笠の森」の周囲に広がっており、小字名では「御笠森」を主体に「木ノ下」「境」にまたがる。また小字名に残らないが、以前この辺りを「古屋敷」と呼称していたといい、遺跡の存在を強くうかがわせている。

2．歴史的環境

次章で報告するとおり、御笠の森遺跡では、弥生時代から江戸時代までの遺物・遺構が確認されている。中でも、平安時代から江戸時代前期には質・量ともに充実した資料を得ることができており、この時代を中心に周辺遺跡を概観してみたい。

まず奈良・平安期の遺跡としては、人面墨書土器を出土した仲島遺跡（7）や井相田C遺跡（8）、奈良時代の集落遺跡である南八幡遺跡（12）や麦野A・B・C遺跡（9・10・11）、集落と官衙的遺構群が検出された雑餉隈遺跡（13）、平安時代の集落である御供田遺跡（17）、8世紀中頃～後半の火葬墓を出土した石勺遺跡（15）などが挙げられる。また築造年代はやや遡るが、大野城跡は東に約4㎞、水城跡（23）は南東約3.5㎞に位置する。なお、当該期の官道は、水城西門および東門を通る2ルートが推定復元されており、そのうち東門ルートは御笠の森遺跡を横断するように想定されている（註1）。

中世の遺跡では、集落遺跡として13世紀代を中心とした薬師の森遺跡（6）、15～16世紀の麦野A遺跡（9）、15世紀の墨書木札類を多量出土した井相田C遺跡などが注目され、墓地遺跡としては、森園遺跡（12世紀）（5）で土坑墓3基、中・西コモリ遺跡（12～13世紀）（註2）で木棺墓1基、塚口遺跡（10～13世紀）（3）で土坑墓・木棺墓5基が検出されている。また、やや離れるが、北西約7.1㎞には中近世の都市遺跡である博多遺跡群、北西約2.7㎞に14～16世紀の館跡である諸岡遺跡、南西約4.0㎞に12～18世紀の館跡・集落跡である上白水館跡が位置し、中世集落の構造を比較検討するうえで興味深い。また、戦国期の山城では、唐山城が北東に約2.5㎞、岩屋城が東に約4㎞、不動城が南へ約5㎞に位置する。

近世の遺跡としては、後原遺跡（16）の調査成果が特筆される。この遺跡は近世白木原村の一集落「本村」に相当することが知られ、21次にわたる調査の結果、近世村落の景観を復元する上で興味深い成果を得ている。また、本遺跡の近くでは、雑餉隈遺跡（14）（註3）でVOC銘の染付皿をはじめ近世後半期の遺構遺物が出土している。なお当時の街道は、日田街道が遺跡の東側を通っており、何らかの関連も想定できよう。

註

（註1）山村信榮氏の推定復元ルートによれば、御笠の森遺跡9次調査6区と7区の間を横断することになる。当該地については、試掘調査の結果、遺構を確認することができなかった。
山村信榮　1993「太宰府周辺の古代官道」『九州考古学　第68号』九州考古学会

（註2）森園遺跡の一角に位置する。副島邦弘　1978『中・西コモリ遺跡』大野城市教育委員会

（註3）近世の雑餉隈（井相田村内）は日田街道に面し、宿場（間宿）として栄えていたことが知られている。

3．これまでの調査

御笠の森遺跡１～10次調査の一覧は第１表、調査地点は第２図のとおりである。

名　　称	調査時名称	調査地番	調査期間	調査面積	内　　容	備　　考
御笠ノ森	御笠ノ森遺跡	山田字妙蓮233	1988.4	552㎡	掘立柱建物３棟（古代？）	県教委調査 県報88集（文献１）
欠　番						
御笠の森遺跡第３次調査	御笠の森遺跡	山田２丁目227－1	1989.9～10	300㎡	ピット・土坑（平安・鎌倉）、溝（江戸）	市教委調査 未報告
御笠の森遺跡第４次調査	御笠の森遺跡	山田２丁目227－2	1990.6～7	529㎡	土坑（鎌倉） 溝（江戸）	市教委調査 未報告
御笠の森遺跡第５次調査	御笠の森遺跡	山田２丁目484－3･5	1991.4	238㎡	掘立柱建物１棟（時期不明）	市教委調査 未報告
御笠の森遺跡第６次調査	御笠の森遺跡	山田２丁目505－1･3	1993.11	150㎡	溝・土坑（中世？）	市教委調査 未報告
川原遺跡（遺跡名変更）	御笠の森遺跡第７次調査	山田１丁目520－1	1998.9～11	359㎡	溝・土坑（弥生・古墳）	市教委調査 未報告
御笠の森遺跡第８次調査	御笠の森遺跡第８次調査	山田２丁目232－2･3	1999.4～2000.1	1767㎡	竪穴住居（奈良）、土坑･ピット多量、溝（江戸）屈曲	市教委調査 未報告 （文献２・３）
御笠の森遺跡第９次調査	御笠の森遺跡第９次調査	山田２・３丁目	2001.10～2004.2	5152㎡	掘立柱建物、井戸跡土坑、溝跡（弥生～江戸）	本報告
御笠の森遺跡第10次調査	御笠の森遺跡第10次調査	山田２丁目228－1	2002.11～12	98㎡	掘立柱建物１棟、井戸跡１基、土坑	市教委調査 未報告

第１表　御笠の森遺跡調査一覧

この１～８・10次調査の中で、今回の調査に最も関連深いと考えられるのは、３・４・８次調査といえる。これらの調査区では16～17世紀の大形の溝状遺構が検出され、特に３・８次調査ではその溝が調査区に沿うようにＬ字形に屈曲する状況が確認されている。このことから３・４・８次調査地の溝状遺構は、本来一辺70～80m程の方形区画溝となると想定され、さらにこの区画内では、無数のピットが検出されていることから、同時期の建物群の存在が予想されている。

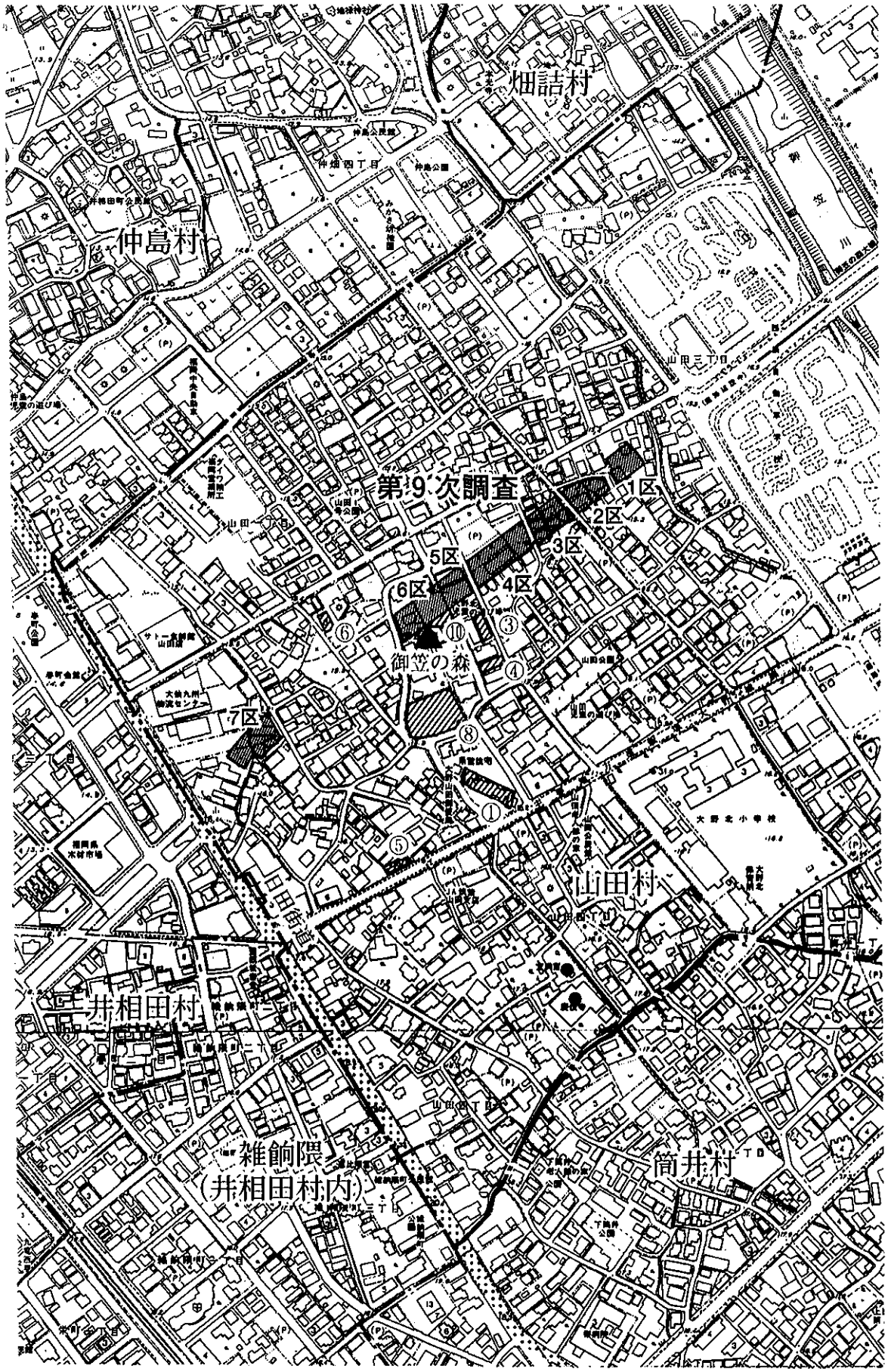
いずれの調査も未報告であり、詳細については正式報告時に検討したい。

参　考　文　献

1）浜田信也　1989　『御笠ノ森遺跡』　福岡県教育委員会

2）大野城市教育委員会　2001　『大野城市の文化財　第33集』　大野城市教育委員会

3）石木秀啓　2001　「御笠の森遺跡」『福岡県埋蔵文化財発掘調査年報－平成11年度－』　福岡県教育委員会



第２図　御笠の森遺跡の調査地点と旧村境（1/25000）（丸囲い内は調査次数）

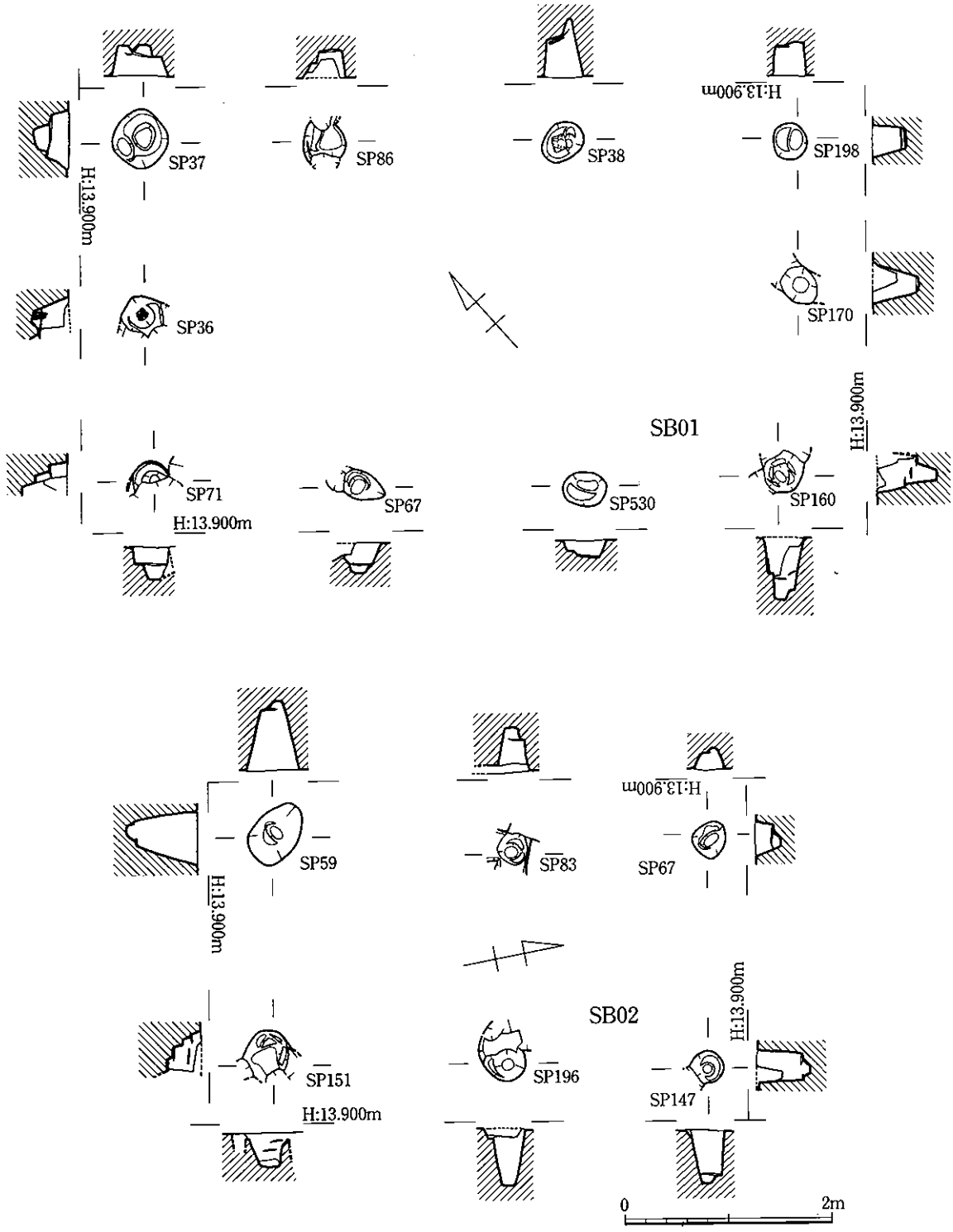
Ⅲ．調査の結果

１．１区の調査

今回の調査範囲の最北東側にあたり、調査面積478㎡を測る。現地表下約1.7ｍで掘立柱建物跡や井戸跡、土坑、溝跡などが確認された（第３図）。試掘調査の所見によれば、当調査区より北東側は御笠川の氾濫域であるという。検出面の標高は、13.8ｍ前後で調査区内での明確な傾斜はない。



第３図　１区　遺構配置図（1/200）

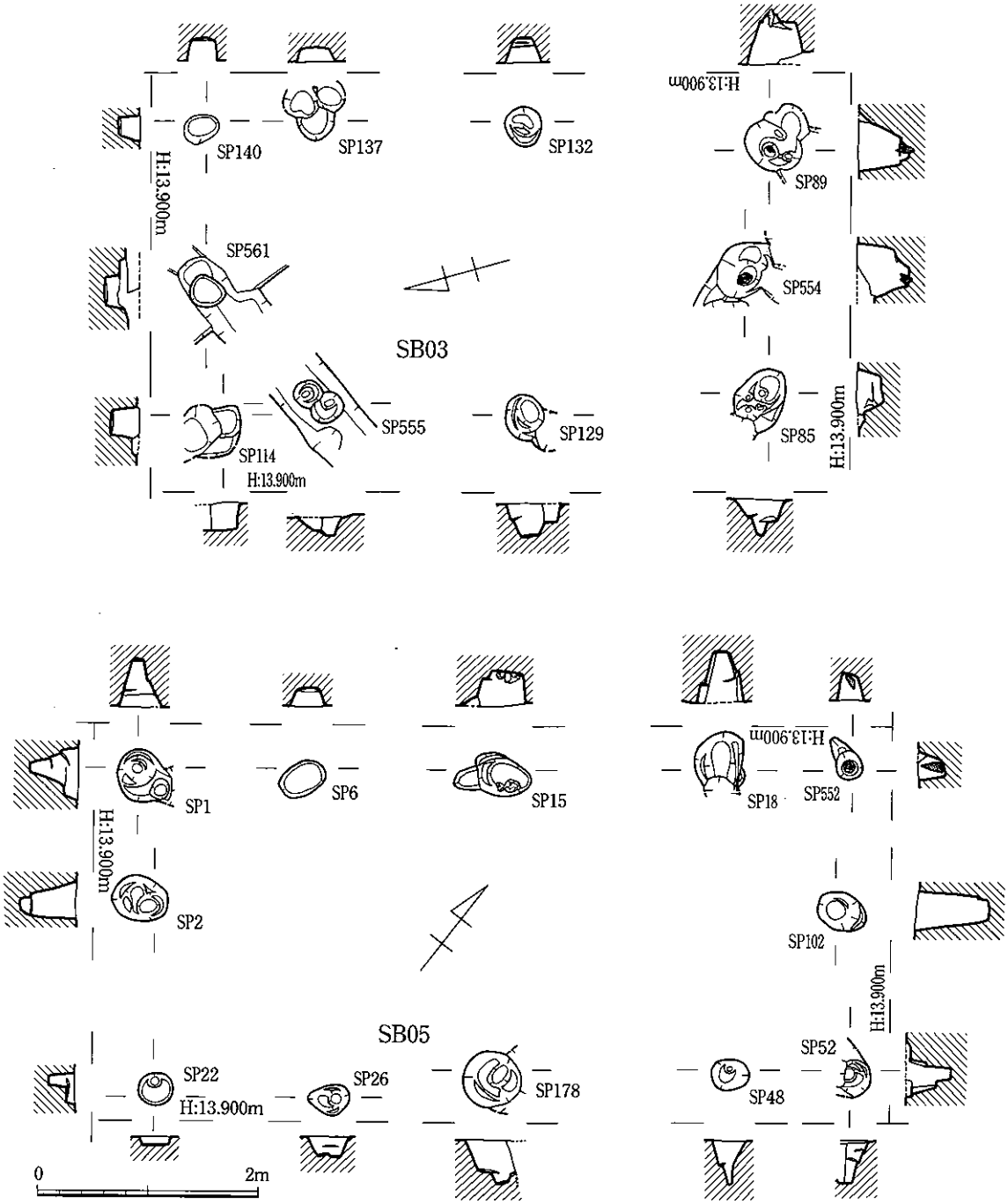


第４図　１区　SB01・02実測図（1/60）

（１）掘立柱建物跡

本調査地区では多数のピットが検出されており、調査時に10棟の掘立柱建物を確認することができた。しかし、これ以外にも複数の掘立柱建物が存在していた可能性がある。

SB01（第４図）　調査区中央付近で検出した３間×２間の東西棟の建物である。規模は桁行

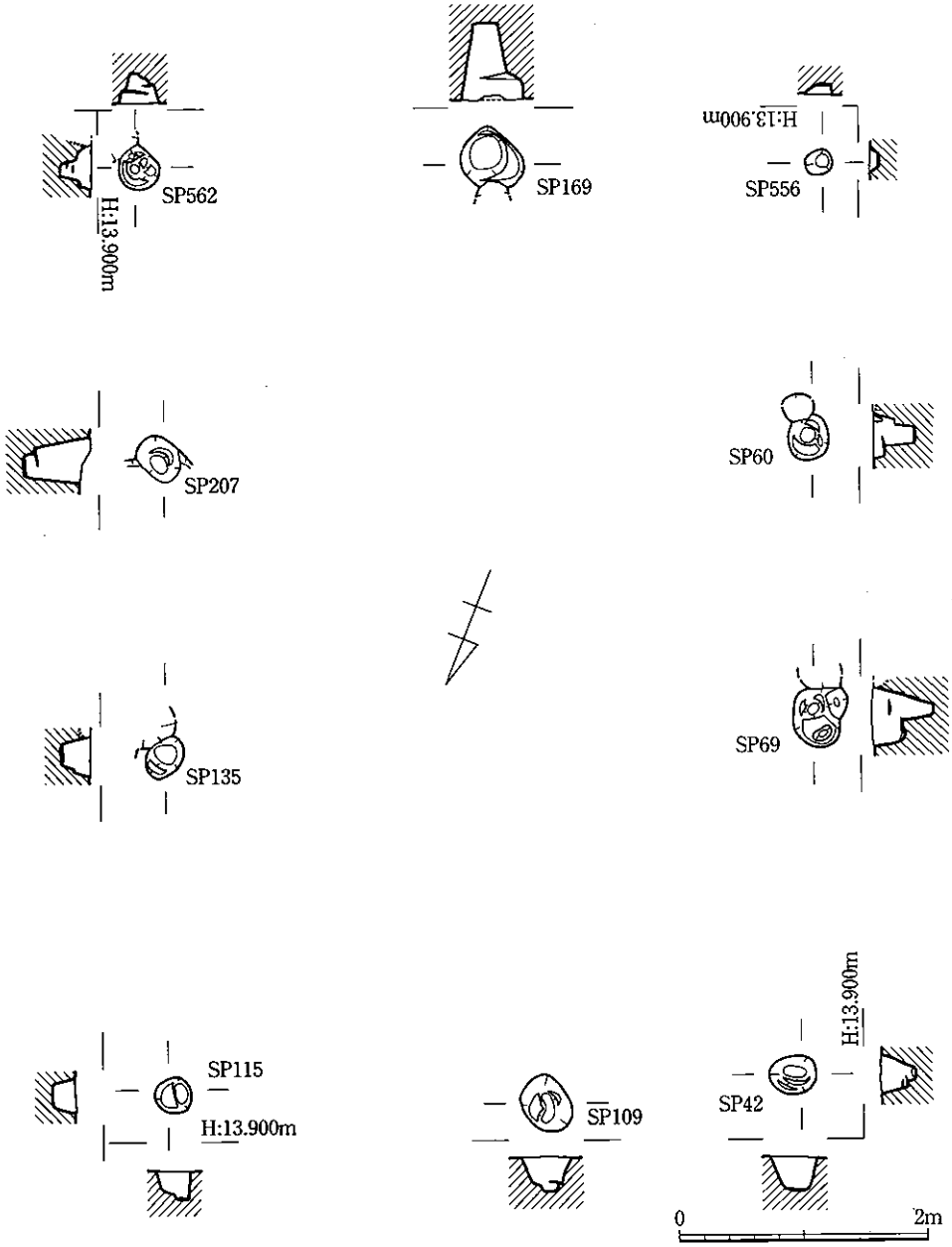


第5図　1区　SB03・05実測図（1/60）

約6.2m、梁行約3.0m、面積約18.6㎡になる。柱間は桁行1.8～2.35m、梁行1.4～1.85mを測る。主軸方向はGN－49°5′8″－Wを向く。柱穴は平面形が楕円形を呈し、長径34～57cm、深さ16～60cmを測り、SP170以外は2段掘りになっている。SP36では腐食した柱がわずかに残存していた。SP38ではテラス面で約15cm四方の平石が確認された。

遺物（第11図）　1は土師器杯。2は土師器小皿。3は中国製染付椀あるいは皿。口縁部は外反する。

SB02（第4図）　調査区中央付近で検出した2間×1間の南北棟の建物である。規模は桁行約4.

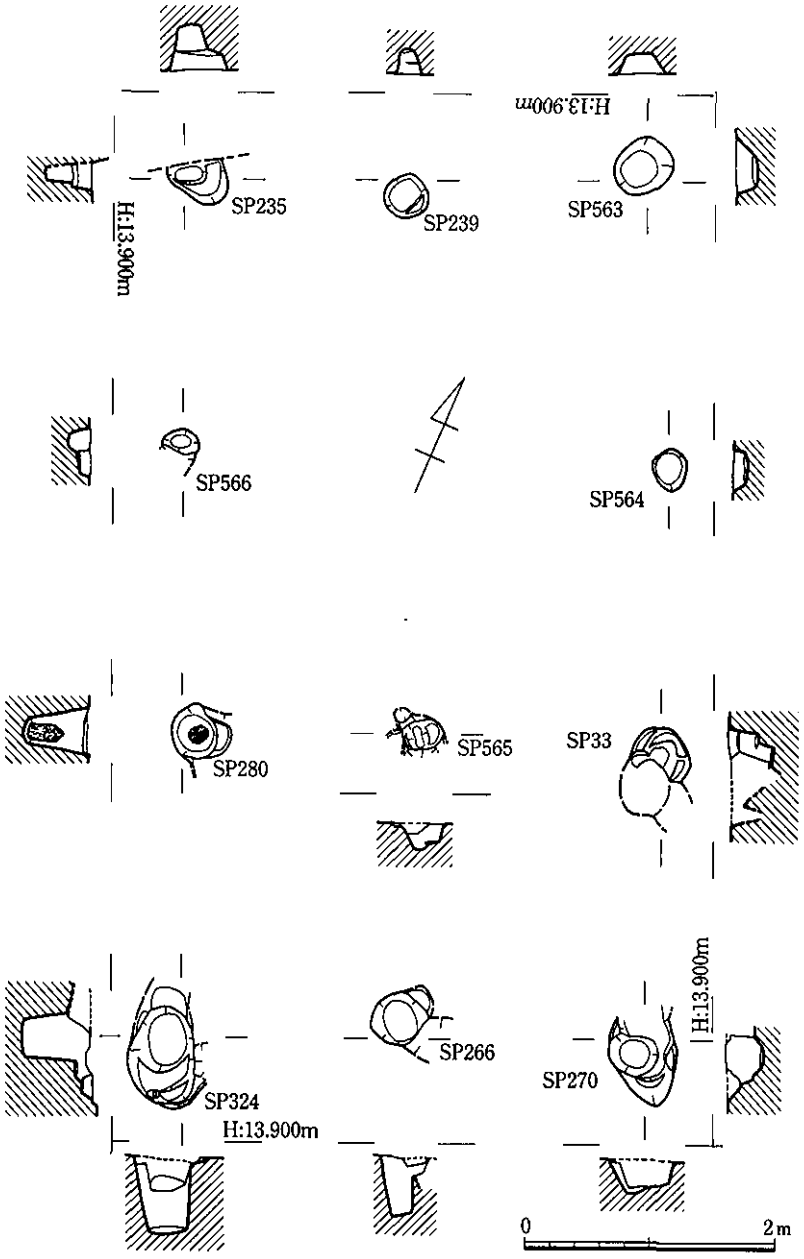


第6図　1区　SB04実測図（1/60）

2m、梁行2.2m、面積約9.24㎡になる。柱間は桁行1.95～2.35m、梁行2.2mを測る。主軸方向はGN－9° 40′ 42″ －Eを向く。柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）30～62cm、深さ22～68cmを測り、SP196以外は2段掘りになっている。

遺物（第11図）　4は瓦質擂鉢。これ以外に、土師器片、須恵器片、焼土塊が出土した。

SB03（第5図）　調査区中央付近で検出した3間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約5.1m、梁行約2.45m、面積約12.5㎡になる。柱間は桁行0.95～2.25m、梁行は1.1～1.5mを測り、SP555－114間・SP317－140間は極端に狭くなっている。主軸方向は、GN－14° 28′ 13″ －Eを向く。柱穴は平面形が楕円形を呈し、長径30～56cm、深さ12～52cmを測る。SP114・137・140・561以外は2段掘りになっている。SP89・554では腐食した柱がわずかに残存する。SD01に切られる。

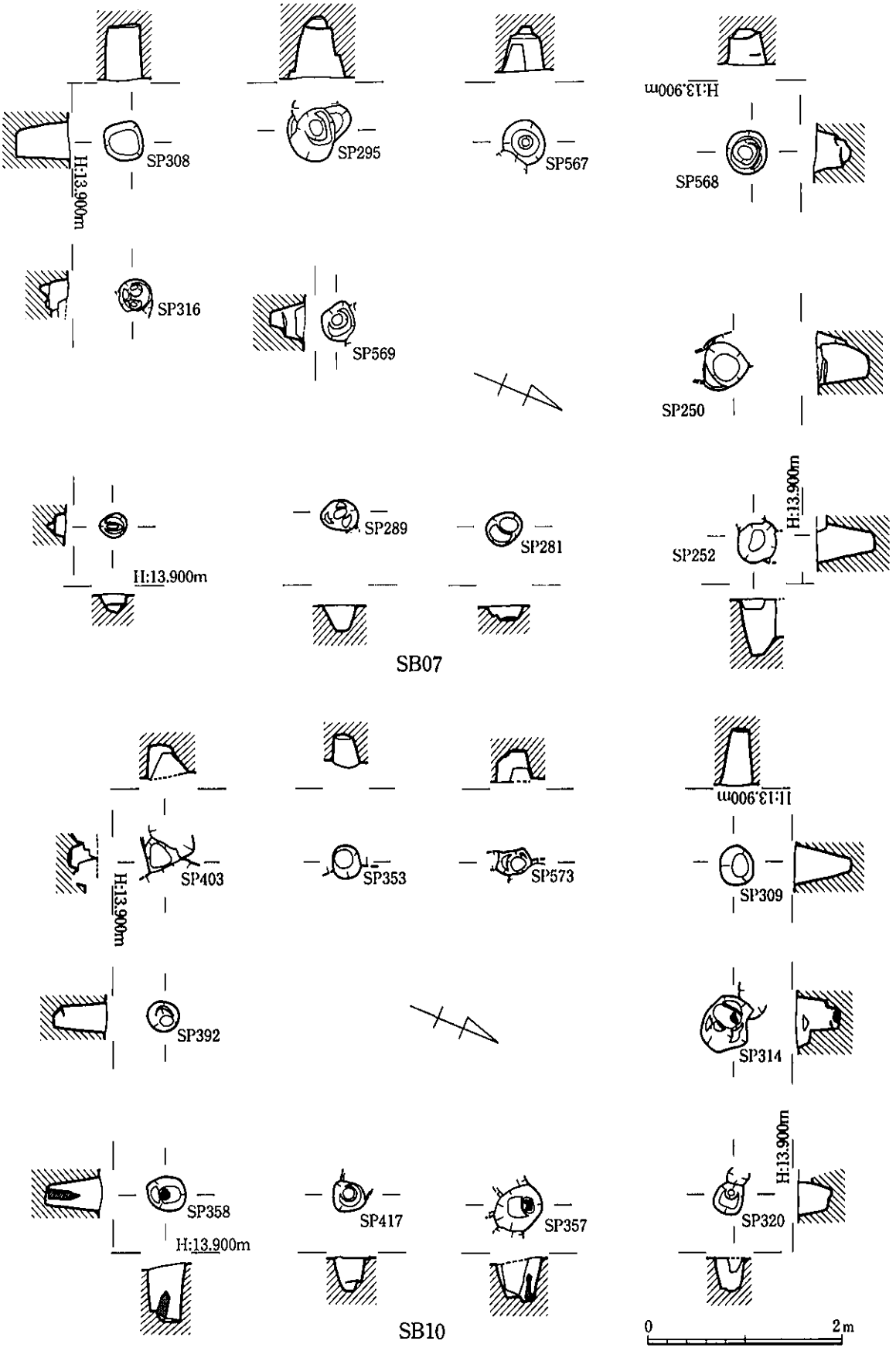


第7図　1区　SB06実測図（1/60）

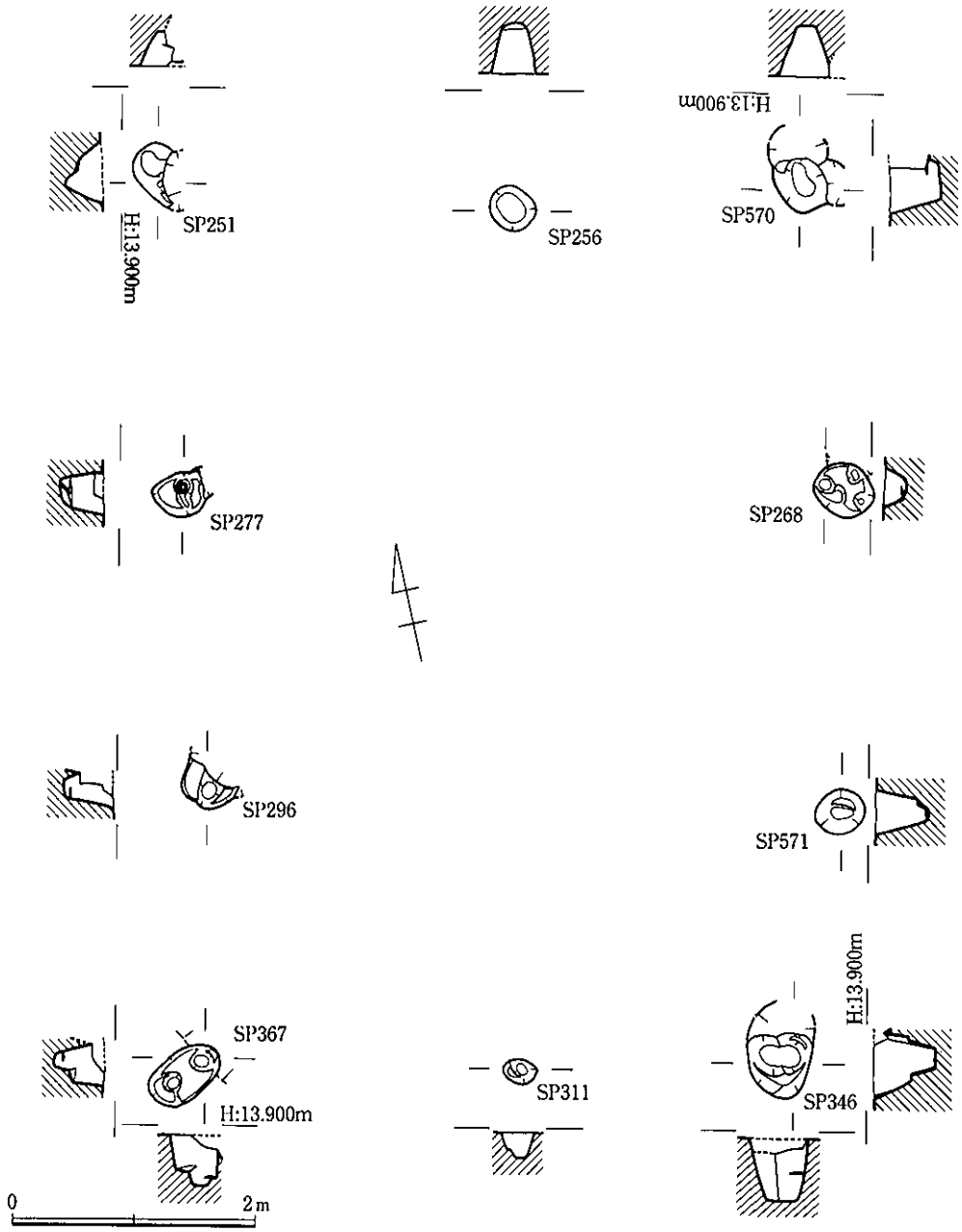
遺物（第11図）　5は砂岩製砥石。この他、瓦質擂鉢片や土師器片が出土している。

SB04（第6図）　調査区中央付近で検出した3間×2間の東西棟の建物である。規模は桁行約7.4m、梁行約5.2m、面積約38.5㎡になる。柱間は桁行2.2～2.9m、梁行2.0～2.9mを測る。主軸方向は、GN－21° 16′ 42″ －Wを向く。柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）21～50cm、深さ7～60cmを測り、極端に浅いSP556以外は2段掘りになっている。遺物は、土師器片、須恵器片、白磁片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SB05（第5図）　調査区北西側で検出した4間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約6.45m、梁行約2.8m、面積約18.1㎡になる。柱間は桁行1.1～2.15m、梁行1.25～1.6mを測り、SP18－SP552間・SP48－SP52間は狭くなっている。主軸方向は、GN－37° 59′ 5″ －Eを向く。



第8図　1区　SB07・10実測図（1/60）

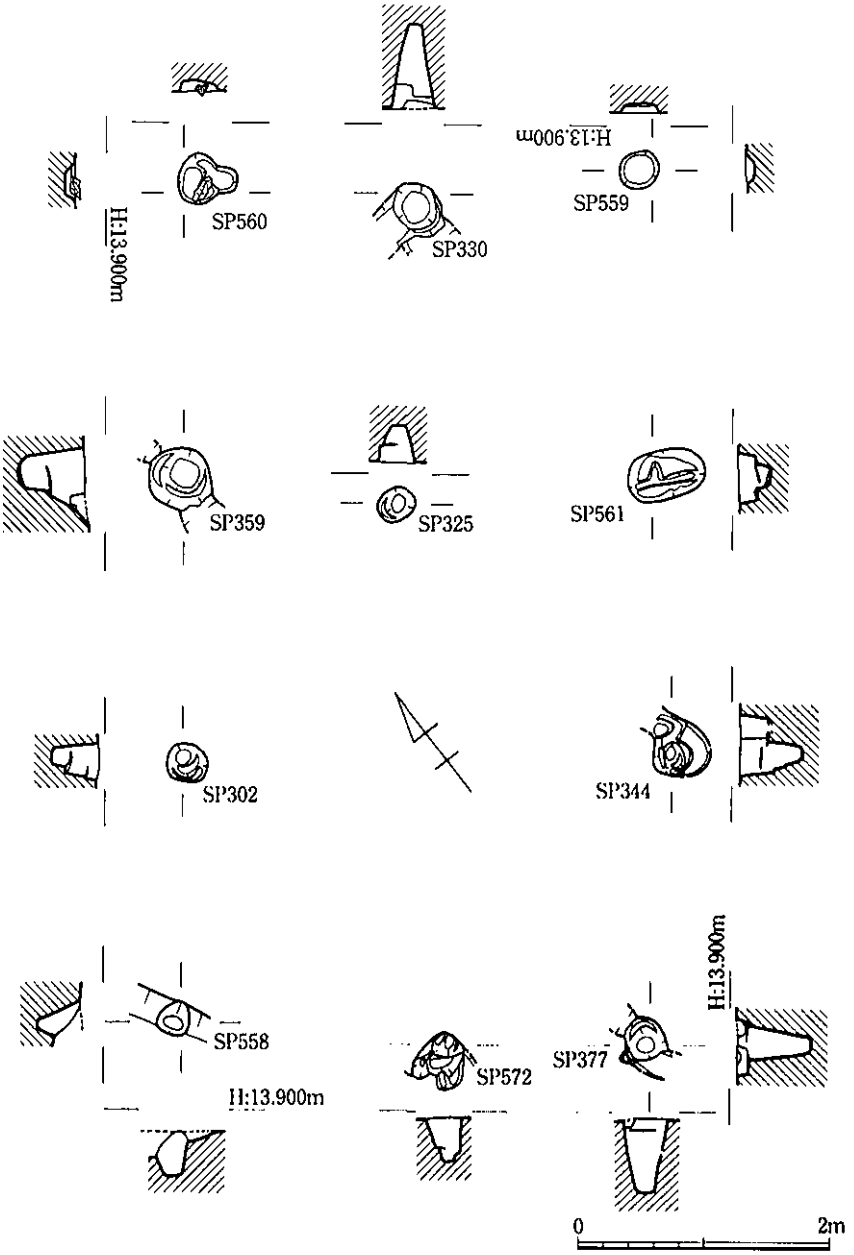


第９図　１区　SB08実測図（1/60）

柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）26～50cm、深さ17～66cmを測り、SP06・552以外は２段掘りになっている。SP552では腐食した柱が残存していた。SP15では床面で７cm大と15cm大の礫が確認された。

遺物（第11図）　７は土師器杯。底部は厚く、回転ナデの痕跡が明瞭に残る。８は朝鮮製陶器椀。灰オリーブ色釉が全面に施され、砂目は４ヶ所で確認される。17は柱材。SP552出土。径13cm×11.5cmを測る。

SB06（第７図）　調査区西側で検出した３間×２間の東西棟の建物である。規模は桁行約7.0m、

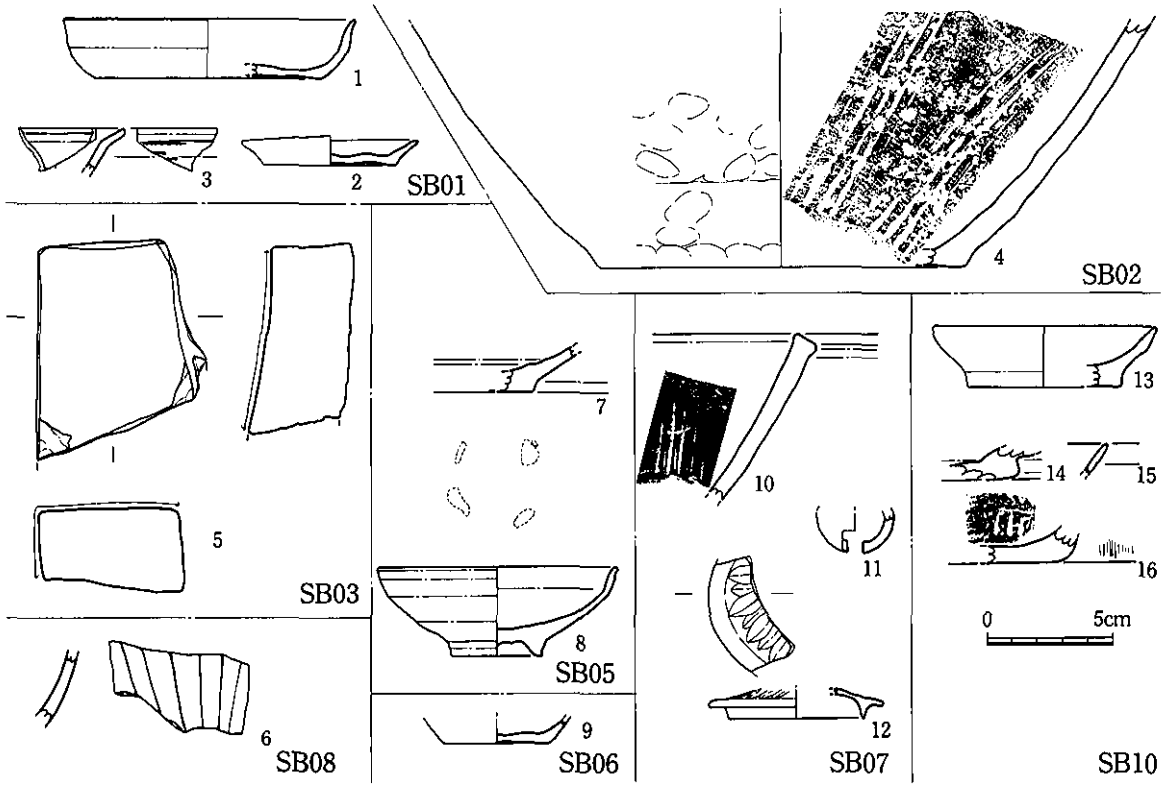


第10図　1区　SB09実測図（1/60）

梁行約3.65m、面積約25.6㎡になる。柱間は桁行2.15～2.54m、梁行1.75～1.85mを測る。主軸方向は、GN－22° 48′ 4″ －Wを向く。柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）32～76cm、深さ12～62cmを測り、SP33・235・239・324は2段掘りになっている。SP280では腐食した柱が残存していた。

遺物（第11図）　9は土師器小皿。18は柱材。SP280出土。これ以外に、土師器片、焼土塊、黒曜石片が出土した。

SB07（第8図）　調査区西側で検出した3間×2間の東西棟の建物である。規模は桁行約6.55m、梁行約4.0m、面積約26.2㎡になる。柱間は桁行1.75～2.56m、梁行1.6～2.4mを測る。主軸方向は、GN－22° 13′ 25″ －Wを向く。柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）27～



第11図　1区　SB01～03・05～08・10遺物実測図（1/3）

56cm、深さ14～62cmを測り、SP250・252・308以外は2段掘りになっている。

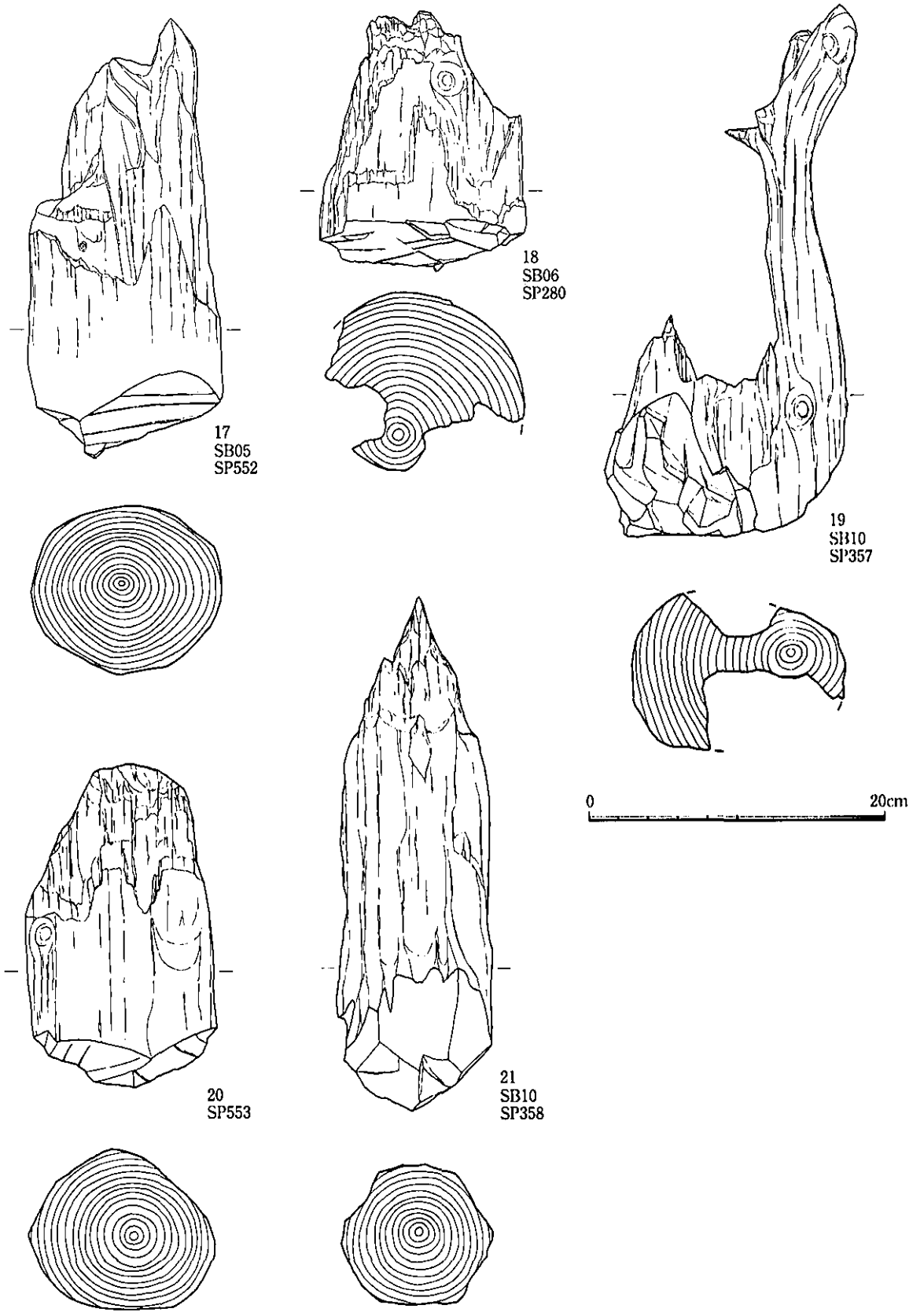
遺物（第11図）　10は瓦質擂鉢。11は土鈴。12は青白磁の合子蓋で、蓮弁を施す。

SB08（第9図）　調査区西側で検出した3間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約7.3m、梁行約4.95m、面積約36.0㎡になる。柱間は桁行2.04～2.65m、梁行2.2～2.7mを測る。主軸方向は、GN－12°48′12″－Eを向く。柱穴は平面形が楕円形を呈し、長径28～62cm、深さ17～53cmを測り、SP256・557以外は2段掘りになっている。SP227では腐食した木質がわずかに残存していた。

遺物（第11図）　6は竜泉窯系青磁椀。やや退化した蓮弁を施す。これ以外に、土師器片、瓦質土器片、焼土塊が出土した。

SB09（第10図）　調査区南側で検出した3間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約6.9m、梁行約3.65m、面積約25.2㎡になる。柱間は桁行2.13～2.44m、梁行1.75～2.2mを測り、SP359－SP325－SP560間はそれぞれ1.72m、2.08mの間隔になっている。主軸方向は、GN－37°28′3″－Eを向く。柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）26～62cm、深さ7～68cmを測り、SP558・559以外は2段掘りになっている。SP560では床面からわずかに浮いた形で長径20cm、幅10cmの礫が確認された。遺物は、土師器片、須恵器片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SB10（第8図）　調査区南側で検出した3間×2間の東西棟の建物である。規模は桁行約5.9m、梁行約3.45m、面積約20.4㎡になる。柱間は桁行1.8～2.28m、梁行1.58～1.81mを測る。主軸方向は、GN－22°33′26″－Wを向く。柱穴は平面形が楕円形または円形を呈し、長径（直径）32～60cm、深さ34～58cmを測り、SP309・353・403以外は2段掘りになっている。SP314・357・358で



第12図　1区　柱穴・柱材実測図（1/4）

は腐食した柱が残存していた。

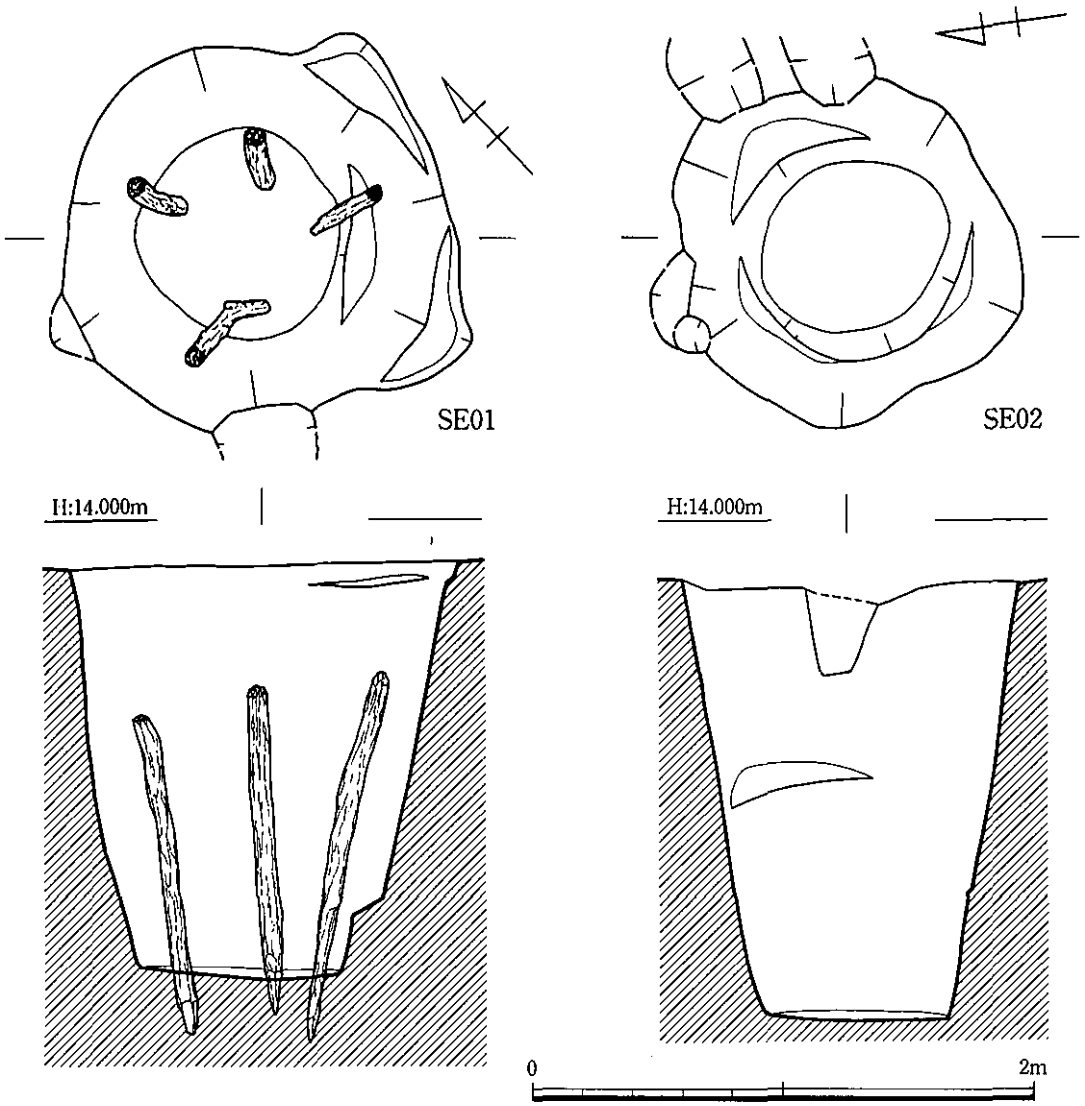
遺物（第11図）　13は土師器小皿。底部は厚い。14は瓦質皿。15は灰釉を施した陶器椀か皿。唐津系の可能性高い。16は瓦質擂鉢。19・21は柱材。19はSP357出土、21はSP358出土。

（2）井戸跡

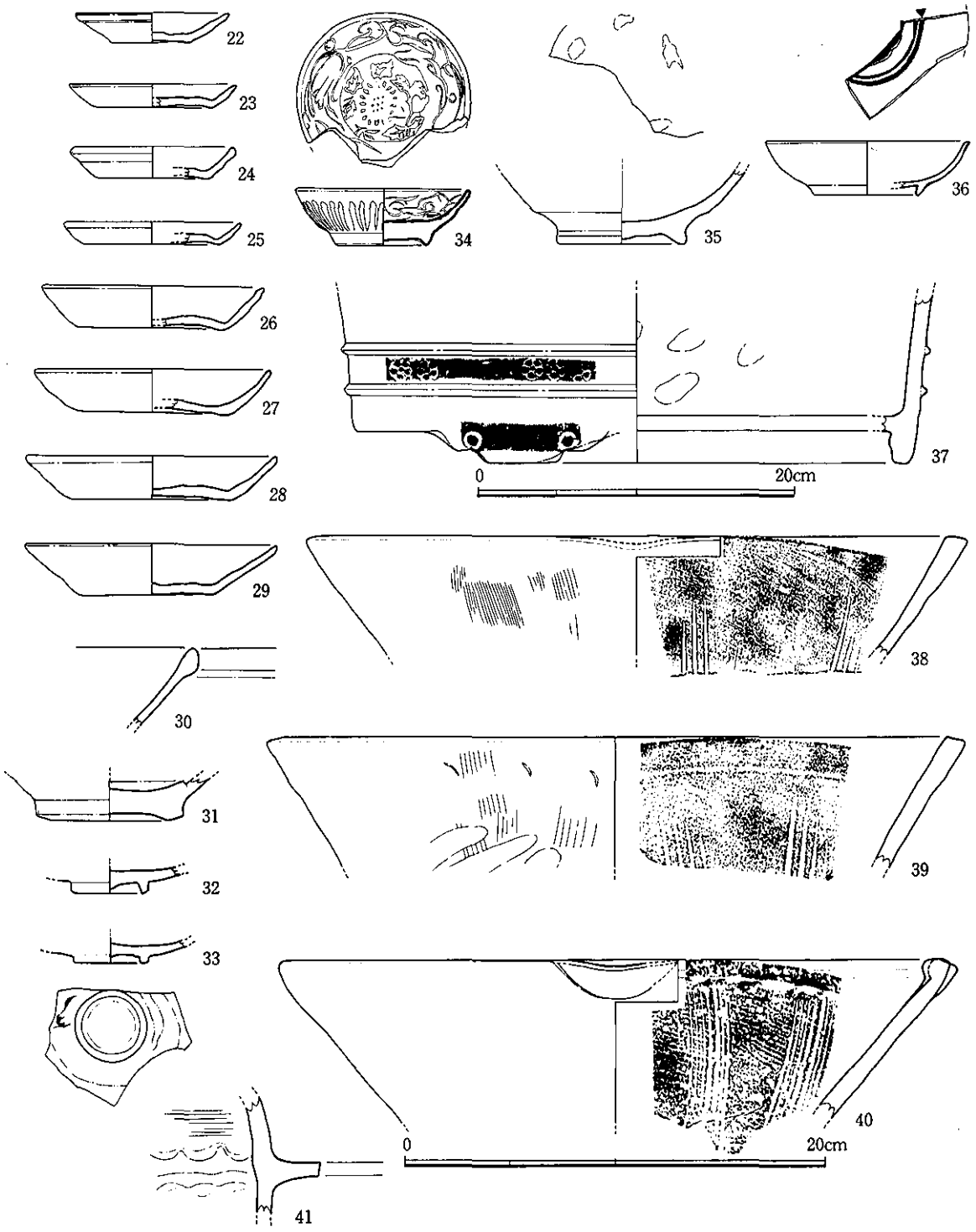
3基を確認することができた。

SE01（第13図）　調査区やや南側に位置する。周辺にピット類が僅少で、これらとの同時期性がうかがえる。平面約1.5mの円形を呈し、深さ約1.7mを測る。壁面は比較的垂直に立ち上がる。底面には、ほぼ等間隔に長さ約1.3mの杭がやや外方に広がりながら、4本打ち込まれていた。本来井筒の一部であったとも想定できるが、これ以外の構成部材や裏込めと考えられる埋土の相違は確認できなかった。遺物は上部・中部・下部と分けて取り上げているが、下部が下層の粘質土層にほぼ対応するものの、厳密には土色・土質に基づいていない。

遺物（第14・15図）　22～25は土師器小皿、26～29は土師器杯、いずれも底部糸切り。30～33は白磁。30・31は太宰府分類Ⅳ類、33は露胎部に読解できないが墨書が認められる。34は青磁皿。体

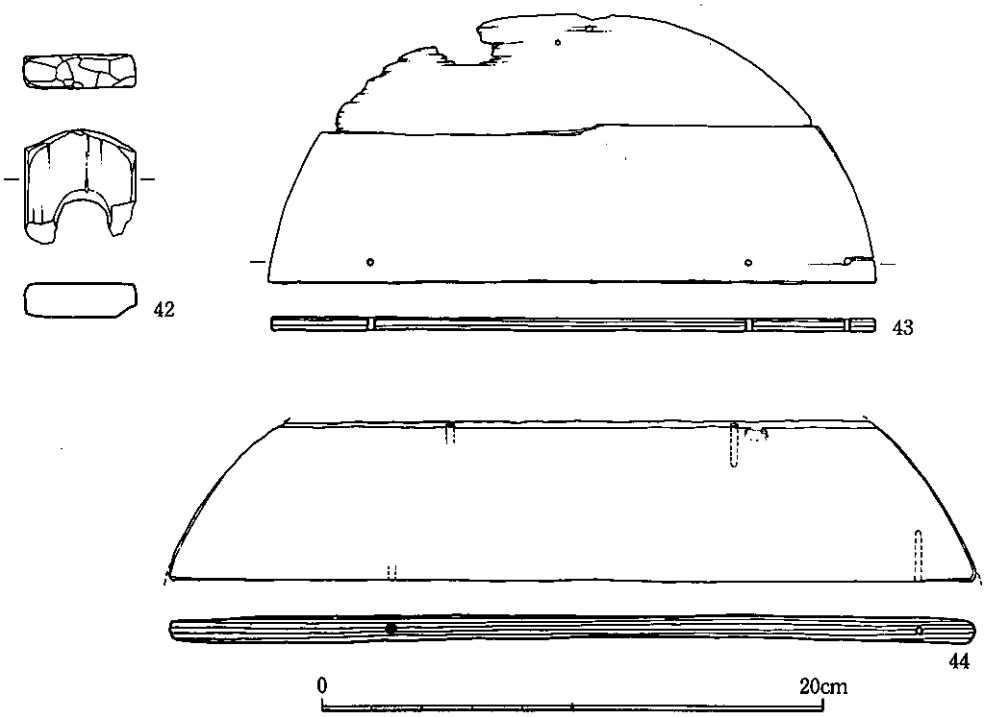


第13図　1区　SE01・02実測図（1/30）



第14図　1区　SE01遺物実測図1（37：1/4、その他：1/3）

部外面に蓮弁文、内面に唐草文、見込部にも植物が描かれている。35は朝鮮製陶器碗。灰黄色釉を全面に施し、砂目跡は5ないし6ヶ所認められる。36は中国製染付皿で、高台は内傾する。小野分類のB1群に相当しようか。割面（▲部）に漆継の痕跡が認められる。37は瓦質火鉢。突帯間に梅花と思われるスタンプを3個1単位で施している。38～40は瓦質擂鉢。特に40は口縁部内面が肥厚し防長系と呼ばれるもの。41は瓦質湯釜。42は木製品の柄の先端部か。中央部には円形あるいは楕



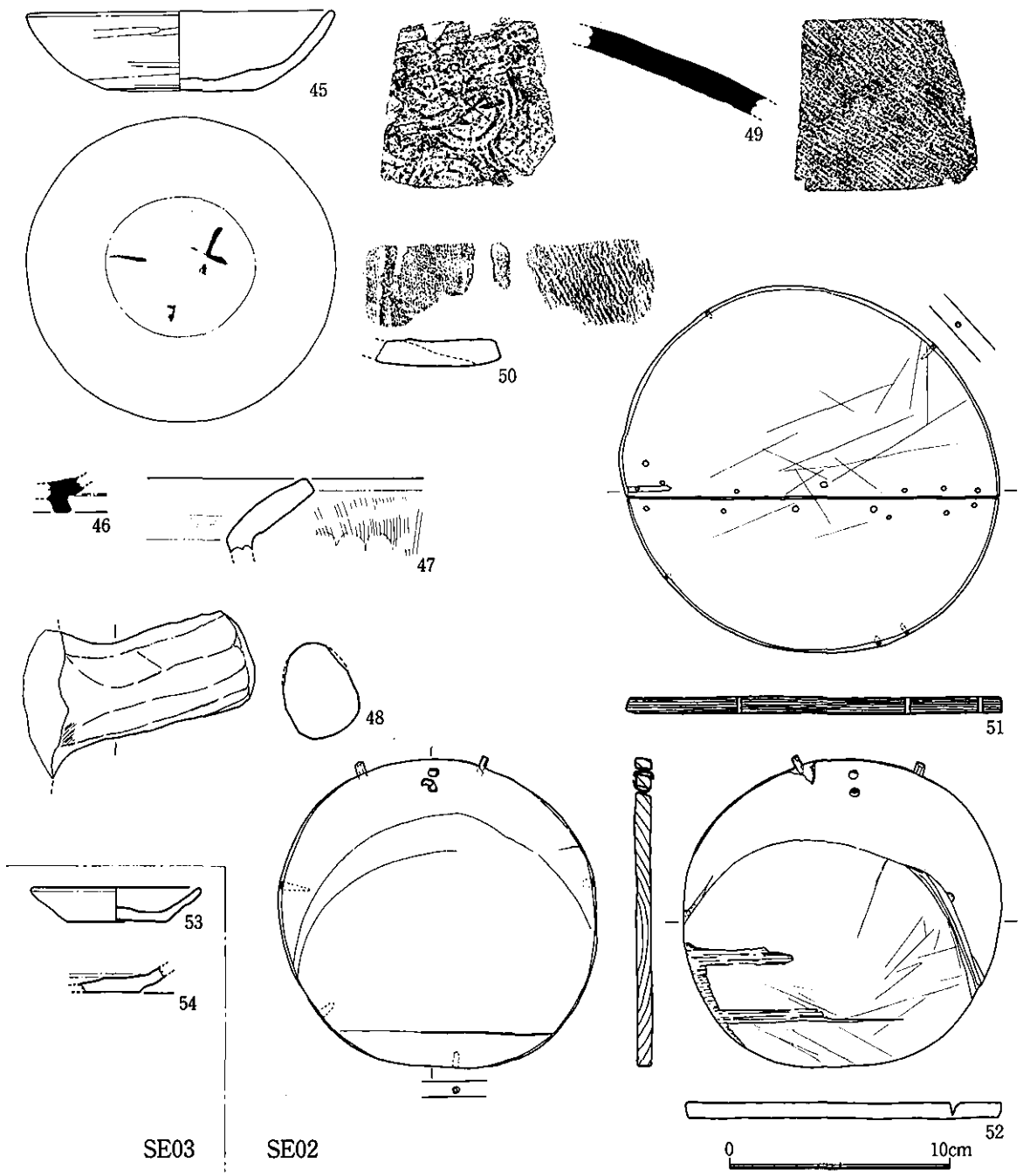
第15図　1区　SE01遺物実測図2（1/3）

円形の穿孔がある。端部はやや大ぶりな加工痕が残る。木取りは不明。43・44は曲物の底板。いずれも柾目材。43は割れ面近くに3ヶ所の穿孔があり、本来ひも等で結束していたものと推定される。44は割れ面に直交して穿孔および木釘が認められる。小形の板を有効利用するための接続方法と考えられる。

SE02（第13図）　調査区やや南側に位置し、SD01や複数のピットに切られる。平面約1.4mの円形を呈し、深さ約1.75mを測る。遺構内の中位と下位でテラスが形成されるが、壁面は比較的垂直に立ち上がる。底面近くでは、水分を多く含んだ黒色粘質土が堆積していた。遺物はこの黒色粘質土から出土したものを「下部」して取上げている。

遺物（第16図）　45は土師器杯。不明瞭であるが、内外面に回転ヘラ磨きが施されている。外面底部に墨書が認められるが、解読できない。46は須恵器杯。生焼け。47は土師器甕口縁部。48は土師器甑類の把手であろうか。先端部が伸びず、やや異質な感を受ける。49は須恵器甕。肩部付近であろうか。外面は平行叩き、内面は平行当て具痕とともに車輪文当て具痕が確認される。50は平瓦。上面に布目圧痕、下面に縄目叩き痕が認められる。検出時出土。51・52は曲物の底板。51は2枚の板に穿孔し、ひも等で結束したものであろう。表面には、ザラザラ感のある漆を塗布する。また、刃物でつけたような直線的な線状痕が認められる。側面には側板を留めるための穿孔が5ヶ所確認できる。52は表裏面ともに、円形の設計線らしき痕跡があり、特に裏面では、その線に沿って、ノミ状工具で割りかけたような痕跡が認められる。側面6ヶ所には、側板を留めるための穿孔があり、そのうち2ヶ所では木釘が残る。また、側板の結合のための樺紐も残存する。板目材。

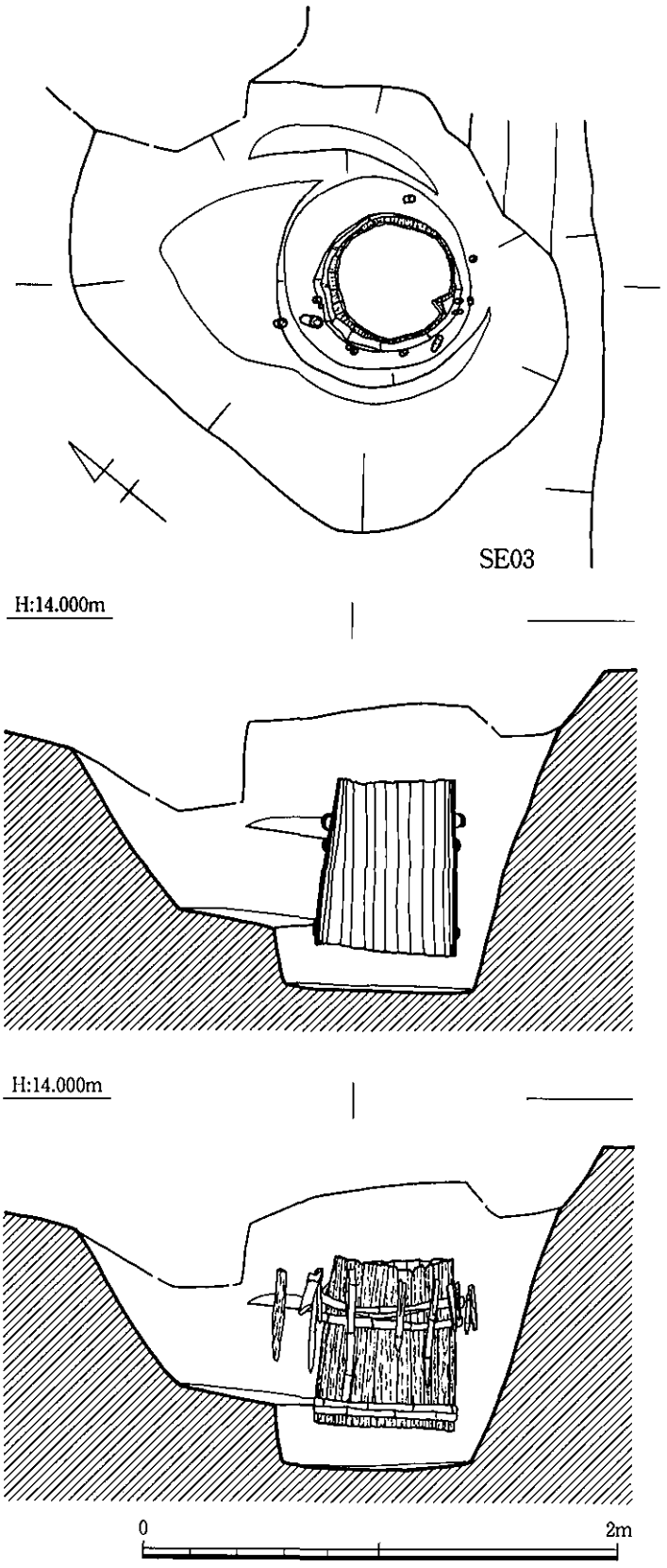
SE03（第17図）　調査区北側に位置し、SD05の完掘後に検出された。平面約1.2m×1.65mの楕円形を呈する。北側には大きなテラスがあり、テラスまで深さ約0.9m、径約0.8mの底面まで深



第16図　1区　SE02・03遺物実測図（1/3）

さ約1.2mを測る。壁面の立ち上がりは、やや開き気味となる。検出面から約0.3mで井筒が確認され、その周囲には、14本の竹杭や木杭が打ち込まれていた。井筒は、68cm前後×6cm前後の板を28枚、円形に組み、竹材をタガとして上下2ヶ所で留めたもので、径48cmを測る。埋土は、井筒内が灰褐色粘質土、裏込めが灰褐色・黒灰色・白灰色粘質土の混土であった。

遺物（第16図）　53は土師器小杯。口縁部の一端が煤け、灯明皿と考えられる。井筒内出土。54は土師器杯。掘り方出土。



第17図　1区　SE03実測図（1/30）

（3）土　坑

SX01（第18図）　調査区西側に位置する。約1.9×1.0mの隅丸方形を呈し、深さ10cmを測る。底面は平坦である。壁際にピットが認められるが、別遺構の可能性が高い。SD07に切られる。

遺物（第22図）　55は瓦質鉢。これ以外に土師器片が出土した。

SX02（第18図）　調査区西側に位置する。約2.5×2.6mの不整形を呈し、深さ９cmを測る。底面はほぼ平坦となる。底面で複数のピットが認められるが、別遺構の可能性が高い。

遺物（第22図）　56は瓦質火鉢。口縁上端部から内面にかける突出部は粘土帯貼付けにより成形されている。外面では２条の突帯が貼り付けられ、その間に梅花形のスタンプ文が見られる。57は中国産染付皿。底部は極端に深く切り込んだ特徴的な碁笥底で、見込み部および外底面付近は露胎、見込み部では重ね焼きの痕跡が見られる。これら以外に、土師器片、瓦質擂鉢片、白磁片、焼土塊が出土した。

SX03（第18図）　調査区西側に位置する。約0.8×0.8mの隅丸方形を呈し、最深部26cmを測る。西側ではテラスを形成するが、底部面はレンズ状にくぼみ、壁面の立ち上がりは比較的急である。複数のピットに切られる。

遺物（第22図）　58は瓦質擂鉢。これ以外に、土師器片、焼土塊が出土した。

SX04（第18図）　調査区南･西壁に接し、SD05内で検出された土坑である。平面形は調査区外に続くため全体像が不明だが、短軸約0.8mの楕円形を呈すると予想される。深さ110cmを測る。本来SD05に伴なう遺構であったかは不明である。また、検出面（SD05底面）よりやや掘り下げたレベルで、約40cm×25cmの範囲で植物質の編物が検出されたが、極めて脆く取り上げることはできなかった。遺物は、土師器片、須恵器片、磁器片が出土したが、図化できるものはない。

SX05（第19図）　調査区南側に位置する。約1.9×1.3mのいびつな隅丸長方形を呈し、最深部15cmを測る。底面はほぼ平坦となる。

遺物（第22図）　59は朝鮮産陶器椀。刷毛による白化粧を施し、その上から透明釉を薄く施釉する。これ以外に、土師器片、須恵器片、陶磁器片、焼土塊が出土した。

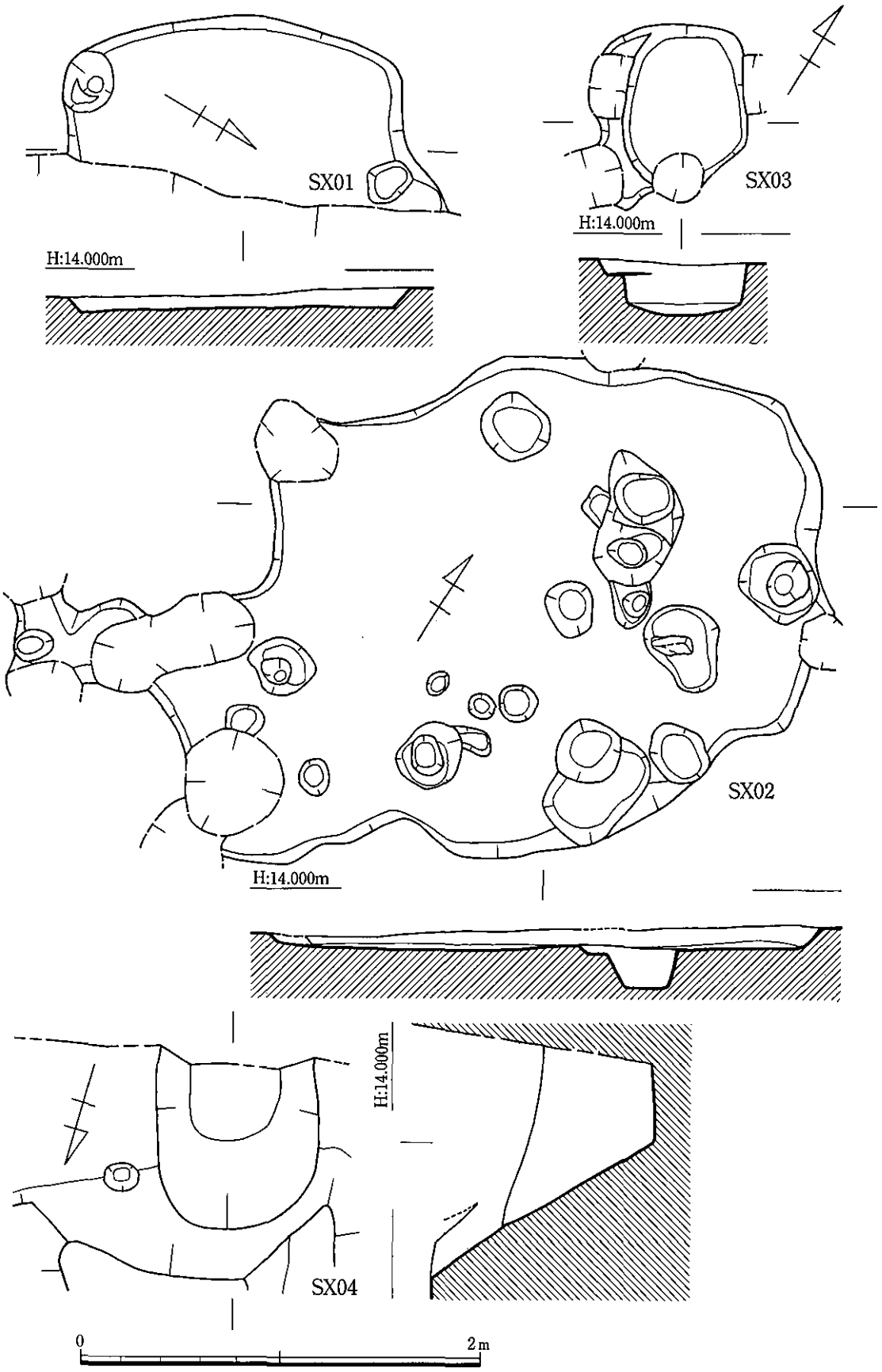
SX06（第19図）　調査区南側に位置する。約1.5×0.9mのいびつな長方形を呈し、深さ８cmを測る。底面は東側に向かいやや深くなる。遺物は出土しなかった。

SX07（第19図）　調査区東側に位置する。約1.3×0.9mの隅丸長方形を呈し、深さ８cmを測る。SD05に切られる。遺物は、土師器片、陶器片、磁器片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

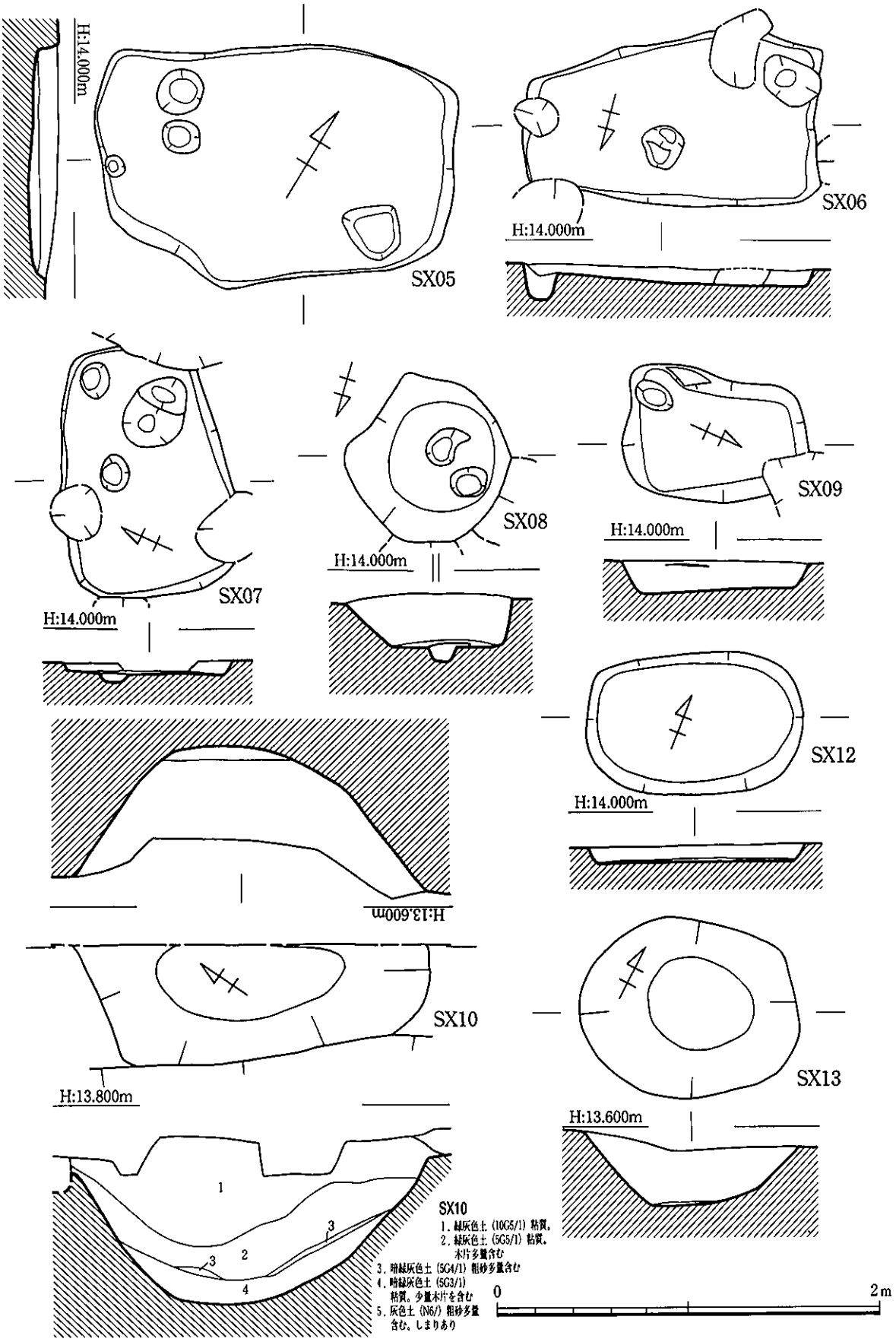
SX08（第19図）　調査区南西側に位置する。約0.9×0.9mのいびつな円形を呈し、深さ29cmを測る。底面には複数の２基ピットが認められ、壁面の立ち上がりは東側が緩やかである。

遺物（第22図）　60は土師器の杯である。口縁部から底部までが約４分の１程度残存する。これ以外に、陶器片、青磁片、焼土塊が出土した。

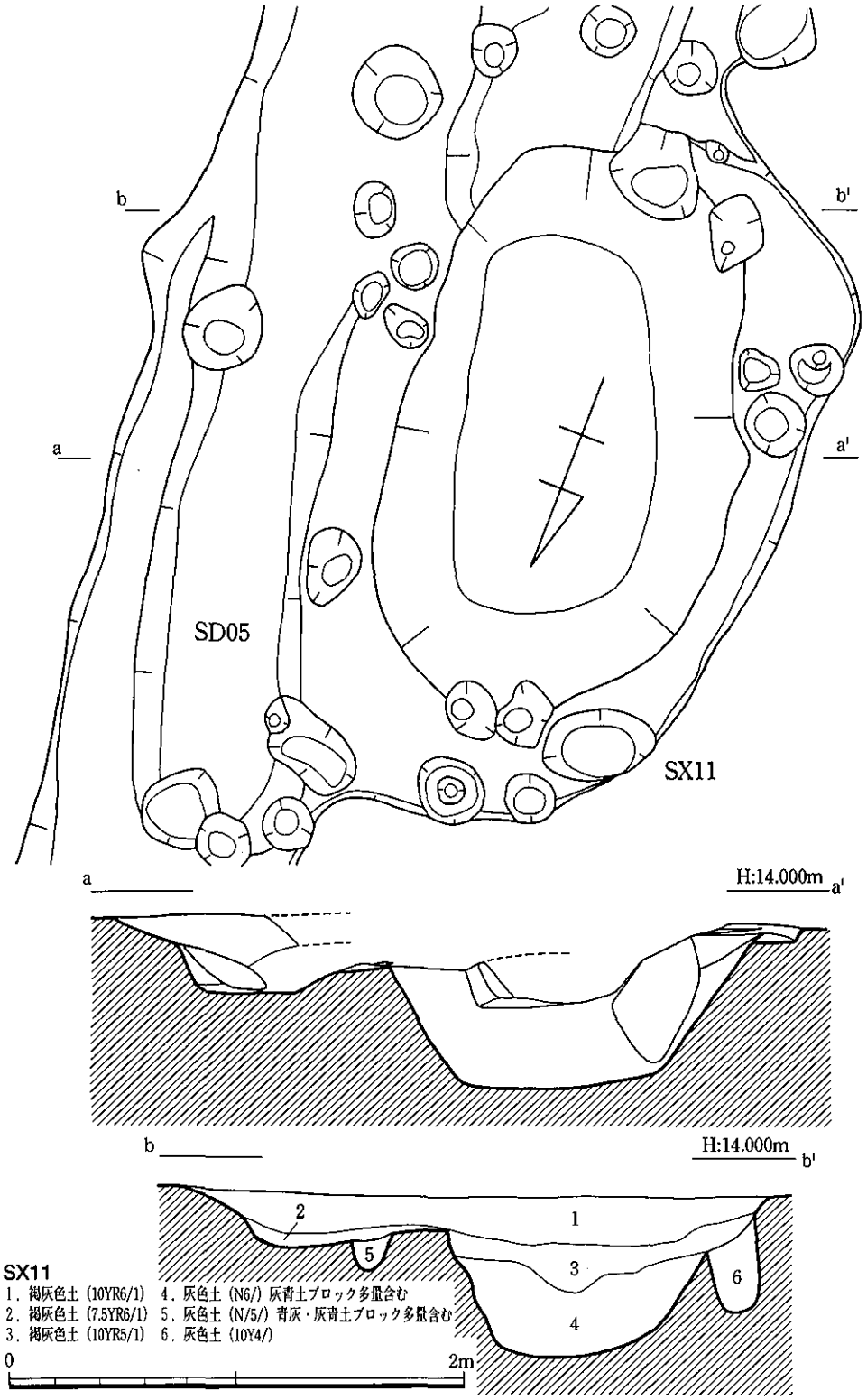
SX09（第19図）　調査区南西側に位置する。約1.0×0.6mのいびつな隅丸長方形を呈し、深さ18cmを測る。底面は比較的平坦である。遺物は、土師器片、青磁片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。



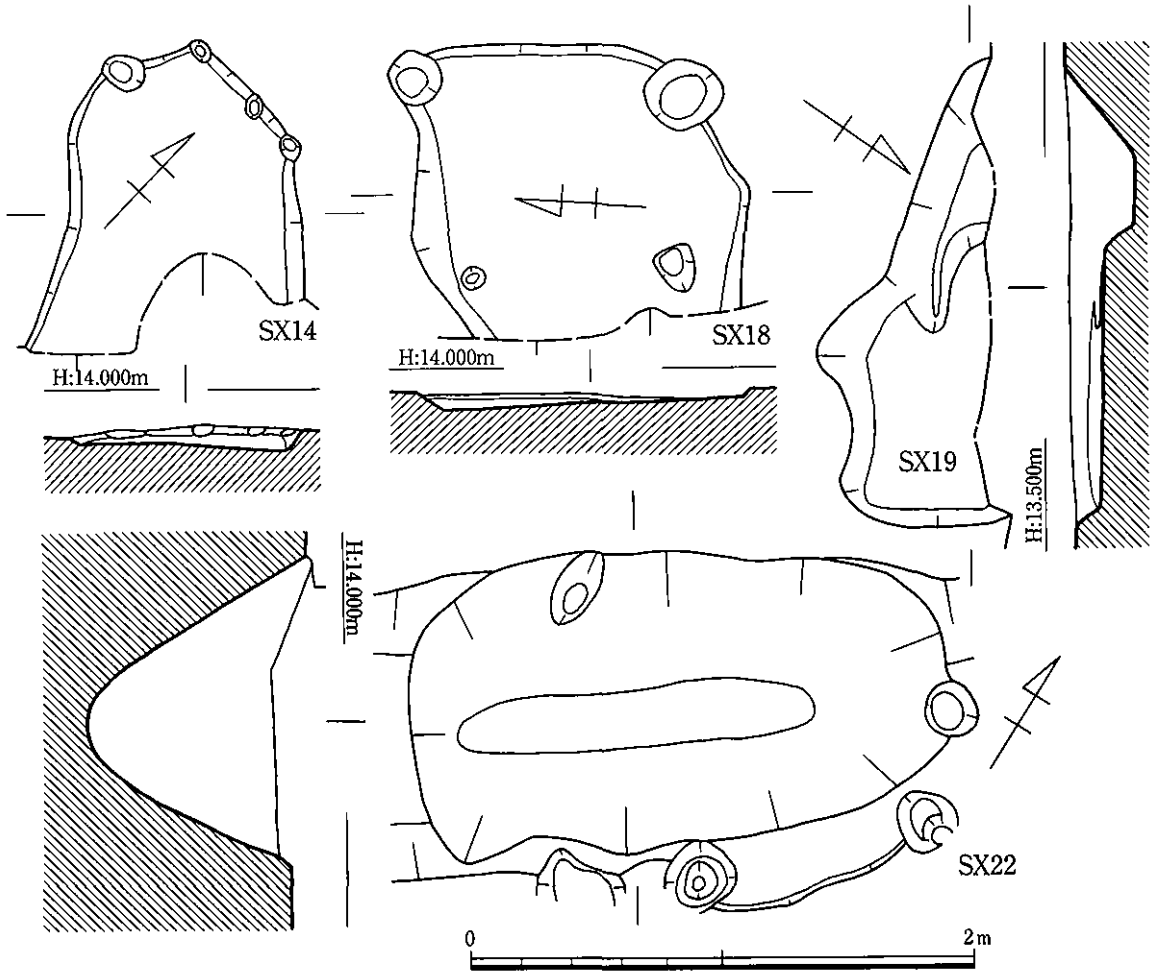
第18図　1区　SX01～04実測図（1/30）



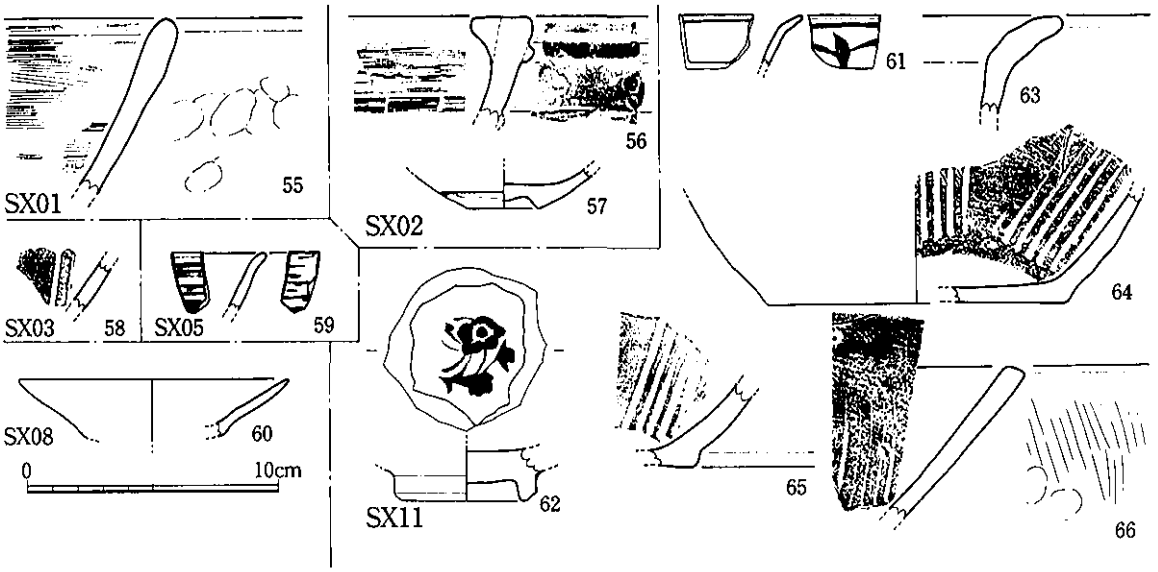
第19図　1区　SX05～10・12・13実測図（1/30）



第20図　1区　SX11実測図（1/30）



第21図　1区　SX14・18・19・22実測図（1/3）



第22図　1区　SX01～03・05・08・11遺物実測図（1/3）

SX10（第19図）　調査区南西壁に接するSD03内で検出された土坑である。平面形は調査区外に続くため全体像が不明だが、長軸1.9m以上の楕円形を呈すと予想される。深さ65cmを測り、断面形態は凸レンズ状をなす。SD05に切られる。２層・４層で木片が混入していたが、そのほか遺物は出土しなかった。

SX11（第20図）　調査区東側のSD05内で検出され、主軸をほぼ同じくする。約2.5×1.6mの楕円形を呈し、深さ70cmを測る。SD05との関連については、溝幅が膨らんだ部分に位置するため、先後関係も想定したが、土層観察の結果と合わせれば、併存した可能性が高いと考えている。

遺物（第22図）　61は中国製染付椀あるいは皿で、１区SB01出土遺物（第11図３）と同一個体の可能性が高い。62は竜泉窯系青磁椀で、見込み部には花形の文様が施される。やや厚めの釉で、高台内のみ露胎となる。太宰府分類のⅣ類に相当しよう。底部周辺を打ち欠き、再加工している。63は土師器甕。64～66は瓦質擂鉢。64は擂目が６条確認でき、体部外面には煤がかかっている。これら以外に、須恵器片、白磁片が出土した。

SX12（第19図）　調査区北東側に位置する。約1.1×0.7mの楕円形を呈し、深さ９cmを測る。底面はほぼ平坦となる。遺物は、土師器片、瓦質擂鉢片が出土したが、図化できるものはない。

SX13（第19図）　調査区南西側に位置する。約1.1×1.0mの楕円形を呈し、深さ28cmを測る。壁面の立ち上がりは緩やかで、断面形態は凹レンズ状になる。遺物は、土師器片、瓦器片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SX14（第21図）　調査区南側に位置する。約1.2×1.0mのいびつな長方形を呈し、深さ９cmを測る。底面は西側に緩やかに傾斜する。壁面沿いには4基小ピットが見られ、それぞれ深さ５～10cmを測る。SD05に切られる。遺物は、灰オリーブ色釉を施した朝鮮産陶器片や土師器片、須恵器片が出土した。

SX18（第21図）　調査区東側に位置する。約1.3×1.2mのいびつな長方形を呈し、深さ５cm前後を測る。底面には複数のピットが認められるが、別遺構の可能性が高い。西側をSD05に切られる。遺物は、土師器片、須恵器片、瓦質湯釜片、施釉陶器片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SX19（第21図）　調査区北壁際に位置し、調査区外に続く。平面約1.9×0.6m以上の不整形を呈し、深さ25cmを測る。検出面から深さ12cmでテラスが形成される。遺物は、土師器片が出土したが、図化できるものはない。

SX22（第21図）　調査区南側のSD05内で検出された。平面約2.1×1.2mの楕円形を呈し、深さ約90cmを測る。底面は狭長で、横断面の形状は「Ｖ」字形に近い。平面プラン・主軸方向がSD05と一致しており、一連の遺構と考えられる。遺物は、SD05出土遺物として取り上げている。

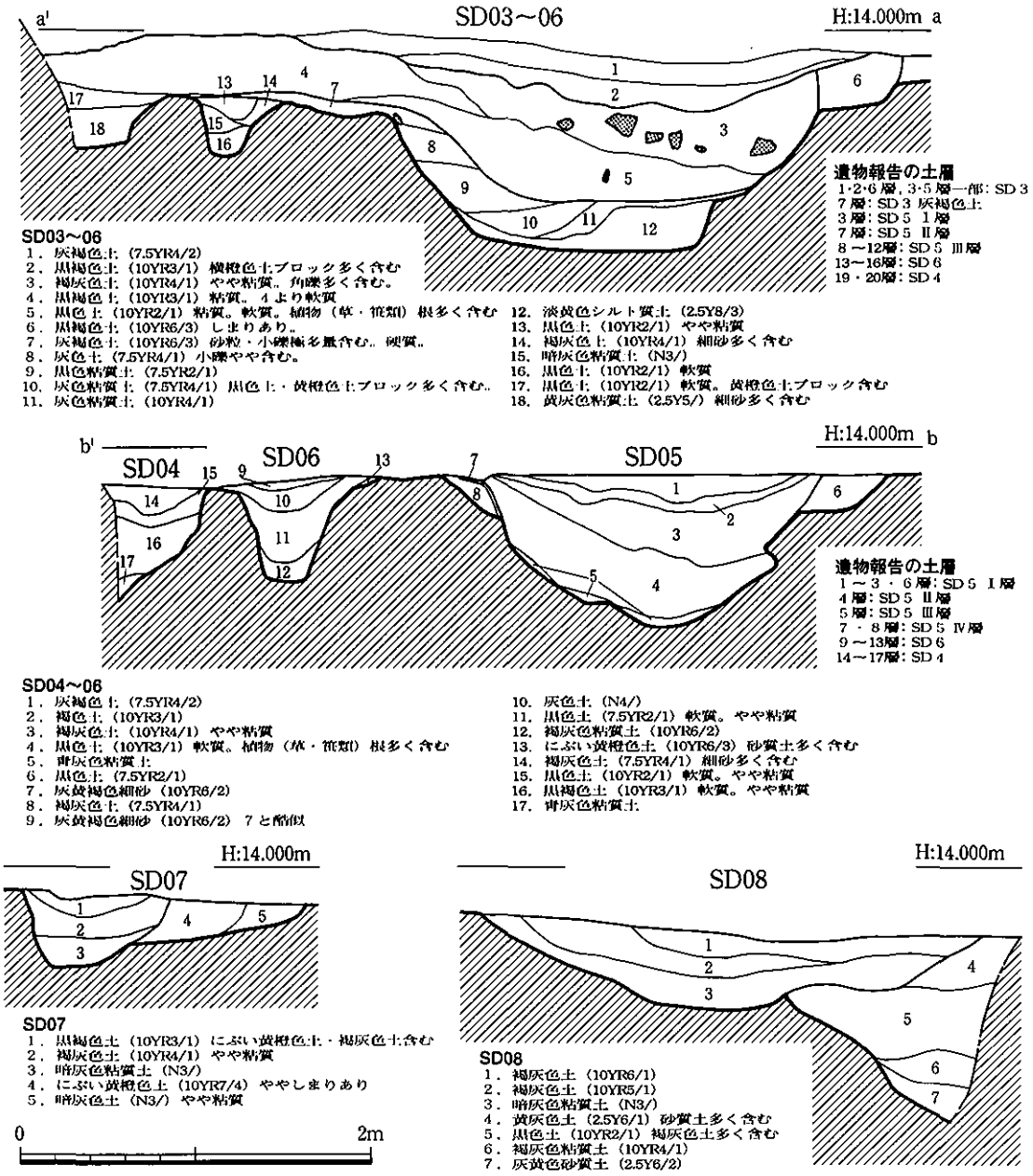
（4）溝　跡

大小合わせ７条（SD02は欠番）検出した。

SD01（第３図）　調査区やや北側を調査区長軸に平行して延びる溝跡で、幅約0.6m、深さ0.25mを測り、断面は逆台形を呈する。東側に向かうにつれ底面レベルは高くなり端部に至る。西端のSD08との切り合いは確認できなかった。埋土はやや粘質を帯びた青灰色土の単層であった。

遺物（第24図）　67は土師器小皿、68は土師器杯、ともに底部糸切り。69は無文の青磁椀で、口縁部は外反する。70は瓦質鉢。71は瓦質擂鉢。

SD03（第３・23図）　調査区南東壁に接して検出された。当初、幅4.5m以上の溝跡として掘下げたが、間もなく地山がみられ、底面では３条の溝跡（SD04・05・06）を検出した。遺物はそのままSD03として取り扱っているが、土層観察によれば、本来SD05と同一の遺構である。



第23図　１区　SD03～08土層実測図（1/40）

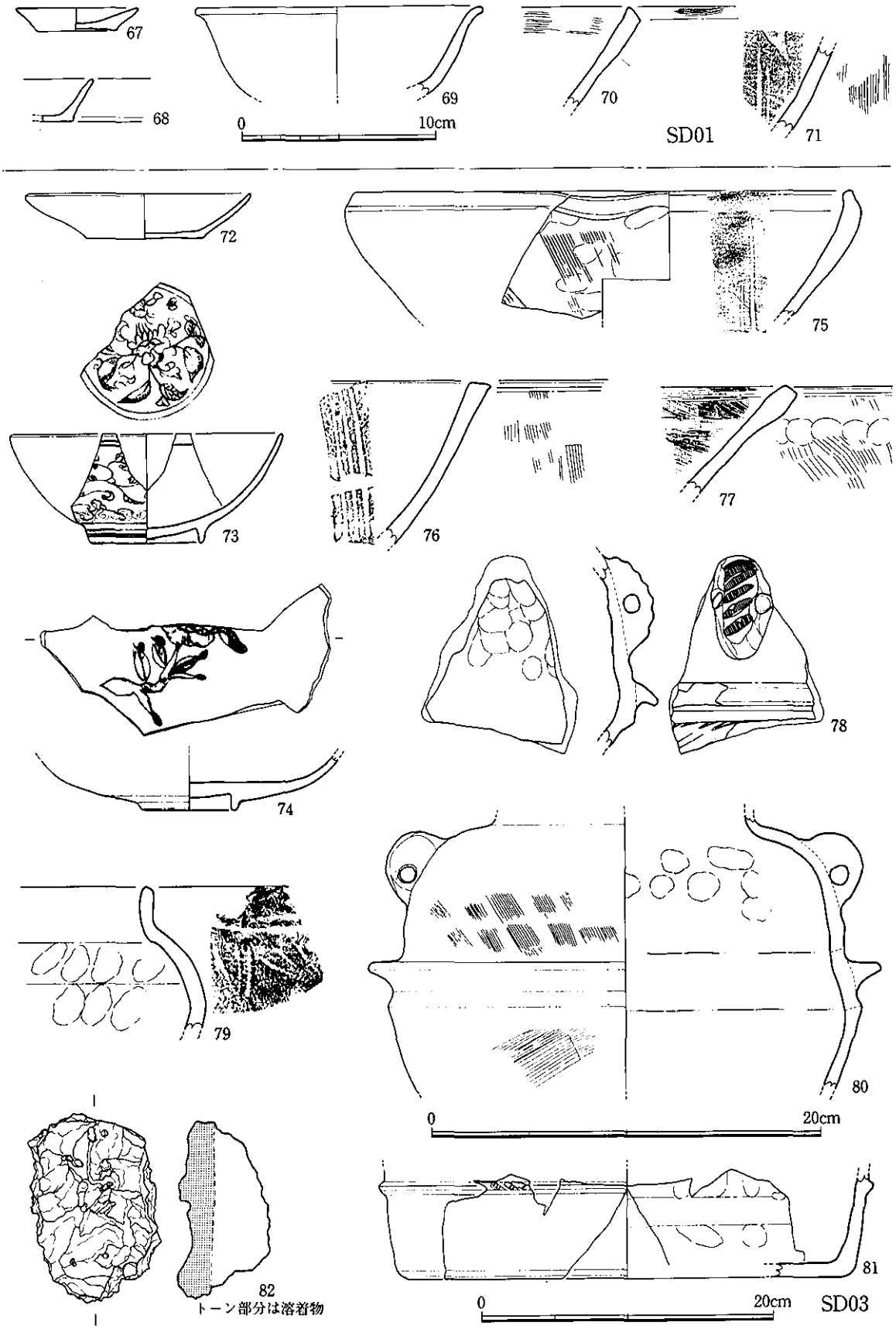
遺物（第24・32図）72は土師器杯、焼け歪みがある。73は中国産染付椀で、小野分類C群に属するもの。いわゆる蓮子形を呈する。体部外面には唐草、見込み部には花文を施す。74は肥前産染付皿。見込みに椿を描く。75・76は瓦質擂鉢。75は口縁部をつまみ出すように強く横ナデし、端部を形成している。77は瓦質鉢で、外面には煤が付着する。78～80は瓦質湯釜。79の胴部上半の文様は、刷毛目工具の端部を押し当てたものと想定されるが、78の耳部の施文原体は判然としない。80は鍔以下で煤の付着が顕著である。81は瓦質火鉢。最下位の突帯を斜めに刻む。82は炉壁。断面図の左側に、やや緑がかった黒色のガラス質の付着物が厚く覆っている。183は鉄製の鑿先。鋳鉄を用いる。188は石硯。図面上方が「海」と想定できる。粘板岩。191は石鏃。姫島産黒曜石製。縄文時代の遺物か。

SD04（第３・23図）　SD03の底面で、調査区南東壁に接して検出された。調査区外に延びるため、長さ・幅・深さとも不明であるが、幅0.6m以上、深さ0.7m以上を測る。

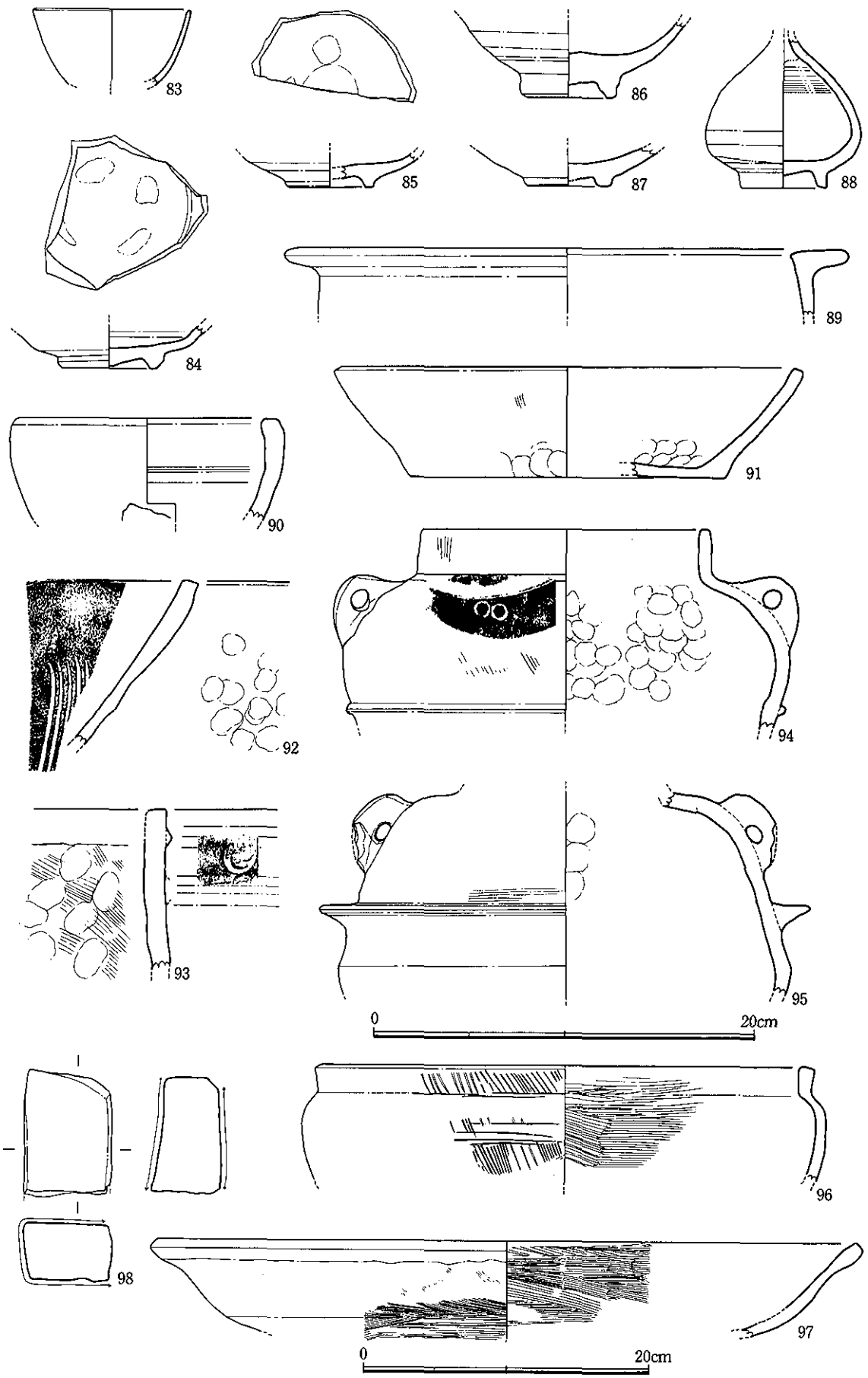
遺物（第25図）　83は白磁椀。肥前産か。84・85・87は肥前産陶器皿。いずれも砂目跡を残す。86は肥前産陶器椀。88は肥前産陶器瓶。下膨れな形状で、外面は高台付近まで鉄釉が施され、内面は頚部まで釉が垂れる。89は弥生土器甕である。口縁部はL字形に屈曲する。90は器種不明の瓦質土器。残存部最下位に粘土の貼付けが確認でき、さらに口縁部直下にも貼付が剥落したような痕跡が１ヶ所見られる。また、部分的ながら口縁端部水平面まで煤が付着する。91・97は瓦質鉢。91は本来把手を持つ類であろうか。97は外面に顕著に煤が付着する大型器種。92は瓦質擂鉢。外面の指頭圧痕が顕著である。93は瓦質火鉢。２条の突帯間にスタンプ文を持つ。94～96は瓦質湯釜。94は体部最上部に円文スタンプを２個１セットとした文様を持つ。鍔が極端に短い。96は内外面とも粗い刷毛調整を残すが、肩部付近はナデ消しており文様を意識しているようにも見える。98は砥石。

SD05（第３・23図）　SD03底面で検出され、調査区南隅でＬ字形に屈曲し、弧を描くようにSD08に繋がる。SD01・07に切られる。最大幅2.8m、深さ1.1mを測る。底面レベルは、北西側が最も深く南側、北東側にいくにつれ浅くなる。溝内には大形の土坑SX11・22（第20・21図）がある。a－a′５層中からは多量の植物の根が確認され、堆積時の状況を知る上で興味深い。

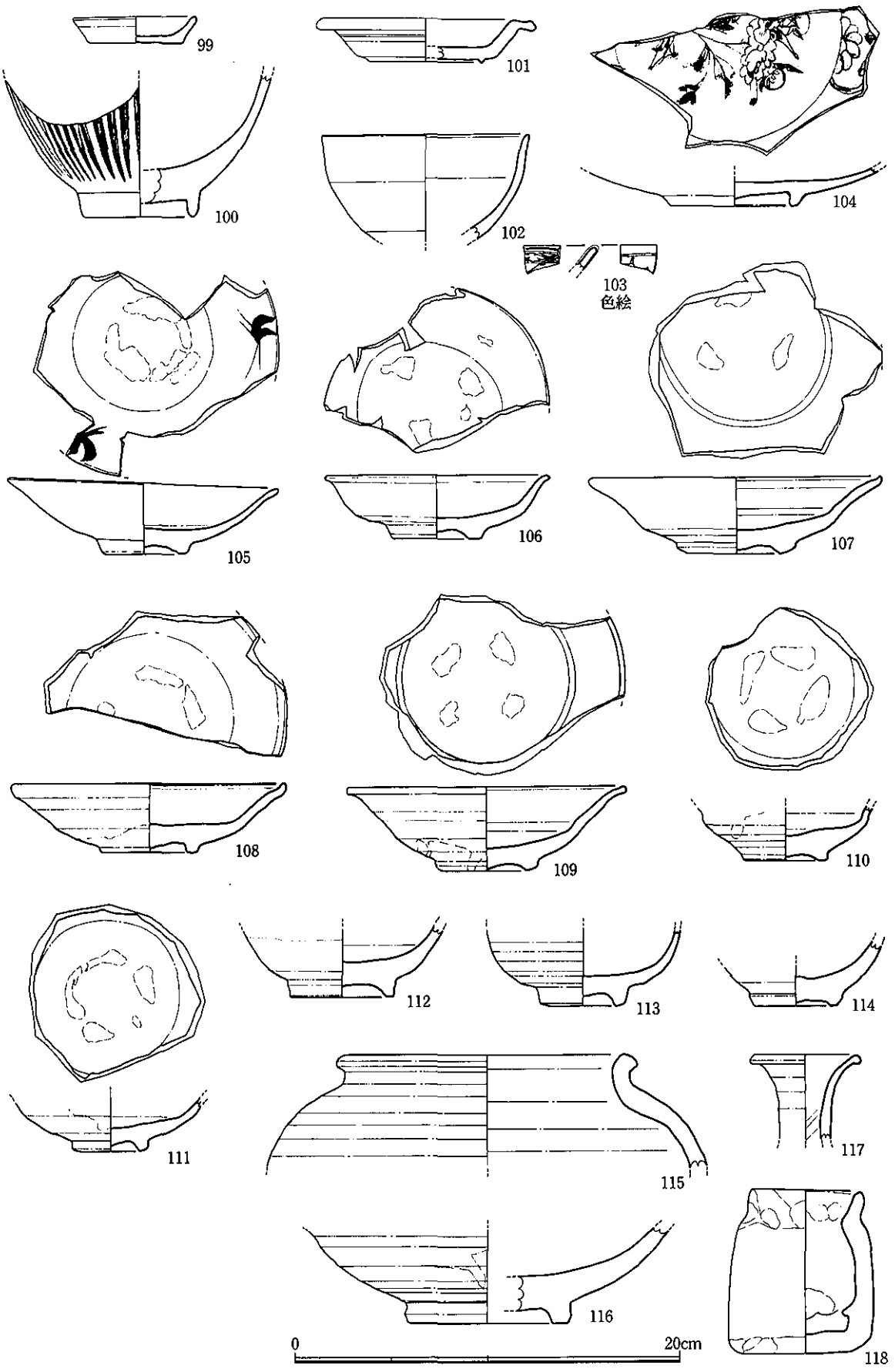
遺物（第26・27・31図）　99は土師器小皿。100は竜泉窯系青磁椀。退化した細身の蓮弁文を施す。高台内を蛇の目に釉掻きする。101は瀬戸美濃産陶器皿で、折縁皿と呼ばれるもの。緑色に発色した灰釉を施すが、見込みおよび高台内は露胎となる。実測図は接合しない２破片を図上で復元したものであり、やや不安な要素もある。102は無文の肥前産磁器椀。明緑灰色釉を施す。103は中国産色絵椀あるいは皿。朱色は外面の一部に残るのみであるが、その痕跡は内外面とも確認することができる。104は肥前産磁器皿。見込みに牡丹を描く。105～111は肥前産陶器皿。105は体部内面に鉄絵を施す。107～109は口縁部内面が窪む溝縁皿と呼ばれる類。いずれも高台付近以下は露胎となる。112～114は肥前産陶器椀。115は備前焼壷。116は陶器鉢の類か。117は陶器瓶。肥前産の可能性高い。残存部全面に灰釉を施す。118は焼塩壷。口縁部内外面に指頭圧痕が顕著に残る。119・120は瓦質擂鉢。121・122は陶器擂鉢。121は口縁部形状から肥前産であろう。123・124は瓦質火鉢。123は口縁部に花文状のスタンプ文を巡らす。124はやや大ぶりなスタンプ文が突帯を挟んで２段にわたり施される。125～127は瓦質鉢。125は口縁部に断面「コ」字形の突帯が巡る。外面に指頭圧



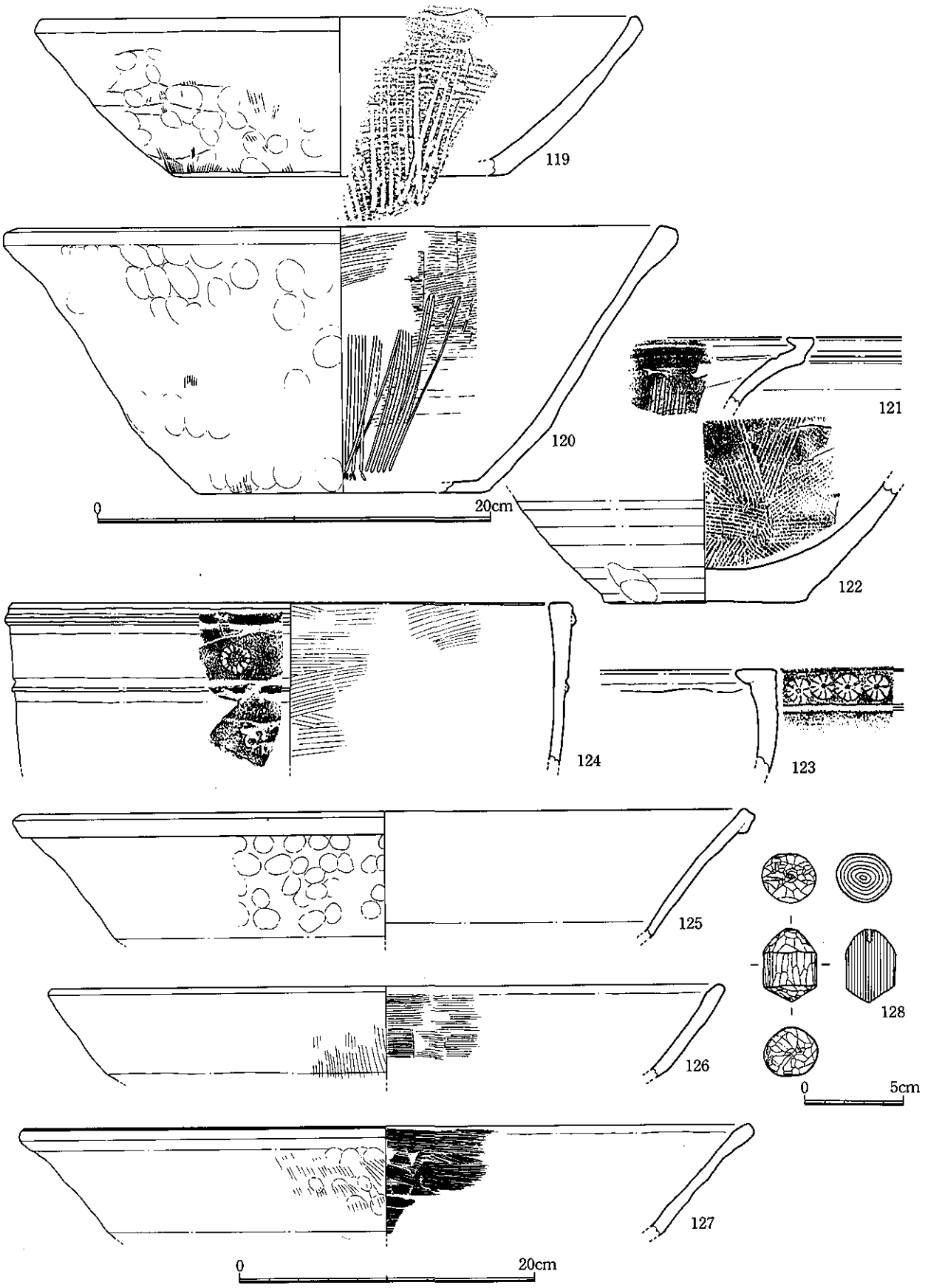
第24図　1区　SD01・03遺物実測図（81：1/4、その他：1/3）



第25図　1区　SD04遺物実測図（96・97：1/4、その他：1/3）



第26図　1区　SD05遺物実測図1（1/3）



第27図　1区　SD05遺物実測図2（124～127：1/4、その他：1/3）

痕が顕著に残る。佐賀平野や筑後地方でよく見られるタイプである。126・127は外面の煤の付着が著しい。128は木製の独楽である。長径2.95cmで芯持材を用い、上下両端を円錐形に加工している。そのうち一方（実測図の上側）を穿孔し、その孔に軸棒を挿入している。軸棒は根元で折れ長さ等は不明である。独楽の機能として、どちらが上あるいは下なのか判断しがたい。なお、図のとおり、軸棒を上とした場合、下の先端部（接地部）の磨耗は認められない。177～181は石臼。177・178は茶臼の下臼。179は粉挽き臼の上臼、180・181は下臼。181は底面もよく磨れており、擂り目は明確に確認できないが、以前裏面を使用していた可能性もある。177・178・180は砂岩、179・181は凝灰岩製。いずれも分画数不明。

SD06（第３・23図）　SD03の底面で検出され、SD04に切られる。最大幅約0.9m、深さ0.9mを測る。底面は深い部分と浅い部分が交互に存在し、滞水の痕跡は、深い部分でのみ確認された。特徴的なb－b′　９層はSD05の７層に酷似する。

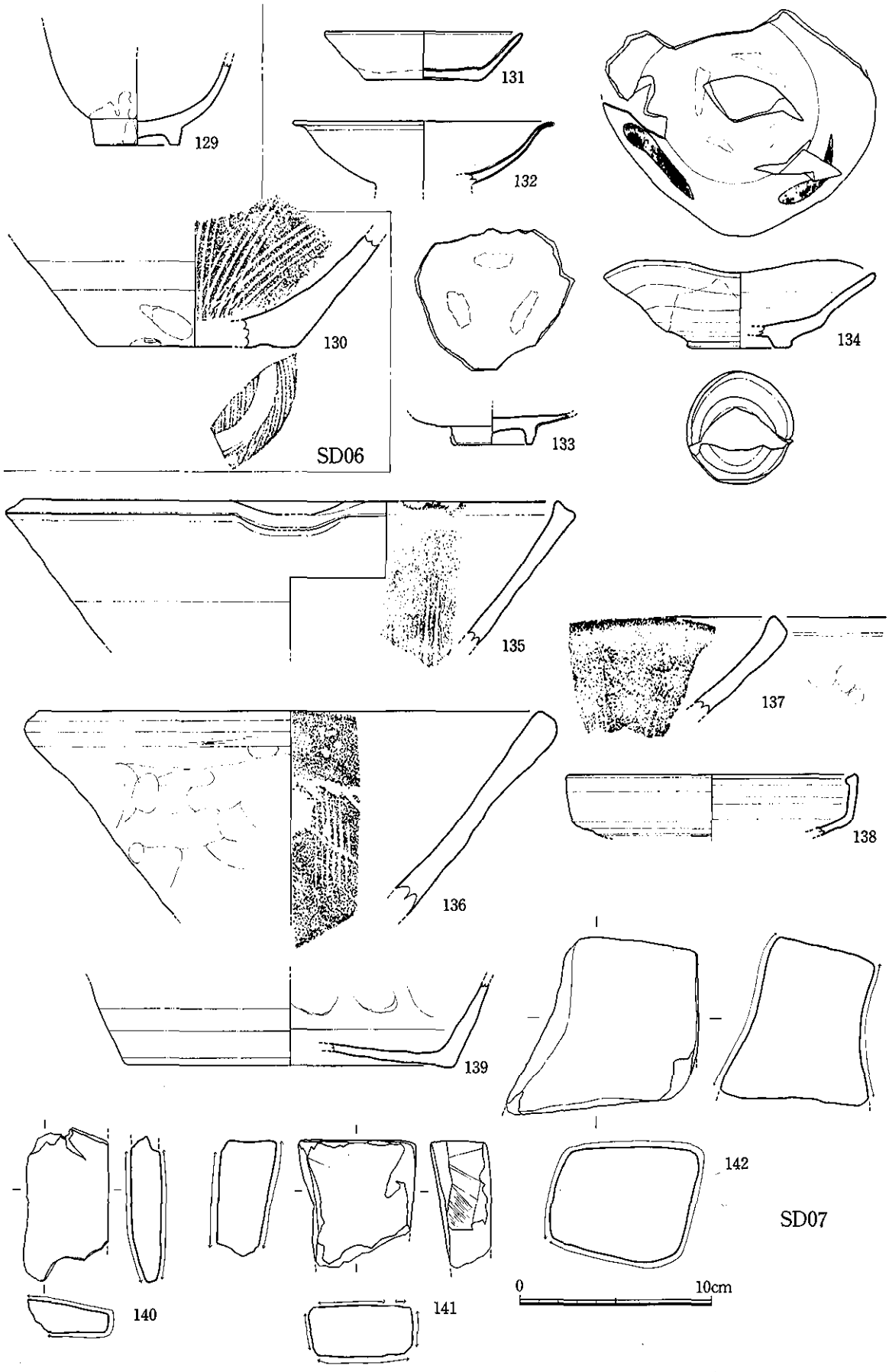
遺物（第28図）　129は肥前産陶器椀。130は陶器擂鉢。底部を糸切りの後、蛇の目に抉るように削っている。

SD07（第３・23図）　調査区南西側で検出され、SD04・06とほぼ並行する。SD05を切り、調査区外にも延びている。最大幅1.8m、深さ0.45mを測るが、掘り直しがあり、掘り直し後の最大幅は1.0mである。底面レベルは北西側にいくにつれ深くなっている。

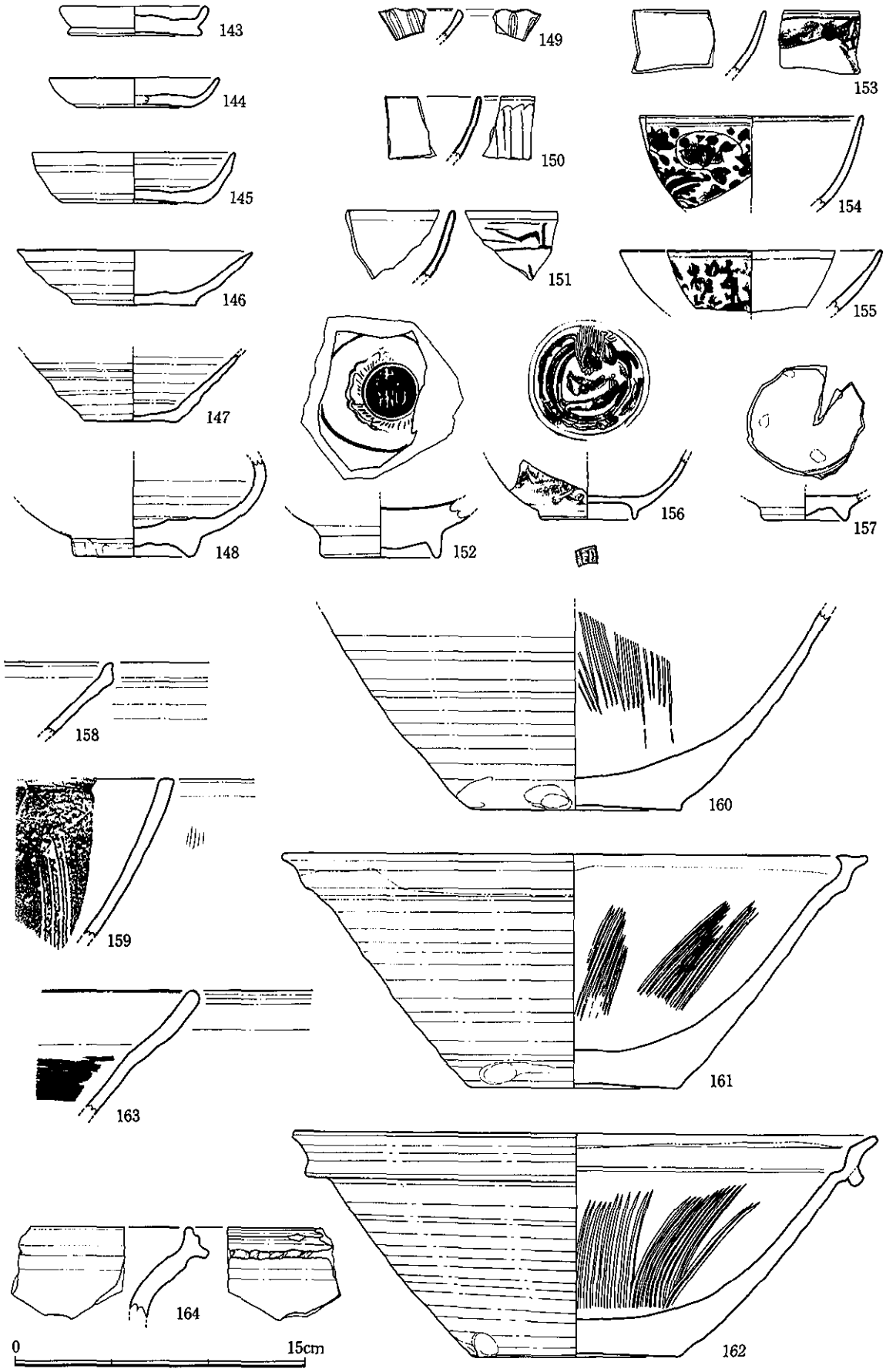
遺物（第28図）　131は白磁皿。口縁部内面を釉掻きする。太宰府分類Ⅸ類。132は白磁椀。133・134は肥前産陶器皿。134は体部から口縁部にかけて略方形状に成形している。内面体部に鉄絵を施す。高台はほぼ円形であるが、厚さは均一ではない。135～137は瓦質擂鉢。138は肥前産陶器で火入であろう。体部外面に灰釉を施す。139は中国産陶器盤。オリーブ灰色の釉を全面に施す。現状で外面底部の外周に目跡が４ヶ所確認でき、計８ヶ所にあると想定できる。内面体部には当て具痕がかすかに残る。140～142は砥石。

SD08（第３・23図）　調査区北西壁に接して検出され、幅５m以上となる。調査区外に続くため溝幅は不明であり、試掘調査の所見ではそのまま御笠川の氾濫域となる可能性がある。現状で確認できる深さは、約1.2mである。断面形状が二段掘りとなり、土層に不整合面が認められることから、少なくとも最終的には「溝」であったと考えられる。当初の遺物取上げ時に、SD02（本報告では欠番）として取り扱った遺物も同一遺構を指しており、あわせてSD08として報告する。

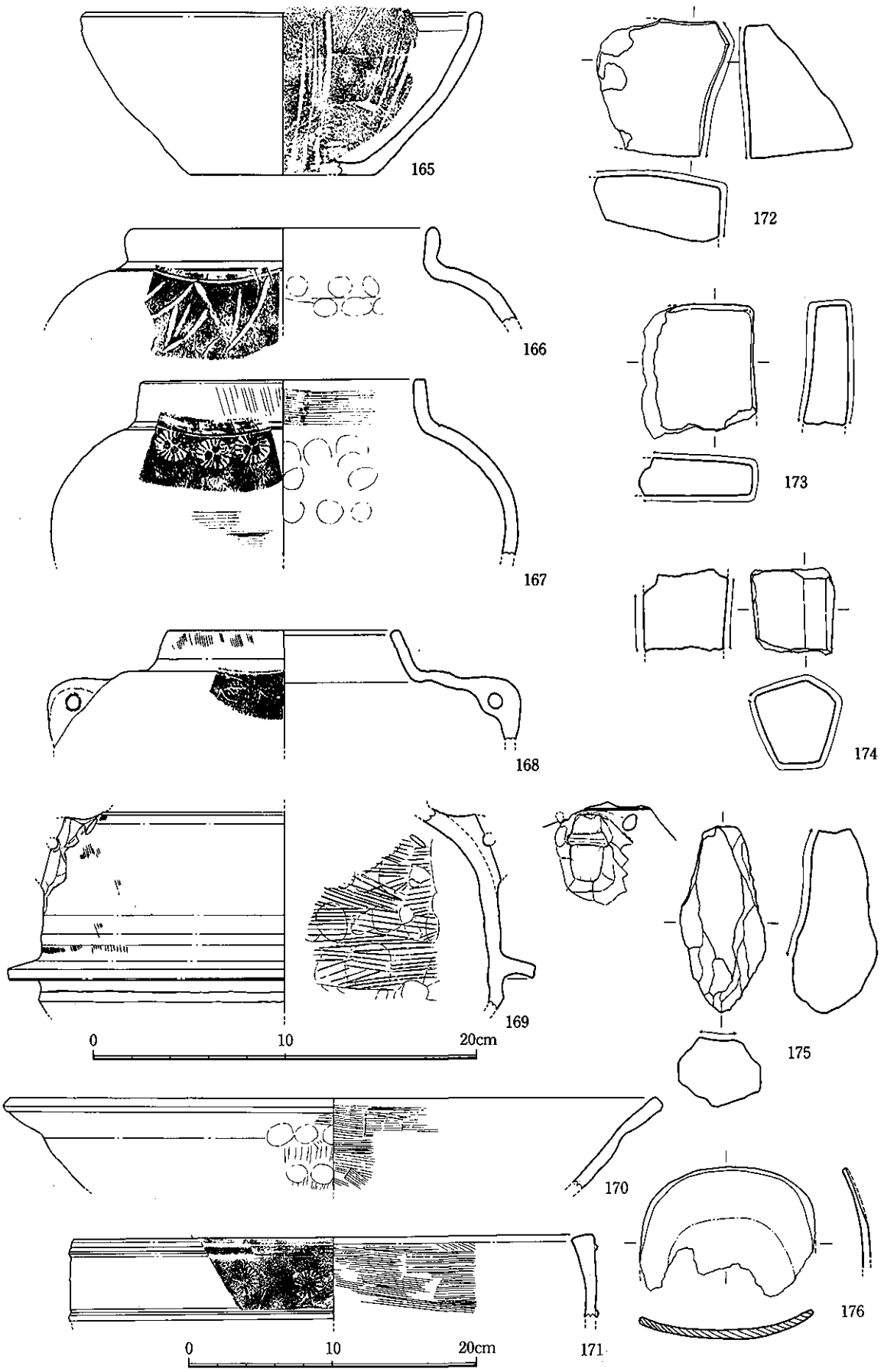
遺物（第29～31図）　143・144は土師器小皿。145～147は土師器杯。147は回転ナデの痕跡を顕著に残す。148は白磁壷。朝鮮産あるいは肥前産。149は白磁皿。いわゆる菊皿と呼ばれるもの。森田分類E群。150～152は竜泉窯系青磁椀。150は極めて退化した蓮弁を施し、151は口縁部に雷文を有する。152は見込みに吉祥文字を施す。周囲を打ち欠き再加工している。153・155・156は中国産染付椀。153は陶胎質で漳州窯系といわれるもの。156は見込みに団龍を描く。154は肥前産染付椀。157は朝鮮産陶器椀。４ヶ所に胎土目跡が残る。底部周囲を打ち欠いている。158は東播系こね鉢。159・165は瓦質擂鉢。165は擂目の深さが深い。160～162は陶器擂鉢。160・161の擂目は、使用のため著しく磨耗している。161は肥前産。163は瓦質鍋。頚部の屈曲は緩い。164は陶器壷の類か。須恵質。口縁部に２条の沈線を施し、下端を突出させ、そこに斜位に刻みを入れる。外面にうっすらと施釉しているようにみえる。産地不明。166～169は瓦質湯釜。169の肩部文様の沈線内では微



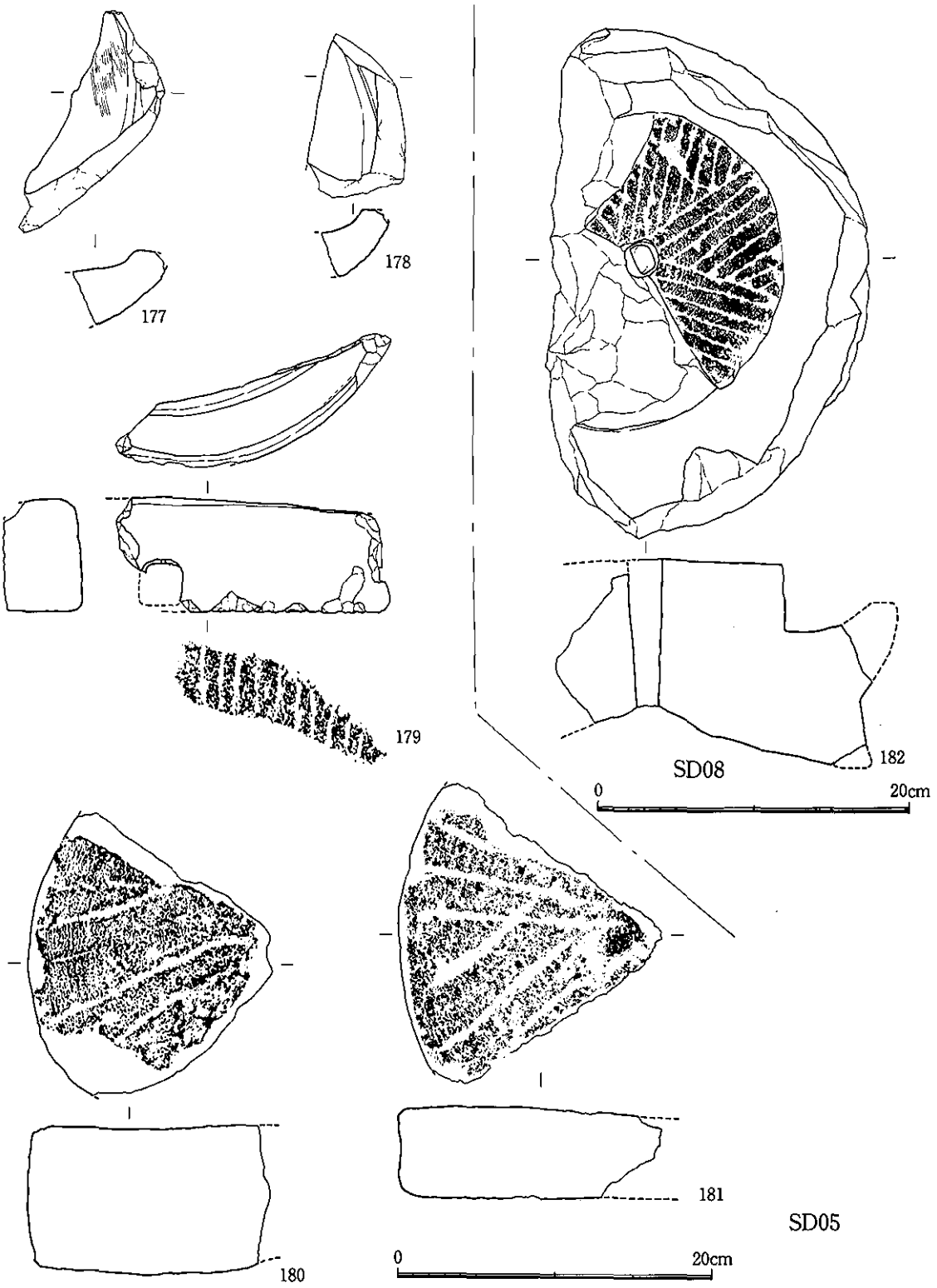
第28図　1区　SD06･07遺物実測図（1/3）



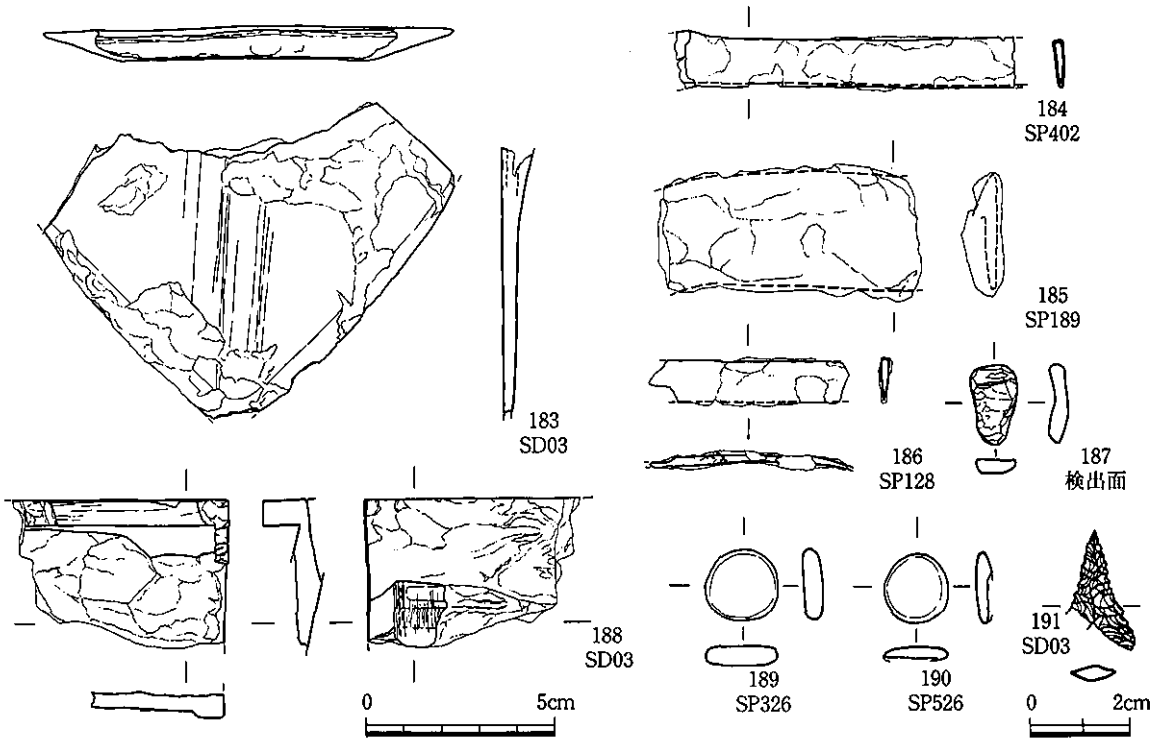
第29図　1区　SD08遺物実測図1（1/3）



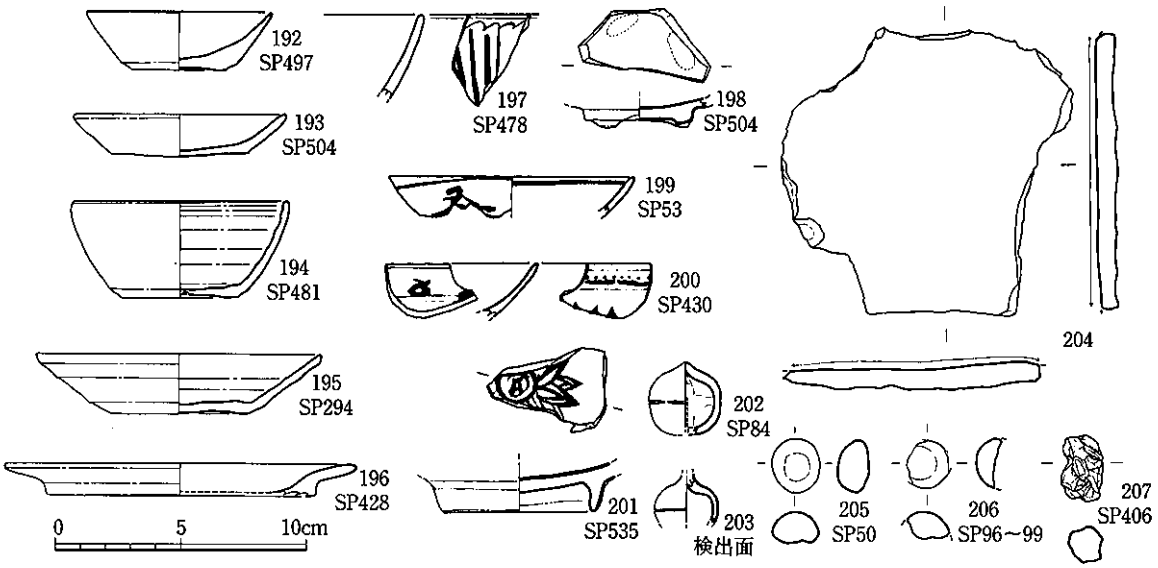
第30図　1区　SD08遺物実測図2（170・171：1/4、その他：1/3）



第31図　1区　溝跡石臼実測図（1/4）



第32図　1区　金属製品・石製品実測図（191：2/3、その他：1/2）



第33図　1区　ピット等遺物実測図（1/3）

かな刻みが観察されるが、原体は不明。167・168は肩部にスタンプ文を施す。169は耳部の左右両斜め上に穿孔が認められる。170は瓦質鉢。171は瓦質火鉢。２条の突帯間にスタンプ文を施す。172～175は砥石。176は匙状木製品。ザラザラ感のある漆を塗布している。182は茶臼の下臼。７分画になる可能性がある。砂岩製。

（５）その他の出土遺物

ピットや遺構検出面から出土した遺物を紹介したい。

遺物（第12・32・33図）　20は柱材。径13cm×11cm。一部面取りを行なっている。184は小束の柄。断面三角形の鉄芯に極めて薄い銅を被せている。装飾は確認できない。185は鉄製の挿先であろうか。判然としない。186は鉄製刀子。187は鉛製であるが、用途不明。線状痕など細かな加工痕が認められる。189・190は碁石。いずれも黒色系の素材を用いている。193は土師器小杯。192・194・195は土師器杯。196は瓦質皿。197は竜泉窯系青磁椀。198は白磁椀。高台を弧状に削り込みを入れるもの。森田分類Ｄ群。199は中国産染付椀。陶胎質で漳州窯系と呼ばれるもの。200は中国産染付皿で小野分類Ｃ群。201は中国産染付椀で小野分類Ｃ群。202・203は土鈴。204は砥石。205・206は土玉。用途は明確ではない。207は鉄滓。

（６）小　結

Ａ．各遺構の時期

まず、出土遺物から遺構の時期を見てみたい。なお、掘立柱建物跡や土坑からの遺物量は多くなく、年代観が明確な遺構はない。

掘立柱建物跡　SB01から中国産染付皿、SB05から朝鮮製陶器椀が出土しており、いずれも16世紀代か。SB08は細線化の進んだ竜泉窯系青磁椀が出土しており、15～16世紀前半か。SB10は肥前産と考えられる陶器が出土しており16世紀末～17世紀前半か。SB02・07については、瓦質擂鉢が出土していることから、15～16世紀を中心とした年代観が想定される。

井戸跡　SE01の出土遺物は多く、そのうち青磁皿、朝鮮産陶器椀、中国産染付、防長系瓦質擂鉢から15世紀後半～16世紀中頃。SE02は回転ヘラミガキを施した土師器杯から８世紀後半。SE03は土師器小皿の法量から15世紀代か。

土坑　SX02・11から中国産染付が、SX05から朝鮮産陶器椀が出土しており、いずれも16世紀代か。これ以外の遺物も、こうした年代観に近いと想定でき、概ね15～16世紀にほぼ収まるものと考えられよう。

溝跡　まず注目できるのは、SD04～07である。切り合い関係では、SD04は06を、SD07は05をそれぞれ切っているが、いずれからも17世紀前半～中頃の肥前産陶磁器が主体的に出土しており、遺構ごとの明確な時間差は認められない。各溝の埋没時期は判然としないが、17世紀中頃～後半と想定するべきであろうか。これ以外の溝跡では、SD01が15～16世紀代の遺物を含むものの、他遺構との切り合いから17世紀代まで下る可能性が高く、SD08は出土陶磁器から17世紀後半の埋没が考えられる。

Ｂ．遺構配置

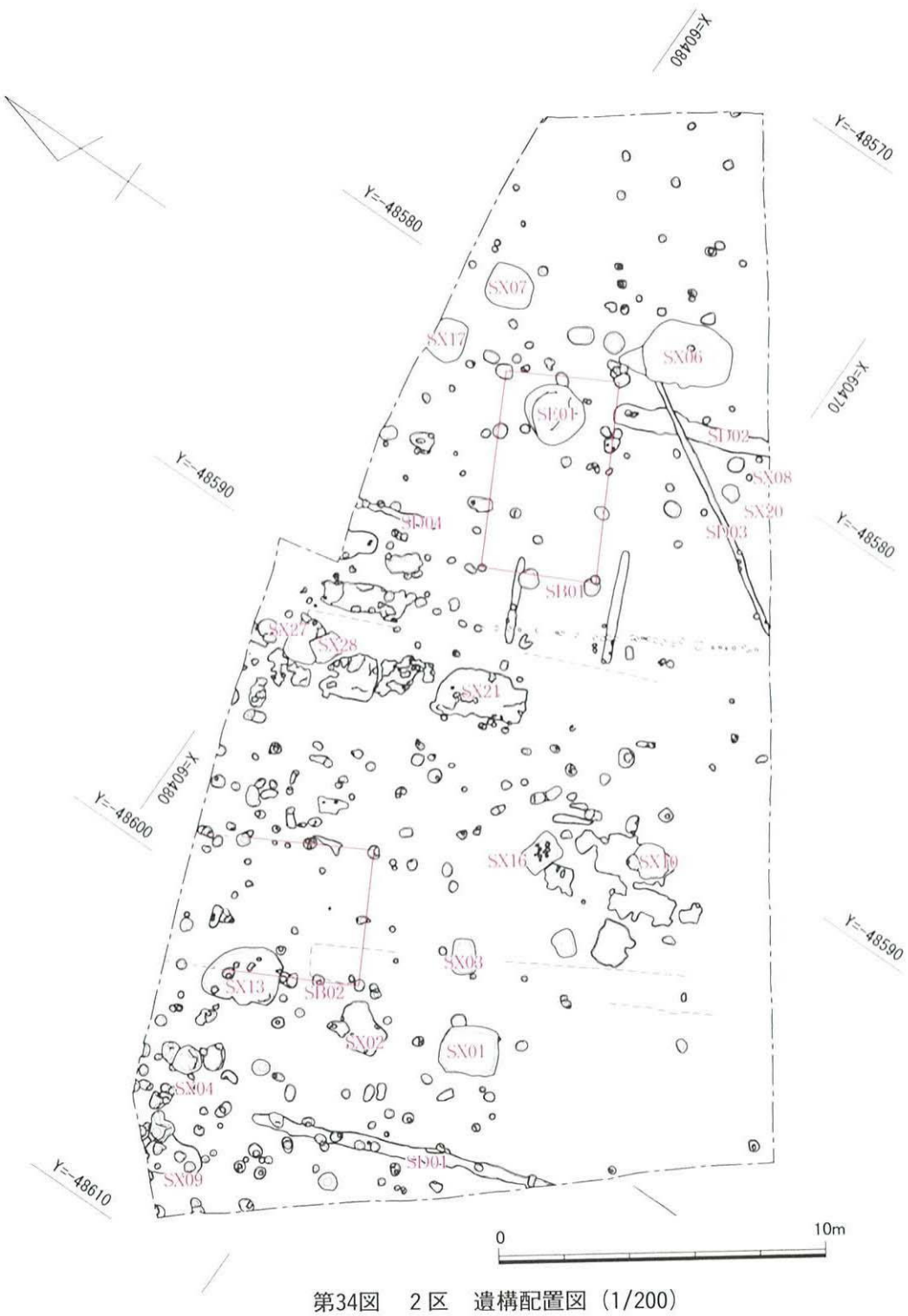
次に遺構配置を見てみると、溝状遺構のあり方が興味深い。特にSD05は調査区南隅で屈曲し、

SD08に連続するように伸びている。こうして考えた場合、ややいびつながらSD05と08に囲まれた一辺約25mの空間を一つの方形区画と理解することができようか。また、SD04・06・07も同一の方向性を持っていることから、SD08に向け屈曲するのか、反対方向に屈曲するのか不明であるが、同様の性格（方形区画溝）を想定することは可能であろう。

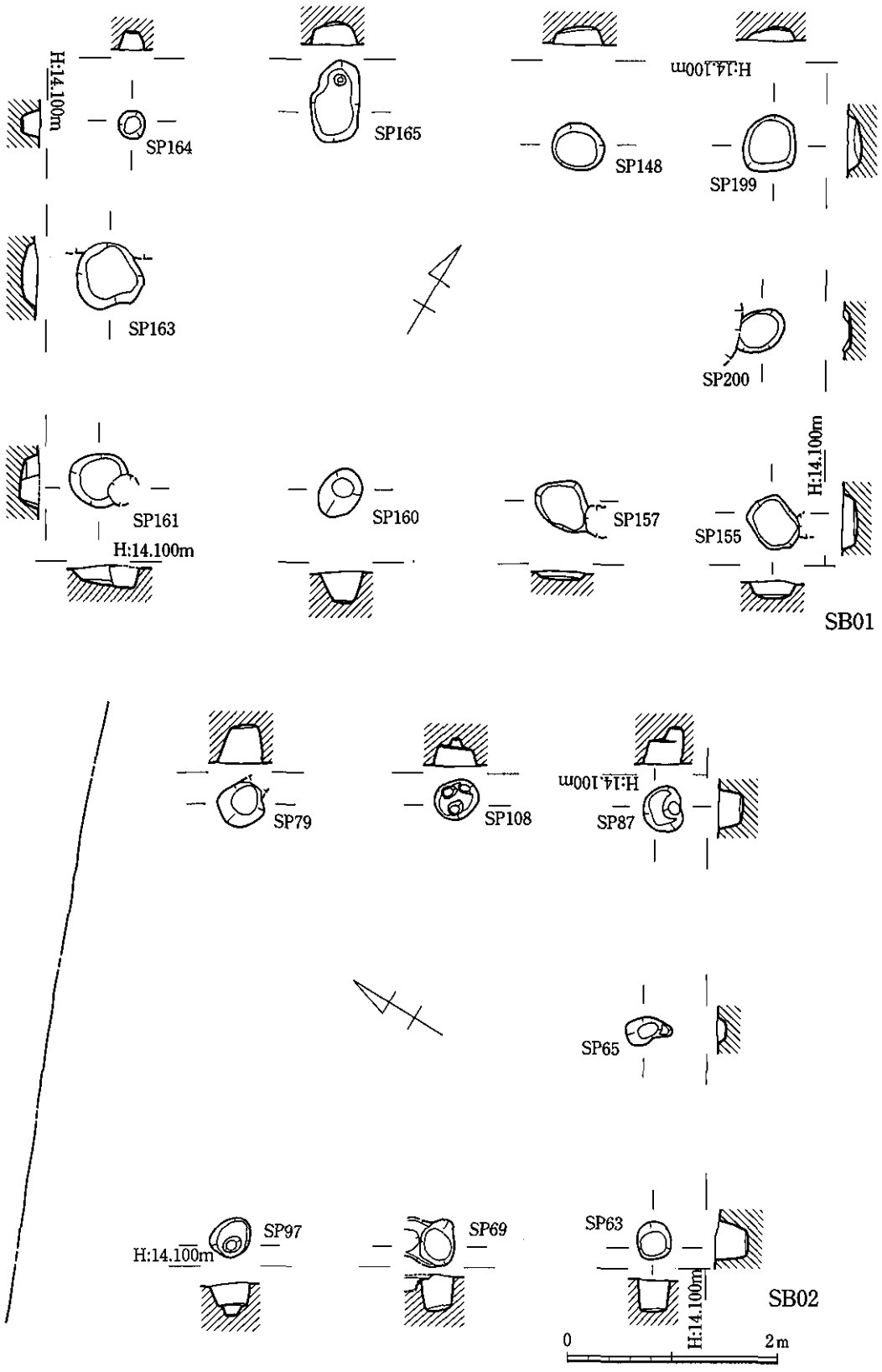
そこで、SD05のような区画溝と他の遺構群との時期的差異が問題となるが、遺構の配置状況から判断すると、SD07－05間、SD05－06間のスペースに土坑やピットが極めて少ないことが注目される。このことから、掘立柱建物や土坑が存在していた15～16世紀とほぼ同時期に、すでにこれらの溝の一部が区画溝として機能していたと推測することができる。なお、SD05については、15世紀代と想定したSE03を切っていることから、掘削時期の上限をある程度想定することができる。

2．2区の調査

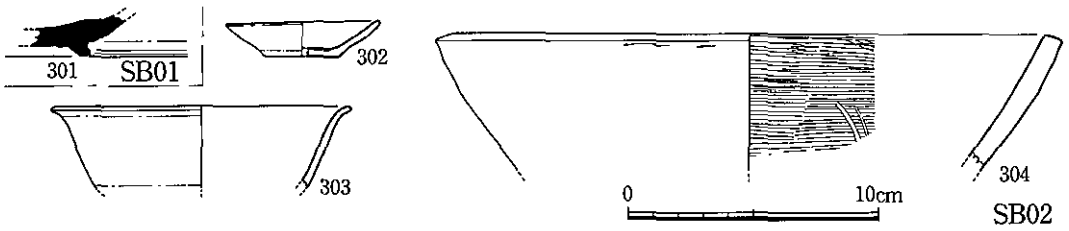
1区と3区との間に位置し、調査面積は、484㎡を測る。遺構は、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡、ピットを確認したが、1区に比べると、密度は総じて低い。特に調査区南東側では極めて散漫な遺構の分布となる。遺構検出面の標高は、調査区西隅で13.6m前後、東隅で14.4m前後を測り、明確に比高差を持つ。



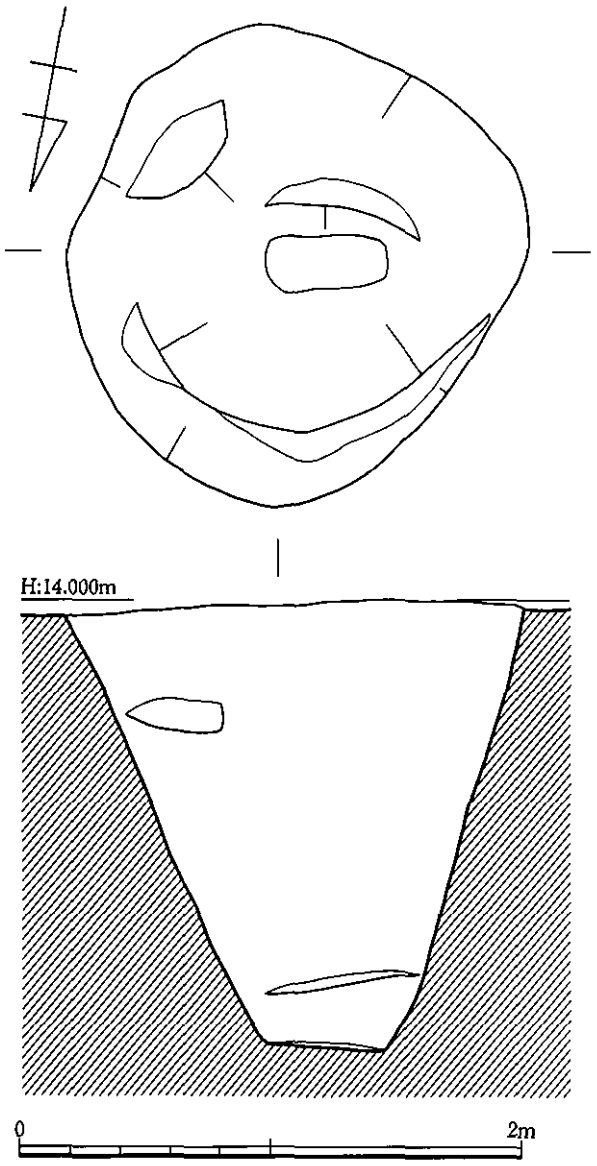
第34図　2区　遺構配置図（1/200）



第35図　2区　SB01・02実測図（1/60）



第36図　2区　SB01・02遺物実測図（1/3）



第37図　2区　SE01実測図（1/30）

（1）掘立柱建物跡

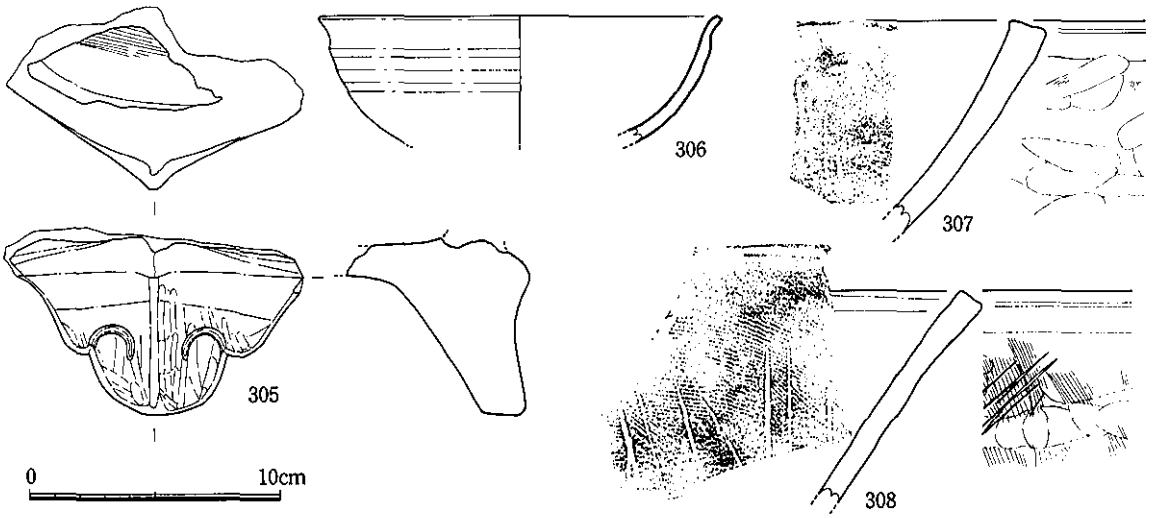
調査区西側にピットの集中が見られる。2棟の掘立柱建物跡を確認することができたが、これら以外にも存在していた可能性は高い。

SB01（第35図）　調査区東側で検出した3間×2間の東西棟の建物である。SE01に切られる。規模は桁行約6.5m、梁行約3.7m、面積約24.05㎡になる。柱間は桁行1.9～2.4m、梁行1.5～1.9mを測る。主軸方向はGN－59°53′11″－E。柱穴は平面形が円形もしくは楕円形を呈し、長径25～80cm、深さ9～30cmを測る。

遺物（第36図）　301は須恵器杯。これ以外では、土師器片、緑釉陶器片、瓦器片などが出土した。

SB02（第35図）　調査区東側で検出した2間×2間以上の南北棟の建物である。SX13を切る。規模は桁行約6.0m以上、梁行約4.2m、面積約25.2㎡以上になる。柱間は桁行2.0m、梁行2.1mを測る。主軸方向はGN－29°53′56″－W。柱穴は平面形が円形もしくは楕円形を呈し、長径36～62cm、深さ8～36cmを測る。SP87・97では明確な二段掘りとなる。

遺物（第36図）　302は土師器小皿。303は中国産磁器椀。無文なのか染付の無文部分であるかは不明。304は瓦質擂鉢。これ以外では、須恵器片や焼土塊が出土した。



第38図　2区　SE01遺物実測図（1/3）

（2）井戸跡

1基のみ確認することができた。

SE01（第37図）　調査区東側に位置する。平面約1.9m×1.8mのやや楕円形を呈し、深さ約1.8mを測る。底面の面積は狭く、やや開き気味に直線的に立ち上がる。底面付近には粘質土が認められたが、顕著ではなかった。井筒等は確認されなかった。調査時はSX05として遺物を取上げている。

遺物（第38図）　305は瓦質火鉢の脚部。306は白磁椀で、太宰府分類XII類。307・308は瓦質擂鉢。これ以外の遺物としては、弥生土器、土師器小皿、陶器片などが出土している。

（3）土　坑

大小含め28基を調査した。15基を報告するが、これ以外の土坑はいずれも不定形で、極めて浅い一群である。この一群については、人為的な「遺構」の可能性は低いと考えられよう。

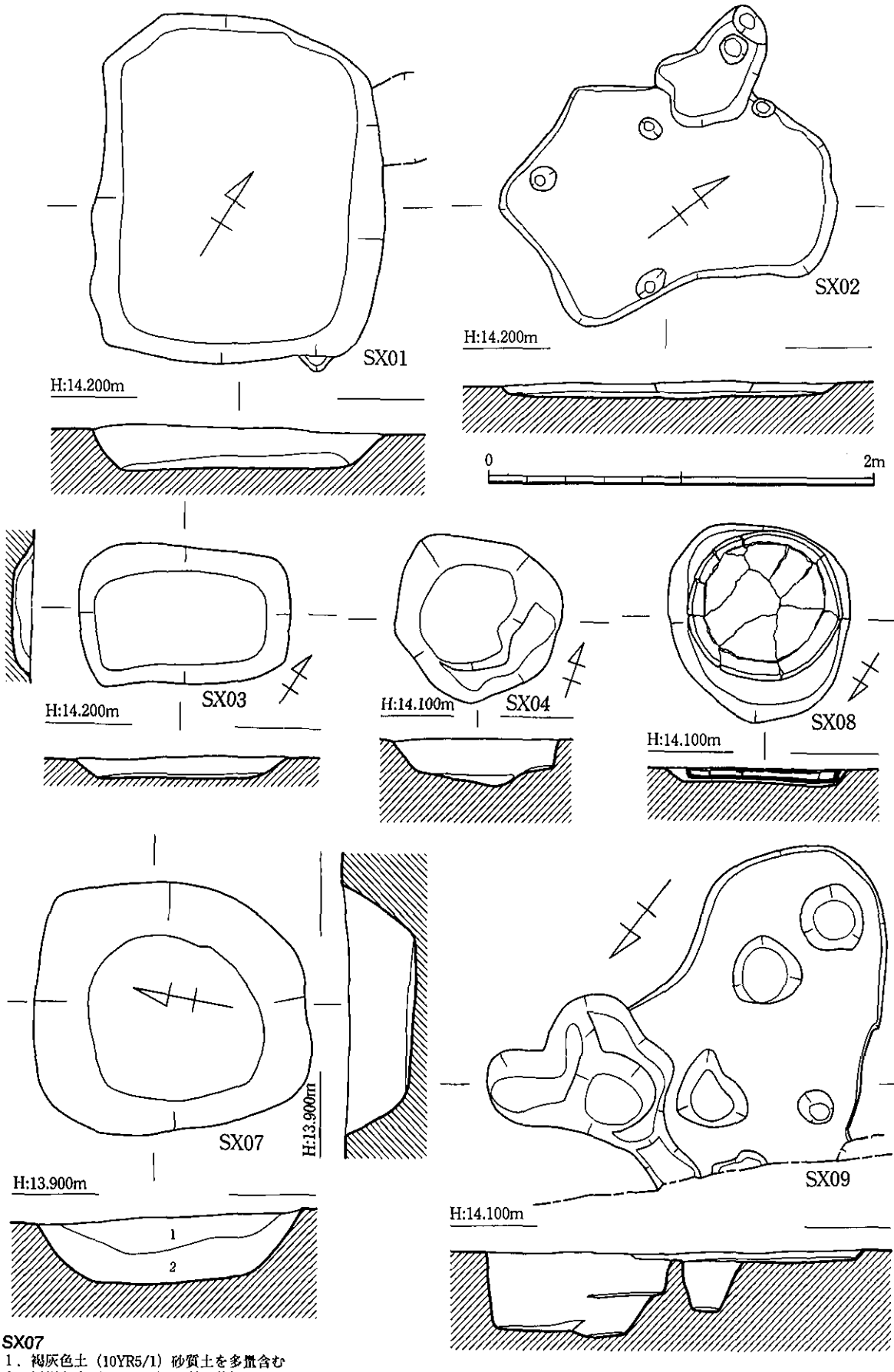
SX01（第39図）　調査区西側に位置する。約1.8m×1.5mの隅丸長方形を呈し、深さ24cmを測る。底面は比較的平坦で、壁面の立ち上がりはやや緩やかである。埋土は、黒色土とにぶい黄褐色土の混土の単層であった。

遺物（第42図）　309は土師器杯。310は緑灰色釉の陶器片で小盤あるいは鉢類。口縁部に目跡が残る。これ以外に、青磁片、瓦質土器片、焼土塊などが出土した。

SX02（第39図）　調査区西側に位置する。約1.8m×1.2mのややいびつな楕円形を呈し、深さ7cmを測る。底面は比較的平坦となる。遺物は、青磁片、土師器片、焼土塊、須恵器（須恵質土器）が少量出土したが、図化できるものはない。

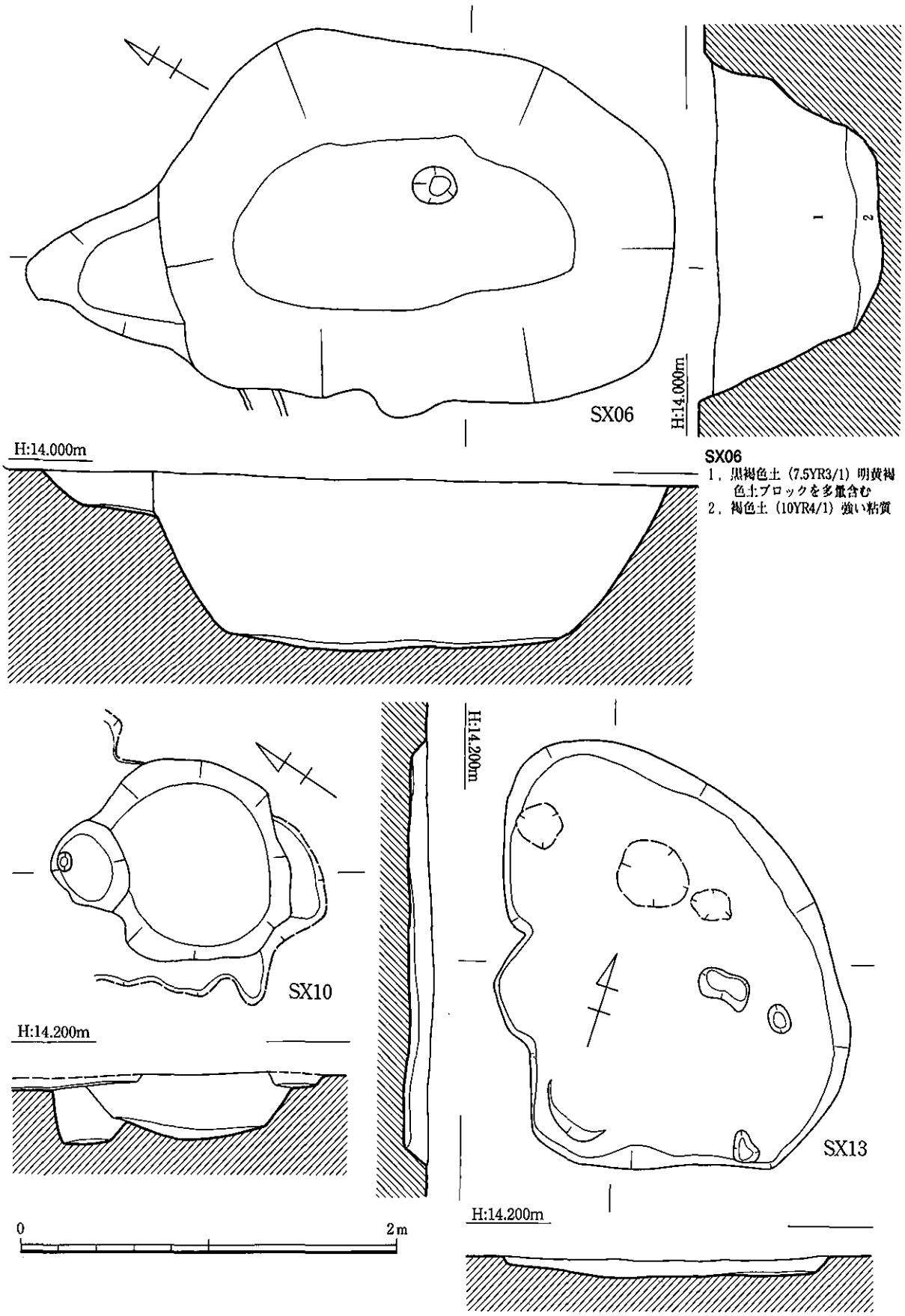
SX03（第39図）　調査区西側に位置する。約1.1m×0.7mの隅丸長方形を呈し、深さ12cmを測る。底面は比較的平坦で、壁面の立ち上がりは緩やかである。遺物は、瓦質擂鉢片、白磁片などが出土したが、図化できるものはない。

SX04（第39図）　調査区北西隅近くに位置する。約0.8mの円形を呈し、深さ24cmを測る。南東側にはテラスを形成する。遺物は、瓦質鉢片や土師器片が出土したが、図化できるものはない。



SX07
1．褐灰色土（10YR5/1）砂質土を多量含む
2．黒褐色土（10YR4/1）砂質。黄橙色土ブロック少量含む

第39図　2区　SX01～04・07～09実測図（1/30）



第40図　2区　SX06・10・13実測図（1/30）

SX06（第40図）　調査区東側に位置する。約3.5m×2.0mのいびつな隅丸長方形を呈し、深さ90cmを測る。底面は若干レンズ状に窪むがほぼ平坦で、壁面の立ち上がりは比較的急である。西壁ではSD03が接するが、切り合いは確認できなかった。一連の遺構の可能性もある。土層観察の結果、下層は粘質土であり、滞水していたとも考えられる。

遺物（第42図）　311は土師器小皿、312は土師器杯、いずれも底部糸切り。これ以外に、須恵器片、白磁片、同安窯系青磁片が出土した。

SX07（第39図）　調査区北東側に位置する。約1.4m×1.3mの隅丸方形を呈し、深さ35cmを測る。底面は比較的平坦で、壁面の立ち上がりはやや緩やかである。

遺物（第42図）　313・314は土師器杯でいずれも底部糸切り。315は竜泉窯系青磁椀で、外面にやや雑な蓮弁を施す。

SX08（第39図）　調査区南東壁際に位置し、SX20に近接する。約1.0m×0.9mの楕円形を呈し、深さ7cmを測る。底面ほぼ直上で、正置された状態で瓦質の甕の底部が出土した。本来、埋置されていた甕が、大きく削平されたものと考えられる。トイレ状遺構あるいは埋葬遺構の可能性が想定できる。

遺物（第42図）　321は瓦質甕底部である。これ以外に、土師器片が出土している。

SX09（第39図）　調査区北西隅に位置し、調査区外に続く。約2.0m×1.7m以上の不整形を呈し、最深部44cm、それ以外では6cm程度の深さを測る。平面では確認できなかったが、北側の深い部分、および底面のピットは別遺構の可能性が高い。

遺物（第42図）　316は肥前産染付椀。体部外面に植物を描く。317は肥前産陶器皿で、全面に黄緑色釉を施し、見込部に蛇の目釉剥ぎを行なう。釉剥ぎ部分には泥漿の痕跡が確認できる。これ以外に、土師器片などが出土した。

SX10（第40図）　遺構密度の低い調査区南側に位置する。当初SX15として調査した深さ5cm程度の不整形な落ち込みの底面で検出した。約1.3m×1.1mのいびつな楕円形を呈し、深さ35cmを測る。底面はレンズ状に窪む。

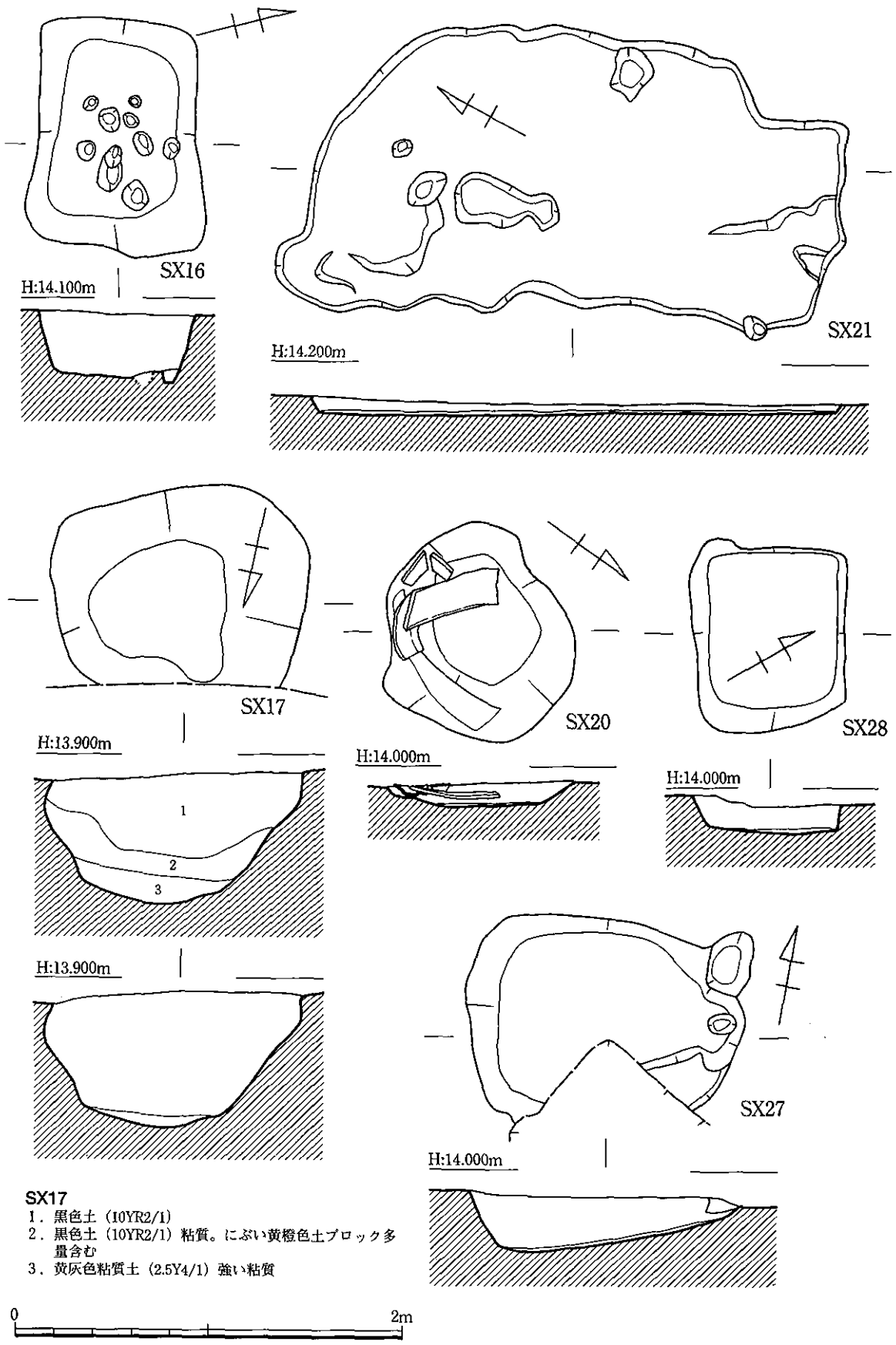
遺物（第42図）　318・319は土師器椀で、底部付近では手持ちヘラ削り痕を明確に残す。320はミニチュア土器で、成形時の指頭痕が顕著である。

SX13（第40図）　調査区北東側に位置する。約2.3m×1.8mのいびつな楕円形を呈し、深さ14cmを測る。SB02に切られる。

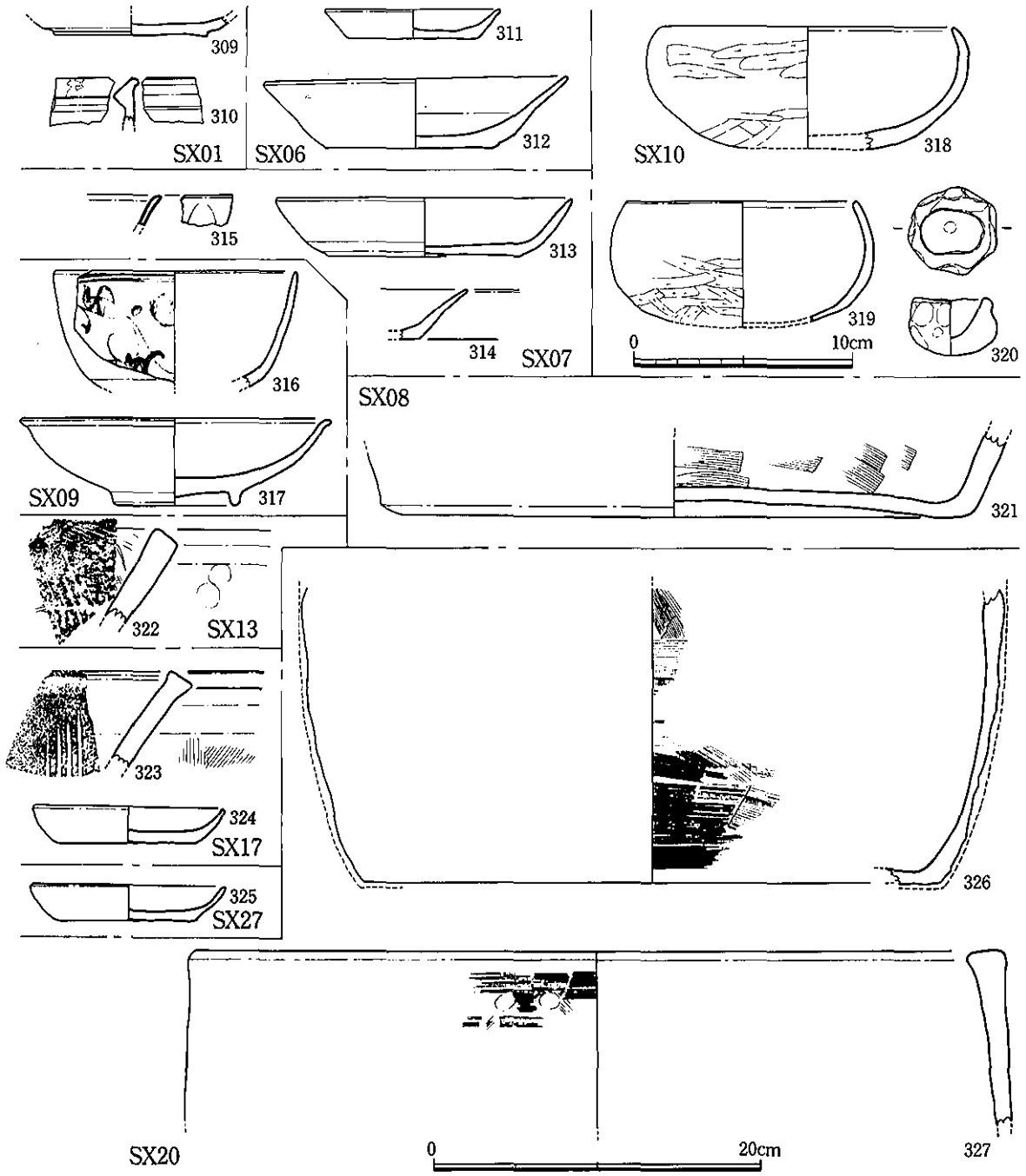
遺物（第42図）　322は瓦質擂鉢。これ以外に、土師器片、白磁片、焼土塊（計170g）などが出土した。

SX16（第41図）　調査区中央やや東よりに位置する。約1.2m×0.9mの隅丸長方形を呈し、深さ36cmを測る。断面形状は箱形を呈し、底面には複数の小ピットが認められる。落とし穴としての機能も想定できる。埋土は、軟質の黒色土の単層である。遺物は出土しなかった。

SX17（第41図）　調査区北壁東側に接して位置し、調査区外に続く。約1.3m×1.0m以上の楕円形を呈すると想定でき、深さ66cmを測る。底面はレンズ状に窪み、西側の壁面は比較的緩やかに立ち上がる。3層に分層でき、最下層には黄灰色の粘質土が堆積する。



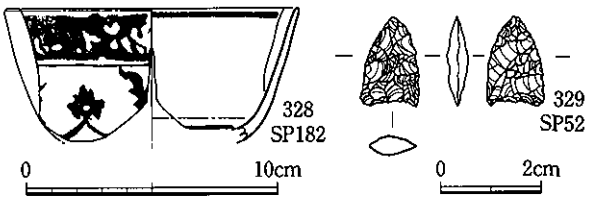
第41図　2区　SX16・17・20・27・28実測図（1/30）



第42図　2区　SX01・05～07・09・10・13・17・20・27遺物実測図
(321・326・327：1/4、その他：1/3)

遺物（第42図）　323は瓦質擂鉢。324は土師器小皿。これ以外に、青磁片、白磁片、鉄器片などが出土した。

SX20（第41図）　調査区南東壁際、SX20の東側に近接する。約1.2m×1.0mのいびつな楕円形を呈し、深さ11cmを測る。東側でテラス面を形成するが、ここで瓦質甕底部片が正置の状態で出土した。また落ち込んだような状態で、別個体の口縁部片が出土している。本来完形の甕を埋置していたが、使用中あるいは直後に破壊・破損し、後世大きく削平されたものと考えられる。SX08と同様の性格が想定できよう。



第43図　2区　ピット遺物実測図
（328：1/3、329：2/3）

遺物（第42図）　326は瓦質甕の底部、327は口縁部である。復元径が異なるため、同一個体ではないと考えられる。これ以外には、瓦質鍋や灰釉の陶器瓶類片、土師器片などが出土した。

SX21（第41図）　調査区ほぼ中央に位置する。約2.8m×1.5mのいびつな楕円形を呈し、深さ10cmを測る。埋土は、黒色土の単層であった。人為的でない可能性が高い。遺物としては土師器片および焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SX27（第41図）　調査区北壁際のほぼ中央に位置する。SX28に切られる。約1.4m×1.1mの隅丸長方形に復元され、深さ29cmを測る。底面は極端に傾斜し、西側が深くなる。

遺物（第42図）　325は土師器小皿、底部糸切り。

SX28（第41図）　調査区東側に位置する。平面約0.9m×0.8mの長方形を呈し、深さ20cmを測る。断面形態は箱形に近い。埋土は黒色土の単層であった。遺物は出土しなかった。

（4）溝　跡

小規模な溝跡を4条確認した。これ以外に、調査区中央にみえる溝状の遺構については、2cm程度と浅く、遺物も出土していない。

SD01（第34図）　調査区西側をほぼ南北に伸びる溝跡で、最大幅約0.4m、深さ5cmを測る。底面に明確な傾斜はなく、北端は検出面が低いため途絶えている。埋土は、軟質の黒色土の単層でにぶい黄褐色土を少量含んでいた。遺物は、高台付き須恵器杯や糸切りの土師器片が出土しているが図化できるものはない。

SD02（第34図）　調査区東側をほぼ南北に伸びる溝跡で、最大幅約0.6m、深さ4cmを測る。底面に明確な傾斜はない。遺物は土師器片、瓦質土器片が出土したが、図化できるものはない。

SD03（第34図）　調査区東側に位置し、北東に伸びる溝跡で、最大幅約0.2m、深さ7cmを測る。北東端でSX06に接するが、切り合いは確認できず、一連の遺構の可能性もある。なお、底面に明確な傾斜はない。遺物は土師器片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SD04（第34図）　調査区北東側をほぼ南北に伸びる溝跡で、最大幅約0.2m、深さ3cmを測る。底面は南西側はやや浅くなり途切れている。土師器片が出土したが、図化できるものはない。

（5）その他の出土遺物（第43図）

328は中国産染付椀。329は打製石鏃。西北九州産黒曜石製。

（6）小　結

A．各遺構の時期

まず、各遺構の時期を概観したい。なお、2区では遺物量が絶対的に少なく、各遺構の時期認定には不確定な要素が強い。

掘立柱建物跡　SB01からは、図化した須恵器杯以外に瓦器片が出土しており上限は12世紀、またSE01に切られることから、下限は15～16世紀。SB02からは、中国産磁器椀、土師器小皿、瓦質

擂鉢が出土しており15世紀後半～16世紀以降に位置づけられる。

井戸跡　SE01は、瓦質擂鉢の口縁部形状や燻された瓦質火鉢の存在から、15～16世紀と想定される。

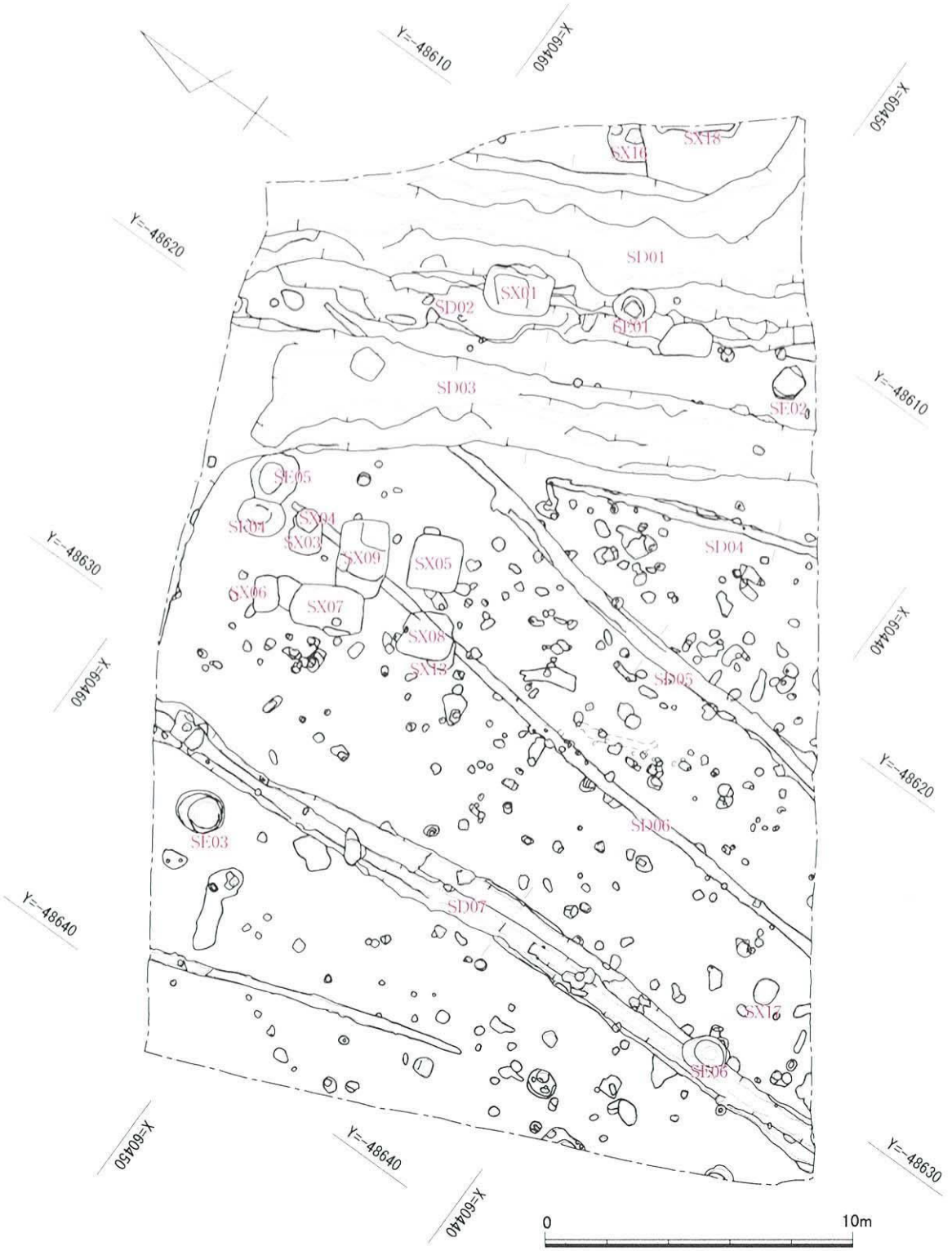
土坑　SX06は土師器小皿の法量から13世紀末前後か。SX07は土師器杯の法量と竜泉窯系青磁椀から13世紀前後～前半か。SX09は肥前産染付椀、陶器皿から確実に17世紀まで下り、特に陶器皿（第42図317）は18世紀の所産である可能性が高い。SX10は古墳時代前期。これら以外であえて時期判断すれば、SX08・13・17は15～16世紀の可能性が高く、SX27はやや遡るものと考えられよう。

B、遺構配置

本調査区では、１区のような区画溝を確認することができなかった。区画外とも考えられるが、次に報告する３区から、２区に向かい屈曲する溝跡（SD01）が検出されている。本来１・２区間の未調査範囲内に溝跡があり、3区SD01と連続し、方形区画溝を形成していた可能性も指摘できよう。

3．3区の調査

2区と4区の間にあたり、調査面積684㎡を測る。井戸跡、土坑、溝跡、ピットなどが確認されたが、遺構密度は1区や4区ほど高くない（第44図）。掘立柱建物は確認することができなかった。検出面の標高は14.1～14.3mで、南西側がやや高い傾向はあるものの、調査区内での明確な傾斜はない。



第44図　3区　遺構配置図（1/200）

（1）井戸跡

6基確認することができた。

SE01（第45図）　調査区東側に位置する。SD01の東上端・SD02を切る。平面は約1.4m×約1.2mの楕円形を呈する。深さは検出面から約1.2mを測る。深さ約0.4mと約0.8m辺りではテラスが形成され、東側では3段掘りの形状をなす。埋土は、上層が黒茶色土、下層が黒色土であった。

遺物（第46図）　401は瓦質擂鉢。口径の復元値は確定できない。402は陶器擂鉢。擂目は比較的密に施される。これ以外に、土師器片、須恵器甕片、白磁片、施釉陶器片が出土した。

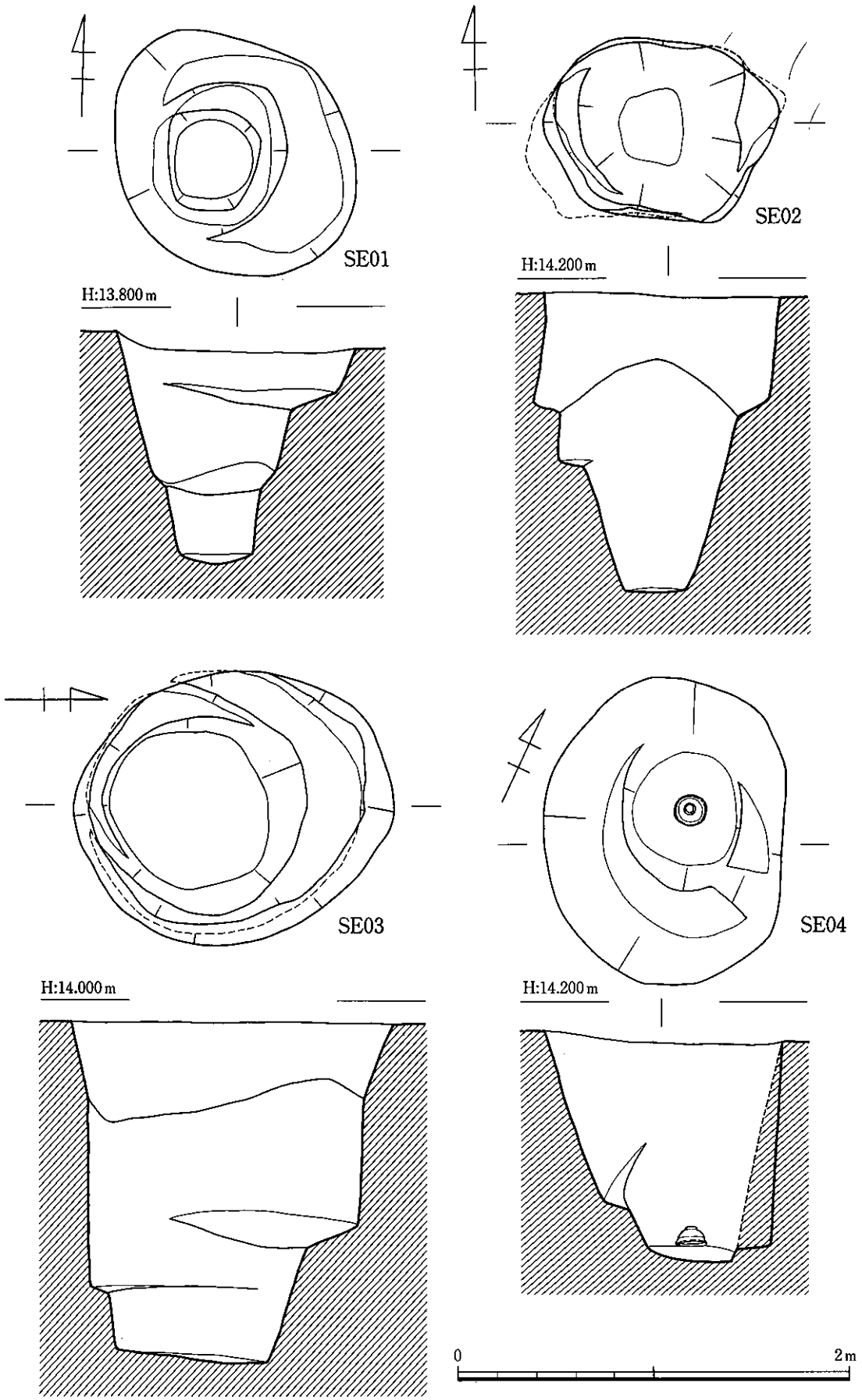
SE02（第45図）　調査区東側、SD02と03の間に位置する。平面は約1.2m×約0.9mの楕円形を呈する。深さは検出面から約1.5mを測る。西側では深さ約0.6mと約0.87m辺りでテラスが形成され、3段掘りの形状をなす。

遺物（第46図）　403は須恵器杯蓋。天井部ではヘラ記号が確認できる。404は須恵器杯。高台は高く、外に張り出す。405は土師器鉢。406は須恵器甕。底部付近の破片であるが、外面は格子目（縄目の可能性あり）タタキののち波状文を施している。産地等不明。407は土師質の有孔土製品。ややいびつな楕円形を呈し厚みがある。紡錘車か。これ以外に、土師器片、須恵器片が出土した。

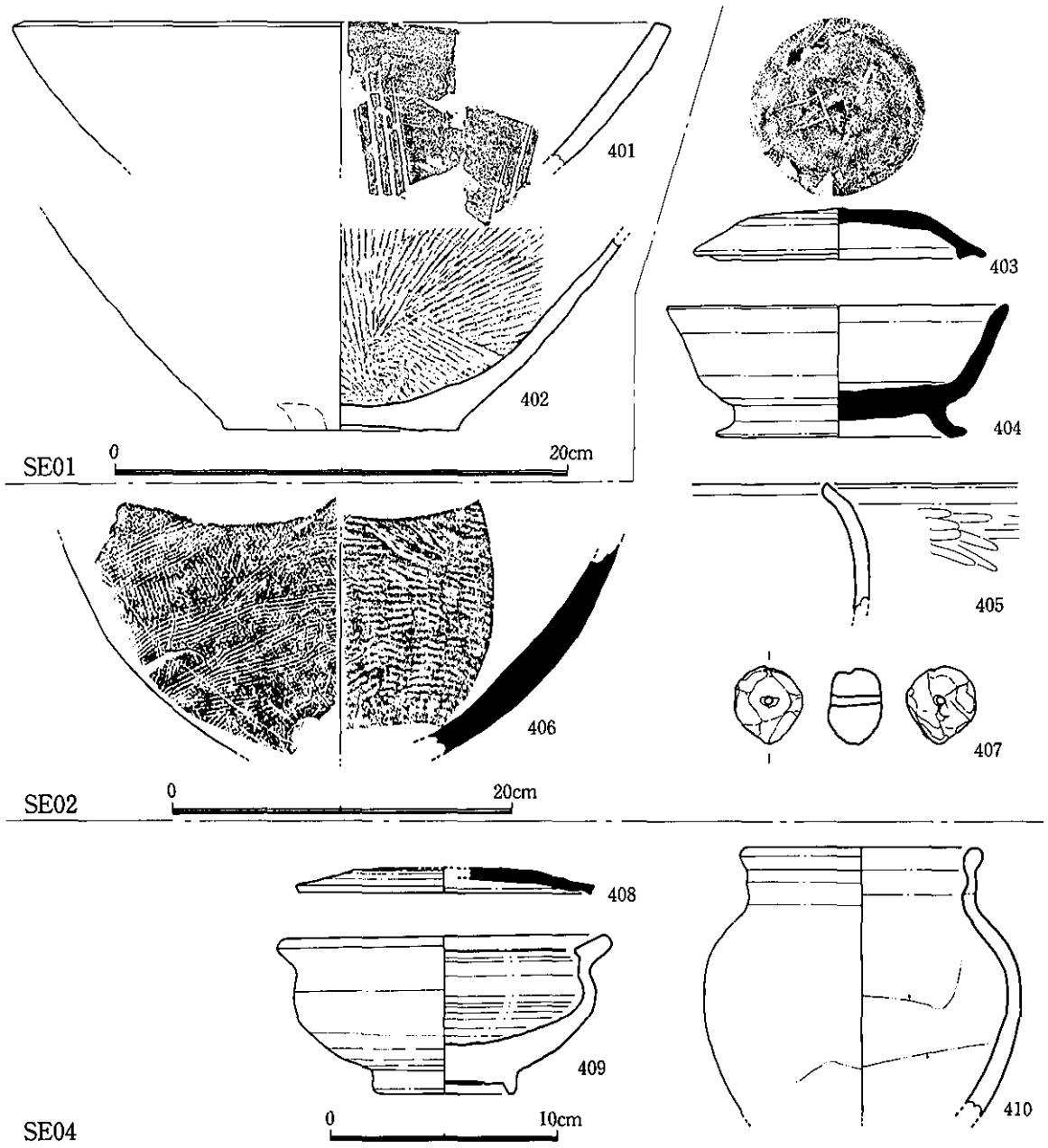
SE03（第45図）　調査区北西側に位置する。平面は約1.6m×約1.4mの楕円形を呈する。深さは検出面から約1.7mを測る。深さ約1.15mおよび1.35m辺りでテラスが形成され、三段掘りの形状をなす。埋土は上層が砂質土を多量に含んだ黒褐色粘質土、下層が黒色粘質土であった。竹製タガが一部円形を保った状態で確認され、さらに下部では板材が多量に出土した。また、その板材に混じって木製の網枠が発見された。タガに転用したものか。本来、板材と竹製タガ、さらに網枠で井筒を構成していた可能性が高い。

遺物（第47・70図）　411は木製の網枠。長さ220.8cmの細長い芯持ち材を素材とし、内側を突出させた断面イチジク形に加工している。その突出部には径約2㎜の小孔を29ヶ所（復元値）穿つ。素材の両端は断面半月形になるように加工され、その部分には各2ヶ所（計4ヶ所）の孔（径3～4㎜）（矢印部）を有している。本来、断面半月形の両端が合わさり、2組の孔で結束することで円形を保っていたと想定できる。574は茶臼の上臼。側面に相対する2ヶ所の挽き木挿込孔が認められ、その周辺には3段菱形の浮き彫り装飾が見られる。下面の擂目は七分画で、副線が9～5条入る。上面を水平に合わせると、下面は水平にならない。磨耗の度合に片寄りが生じているのであろうか。こうして考えた場合、現状で擂目が明確に確認できることから、複数回の目立てが行なわれた可能性が高い。砂岩製。575は粉挽き臼の上臼。現状で側面に挿込孔が2箇所認められ、さらにもう1ヶ所、挿入孔と対になる位置に長方形の浅い窪みが見られるが、用途は不明である。下面の擂目の分画数は分からないが、副線は7条まで確認できる。上面を水平に合わせると、下面は水平にならず、磨耗の度合に片寄りが生じた可能性がある。凝灰岩製。これ以外に、土師器片、須恵器片、白磁片、青磁片、中国産染付片が出土した。

SE04（第45図）　調査区北側に位置する。平面は約1.55m×約1.2mの楕円形を呈する。深さは検出面から約1.1mを測る。深さ約0.9m辺りではテラスが形成され、2段掘りの形状をなす。埋土は上層が褐灰色土、下層が暗灰色土であった。底面では陶器火入（第46図409）が逆位に据え置かれていた。SE04は東隣に接するSE05を切っており、遺構実測図における点線より外側はSE05



第45図　3区　SE01～04実測図（1/30）



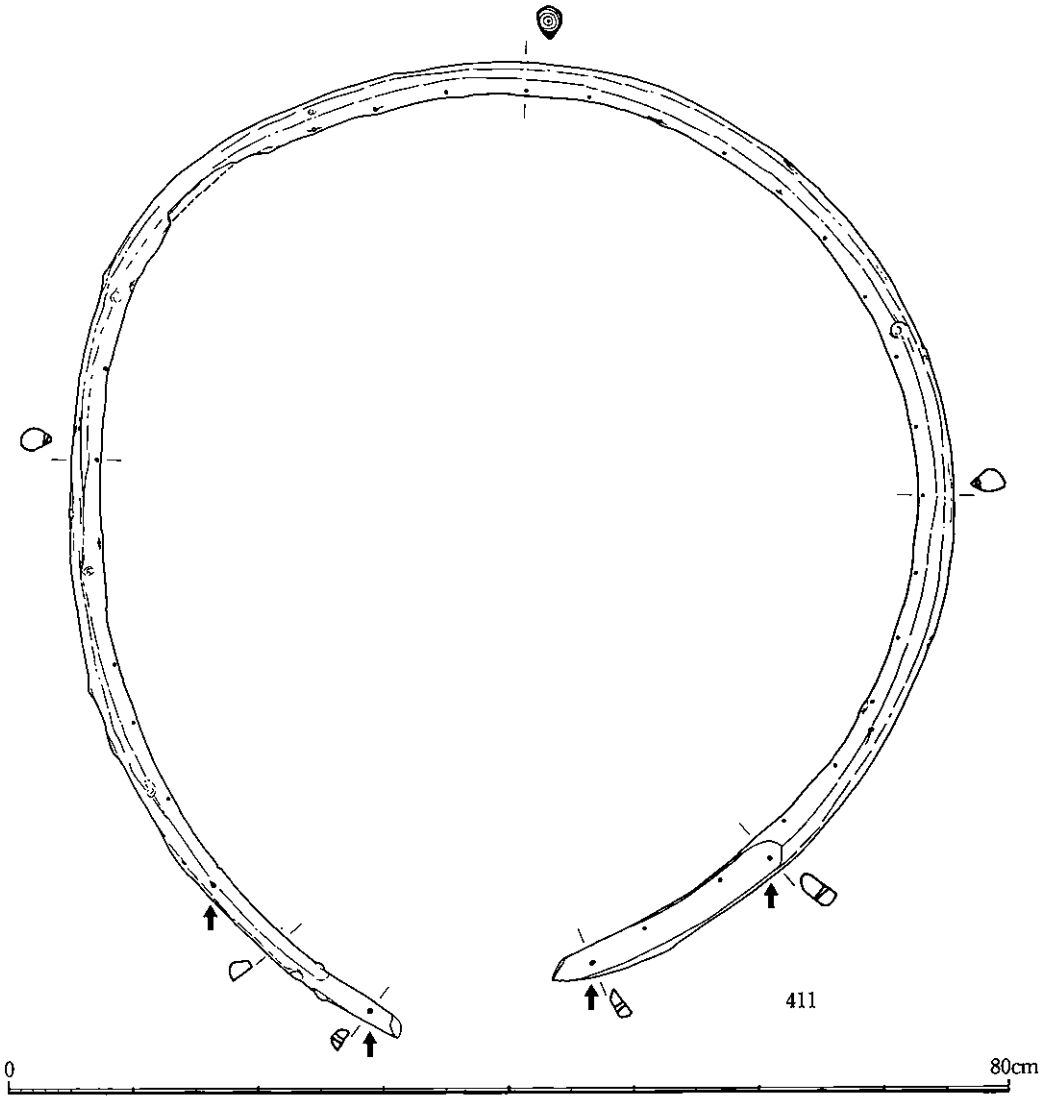
第46図　3区　SE01・02・04遺物実測図（406：1/4、その他：1/3）

の埋土である。

遺物（第46図）　408は須恵器杯蓋。409は肥前産陶器火入。外面体部中位から見込み部にまで黄褐色の釉が施される。口縁部上面に目跡が確認でき、外面体部中位以下に一部煤が付着する。完形。410は肥前産陶器壺。褐釉を内面にも施す。これ以外に、土師器甕片、須恵器片、瓦器片、青磁片、陶器片が出土した。

SE05（第50図）調査区北側に位置する。平面形は約1.58mのいびつな円形を呈する。深さは検出面から約1.40mを測る。深さ約1.0m辺りにはテラスが形成され、二段掘りの形状をなす。埋土は上層が茶黒色粘質土、下層が黒色粘質土であった。SE04、SD03に切られている。

遺物（第48・49図）　412～415は土師器小皿。413・415はヘラ切りの痕跡が確認できる。416～

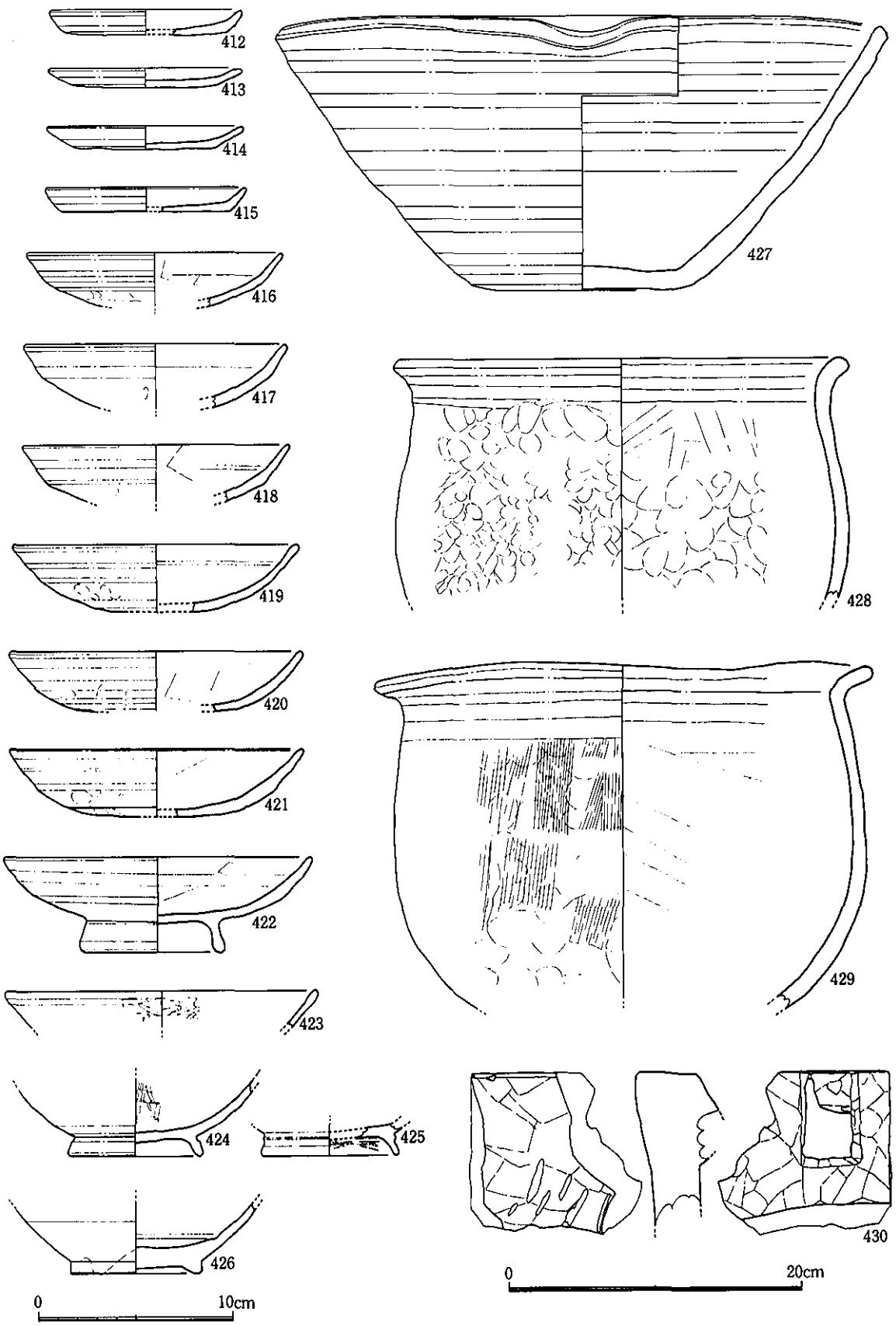


第47図　3区　SE03木製品実測図（1/6）

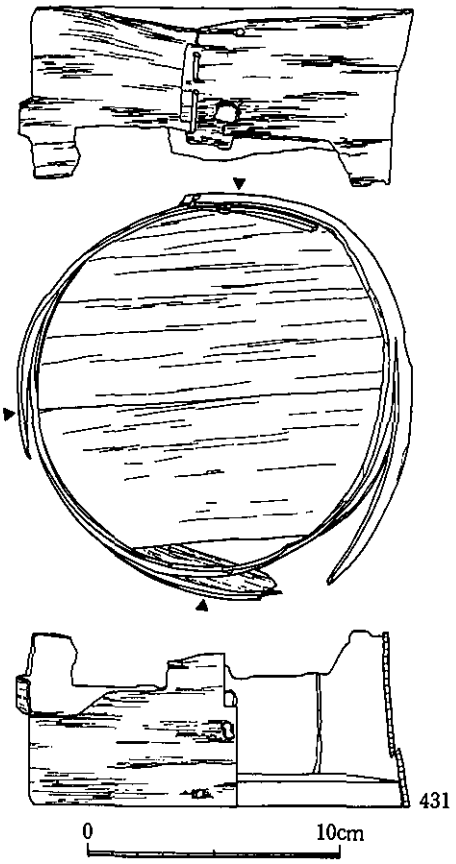
421は土師器丸底杯。422は土師器高台付き杯である。体部内面ではコテ当て痕がみられる。423～425は黒色土器椀。424はA類、423・425はB類にあたる。426は白磁椀。太宰府分類Ⅳ類に相当か。427は東播系こね鉢。内面の底部から体部下位までに使用痕が確認できる。底部の糸切り痕は判然としない。428・429は土師器甕。428は口縁部から約14cm以下の内面に淡黒褐色の付着物がほぼ水平認められる。外面では口縁部周辺が煤のためか黒化した部分が見られる。429の内面にも水平に黒色系付着物が確認できる。口縁部上面には部分的に黒斑らしき痕跡が見られる。430は滑石製石鍋。方形の耳を有するタイプ。内外面ともに不規則なケズリ痕が認められる。431は曲物。3ヶ所の竹釘で底板の側面に側板を固定し、側板は重ねた部分を樺紐で留める。ほぼ完形。

SE06（第50図）　調査区南隅近くに位置する。平面形は約1.5m×約8.2mの楕円形を呈する。深さは検出面から約1.4mを測る。深さ約0.86m辺りにはテラスが形成され、2段掘りの形状を成す。埋土は上層が灰黄褐色粘質土、下層が暗灰色粘質土であった。

遺物（第51図）　432～435は土師器小皿。底部外面では、432・433に回転糸切り痕、434・435に



第48図　3区　SE05遺物実測図1（428～430：1/4、その他：1/3）



第49図　3区　SE05遺物実測図2 (1/3)

ヘラ切り痕が見られ、433以外に板状圧痕が確認できる。436は瓦器小皿。器面が風化しており、調整は確認できない。437～439は黒色土器小椀。437はA類、438・439はB類にあたる。440は土師器丸底杯。器面が風化しており、調整は確認できない。441は瓦器椀。442は白磁椀。443は中国産陶器盤。内面に薄く白化粧が施され、その上にオリーブ黄色の釉が薄く施釉される。444は滑石製品。約半分を欠くが、突起部の付け根に割れ面に沿って穿孔途中と考えられる痕跡（トーン部分）が見られる。穿孔途中に破損したか。宮崎県八児遺跡第Ⅰ区調査で土坑墓から石鍋破損部を補修している滑石製品が出土しているが、その製品と類似している。よって石鍋補修製品の可能性がある。これ以外に、土師器甕片、須恵器片などが出土した。

（2）土　坑

18基を確認することができた。この中で個別に11基報告するが、これ以外の土坑として調査したものは、人為的でない可能性が高い。

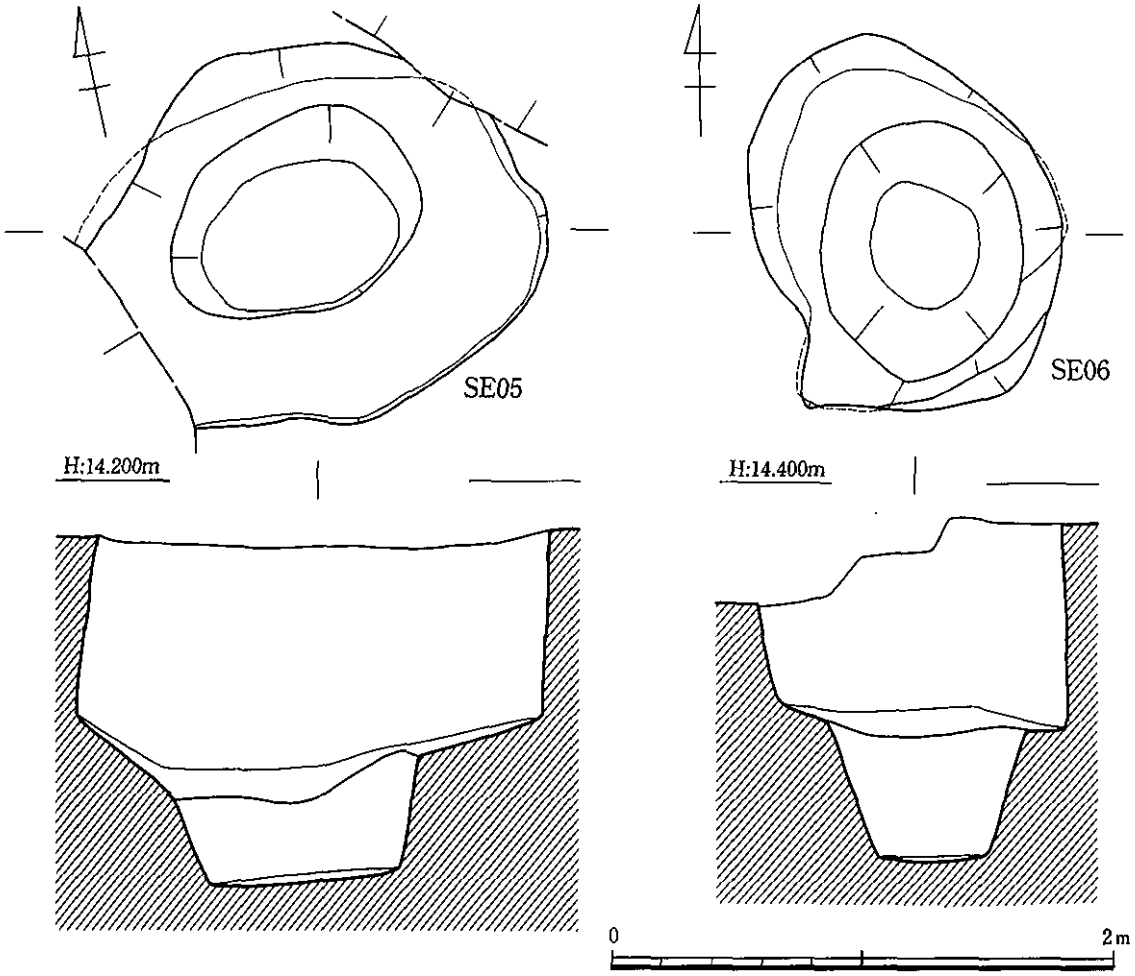
SX01（第52図）　調査区北東側に位置する。約2.2m×約1.35mの長方形を呈する。最深部は検出面から約1.0mを測る。深さ約0.8mあたりではテラスが形成される。テラス部分は平坦で壁面の立ち上がりは比較的急である。図示していないが、埋土は7層に分層され、最下層は砂質土であった。SD01の東上端を切っている。

遺物（第55・71図）　445は土師器杯。446は磁器椀。やや青味がかった白釉を施す。無文。447は染付椀。肥前産か。448・449は中国産染付皿。448は陶胎質で漳州窯系と呼ばれるもの。449は見込みに団龍を描く。576は茶臼の上臼。側面に挽き木の挿込孔が2ヶ所認められ、それらは相対している。挿込孔周辺には二段方形の浮き彫り装飾が見られる。下面は擂目がほとんど確認できず中央部周辺にわずかに残る。上面を水平に合わせると、下面は水平にならない。磨耗具合に差が生じたのであろうか。砂岩製。これ以外に須恵器片などが出土している。

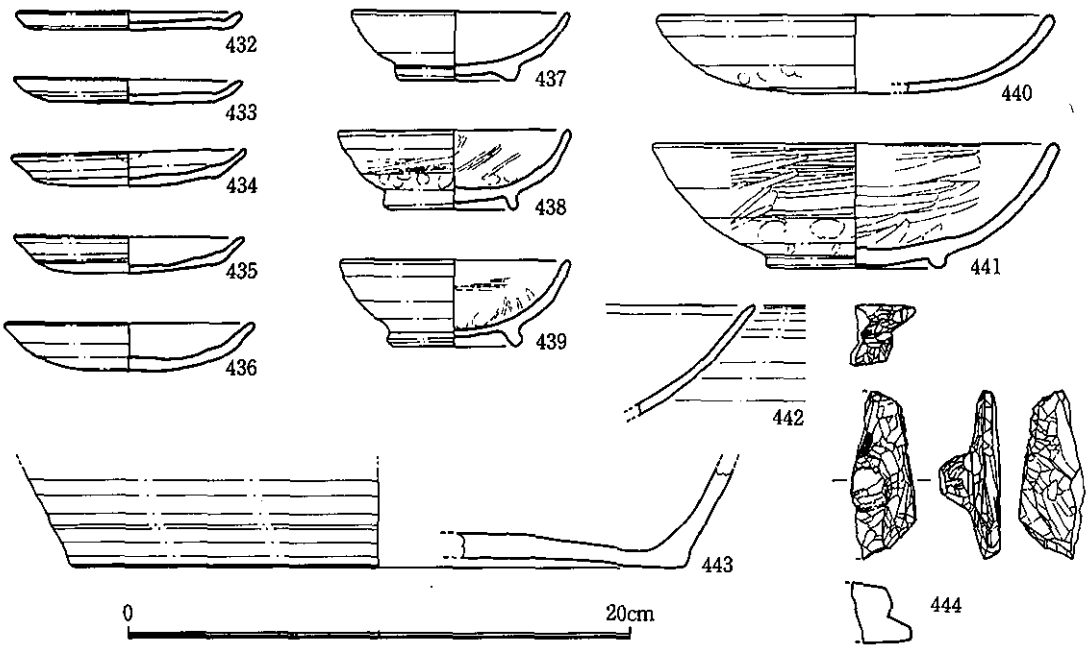
SX03（第52図）　調査区北側に位置する。約1.3m×約1.05mのややいびつな長方形を呈する。深さは検出面から8cmを測る。底面は比較的平坦である。SX04に切られる。埋土は褐灰色粘質土の単層であった。遺物としては土師器片、須恵器片、青磁片が出土したが、図化できるものはない。

SX04（第52図）　調査区北側に位置する。約0.8mの円形を呈する。深さは検出面から35cmを測る。SX03を切る。断面は箱形を呈する。埋土は黒褐色粘質土の単層であった。

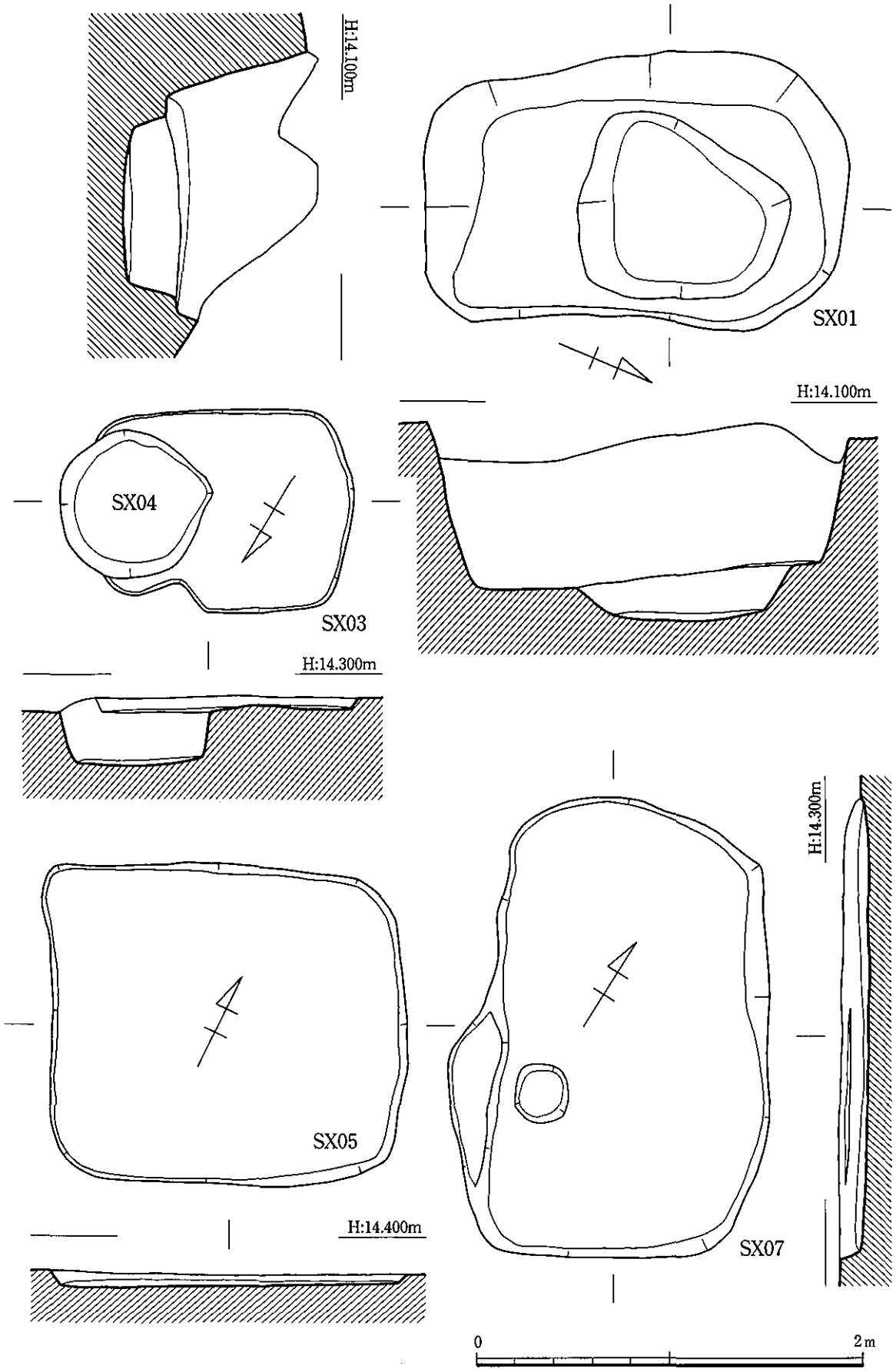
遺物（第55図）　450は土師器杯。復元口径の値は明確ではない。これ以外の遺物として、須恵器片、須恵質のこね鉢片、瓦器片、青磁片が出土した。



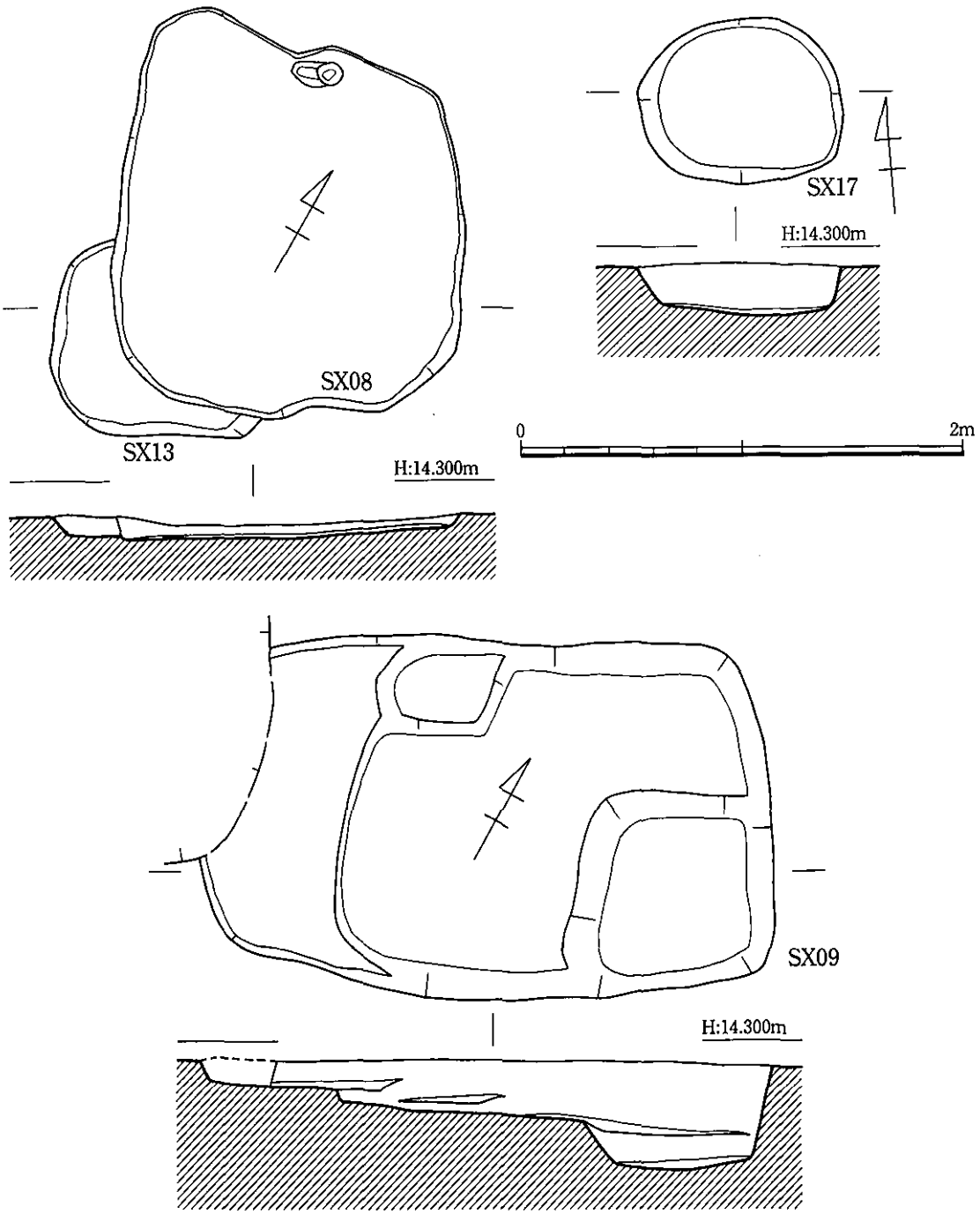
第50図　3区　SE05・06実測図（1/30）



第51図　3区　SE06遺物実測図（1/3）



第52図　3区　SX01・03・05・07実測図（1/30）

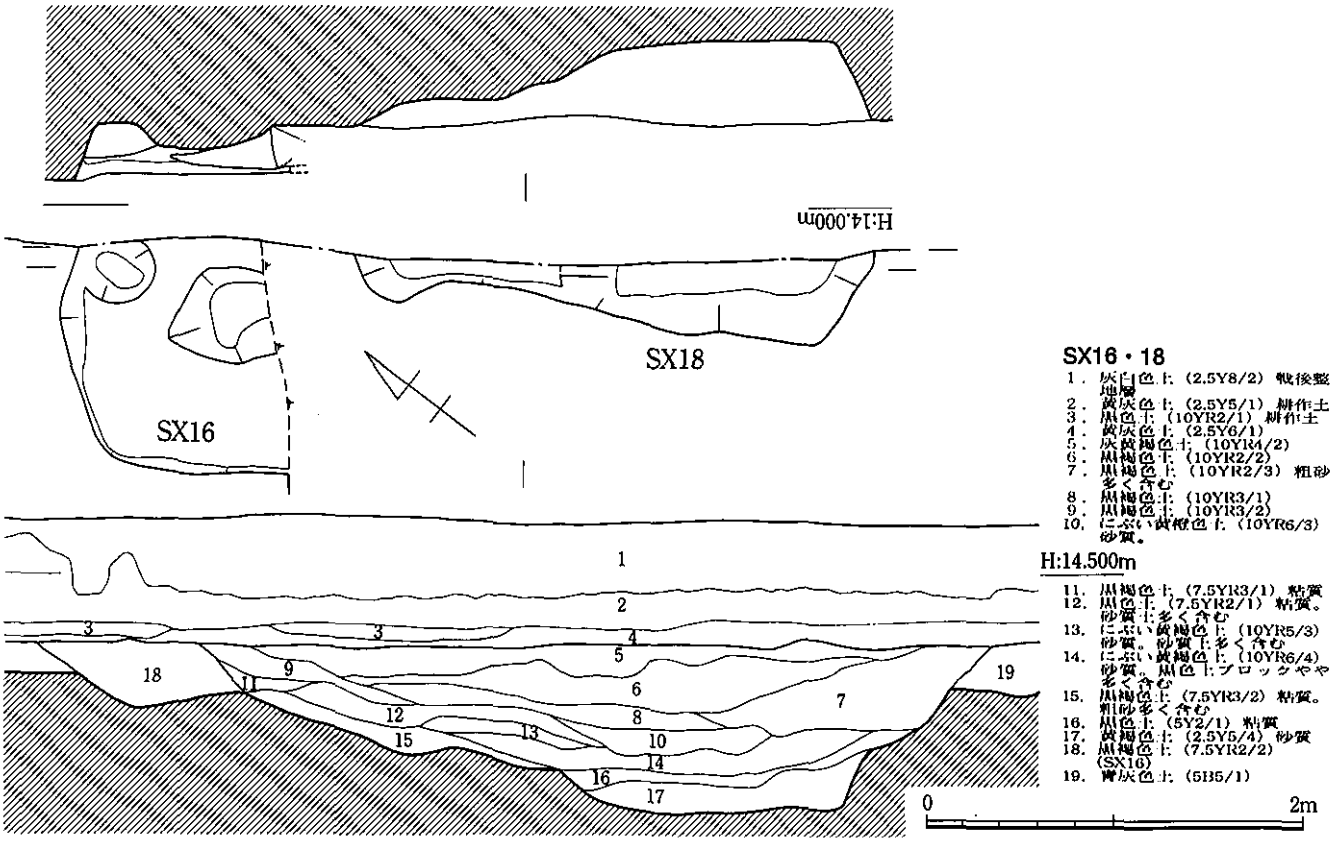


第53図　3区　SX08・09・13・17実測図（1/30）

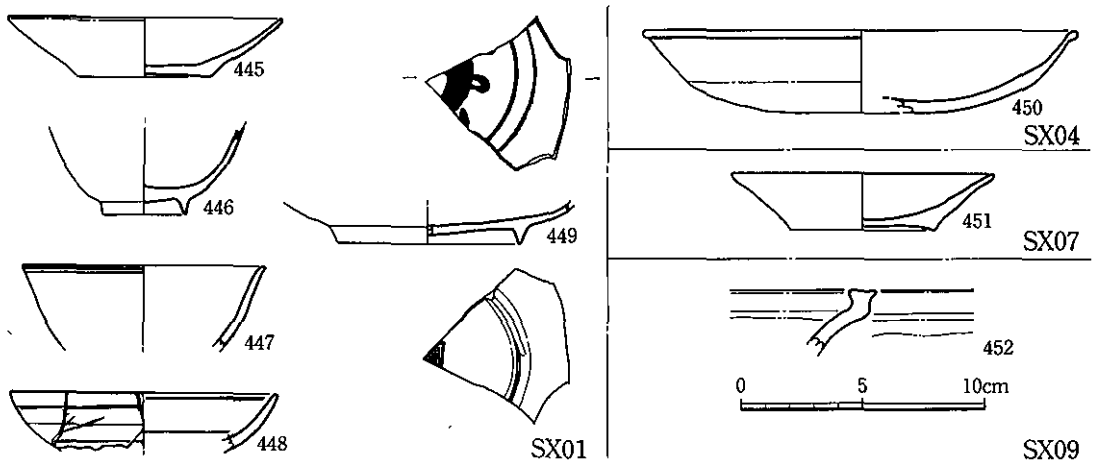
SX05（第52図）　調査区北側に位置する。約1.8m×約1.7mの方形を呈する。深さは検出面から9cmを測る。底面は平坦で、壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色粘質土の単層であった。遺物としては土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土したが、図化できるものはない。

SX07（第52図）　調査区北側に位置する。約2.4m×約1.65mのややいびつな長方形を呈する。深さは検出面から15cmを測る。底面は平坦で、北壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色粘質土の単層であった。SX09を切る。

遺物（第55図）　451は土師器杯。これ以外に瓦質擂鉢片、青磁片、陶器片が出土した。



第54図　3区　SX16・18実測図（1/40）



第55図　3区　SX01・04・07・09遺物実測図（1/3）

SX08（第53図）　調査区北側に位置する。約1.8m×約1.6mのいびつな長方形を呈する。深さは検出面から11cmを測る。底面は比較的平坦である。埋土は黒褐色粘質土の単層であった。SX13を切る。遺物は土師器片、須恵器片、白磁片が出土したが、図化できるものはない。

SX09（第53図）　調査区北側に位置する。約2.6m×約1.6mの長方形を呈する。最深部は検出面から48cmを測り、深さ9cm、26cm辺りにテラスが形成され、西から東にかけて階段形に深くなる。埋土は黒褐色粘質土の単層であった。SX07に切られる。

遺物（第55図）　452は陶器擂鉢。肥前産であろう。小破片のため、現状では擂目は確認できない。これ以外に土師器片、須恵器片、白磁片、青磁片、滑石片が出土した。

SX13（第53図）　調査区北側に位置する。SX08によって北側を失うが、0.9m前後の方形を呈するものと予想される。深さは検出面から9cmを測る。底面はほぼ平坦となる。遺物は土師器片が出土したが、図化できるものはない。

SX16（第54図）　調査区東側に位置する。約1.2m以上×約1.1m以上を呈する。土坑東側は調査区外に続き、南側は検出時に掘削し過ぎてしまった。ピット状に深くなる部分を除き、深さは検出面から36cmを測る。埋土は黒褐色土の単層であった。土層図で分かるとおり、SX18に切られる。遺物は土師器片が出土したが、図化できるものはない。

SX17（第53図）　調査区南西側に位置する。約0.9m×約0.8mの楕円形を呈する。深さは検出面から24cmを測る。遺物は出土しなかった。

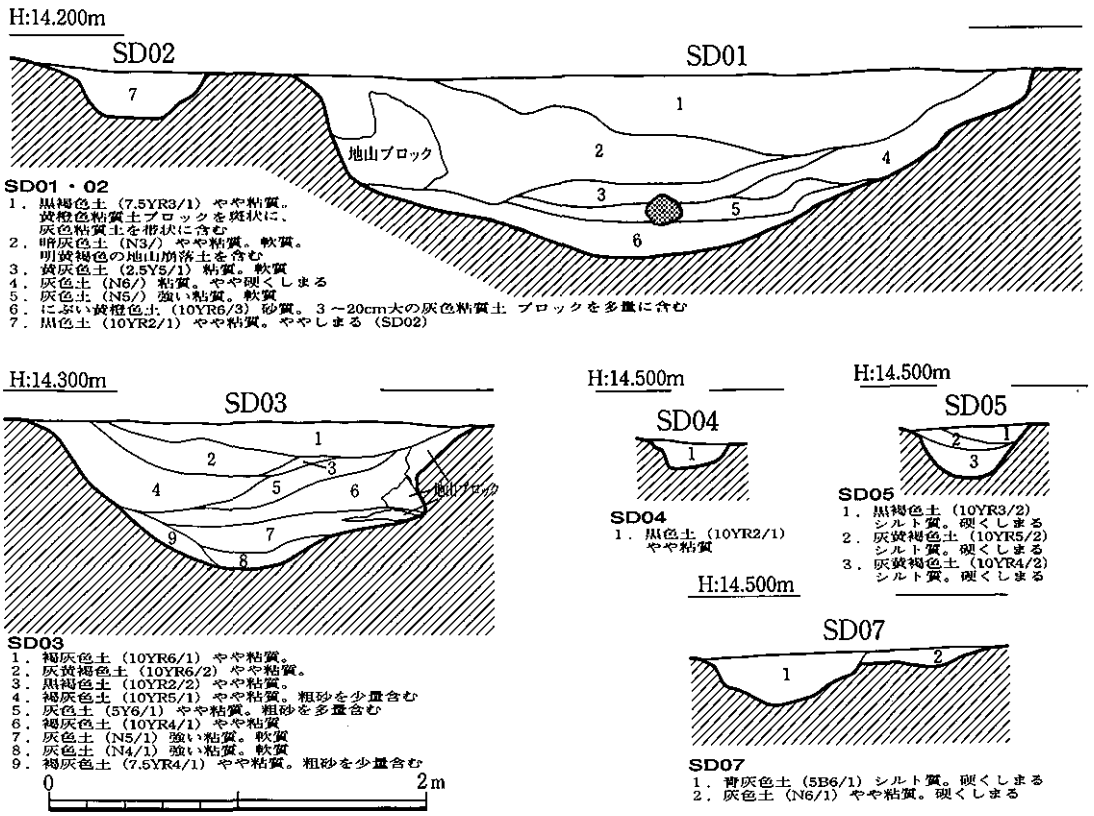
SX18（第54図）　調査区東側に位置する。約2.8m以上×約0.5m以上を呈するがプラン等全く不明である。土坑東側は調査区外へ続いている。土層図で確認すると、底面まで深さ91cmを測る。土層図の5～17層が当遺構の埋土に相当する。遺物は出土しなかった。

（3）溝　跡

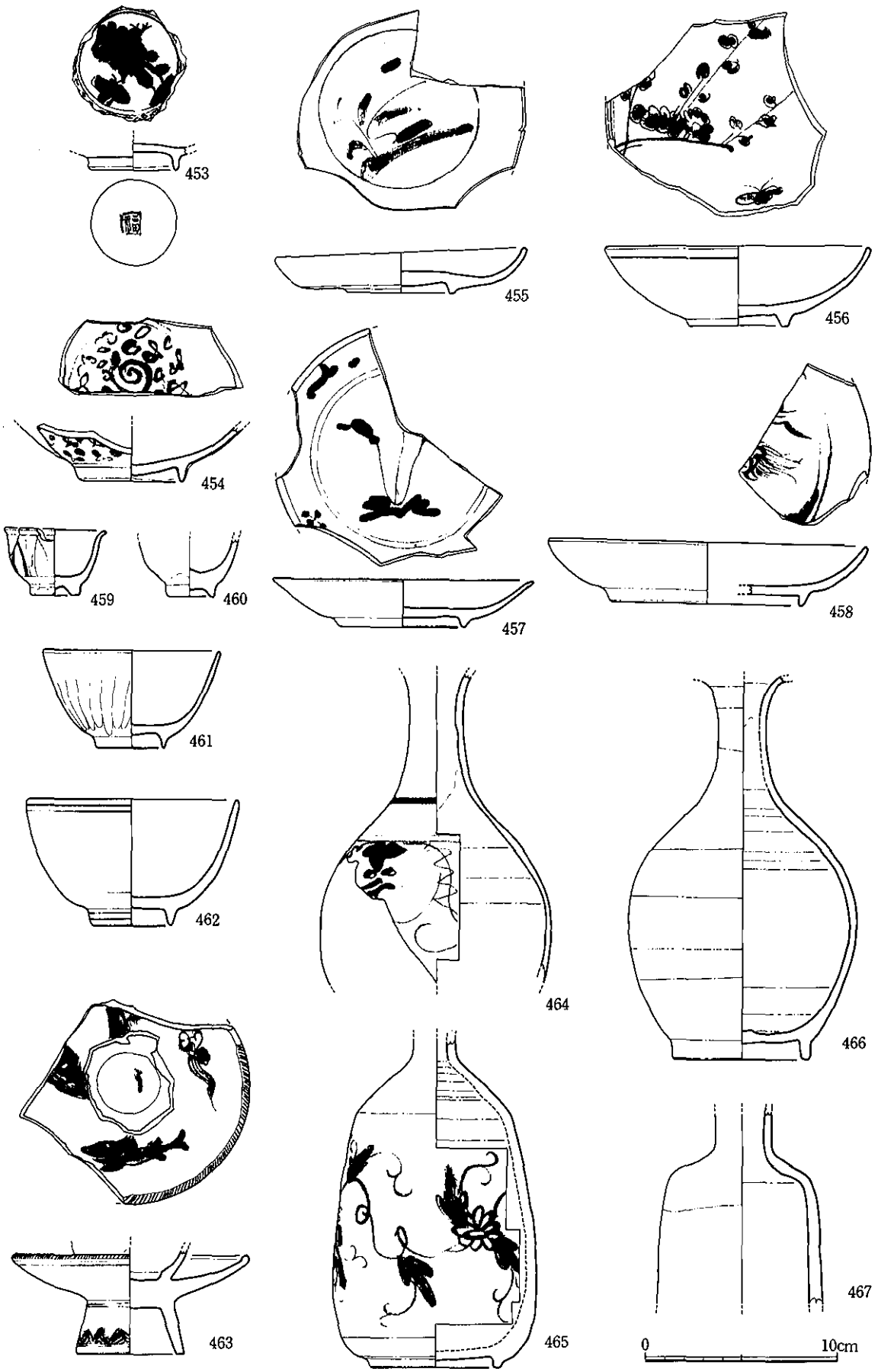
SD01（第44・56図）　調査区東側で検出され、北西－南東に走る。溝の南側はL字形に屈曲し東に伸びる。幅約3.9～4.2m、深さは検出面から約113cm～123cmを測る。西壁は急に立ち上がるのに対し、東壁の立ち上がりは緩やかである。遺物は土層図の1層を上層に、2～5層を下層に、7層を砂層として取り上げた。下層では下駄や漆器が多量に出土した。溝の上端付近をSX01・SE01に切られ、SD02を切る。

遺物（第57～61・68・69・71・72図）　453・454は中国産染付椀。453は見込みが盛り上がる万頭心型と呼ばれる形状で、花と昆虫を描く。小野分類E群。454は見込みが窪む蓮子椀型と呼ばれる形状で、見込みに3つの丸を連結した文様と渦文、体部外面に3つの丸を連結した文様を描く。小野分類C群。455～457は肥前産染付皿。いずれも見込みに植物あるいは植物と昆虫を描く。458は中国産染付皿。見込みに獅子を描く。459・460は肥前産磁器小杯。459は対向する2ヶ所に花状のモチーフを描き、460は無文である。461・472は肥前産白磁椀。461は体部に蓮弁風の凹凸がある。462は肥前産染付椀。圏線のみ描く。463は肥前産天目台。杯部に吹墨、皿部に魚等を描く。皿部の口縁部には斜め方向の刻みが確認される。464・465は肥前産染付瓶。464は葡萄、465は菊唐草を描く。465には焼成中のアクシデントのためか、一部黒化した部分がある。466は白磁瓶。肥前産か。467は陶器瓶。肩部まで銅緑釉を、その後外面全体に透明釉を施す。468は肥前産青磁椀。高台以下

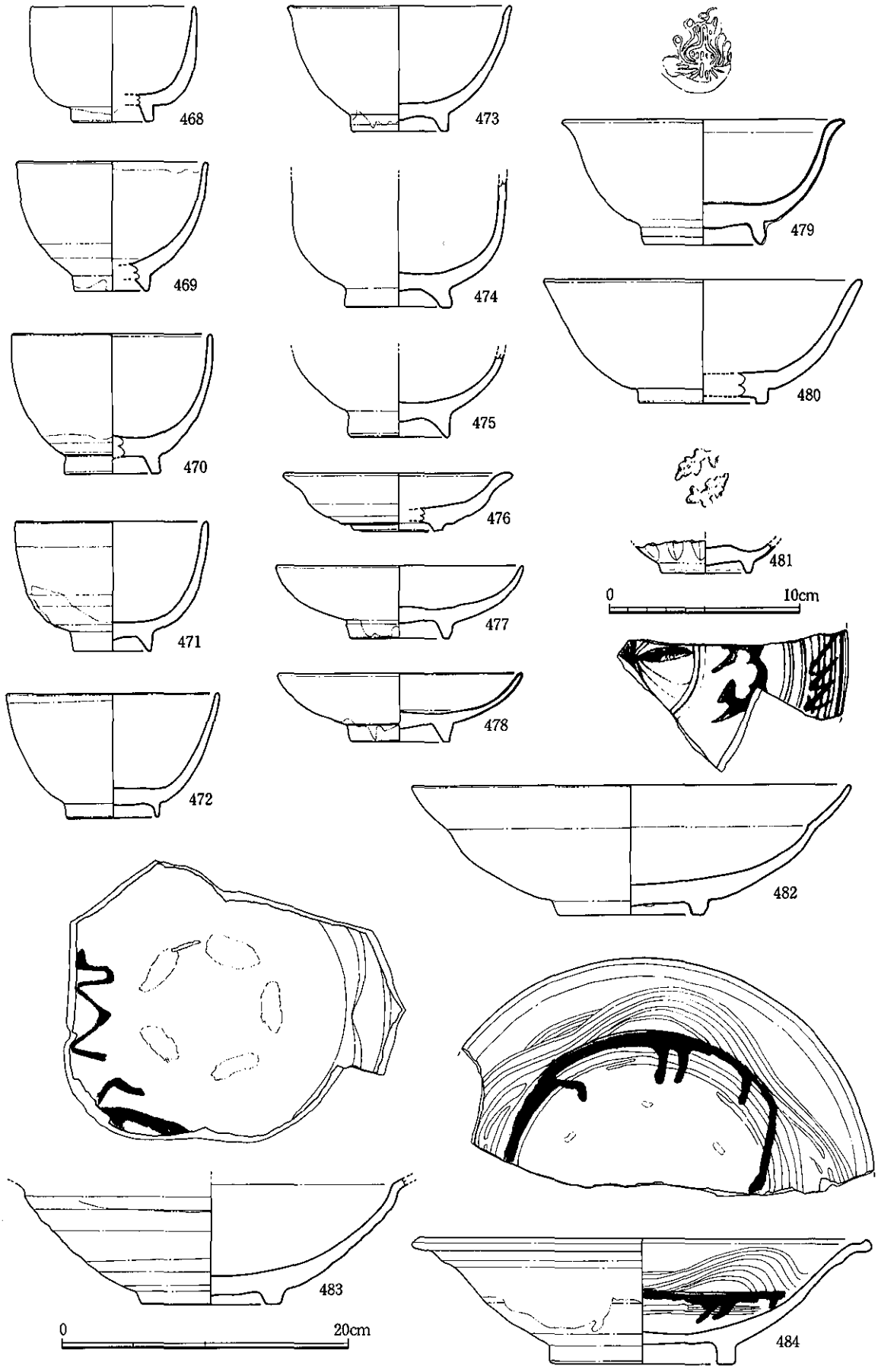
露胎。469～471・473～475は肥前産陶器椀。469・473は銅緑釉を施したもの。内野山窯系。469は外面全体銅緑釉、内面は透明釉のみ施す。470・471は鉄釉を施したもの。474・475はいわゆる呉器手椀。全面に貫入の多い浅黄色釉を施している。476は肥前産陶器皿。477・478は肥前産磁器皿。いずれも淡緑色釉を施し、高台以下露胎、見込みは蛇の目釉掻きを行なっている。波佐見産か。479・480は竜泉窯系青磁椀。479は釉が厚く、見込みに花文を施す。高台内蛇の目釉掻き。太宰府分類Ⅳ類か。480は無文。高台畳付および高台内露胎。481は青磁杯。外面に蓮弁文、見込みに双魚文を有する。482は肥前産染付大皿。高台畳付および高台内露胎。483・484は肥前産陶器大皿。刷毛を模した白色化粧土と緑色釉を組合わせたいわゆる二彩手唐津。485は肥前産陶器片口鉢。486は肥前産陶器鉢。本来片口になる可能性高い。487は肥前産陶器椀あるいは鉢。高台を３ヶ所アーチ状に抉る。外面屈曲部まで鉄釉が確認できる。488は中国産四耳壷。外面に飴釉。口縁部は拭き取る。489・492は中国産陶器壷あるいは瓶。無釉。490は中国産陶器盤。口縁部から内面にかけて黄褐色釉を施す。491は青磁壷類。493～498は瓦質擂鉢。493は口縁部が屈曲し、496・498は口縁端部が水平となる。495には口縁部直下に焼成前穿孔が認められる。499・500は陶器擂鉢。499は備前焼、500は肥前産か。501～505は瓦質鉢。501・502・504はやや小ぶりで波状口縁になるタイプ。503・505は大ぶりで外面に煤の付着が顕著なタイプ。506は須恵器平瓶。507は瓦質甕。508は砥石。砂岩製。509は土鈴。557～560は下駄。全て角型の差歯露卯下駄に分類される。557は歯の差込孔に歯の一部が残存している。559は歯の差込孔が前後とも１ヶ所のみであること、後側の鼻緒孔が差歯よりも前に出ている点が、他のものとは異なる。563～567は漆器。563・564は皿形を呈する。563は外面体部中央に「丁子紋」と思われる朱塗りの文様（家紋か）を施す。また内面も朱を施している。皿



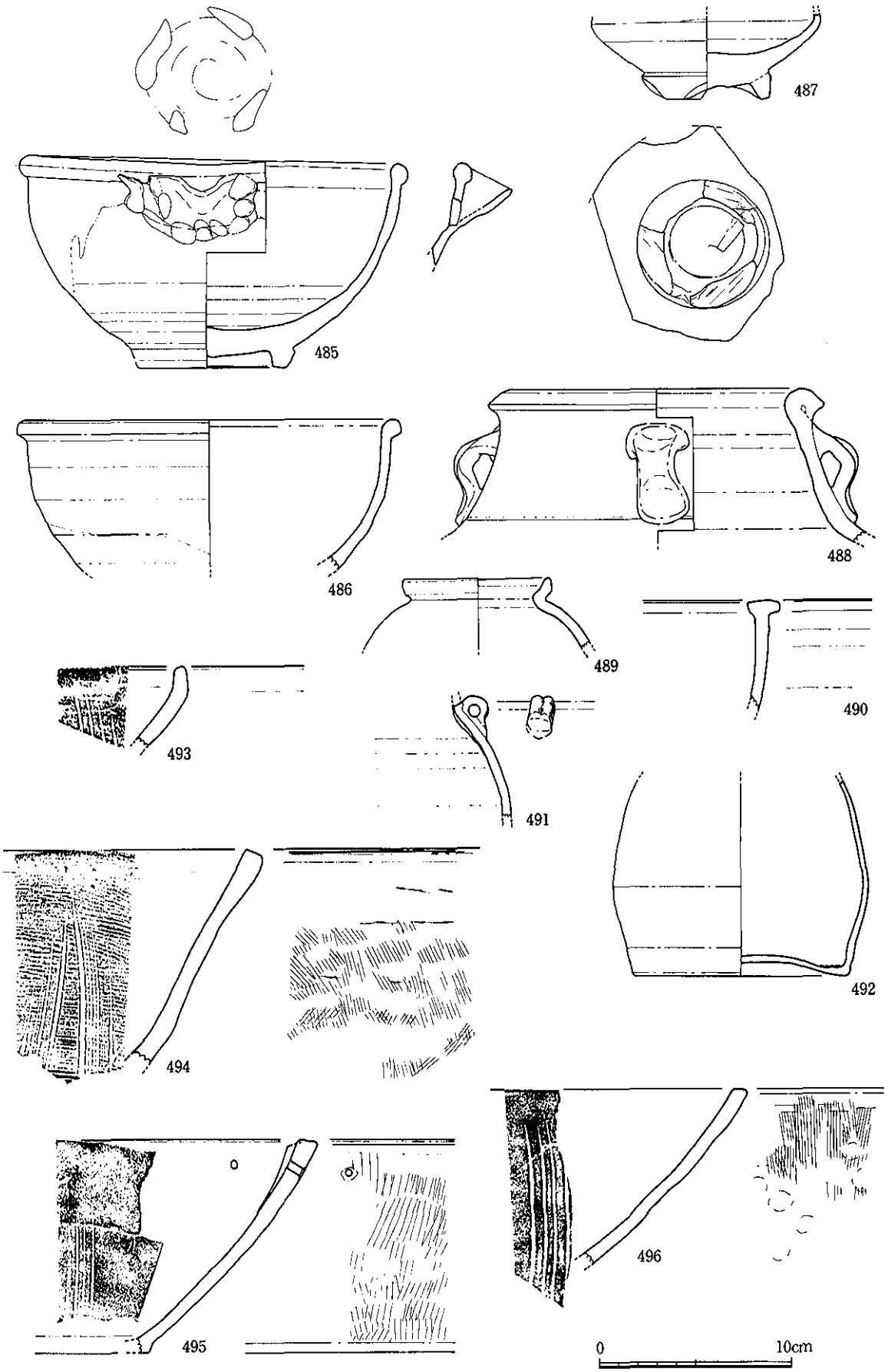
第56図　３区　SD01～05・07土層図（1/40）



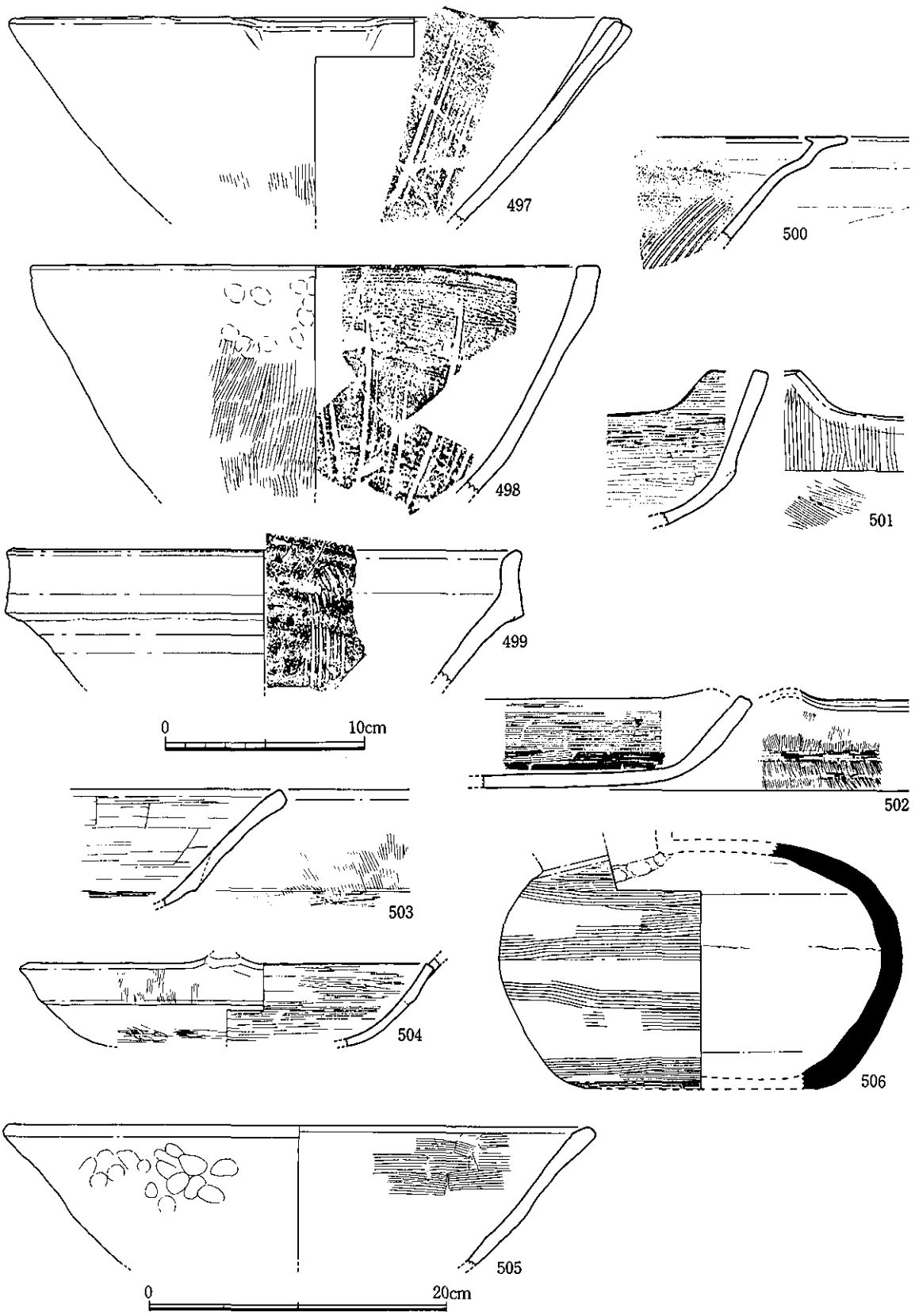
第57図　3区　SD01遺物実測図1 (1/3)



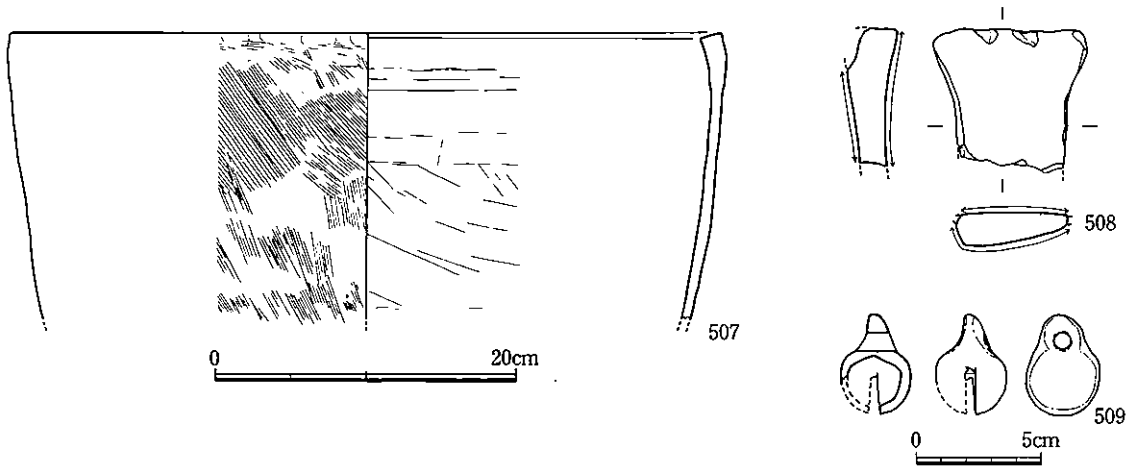
第58図　3区　SD01遺物実測図2（482～484：1/4、その他：1/3）



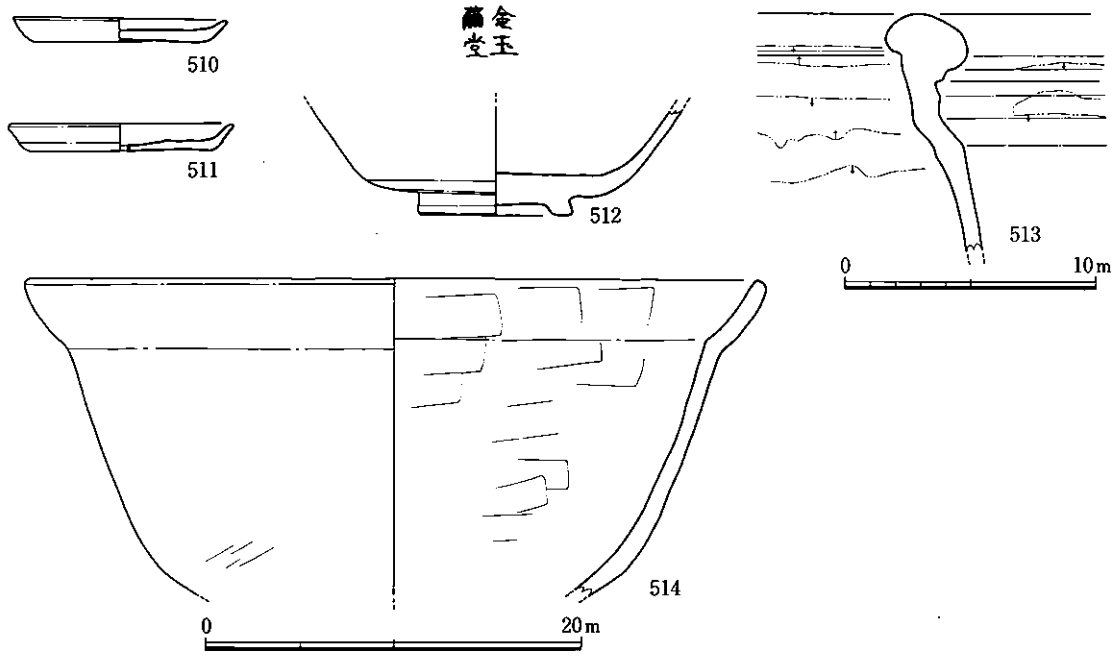
第59図　3区　SD01遺物実測図3 (1/3)



第60図　3区　SD01遺物実測図4（503～505：1/4、その他：1/3）



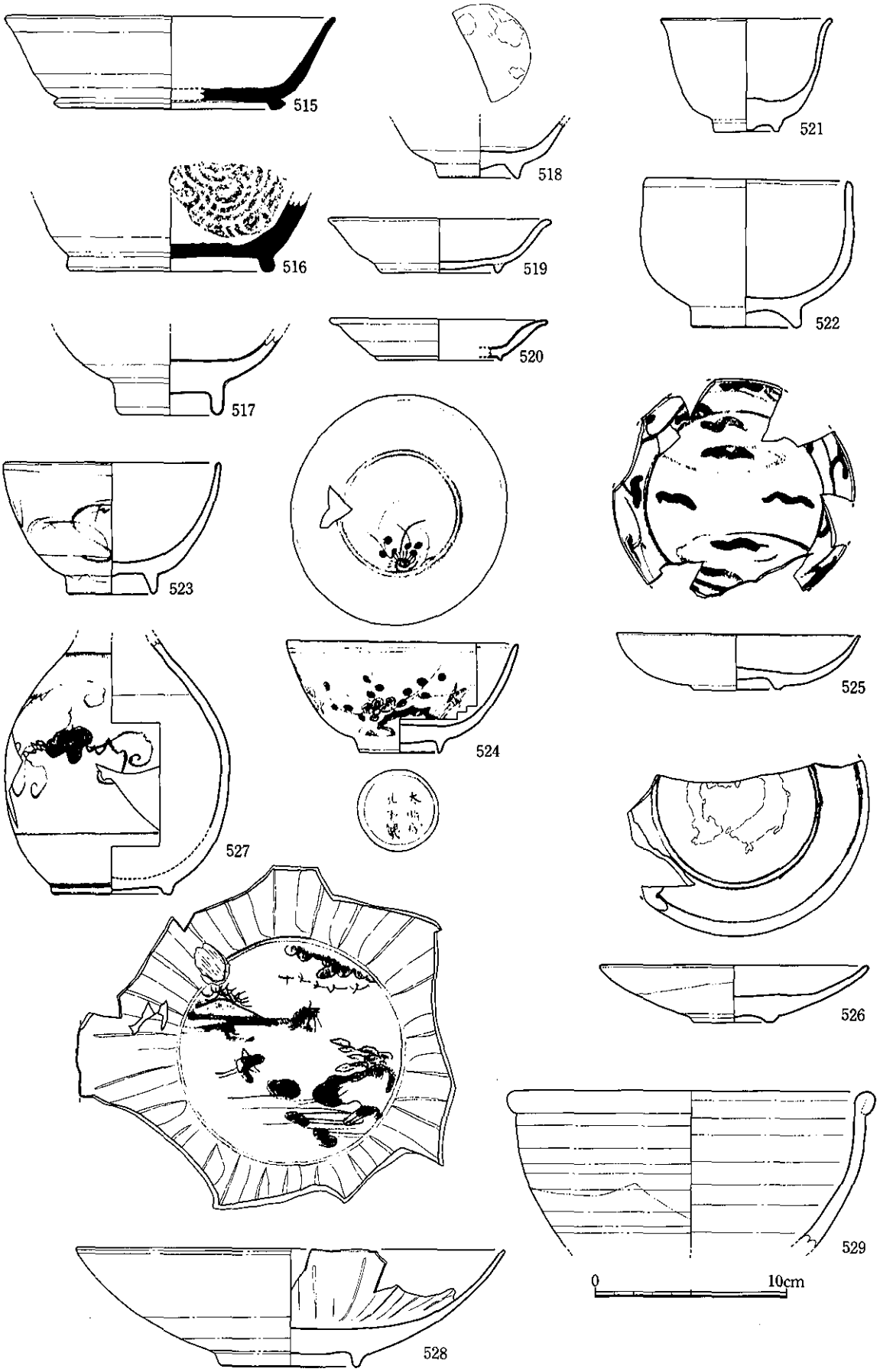
第61図　3区　SD01遺物実測図5（507：1/5、その他：1/3）



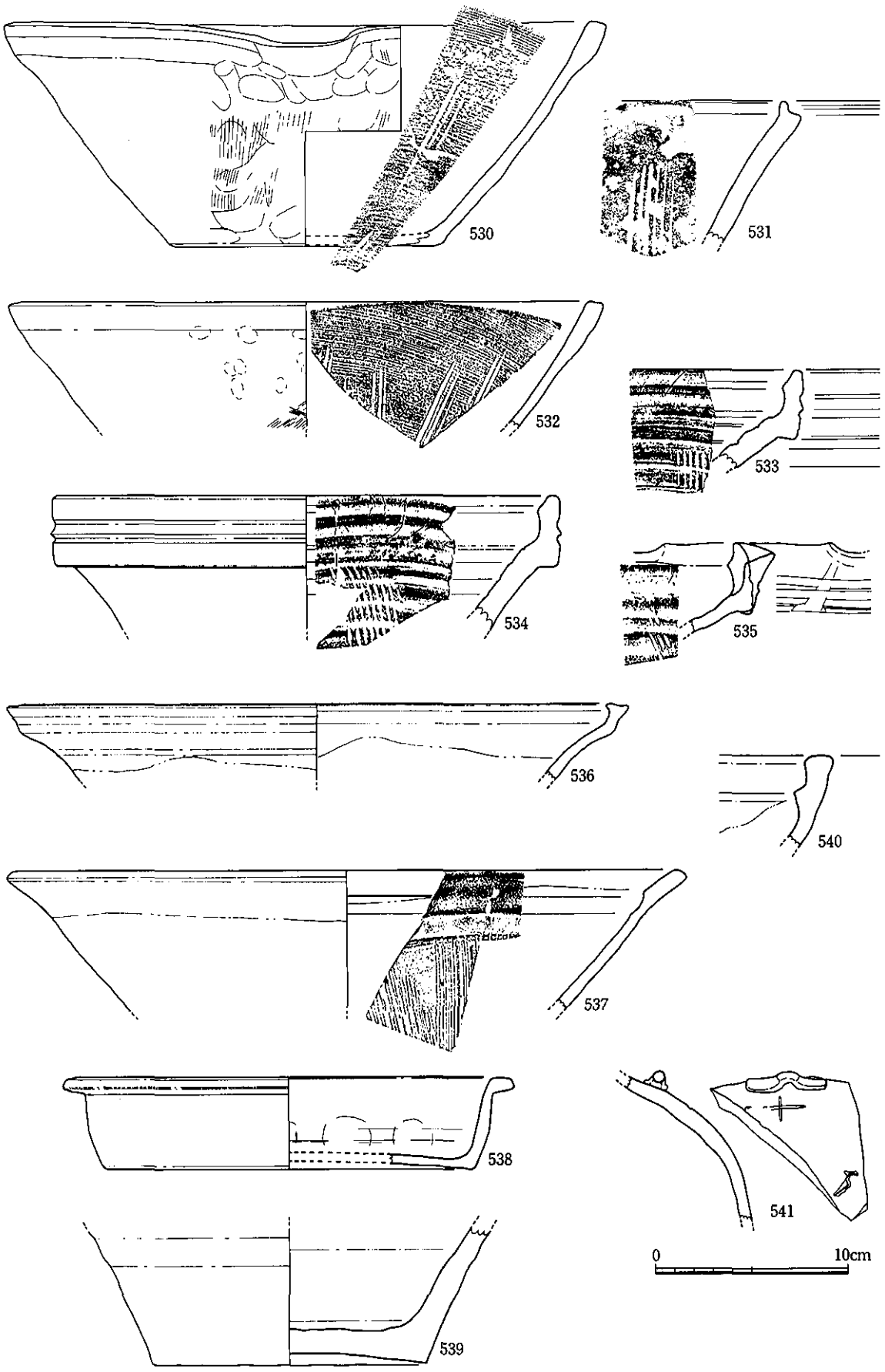
第62図　3区　SD02遺物実測図（514：1/4、その他：1/3）

として実測したが、器高が低いため、正置した場合文様がよく見えない。椀の蓋の可能性もある。565～567は椀形を呈する。565・566は体部下位で明瞭に稜をもつ。566は口縁部が端反となり、器壁は薄く、漆は最も精緻である。568は建築部材。角材の一端を細く加工し、1.5cm×2.0cmの方形孔を穿つ。569～571は曲物の底板。569は径約9cmの超小型品で、表面に粗い漆状の付着物が全面に確認できる。裏面には、この底板を設計した時の痕跡と思われる細線が観察できる。571は縁辺から数mm内側に沿って漆らしき痕跡が確認できる。側板は底板の縁に沿って上に乗り、漆は内側のみに施されていたものと想定できる。577は茶臼の下臼。584～586は瓦。584・586は丸瓦。585は道具瓦。黒銀色に燻され、半裁竹管状工具で鱗を表現する。

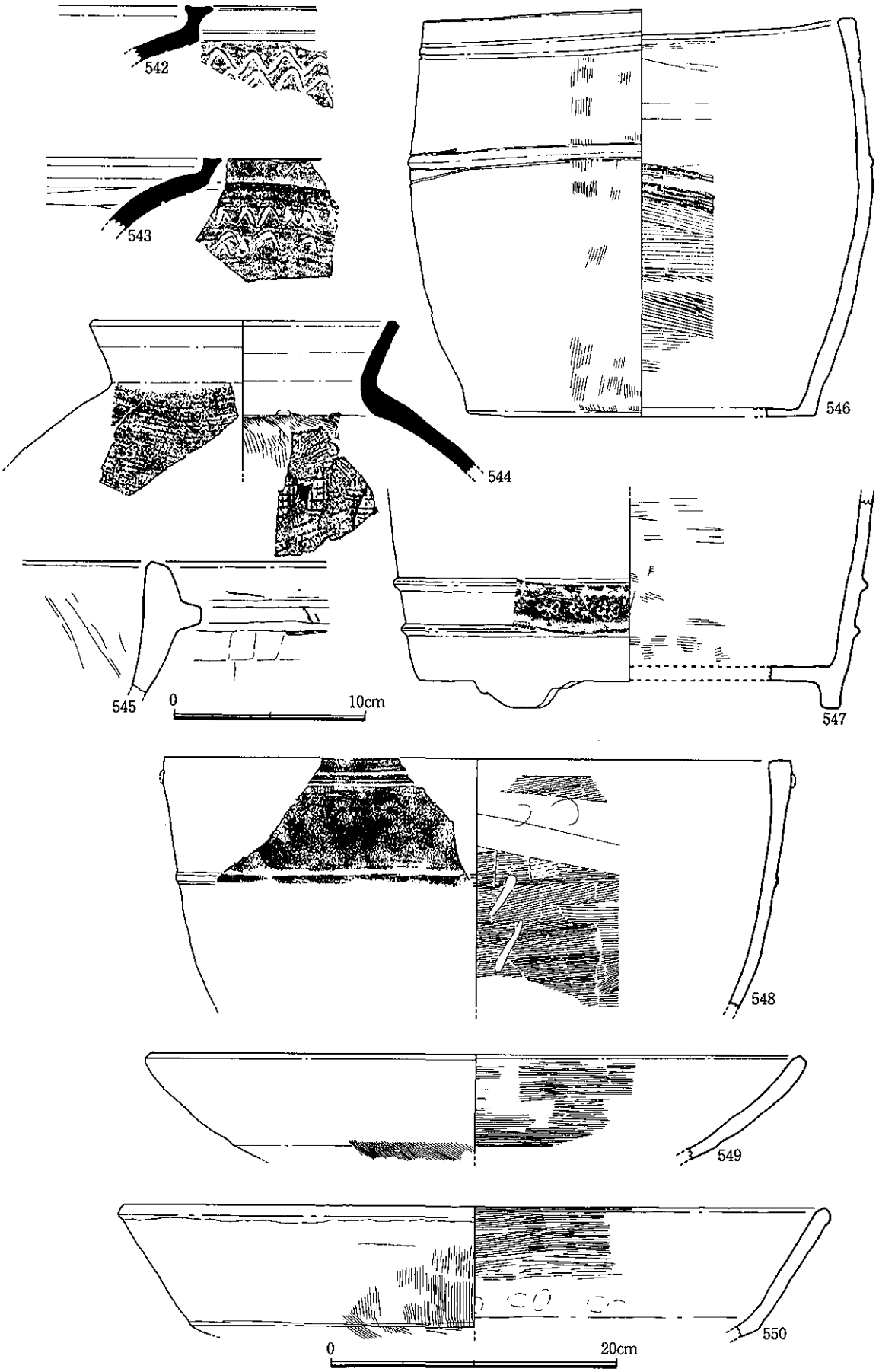
SD02（第44・56図）　調査区東側で検出され、北西－南東に走る。幅約1.0～1.6m、深さは検出面から約5～20cmを測り、溝の北側から南側にいくにつれ浅くなる。南側では溝内に2ヶ所土坑状



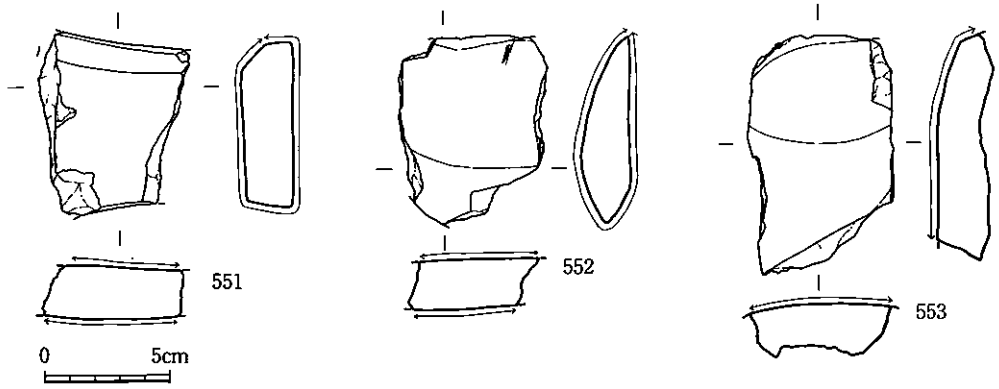
第63図　3区　SD03遺物実測図1 (1/3)



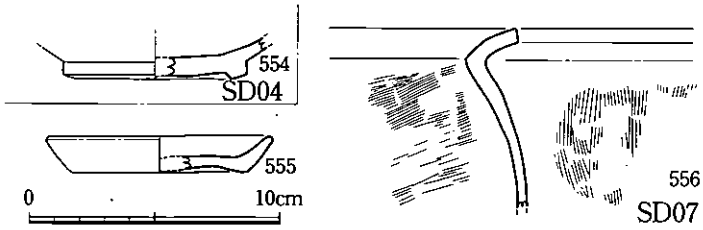
第64図　3区　SD03遺物実測図2（1/3）



第65図　3区　SD03遺物実測図3（542～545：1/3、その他：1/4）



第66図　3区　SD03遺物実測図4（1/3）



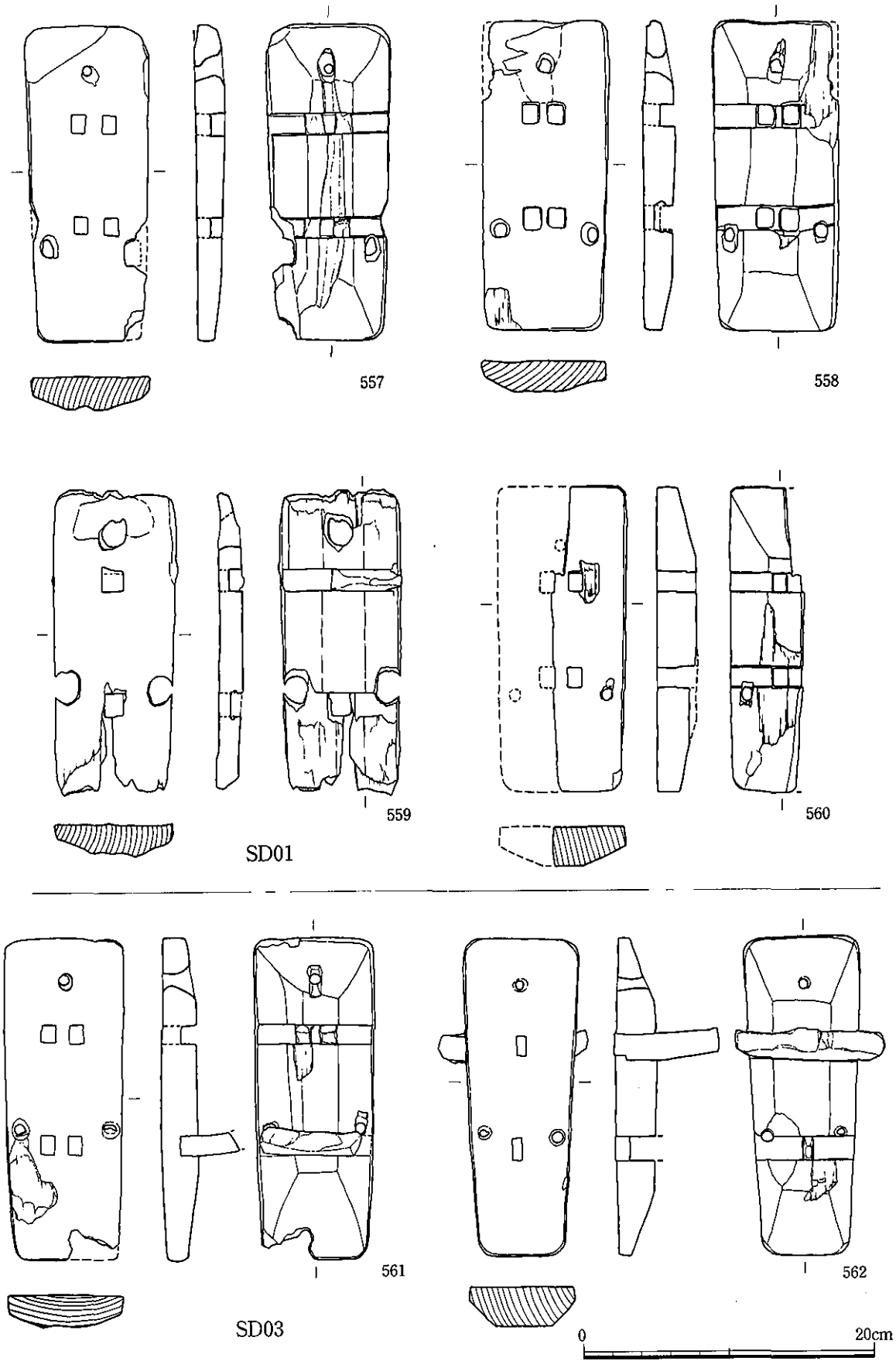
第67図　3区　SD04・07遺物実測図（1/3）

に深くなった部分（約1.9m×約0.9m×35cm、約1.6m×0.7m×40cm）が見られる。SD01、SX02に切られる。

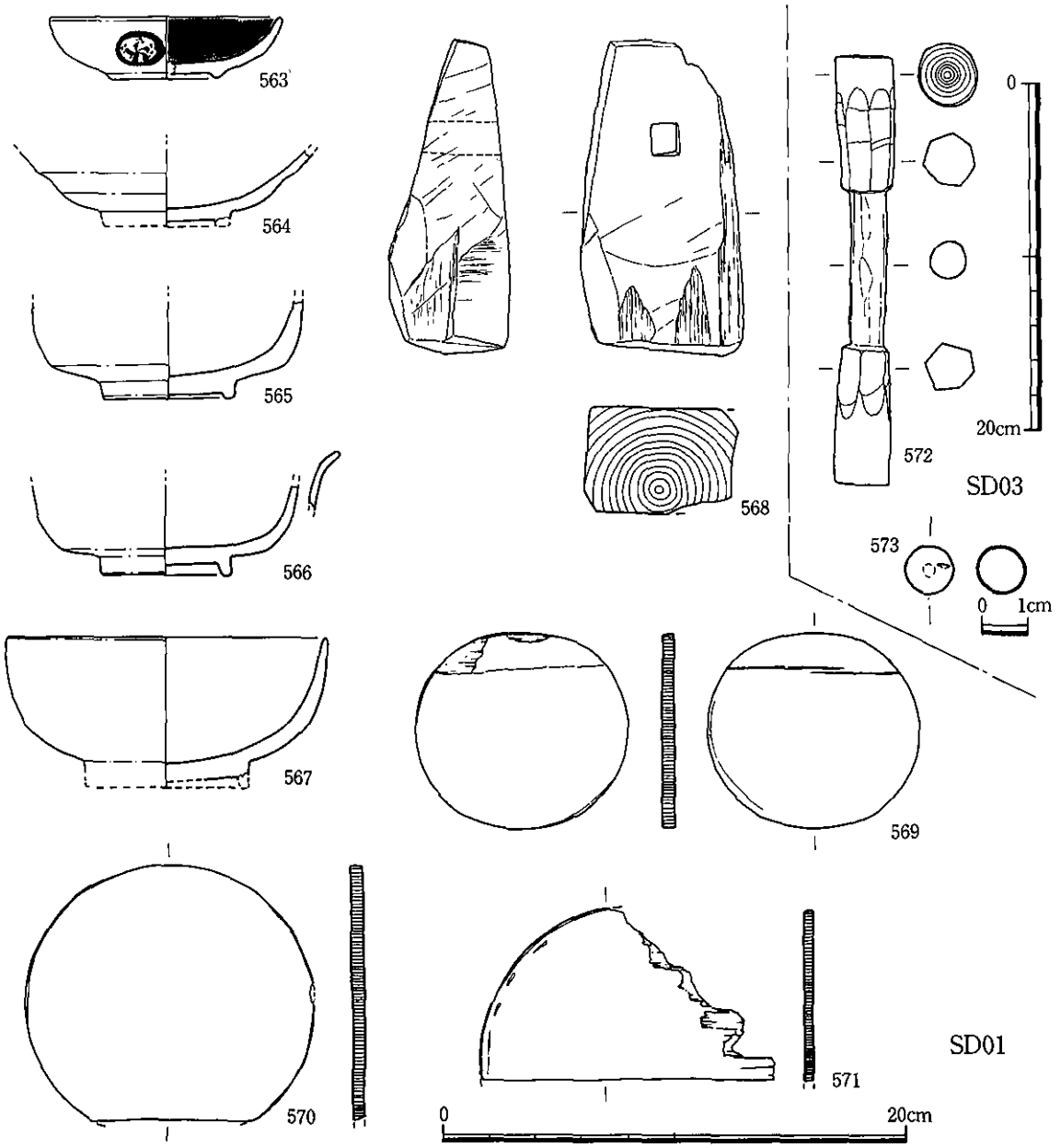
遺物（第62・72図）　510・511は土師器小皿。512は青磁椀。見込みに「金玉滿堂」を施す。畳付けおよび高台内露胎。513は中国産陶器壷。暗オリーブ色釉を施す。514は瓦質鍋。屈曲した口縁部が内湾気味に立ち上がるもの。SD01・03出土の破片と接合している。587・588は平瓦。

SD03（第44・56図）　調査区東側で検出され、SD01とほぼ平行に走る。溝の北側はL字形に屈曲し、西側に伸びる。幅約1.8～4.5m、深さは検出面から0.78～1.00cmを測り、北西に向かうにしたがい深くなる。東壁際は地山の崩落が認められ、立ち上がりは比較的急である。遺物は土層図の1～6層を上層、7層以下を下層と分けて取り上げた。SD05、SE05を切る。

遺物（第63～66・116図）　515は須恵器杯。516は須恵器壷類。517は青磁椀。釉は厚い。高台内を蛇の目に釉を掻く。518は朝鮮産白磁椀。519は中国産白磁皿。520は瀬戸美濃産陶器皿。緑色に発色した灰釉を施す。521・522は肥前産陶器椀。522はいわゆる呉器手椀と呼ばれる類で、貫入の多い浅黄色釉を施す。523・524は肥前産染付椀。524は見込みに草花、体部外面に梅を描き、高台内にやや崩れた「太明成化年製」銘を持つ。525・526は肥前産陶器皿。525は畳付け以外全面施釉。526は三川内窯に類例がある。528は肥前産染付皿。型打成形により菊花形を呈する。見込みに岩・山・帆立舟・雁・雲など山水文を描く。529は肥前産陶器鉢。本来片口になる可能性もある。530～532は瓦質擂鉢。530の内面下半の使用痕は顕著である。531の口縁端部は特徴的。533～536は陶器擂鉢。533～535は備前焼、536・537は肥前産であろう。538は肥前産陶器鉢。口縁部上面の釉を拭き取る。539は陶器壷あるいは甕類。中国産か。外面に褐釉施す。540は中国産陶器鉢。541は中国産陶器壷。須恵質の胎土。耳部の直下に「十」型の線刻（焼成前）がある。さらに下方にも線刻らしき痕跡があるが、モチーフ不明。542・543は須恵器甕。二重口縁の類で頸部上半に波状文を施す。544は須恵器壷。頸部付近では、内面の当て具をハケ状工具を用いてナデ消してあり、特徴的。産地不明。545は石鍋。546～548・597は火鉢。546は樽状に胴部がやや張るタイプ。口縁直下の2沈

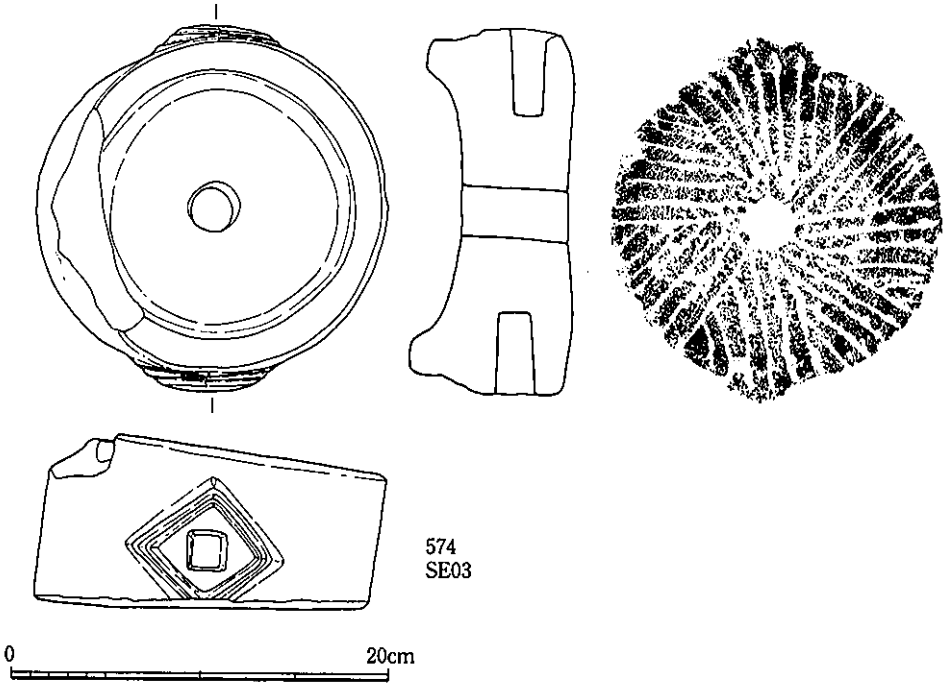


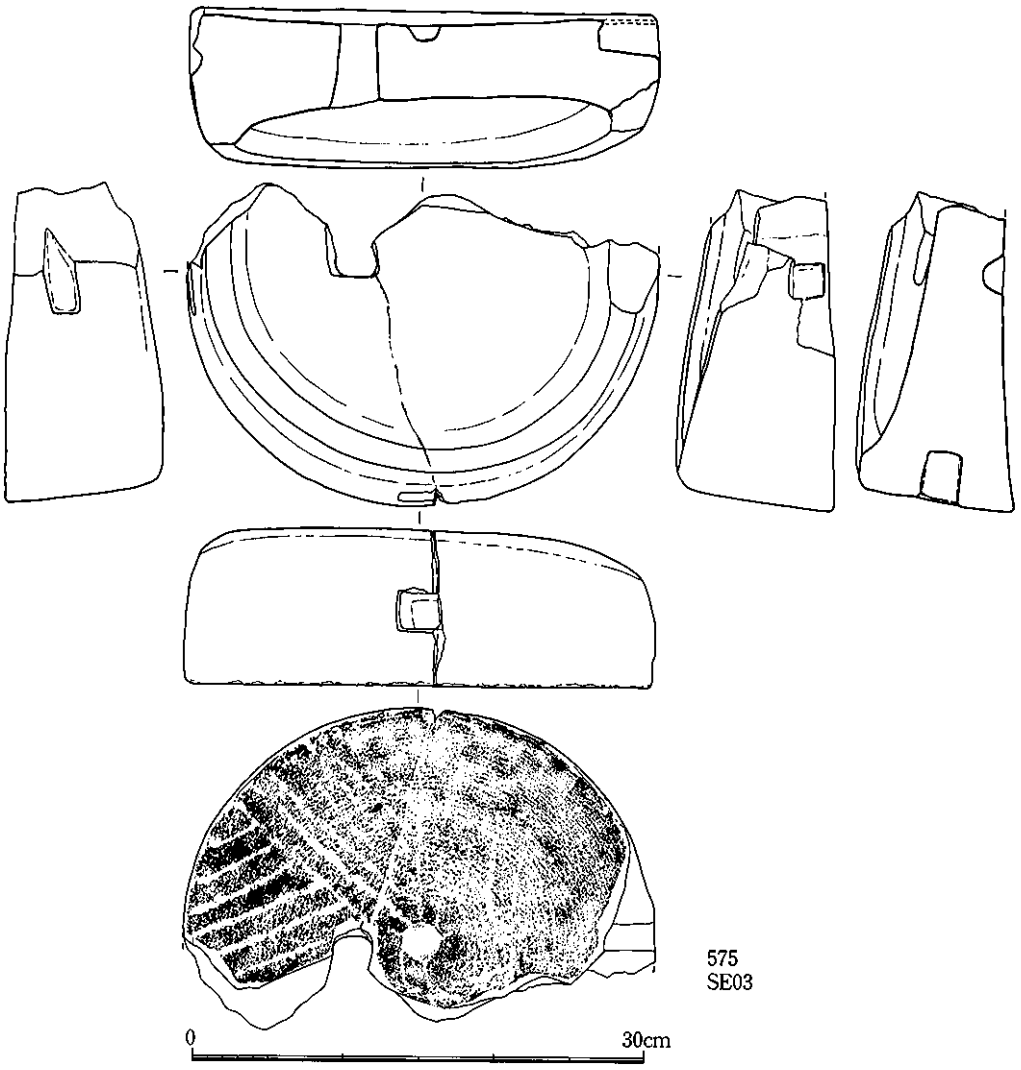
第68図　3区　SD01・03木製品・金属製品実測図1 (1/4)



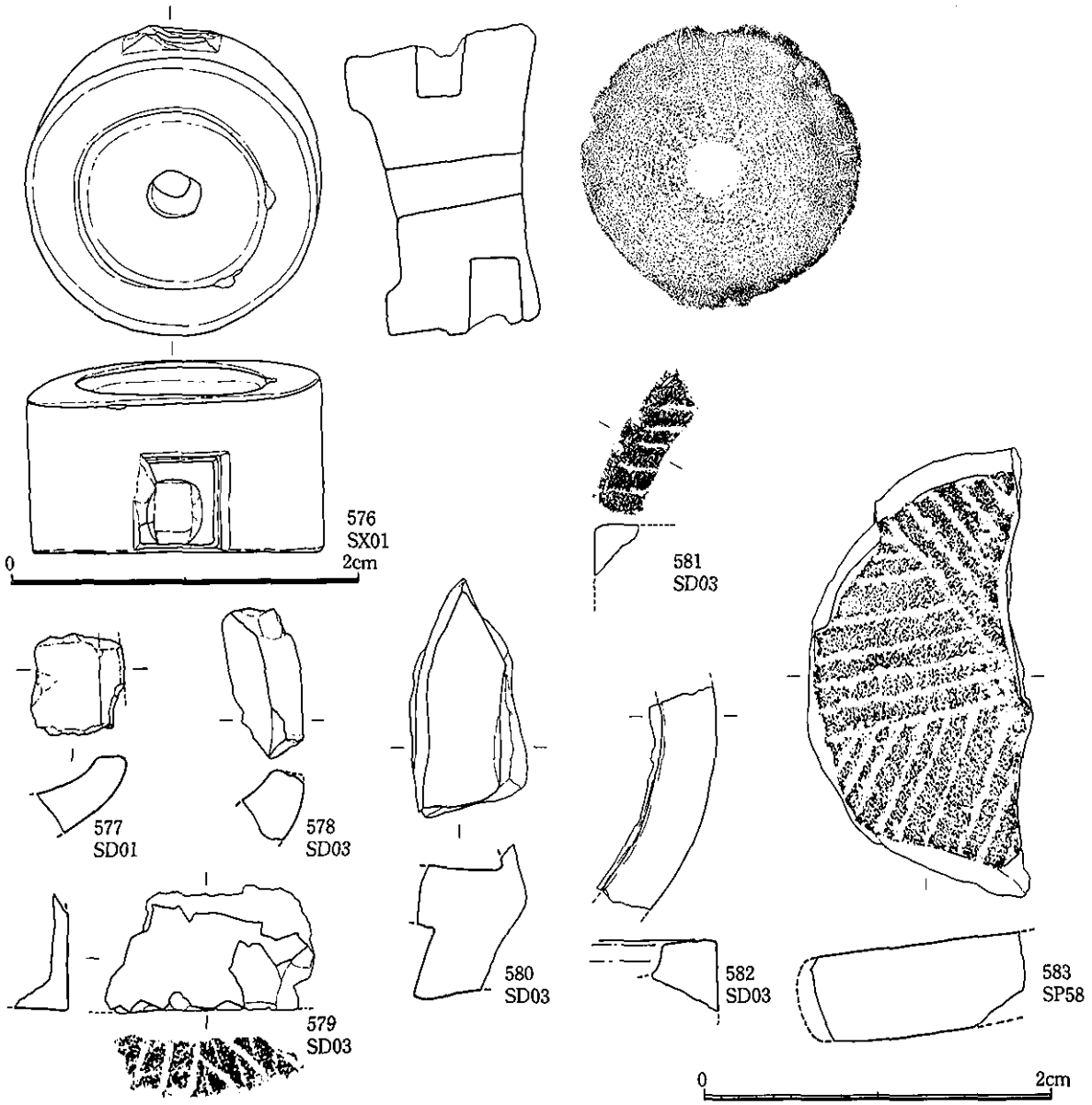
第69図　3区　SD01・03木製品・金属製品実測図2（572：1/4、573：2/3、その他：1/3）

線は突帯の省略を意図したものの可能性がある。548・597は丸みを帯びるが胴部が張らないタイプとなる。547・548はスタンプ文を巡らす。597は黒色によく燻されている。極めて低い脚が3つ付き、その底面はよく擦れている。549・550は瓦質鉢。大ぶりで外面に著しく煤が付着している。551～553は砥石。561・562は下駄。両者とも角型の差歯露卯下駄に分類される。561は差歯孔を前後各2ヶ所有する。前方の歯は差歯孔内に一部残り、後方の歯は半分以上残存する。562は差歯孔を前後各1ヶ所穿つ。前方の歯はほぼ完全に残り、後方の歯は孔内に一部残存する。平面形は細身でやや撥形に開く特徴的な形態である。歯の高さが確定できるのはこの一点のみであるが、やや高い感がある。572は竪杵状木製品。径3.5cm程の芯持材を加工している。何らかの利器か形代的性格か不明。なお上下端面に使用痕は確認できない。573は鉛弾。径10.5mmのサイズ。火縄銃の弾丸であろう。578～582は石臼。578・580は茶臼の下臼。いずれも砂岩製。579・582は粉挽き臼の上臼、581





第70図　3区　石臼実測図1（574：1/4、575：1/5）



第71図　3区　石臼実測図2（1/4）

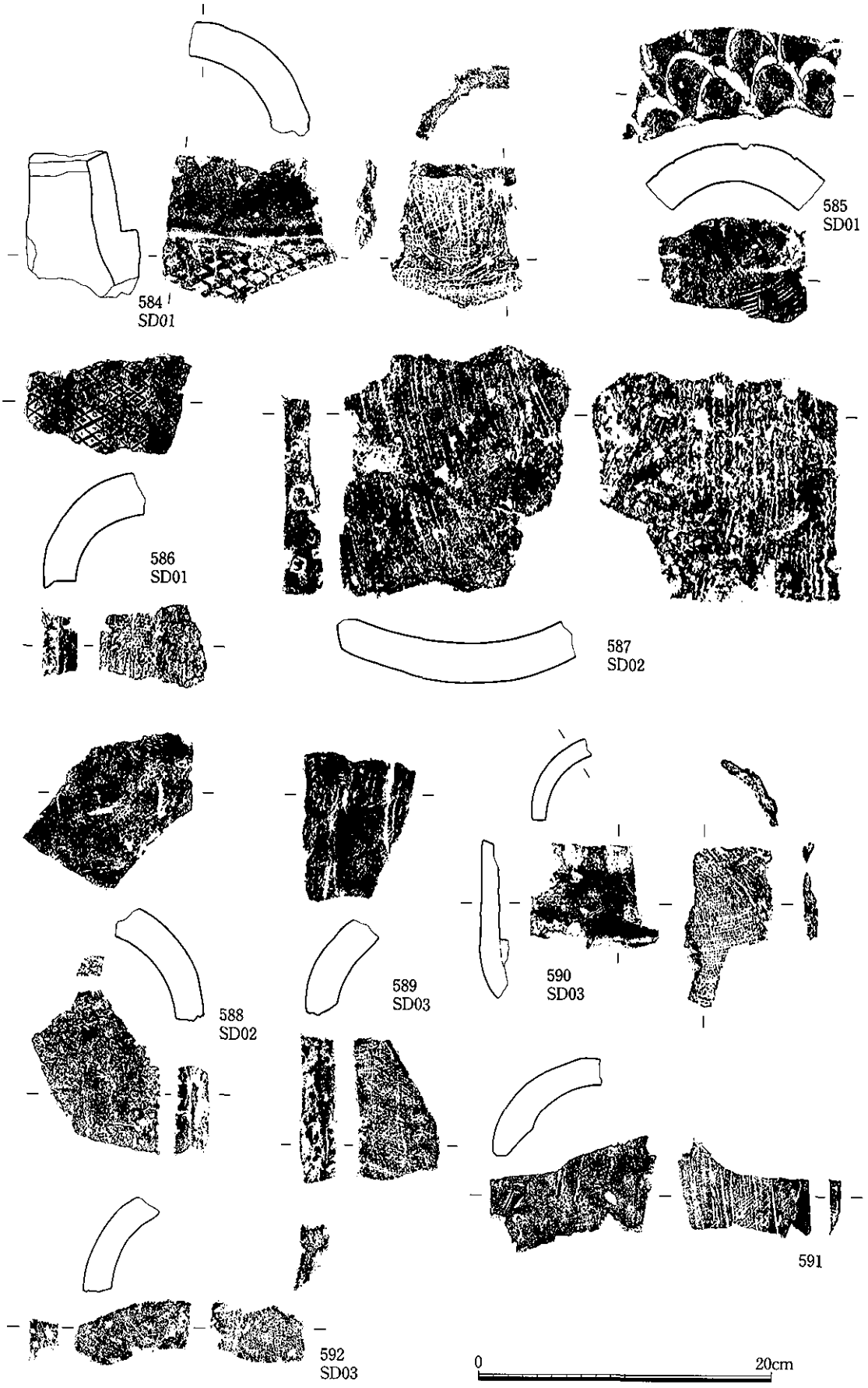
は粉挽き臼の下臼。いずれも凝灰岩製。589～596は瓦。589～592は丸瓦。593～596は平瓦。596は4区SD04出土瓦（第125図1015）と凹凸面の調整等が酷似する。

SD04（第44・56図）　調査区東側で検出され、SD01､03とほぼ平行に走る。幅0.3～0.6m、深さは検出面から4～21cmを測り、北に向かうにつれ浅くなる。埋土は黒色粘質土の単層であった。

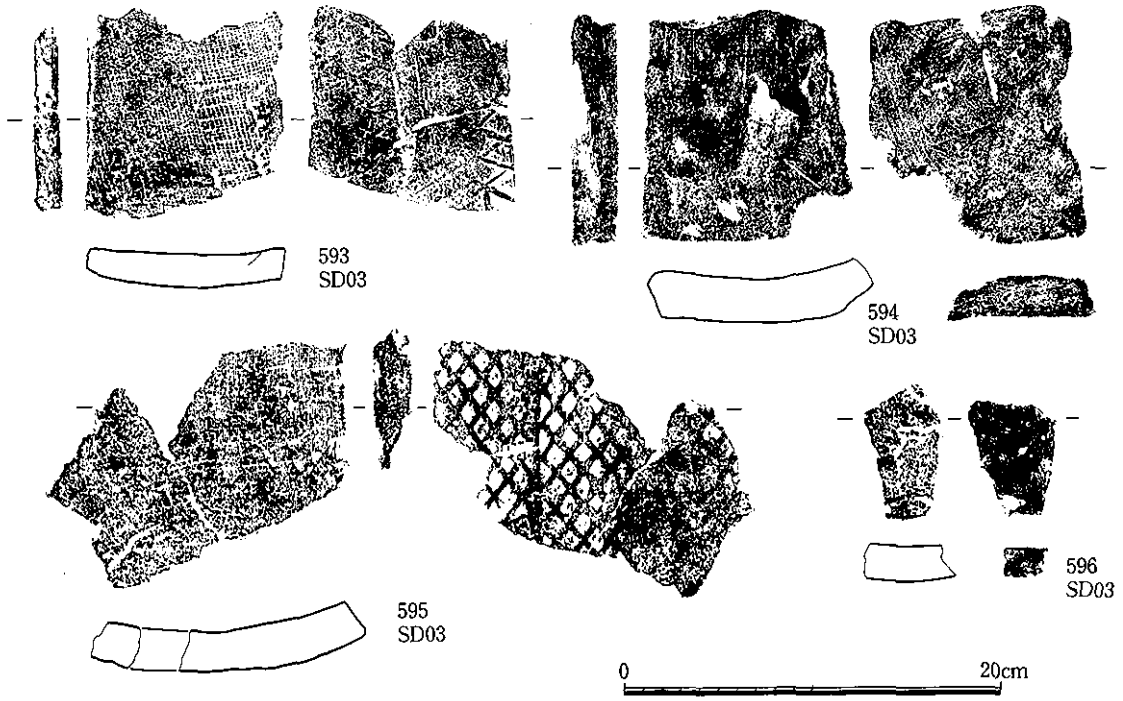
遺物（第67図）　554は白磁椀。これ以外に、土師器片・須恵器片などが出土した。

SD05（第44・56図）　調査区東側で検出され、南北に走る。幅0.4～0.7m、深さは検出面から26cmを測り、ほぼ深さは変わらない。埋土は上層が黒色土、下層が灰色を基調とした土で、シルト質であった。SD03に切られる。遺物は土師器片、須恵器片が出土したが、図化できるものはない。

SD06（第44図）　調査区中央で検出され、南北に走る。幅0.4m、深さは検出面から7～15cmを測る。底面レベルは、北に向かうにつれやや深くなるが、北端部周辺は検出面が低くなっているた



第72図　3区　瓦実測図1（1/4）



第73図　3区　瓦実測図2（1/4）

めか溝が途切れる。埋土は黒色粘質土の単層であった。SX03・04・08・09・13に切られる。土師器片が出土した。

SD07（第44・56図）　調査区西側で検出され、南北に走る。幅約0.8～1.6m、深さは検出面から35～43cmを測り、北に向かうにつれやや深くなる。標高14.1m辺りでテラスが見られる。土層観察の結果から3期の変遷が想定される。1期は北側テラス部（主軸方向の振れは、GN－6° 12′ 12″ －W）、2期は最深底面を持つ溝（主軸方向の振れは、GN－2° 51′ 45″ －W）、3期は南側テラス部（主軸方向の振れは、GN－5° 22′ 36″ －E）とする。1・3期の遺構範囲は、十分な記録が取れていない。SE06、SX10に切られる。

遺物（第67図）　555は土師器小皿。556は土師器甕。これ以外に土師器片、須恵器片、サヌカイト製剥片が出土した。

SD08（第44図）　調査区西側で検出され、南北に走る。幅0.3～0.4m、深さは検出面から7～20cmを測り、南に向かうにつれ浅くなる。埋土は黒色粘質土の単層であった。遺物は出土しなかった。

（4）小　結

A．各遺構の時期

井戸跡　SE01は陶器擂鉢から17世紀代。SE02は須恵器杯・蓋の形状から７世紀後半。SE03は中国産染付から16世紀代。SE04は陶器火入・壷から17世紀代。SE05は土師器小皿がヘラ切りであること、煮沸具が「鍋」に転化していないこと、須恵質こね鉢や白磁椀・石鍋の形態から、11世紀中頃～後半。SE06は土師器小皿の法量や糸切りヘラ切りが混在することなどから12世紀前半～中頃。

土坑　SX01は中国産染付を含むが、肥前産磁器椀も出土することから17世紀代。SX07は土師器杯の法量から15世紀後半～16世紀か。SX09は陶器擂鉢の口縁部形態から17世紀前半か。

溝跡　SD01からは中国産染付など16世紀以前の遺物も多く出土するが、主体は17世紀前半から第３四半期にかけての肥前産陶磁器である。埋没年代は17世紀後半に求められる。なお、最下層（砂層）から出土した遺物の中にも17世紀中頃の資料が確認されることから、最終埋没段階との時間差が少ないことが分かる。SD02は遺物量が少なく時期を決めかねるが、瓦質鍋の形態やSD01に切られることから、14～16世紀であろうか。SD03の出土遺物は、SD01と同じような傾向がみられ、肥前産陶磁器の製作年代の下限は17世紀中頃となる。埋没時期もSD01と同じく17世紀後半が想定される。これ以外の溝跡は、出土遺物から時期を決め難いが、SD05はSD03に、SD06はSX09にそれぞれ切られることからいずれも16世紀以前であろう。SD07はSE06に切られ12世紀以前に位置づけられる。

B．遺構配置

まず注目されるのは、SD01とSD03である。SD01は東側に屈曲し２区に向かい、SD03は西側に屈曲し４区に向かう。よって、SD01は２区を取り囲むような区画溝と推測され、SD03は次に報告する4区SD04とともに区画溝を形成するものと考えられる。なお、推測のとおりSD01が２区を取り囲む区画溝と考えた場合、一辺約50mを測ることが予想される。

SD05～07については、SD05・06がやや東に、SD07がやや西に主軸方向を振るが、概ね真南北を指向しており、これまで報告した溝跡とは異なっている。こうした方向性を示す溝跡の時期については、SD07の12世紀以前という所見が、１つの基準となろう。奈良・平安期の可能性が高いと考えている。なお、SD05・06は約４m間隔で平行しており、小規模な道路状遺構の可能性も否定できない。



第74図　4区　遺　構　配　置　図　(1/200)

4．4区の調査

3区と5区の間に位置し、調査面積は1040㎡を測る。調査は、3つの区画（4－1・2・3区）に分け実施し、最も広い4－1区を最初に、その後南西側（4－2区）、東隅（4－3区）を調査した。遺構検出面の標高は14.1～14.3mで、南西側がやや高い傾向がうかがえるが、明確な比高差はない。掘立柱建物跡6棟、井戸跡6基、土坑74基、溝跡6条が検出され、遺構密度はこれまでの調査区の中で最も高い。

（1） 掘立柱建物跡

本調査地区では多数のピットが検出されており、6棟の掘立柱建物を確認することができた。しかし、これら以外にも掘立柱建物が存在していた可能性は高い。

SB01（第75図） 調査区中央部付近で検出した2間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約4.7m、梁行約4.0m、面積約18.8㎡になる。柱間は桁行2.0～2.5m、梁行1.7～2.4mを測る。主軸方向は、GN－7° 7′ 30″ －Wを振る。柱穴は平面形がやや歪な円形、または楕円形を呈し、直径もしくは長径が26～52cm、深さは検出面から24～52cmを測る。SP207・773以外は2段掘りになっている。SP185は、SB06（SP186）を切る。遺物は、瓦器片、土師器片が出土したが、図化できるものはない。

SB02（第75図） 調査区中央部付近で検出した2間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約4.3m、梁行約3.8m、面積約16.3㎡になる。柱間は桁行1.6～2.6m、梁行1.6～1.9mを測る。主軸方向は、GN－0° 31′ 15″ －Eを振る。柱穴は平面形がやや歪な円形、または楕円形を呈し、直径もしくは長径が26cm～54cm、深さは検出面から19～66cmを測る。SP72・211・222以外は2段、あるいは3段掘りになっている。

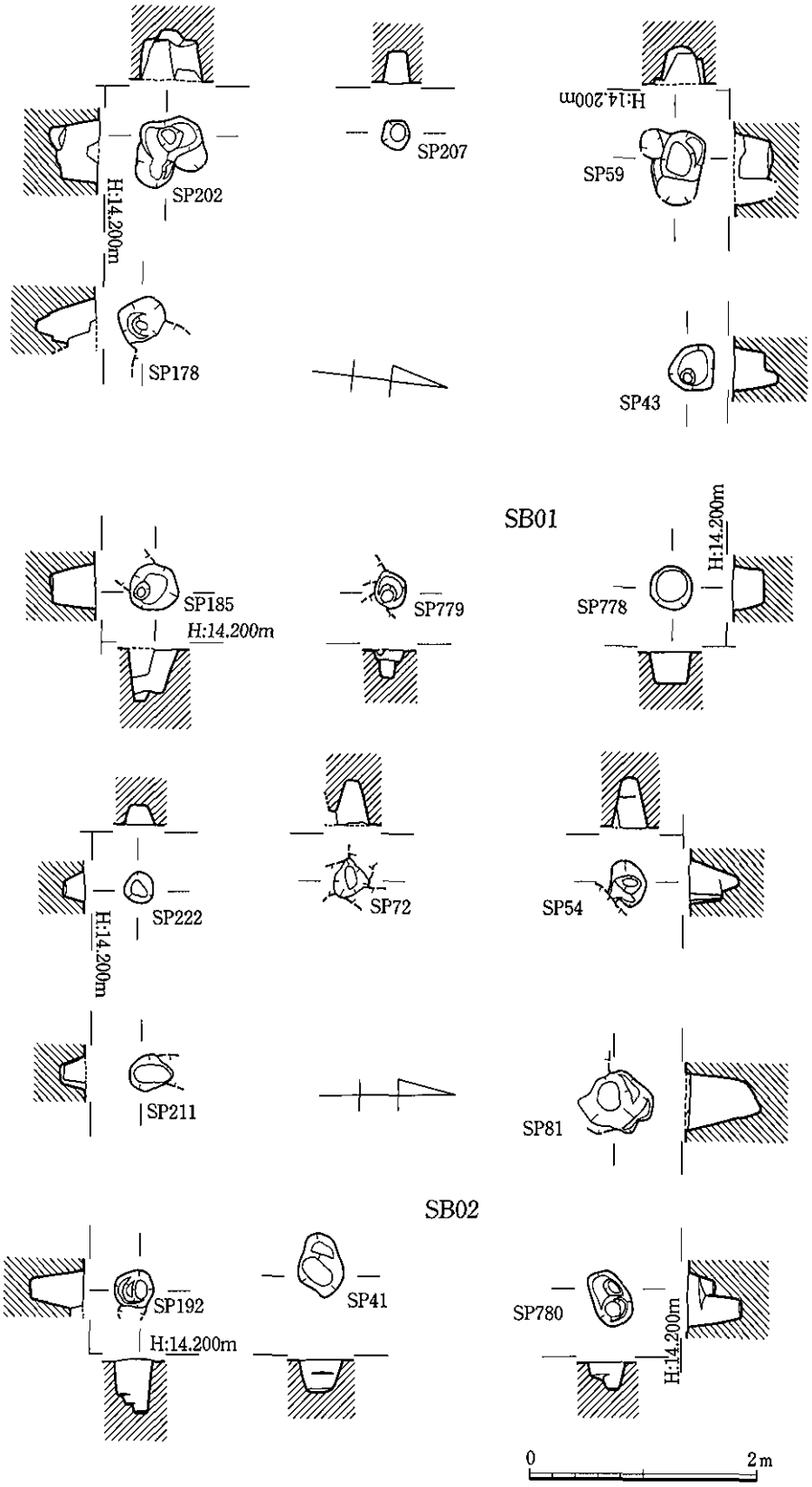
遺物（第78図） 601は土師器小皿。602は砥石。砂岩製。これ以外に竜泉窯系青磁椀（太宰府分類Ⅱ類）、白磁片、瓦器片などが出土した。

SB03（第76図） 調査区中央部付近で検出した2間×2間の南北棟の建物である。規模は桁行約5.7m、梁行約3.7m、面積約21.1㎡になる。柱間は桁行2.7～2.9m、梁行1.6～2.1mを測る。主軸方向は、GN－5° 42′ 38″ －Wを振る。柱穴は平面形がやや歪な円形、または楕円形を呈し、直径もしくは長径が30～46cm、深さは検出面から18～80cmを測る。150・173・276以外は2段、あるいは3段掘りになっている。

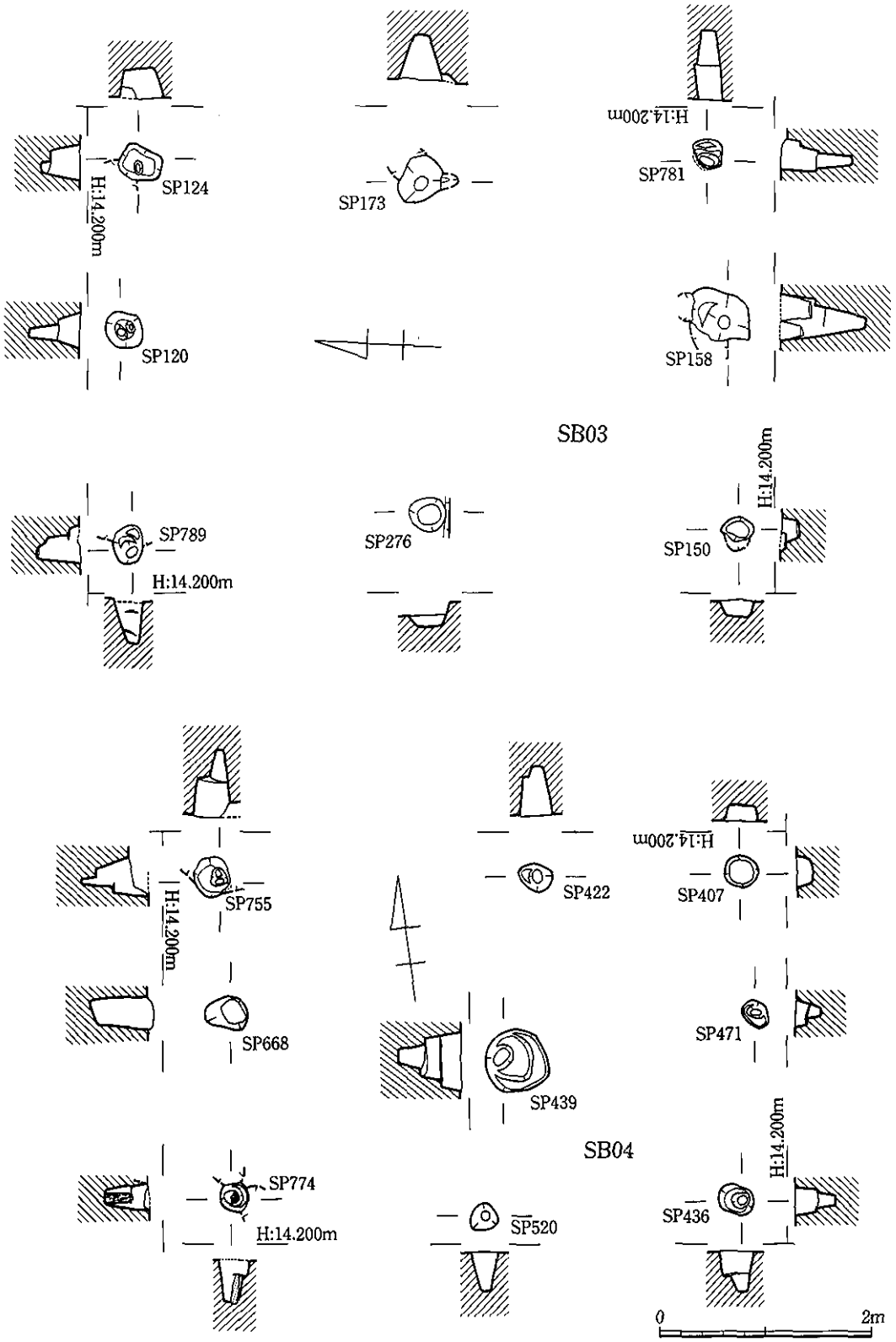
遺物（第78図） 603は土師器小皿。604は土師器杯。これ以外に青磁片（竜泉窯系）、白磁（太宰府分類Ⅸ類含む）、瓦器片などが出土した。

SB04（第76図） 調査区西側で検出した2間×2間の南北棟の総柱建物である。規模は桁行約4.9m、梁行約3.1m、面積約15.2㎡になる。柱間は桁行1.9～3.0m、梁行1.2～1.8mを測る。主軸方向は、GN－82° 52′ 30″ －Wを振る。柱穴は平面形がやや歪な円形、または楕円形を呈し、直径もしくは長径が26～61cm、深さは検出面から15～62cmを測る。SP407・520・668以外は2段、あるいは3段掘りになっている。SP774では腐食した柱が残存していた。

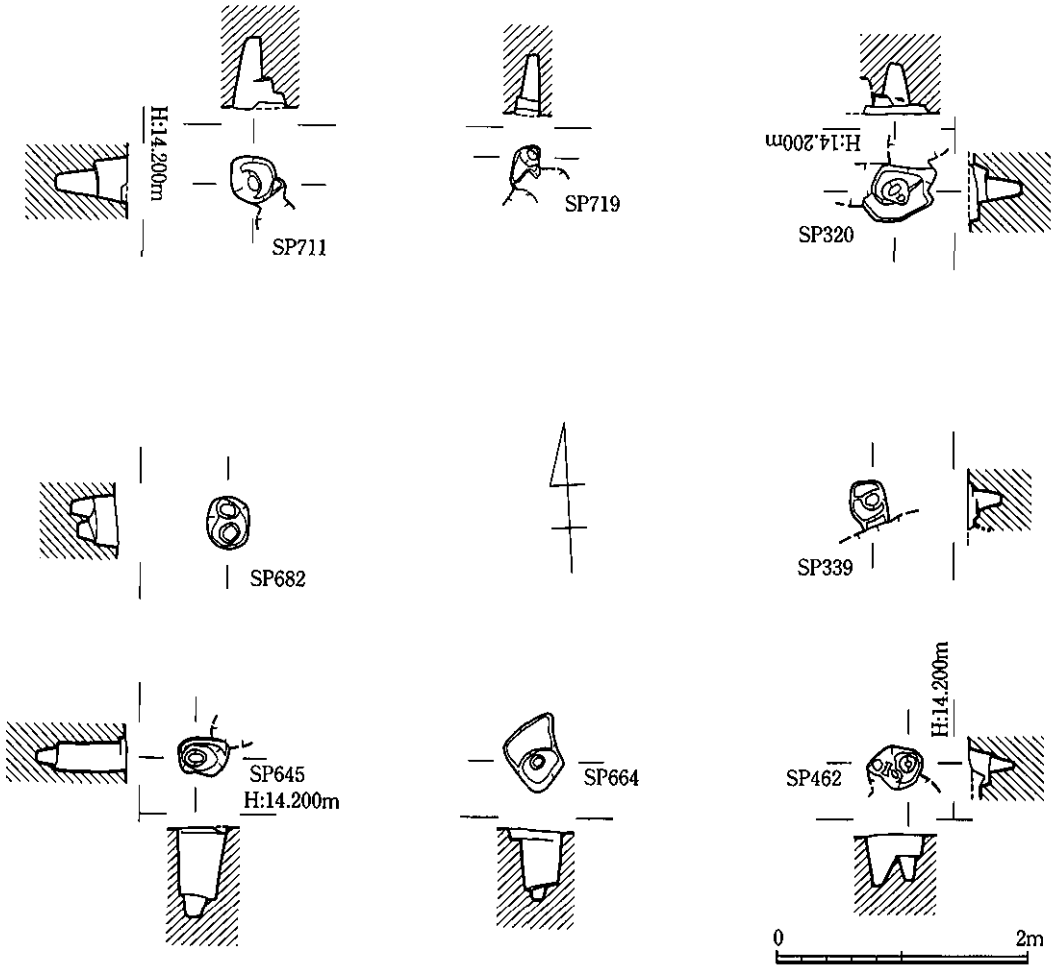
遺物（第78図） 605は瓦質鉢。外面には煤が付着する。606は中国産天目椀。黒釉を施す。これ



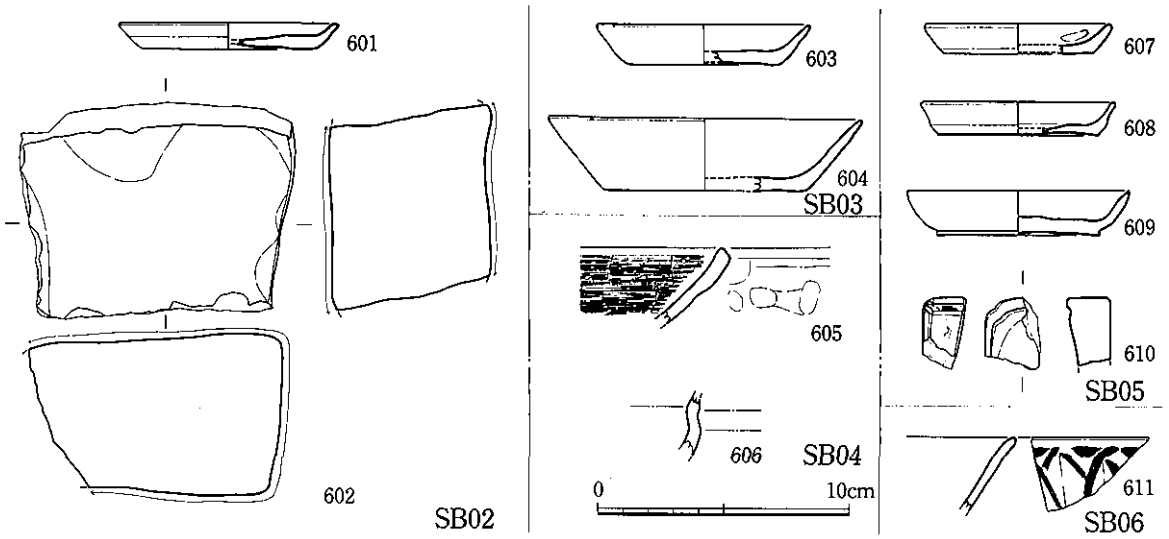
第75図　4区　SB01・02実測図（1/60）



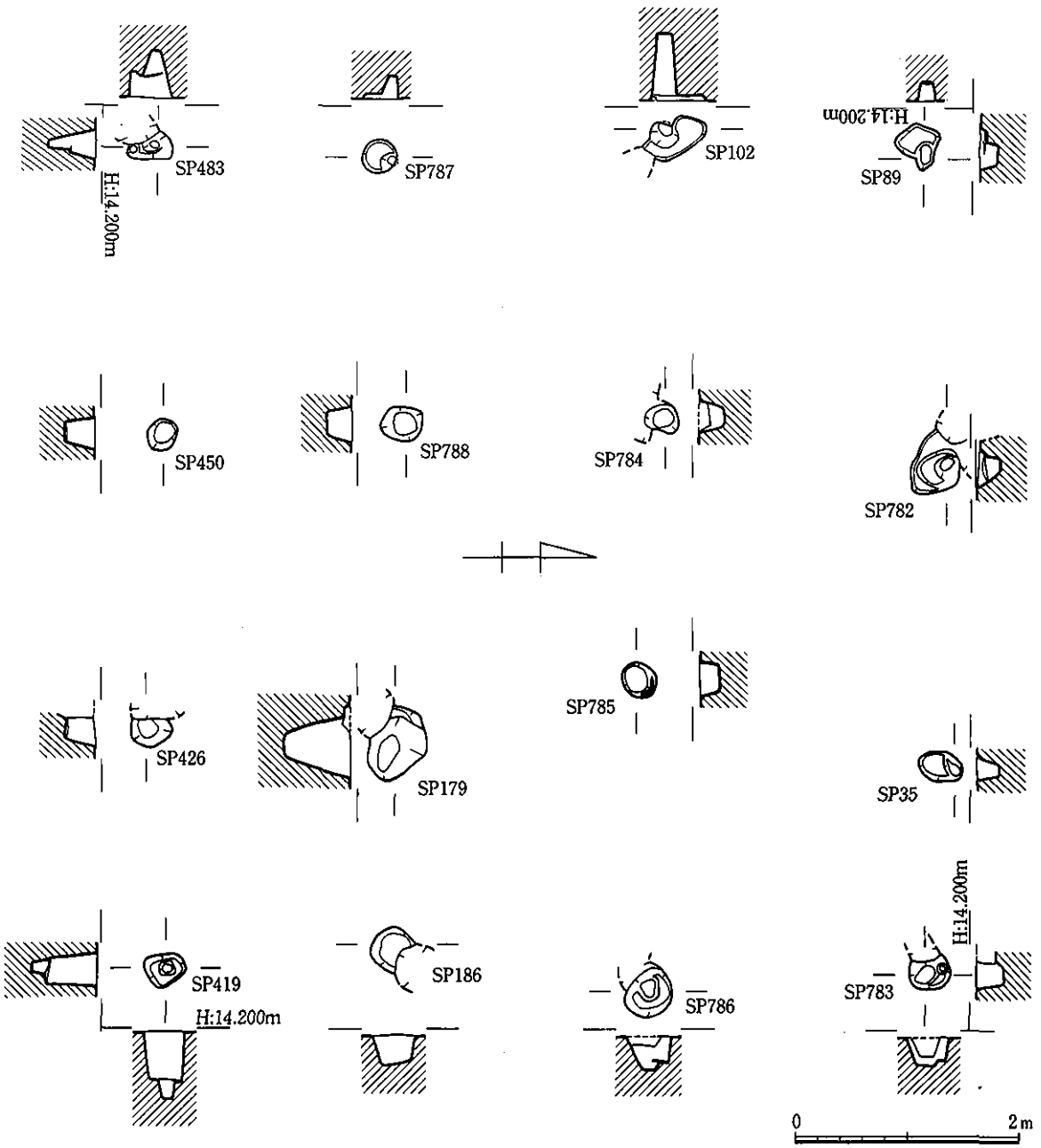
第76図　4区　SB03・04実測図（1/60）



第77図　4区　SB05実測図（1/60）



第78図　4区　SB02～06遺物実測図（1/3）



第79図　4区　SB06実測図（1/60）

以外に、白磁片、瓦器片、土師器片などが出土した。

SB05（第77図）　調査区西側で検出した2間×2間の東西棟の建物である。規模は桁行約5.7m、梁行約4.6m、面積約26.2㎡になる。柱間は桁行2.3～3.0m、梁行1.8～2.8mを測る。主軸方向は、GN－86° 52′ 40″ －Eを振る。柱穴は平面形がやや歪な楕円形を呈し、長径36～50cm、深さは検出面から26～71cmを測り、全て2段あるいは3段掘りになっている。

遺物（第78図）　607～609は土師器小皿。610は滑石製品。小片のため機能・用途不明。これ以外に白磁片（太宰府分類Ⅸ類含む）、滑石片、焼土塊などが出土した。

SB06（第79図）　調査区中央部付近で検出した3間×3間の東西棟の総柱建物である。規模は桁行約7.4m、梁行約6.9m、面積約51.1㎡になる。柱間は桁行1.9～2.8m、梁行2.0～2.5mを測る。

主軸方向は、GN－89° 31′ 21″ －W を振る。柱穴は平面形がやや歪な円形、または楕円形を呈し、直径もしくは長径が28～58cm、深さは検出面から17～60cmを測る。SP186・426・450・775～777以外は２段掘りになっている。SP186は、SB01（SP185）に切られる。

遺物（第78図）　611は竜泉窯系青磁椀。鏑蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。これ以外に、滑石製石鍋片、瓦器、土師器などが出土した。

（２）井戸跡

６基確認することができた。

SE01（第80図）　調査区北隅近くに位置し、調査区外に続く。全体規模は明らかでないが、径1.4m前後の円形あるいは楕円形を呈すると考えられる。深さ約1.3mを測る。断面形態は漏斗形気味になる。埋土は、底面から約40cmまでは黒褐色粘質土が主体をなし、その上位は自然堆積で計９層に分層される。井筒等は確認できなかった。

遺物（第82図）　612は土師器小皿。613～615は土師器椀。616は黒色土器椀。Ｂ類。617は瓦器椀。最下層より出土。618は土師器甕。土師器片など以外では、瓦片や滑石片が出土した。

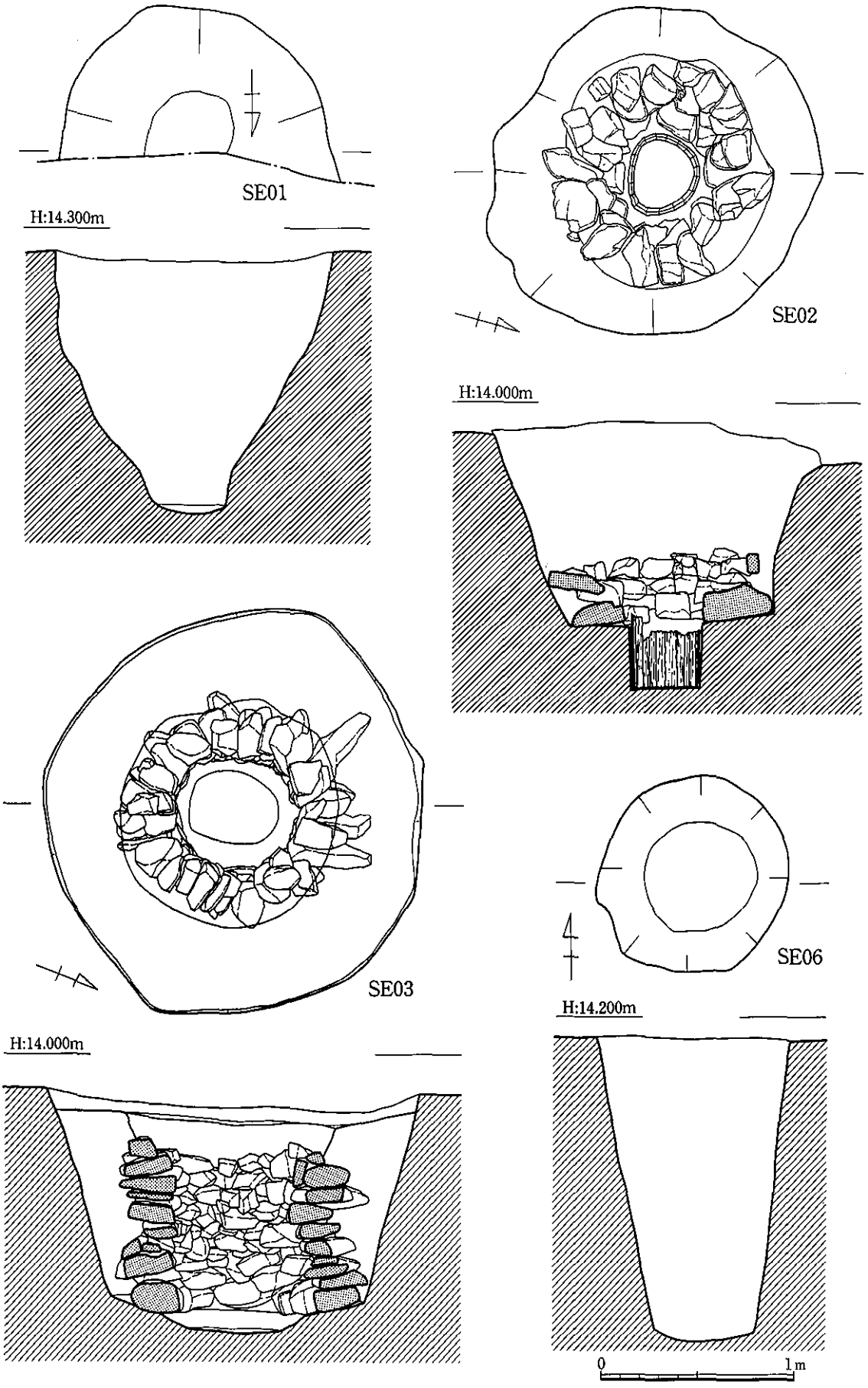
SE02（第80図）　調査区東側に位置し、SD06の上端付近を切る。平面約1.7mの円形を呈し、深さ約1.4mを測る。２段掘りとなり、下段には板材を竹タガで留めた井筒を挿入する。井筒は43cm×37cmの楕円形、長さ72cmを測る。上段は井筒を囲むように、３～４段角礫を積む。

遺物（第82・124図）　619～621は土師器杯。619は体部内外面および見込みに判読不明の墨書がある。外面の縦位の墨書と体部内面の墨書は対向した位置にあり、それをつなぐラインに対し、見込みの墨書は直交する。622は瓦質皿。623は朝鮮製陶器椀。刷毛を用いて白化粧土を内面全体・外面腰部まで施し、その後全面に透明釉を掛ける。外面体部に透明釉が施されていない部分があり、そこでは刷毛の様子が観察できる。624は銅銭。銭種不明の銅銭が４枚重なり錆で固まった状態で出土した。625は中国製染付皿。やや高台形は異なるが小野分類Ｂ1群に相当しよう。1009は板碑。梵字の一部が確認される。1011は茶臼の下臼。砂岩製。1013は粉挽き臼の下臼。凝灰岩製。

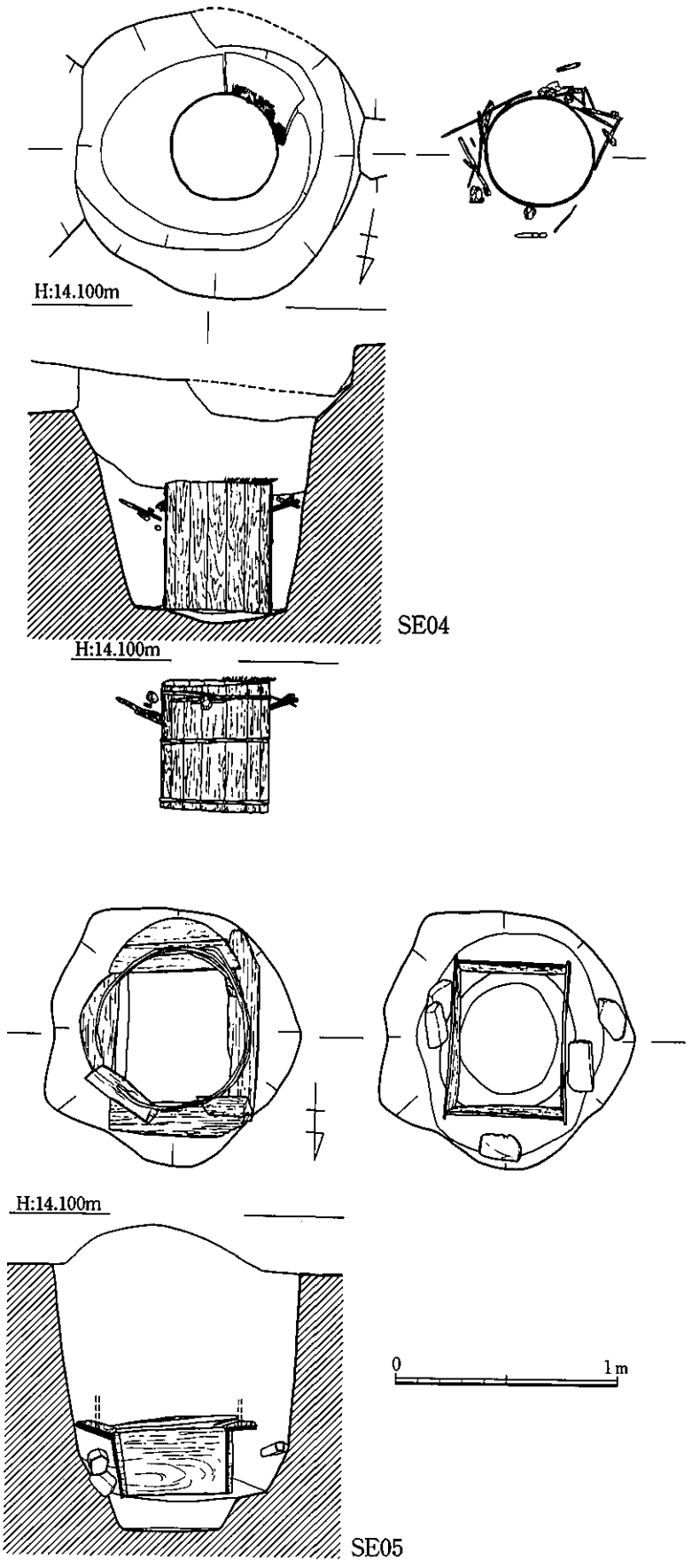
SE03（第80図）　調査区東側に位置し、SE02の南側に隣接する。平面約2.0mの円形を呈し、深さ約1.2mを測る。下段の浅い２段掘りとなり、上段に角礫・亜角礫を積む。裏込土は、黄橙色土ブロックを多量に含む褐色土であり、検出面直下で確認された。

遺物（第82図）　626は竜泉窯系青磁椀。やや退化した蓮弁文を施す。井筒内出土。627は瓦質擂鉢。裏込め内出土。これら以外には、裏込め内で白磁片・土師器片が、井筒内で土師器片が出土した。

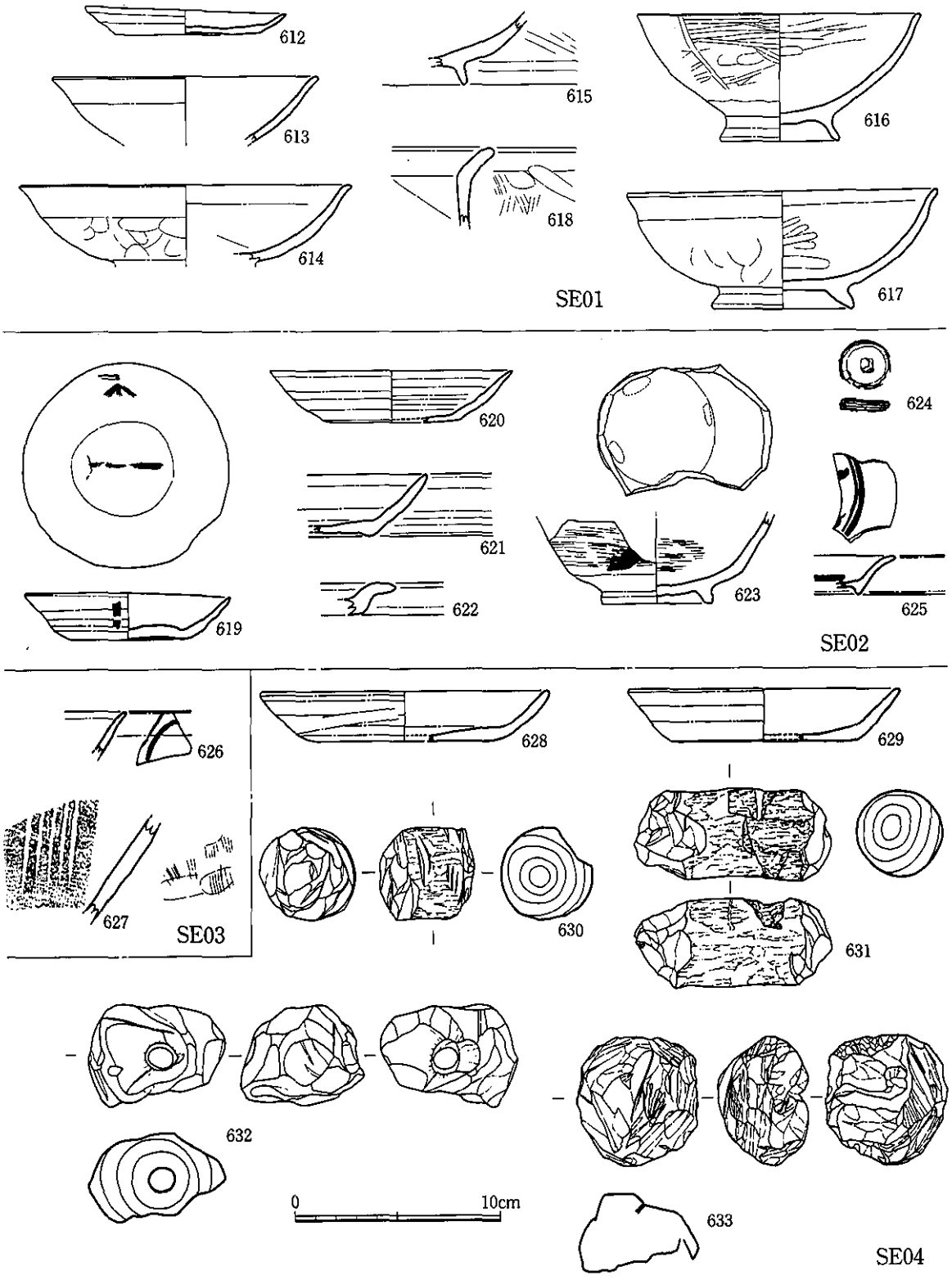
SE04（第81図）　調査区南西壁中央部に接して位置し、SD06の底面から検出された。平面約1.3mの円形を呈し、深さは約1.1mを測る。検出面から45cmで井筒が確認され、またほぼ同レベルで植物質の編物が検出された。使用時に井筒の縁に敷いていたものであろうか。さらに裏込土を掘下げると、多くの径２～３cmの小枝と混在して、球状木製品（第82図630～633）が出土した。小枝出土の要因は、構造強化の可能性もあるが、複数の球状木製品の出土からは、祭祀的な意図が感じられる。井筒は16枚の板を、３ヶ所の竹タガで留めたもので、径55cm、長さ65cmを測る。井筒内の埋土は黒色粘質土、裏込土は上層が暗灰色土を多く含む青灰色粘質土、下層が灰白色砂質土であっ



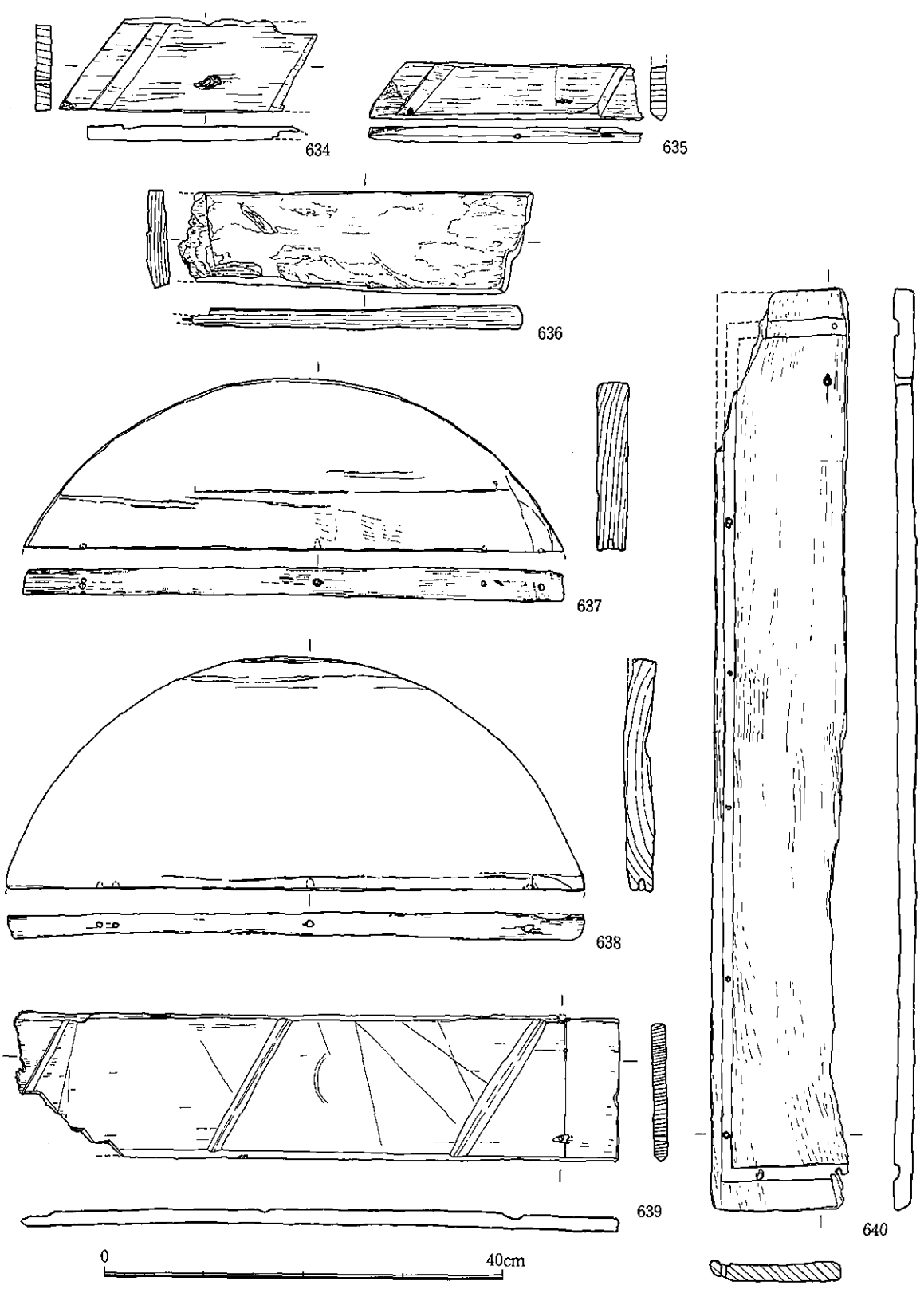
第80図　4区　SE01～03・06実測図（1/30）



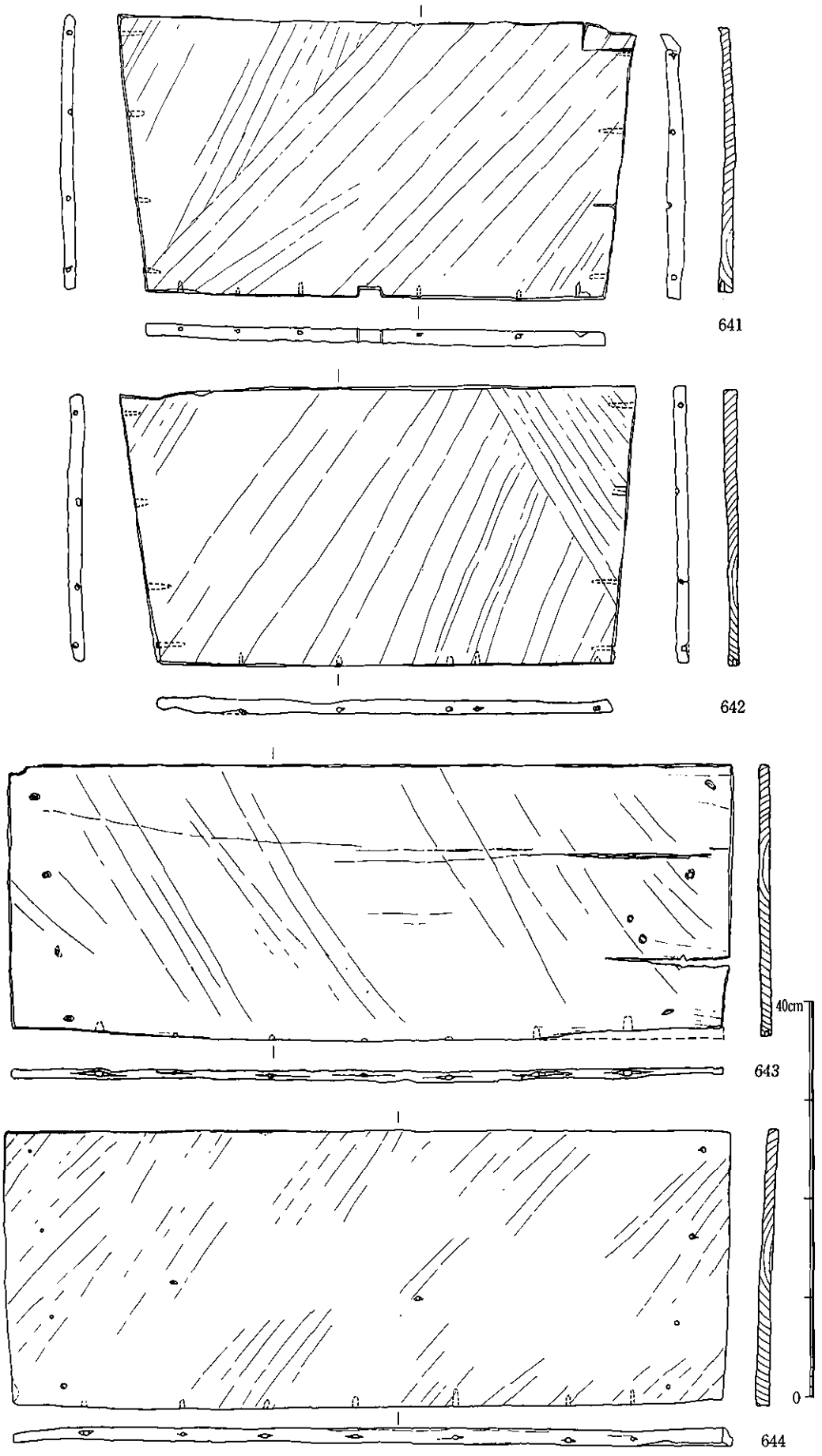
第81図　4区　SE04・05実測図（1/30）



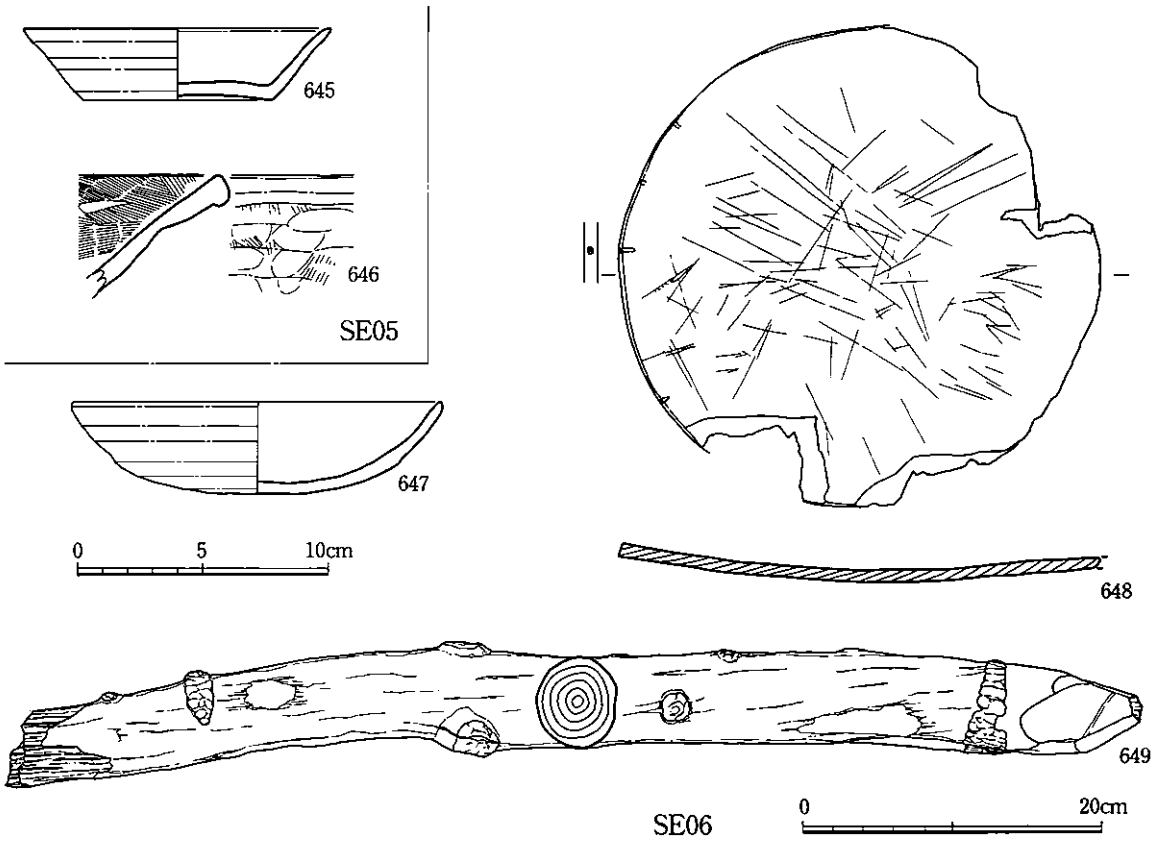
第82図　4区　SE01～04遺物実測図（1/3）



第83図　4区　SE05井戸枠部材実測図1（1/6）



第84図　4区　SE05井戸枠部材実測図2（1/6）



第85図　4区　SE05・06遺物実測図（648・649：1/5、その他：1/3）

た。小枝や木製品は、砂質土の上部から上面にかけて出土した。

遺物（第82図）　628・629は土師器杯。630～633は球状あるいは棒状木製品。球状のものについては毬杖の球の可能性もある。すべて裏込め内出土。630は短い棒状の芯持材を素材とし、両端を丸く加工することで球形を作り出している。631も630と同じような素材・加工法を用いているが、形状は棒状を呈している。632も芯持材を素材とするが、全面を加工し、ややいびつな楕円形を呈している。中央に孔が確認されるが、ちょうど木目に沿っており、人為的な穿孔でない可能性もある。633は木取り不明。平面形が円形に成るように加工している。これ以外に土師器片・瓦器片が出土した。

SE05（第81図）　調査区南側に位置し、SD06の床面で確認された。約1.1mのいびつな円形プランを呈し、深さ約1.3mを測る。2段掘りとなる。テラス部では、4枚の板材を枡形に組み、木（竹）釘で留め木枠をつくっている。その上面には、木枠に沿って各1枚の板を横向きに置き、さらに4隅のうち3ヶ所に小形の板を斜め向きに配置している。また、平面図作成後に崩壊（見通し図には破線で復元）してしまったが、竹タガが原位置を保って確認できたことから、本来板の上に円形の井筒が置かれていたと考えられる。井筒内の埋土は黒褐色粘質土、裏込土は黒褐色土を含む青灰色粘質土であった。裏込土中より、5点の大ぶりな角礫が出土し、木枠の安定のために持ち込まれたと想定できよう。

遺物（第83～85図）　634～644は井戸枠の構成部材。637・638は桶類の底板の転用品である。いずれも破面に継棒を挿入するための穿孔があり、本来3枚程度で一組の底板が作られていたと考え

られる。634～636・640も何らかの部材の転用品である。634・635・639は、規模は異なるものの、斜めに溝状に窪められるという共通点を持つ。640は長方形の素材に沿って、溝状に窪められており、そこに釘孔らしき穿孔が認められる。家具類の部材か。641～644は井戸枠最下部の枡形の木組を構成していたもの。いずれも、鋸で挽いたような加工痕が残る。641・642は643・644に挟まれて出土し、641・642の両側面の釘孔と、643・644の両側縁部の釘孔は対応する。一方、4枚全ての下面に釘孔が認められるが、対応する底板は確認されていない。このことから、元々底板のあった枡形の木組の底板を除去し、井戸内に持ち込んだものと想定できる。645は土師器杯。646は瓦質鍋。裏込め土内出土。これ以外に、白磁片・瓦器片などが出土した。

SE06（第80図）　調査区南西側に位置する。平面約1.0mの円形を呈し、深さ約1.6mを測る。埋土は、上層が黒褐色粘質土、下層が黒色粘質土と青灰色粘質土の混土層であった。井筒等は確認されなかった。

遺物（第85図）　647は土師器丸底杯。648は大形の曲物あるいは桶類の底板。側面に側板を留めるための穿孔が認められる。また表面には刃物でついたような直線的な傷跡が観察できる。649は杭。斜めに立った状態で出土したが、底面に刺さってはいなかった。素材の一端を粗く尖らす。これ以外に、土師器片・瓦器片・須恵器片が出土した。

（3）土　坑

SX01（第86図）　調査区北東隅近くに位置し、SD02を切る。平面2.2m×1.5mの楕円形を呈し、深さ10cmを測る。

遺物（第89図）　650は瓦器椀。体部は比較的直線的に広がる。これ以外に、土師器片、黒色土器片、須恵器片が出土した。

SX02（第86図）　調査区北東壁近くに位置し、SD04に切られる。平面1.3m×0.8mの隅丸長方形を呈し、深さ52cmを測る。平面形からは土壙墓の可能性も考えられるが、縦断面の形状や土層の堆積状況からは肯定できない。

遺物（第89図）　651は瓦質甕。外面格子目タタキ。652は中国産陶器壷類。外面に飴釉を施す。このほか同安窯系青磁片、瓦器片、土師器片、鉄器片などが出土した。

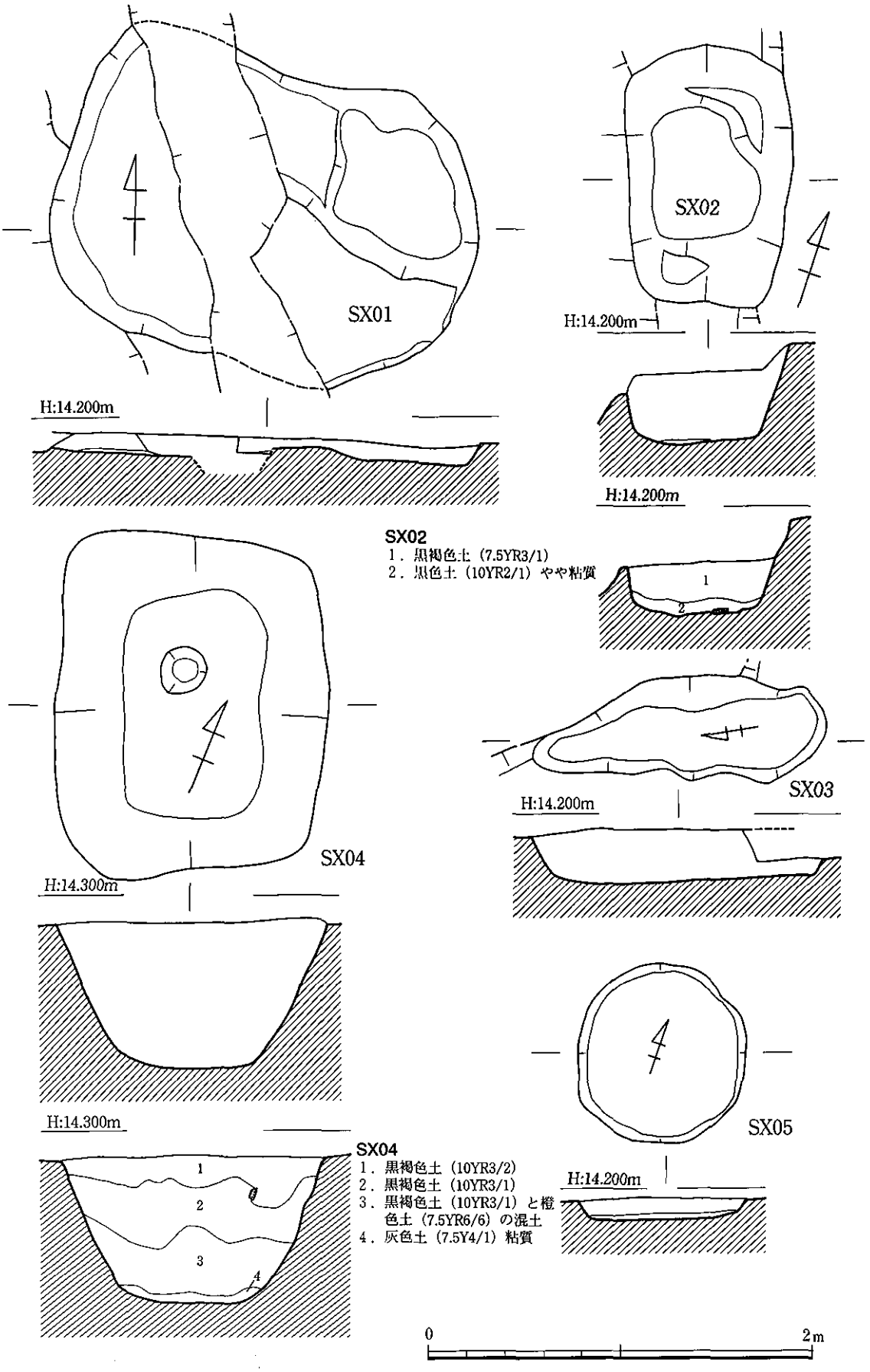
SX03（第86図）　調査区北東壁近く、SX02の北側に位置する。SD04に切られる。平面1.5m×0.5mの楕円形を呈し、深さ28cmを測る。

遺物（第89・125図）　653は移動式カマドか。焚き口から庇の部分に相当する。1019・1020は丸瓦。この他に土師器片が出土した。

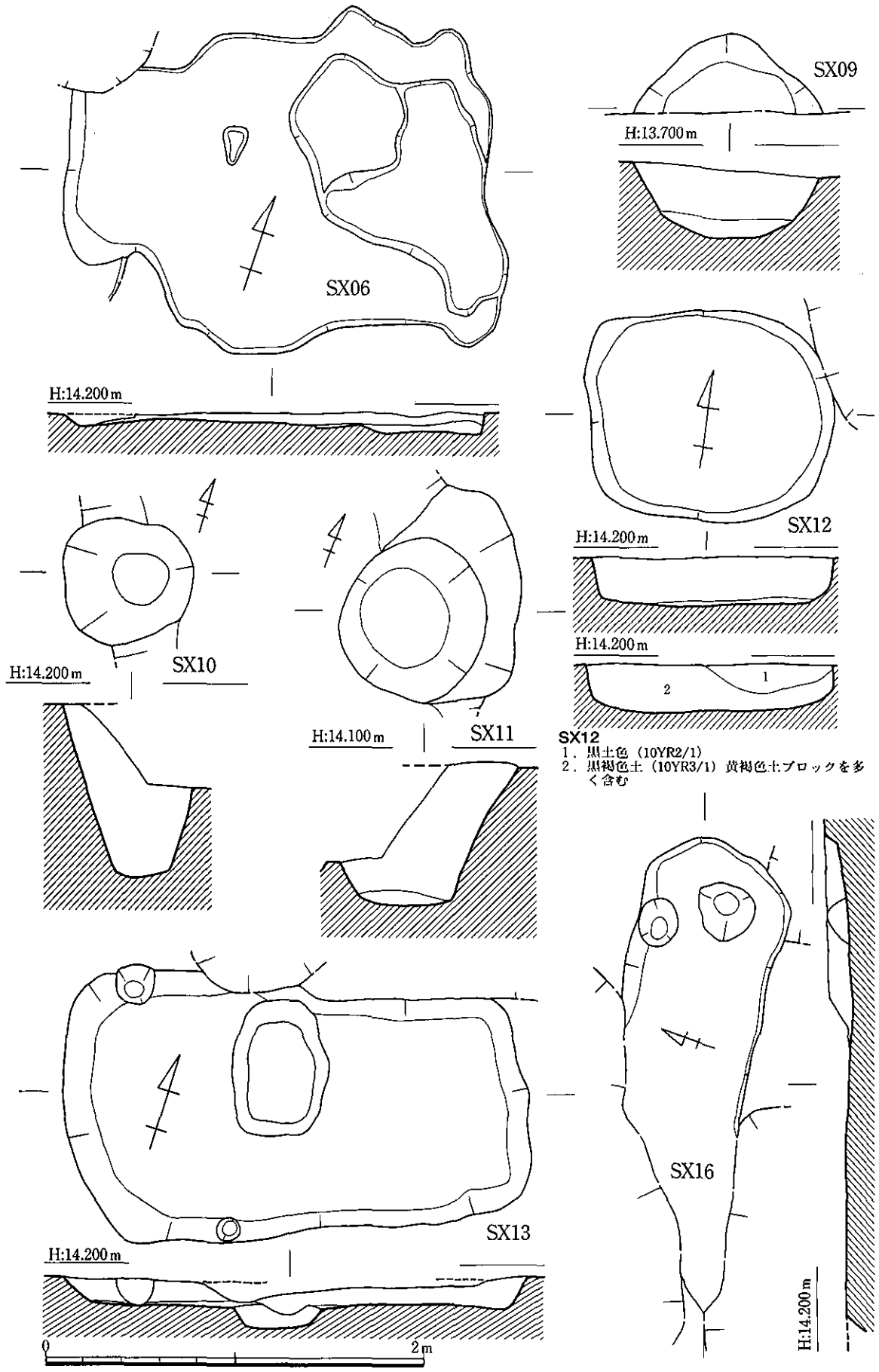
SX04（第86図）　調査区やや北側に位置し、平面1.7m×1.4mの隅丸方形を呈し、深さ76cmを測る。底面やや北側で径24cm、深さ8cmのピットが検出された。壁面の立ち上がりは比較的急である。土層観察の結果、最下層は灰色粘質土であるため、使用時には滞水していた可能性がある。

遺物（第89図）　654は滑石製石鍋。鍔より下は煤の付着が顕著である。これ以外には、東播系こね鉢片、瓦質擂鉢片、白磁片、瓦器片、土師器片などが出土した。

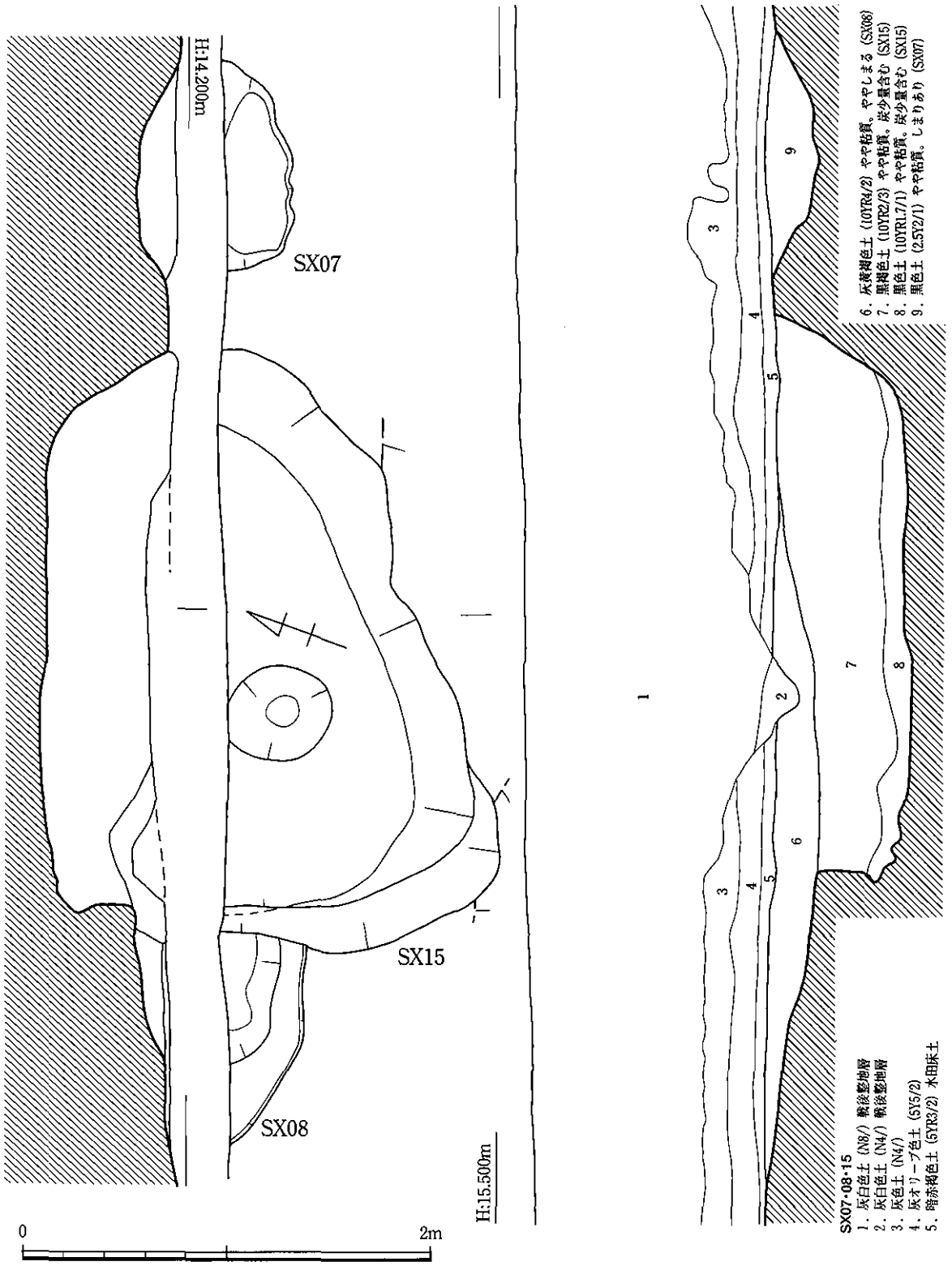
SX05（第86図）　調査区やや北側、SX04とSX14の間に位置する。平面約0.9mの円形を呈し、深さ12cmを測る。埋土は黒褐色土の単層であった。遺物は、黒色土器片（A類）、土師器片が出土



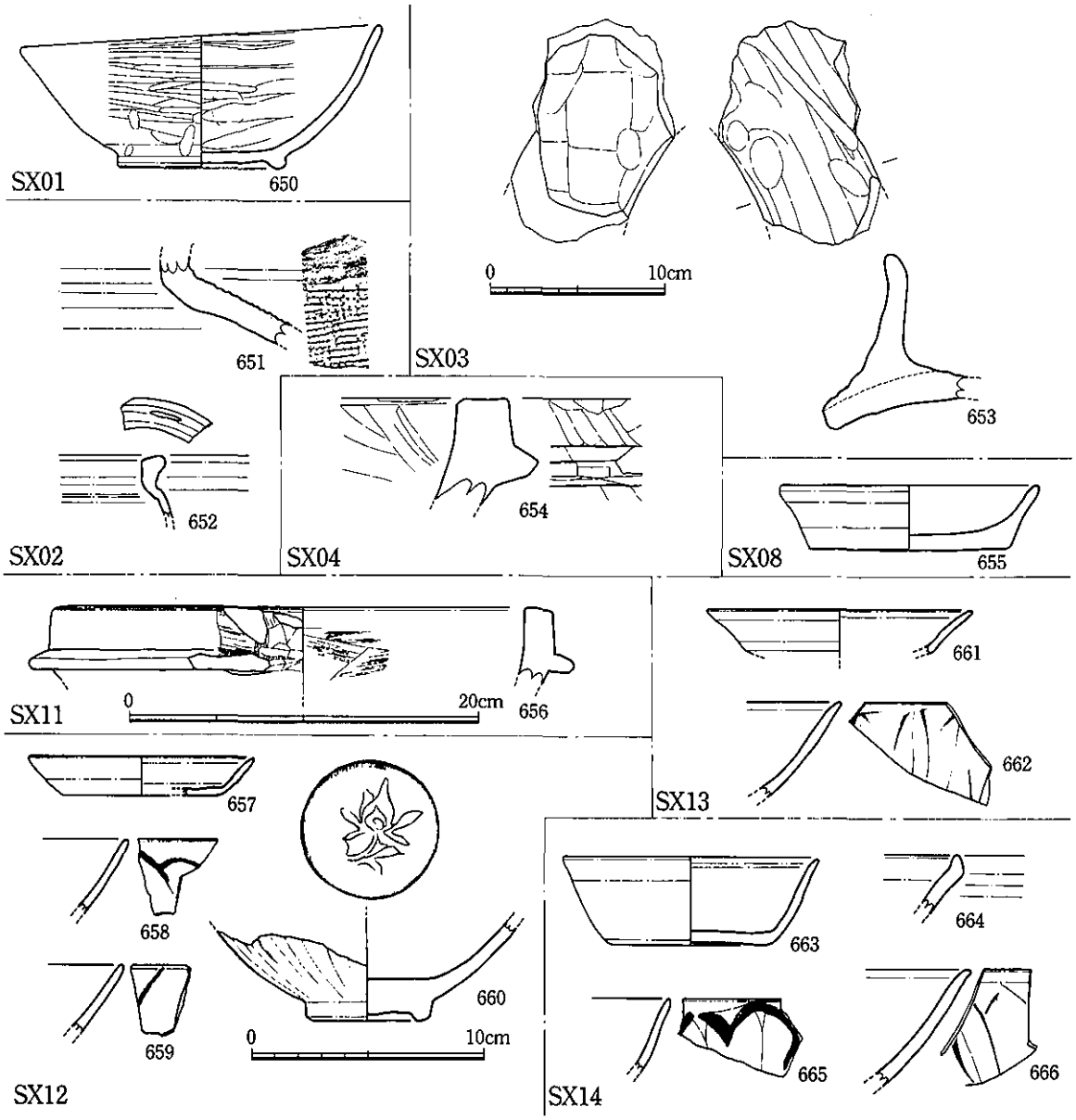
第86図　4区　SX01～05実測図（1/30）



第87図　4区　SX06・09～13・16実測図（1/30）



第88図　4区　SX07・08・15実測図（1/30）



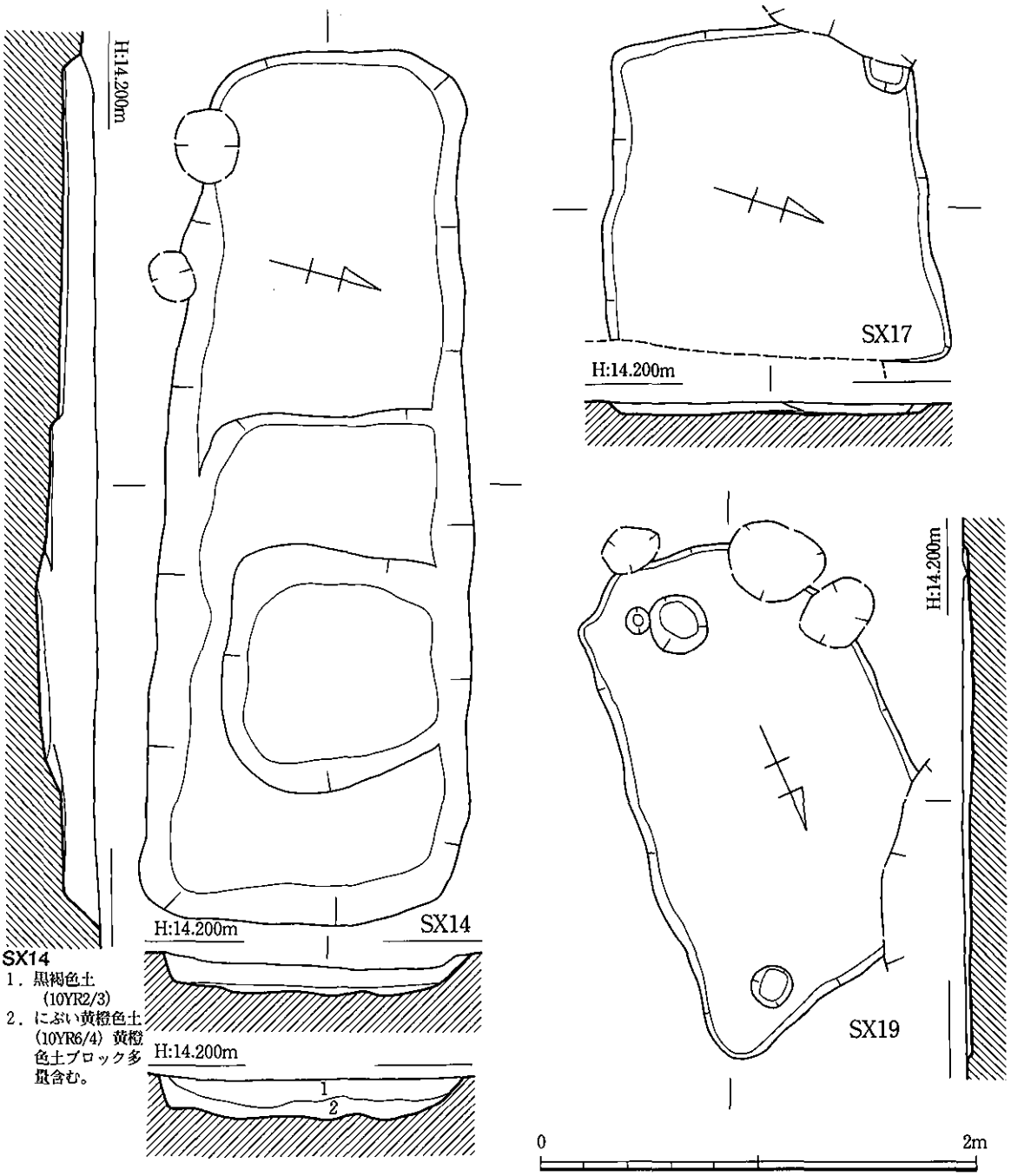
第89図　4区　SX01～05・08・11～14遺物実測図（653・656：1/4、その他：1/3）

したが、図化できるものはない。

SX06（第87図）　調査区北西壁中央部の近くに位置し、SX16に切られる。平面2.2m×1.7mのややいびつな長方形を呈し、深さ10cmを測る。東側の床面は2段掘り状に深くなる。遺物は底部糸切り土師器片、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SX07（第88図）　調査区北西壁中央部に接して検出され、調査区外に続く。平面1.0m×0.3m以上の規模を有し、深さ20cmを測る。埋土は黒色土の単層であった。遺物は白磁片、土師器片などが出土した。

SX08（第88図）　調査区北西壁中央部に接して検出され、調査区外に続く。土層図でわかるとおり、SX15を明らかに切っている。長径3.5m以上の規模を有し、深さ63cmを測る。埋土は、灰黄褐色土の単層であった。



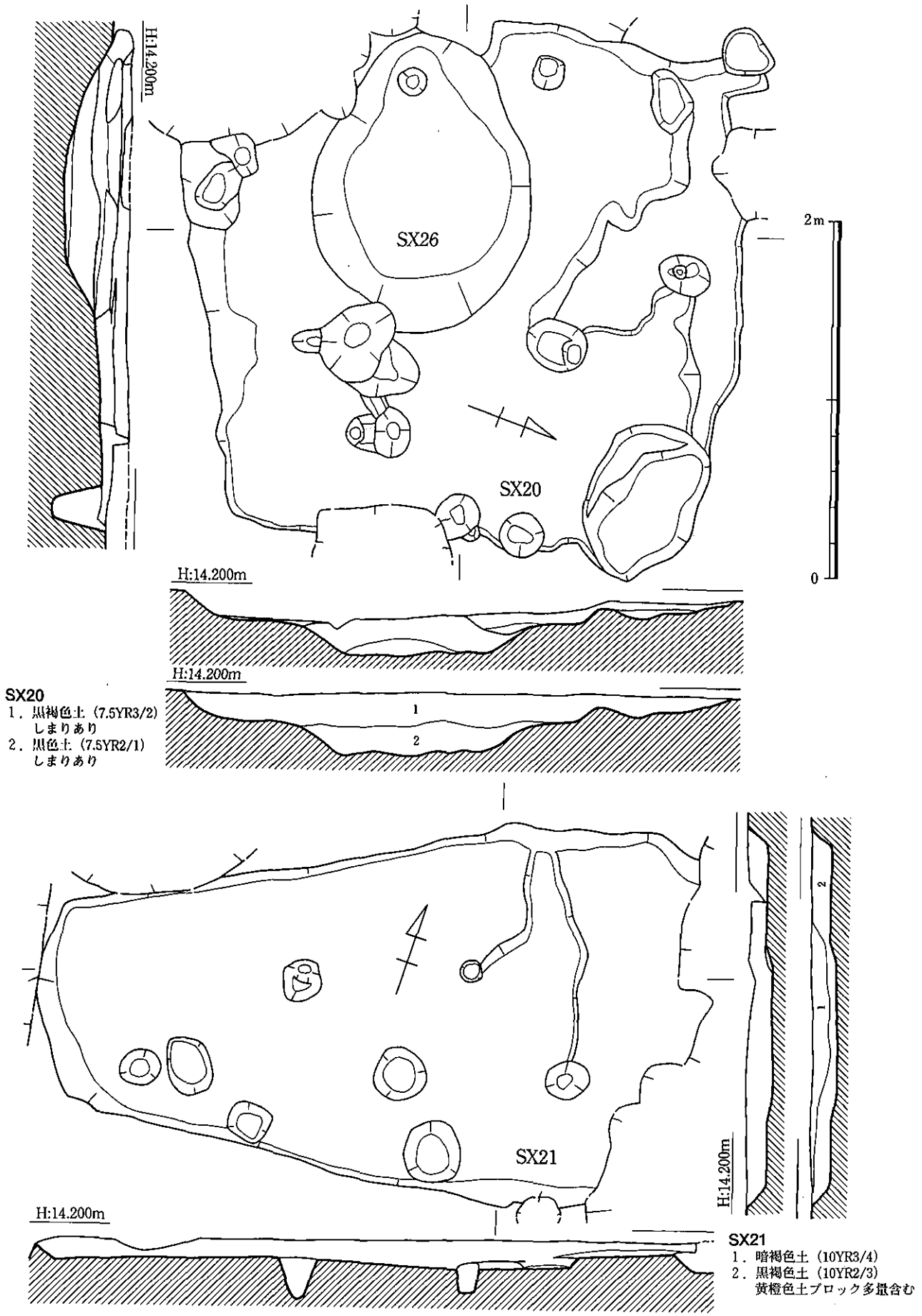
第90図　4区　SX14・17・19実測図（1/30）

遺物（第89図）　655は土師器杯。これ以外に竜泉窯系青磁（太宰府分類Ⅱ類）瓦器片、土師器片が出土した。

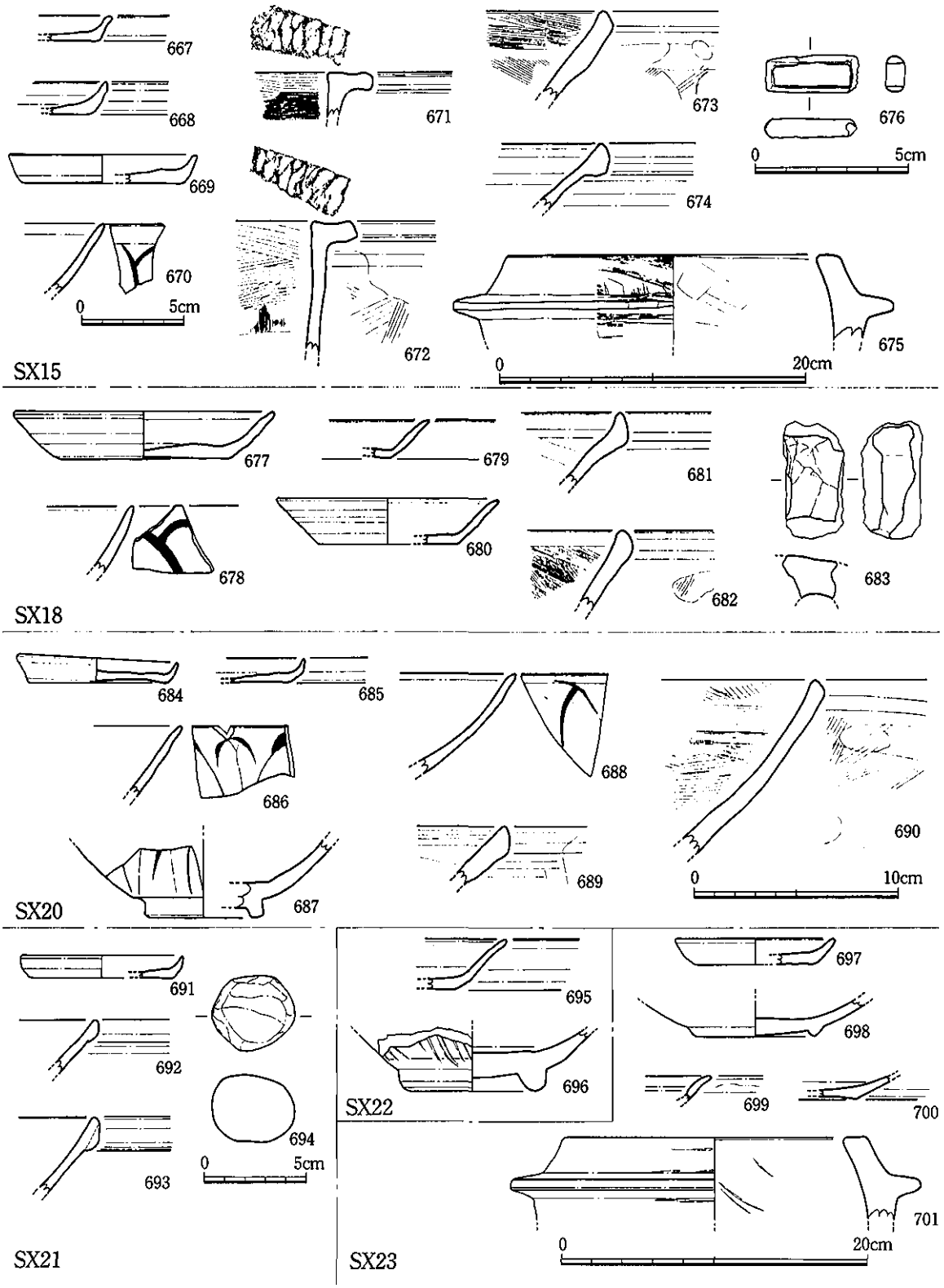
SX09（第87図）　調査区北西壁北側に接して位置し、調査区外に続く。SD06に切られる。1.5m×0.4m以上の規模を有し、深さ36cmを測る。遺物は須恵器甕片、土師器片が出土したが、図化できるものはない。

SX10（第87図）　調査区北側ほぼ中央に位置し、SD05に切られる。平面径0.7mの円形を呈し、深さ90cmを測る。遺物は須恵器甕片、土師器片が出土したが、図化できるものはない。

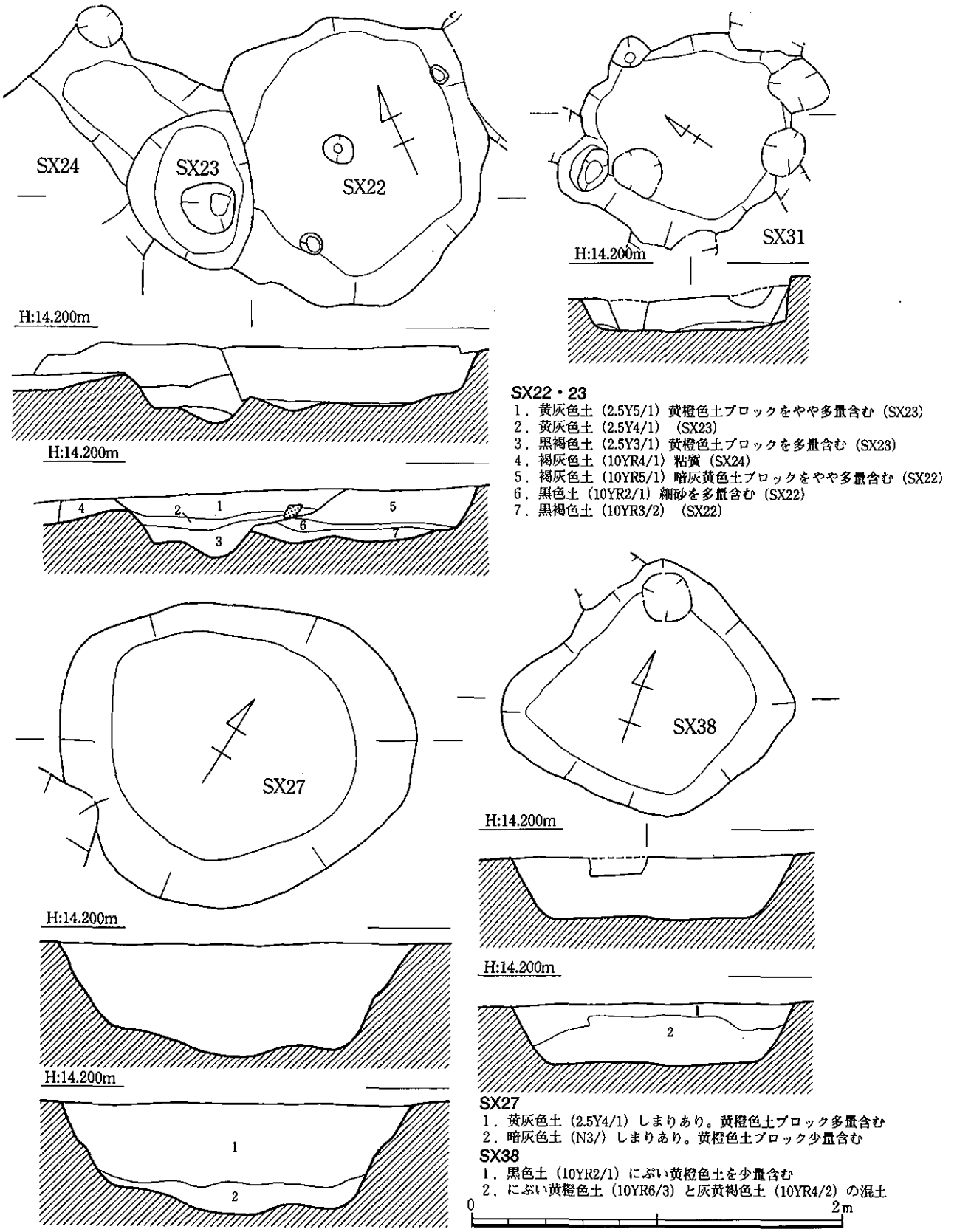
SX11（第87図）　調査区北側やや東側に位置し、SD06に切られる。本来径1.2m前後の円形を



第91図　4区　SX20・21・26実測図（1/30）



第92図　4区　SX15・18・20～23遺物実測図（676：1/2、675・701：1/4、その他：1/3）



SX22・23
1．黄灰色土（2.5Y5/1）黄橙色土ブロックをやや多量含む（SX23）
2．黄灰色土（2.5Y4/1）（SX23）
3．黒褐色土（2.5Y3/1）黄橙色土ブロックを多量含む（SX23）
4．褐灰色土（10YR4/1）粘質（SX24）
5．褐灰色土（10YR5/1）暗灰黄色土ブロックをやや多量含む（SX22）
6．黒色土（10YR2/1）細砂を多量含む（SX22）
7．黒褐色土（10YR3/2）（SX22）

SX27
1．黄灰色土（2.5Y4/1）しまりあり。黄橙色土ブロック多量含む
2．暗灰色土（N3/）しまりあり。黄橙色土ブロック少量含む

SX38
1．黒色土（10YR2/1）にぶい黄橙色土を少量含む
2．にぶい黄橙色土（10YR6/3）と灰黄褐色土（10YR4/2）の混土

第93図　4区　SX22・23・27・31・38実測図（1/30）

呈していたと推定される。深さは0.7mを測る。

遺物（第89図）　656は滑石製石鍋。鍔以下には煤の付着が顕著である。これ以外に、土師器片、須恵器片が出土した。

SX12（第87図）　調査区やや北側に位置し、SX04に切られる。平面約1.3m×1.1mの楕円形を呈し、深さ25cmを測る。埋土は自然堆積により2層に分層できる。

遺物（第89図）　657は白磁皿。口縁部内面が口禿げとなる。太宰府分類Ⅸ類。658～660は竜泉窯系青磁椀。いずれも外面に蓮弁を施すが、658・659はやや退化している。660は見込みに花文を施す。この他、土師器片、黒色土器片、瓦器片、施釉・無釉陶器片（中国産か）などが出土した。

SX13（第87図）　調査区北西壁中央部近く、SX14とSX15の間に位置し、SX16を切る。平面2.4m×1.4mの隅丸長方形を呈し、深さ14cmを測る。底面は比較的平坦である。底面中央部に楕円形のピットが検出されたが、当遺構に伴なうものか明確でない。

遺物（第89図）　661は白磁皿。口縁部内面は口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。662は竜泉窯系青磁椀。鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。このほか、須恵質土器片、土師器片、瓦器片が出土した。

SX14（第90図）　調査区やや西側に位置する。近接するSX13・SX16とともに、主軸を調査区の形状にほぼ合わせる。4.0m×1.4mの隅丸長方形プランを呈する。底面は3段掘り状になり、最深部は深さ28cmを測る。

遺物（第89図）　663は白磁椀。口縁部内面は口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。664は東播系こね鉢。665・666は竜泉窯系青磁椀。鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。このほか白磁片、須恵質土器片、土師器片、瓦器片などが出土した。

SX15（第88図）　調査区北西壁中央部に接して検出され、調査区外に続く。土層図で明らかなとおり、SX08に切られる。平面2.8m×1.4m以上の規模を有し、深さ62cmを測る。底面は、東側がやや深くなり、中央部で径約50cm、深さ22cmのピットが検出された。

遺物（第92図）　667～669は土師器小皿。670は竜泉窯系青磁椀。蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。671・672は瓦質鍋。どちらも口縁部上面に繊維状の圧痕の残る刻み目を施す。同一個体の可能性あり。673は瓦質鉢。674は東播系こね鉢。676は銅製品。平面長方形を呈し、断面半月形になる。刀装具あるいはベルト飾りの一部か、詳細不明。675は滑石製石鍋。鍔以下では煤の付着が顕著である。

SX16（第87図）　調査区北西壁中央部近くに位置し、SX06を切り、SX13・SX15に切られる。平面2.5m以上×0.7mの規模で、長楕円形を呈し、深さ11cmを測る。底面および壁面に接して、深さ25～30cmの2基のピットが確認されるが、当遺構に伴なう可能性は低いと考えられる。遺物は、瓦器片や土師器片などが出土したが、図化できるものはない。

SX17（第90図）　調査区北西壁中央部近く、SX22を切る。東端を試掘トレンチによって欠くが、およそ1.6m×1.5mの隅丸方形プランが想定できる。底面は平坦で、深さは6cmを測り、壁面の立ち上がりは比較的緩やかである。遺物は、青磁片、瓦器椀、糸切り土師器片などが出土した。

SX18　調査区北西壁に接して位置する。検出した当初、8.5m×3.3mにおよぶ大規模な不整形土坑と認識し、掘下げを行った。結果、SX23～26・33～36という複数の遺構が切り合っていたこ

とが明らかになった。よって、これらの個別遺構を認識する以前の上層の遺物に限って、SX18の名称で取り扱っている。

遺物（第92図）　677は土師器杯。678は竜泉窯系青磁椀。やや退化した蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。679・680は白磁皿。口縁部は口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。681は東播系こね鉢。682は瓦質鉢。683はフイゴの羽口。これ以外に瓦器片、須恵質土器片、青磁片、砥石片、土師器片などが出土した。

SX19（第90図）調査区やや南西側に位置し、SX25・27に切られる。2.3m×1.2mの隅丸長方形プランを呈し、深さ4cmを測る。底面は平坦である。遺物は青磁片、瓦器片、土師器片などが出土した。

SX20（第91図）　調査区やや南西側に位置し、SX21を切る。3.0m×2.9mの隅丸方形プランを呈し、深さは18cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかで、底面には凹凸が認められる。底面からはいくつかのピットとともに、SX26が検出された。別遺構として報告するが、一連の遺構の可能性も高い。

遺物（第92図）　684・685は土師器小皿。686～688は竜泉窯系青磁椀。いずれも蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。689・690は瓦質鉢。これ以外に瓦質擂鉢、瓦器椀、中国産陶器盤片、石鍋片、土師器片などが出土した。

SX21（第91図）　調査区やや南西側に位置し、SX20に切られる。北端を欠くが、現状で3.7m×2.1mの隅丸長方形プランを呈し、深さは15cmを測る。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

遺物（第92図）　691は土師器小皿。692・693は白磁椀。693は太宰府分類Ⅳ類。694は球状土製品。これ以外に、土師器片、瓦器片、青磁片などが出土した。

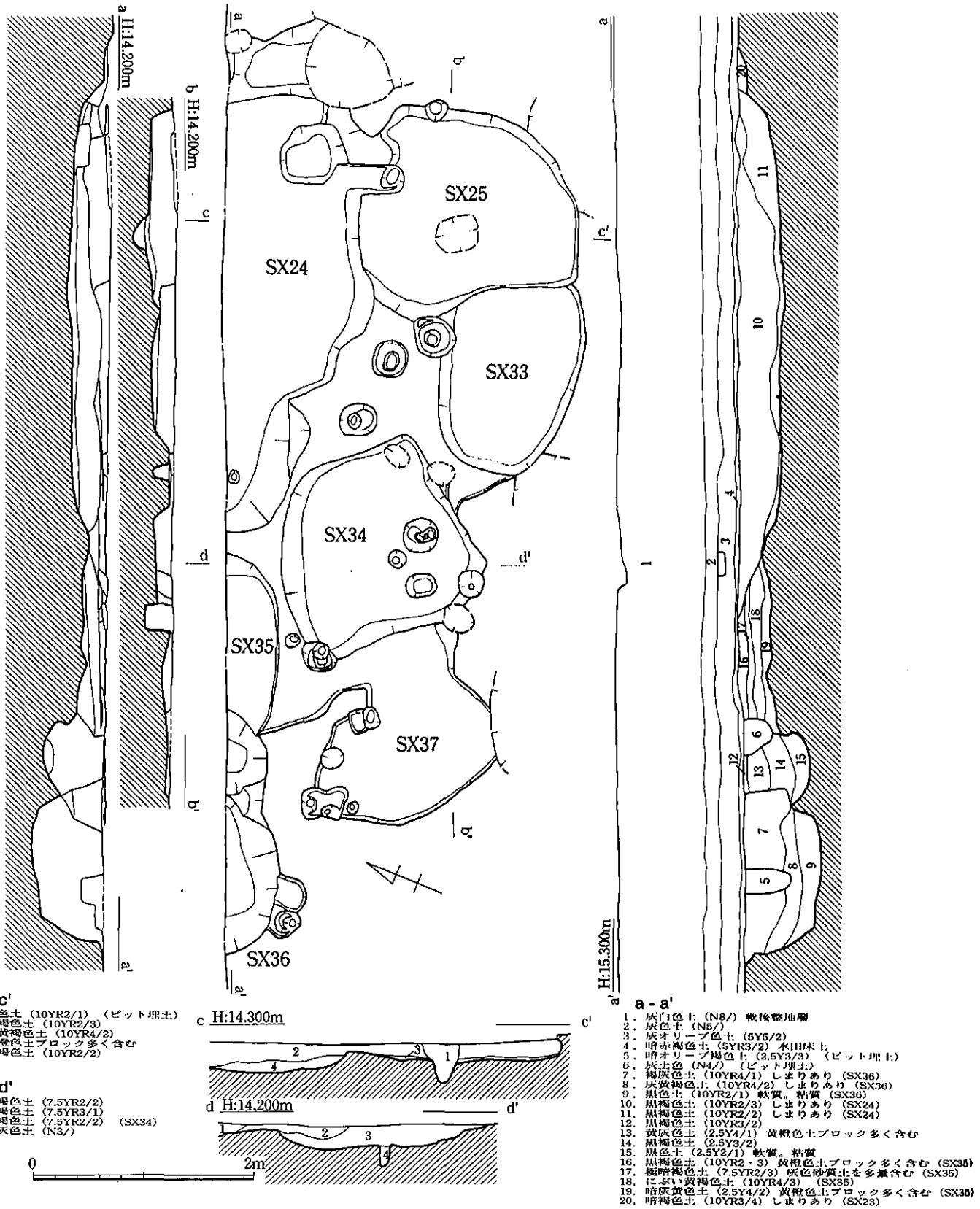
SX22（第93図）　調査区北西壁近くに位置し、SX17・23に切られる。北西側を欠くが、本来径1.6m前後のいびつな円形を呈していたものと考えられる。深さ27cmを測る。底面にはやや凹凸が認められる。

遺物（第92図）　695は白磁皿。口縁部は口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。696は同安窯系青磁椀。外面に粗い櫛目文を施し、見込みは蛇の目状に釉を掻きとる。太宰府分類Ⅲ－2類。これ以外に、瓦器片、土師器片などが出土した。

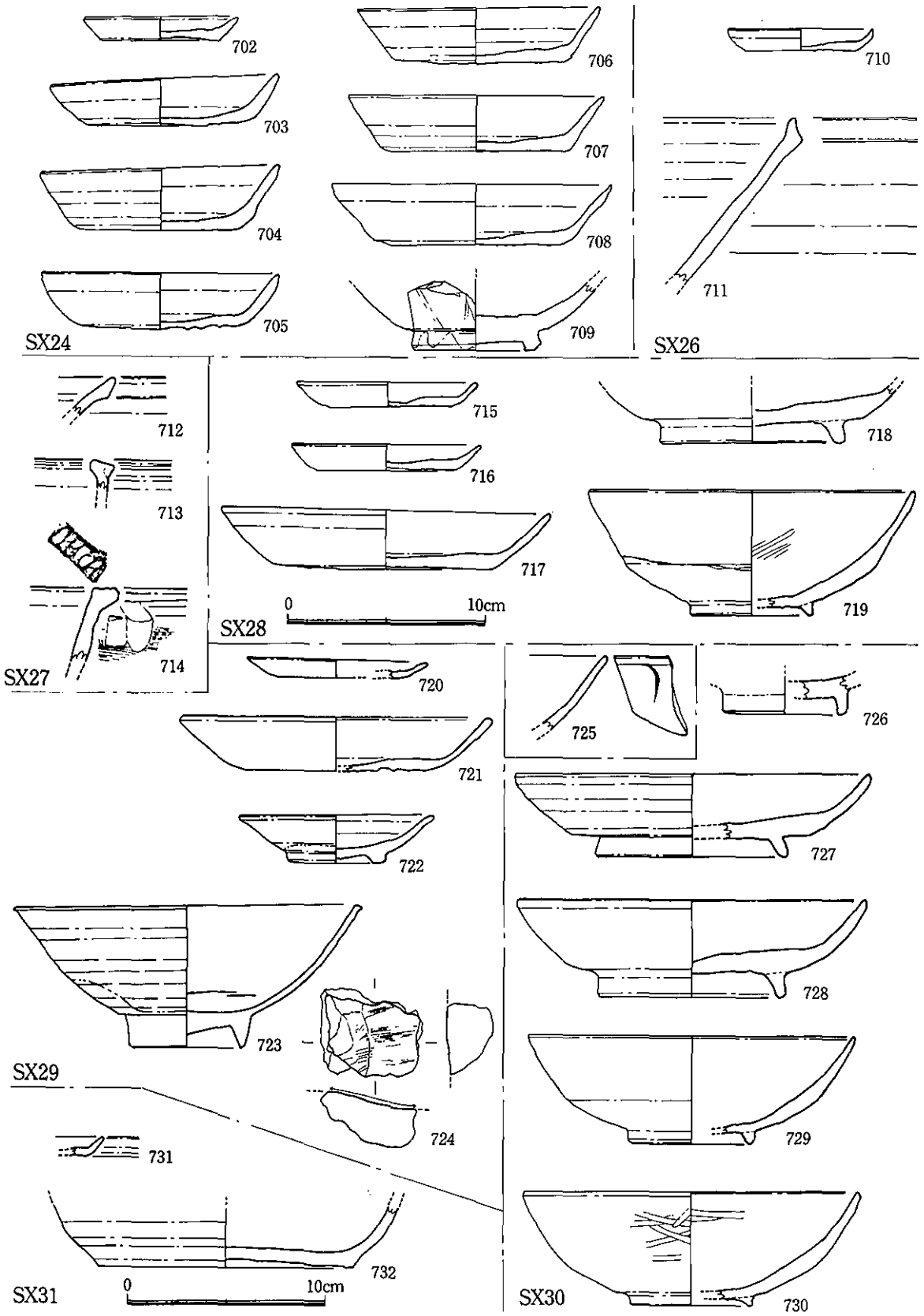
SX23（第93図）　調査区北西壁に接して位置し、SX22を切り、SX24に切られる。当初SX18という不整形の大型土坑として掘下げた遺構のうち、最も北側にあたる。現状で1.4m×0.7mのいびつな楕円形を呈するが、土層観察によれば、一回り大きな規模であったことがわかる。南東側に深い2段掘り状となり、最深部は約40cmを測る。

遺物（第92図）　697は土師器小皿。698は瓦器椀。699は青磁皿。同安窯系か。700は白磁皿。701は滑石製石鍋。鍔以下で煤の付着が顕著。この他、土師器片などが出土した。

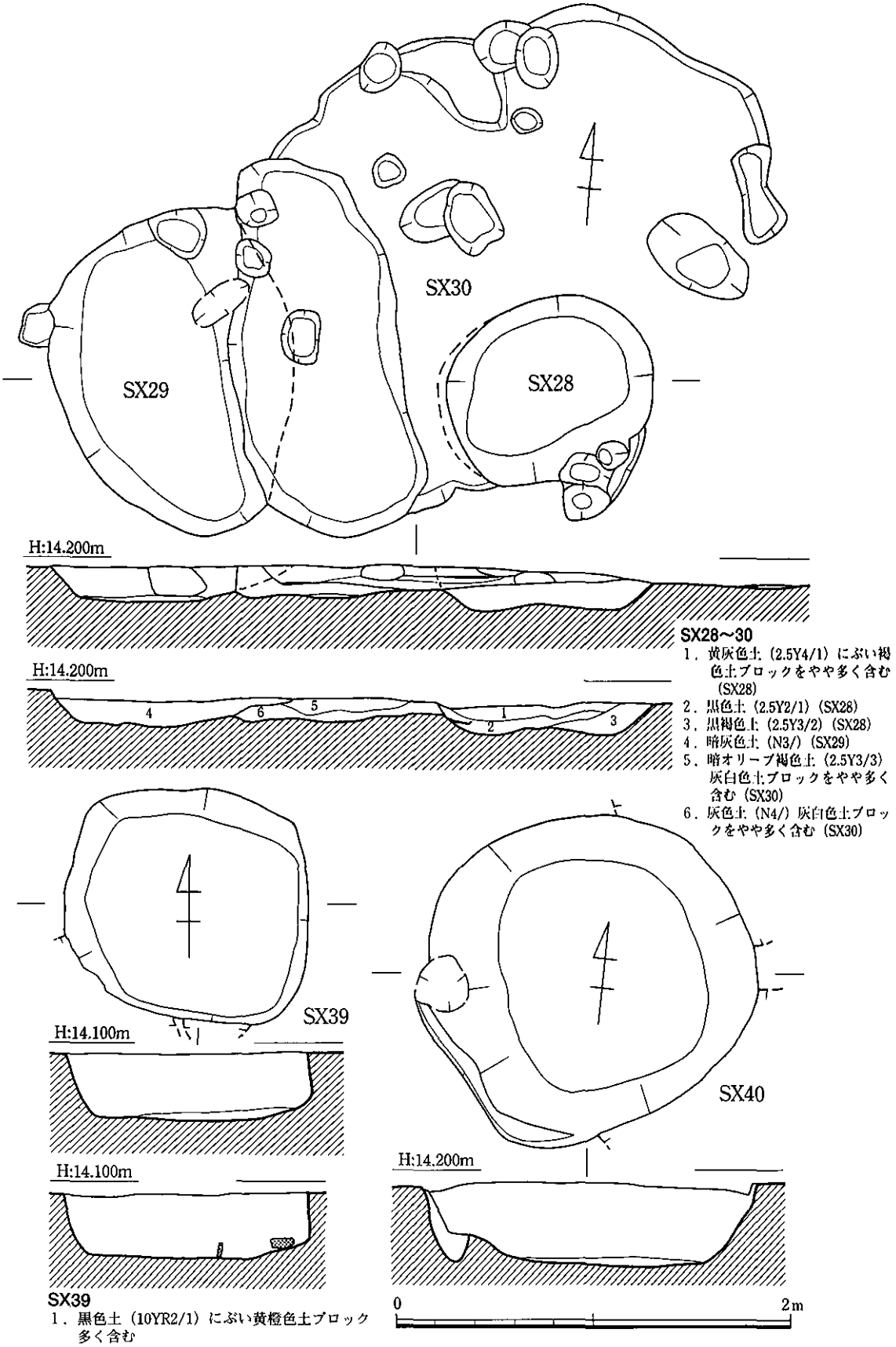
SX24（第94図）　調査区北西壁に接して位置する。当初、SX18という不整形大形土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つである。調査区外に続くものの、現状で3.9m×1.3m以上の規模を有する。検出面からの深さは40cmで、壁の立ち上がりは緩やか、底面は比較的平坦である。底面付近からは土師器小皿・杯が多量出土したが、集中して廃棄された状況ではない。



第94図　4区　SX24・25・33～37実測図（1/50）



第95図　4区　SX24・26～31遺物実測図（1/3）



第96図　4区　SX28～30・39・40実測図（1/30）

遺物（第95図）　702は土師器小皿。703～708は土師器杯。709は竜泉窯系青磁椀。焼成不良のため判然としないが、蓮弁を施す。高台の形状から太宰府分類Ⅳ類に相当しよう。これ以外に、瓦器片、黒色土器片、黒曜石片などが出土した。

SX25（第94図）　調査区北西壁に近接して位置する。当初、SX18という不整形大形土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つである。SX24とは別遺構としたが、土層図を見てわかるように本来同一遺構であろう。2.0m×1.9mの楕円形プランを呈し、深さは16cmを測る。遺物は瓦器片、土師器片（糸切り、板状圧痕）が出土したが、図化に耐えれない。

SX26（第91図）　調査区やや南西側に位置し、SX20の底面で検出された。1.7m×1.2mの楕円形プランを呈し、深さは20cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかで、底面は凹レンズ状にくぼむ。

遺物（第95図）　710は土師器小皿。711は東播系こね鉢。内面下位には使用痕が認められる。

SX27（第93図）　調査区やや南西側に位置し、SX21を切り、SX42に切られる。平面1.9m×1.6mの楕円形を呈し、深さ60cmを測る。壁面の立ち上がりはやや急で、底面には凹凸がある。

遺物（第95図）　712は東播系こね鉢。713は中国産陶器壷あるいは小盤か。714は瓦質鍋。口縁部に繊維質の圧痕の残る刻み目がある。これ以外に、白磁片、滑石片、土師器片、焼土塊が出土した。

SX28（第96図）　調査区ほぼ中央に位置し、SX30を切る。平面1.1m×0.9mの楕円形を呈し、深さ15cmを測る。壁面は緩やかに立ち上がる。土層観察の結果、掘り返しの可能性が指摘できる。

遺物（第95図）　715・716は土師器小皿。717・718は土師器杯。718は高台付き。719は瓦器椀。これ以外に滑石製石鍋片、焼土塊などが出土した。

SX29（第96図）　調査区ほぼ中央に位置し、SX30を切る。平面1.7m×1.2mの楕円形を呈し、深さ16cmを測る。底面は比較的平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土は暗灰色土の単層であった。

遺物（第95図）　720は土師器小皿。721は土師器杯。722は白磁皿。太宰府分類Ⅲ類。723は白磁椀。高台は高く、口縁部は屈曲する。太宰府分類Ⅴ類。724は焼土塊。壁土の一部となる可能性が高い。725は竜泉窯系青磁椀。SX28～30の切り合いが不明確な段階で出土した。これ以外に土師器片、滑石製石鍋片などが出土した。

SX30（第96図）　調査区ほぼ中央に位置し、SX28・29に切られる。平面2.7m×2.2mの楕円形を呈し、深さ12cmを測る。底面は非常に緩やかな凹レンズ状をなし、西側は検出面が低くなることもあり、掘り込みが十分に確認できない。なお、SX28～30の埋土中からは多くの土師器が出土しており、いずれも廃棄土坑としての性格が想定できる。

遺物（第95図）　726は白磁椀。太宰府分類Ⅴ類か。727・728は土師器高台付き杯。727はSX28・29との切り合いが不明確な段階で出土している。729・730は瓦器椀。このほか土師器片、白磁片などが出土している。

SX31（第93図）　調査区やや西側、SX20の底面で検出された。径1.1mのいびつな円形プランを呈し、深さは18cmを測る。底面は平坦で、壁面の立ち上がりは比較的急である。

遺物（第95図）731は土師器小皿。732は中国産陶器小盤。内面のみ灰黄色の釉が施される。これ

以外にも、土師器片、瓦器片、焼土塊が出土している。

SX33（第94図）　調査区北西壁に近接して位置する。当初、SX18という不整形大形土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つである。SX25との先後関係は不明である。1.6m×1.2mの楕円形プランを呈し、深さは22cm、底面は比較的平坦である。

遺物（第98図）　733・734は土師器小皿。これ以外に、瓦器、土師器、焼土塊などが出土した。

SX34（第94図）　調査区北西壁に近接して位置する。当初、SX18という不整形大型土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つである。2.1m×1.8mのいびつな楕円形プランを呈し、深さは22cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物（第98図）735・736は土師器小皿。737・738は土師器杯。737は口縁部周辺が煤けたように黒化している。灯明皿か。739は竜泉窯系青磁椀。退化した蓮弁を施す。740は瓦質鉢。741は砥石。砂岩製。これ以外にも、土師器片、青磁片、白磁片などが出土している。

SX35（第94図）　調査区北西壁に接して位置し、SX24に切られる。当初、SX18という不整形大形土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つである。西側は調査区外に続き、南側は他遺構に切られるが、現状で1.6m以上×0.5m以上の規模を有し、深さは30cmを測る。遺物は、底部糸切り土師器片などが出土したが、図化できるものはない。

SX36（第94図）　調査区北西壁に接して位置する。当初、SX18という不整形大形土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つで、最も南側にあたる。北西側は調査区外に続くが、現状で1.4m以上×0.5m以上の規模を有し、深さは63cmを測る。底面は緩やかな凹レンズ状をなし、壁面の立ち上がりは比較的急である。

遺物（第98図）　742は土師器小皿。743は土師器杯。これ以外に、青磁片、白磁片、瓦器片などが出土した。

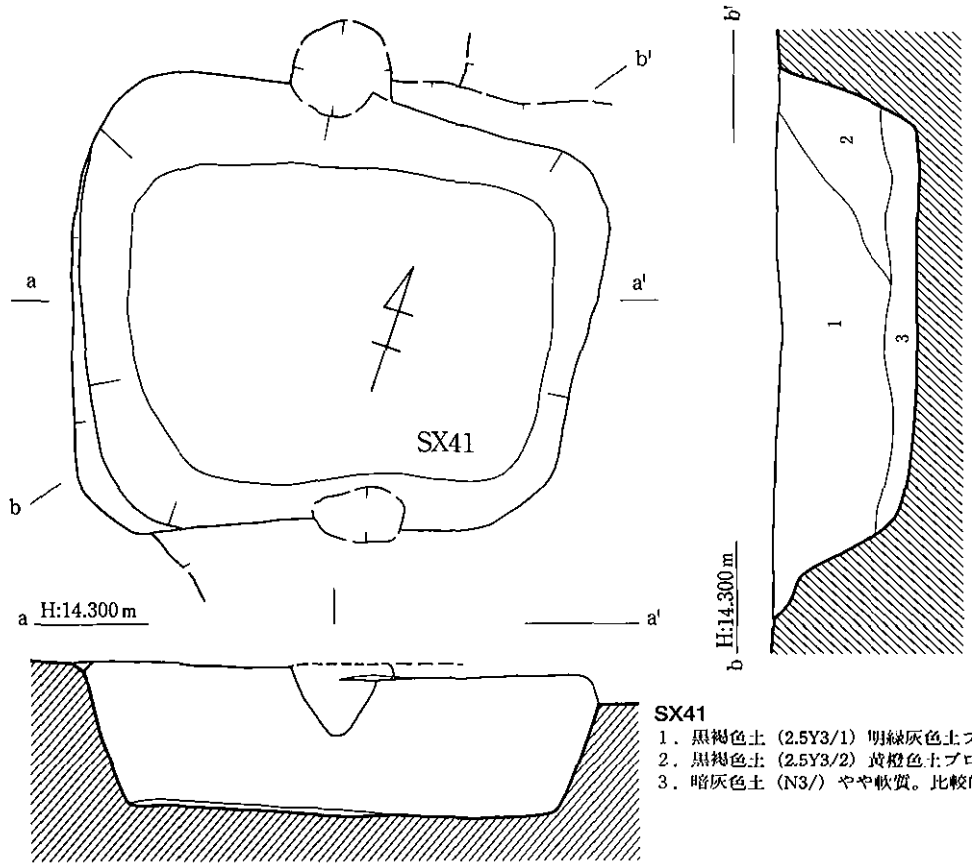
SX37（第94図）　調査区北西壁に近接して位置する。当初、SX18という不整形大形土坑として掘下げ、その後明確になった遺構の一つである。現状で平面1.6m×1.7m以上の不整形プランを呈する。確認面からの深さは９cmに過ぎず、レンズ状に窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は、土師器片が出土したが、図化には耐えない。

SX38（第93図）　調査区北西壁南側の近く、SX39の東隣に位置する。1.3m×1.2mのいびつな隅丸方形を呈し、深さ34cmを測る。壁面の立ち上がりは急で、底面は比較的平坦である。遺物は、鎬蓮弁を施した竜泉窯系青磁椀（太宰府分類Ⅱ類）２点、中国産褐釉陶器片、白磁片、瓦器片、土師器片が出土した。

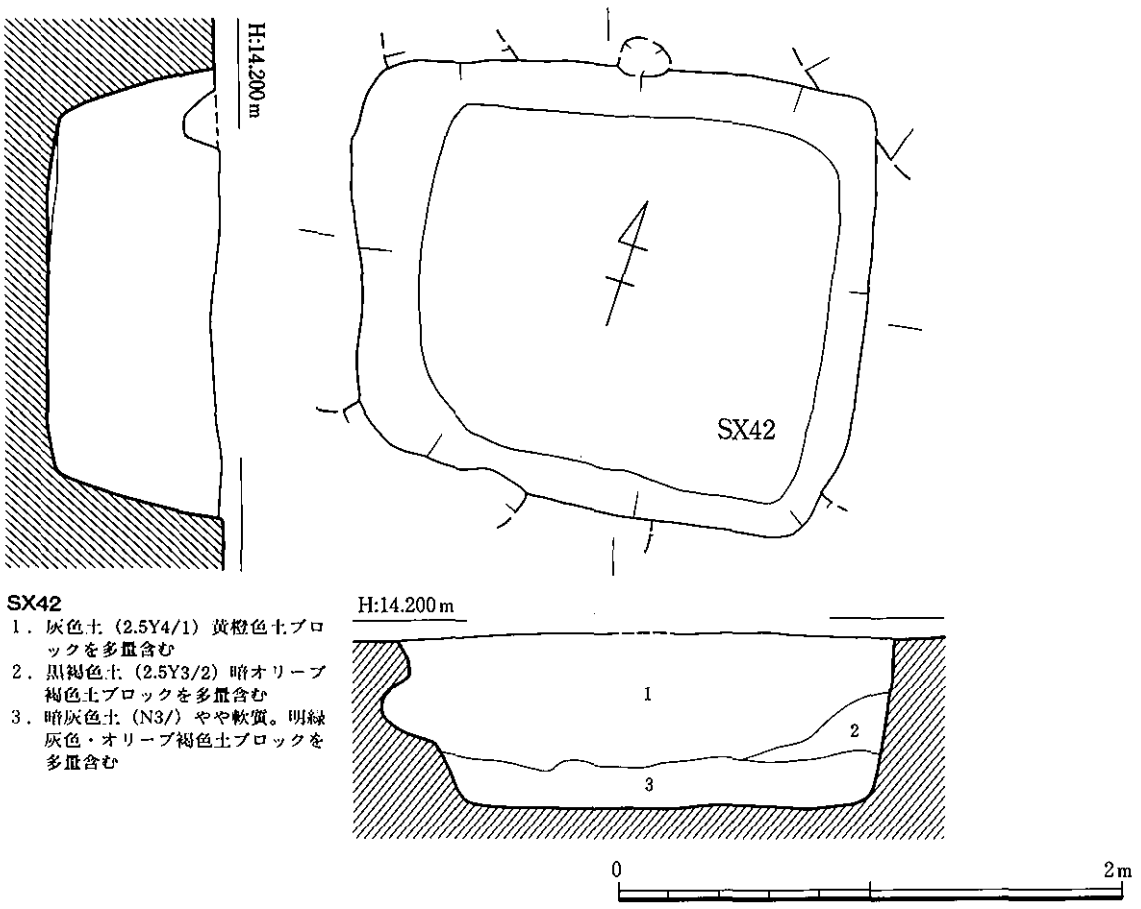
SX39（第96図）　調査区北西壁南側の近くに位置し、SX42を切る。一辺1.2mの隅丸方形を呈し、深さ34cmを測る。壁面の立ち上がりは急で、底面は比較的平坦である。埋土は、黒色土の単層であった。

遺物（第98図）　744は土師器杯。745・746は中国産陶器鉢。いずれも無釉。746は内面に顕著に使用痕が残る。径の復元値は判然としない。これ以外には、同安窯系青磁皿や白磁片、瓦器片、焼土塊などが出土した。

SX40（第96図）　調査区北西壁南側の近くに位置し、SX42を切る。平面1.7×1.6mの円形を呈

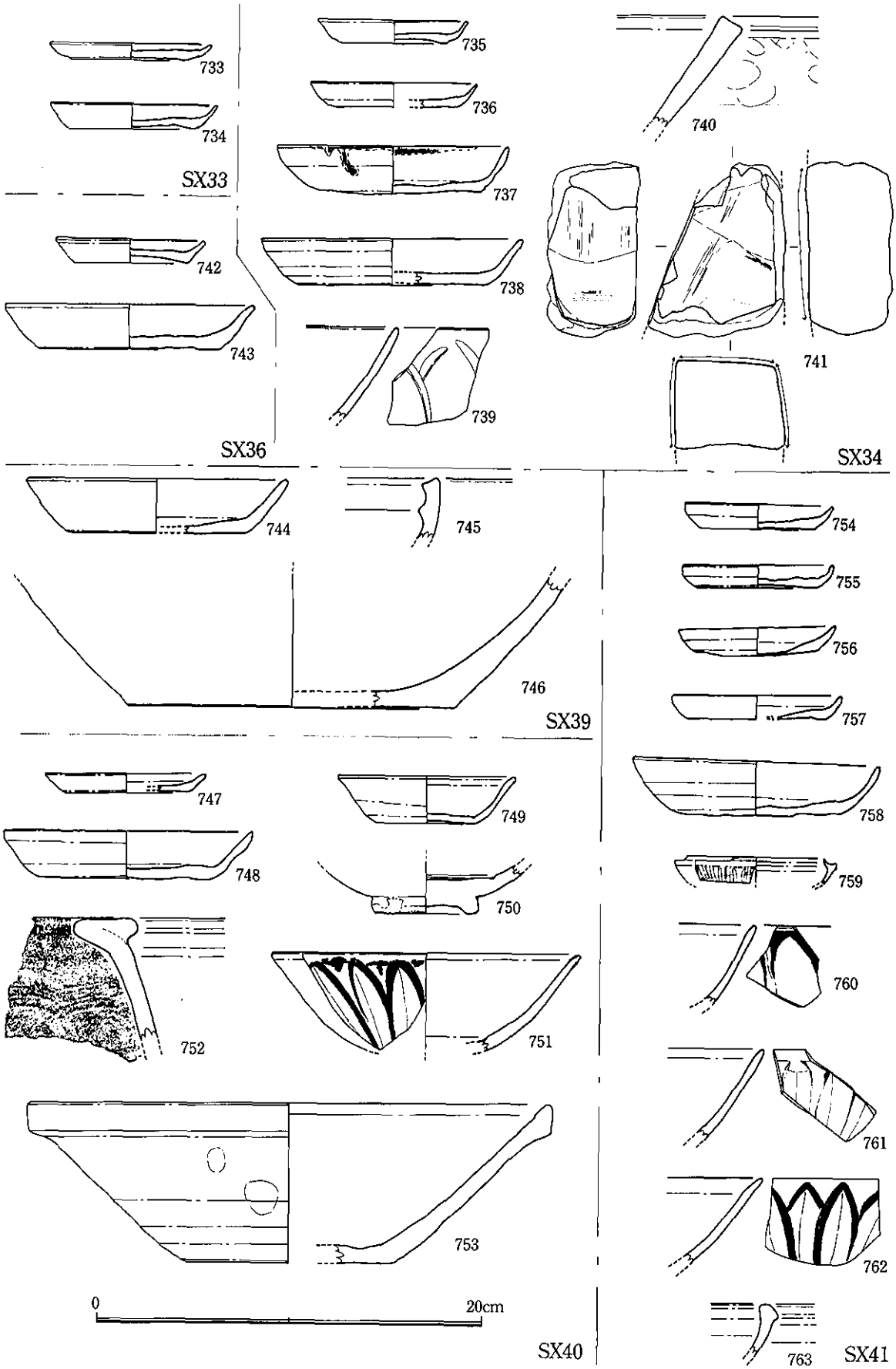


SX41
1．黒褐色土（2.5Y3/1）明緑灰色土ブロック少量含む
2．黒褐色土（2.5Y3/2）黄橙色土ブロックを多量含む
3．暗灰色土（N3/）やや軟質。比較的多く木片含む

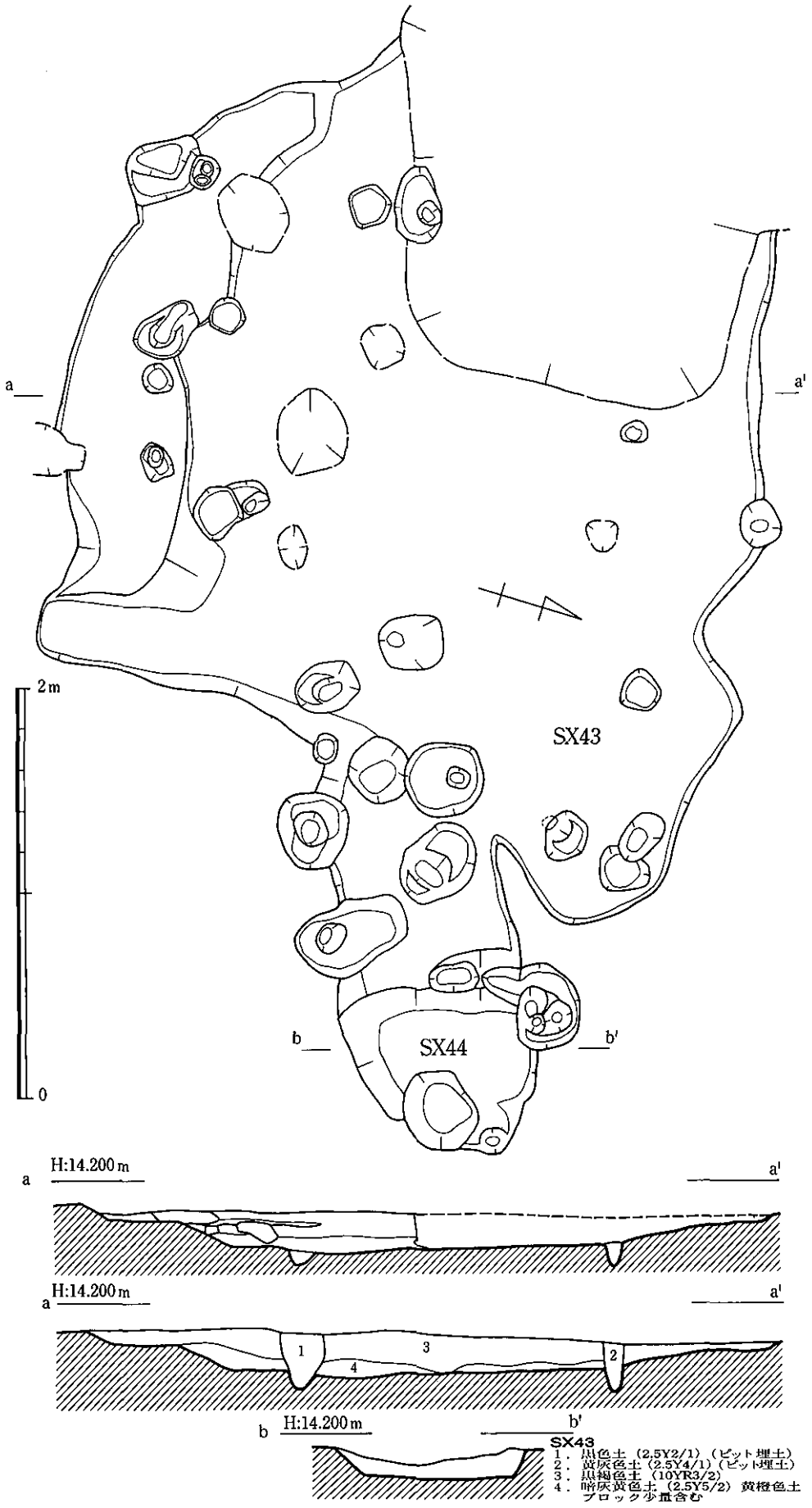


SX42
1．灰色土（2.5Y4/1）黄橙色土ブロックを多量含む
2．黒褐色土（2.5Y3/2）暗オリーブ褐色土ブロックを多量含む
3．暗灰色土（N3/）やや軟質。明緑灰色・オリーブ褐色土ブロックを多量含む

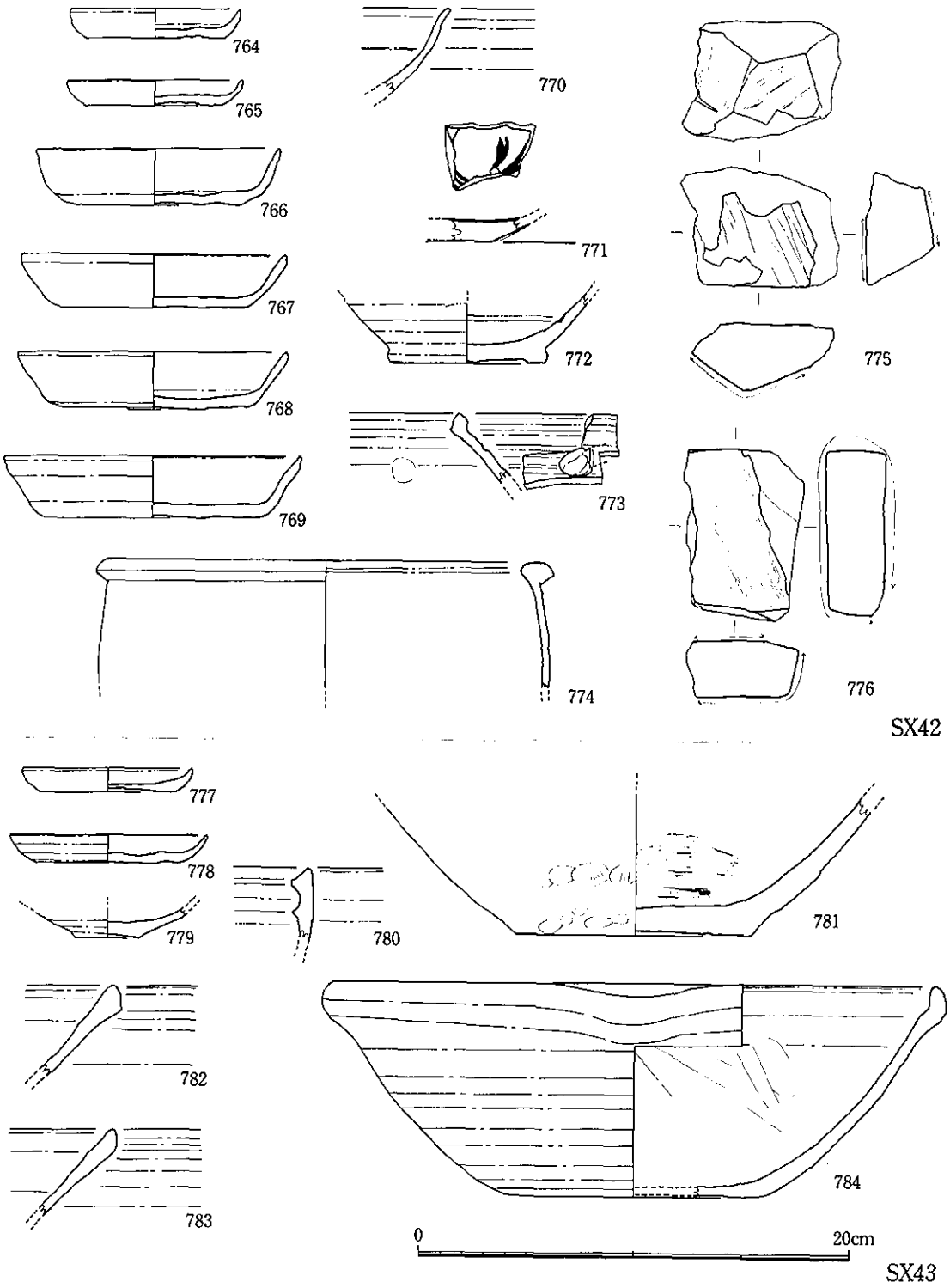
第97図　4区　SX41・42実測図（1/30）



第98図　4区　SX33・34・36・39～41遺物実測図（1/3）



第99図　4区　SX43・44実測図（1/30）



第100図　4区　SX42・43遺物実測図（1/3）

し、深さ42cmを測る。壁面の立ち上がりはやや急で、底面は比較的平坦である。埋土はSX39と同様に黒色土の単層であった。

遺物（第98図）　747は土師器小皿。748は土師器杯。749は白磁皿。口縁部は口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。750・751は青磁椀。751は竜泉窯系で、鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。752は中国産陶器**甕**。内面に同心円状の当て具痕が残る。753は東播系こね鉢。内面下半は使用痕のため滑らかに磨

耗するが、その一方、アバタ状の痕跡を残す部分もある。これ以外に、中国製陶器茶入れ（胴部片）、滑石製石鍋片、焼土塊などが出土した。

SX41（第97図）　調査区やや南西側に位置し、SX43を切る。上面では不整形であったが、掘下げていくと2.1m×1.8mの隅丸方形プランが明確となった。深さは55cmを測る。壁の立ち上がりは比較的急で、底面は平坦となる。

遺物（第98図）　754～757は土師器小皿。758は土師器杯。759は青白磁合子身。760～762は竜泉窯系青磁椀。いずれも蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類に相当する。760はやや蓮弁が退化する。763は中国産陶器小盤。灰白色釉を内外面に施し、口縁部上面に目跡が残る。この他にも、白磁片、滑石製石鍋片、瓦器片、焼土塊などが出土した。

SX42（第97図）　調査区やや南西側に位置し、SX41の南東に近接する。SX27・48を切る。平面2.0m×1.8mの隅丸方形を呈し、深さは69cmを測る。壁の立ち上がりは比較的急で、底面は平坦になる。規模、平面・断面形態、床面の状況、方向性、埋土の堆積状況など、いずれもSX41と類似しており、機能を推定するうえで注目される。

遺物（第100図）　764・765は土師器小皿。766～769は土師器杯。770は青磁椀。771は竜泉窯系青磁皿。釉は厚い。772は白磁椀。残存部の外面は露胎。高台外側に稜をもつ。773は中国産陶器壷。774は中国産陶器鉢か。内外面に褐釉を施すが、口縁部上面のみ釉を拭き取る。775・776は砥石。これ以外に、鎬蓮弁を施した竜泉窯系青磁椀（太宰府分類Ⅱ類）、滑石製石鍋片や瓦器片、焼土塊（計560ｇ）などが出土した。

SX43（第99図）　調査区やや南西側に位置し、SX41に切られる。4.6m×3.3mの楕円形プランを呈し、深さ21cmを測る。南側はテラス状になるが、総じて壁の立ち上がりは緩やかである。床面では多くのピットが検出されたが、当遺構に伴なう可能性は低い。

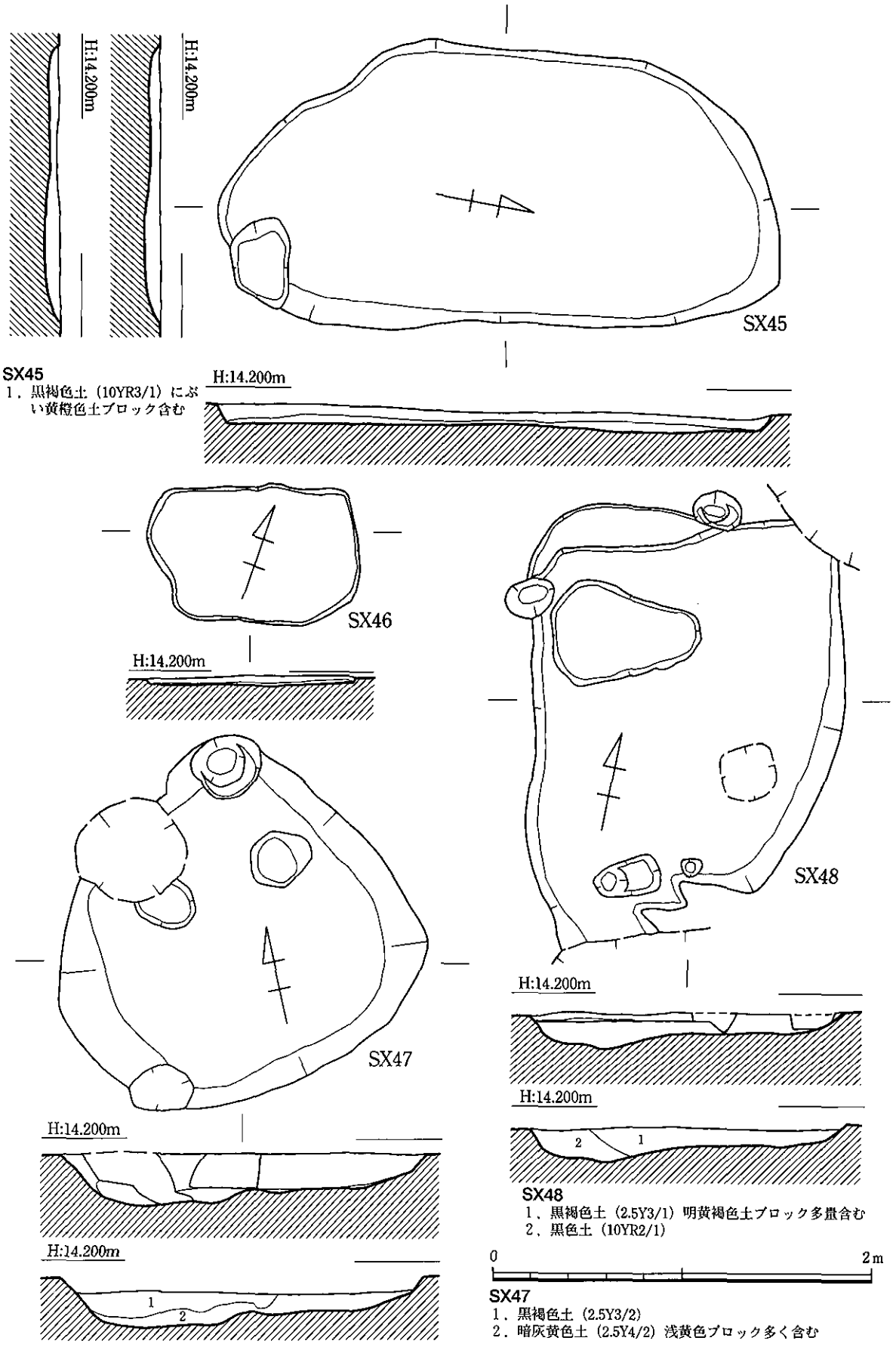
遺物（第100図）　777・778は土師器小皿。779は白磁小皿。780は中国産陶器鉢。781は瓦質甕。底部板状圧痕。782～784は東播系こね鉢。784の口縁部は内側に緩やかに屈曲し、内面体部下半には使用痕が認められる。これ以外に、青磁片（同安窯系含む）、滑石製石鍋片、瓦器片、焼土塊などが出土した。

SX44（第99図）　調査区やや南西側に位置する。当初SX43として掘下げていたが、東端部分が深くなり、ここをSX44とした。よってSX43と一連のものか、先後関係があるものか不明である。0.9m×0.8mのいびつな楕円形プランを呈し、深さ13cmを測る。遺物は、青磁片（竜泉窯系か）、瓦器片、土師器片が出土したが、図化できるものはない。

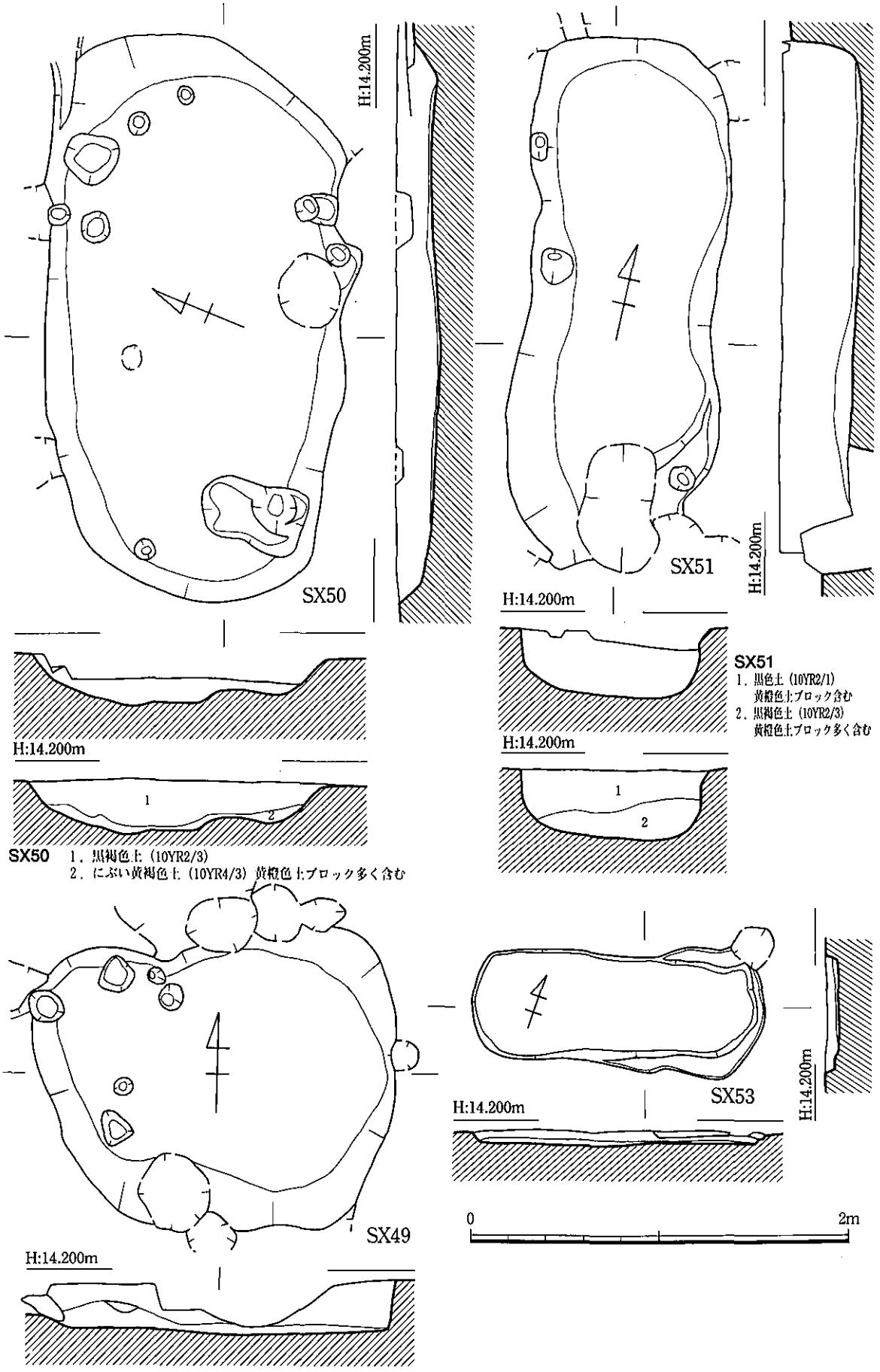
SX45（第101図）　調査区やや南西側に位置し、SX37・51を切る。当初SX48と同一遺構として掘下げたが、直後に2遺構が複合していることが明らかとなった。このうち西側の土坑をSX45とした。3.0m×1.4mの楕円形プランを呈し、深さ9cmを測る。

遺物（第103図）　785・786は土師器小皿。787・788は台付小皿。789は砥石。砂岩製。これ以外に、青磁片、陶器片、焼土塊などが出土した。

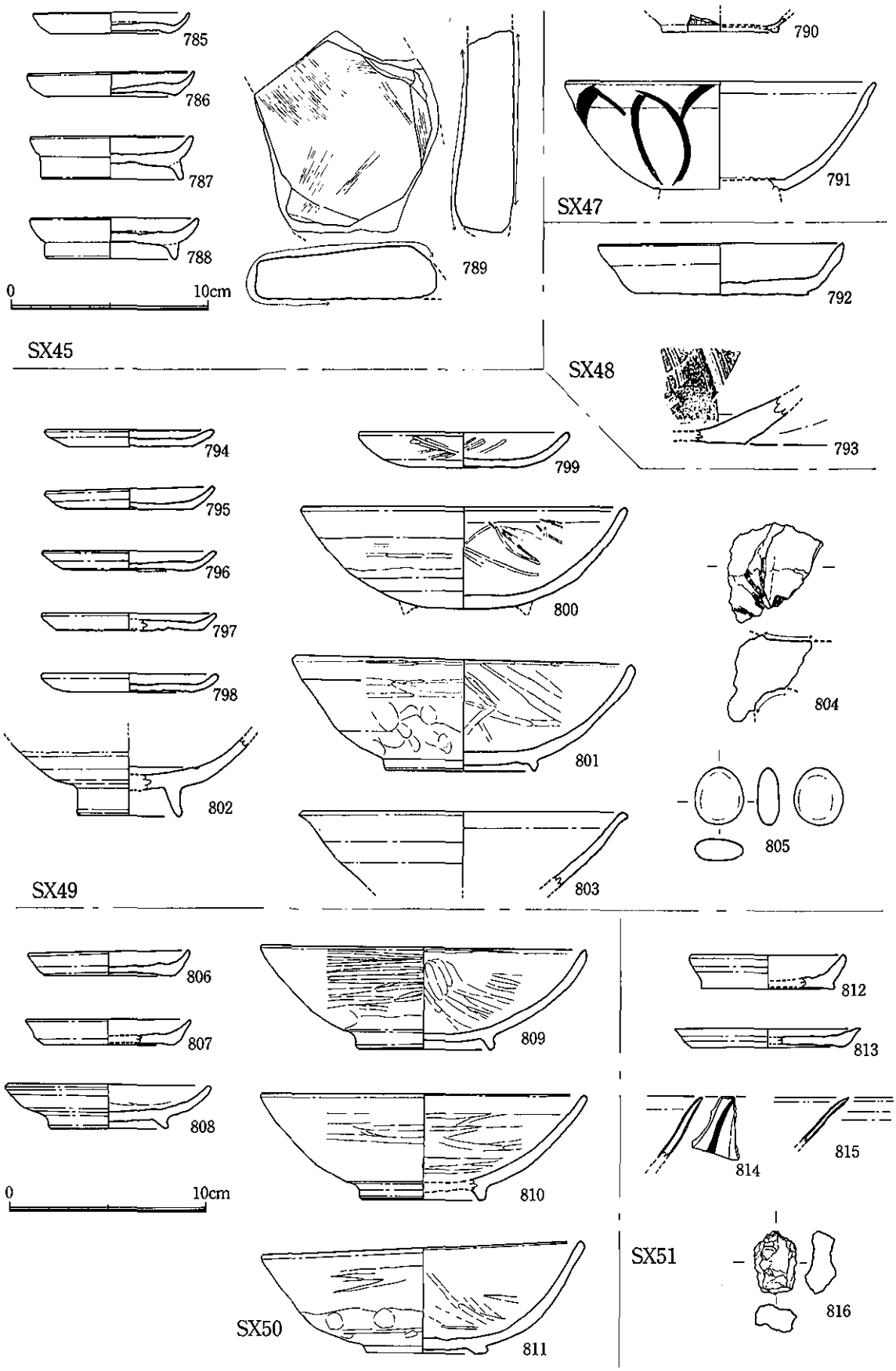
SX46（第101図）　調査区やや南側に位置する。平面1.1m×0.7mの隅丸方形を呈し、深さ7cmを測る。遺物は土師器片、焼土塊が出土したが図化できるものはない。



第101図　4区　SX45～48実測図（1/30）



第102図　4区　SX49～51・53実測図（1/30）



第103図　4区　SX45・47～51遺物実測図（1/3）

SX47（第101図）　調査区やや南側に位置し、SX57を切る。径1.9mのいびつな円形を呈し、深さ27cmを測る。底面は西側がやや深くなり、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。

遺物（第103図）　790は白磁小壷あるいは合子。791は竜泉窯系青磁椀。やや退化した蓮弁文を施す。これ以外に、須恵質土器片、陶器片、瓦器片、土師器片などが出土した。

SX48（第101図）　調査区やや南西側に位置し、SX33・42に切られる。平面2.2m×1.5mの楕円形を呈し、深さ17cmを測る。底面は西側が深くなる。

遺物（第103図）　792は土師器杯。793は陶器擂鉢。擂目は５条１単位とするが、１単位の幅は狭く、単位内左端の擂目は極端に深い。これ以外に、白磁片、青磁片、滑石片、瓦器片、焼土塊などが出土した。

SX49（第102図）　調査区やや南西側に位置し、SX50を切り、SX51に切られる。平面1.9m×1.5mの楕円形を呈し、深さ14cmを測る。底面は平坦で、東壁の立ち上がりは急である。

遺物（第103図）　794～798は土師器小皿。799は瓦器小皿。800・801は瓦器椀。802・803は白磁椀。802は太宰府分類Ⅴ類に相当する。803も同類の可能性が高い。804は焼土塊。土壁の一部か。平坦面があり、その対面に半円状の生きた面がある。平坦面が壁面で、半円状の面は竹などの骨組みに接していたものか。スサが混入する。805は碁石状の石製品。石英製。碁石にしてはやや大きい感があるが、人為的に持ち込まれたことは確実である。これ以外に、青磁片などが出土した。

SX50（第102図）　調査区やや南西側に位置し、SX49に切られる。平面2.9m×1.6mの楕円形を呈し、深さ22cmを測る。底面には凹凸があり、北側がやや深い。壁面の立ち上がりは比較的緩やかである。

遺物（第103図）　806・807は土師器小皿。808は土師器台付小皿。809～811は瓦器椀。これ以外には、竜泉窯系青磁椀（太宰府分類Ⅱ類）、弥生土器、須恵器、焼土塊などが出土した。

SX51（第102図）　調査区やや南西側に位置し、SX49を切り、SX45に切られる。平面2.6m×1.1mの楕円形を呈し、深さ40cmを測る。底面は比較的平坦で、壁面の立ち上がりは急である。

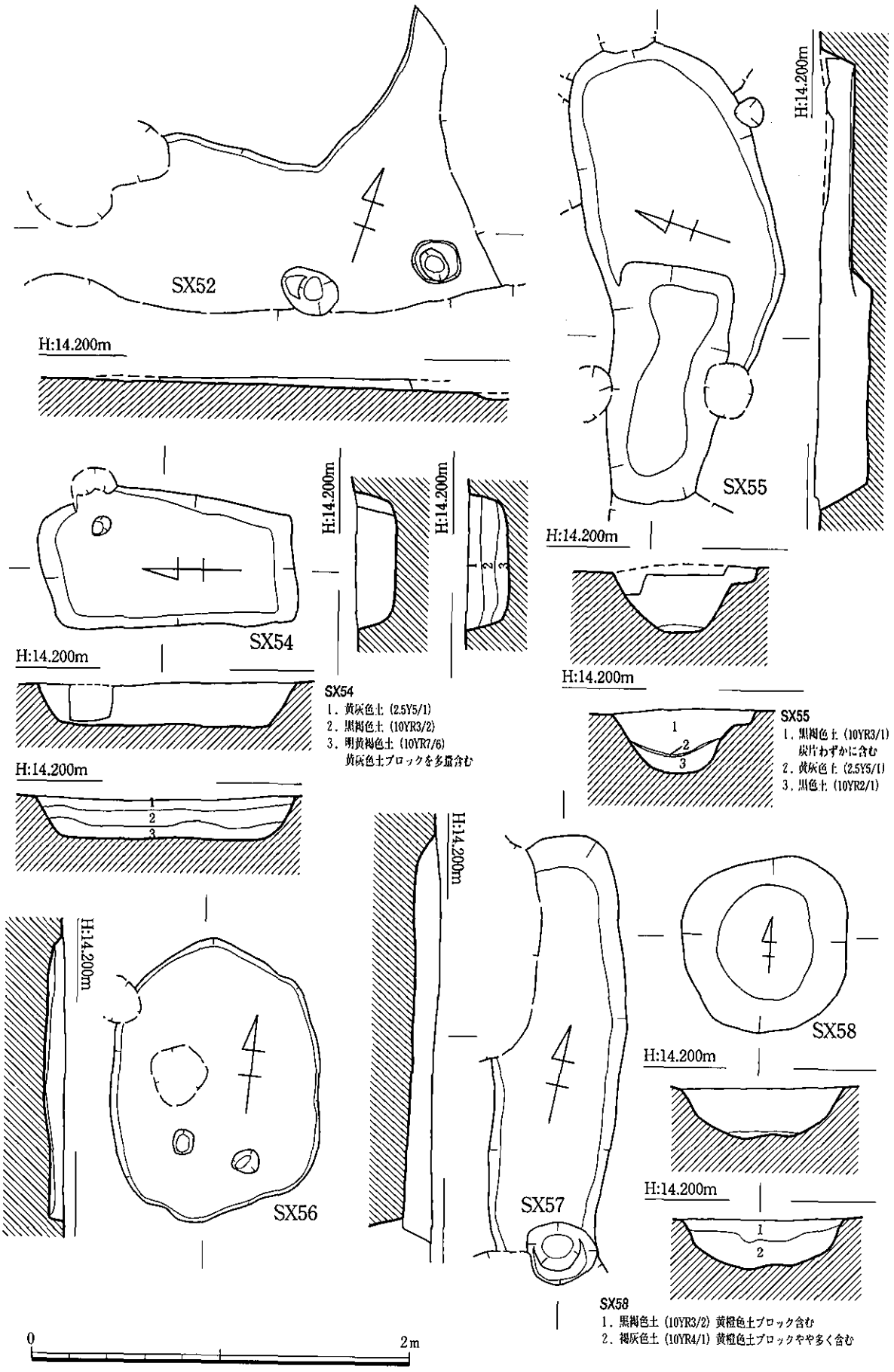
遺物（第103図）　812・813は土師器小皿。814は竜泉窯系青磁椀。鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。815は白磁椀。口縁部内面は口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。816は鉄滓。これ以外に、須恵質土器片、瓦器片、滑石片、焼土塊などが出土した。

SX52（第104図）　調査区南西側に位置し、当初、SX49・55などとともに不整形な大形土坑として掘下げ、底面で分離した遺構の１つである。平面形態は不整形を呈し、長辺は1.8m以上を測るが、底面は６cmと極めて浅い。明確な遺構とは判断しがたい。

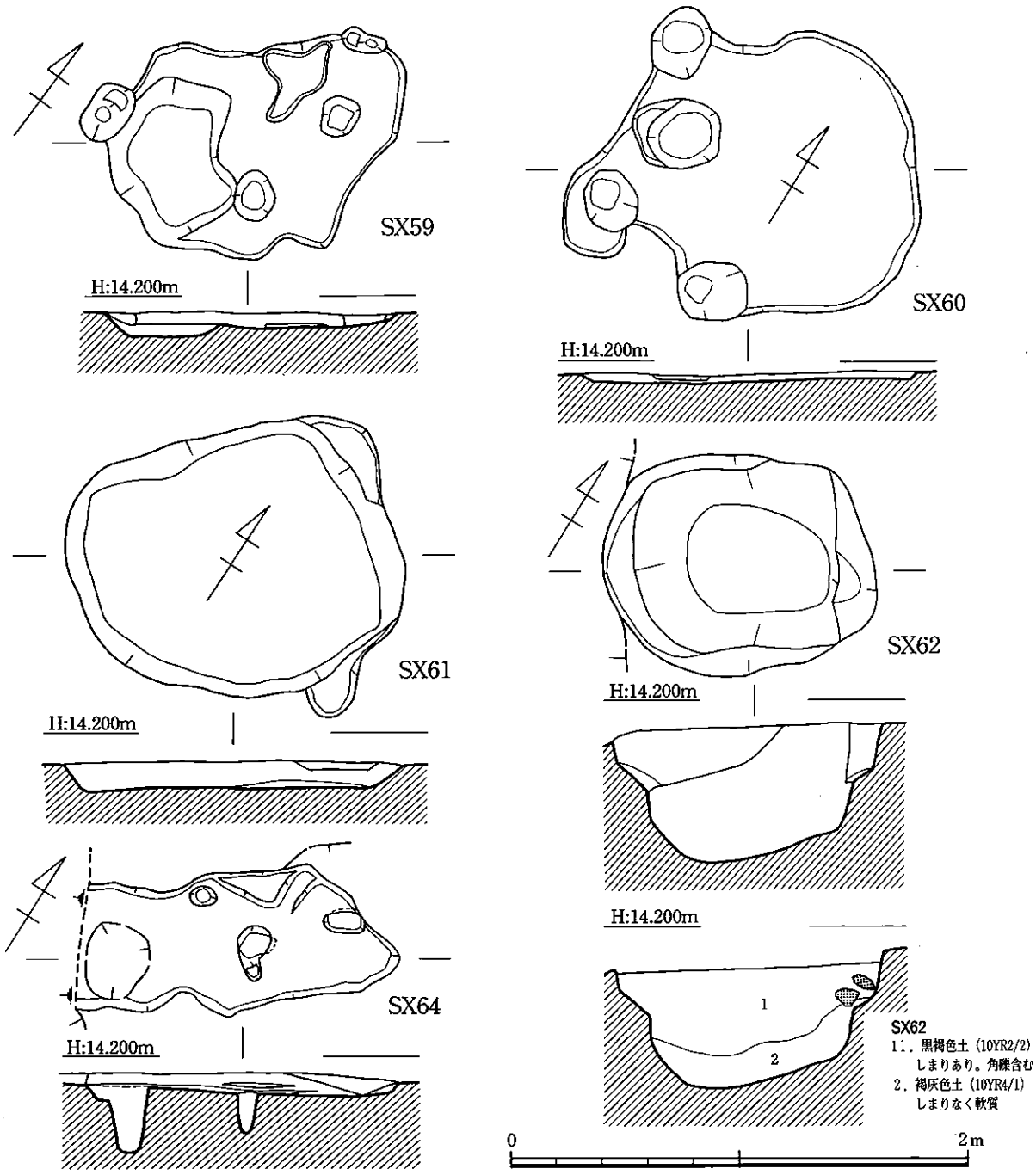
遺物（第109図）　817は竜泉窯系青磁椀。鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。これ以外に、瓦器片、土師器片などが出土した。

SX53（第102図）　調査区やや西側に位置する。平面1.5m×0.6mの隅丸長方形を呈し、深さ７cmを測る。規模・形状から土壙墓の可能性も考えられる。遺物は、青磁片、白磁片、瓦器片、土師器片、砥石片が出土したが、図化できるものはない。

SX54（第104図）　調査区やや西側、SX53の近くに位置する。平面1.3m×0.7mの隅丸長方形を呈し、深さ22cmを測る。規模・形状から土壙墓の可能性も考えられるが、埋土の状況や縦断面の



第104図　4区　SX52・54～58実測図（1/30）



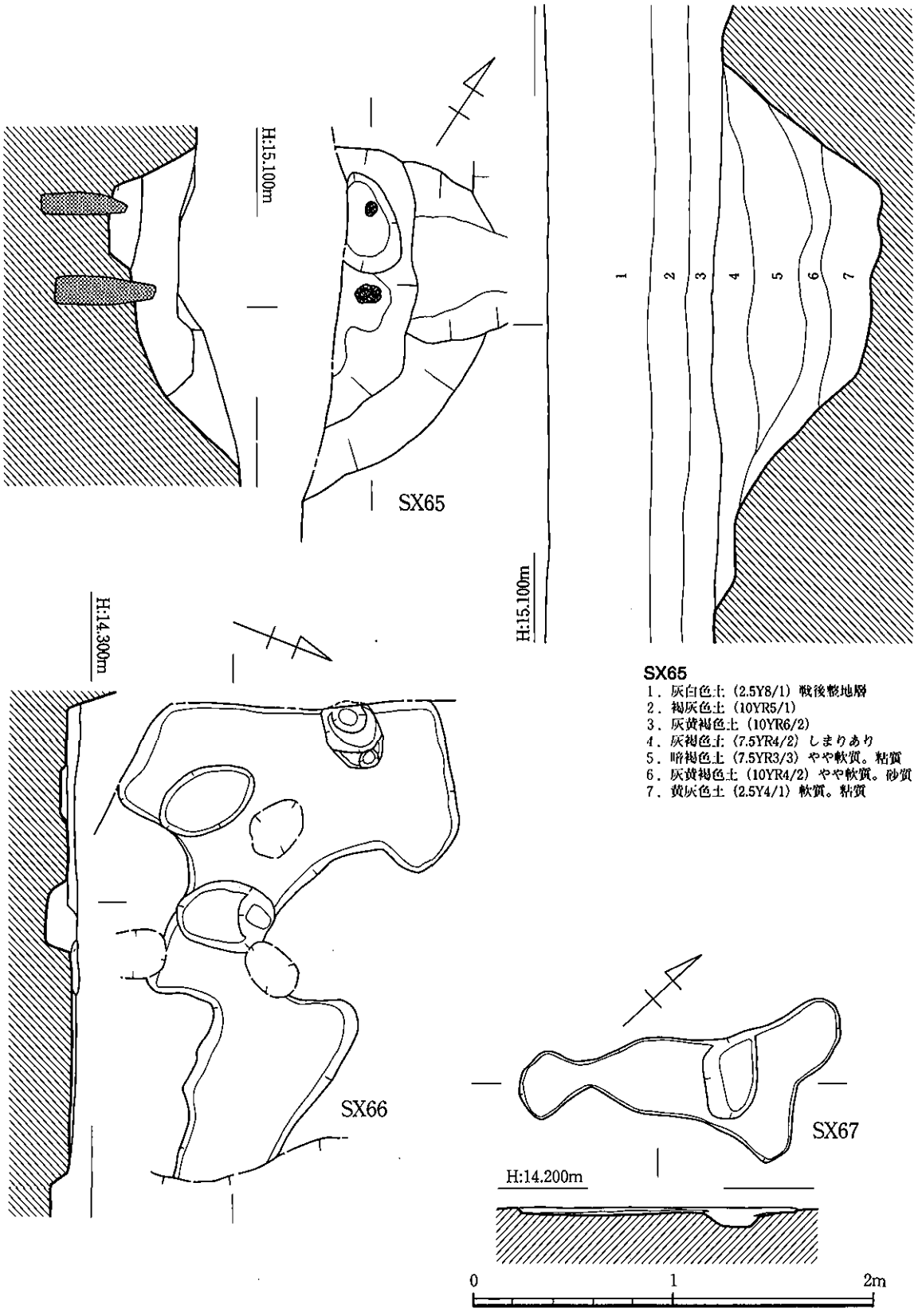
第105図　4区　SX59～62・64実測図（1/30）

立ち上がりを考慮すると判断できない。SX53とともに、他の土壙群と離れ、SD06に近接する点も興味深い。出土遺物はない。

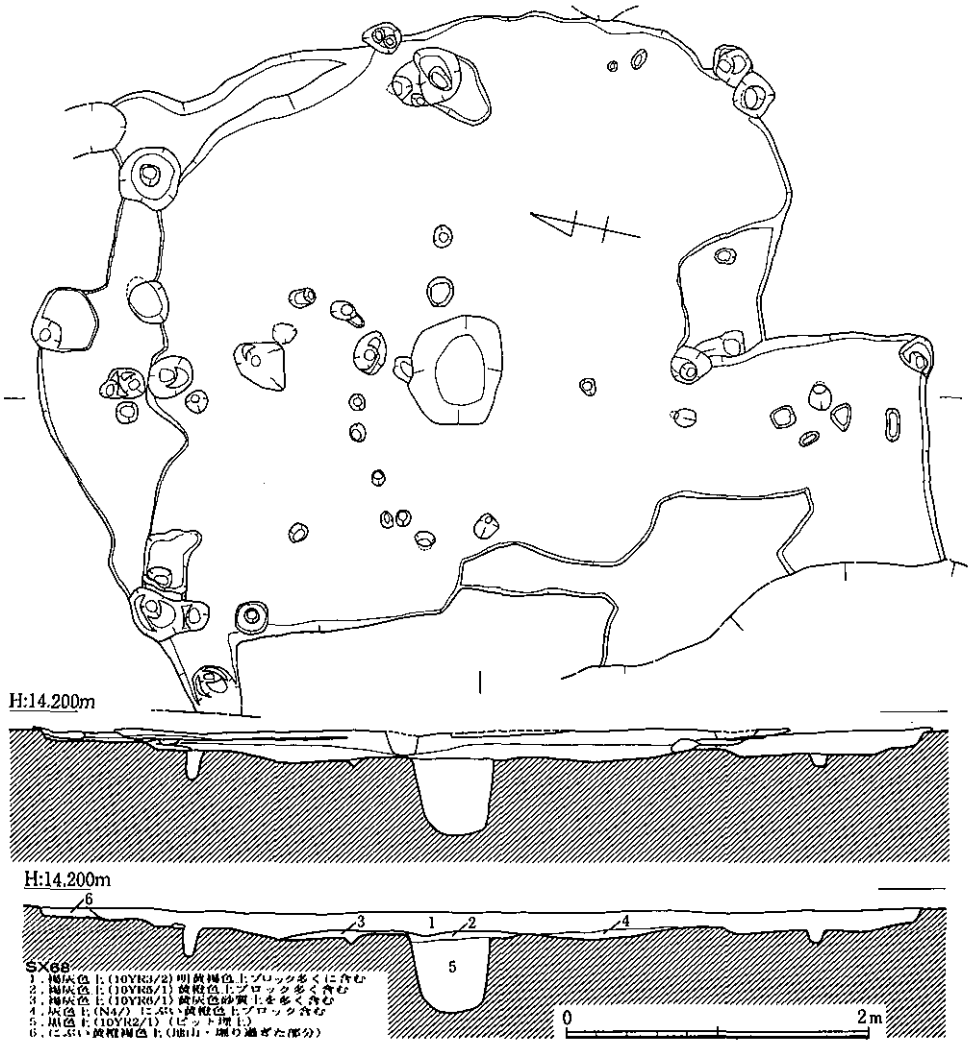
SX55（第104図）　調査区南西側に位置し、SX56に切られる。当初、不整形な大形土坑として掘下げたが、やがて2.4m×1.0mのいびつな楕円形プランが明確になった。西側は2段掘り状に深くなり、最深部は26cmを測る。

遺物（第109図）　818は土師器杯。819は竜泉窯系青磁椀。鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。これ以外に、白磁片、瓦器片、土師器片、焼土塊などが出土した。

SX56（第104図）　調査区南西側に位置し、SX55・57を切る。平面1.5m×1.1mの楕円形を呈



第106図　4区　SX65～67実測図（1/30）



第107図　4区　SX68実測図（1/50）

し、深さ10cmを測る。底面のレベルは、中央がやや窪むが比較的平坦である。遺物は、竜泉窯系青磁椀（太宰府分類Ⅰ類か）、白磁片、瓦器片、土師器片が出土した。

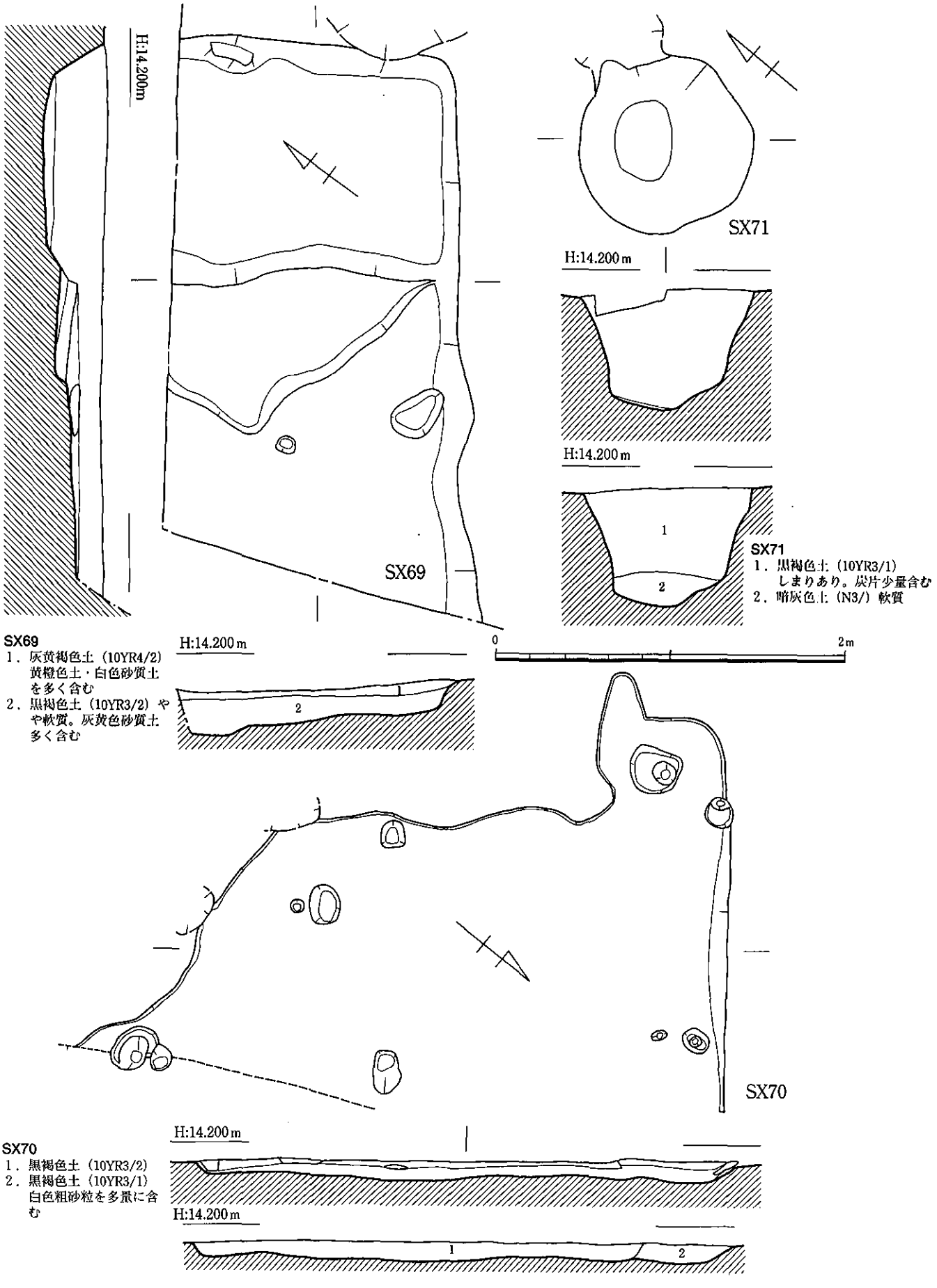
SX57（第104図）　調査区南西側に位置し、SX47・56に切られる。平面2.2m×0.7mの長方形あるいは楕円形を呈し、深さ13cmを測る。底面はほぼ平坦で、北側の壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物（第109図）　820は青磁椀。これ以外に須恵質土器片、瓦器片、滑石片、土師器片が出土した。

SX58（第104図）　調査区南西側、SX54とSX59に挟まれた位置にある。平面0.9m×0.8mの楕円形プランを呈し、深さは26cmを測る。壁面はやや緩やかに内湾しながら立ち上がる。

遺物（第109図）　821は竜泉窯系青磁椀。退化した蓮弁を施す。822は円形土製品。粘土塊を上から押しつぶしたような形態である。片面に植物に起因すると思われる圧痕が顕著に残る。823は鉄製品。錆が著しく判然としないが、刀子であろうか。これ以外に、白磁片、瓦器片、黒色土器片、土師器片が出土した。

SX59（第105図）　調査区南西側、SX58の西隣に位置する。平面1.4m×1.0mのいびつな楕円形を呈し、深さ10cmを測る。底面西側は、2段掘り状に深くなる。瓦器片・土師器片が出土したが、



第108図　4区　SX69～71実測図（1/30）

図化できるものはない。

SX60（第105図）　調査区のほぼ中央に位置する。平面1.6m×1.3mのいびつな楕円形を呈し、深さ4cmを測る。底面は比較的平坦になる。

遺物（第109図）　824は朝鮮産陶器椀。全面に緑灰色系の釉を施す。この他に土師器片が出土した。

SX61（第105図）　調査区南側、SX47の南東隣に位置する。平面1.6m×1.3mの楕円形を呈し、深さ12cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。

遺物（第109図）　825は瓦質擂鉢。これ以外に、瓦器片、土師器片が出土した。

SX62（第105図）　調査区やや南側に位置し、SD06に切られる。平面1.2m×1.0mの楕円形を呈し、深さ60cmを測る。東・西側にテラスが形成され、底面は西側がやや深い。壁面の立ち上がりは比較的急である。

遺物（第109図）　826・827は土師器小皿。828は瓦器椀。これ以外に同安窯系青磁椀、中国産施釉陶器片、滑石片などが出土した。

SX64（第105図）　調査区南西側、SX72の東隣に位置する。西端を試掘時のトレンチで欠くが、1.5m以上×0.7mのいびつな楕円形を呈し、深さ９cmを測る。

遺物（第109図）　829は土師質鍋。これ以外に底部糸切り土師器片や焼土塊が出土した。

SX65（第106図）　調査区南隅近くに位置し、SD06の壁面で検出された。調査区外に続くため、詳細は不明であるが、1.6m×0.8m以上の規模で、深さ64cmを測る。南側の壁面は緩やかに立ち上がる。土坑内では２本の柱材が残存していたが、掘り方を確認することはできなかった。なお、柱材と土坑の関連、土坑とSD06の関係はいずれも判然としない。なお遺構埋土は土層図の４～６層に相当する。遺物は瓦器片、底部糸切り土師器片などが出土したが、図化できるものはない。

SX66（第106図）　調査区南隅に位置する不整形土坑である。調査区外に続くため詳細は不明であるが、長さ2.3m以上となる。深さは６cmと極めて浅く、平面形状から判断しても人為的な遺構とは考えづらい。遺物は土師器片が出土したが、図化できるものはない。

SX67（第106図）　調査区南西隅近くに位置する。1.6m×0.7mの不整形プランを呈し、最深部は深さ4cmを測る。中央部には２段掘り状に深くなる部分があるが、同一遺構であるか分からない。遺物は、黒色土器、焼土塊が出土したが、図化できるものはない。

SX68（第107図）　調査区南西壁に接して位置し、SD06に切られる。現状で5.8m×3.8m以上の規模を有する不整形プランを呈し、深さは21cmを測る。底面は中央部がやや深くなる。

遺物（第109図）　830～832は土師器小皿。833・834は土師器杯。835は青磁丸皿。碁笥底となる。836は同安窯系青磁椀。外面に粗い縦の櫛目文、内面は蛇の目釉掻きを施す。太宰府分類Ⅲ－２類。837・838は白磁椀。837は口縁部内面を口禿げ。太宰府分類Ⅸ類。838は「枢府磁」と呼ばれる類。見込みに唐草を描く。腰部は明瞭に屈曲し、青味がかった白磁釉を高台外側まで丁寧に施している。839は中国産陶器天目椀。全面に白化粧を施し、その上から、飴釉を施し、口縁部内面のみを拭き取っている。840は土師器ミニチュア土器。

SX69（第108図）　調査区南西隅に位置し、SX71に切られる。調査区外に続くため、長さ幅とも不明であるが、現状で3.0m以上×1.7m以上を測る。３段掘り状となり、北側が34cmと最も深くなっている。

遺物（第109図）　841・842は土師器小皿。この他に、白磁、施釉陶器片、瓦器などが出土した。

SX70（第108図）　調査区南西隅近くに位置する。東側は表土剥ぎ時に下げ過ぎたため、失われている。現状で3.8m以上×1.8m以上と不整形プランを呈し、深さは９cmと浅い。人為的な遺構ではない可能性もある。

遺物（第109図）　843は土師器小皿。844は土師器杯。845は竜泉窯系青磁椀。鎬蓮弁を施す。太宰府分類Ⅱ類。846は同安窯系青磁椀。太宰府分類Ⅰ類。これ以外に、白磁、瓦器、須恵質土器、滑石片、焼土塊などが出土した。

SX71（第108図）　調査区南西隅近くに位置し、SX69を切る。径1.0mの円形プランを呈し、深さ68cmを測る。壁面の立ち上がりは比較的急である。

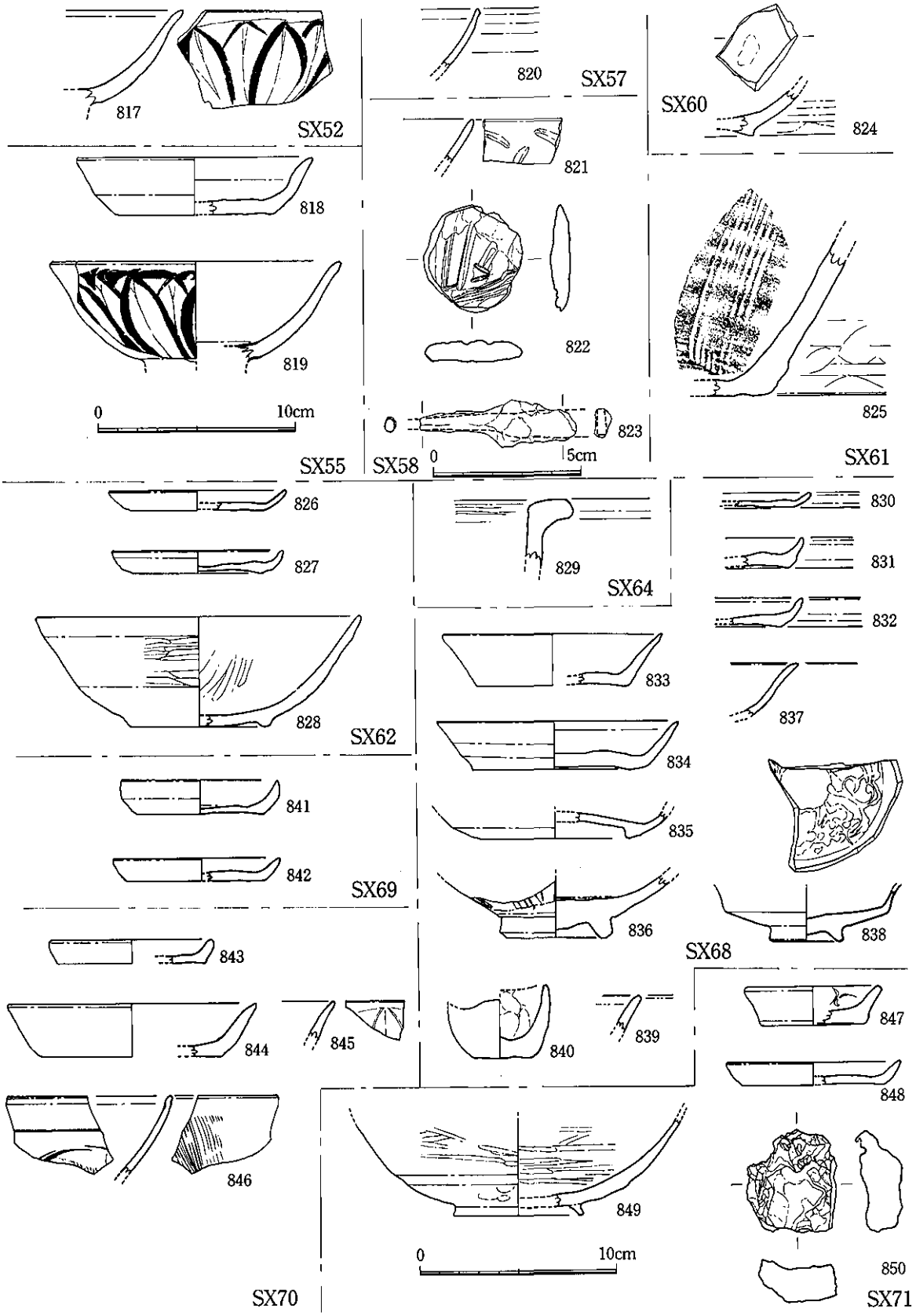
遺物（第109図）　847・848は土師器小皿。849は瓦器椀。850は鉄滓。これ以外に、同安窯系青磁、白磁、滑石片、焼土塊が出土した。

SX72（第110図）　調査区南西側に位置する。4.0m×1.8mの隅丸長方形プランを呈し、深さ37cmを測る。南北２つの土坑が複合しているものとも見えるが、埋土の相違は確認できなかった。

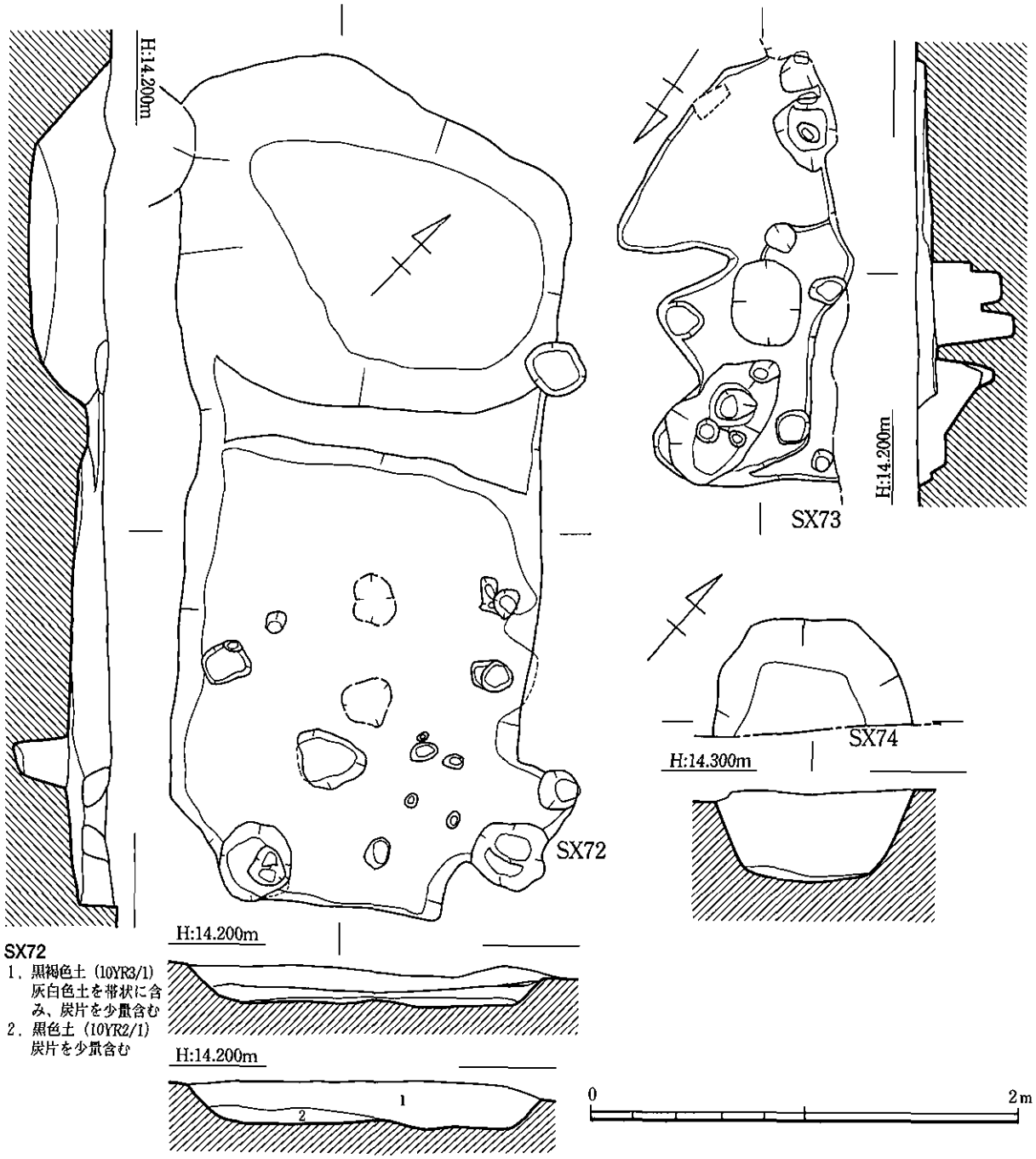
遺物（第111図）　851～853は土師器小皿。854は瓦器小皿。855～859は瓦器椀。860～864は白磁椀。860は玉縁状口縁となり、太宰府分類Ⅳ類、861～864は太宰府分類Ⅴ類に相当する。865は中国産陶器四耳壺。外面のみに釉を施し、口縁部上面に目跡が残る。866・867は土師器鍋。868は焼土塊。土壁片であろうか。壁面側が鈍角に屈曲する。また壁内側は半円状の圧痕が残り、竹等の骨組みに接していた可能性がある。スサを含む。869は鉄滓。これ以外に、同安窯系青磁らしき小片、中国産無釉陶器片、弥生土器高杯などが出土した。

SX73（第110図）　調査区南西側に位置し、SX68に切られる。2.0m×1.0mの不整形プランを呈し、深さ10cmを測る。底面で検出されたピットは当遺構に伴なわない可能性が高い。遺物は、瓦器片、底部糸切り土師器片などが出土したが、図化できるものはない。

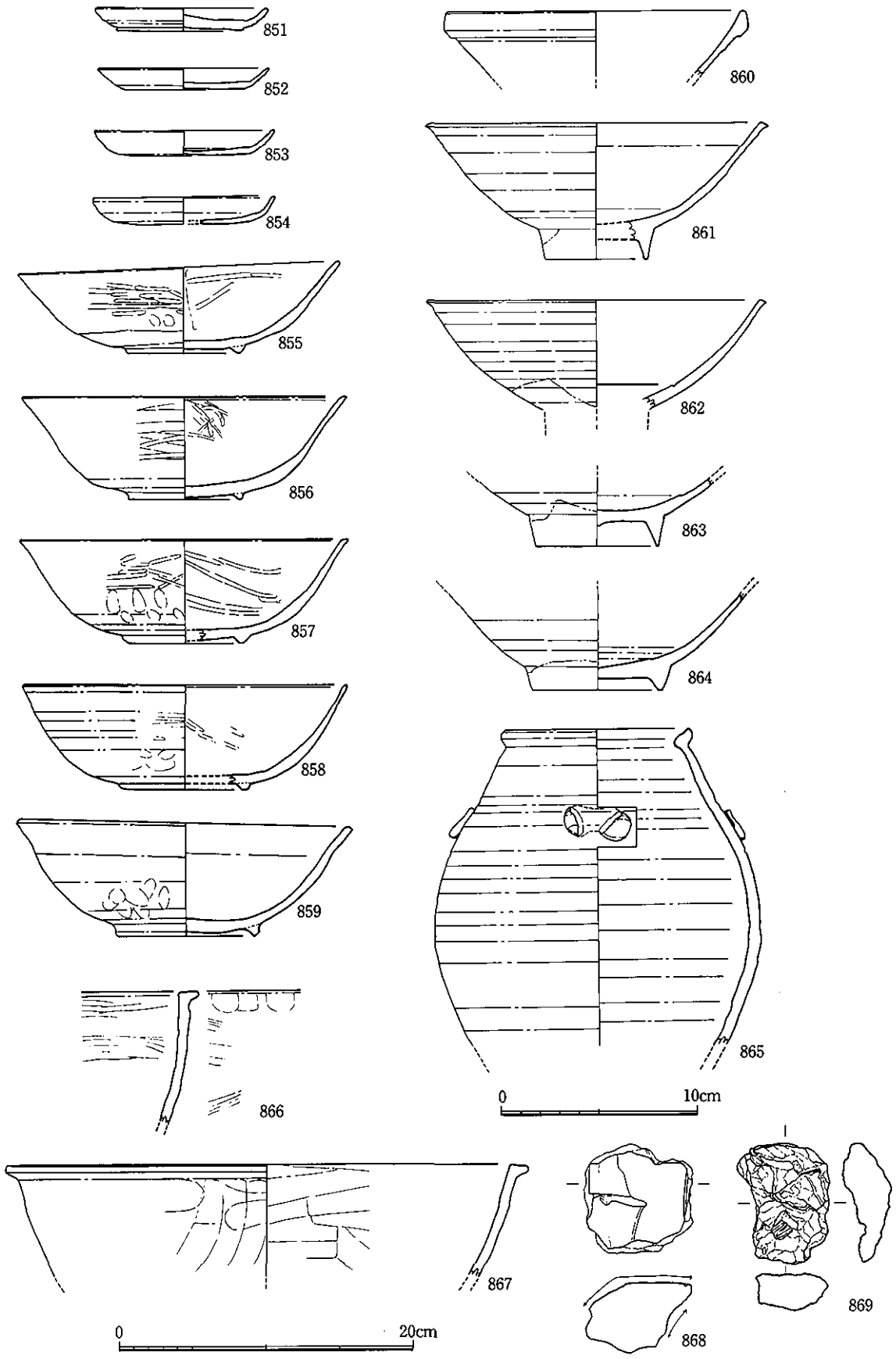
SX74（第110図）　調査区南東壁の南端近くに接し、調査区外に続く。現状で0.9m×0.5m以上の規模で、深さ42cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁面は比較的急に立ち上がる。遺物は、瓦器片、底部糸切り土師器片などが出土したが、図化できるものはない。



第109図　4区　SX55・57・58・60～64・68～71遺物実測図（823：1/2、その他：1/3）



第110図　4区　SX72～74実測図（1/30）

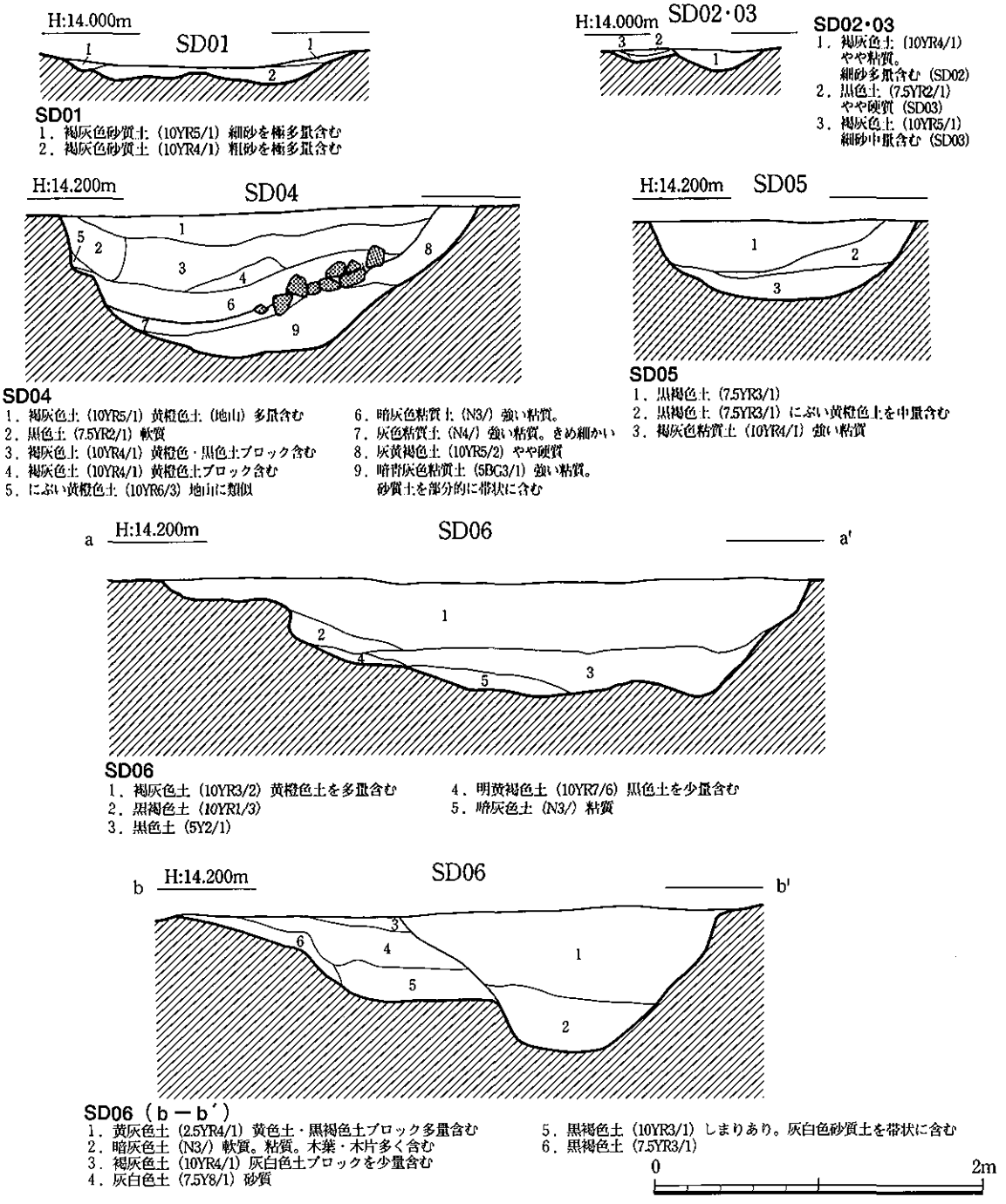


第111図　4区　SX72遺物実測図（866・867：1/4、その他：1/3）

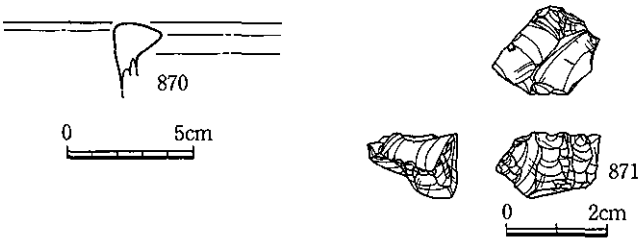
（4）溝　跡

SD01（第74・112図）　調査区北東壁に沿うように検出された。SD04、SX01に切られる。SD02との切り合い関係は把握できず、一連の遺構の可能性がある。幅約1.7～2.6m、深さは検出面から約20～25cmを測るが、底面のレベルに明確な傾斜はない。埋土は、硬質の灰色系砂質土が主体で、SD04～06とは明確に異なる。

遺物（第113図）　870は弥生土器甕。器面調整不明。弥生時代中期初頭。871は石核。西北九州産黒曜石製。あまり風化は進行していない。これ以外の遺物も、弥生土器片と黒曜石片しか出土していない。



第112図　4区　SD01～06土層実測図（1/40）



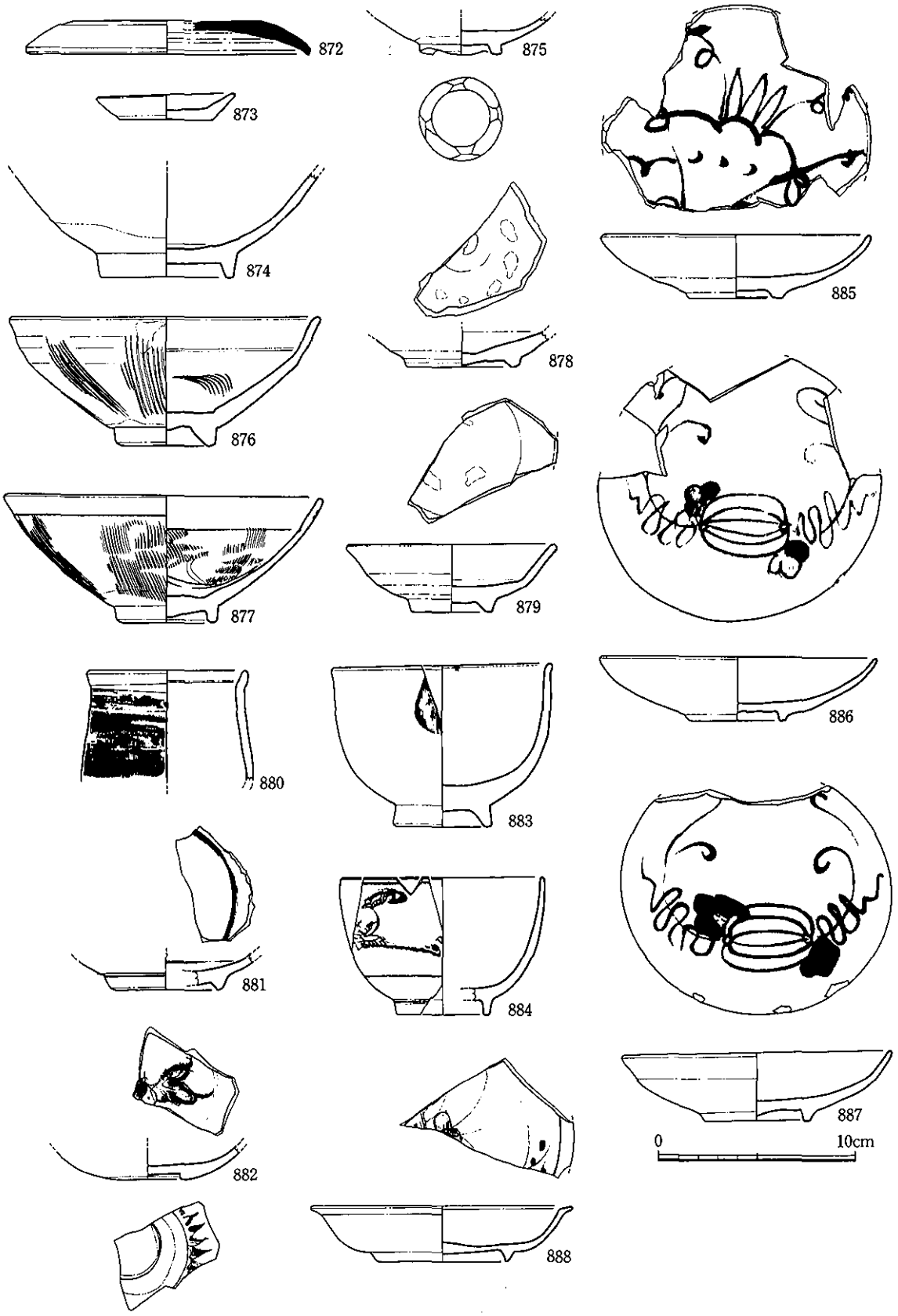
第113図　4区　SD01遺物実測図
(870：1/3、871：2/3)

SD02（第74・112図）　調査区北東側で検出された。SD01と接し、概ね平行する。SD03を切り、SX01に切られる。幅0.3～0.7m、深さ8～15cmを測る。底面に明確な傾斜はない。埋土は褐灰色砂質土の単層である。遺物は、弥生土器とも思われる土器片が少量出土したが、図化できるものはない。

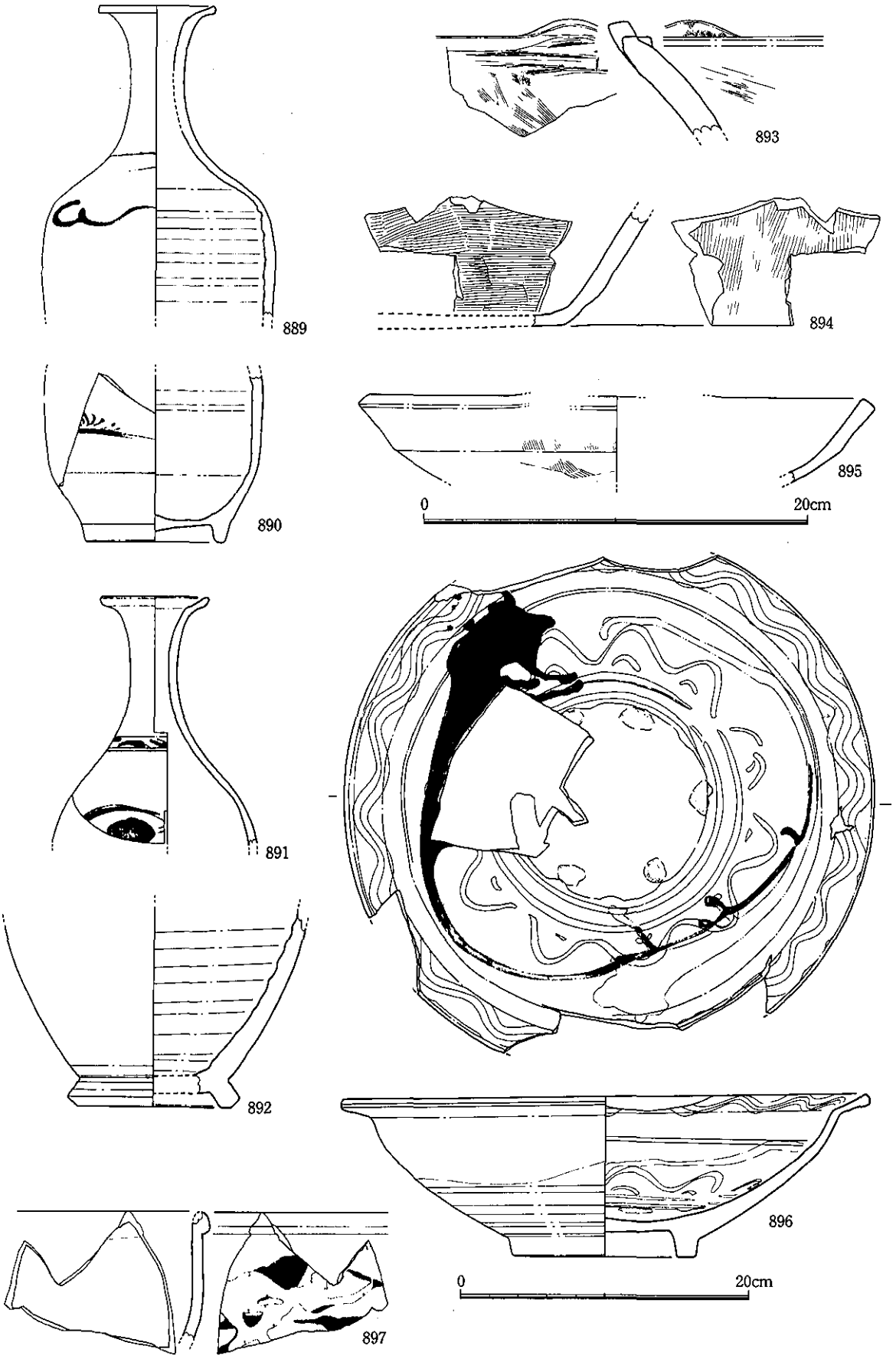
SD03（第74・112図）　調査区北東側で検出され、SD02に切られる。幅0.6～1.1m、深さは検出面から2～11cmを測り、南東側が浅くなり端部に至る。遺物は出土していない。

SD04（第74・112図）　調査区北東側で検出された。SD01・02・05、SX02・03を切る。北西－南東方向に走り、南西壁際でL字形に屈曲し、北西方向に伸びる。幅1.9～3.4m、深さは検出面から74～92cmを測る。底面には部分的に深い地点があるが、南北で明確なレベル差はない。断面形状は、西側（区画の外側）が比較的急に立ち上がり、東側（区画の内側）は緩やかに立ち上がっている。なお埋土中に、部分的ながら角礫が集中する場所が認められ、それらは土層図でわかるとおり、いずれも東側から廃棄された状況が伺える。下層では滞水の痕跡が確認され、遺物は暗灰色粘質土（6層）以下を下層として取り上げている。

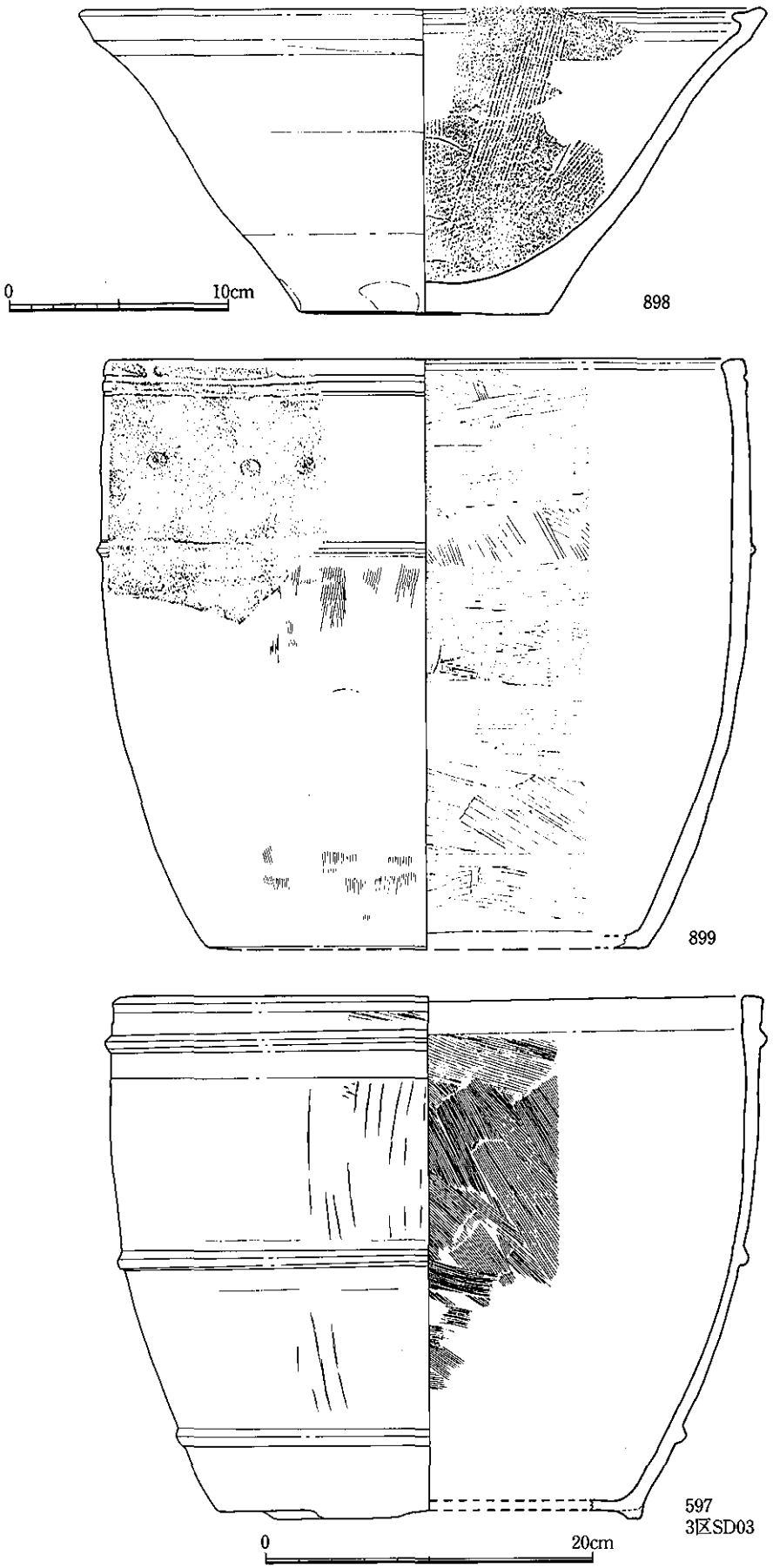
遺物（第114～117・123～125図）　872は須恵器杯蓋。873は土師器小皿。874は白磁椀。見込みに蛇の目釉掻きをする。太宰府分類Ⅷ類。875は白磁皿。高台を4ヶ所アーチ状に抉る。森田分類D群。876・877は同安窯系青磁椀。いずれも太宰府分類Ⅰ類。876は二次的な被熱のため、ごく一部を除き釉が白化している。878～880は朝鮮産陶器椀。878・879は磁器に近い胎土で、特に878は釉調から判断しても白磁と呼ぶべきかもしれない。880は刷毛粉青と呼ばれる類で、外面に刷毛で白化粧を施し、その上から透明釉を施している。下膨れの特徴的な器形を呈し、口縁部内面には段を有する。881は中国産染付椀。見込みと高台周辺が露胎となり、施釉部の境に呉須で界線をめぐらす。陶胎質で漳州窯系と呼ばれるもの。882は中国産染付皿。外面下部に芭蕉文、見込みにも植物を描き、底部は碁笥底となる。小野分類皿C群。883は肥前産陶器椀。いわゆる呉器手椀と呼ばれる類。貫入の多い浅黄色釉を施し、口縁部の一部に緑色釉を掛ける。884は肥前産磁器椀。885～888は肥前産磁器皿。886・887は瓜をモチーフとし、極めて相似性が高い。同時に遺跡内に搬入された可能性がある。889～891は肥前産染付瓶。889と890は釉調・呉須の発色等から同一個体と考えられるが、前者にはやや焼け歪みがあるためか、復元径が若干合致しない。892は白磁壷。893～895は瓦質鉢。893は体部から口縁部まで内傾する。口縁部に突帯をめぐらすことによって、上面に幅広な平坦面（ミガキ調整）を作り出している。火鉢の類とも考えられるが、口縁部の山形の突起の意図が分からない。894にも山形の突起がみられる。端部を欠くため不明であるが、把手が付いていた可能性もある。895は口縁部の破片端に高まりがあるが、意図的でない可能性もある。896は肥前産陶器大皿。いわゆる二彩手唐津と呼ばれる類。内面は、全面に白化粧土を施した後、見込みは全て、体部は波状に拭き取り、さらに緑色釉、鉄釉の順に柄杓掛けを行なう。897は肥前産陶器鉢。



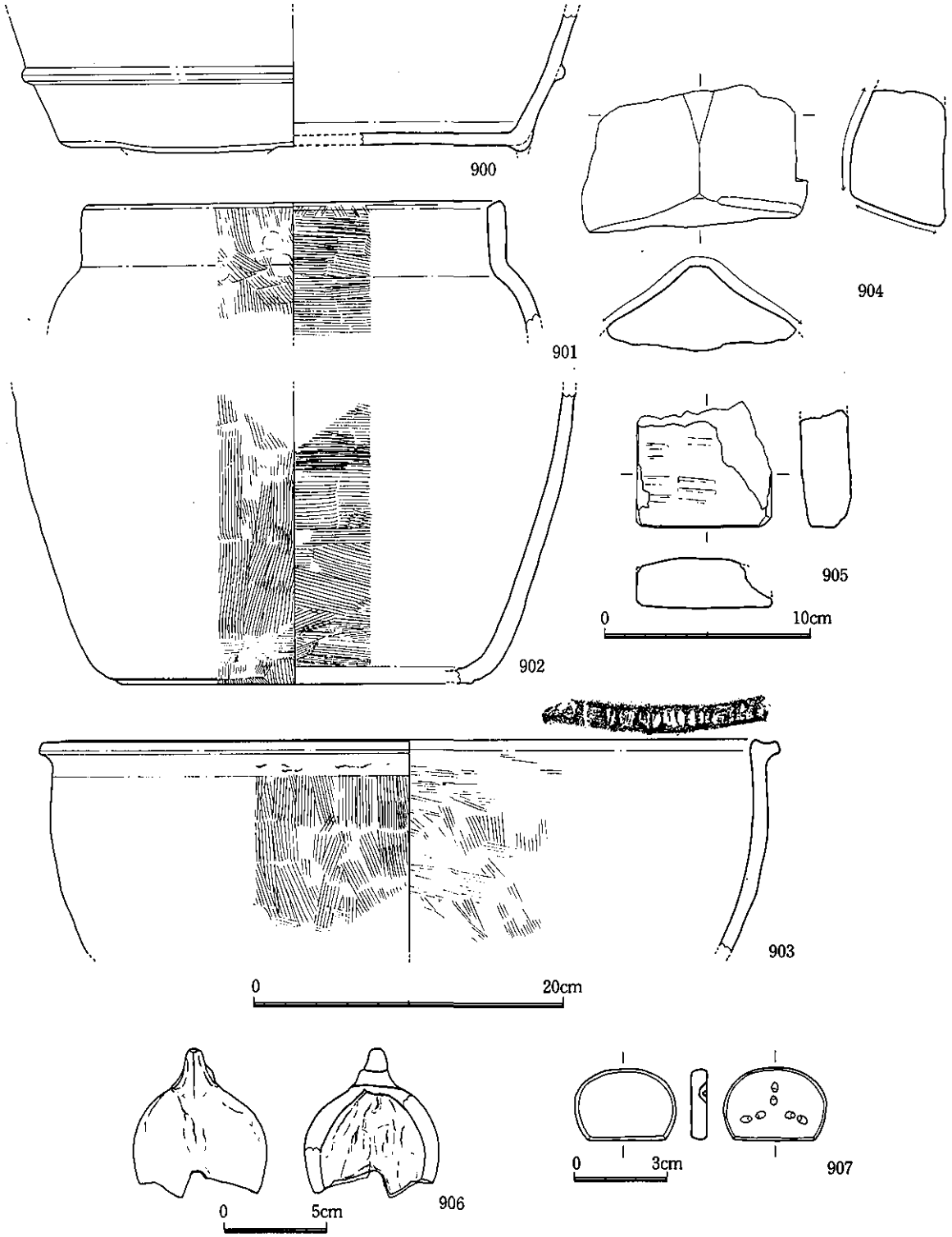
第114図　4区　SD04遺物実測図1 (1/3)



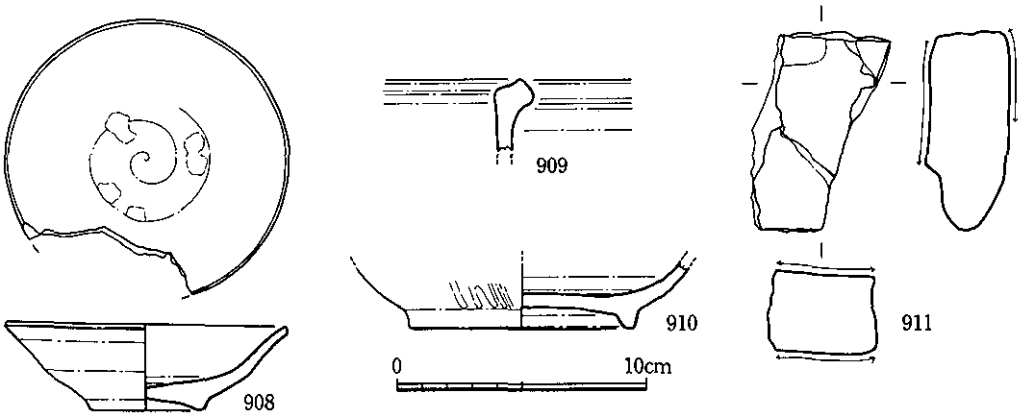
第115図　4区　SD04遺物実測図2（896：1/4、その他：1/3）



第116図　4区　SD04遺物実測図3（898：1/3、その他：1/4）（597は3区SD03出土）



第117図　4区　SD04遺物実測図4（904～906：1/3、907：1/2、その他：1/4）



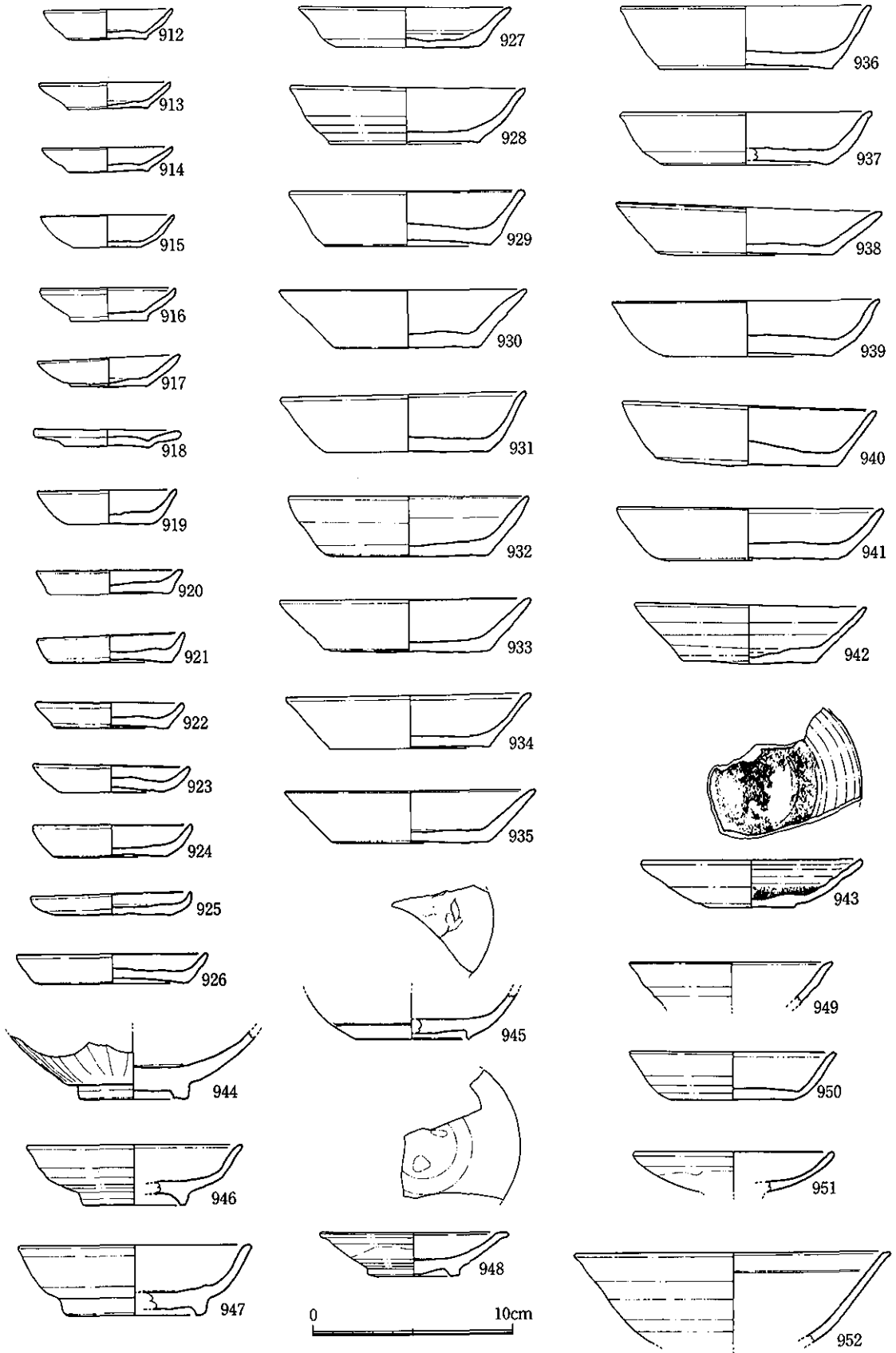
第118図　4区　SD05遺物実測図（1/3）

内面全体に飴釉を施し、外面には飴釉、灰色釉の柄杓掛けを行なう。口縁部は無釉。898は陶器擂鉢。肥前産であろう。底部付近の使用痕は顕著である。899・900は瓦質火鉢。899は底部から丸みをもって立ち上がる。口縁部直下の2沈線は突帯の代用を意図したものか。901・902は瓦質甕。胎土、色調、調整などから同一個体であろう。903は土師器鍋。口縁部上面に長方形の刻み目を連続して施す。904は砥石。905は滑石製品。温石の可能性がある。906は土鈴。本遺跡出土例の中では、極端に大きい。907は石帯（丸鞆）。黄緑色系の蛇紋岩を用い、表裏面とも平滑に仕上げている。裏面には潜り孔が3対穿たれている。1006は羽子板。板部の付け根は、やや不均等な二手切りによって作り出されている。柄部はやや細く、そのまま使用することは困難かもしれない。板面の凹凸は使用痕と考えるよりも、腐食によるものであろうか。1010は板碑。正面には梵字が確認される。正・側面に比べ、背面の加工は雑である。1014・1015は粉挽き臼の上臼。1016・1018は平瓦。1017は丸瓦。

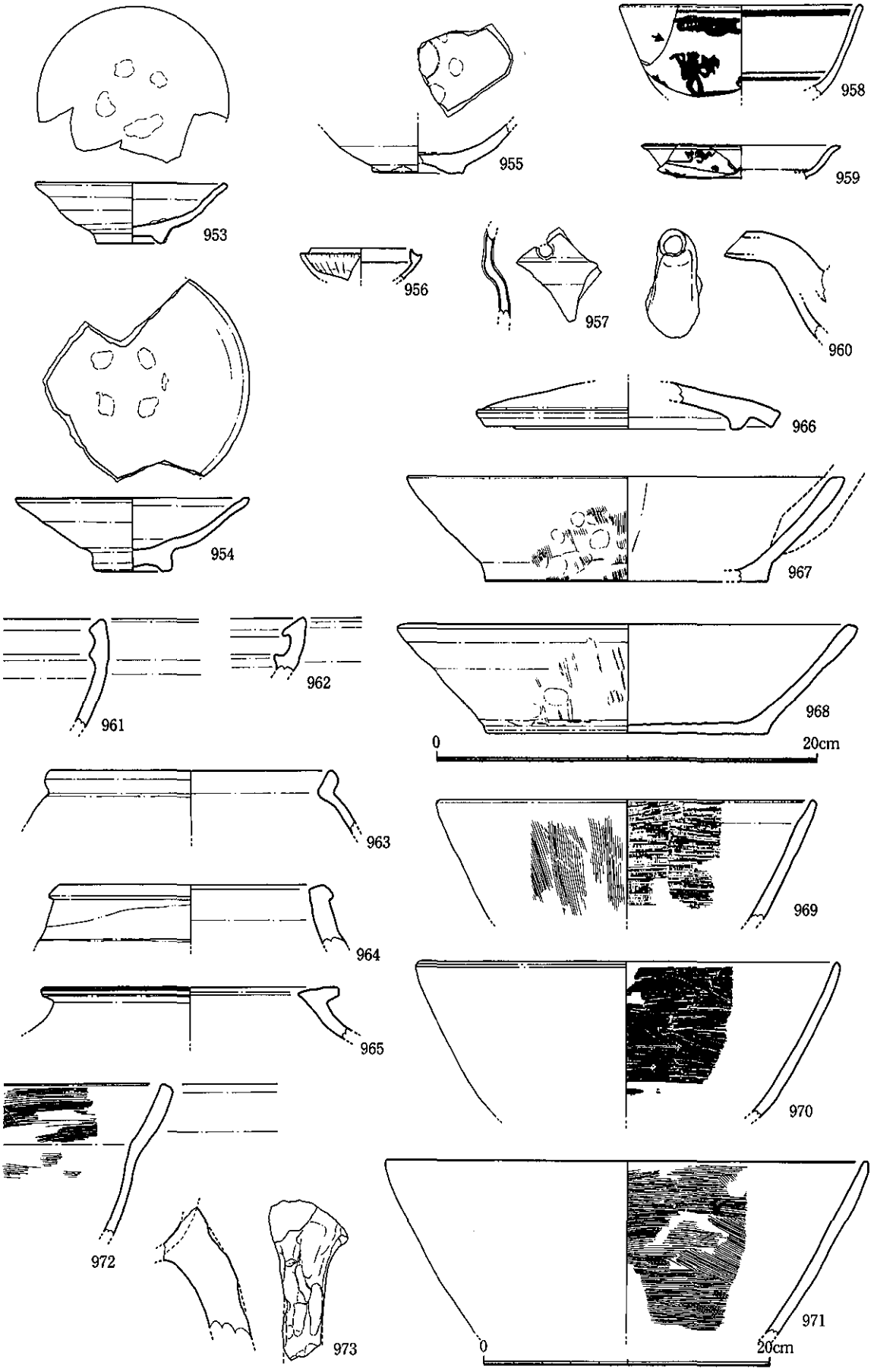
SD05（第74・112図）　調査区北東側で検出された。SD04に平行し、同じく南西壁際でL字形に屈曲し、SD04に切られる。幅1.2～1.7m、深さは検出面から42～73cmを測る。底面レベルは南に向かうにつれ低くなっている。断面形状は、凹レンズ状をなす。土層観察によると、下層では滞水の痕跡が指摘できる。最下層の粘質土の遺物を下層として取り上げている。なお、南よりの部分でSD05とSD06をつなぐような小溝（幅0.5m、深さ18cm）が確認された。埋土の観察から、両溝とも切り合いは認められないことや、貫通していないことを勘案すると、本来並存していた可能性が高い。

遺物（第118図）　908は朝鮮産陶器椀。下層でほぼ床面に接して出土した。全面に灰色釉を施す。909は中国産陶器盤。910は青磁瓶類。全面に施釉される。体部の文様モチーフは不明。高台内に白色の目跡が輪状にめぐる。911は砥石。砂岩製。これ以外に中国産染付皿（陶胎質）、白磁、瓦片、滑石製石鍋片、土師器片、焼土塊などが出土した。

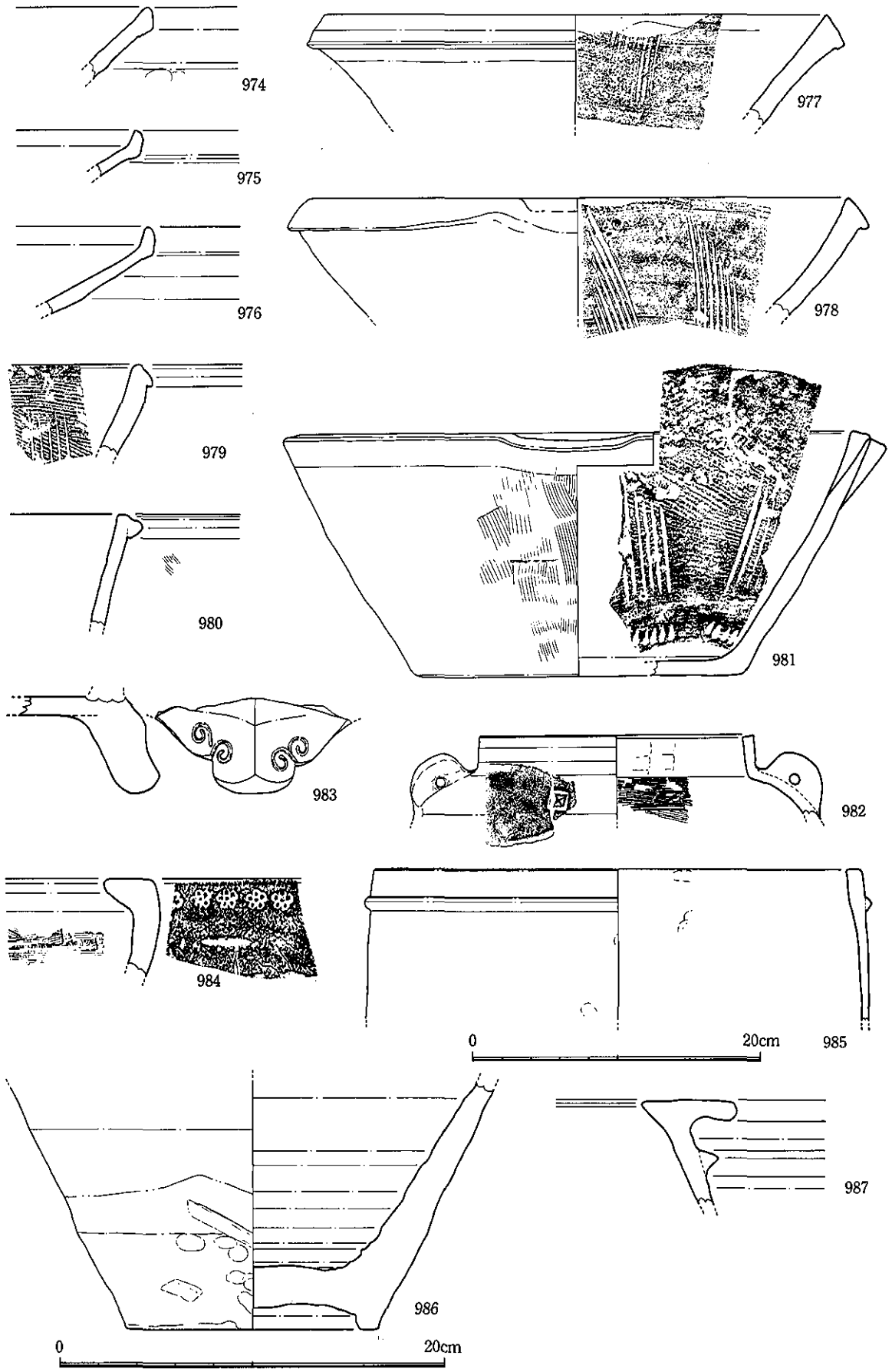
SD06（第74・112図）　調査区南東壁から南西壁に沿って、「コ」字状に検出された。SE04・05、SX62を切り、SE02に切られる。両上端の確認できる北西－南東方向部分では、幅3.2～5.0m、深さ63～91cmで、底面には明確な傾斜はない。壁面の立ち上がりは、西側に比べ東側はやや緩やかになる。調査区南東壁際では、南隅を除き南側の上端を確認できないが、底面には、幅0.5～1.5m、



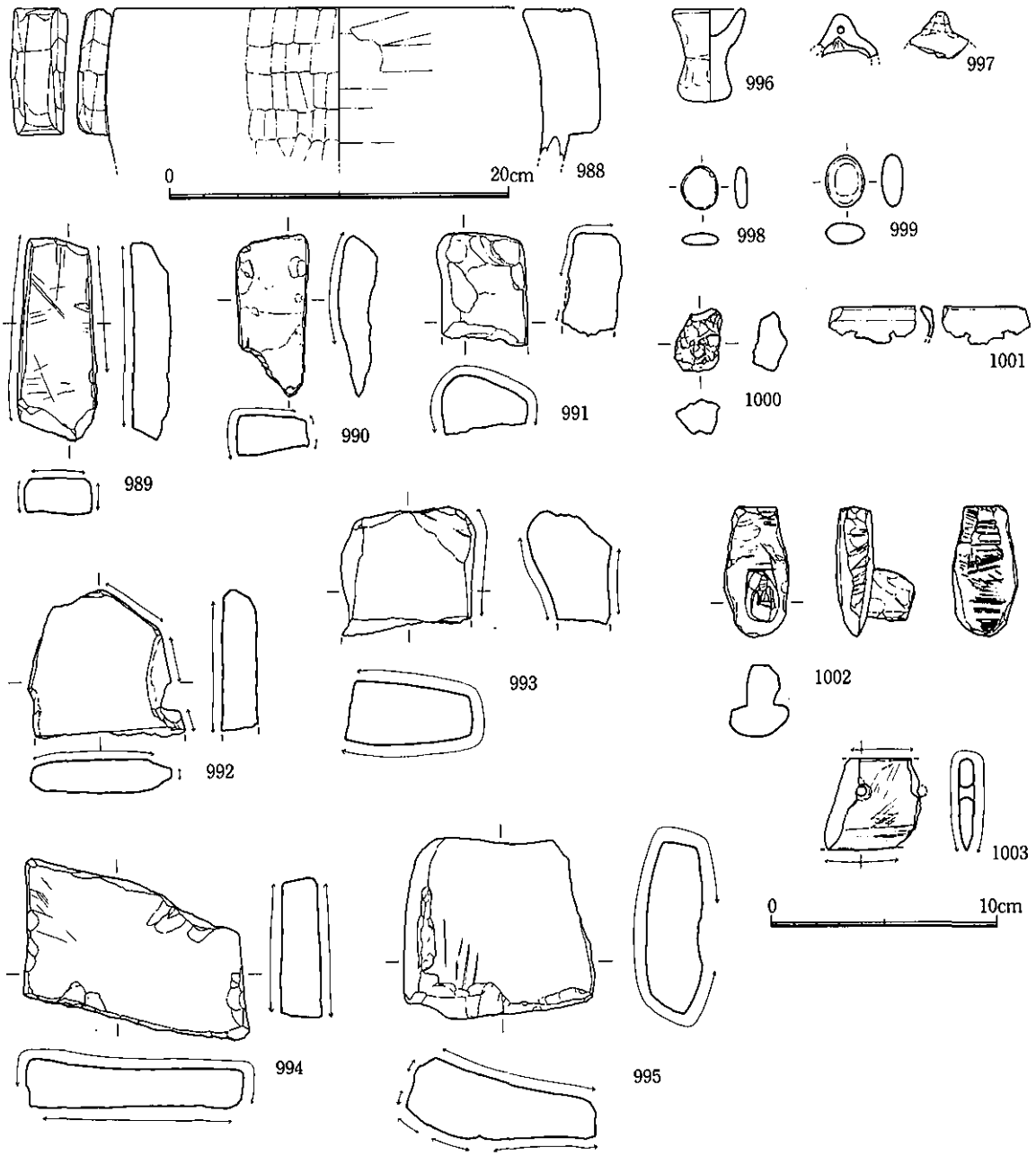
第119図　4区　SD06遺物実測図1　(1/3)



第120図　4区　SD06遺物実測図2（969～971：1/4、その他：1/3）



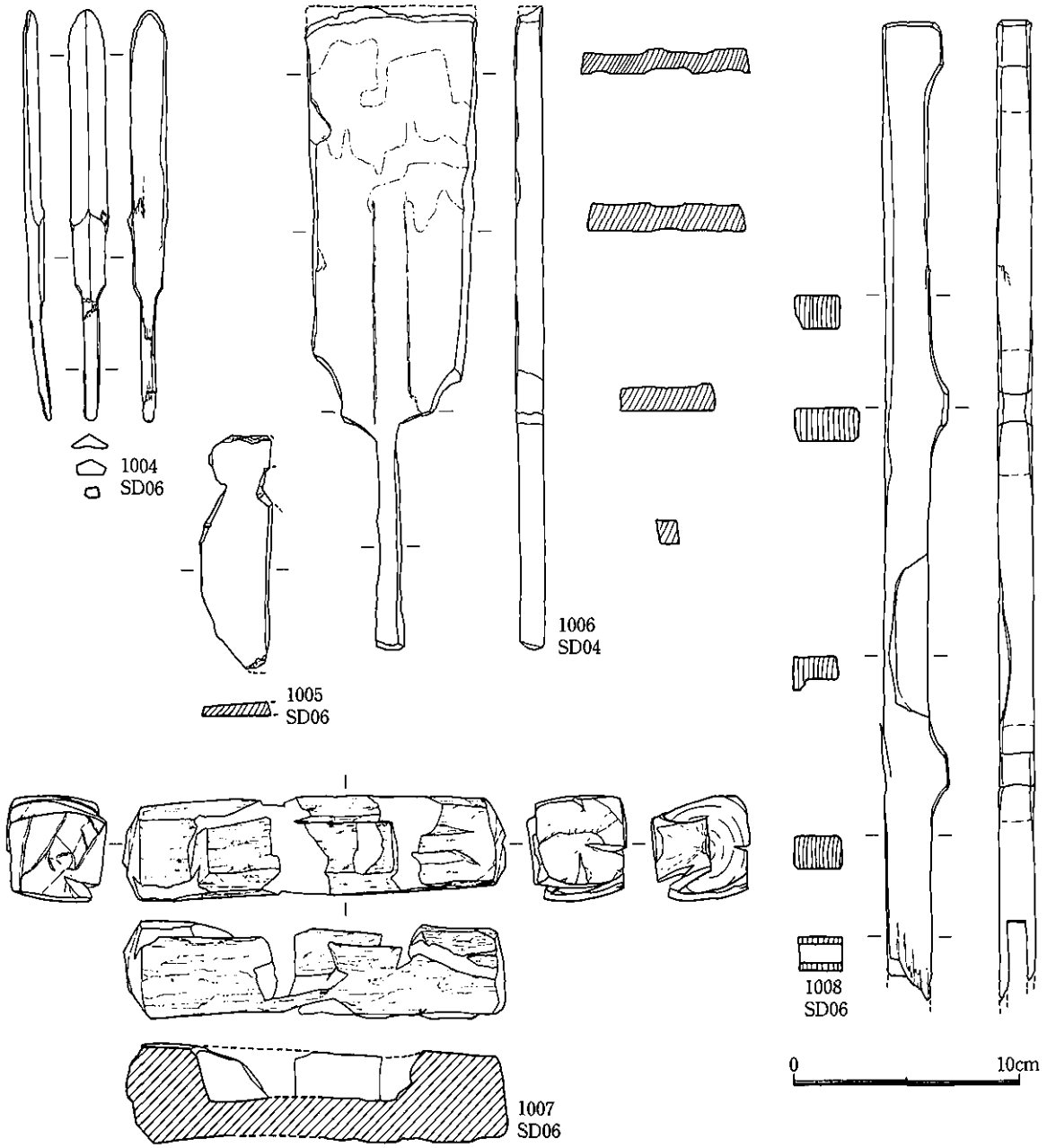
第121図　4区　SD06遺物実測図3（982・985：1/4、その他：1/3）



第122図　4区　SD06遺物実測図4（998：1/4、その他：1/3）

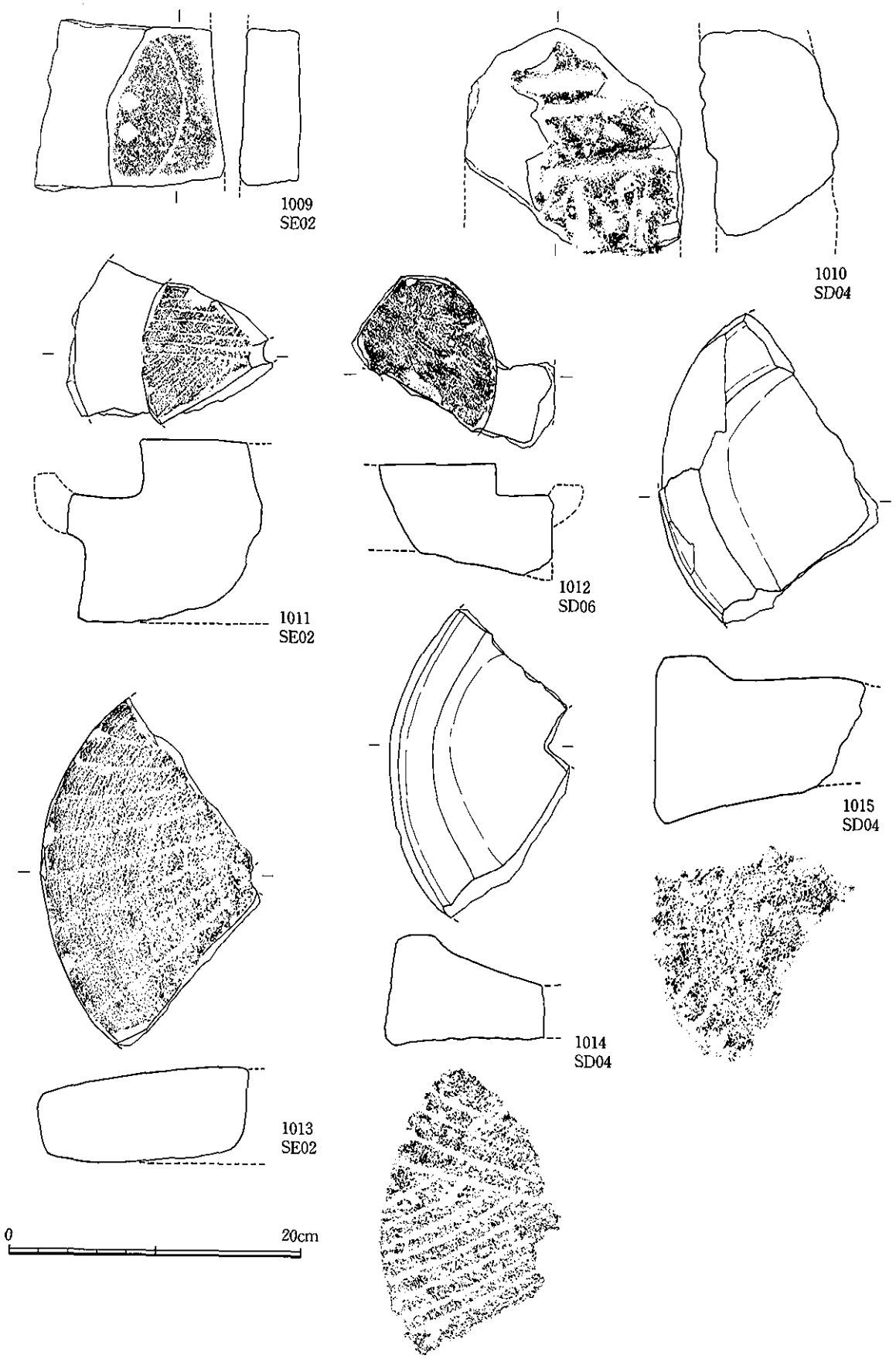
深さ10～35cmの断続的に深い部分がみられる。またb－b´土層をみて判るように、一部に掘り返しも確認できる。なお遺物の取上げについては、a－a´の黒色土層以下を下層として取上げている。なお、調査区東壁際については、調査時にSD07として取り扱っている。

遺物（第119～125図）　912～926は土師器小皿。特に912～917はほぼ同地点で出土し、胎土・色調も酷似している。927～943は土師器杯。943の内面には墨痕が確認される。944は竜泉窯系青磁椀。945は青磁丸皿。底部は碁笥底になる。見込みに植物文を施す。946・954・955は朝鮮産陶器椀。いずれも全面に施釉する。947は青磁皿。見込みに蛇の目釉掻きを行なう。948～951は白磁皿。948は見込みに蛇の目に釉掻きを行なう。太宰府分類Ⅲ類。949・950は口縁部内面を口禿げにする。太宰

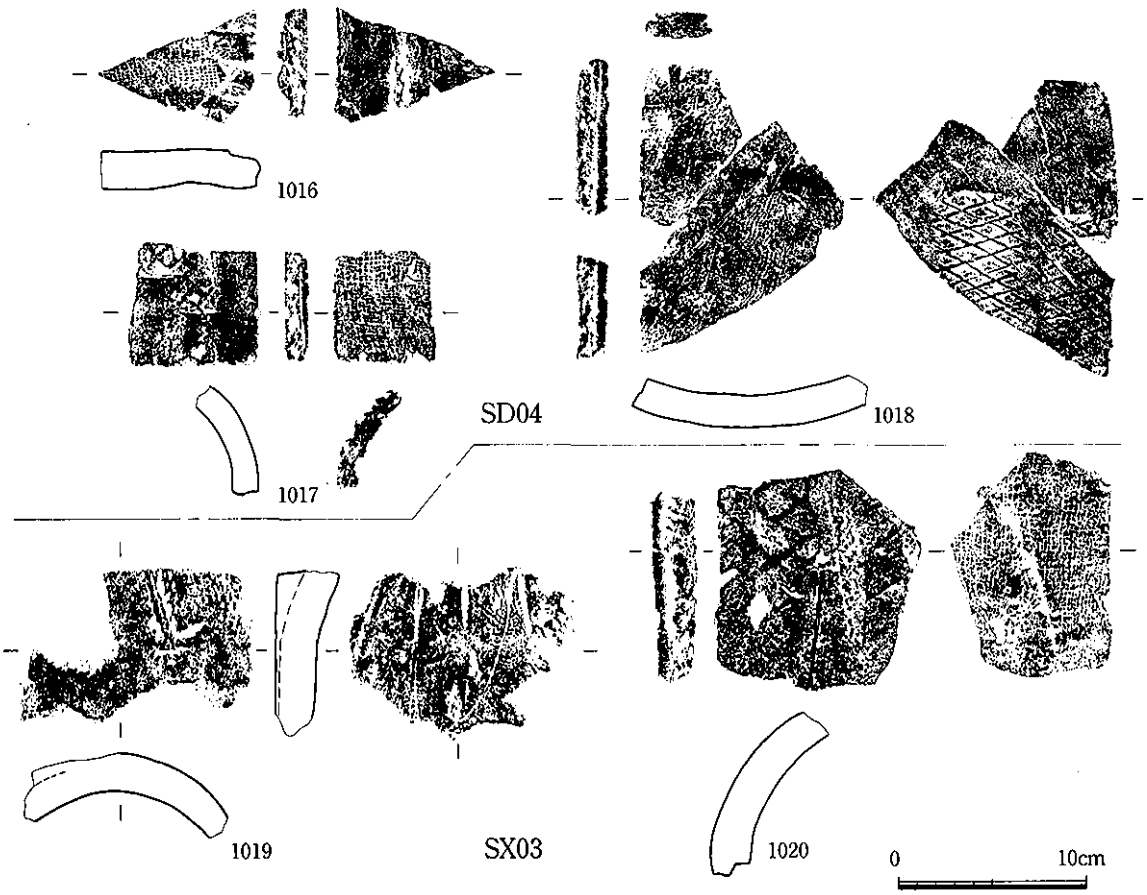


第123図　4区　SD04・06木製品実測図（1/3）

府分類Ⅸ類。952は中国産白磁椀。953は朝鮮産白磁椀。956は青白磁合子身。957は青磁香炉類か。透かし孔が確認できる。釉は厚い。958は中国産染付椀。破面に漆継の痕跡（図面矢印面）が確認できる。959は中国産染付皿。外面に唐草系の文様を施す。小野分類Ｂ１群。960は磁器注口部。やや青味がかった透明釉を施す。961・962は中国産陶器鉢。963は中国産陶器壷。内外面とも施釉され、口縁部内側には目跡が残る。964は陶器壷。口縁部周辺のみ鉄釉を施す。965は国産陶器甕。口縁部上面に貝目の痕跡が残る。966は瓦質蓋。どの器種に組み合わさるか判断できない。967・968は瓦質鉢。967は把手の剥落痕が明瞭に確認できる。969～973・980は瓦質鍋。969～971は法量は異なるものの、器形、調整など類似している。またいずれも煤の付着が顕著である。972は口縁部が

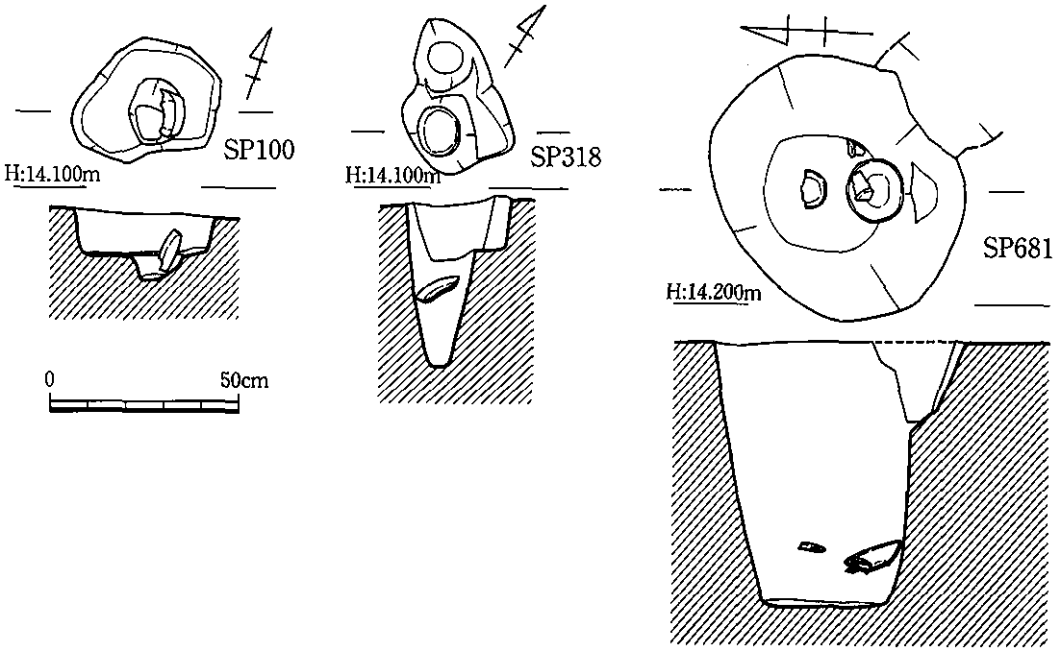


第124図　4区　板碑・石臼実測図（1/4）

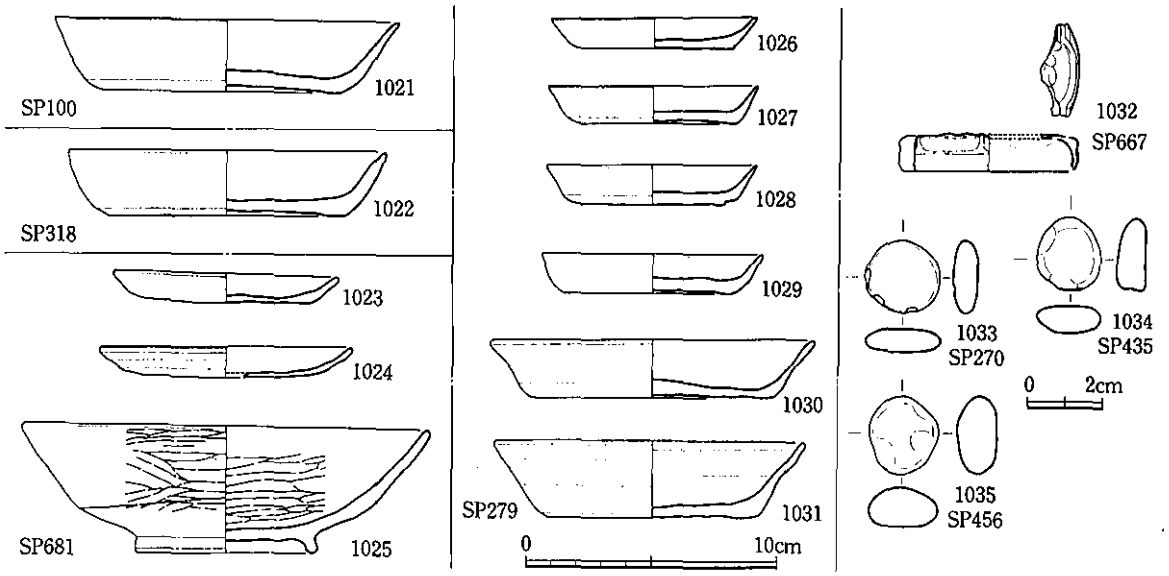


第125図　4区　瓦実測図（1/4）

緩やかに屈曲する類。973は足鍋の脚部であろう。980は口縁部に接して緩やかな断面三角形の突帯がつく類。974～976は東播系こね鉢。976は図面上で傾きがやや倒れすぎの感があるが、破片から復元する限り適切である。977・978は陶器擂鉢。備前焼であろう。979・981は瓦質擂鉢。981の内面下部には使用痕が認められる。982は瓦質湯釜。スタンプ文を施すが、施文規則は判断できない。983～985は瓦質火鉢。985は脚部で、蕨手状の沈線を施す。984は器高が低い類。986は陶器甕類。987は弥生土器甕。988は石鍋。口縁部に接して、縦位に方形の耳を有するタイプ。989～995は砥石。996はミニチュア土器。内面は比較的丁寧に仕上げる。997は土鈴。998・999は碁石。998は黒色系の石材。999は白色の石材（石英）を用い、やや厚みがある。碁石としてはやや不適当か。1000は鉄滓。1001は器種不明の銅製品。1002は滑石製品。3区SE06（第51図444）と同様の性格も想定されるが、穿孔などは認められない。1003は石庖丁。輝緑凝灰岩製。1004は剣状木製品。表面のみ鎬が認められる。用途は不明であるが、利器とは考えにくい。1005は人形の可能性がある。右側が欠けているため、明確に形状を把握できない。人形と想定した場合、首と頭に相当する部分に墨痕らしき微かな変色部分があるようにも見えるが、判然としない。1007は容器形木製品。棒状の芯持材を横断面「コ」字形に加工する。1008は不明木製品。上端を含め3ヶ所に山形の突起があり、下端には長方形の穿孔が認められる。家具・調度類の一部であろうか。1012は茶臼の下臼。磨耗のためか擂目は確認できない。



第126図　4区　SP100・318・681遺物出土状況実測図（1/20）



第127図　4区　ピット出土遺物実測図（1032～1035：1/2、その他：1/3）

SD08（第74図）　調査区西側で検出され、南北に走る。幅32～42cm、深さは検出面から7～20cmを測り、南に向かうにつれ浅くなる。埋土は黒色粘質土の単層であった。遺物は出土しなかった。

（5）ピット

遺物を出土したピットだけで、750基を超える。

このうち、いくつかのピットとそれらから出土した遺物を紹介したい。

SP100（第126図）　調査区ほぼ中央に位置する。2段掘り状になり、そこから立った状態で土師器杯が出土した。柱抜き取り後の祭祀的な行為であろうか。

SP318（第126図）　調査区南西側に位置する。2基のピットが切り合っている可能性が高いが、

埋土の相違は確認できなかった。２段掘り状になり、そこから完形の土師器杯が出土した。柱抜き取り後の祭祀的な行為の可能性があるが、出土位置は底面から浮いている。

SP681（第126図）　調査区南側に位置し、SX72を切る。ピットと呼ぶにはやや大ぶりな遺構である。底面近くで、瓦器碗や土師器小皿などが出土した。

遺物（第127図）　1021・1022は土師器杯。1023・1024は土師器小皿。1025は瓦器椀。1026～1029は土師器小皿。1030・1031は土師器杯。1032は白磁合子蓋。1033～1035は碁石。1033・1034は黒色系、1035は白色系の素材（石英）を用いる。

（６）小　結

Ａ．各遺構の時期

掘立柱建物跡　いずれも遺物量が僅少で、時期を明確にする出土状況もみられない。SB01は瓦器片の出土から12世紀以降。SB02は土師器小皿の法量から13世紀初頭以降。SB03は土師器小皿・杯の法量から13世紀代か。SB04は天目茶碗が出土しており、この種の遺物が普及する14世紀以降か。SB05は土師器小皿の法量から14世紀代か。SB06は竜泉窯系青磁椀Ⅱ類が出土しており、13世紀以降。

井戸跡　SE01は土師器小皿の法量、黒色土器・瓦器椀の形態から12世紀初頭から前半。SE02は朝鮮産陶器椀（刷毛粉青）、中国産染付皿の出土から15世紀後半～16世紀中頃。SE03は退化した蓮弁文青磁椀、瓦質擂鉢から14世紀以降。SE04は土師器杯の法量から13世紀前半か。SE05は土師器杯の法量から14世紀初頭前後か。SE06は土師器丸底杯から11世紀代か。

土坑　SX01は瓦器椀から12世紀代か。SX03は移動式カマド・丸瓦から８世紀後半前後か。SX11は石鍋の形態から12世紀以降。SX12は白磁皿Ⅸ類、退化した蓮弁文青磁椀から14世紀代か。SX13・14は白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁椀Ⅱ類が出土し13世紀後半か。SX15は竜泉窯系青磁椀Ⅱ類から13世紀代か。SX18は白磁皿Ⅸ類、退化した蓮弁文青磁椀が出土し14世紀代か。SX20は土師器小皿の法量と竜泉窯系青磁椀Ⅱ類から13～14世紀前半か。SX24は土師器小皿・杯の法量、竜泉窯系青磁椀Ⅳ類の出土から14世紀代。SX26は土師器小皿の法量、東播系こね鉢から13世紀後半～14世紀前半か。SX28は土師器小皿の法量、瓦器椀から12世紀代か。SX29は土師器杯の法量、白磁椀Ⅴ類から12世紀代か。SX30は瓦器椀から12世紀代か。SX34は土師器小皿の法量、竜泉窯系青磁椀から14世紀代か。SX40は白磁皿Ⅸ類から13世紀中頃以降。SX41・42は土師器小皿の法量などから14世紀初頭前後か。SX45は土師器小皿の法量から13世紀後半～末か。SX48は竜泉窯系青磁や土師器杯の法量から13世紀後半～14世紀前半か。SX49は土師器小皿の法量から13世紀初頭前後か。SX50は土師器小皿の法量や竜泉窯系青磁椀Ⅱ類が出土していることから13世紀中頃～後半か。SX51は竜泉窯系青磁椀Ⅱ類、白磁椀Ⅸ類から13世紀後半～14世紀前半か。SX55は竜泉窯系青磁椀Ⅱ類から13世紀以降。SX60は朝鮮産陶器椀から16世紀代か。SX62は土師器小皿の法量や瓦器椀から12世紀代か。SX68は枢府系白磁の出土から14世紀代。SX72は土師器小皿の法量や底部の糸切り、白磁椀Ⅴ－４類の出土から12世紀後半。

溝跡　SD01は弥生土器と黒曜石製石核が出土しており、現状では弥生時代中期。SD02も同時期か。SD04は16世紀以前の遺物も多く含むが、主体および下限は17世紀代の肥前産陶磁器。17世紀

後半の埋没時期が想定される。SD05は、朝鮮産陶器椀および陶胎質の中国産染付の出土から16世紀後半の埋没か。SD04に切られている。SD06は、朝鮮産陶器椀や中国産染付皿・椀など16世紀代の遺物が中心である。下限は16世紀末～17世紀初頭の国産陶器甕の可能性が高く、この時期の埋没が想定される。なお、SE05を切ることから上限は14世紀以降と考えられる。

B.遺構配置

溝は、SD04・05が3区に向かい「L」字形に、SD06は調査区を「コ」字形に沿うように屈曲する。SD04については、3区SD03と組み合わさり方形区画溝（一辺約38m）となる可能性が高く、遺物からみた埋没時期もほぼ同時期である。SD05はSD04と全く同じ方向性を示しており、時期的に先行することを考慮すれば、SD05に対しSD04の掘削は区画の若干の縮小（一辺約42m→約38m）を意図した行為とみることができよう。なお、SD04と組み合わさる3区SD03には、SD05に対応し先行する溝跡は確認できていないことから、16世紀代から存続した可能性を指摘できる。

土坑・井戸については、先に示したとおり12世紀～14世紀代の遺物が主体であり、SX60やSE02を除き区画溝との並行関係は認められない。しかしながら、SD06より北東側には12世紀代の遺構が散漫に分布するのみであることや、建物群の方向とSD06の方向がほぼ合致することなどから、こうした区画や方向性が13世紀代にある程度意識されていた可能性は高い。

Ⅳ. ま と め

巻頭の例言に記載したとおり、今回の報告は1区から７区まである御笠の森遺跡第９次調査のうち１区から４区の調査成果をまとめたものである。よって各種の検討については、５区から７区の報告と合わせて次年度行なう予定にしている。

今回は、遺跡の消長と文献上の位置づけなどに対して、現時点での概要をまとめておきたい。

１．遺跡の消長

縄文時代～古墳時代　本遺跡で最も古い遺物は、縄文時代の所産と考えられる１区SD03出土の姫島産黒曜石製石鏃（第32図191）が相当する。続く弥生時代には４区で中期初頭の溝跡（SD01）が検出されたほか、弥生土器は後世の遺物に混じって１区から４区まで少量ながら確実に出土している。古墳時代前期には、２区SX10のみが確認される。

当該期は、遺物量が少ないうえに、遺構はこれらのみであり、安定的な集落の存在は認められない。

７世紀後半～10世紀　７世紀後半の遺構として３区SE02、８世紀後半の遺構として１区SE02が相当する。特に１区SE02は、複数の曲物とともに、完形の墨書土器（土師器杯）が出土しており注目される。また３区・４区の16・17世紀の溝跡などからは、８世紀後半から９世紀代と推定される瓦片が一定量出土しており、４区SD04出土の石帯（丸鞆）（第117図907）とともに、その意義付けは大きな課題といえる。なお、８次調査では奈良期の竪穴住居が検出されており、調査区周辺の状況も合わせて検討する必要がある。10世紀代の遺構は、確認されていない。

11世紀～12世紀　白磁Ⅳ・Ⅴ類、同安窯系青磁などを指標とする。３区SE05・06、４区SE01・06、SX72などが相当する。特に３区SE05は11世紀中頃～後半、３区SE06は12世紀前半～中頃、４区SX72は12世紀後半の好資料といえよう。当該期以降、継続的に集落が営まれることになり、出現期である11世紀後半～12世紀は、本遺跡の１つの画期といえよう。

13世紀～14世紀　竜泉窯系青磁椀Ⅱ・Ⅳ類、白磁Ⅸ類などを指標とする。主体は14世紀前半までと想定するが、竜泉窯系青磁椀Ⅳ類の年代観など不明な点が多く、下限は明確にできない。竜泉窯系青磁椀Ⅱ類の段階、Ⅳ類と白磁Ⅸ類の段階に大きく分離できるが、ここでは一括して扱う。

４区SE04・05のほか、４区の土坑・掘立柱建物跡の大部分が当該期に属し、遺構密度は高い。茶入れ（SX40）、天目椀・枢府系白磁（SX68）なども出土している。一方、１～３区の当該期の遺構は僅少であり、その差は明瞭である。

15世紀～16世紀　白磁（森田分類Ｄ・Ｅ群）、中国染付、朝鮮産施釉陶器などが指標となる。なお、現時点で15世紀代の遺構として認識できるものは極めて少ない。

１区ではSE01・03、SX02・05・11など、２区ではSB02、SE01など、３区ではSE03など、４区ではSE02、SX60、SD05・06（区画溝）などが当該期の遺構と判断できる。また、埋没時期が17世紀となる１区SD04～06、３区SD01・03といった溝跡も掘削時期が16世紀代まで遡る可能性は高い。

こうした状況から、13～14世紀前半に4区に集中していた遺構群は、15世紀に急激に減少する様子がうかがえ、1区を中心としてわずかな遺構と、遺物の分布を見るのみとなる。16世紀になると、後半期を中心に1区から4区まで遺構が確認されており、特に当遺跡を特徴付ける小規模で規則的な方形区画の形成もこの時期の成立したものと考えられよう。

17世紀　肥前産陶磁器を年代観の指標とする。1区の溝跡群、3区のSE01・04、SX01・09、SD01・03、4区のSD04などが当該期に属する。基本的に前代の溝跡が継続的に利用され、小規模区画は踏襲される。ただし、4区を取り囲むSD06については、17世紀初頭前後には埋没し、さらに区画内では17世紀代の遺構は確認できていないことから、当該期には廃絶されていた可能性が高い。各遺構（特に溝跡）の埋没時期は、いずれも17世紀中頃～後半と考えられ、この時期をもって、11世紀から続いた集落はほぼ終焉する。

18世紀　肥前産陶磁器を年代観の指標とする。2区SX09が該当する。当該期の確実な遺物は1点のみであり、前代の集落が継続していたとは考えづらく、その位置づけは明らかにできない。

2．文献にみる御笠の森遺跡

18世紀に編纂された『筑前国続風土記拾遺』の山田村の項には、「此村昔は御笠の森の辺にあり、延宝のころ（1673～1681）今の地に移せり、」と記載がある。つまり、17世紀後半の村の移転記事であるが、これをみると御笠の森遺跡の地理的な位置と、遺跡の終焉時期が、この記事に符合していることに気づく。このことから、御笠の森遺跡は移転以前の山田村に相当と判断できよう。この点については、1999年度の8次調査の際にすでに指摘しており、今回の調査によってより明確になったといえる。

なお、「今の地」、つまり移転後の山田村の中心的集落は、遺跡の南方、慶伝寺や宝満宮（第2図）の周辺と、日田街道に面し雑餉隈に接した地域と考えられるが、発掘調査のデータが少なく、現時点では考古学的に確認できていない。

3．今後の課題

今回の調査では、16～17世紀の複数の小規模区画が検出された。これにより8次調査で確認された大規模な区画（一辺約70m）と今回の小規模区画が合わさって集落を形成している状況が明らかとなった。今後他遺跡との比較検討を行ない、遺跡の性格付けを行なうことが重要な課題といえよう。また、当該期に出土する茶臼や鉛弾、下駄や羽子板・独楽などの遺物も、一般の集落遺跡に多く出土するものではなく、遺構のあり方と合わせて検討を行なう必要がある。

1　区

法量の（　）は復元値を表わす

遺物番号	図	種類	器種	出土地点	法量cm ①口径 ②器高 ③底径 (高台径) ④最大径	形態・技法の特徴	A 胎土　B 焼成　C 色調（釉調）	備考
1	11	土師器	杯	SP36 (SB01)	①(11.4) ②2.4 ③9.0	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・赤色粒子をやや多量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/3	
2	11	土師器	小皿	SP37 (SB01)	①(7.0) ②1.0～1.15 ③5.3	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片・赤色粒子をやや多量含む Bやや良好　Cにぶい橙色7.5YR7/4	体部内面に粘土塊付着 口縁部の歪み著しい
3	11	磁器	染付皿	SP170 (SB01)	②1.7＋α	口縁部に施釉　口縁部は外反する 呉須の発色が薄い	A精良　B良好　C灰白色2.5Y8/1 (透明釉が薄く施す、全面に貫入)	中国産
4	11	瓦質土器	擂鉢	SP59 (SB02)	②9.7＋α ③(14.4)	指頭圧後ナデ 5条1単位の擂目	A粗砂粒を多量含む　B不良　C器表面はにぶい橙色7.5YR6/4　器壁中央は暗灰色N3/	
5	11	石製品	砥石	SP140 (SB03)	長さ8.2＋α 幅6.7 厚さ3.5	2面の使用面残存		砂岩製
6	11	磁器	青磁椀	SP256 (SB08)	②3.7＋α	口縁部～体部上位に施釉 外面に蓮弁文	A細かい白色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N7/(オリーブ灰色5GY6/1釉を薄く施す)	竜泉窯系青磁
7	11	土師器	杯	SP01 (SB05)	②1.8＋α	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・赤色粒子を少量含む　B良好 Cにぶい橙色5YR6/4	
8	11	陶器	椀	SP02 (SB05)	①(9.6) ②3.6 ③3.6	全面施釉　回転ナデ削り出し高台 見込みと畳付けに目跡	A細かい白色砂粒を多量含む　所々に小さな隙間 B良好　C灰オリーブ色5Y6/2 (透明釉を薄く施す)	朝鮮産
9	11	土師器	小皿	SP235 (SB06)	②1.0＋α ③(4.2)	体部は回転ナデ　見込みは不定方向ナデ　外面底部に糸切の痕跡	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C内面はにぶい橙色7.5YR6/4　外面はにぶい褐色7.5YR6/3	
10	11	瓦質土器	擂鉢	SP295 (SB07)	②6.6＋α	指頭圧後ナデ 5条1単位の擂目	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　Bやや良好 C器表面は褐灰色10YR5/1　器壁中央は灰色N4/	
11	11	土製品	土鈴	SP295 (SB07)	④(3.1)	外面は摩滅の為調整不明 内面はナデ	A0.5以下～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C灰白色10YR8/2	
12	11	磁器	青白磁合子蓋	SP252 (SB07)	①(5.4) ②1.2 ④(7.0)	全面に施釉後口縁部内面を釉カキ取り	A精良　B良好 C灰白色7.5Y8/1 (緑灰色10GY8/1釉を薄く施す)	中国産
13	11	土師器	小杯	SP357・421 (SB08)	①(8.8) ②2.45 ③(6.2)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C内面は褐灰色10YR4/1　外面は褐灰色10YR6/1	
14	11	瓦質土器	皿	SP403 (SB10)	②1.25＋α	回転ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C器表面は灰色N5/　胎土はにぶい黄橙色10YR7/2 器壁中央は褐灰色10YR5/1	
15	11	陶器	椀か皿	SP353 (SB10)	②1.2＋α	残存部外面はやや疎らに施釉	A細かい白色粒子を少量含む　B良好 C灰白色2.5Y8/2 (灰白色10YR8/2釉を薄く施す)	肥前産か
16	11	瓦質土器	擂鉢	SP357・421 (SB10)	②1.3＋α	擂目あり 外面体部下位はハケ	A細かい砂粒を少量含む　B不良　C器表面はにぶい黄橙色10YR6/3　器壁中央は黄灰色2.5Y4/1	
17	12	木製品	柱材	SP552 (SB05)	長さ29.9＋α ④13.0 短径11.3	下位で加工痕		
18	12	木製品	柱材	SP280 (SB06)	長さ17.2＋α ④12.1	下位で加工痕		
19	12	木製品	柱材	SP357 (SB10)	長さ36.1＋α ④14.5 短径10.6	下位で加工痕		
20	12	木製品	柱材	SP553	長さ22.0＋α ④12.7 短径11.5	下位で加工痕		
21	12	木製品	柱材	SP358 (SB10)	長さ34.85＋α ④10.3 短径9.75	下位で加工痕		
22	14	土師器	小皿	SE01 中部	①7.3 ②1.4 ③3.8	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2	
23	14	土師器	小皿	SE01 中部	①(7.9) ②1.1 ③(5.6)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C灰白色2.5Y7/1	
24	14	土師器	小皿	SE01 中部	①(7.5) ②1.5 ③(5.1)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/3～灰白色7.5YR8/1	
25	14	土師器	小皿	SE01 中部	①(8.4) ②1.05 ③(6.4)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰色7.5Y6/1	
26	14	土師器	杯	SE01 中部	①(10.5) ②2.0 ③(7.0)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/2	
27	14	土師器	杯	SE01 中部	①(11.2) ②2.1 ③7.2	摩滅の為調整不明	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C橙色2.5YR6/6	
28	14	土師器	杯	SE01 上部	①(12. 2) ②2.1 ③(7.5)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量含む　Bやや不良 C灰黄色2.5Y7/2	
29	14	土師器	杯	SE01 中部・下部	①12.0　②2.6 ③6.5	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　B良好 C黄灰色2.5Y6/1～灰白色2.5Y7/1	中部・下部出土破片が接合
30	14	磁器	白磁椀	SE01下部	②3.8＋α	口縁部～体部上位に施釉 回転ナデ	Aわずかに隙間が見られる　B良好　C灰白色5Y8/1 (やや白味を帯びた透明釉を薄く施す)	太宰府分類 Ⅳ類
31	14	磁器	白磁椀	SE01 中部	②2.1＋α ③(7.0)	内面に施釉　外面体部下位にヘラ削り　削り出し高台	A所々に隙間が見られる　B良好　C灰白色5Y8/1 (灰白色2.5Y8/1釉が薄く施す　全面に細かい貫入)	太宰府分類 Ⅳ類
32	14	磁器	白磁皿	SE01下部	②1.3＋α ③3.7	内面～外面体部下位に施釉 削り出し高台	A精良　B良好 C灰白色N8/(灰白色10Y7/1釉を薄く施す)	
33	14	磁器	白磁皿	SE01 中部	②1.1＋α ③3.5	内面～外面体部下位に施釉 高台は削りだし	A精良　B良好 C灰白色N8/(灰白色N8/釉を薄く施す)	外面体部下位に墨書が見られ 高台内部にも墨痕が確認できる
34	14	磁器	青磁皿	SE01 中部	①8.3 ②2.7 ③4.5	全面施釉　内面に唐草文 外面に蓮弁文	A細かい白色粒子をわずかに含む　B良好 C灰白色N7/(オリーブ灰2.5GY5/1釉を厚く施す 全面に気泡確認)	竜泉窯系青磁 高台内面に支えの痕跡
35	14	陶器	椀	SE01 中部	②3.6＋α ③(6.2)	全面施釉 見込み・畳付けに目跡(砂目)	A細かい砂粒を少量含む　所々に隙間　B良好 C灰黄色2.5Y7/2 (灰黄色2.5Y7/2釉を薄く施す)	朝鮮産
36	14	磁器	染付皿	SE01 中部	①(9.7) ②2.55 ③(5.0)	高台内は露胎	A精良　B良好 C灰白色N8/(透明釉を薄く施す、呉須緑色)	中国産 漆継ぎ痕跡
37	14	瓦質土器	火鉢	SE01 中部	②10.7＋α ③(34.6)	指頭圧後内面にヨコナデ　外面にヘラミガキ　外面にスタンプ文(花文)　脚部に施文	A細かい砂粒をやや多量含む　B良好 C内面は灰色7.5Y4/1　外面は灰色N6/～N3/　器壁中央は灰白色N7/	
38	14	瓦質土器	片口擂鉢	SE01 中部	①(31.4) ②5.7＋α	指頭圧後内面に回転ナデ・ハケ 外面にヨコナデ　5条1単位の擂目	A細かい砂粒をやや多量含む　B良好 C内面は灰黄褐色10YR6/2　外面は灰黄褐色 10YR3/1　器壁中央は灰色N4/	
39	14	瓦質土器	擂鉢	SE01 中部	①(33.2) ②6.2＋α	指頭圧後回転ナデ　内面にナデ 外面にハケ　擂目有り	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 C内面はにぶい黄橙色10YR6/3　外面は灰黄褐色 10YR6/2	
40	14	瓦質土器	片口擂鉢	SE01 中部	①(32.0) ②7.7＋α	指頭圧後回転ナデ　内面にハケ 7条1単位の擂目	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C器表面は灰色 7.5Y5/1　器壁中央は灰白色10Y8/1	外面体部上位に煤付着
41	14	瓦質土器	湯釜	SE01 中部	②5.6＋α	指頭圧後内面にハケ 外面にヨコナデ	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む Bやや不良　Cにぶい橙色7.5Y7/3	
42	15	木製品	柄	SE01	長さ4.6＋α 幅4.5 厚さ1.4	先端部に加工痕 木取り不明		
43	15	木製品	曲物底板	SE01	直径24.3＋α 厚さ0.5	表裏面に複数の貫通孔		柾目材
44	15	木製品	曲物底板	SE01	直径32.2＋α 厚さ0.8	側面に穿孔		柾目材

遺物観察表 2

45	16	土師器	杯	ＳＥ02下部	①14.2 ②3.55～3.7 ③6.8	回転ナデ後ミガキ　見込みに不定方向ナデ　外底面に回転ヘラ切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや少量含む Bやや良好　C橙色7.5YR6/6	外底面に墨書あり
46	16	須恵器	杯	SE02	②1.6＋α	高台貼付けに伴うナデ	A細かい粒子を少量含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
47	16	土師器	甕	SE02	②3.2＋α	内外面にヨコナデ後ハケ 外面頸部に指頭圧痕	A細かい砂粒を多量に含む　B不良 C橙色5YR7/8～浅黄橙色10YR8/4	
48	16	土師器	甑把手	SE02	最長10.7 断面長径4.4 断面短径3.15	ヘラ削り後ハケ	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C浅黄橙色7.5YR8/3	
49	16	須恵器	甕	SE02	②4.0＋α	内面に平行当て具痕と車輪文当て具痕　外面に平行叩き痕	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C内面は暗青灰色10GB4/1　外面は明褐灰色5YR7/1	
50	16	瓦	平瓦	SE02検出面	厚さ(1.5)	凸面は細かい縄目叩き、凹面に目の粗い布目圧痕　側端面は縦ナデ	A0.5～4.0mmの白色砂粒を多く含む　Bやや軟質 C灰白色5Y7/1～2.5Y8/2	断面に縦位の粘土紐じ痕あり 側端は凹凸面側ともに約3mm削る
51	16	木製品	曲物底板	SE02	④17.5 最短径16.4 厚さ0.8	表裏面に規則的に並ぶ複数の貫通孔　側面に側板留めの複数の穿孔		2枚板の結合に使用する穿孔か　漆の塗布
52	16	木製品	曲物底板	SE02	④14.9 最短径14.0 厚さ0.7	表裏面に鍛針線らしき痕跡　表裏面・側面に側板留めの複数の穿孔		表裏面の穿孔に樺紐が残存 側面の穿孔に木釘残存　板目材
53	16	土師器	小皿	Se03井筒内	①(7.6) ②1.55 ③4.5	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰黄褐色10YR5/2	口縁部が一部煤ける(灯明皿)
54	16	土師器	杯	SE03掘り方	②1.2＋α	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C内面は灰白色10YR7/1　褐灰色10YR4/1	
55	22	瓦質土器	鉢	SX01	②7.1＋α	外面指頭圧、内面ハケ	A細かい粒子をやや多量に含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR6/3	
56	22	瓦質土器	火鉢	SX02	②4.1＋α	口縁部はヨコナデ　内面はハケ スタンプ文(梅花形)	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　Bやや不良 C内面は灰色N5/　外面は灰白色2.5Y8/1	
57	22	磁器	染付皿	SX02	②1.65 ③(4.8)	見込み・底部外面以外に施釉　内面にナデ　外面はヘラ削り　見込みに目跡　内外面に圏線を施文	A所々に小さな隙間が見られる　B良好 C灰白色N8/1(やや青味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産(福建省産か)
58	22	瓦質土器	擂鉢	SX03	②1.95		A細かい砂粒を少量含む　B不良　C灰色N4/	
59	22	陶器	椀	SX05	②2.4	ハケによる白化粧	A細かい砂粒・黒色粒子をやや多量に含む　B良好 C灰色N5/(やや黄色を帯びた透明釉を薄く施す)	朝鮮産陶器(粉青沙器)
60	22	土師器	杯	SX08	①(10.8) ②2.3＋α ③(5.6)	回転ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B不良 C明褐灰色5YR7/2	
61	22	磁器	染付椀か皿	SX11	②2.2＋α	口縁部外反 呉須の発色が薄い	A所々に小さな隙間　B良好　C灰白色2.5Y8/1青味を帯びた透明釉が薄く施す　全面に細かい貫入)	中国産　遺物番号3と同一個体の可能性あり
62	22	磁器	青磁椀	SX11	②2.1＋α ③(5.7)	高台外面まで施釉 見込みに花を施文	A細かい砂粒少量含む　B良好 C灰白色N7/1(緑灰色10GY6/1釉を薄く施す)	龍泉窯系青磁 太宰府分類 Ⅳ類。周囲打ち欠き
63	22	土師器	甕	SX11	②3.95＋α	磨耗の為調整不明	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B不良 C内面は灰黄色2.5Y7/2　外面は灰色5Y6/1	
64	22	瓦質土器	擂鉢	SX11	②6.2＋α	指頭圧後内外面にハケ　擂目有り	A細かい砂粒を少量含む　B不良 Cにぶい褐色7.5YR6/3	
65	22	瓦質土器	擂鉢	SX11	②3.4＋α	外面はヨコナデ　擂目有り	A細かい砂粒をやや多量含む　Bやや良好 C内面は浅黄橙色10YR8/3　外面は黒色N1.5/ 器壁中は暗灰色N3/	外面に煤付着
66	22	瓦質土器	擂鉢	SX11		指頭圧後内面にハケ　外面にヨコナデ　底面にハケ　5条1単位の擂目	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量含む　B良好 C内面はにぶい橙色7.5YR7/4　外面は灰白色7.5YR8/2	
67	24	土師器	小皿	SD01	①(6.3) ②1.2 ③(4.1)	回転ナデ後見込みにナデ 外底面に糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　B良好 C橙色5YR6/6	口縁部は歪む
68	24	土師器	杯	SD01	②2.2＋α	回転ナデ後見込みに不定方向のナデ　外底面に糸切り痕	A細かい砂粒少量含む　Bやや良好　C器表面はにぶい橙色5YR7/4　器壁中は黄灰色2.5Y6/1	
69	24	磁器	青磁椀	SD01	①(14.8) ②4.6＋α	残存部全面に施釉 回転ナデ後外面体部にヘラ削り	A所々に小さな隙間　B良好　C灰白色10YR7/1(緑灰色10GY6/1釉をやや厚く施す)	
70	24	瓦質土器	擂鉢	SD01	②5.1＋α	指頭圧後内面にハケ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰黄褐色10YR6/2	
71	24	瓦質土器	擂鉢	SD01	②4.3＋α	指頭圧後内外面にハケ 擂目有り	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　Bやや不良 C灰黄褐色10YR6/2	
72	24	土師器	杯	SD03白灰色砂質土	①11.1 ②2.3 ③6.0	磨耗の為調整不明	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量含む　B不良 C灰白色2.5Y8/2	
73	24	磁器	染付椀	SD03白灰色砂質土	①(14.0) ②5.6 ③5.8	高台畳付け以外を施釉 外面は唐草文　見込みに花を描く	A精良　B良好　Cスノーホワイト N9.5(青味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産(景徳鎮窯系)
74	24	磁器	染付皿	SD03	②2.8＋α ③4.9	畳付～高台内は露胎　見込みに楕を描く　畳付けに目跡(砂目)	A精良　B良好　Cパールホワイト N8.5(青味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1630～40年代)
75	24	瓦質土器	擂鉢	SD03	①(25.5) ②6.5＋α	指頭圧後口縁部にヨコナデ 内面ヨコナデ　外面ハケ 擂目有り	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C口縁部～内面は灰色N6/　外面は灰白色10YR8/1 口縁部の器壁中央は緑灰色5G5/1	
76	24	瓦質土器	擂鉢	SD03白灰色砂質土	②8.3＋α	指頭圧後口縁部にヨコナデ 内面は工具ナデ　擂目有り	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好　C器表面は浅黄橙色10YR8/4　器壁中央は灰白色N7/	
77	24	瓦質土器	鉢	SD03白灰色砂質土	②5.5＋α	指頭圧後ハケ	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C内面は褐灰色10YR5/1　外面は黒褐色土2.5Y3/1 器壁中央は明黄褐色10YR7/6	
78	24	瓦質土器	湯釜	SD03	②9.9＋α	内面ヨコナデ　外面ヨコナデ・ハケ　耳部に施文	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C内面はにぶい黄橙色10YR6/3　外面は黒色N2/～浅黄橙色2.5Y7/3	
79	24	瓦質土器	湯釜	SD03白灰色砂質土	②7.4＋α	指頭圧後内面にヨコナデ 外面に工具による施文	A細かい砂粒をごくわずかに含む　B不良 C器表面は灰黄色2.5Y7/2　器壁中央は灰色N6/	
80	24	瓦質土器	湯釜	SD03白灰色砂質土	②14.1＋α ④(24.5)	内面にヨコナデ　外面にヨコナデ後ハケ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C器表面は浅黄橙色10YR8/3器壁中央は灰色N5/	胴部下位に煤付着
81	24	瓦質土器	火鉢	SD03	②7.15＋α	指頭圧後ヨコナデ・ナデ 外底面に糸切り痕	A細かい砂粒を多量含む　B良好　C内面は灰色N5/～灰白色N7/　外面は暗灰色N3/～灰色N4/	
82	24	土製品	炉壁	SD03	長さ9.2＋α 幅4.75＋α	内面にガラス化した付着物	A0.5～5.0mm大の砂粒を多量含む C内面から順に暗緑灰色5G3/1・灰赤色7.5R4/2・明赤褐色2.5YR5/6・赤褐色2.5YR4/8	スサの痕跡
83	25	磁器	白磁椀	SD04(B区)	①(8.3) ②4.0	残存部全面に施釉	A細かい茶色粒子を多量含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色N8/の釉を薄く施す)	肥前産か
84	25	陶器	皿	SD04(A区)下層	②2.4＋α ③5.55	内面～外面体部下位に施釉 削り出し高台　見込みに目跡	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C明赤褐色5YR5/8(灰白色N8/の釉を薄く施す)	肥前産(1600～30)
85	25	陶器	皿	SD04黒褐色土(上層)	②1.8＋α ③(4.65)	見込みに施釉　回転ナデ後外面体部下位にヘラ削り　見込みに目跡	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰色7.5Y6/1　外面下位は赤褐色10R4/4(透明釉を薄く施す)	肥前産
86	25	陶器	椀	SD04(B区)	②4.25＋α ③5.05	内面～高台外面に施釉	A細かい砂粒を少量含む　B良好　Cにぶい橙色7.5YR7/3(白味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産
87	25	陶器	皿	SD04(A区)下層	②2.1＋α ③4.45	内面～高台外面に施釉	A精良　B良好　Cにぶい黄橙色10YR6/4(灰白色N8/の釉を薄く施す)	肥前産
88	25	陶器	瓶(油壺)	SD04(A区)下層	②7.8＋α ③(2.45)	内面頸部～外面胴部下位に施釉 内面にヨコナデ	A精良　B良好　C内面はにぶい橙色5YR6/4　露胎部は褐灰色5YR4/1(黒褐色7.5YR3/2釉を施す)	肥前産(1630～17c後半)
89	25	弥生土器	甕	SD04(上層)黒褐色土	①(29.6) ②3.55＋α	外面頸部にナデ 他部は摩滅の為調整不明	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/4	
90	25	瓦質土器	鉢	SD04(B区)	①(13.6) ②5.3＋α	口縁部～内面ヨコナデ 外面は摩滅の為調整不明	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C胎土はにぶい黄橙色10YR6/3　器壁中央は灰色N/4	口縁部上端面の一部に煤付着 体部下位に粘土貼付けが見える

91	25	瓦質土器	鉢	SD04（B区）	①(24.7) ②5.8 ③(16.6)	内面は指頭圧後ナデ　外面にハケ後ナデ	A精良　B良好	
92	25	瓦質土器	擂鉢	SD04（B区）	②8.7＋α	指頭圧後内外面にナデ 擂目有り	A精良　B良好　C内面器は暗灰色N4/　外面器は黄灰色2.5Y6/1　器壁中央は褐灰色10YR4/1	
93	25	瓦質土器	火鉢	SD04（A区） 暗黒灰色土	②8.45＋α	指頭圧後内面にハケ　外面にヨコナデ　突帯間にスタンプ文	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C器表面は灰色N5/　器壁中央は灰白色N7/	
94	25	瓦質土器	湯釜	SD04（B区）	①(15.2) ②10.4＋α ④(23.4)	指頭圧後口縁部はヨコナデ・ハケ 外面はナデ・ハケ　肩部スタンプ文	A精良　B良好　C器表面は灰白色N7/　胎土は灰白色10Y8/1　器壁中央は灰白色N7/	
95	25	瓦質土器	湯釜	SD04	②10.7＋α ④(11.9)	指頭圧後内外面にヨコナデ	A細かい砂粒をやや多量含む　Bやや良好 C胎土は浅黄色2.5Y7/4　器壁中央は灰色N5/	胴部下位に煤付着
96	25	瓦質土器	湯釜	SD04（B区）	①(35.2) ②8.1＋α	指頭圧後内外面にナデ・ハケ	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好　C器表面は灰色N4/　器壁中央はにぶい黄橙色10YR7/4	
97	25	瓦質土器	鉢	SD04（B区）	①(25.0) ②6.6＋α	指頭圧後内外面にハケ	A細かい砂粒をやや多量含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR6/4	外面に煤付着
98	25	石製品	砥石	SD04（A区） 暗黒灰色土	長さ6.7＋α 幅4.5＋α 厚さ3.6＋α	3面の使用面残存	C灰白色10YR8/1	石英粗面岩製
99	26	土師器	小皿	SD05（A区）Ⅱ層	①6.5 ②1.4 ③4.8	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　Bやや良好 C灰白色10YR8/2	
100	26	青磁	椀	SD05（B区）Ⅲ層 青灰色土	②7.4＋α ③6.15	全面施釉後高台内を釉カキ取り 外面に細身の蓮弁文	Aやや多量の隙間　B良好 C灰色7.5Y6/1（オリーブ灰色10Y5/2の釉をやや厚く施す　全面に貫入・気泡）	竜泉窯系青磁
101	26	陶器	折縁皿	SD05　Ⅰ層 暗灰色土	①(11.4) ②2.25 ③(5.9)	全面施釉後見込みを蛇の目釉カキ 高台内に目跡	A0.5～3.0mm大の黒色粒子をごく少量含む　多量の小さい隙間　B良好　C灰白色N7/（オリーブ色5Y5/4の釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	瀬戸美濃産
102	26	磁器	椀	SD05（B区）Ⅰ層 暗灰色土	①(10.8) ②5.4＋α	残存部全面に施釉	A精良　B良好　C灰白色N8/（明緑灰色を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産
103	26	磁器	色絵 椀か皿	SD05（D区）Ⅱ層 暗黒灰色土	②1.35＋α	内面は色絵の痕跡のみ	A精良　Bやや良好　C灰白色N8/（灰白色N8/釉を薄く施す）	中国産（景徳鎮窯系）
104	26	磁器	染付皿	SD05（B区）暗灰色土	②2.0＋α ③3.5	高台畳付以外に施釉　内面に牡丹を描く　高台内面に目跡（砂目か）	A精良　B良好　Cパールホワイト N8.5（青味を帯びた透明釉を薄く施す）	肥前産（1630～50）
105	26	陶器	皿	SD05（A区）灰茶色土 ＋黒灰色土	①(14.1) ②3.4～4.0 ③4.4	高台内露胎　口縁部内面に鉄絵 見込みに目跡	A精良　B良好　C橙色7.5YR7/6（緑味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産（1600～30）
106	26	陶器	皿	SD05（B区）Ⅰ層 暗灰色土	①(11.7) ②3.3 ③4.6	高台内露胎 見込みで目跡	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 C黒褐色5YR3/1（暗オリーブ色7.5Y4/3釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産
107	26	陶器	溝縁皿	SD05（C区）Ⅰ層 暗灰色土	①(15.2) ②4.0 ③6.2	内面～外面上位に施釉　回転ナデ 見込みに目跡　削り出し高台	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい褐色7.5YR6/3　露胎部は灰黄褐色10YR6/2～赤色10R5/8（灰白色N8/釉を薄く施す）	肥前産
108	26	陶器	溝縁皿	SD05　Ⅰ層 暗灰褐色土	①(14.0) ②3.6 ③(5.0)	内面～外面体部上位に施釉　回転ナデ　見込みに目跡　削り出し高台	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄色2.5Y6/3（灰オリーブ色5Y5/2釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産
109	26	陶器	溝縁皿	SD05暗茶灰色土	①(14.3) ②4.3 ③5.4	内面～外面体部に施釉 見込みに目跡　削り出し高台	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C灰白色10YR7/1～赤色10R5/6（灰白色N8/釉を薄く施す）	肥前産（1600～30年）
110	26	陶器	皿	SD05暗茶灰色土	②2.8＋α ③4.4	内面～外面体部下位に施釉　見込みに目跡　削り出し高台	A細かい砂粒・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N7/　露胎部は灰黄褐色10YR6/2（灰白色10Y7/1釉を薄く施す）	肥前産
111	26	陶器	皿	SD05（B区）Ⅰ層 暗灰色土	②2.8＋α ③3.9	内面～外面体部下位に施釉　見込みに目跡　削り出し高台	A精良　B良好　C灰白色5Y7/1（灰白色5Y7/2釉を薄く施す　全体に細かい貫入）	肥前産
112	26	陶器	椀	SD05（A区）Ⅱ層 暗黒灰色土	②3.7＋α ③(5.4)	内面～外面体部上位に施釉　回転ナデ　削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cにぶい赤褐色5YR5/3（灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す）	肥前産
113	26	陶器	椀	SD05（C区）Ⅰ層 暗灰色土	②4.0＋α ③4.4	全面施釉 畳付けに目跡	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰白色2.5Y7/1（灰オリーブ色7.5Y6/2釉を薄く施す　全面に細かい貫入・気泡が見られる）	肥前産
114	26	陶器	椀	SD05暗茶灰色土	②3.3＋α ③4.4	内面に施釉　回転ナデ 削り出し高台	A細かい砂粒を少量含む　B良好　Cにぶい橙色5YR6/4（黒褐色5YR2/2釉を薄く施す）	肥前産
115	26	陶器	壺	SD05（D区）Ⅰ層 暗灰色土	①(15.6) ②5.75＋α	口縁部～胴部残存部まで施釉 回転ナデ	A細かい砂粒をやや多量含む B良好　C灰赤色10R4/2（暗赤褐色2.5YR3/2～赤黒色2.5YR2/1の釉を薄く施す）	備前産
116	26	陶器	鉢	SD05（A区）Ⅱ層 暗黒灰色土	②5.0＋α ③(8.4)	内面～外面体部下位に施釉　体部下位に回転ヘラ削り　削り出し高台	A細かい砂粒・赤色粒子をやや多量含む　B良好 Cにぶい赤褐色2.5YR4/3（暗赤褐色2.5YR3/2釉を薄く施す）	
117	26	陶器	瓶	SD05（A区）Ⅱ層 暗黒灰色土	①(5.2) ②4.4＋α	残存部外面施釉	A細かい茶色粒子をやや多量含む　小さい隙間が所々に見られる　B良好 C黄灰色2.5Y6/1（灰白色N8/釉を薄く施す）	肥前産か
118	26	土師質土器	焼塩壺	SD05（B区）Ⅰ層 暗灰色土	①5.6 ②8.5 ③5.8	指頭圧　口縁部～外面底部にナデ	A細かい砂粒をやや多量含む　B良好 C内面はにぶい黄橙色10YR7/3　外面は明赤褐色5YR5/6～浅黄橙色10YR8/3	
119	27	瓦質土器	擂鉢	SD05（C区）Ⅱ層 暗黒灰色土	①(31.0) ②8.1 ③(17.1)	指頭圧後内外面にナデ・ハケ 擂目有り	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量含む　B良好 C内面は灰黄色2.5Y7/2～黄灰色2.5Y5/1、外面は黄灰色2.5Y6/1	
120	27	瓦質土器	擂鉢	SD05（B区）Ⅰ層	①(34.3) ②13.6 ③(14.9)	指頭圧後内外面にナデ・ハケ 擂目有り	A0.5以下～3.0mm大の砂粒を多量含む　B良好 C内面は橙色7.5YR6/6～灰白色5Y7/1　外面は灰色5Y6/1～5/1	
121	27	陶器	擂鉢	SD05（B区）Ⅲ層 青灰色土	②3.5＋α	口縁部～体部上位に施釉　回転ナデ　擂目有り	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C灰褐色5YR5/2（暗赤褐色2.5YR3/2釉を薄く施す）	肥前産
122	27	陶器	擂鉢	SD05（B区）Ⅰ層 暗灰色土	②6.15＋α ③10.4	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕 外面底部に目跡 内面に使用痕・擂目	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C明赤褐色2.5YR5/6	
123	27	瓦質土器	火鉢	SD05（C区）Ⅱ層 暗黒灰色土	①(38.4)　②11.1＋α	内面にハケ　外面にヨコナデ 突帯間にスタンプ文（花文）	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　Bやや良好 C内面は褐灰色10YR5/1　外面は黄橙色7.5YR7/8 器壁中央は褐灰色10YR5/1	
124	27	瓦質土器	火鉢	SD05（A区）Ⅱ層 暗黒灰色土	②5.3＋α	内面はナデ　口縁部～外面にヨコナデ　口縁部にスタンプ文（花文）	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　Bやや不良 C器表面は灰白色5Y7/1　器壁中央は灰色N6/	
125	27	瓦質土器	鉢	SD05（B区）Ⅲ層 青灰色土	①(50.6) ②8.7＋α	指頭圧後内面にヨコナデ 外面にナデ調整	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片をやや多量含む Bやや良好　C内面はにぶい橙色7.5YR7/4　外面は褐灰色7.5YR4/1～橙色7.5YR6/6	
126	27	瓦質土器	鉢	SD05（B区）Ⅱ層 暗黒灰色土	①(46.1) ②6.35＋α	指頭圧後口縁部にヨコナデ 口縁部下位～体部にハケ	A細かい砂粒を多量含む　B良好 C器表面は灰黄色2.5Y6/2　器壁中央は灰色N4/	外面全体が煤けている
127	27	瓦質土器	鉢	SD05（A区）Ⅱ層	①(50.0) ②7.6＋α	指頭圧後口縁部にヨコナデ 口縁部下位～体部にハケ	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C器表面は灰色5Y5/1　器壁中央は浅黄橙色7.5YR8/6	外面全体が煤けている
128	27	木製品	独楽	SD05青灰色土上面	残存高4.0＋α ④2.95	両端は円錐形に加工 一方に穿孔し軸棒を挿入		
129	28	陶器	椀	SD06（C区）	②6.1＋α ③4.4	内面～高台外面に施釉（内面2ヵ所に無釉部が見られる）削り出し高台	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2～にぶい黄橙色10YR6/3（オリーブ灰色2.5GY6/1釉を薄く施す）	肥前産
130	28	陶器	擂鉢	SD06（C区）	②5.9＋α	回転ナデ後外面体部下位にヘラ削り　外底面は糸切り 底部の剥り込み特徴的	A細かい白色粒子を少量含む　B良好　C内面は黄灰色2.5Y6/1　外面はにぶい橙色7.5YR7/4 底部外側面で目跡を確認	
131	28	磁器	白磁皿	SD07（B区）	①(6.3) ②2.5 ③6.2	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り 外底面はヘラ状工具により釉を延ばす　外底面に回転ヘラ切り痕	A細かい黒色粒子をやや少量含む　B良好 C灰白色N8/　露胎部は黄褐色10YR5/8（灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す　全面に大きな貫入）	太宰府分類 Ⅸ-2類

遺物観察表 4

132	28	磁器	白磁椀	SD07 (B区)	①(13.6) ②3.3＋α	残存部全面に施釉	A精良　B良好　C灰白色2.5Y8/2 (灰黄色2.5Y7/2 釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	
133	28	陶器	皿	SD07 (B区)	②1.7＋α ③4.3	量付け以外に施釉　施釉にムラが見られる　見込みに目跡	A精良　B良好　C灰白色N8/ (明オリーブ灰色2.5GY7/1 釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	肥前産
134	28	陶器	皿	SD07 (C区) 下層	①14.3 (最長) ②4.6 (最高) ③5.5	体部を方形に成形　内面～高台外面に施釉　削り出し高台　内面に鉄絵　見込みに目跡	A細かい砂粒を少量含む　B不良 C橙色2.5YR6/6 (灰白色5Y8/1 の釉を薄く施す)	肥前産 (1600～10年) 焼成不良で鉄絵の発色が悪い
135	28	瓦質土器	擂鉢	SD07 (B区)	①(29.8) ②7.6＋α	指頭圧後口縁部にヨコナデ　外面にナデ　内面にナデ・ハケ　擂目有り	A0.5～3.0mm大の砂粒をやや多量含む　B不良 C器表面は浅黄橙色10YR8/4　器壁中央は灰色5Y6/1	
136	28	瓦質土器	擂鉢	SD07 (B区) 黒褐色土	①(17.7) ②10.65＋α	指頭圧後ハケ　擂目有り	A細かい砂粒を少量含む　B不良 C淡黄色2.5Y8/3	
137	28	瓦質土器	擂鉢	SD07 (A区)	②5.15＋α	指頭圧後の調整が摩滅により不明　擂目有り	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　B不良 C内面は黄灰色2.5Y4/1　外面は灰色5Y6/1　器壁中央は灰色5Y5/1	
138	28	陶器	火入	SD07 (D区)	①(15.2) ②3.2＋α	口縁部～体部下位に施釉 回転ナデ	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/4 (オリーブ灰色5GY6/1 釉を薄く施す)	肥前産
139	28	陶器	盤	SD07 (C区) 上層	②4.45＋α ③17.2	回転ナデ 内面に当て具痕　外底面に目跡	A細かい砂粒を多量含む　B良好 C灰白色2.5Y7/1 (暗オリーブ色7.5Y4/3の釉を薄く施す)	中国産
140	28	石製品	砥石	SD07 (A区)	長さ7.6＋α 幅4.4＋α 最大厚1.6	3面の使用面残存	C浅黄色2.5Y7/4	石英粗面岩製
141	28	石製品	砥石	SD07 (D区)	長さ6.7＋α 最大幅6.15 最大厚2.9	5面の使用面残存	C灰白色5Y7/1	砂岩製
142	28	石製品	砥石	SD07 (A区)	長さ8.9＋α 最大幅8.8 最大厚7.7	4面の使用面残存	C黄灰色2.5Y6/1	砂岩製
143	29	土師器	小皿	SD02 (D区) (SD08に変更)	①(7.8) ②1.55 ③7.0	回転ナデ後見込みにナデ 外底面に回転糸切り痕	A砂粒を多量含む　Bやや不良 C浅黄橙色7.5YR8/3	
144	29	土師器	小皿	SD02 (A区) (SD08に変更)	①(8.8) ②1.55 ③(6.0)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A砂粒をやや少量含む　B不良 C灰白色10YR8/2	
145	29	土師器	杯	SD02 (B区) (SD08に変更)	①(10.5) ②2.65 ③(7.4)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・赤色粒子をやや少量含む Bやや良好　C内面はにぶい黄橙色10YR6/4　外面は灰黄褐色10YR6/2～橙色5YR7/6	
146	29	土師器	杯	SD02 (B区) (SD08に変更)	①(12.3) ②2.8 ③(6.4)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　B良好 C内面はにぶい黄橙色10YR7/2　外面は灰黄色2.5Y7/2	
147	29	土師器	杯	SD02 (E区) (SD08に変更)	②3.5＋α ③5.0	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい褐色7.5YR6/3～にぶい橙色7.5YR7/4	
148	29	磁器	白磁壷	SD08 (B区)	②5.15＋α ③6.65	内面～高台外面に施釉 回転ナデ　削り出し高台	A細かい砂粒・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N8/ (内面は明緑灰色10GY8/1　外面は灰白色10Y7/1 釉を薄く施す)	朝鮮産か肥前産
149	29	磁器	白磁皿 (菊皿)	SD02 (A区) (SD08に変更)	②1.6＋α	型押しか	A精良　B良好　C灰白色N8/ (灰白色10Y5/1 の釉を薄く施す)	森田分類E群
150	29	磁器	青磁椀	SD02 (C区) (SD08に変更)	②3.3＋α	口縁外面に簡略化した蓮弁文	A細かい黒色粒子を多量含む　B良好 C灰白色N7/ (オリーブ黄色7.5Y6/3 釉施す　全面に貫入)	龍泉窯系青磁
151	29	磁器	青磁椀	SD02 (C区) (SD08に変更)	②3.55＋α	外面に雷文	A精良　B良好　C灰白色N7/ (明オリーブ灰色2.5GY7/1 の釉を薄く施す　全面に気泡確認)	龍泉窯系青磁
152	29	磁器	青磁椀	SD02 (C区) (SD08に変更)	②3.0＋α ③6.2	全面施釉後高台内を蛇の目釉カキ 見込みにスタンプ文	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 C灰白色N8/ (オリーブ灰色10Y5/2 釉を薄く施す)	龍泉窯系青磁 周辺打ち欠き
153	29	磁器	染付椀	SD08	②3.3＋α		A陶質　B良好　Cアイボリホワイト5Y9.0/1.0 (緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	漳州窯系
154	29	磁器	染付椀	SD08	①(11.7) ②4.75＋α		A精良　B良好　Cオイスター5Y7.5/1.0 (やや茶色味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産 (1660～70年)
155	29	磁器	染付椀	SD08	①(13.6) ②3.2＋α		A細かい茶色粒子をやや多量に含む　B良好 Cスノウホワイト N9.5 (青味を帯びた透明釉をやや厚く施す　全面に気泡確認)	中国産
156	29	磁器	染付椀	SD08	②3.35＋α ③5.0	量付け以外に施釉　見込みに団竜を描く	A精良　B良好　Cパールホワイト N8.5 (青味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産 高台内に「萬寶佳器」を崩した銘
157	29	陶器	椀	SD02 (C区) (SD08に変更)	②1.4＋α ③4.6	全体施釉　見込みに目跡 削り出し高台	A精良　B良好 C灰白色2.5Y7/1 (透明釉を薄く施す)	朝鮮産 周辺打ち欠き
158	29	須恵質土器	鉢	SD02 (D区) (SD08に変更)	②3.8＋α	回転ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰色N6/　口縁部外面は暗灰色N3/	東播系
159	29	瓦質土器	擂鉢	SD02 (C区) (SD08に変更)	②8.3＋α	指頭圧後内面ナデ　外面にハケ 4条1単位の擂目	A砂粒を少量含む　B不良　C器表面は灰色N4/～褐灰色10YR5/1　器壁中央は灰色N4/	
160	29	陶器	擂鉢	SD08	②10.2＋α ③11.2	回転ナデ　底部側面に目跡、回転糸切り痕　擂目有り	A0.5～5.0mm大の砂粒・茶色粒子をやや少量含む B不良　C明赤褐色2.5YR5/6	内面で使用痕
161	29	陶器	擂鉢	SD08	①(30.4) ②12.15 ③10.8	口縁部に施釉　回転ナデ　底部外側面に目跡　回転糸切り痕　擂目有り	A細かい砂粒・茶色粒子を少量含む　B良好 C黄灰色2.5Y4/1～赤色10R4/6 (暗赤灰色5R3/1 の釉を薄く施す)	肥前産 内面に使用痕
162	29	陶器	擂鉢	SD08	①29.3 ②11.65 ③11.0	口縁部に施釉　回転ナデ　底部外側面に目跡　回転糸切り痕　擂目有り	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや少量含む B良好　C灰黄褐色10YR5/2～赤褐色10R5/3 (黒褐色7.5YR3/2の釉を薄く施す)	内面に使用痕
163	29	瓦質土器	鍋	SD08	②6.5＋α	内面ハケ調整	A細かい砂粒を多量含む　Bやや良好 C器表面は淡黄色2.5Y8/3～黒褐色10YR3/2　器壁中央は灰色N5/	
164	29	陶器	壷か	SD02 (A区) (SD08に変更)	②4.8＋α	回転ナデ　口縁端部に2条の沈線・刻み目突帯	A細かい砂粒を多量含む　B良好 C内面は灰白色N7/　外面は灰白色10Y7/1	
165	30	瓦質土器	擂鉢	SD08	①(21.0) ②8.5 ③(9.8)	口縁部にヨコナデ　3条1単位の擂目	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む Bやや良好　Cにぶい黄色2.5Y6/3	
166	30	瓦質土器	湯釜	SD08	①(16.6) ②5.0＋α	内面指頭圧後ヨコナデ 肩部に沈線による施文	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C内面は灰色5Y5/1　外面は灰色N4/　器壁中央は灰白色N7/	
167	30	瓦質土器	湯釜	SD08	①(15.2) ②9.3＋α	外面にハケ・ナデ 肩部にスタンプ文 (花文)	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C灰色5Y6/1～N4/	
168	30	瓦質土器	湯釜	SD08 (B区)	①(12.2) ②5.8＋α	指頭圧後ナデ　外面にハケ 肩部に菱形のスタンプ文	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰色5Y6/1～灰黄色2.5Y7/2	
169	30	瓦質土器	湯釜	SD02 (A区) (SD08に変更)	②10.6＋α ④(25.5)	指頭圧痕のち荒いハケ 肩部に2ヵ所の穿孔	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　Bやや良好 C灰色N4/～灰白色7.5Y7/1 (器壁中は灰色N6/)	
170	30	瓦質土器	鉢	SD08	①(46.0) ②6.3＋α	内面指頭圧後ハケ　外面ハケ	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　B良好 C黄灰色2.5Y4/1～黒色N2/	
171	30	瓦質土器	火鉢	SD08	①(36.6) ②5.75＋α	内面にハケ　外面にナデ 突帯間にスタンプ文 (花文)	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む Bやや不良　C浅黄色2.5Y7/3	
172	30	石製品	砥石	SD08	長さ7.0＋α 幅6.7＋α 厚さ5.4＋α	2面の使用面残存	C淡黄色2.5Y7/3	石英粗面岩製
173	30	石製品	砥石	SD08 (B区)	長さ6.3＋α 幅5.9＋α 厚さ2.2＋α	4面の使用面残存	C灰白色2.5Y8/2	石英粗面岩製
174	30	石製品	砥石	SD02 (C区) (SD08に変更)	長さ4.55＋α 幅4.4＋α 厚さ4.4＋α	5面の使用面残存	C灰白色5Y7/1	砂岩製
175	30	石製品	砥石	SD08 (B区)	長さ9.7＋α 厚さ4.4＋α	2面の使用面残存	C黒色N2/	砂岩製

176	30	木製品	匙状製品	SD08	長さ6.8＋α 幅9.0 最大厚0.5	内外面に漆塗布	C黒色N2/	
177	31	石製品	茶臼(下臼)	SD05 2層 暗黒灰色土	②4.75＋α	外面に工具痕	C黄灰色2.5Y5/1	砂岩製
178	31	石製品	茶臼(下臼)	SD05(B区)1層 暗灰色土	②4.35＋α	受皿部外面に工具痕	C黄灰色2.5Y6/1～2.5Y4/1	砂岩製
179	31	石製品	石臼(上臼)	SD05暗灰褐色土	②7.35 幅5.05＋α	側面に挽き木挿入孔	C褐灰色10YR5/1	凝灰岩
180	31	石製品	石臼(下臼)	SD05(B区) 暗黒灰色土	直径14.9＋α ②9.7	裏面にも擂目か	C黄灰色2.5Y6/1	砂岩
181	31	石製品	粉挽臼(下臼)	SD05(B区) 青灰色土	直径12.7＋α ②5.9	裏面にも擂目か	C灰色5Y6/1	凝灰岩
182	31	石製品	茶臼(下臼)	SD08	下臼直径8.9 受皿部直径26.8＋α ②13.3＋α	7分画か	C灰白色5Y7/1	凝灰岩
183	32	鉄製品	犂先	SD03(A区) 白灰色砂質土	長さ8.45＋α 幅10.85＋α 最大厚0.4	鋳造か		表面に使用痕
184	32	金属製品	小束(柄)	SP402	長さ9.05＋α 幅1.4 最大厚0.25	断面三角形の鉄芯に薄い銅張り		
185	32	鉄製品	犂先か	SP189	長さ7.0＋α 最大幅3.6			
186	32	鉄製品	刀子	SP128	最長5.3＋α 幅1.15 最大厚0.25			
187	32	鉛製品	用途不明品	検出面	最長2.1 最大幅1.25 最大厚0.4	細かい加工痕		7.65g
188	32	石製品	硯	SD03(C区) 白灰色砂質土	長さ5.75＋α 幅2.8＋α 最大厚0.7	裏面に工具痕	Cオリーブ黒色5Y3/2	粘板岩製
189	32	石製品	碁石	SP326	直径1.9 厚さ0.55		C灰色N4/	頁岩。3.75g
190	32	石製品	碁石	SP526	最長1.8 最短1.7 厚さ0.4＋α		C灰色N4/	頁岩。1.55g
191	32	石製品	石鏃	SD03	最長2.3 最大幅0.9 最大厚0.3		C透明度が高い灰白色N8/	姫島産黒曜石製
192	33	土師器	小杯	SP497	①(7.4) ②2.4 ③3.7	回転ナデ 外底面に静止糸切り痕	A細かい砂粒雲母片を少量含む Bやや不良 C灰白色10YR8/2	
193	33	土師器	杯	SP504	①(8.5) ②1.7 ③5.4	回転ナデによる成形 底面に糸切り痕	A砂粒を多量含む B不良 C灰白色10YR8/1	
194	33	土師器	杯	SP481	①(8.5) ②3.9 ③(4.6)	強い回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A精良 B良好 C赤灰色2.5YR6/1～5/1	
195	33	土師器	杯	SP294	①(14.3) ②2.4 ③(5.4)	回転ナデ 外底面に糸切り痕	A砂粒を多量含む B良好 C灰色10Y5/1	
196	33	瓦器か	皿	SP428	①(14.0) ②1.3＋α ③(12.3)	磨耗の為調整不明	A細かい砂粒を多量含む B不良 C胎土は明赤褐色2.5YR5/8 器壁中央は褐灰色10YR5/1	
197	33	磁器	青磁椀	SP478	②3.4＋α	口縁部～体部に施釉 外面に簡略化した蓮弁文	A精良 B良好 C灰色N6/(緑灰色10GY5/1釉を薄く施す)	竜泉窯系青磁
198	33	磁器	白磁椀	SP504	②1.15＋α ③4.3	量付け以外に施釉 見込みに目跡 高台に弧状の削り込み	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色.5Y8/1(やや青味を帯びた透明釉を薄く施す)	森田分類C群
199	33	磁器	染付椀	SP53	①(10.0) ②1.6＋α	残存部全面施釉	A陶質 B良好 C灰白色10YR8/2(茶色味を帯びた透明釉を薄く施す)	漳州窯系
200	33	磁器	染付椀	SP430	②2.15＋α	残存部全面施釉	A精良 B良好 C灰白色7.5Y7/1(青味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産 小野分類C群
201	33	磁器	染付椀	SP535	②2.0＋α ③(6.2)	量付け～高台内露胎	A所々に小さい隙間 B良好 C灰白色2.5Y8/1(青味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産 小野分類C群
202	33	土製品	土鈴	SP184	②2.9＋α ④(2.8)	外面胴部に沈線	A砂粒を少量含む B不良 C内面はにぶい黄2.5Y6/3 外面は灰色7.5Y5/1	
203	33	土製品	土鈴	遺構検出面	②1.9＋α ④(2.5)	外面胴部に沈線	A精良 B良好 C灰色N5/～灰白色7.5Y7/1	
204	33	石製品	砥石	SP155	長さ11.4＋α 幅11.2＋α 厚さ0.9＋α	使用面1面	C灰白色10Y8/1	石英粗面岩製
205	33	土製品	土玉	SP50	長さ2.2 幅1.9 厚さ1.25＋α	磨耗の為調整不明	A精良 Bやや良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	土鈴の玉か
206	33	土製品	土玉	SP96～99	長さ1.9＋α 幅1.65＋α 厚さ1.1＋α	磨耗の為調整不明	A精良 Bやや良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	土鈴の玉か
207	33	鉄滓		SP406	最長2.7 最大幅1.6 最大厚1.4			

2 区

遺物番号	図	種類	器種	出土地点	法量cm ①口径 ②器高 ③底径(高台径) ④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調(釉調)	備考
301	36	須恵器	杯	SP160(SB01)	②1.7＋α	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 貼付け高台	A0.5～2.0mm大の白色砂粒をやや多量含む B良好 C灰色N5/	
302	36	土師器	小皿	SP108(SB02)	①(6.05) ②1.3～1.5 ③(3.0)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む B良好 C浅黄橙色7.5YR8/4	
303	36	磁器	白磁椀	SP97(SB02)	①(11.7) ②3.35＋α	残存部全面施釉 口縁端部が外反	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色N8/(やや青味を帯びた透明釉を施す)	中国産(景徳鎮窯系)
304	36	瓦質土器	擂鉢	SP79(SB02)	①(25.0)	指頭圧後内面にハケ 外面にナデ 擂目有り	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量含む B良好 C内面はにぶい褐色7.5YR6/8 外面は橙色7.5YR6/8	
305	38	瓦質土器	火鉢(脚部)	SE01	②7.1＋α	外面ミガキ 内底ハケ	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量含む B良好 C器表面は黄灰色2.5Y6/1～灰色N5/ 器壁中央は灰色N4/	
306	38	磁器	白磁椀	SE01	①(16.2) ②5.1＋α	残存部全面に施釉 口縁部は外反気味に立ち上がる	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色7.5Y8/1(灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す)	太宰府分類 XII類
307	38	瓦質土器	擂鉢	SE01	②8.5＋α	外面は指頭圧後ナデ、擂目有り	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量含む Bやや不良 C器面は2.5Y8/2 器壁中央は灰色N4/	内面に使用痕
308	38	瓦質土器	擂鉢	SE01	②8.5＋α	外面指頭圧後ハケ 擂目有り	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む B良好 C器表面は灰色N5/～灰白色N7/ 胎土は灰白色N7/	内面に使用痕 外面の刷毛調整以前に擂り目酷似した痕跡あり
309	42	土師器	杯	SX01	②1.9＋α	回転ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒をやや多量含む Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
310	42	陶器	小盤か鉢	SX01	②2.0＋α	口縁部に施釉 回転ナデ 口縁端部に目跡	A細かい白色砂粒を少量含む B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2(灰オリーブ色5Y5/2釉を薄く施す)	

311	42	土師器	小皿	SX06	①(8.1) ②1.35 ③(5.9)	回転ナデ　外底面に糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　B良好 C浅黄橙色10YR8/3	
312	42	土師器	杯	SX06	①14.0 ②3.1～3.4 ③5.95	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
313	42	土師器	杯	SX07	①(13.6) ②2.65 ③(8.8)	磨耗の為調整不明	A0.5～3.0mm大の砂粒・茶色粒子をやや多量含む B不良　Cにぶい黄橙色10YR7/3	
314	42	土師器	杯	SX07	②2.3	回転ナデ　外底面は回転ヘラ切りか	A細かい砂粒を少量含む　Bやや不良 C灰白色2.5Y8/2	
315	42	磁器	青磁椀	SX07	②1.4＋α	外面に鎬蓮弁文	A精良　B良好　C灰白色5Y8/1(オリーブ灰色2.5GY5/1釉をやや厚く施す)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 Ⅱ-b類
316	42	磁器	染付椀	SX09	①(11.2) ②5.4＋α	残存部全面に施釉	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cブルーウォッシュ3PB8.5/1.0(青味を帯びた透明釉を施す)	肥前産(1620～40)
317	42	陶器	皿	SX09	①(14.4) ②3.95 ③6.0	量付け以外に施釉　見込みに蛇の目釉カキ　釉カキ部に泥漿付着	A所々に小さい隙間　B良好　C灰白色2.5Y8/2(白味を帯びた透明釉をごく薄く施す)	肥前産(18c前～中頃)
318	42	土師器	椀	SX10	①(13.3) ②5.6＋α ③(6.0)	外面体部下位に手持ちヘラ削り	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C橙色5YR6/6～にぶい褐色7.5YR5/3	
319	42	土師器	椀	SX10	①(10.5) ②5.5＋α	外面体部下位に手持ちヘラ削り	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄褐色10YR5/3～灰黄褐色10YR4/2	
320	42	土師器	ミニチュア土器	SX10	①4.85 ②2.6	手づくね	A細かい砂粒をやや多量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
321	42	瓦質土器	甕	SX08	②5.1＋α ③33.3	内面ハケ	A細かい砂粒を多量含む　B不良 C黄灰色2.5Y6/1　内面側は灰白色2.5Y8/2	断面観察で底部・体部接合痕跡確認
322	42	瓦質土器	擂鉢	SX13	②4.35＋α	外面指頭圧　内面にハケ　擂目有り	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量含む　B不良 C器表面は灰色5Y5/1　器壁中央は暗灰色N3/	
323	42	瓦質土器	擂鉢	SX17	②4.95＋α	外面ハケ 擂目有り	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C器面はにぶい黄橙色10YR7/4　器壁中央は灰色N4/	
324	42	土師器	小皿	SX17	①8.8 ②1.8～1.6 ③6.2	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2	
325	42	土師器	小皿	SX27	①9.0 ②1.7～1.6 ③6.2	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　Bやや不良 C灰白色2.5Y8/2	
326	42	瓦質土器	甕	SX20	②18.1＋α	体部内面にハケ　内底にナデ 外面剥落	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量含む　Bやや不良 C灰色N5/	
327	42	瓦質土器	甕	SX20	①(49.8) ②10.7＋α	外面指頭圧後ハケ・ナデ 内面摩滅	A0.5～5.0mm大の砂粒をやや多量含む　B不良 C胎土は灰白色5Y8/1　器壁中央は灰色N6/	
328	43	磁器	染付椀	SP182	①(11.8) ②5.3＋α	口縁部～体部に施釉	A細かい黒色粒子を多量含む　B良好 Cスノーホワイト N9.5(青味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に気泡確認)	中国産
329	43	石製品	石鏃	SP52	最長1.75 最大幅1.1 最大厚0.4	両面調整	C黒色N1.5/	西北九州産黒曜石製。0.6ｇ

3　区

遺物番号	図	種　類	器　種	出　土　地　点	法量cm ①口径 ②器高 ③底径 (高台径) ④最大径	形　態　・　技　法　の　特　徴	A 胎土　B 焼成　C 色調（釉調）	備　　考
401	46	瓦質土器	擂鉢	SE01	②6.3＋α	内外面ナデ	A細かい白色・灰色粒子を少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR4/1～6/1　～褐色7.5YR6/3	
402	46	陶器	擂鉢	SE01下層	②8.3＋α ③10.4	内外面回転ナデ　外底面に回転糸切り痕　底部側縁に目跡	A白色粒子を少量含む　B良好 Cにぶい褐色7.5YR5/3～5/4	
403	46	須恵器	杯蓋	SE02	①10.6 ②2.3	回転ナデ後外面天井部に回転ヘラ削り　内面に不定方向ナデ	A1.0～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C外面は明褐色7.5YR5/6　内面はオリーブ灰色2.5GY6/1	天井部にヘラ記号かえりに重ね焼き痕跡
404	46	須恵器	杯身	SE02	①15.0 ②5.8 ③9.7	回転ナデ後見込み不定方向ナデ 貼付け高台　底部付近回転ヘラ削り	A砂粒をやや多量含む　B良好 C青灰色10BG6/1～5/1	
405	46	土師器	鉢	SE02	②5.7＋α	内面ナデ　外面にミガキ	A細かい砂粒を少量含む　Bやや不良 C外橙色5YR7/8　内浅黄橙色7.5YR8/6	
406	46	須恵器	甕	SE02	②12.5＋α	外面格子目タタキ後櫛状工具による波状文　内面当て具痕	A1.0～5.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C淡黄色2.5YR8/4～灰白色10YR8/1	産地等不明 外面に黒斑あり
407	46	土製品	紡錘車	SE02	長径3.4 短径3.0 厚さ2.3	手づくね	A1.0～3.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C明赤褐色5YR5/8	
408	46	須恵器	杯蓋	SE04	①(13.0) ②1.1	外面天井部に回転ヘラ削り　内面に不定方向ナデ	A精良　B良好　C灰N6/	
409	46	陶器	火入	SE04床面直上	①14.9 ②7.1 ③6.4	内面～外面体部上半施釉　下半ヘラケズリ　内面回転ナデ　削り出し高台	A0.5～2.0mm大の白色粒子をごく少量含む　B良好 Cにぶい褐色7.5YR5/4(外面は淡黄色2.5Y8/4　内面は明黄褐色10YR6/6釉を薄く施す)	肥前産か上野産(17c前～中頃)外面・口縁上端部でピンホールあり
410	46	陶器	壺	SE04	①(10.4) ②11.9 ④14.0	内面～外面胴部下位に施釉　内面に露胎部有り　内外面回転ナデ	A精良　B良好　C外面はにぶい赤褐色2.5YR4/4 内面は褐灰色7.5YR4/1(灰褐色5YR5/2釉を施す)	肥前産(17c代)　頸部に接合痕 外面でピンホール確認
411	47	木製品	網枠	SE03	長径78.0 短径70.4 外周220.8	断面イチジク形に加工		一木造り
412	48	土師器	小皿	SE05	①(9.9) ②1.3 ④(8.4)	回転ナデ　底部外面不定方向ナデ	A砂粒をやや多量含む　B良好 C灰白色2.5Y8/1	
413	48	土師器	小皿	SE05	①(10.0) ②1.0 ③(7.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転ヘラ切り痕	A細かい砂粒をごく少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色10YR8/3～灰白色7.5YR8/1	
414	48	土師器	小皿	SE05	①(10.2) ②1.0 ③(7.5)	磨耗のため調整不明　外底面に板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/3～灰白色7.5YR8/2	
415	48	土師器	小皿	SE05	①10.4 ②1.25 ③8.8	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転ヘラ切り痕・板状圧痕	A砂粒をやや多量含む　B良好 C灰白色7.5YR8/1	
416	48	土師器	丸底杯	SE05	①(13.2) ②2.75＋α	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外面体部下位に指頭痕 外底面に回転ヘラ切り痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C灰白色2.5Y8/2	
417	48	土師器	丸底杯	SE05	①(13.6) ②3.3＋α	口縁部～内面に回転ナデ後コテ当て痕　外面体部下位に指頭痕	A砂粒をやや多量含む　Bやや良好 C灰白色2.5Y8/1	
418	48	土師器	丸底杯	SE05	①(13.8) ②2.95＋α	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外面体部下位に指頭痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C灰白色2.5Y8/2	
419	48	土師器	丸底杯	SE05	①(14.8) ②3.5＋α ③(4.7)	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外面体部下位に指頭圧後ヘラ削り	A砂粒をやや多量含む　B良好 C灰白色2.5Y8/1	
420	48	土師器	丸底杯	SE05	①(15.2) ②3.1＋α	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外面体部下位に指頭痕後ヘラ削り	A砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3～黄灰色2.5Y6/1	
421	48	土師器	丸底杯	SE05	①(15.2) ②3.5＋α ③6.2	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外面体部下位に指頭痕 外底面に回転ヘラ切り痕	A砂粒を少量含む　B不良 C灰白色2.5Y8/1	
422	48	土師器	丸底杯	SE05	①15.95 ②4.9 ③7.5	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外底面に回転ヘラ切り痕・板状圧痕	A砂粒を多量含む　B不良 C灰白色10YR8/2	

423	48	黒色土器	椀	SE05	①(16.2) ②1.9＋α	内外面ミガキ	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 C黒色N2/	黒色土器 B類
424	48	黒色土器	椀	SE05	②4.0＋α ③7.0	回転ナデ後内面にコテ当て痕 外底面に回転ヘラ切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒をごく少量含む　B不良 C外灰白色10YR8/2　内暗灰色N3/～灰白色N7/	黒色土器 A類
425	48	黒色土器	椀	SE05	②1.65＋α ③(7.1)	回転ナデ後見込みにミガキ	A細かい砂粒をやや多量含む　B良好 C黒色N2/～暗灰色N3/	黒色土器 B類
426	48	磁器	白磁椀	SE05	②3.7＋α ③6.8	内面～高台外面まで施釉 削り出し高台	A細かい黒色粒子をやや多量含む　B良好 C淡黄色2.5Y8/3～灰白色N7/(灰白色10Y7/1釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	太宰府分類 Ⅳ-1a類
427	48	須恵質土器	こね鉢	SE05	①31.5 ②14.1 ③11.4	外面体部下位にヘラ削り　内面に使用痕	A砂粒を多量含む　B良好 C灰色N6/～橙色5YR6/8	東播系 口縁部～体部上位が橙色化
428	48	土師質土器	甕	SE05	①(31.3) ②16.65＋α	指頭圧後内面に不定方向ナデ 口縁部はヨコナデ	A砂粒を多量含む　B良好　C内面は浅黄橙色10YR8/3～外面は黄橙色7.5YR8/8	
429	48	土師質土器	甕	SE05	①34.2 ②23.8＋α	内面は工具ナデ　外面はハケ 口縁部～頸部ヨコナデ	A砂粒を多量含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/3～黒10YR1.7/1	
430	48	石製品	石鍋	SE05	②10.6＋α	削りによる加工	C灰白色5Y7/1	滑石製
431	49	木製品	曲物	SE05	長径16.2 短径15.7 器高7.1	側板を竹釘で底板の側面に固定		側板の重ね部分は樺紐固定
432	51	土師器	小皿	SE06上層	①(9.1) ②0.7 ③(8.4)	見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A砂粒・雲母片を多量含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/3	
433	51	土師器	小皿	SE06上層	①9.2 ②0.95 ③6.75	回転ナデ 外底面に回転糸切り	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　Bやや良好 C橙色5YR6/8	
434	51	土師器	小皿	SE06下層	①9.4 ②1.35 ③7.5	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転ヘラ切り後不定方向ナデ・板状圧痕	A砂粒を少量含む　Bやや不良 C浅黄橙色10YR8/3	灯明皿(口縁部の一部煤付着)
435	51	土師器	小皿	SE06下層	①9.2 ②1.5 ③7.4	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転ヘラ切り後板状圧痕	A砂粒を少量含む　B良好 C灰白色2.5Y8/2	
436	51	瓦器	小皿	SE06上層	①(10.0) ②1.9 ③(7.25)	摩滅して調整不明	A細かい砂粒を少量含む　B不良 C灰色N4/～灰白色5Y8/1	
437	51	黒色土器	小椀	SE06上層	①(8.75) ②3.75 ③4.95	摩滅して調整不明	A砂粒をやや多量含む　B不良 C灰白色2.5YR8/1～暗灰色N3/	黒色土器 A類
438	51	黒色土器	小椀	SE06下層	①9.35 ②3.15 ③5.4	回転ナデ後内外面にミガキ 外面体部下位に指頭圧 外底面に不定方向ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰色N5/～灰白色N7/	黒色土器 B類
439	51	黒色土器	小椀	SE06下層	①(9.2) ②3.45 ③(5.4)	内面にミガキ　内底面に指頭圧 外底面に板状圧痕　貼付け高台	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　Bやや不良 C灰色N5/～黄灰色2.5Y6/1	黒色土器 B類
440	51	土師器	丸底杯	SE06上層	①(15.9) ②(3.1) ③(8.2)	外面体部下位に指頭圧 底部外面に板状圧痕	A砂粒・雲母片をやや多量含む　Bやや不良 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
441	51	瓦器	丸底杯	SE06下層	①16.3 ②5.0 ③7.2	回転ナデ後内外面にミガキ 体部下位に指頭圧 外底面に回転ヘラ切り痕か	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　Bやや不良 C内面に暗灰色N3/　外面に灰白色N8/	
442	51	磁器	白磁椀	SE06上層	②4.4＋α	内面～外面体部下位まで施釉　体部外面回転ヘラ削り	A精良　B良好 C灰白色5Y8/1(灰白色5Y7/2釉を薄く施す)	
443	51	陶器	盤	SE06下層	②4.05＋α ③(24.6)	内面は白化粧後施釉 外面体部にヨコナデ	A細かい白色粒子を多量含む　B良好 C外灰黄褐色10YR5/2(オリーブ黄色5Y6/4)	中国産
444	51	石製品	石鍋補修具か	SE06上層	長径6.75＋α 短径2.6＋α 高さ2.4	削りによる加工	C灰白色N7/～黒色N2/	滑石製 穿孔途中に破損
445	55	土師器	杯	SX01	①(11.3) ②1.45 ③(5.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 底部外面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母少量含む　B良好　C内面はにぶい黄橙色10YR7/2　外面は浅黄橙色10YR8/3	外面に薄い黒斑有り
446	55	磁器	白磁椀	SX01	②3.7＋α ③3.4	量付け以外に施釉	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10Y8/1(灰白色10Y8/1釉を薄く施す)	国産か
447	55	磁器	染付椀	SX01	①(9.9) ②3.4＋α	残存部全面施釉	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色5GY8/1(緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産？
448	55	磁器	染付皿	SX01	①(10.8) ②2.35＋α	残存部全面施釉	A陶質　B良好　Cにぶい黄橙色10YR7/3(白味を帯びた透明釉を薄く施す)	漳州窯系
449	55	磁器	染付皿	SX01	②1.7＋α ③(7.5)	高台量付け以外に施釉	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C明緑灰色10GY8/1(緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産(景徳鎮窯系)
450	55	土師器	杯	SX04	①(17.9) ②2.25	磨耗のため調整不明	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C内面に浅黄橙色7.5YR8/3～外面は灰白色10YR8/2	
451	55	土師器	杯	SX07	①(10.8) ②2.4 ③6.0	回転ナデ 外底面に回転糸切り	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
452	55	陶器	擂鉢	SX09	②2.5＋α	回転ナデ　口縁部に施釉	A黒色粒子を少量含む　B良好　Cにぶい赤褐色2.5YR5/4(赤灰色2.5YR4/1釉を薄く施す)	肥前産？
453	57	磁器	染付椀	SD01砂層	②1.45＋α ③4.7	全面施釉後高台畳付を釉カキ取り 見込みに花・蝶虫描く	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cスノーホワイト N/9.5(白味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産(景徳鎮窯系) 小野分類E群(万頭心型)
454	57	磁器	染付椀	SD01下層	②2.95＋α ③5.6	全面施釉後高台畳付を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cパールホワイト N/8.5(灰色味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産(景徳鎮窯系) 小野分類C群(蓮子椀型)
455	57	磁器	染付皿	SD01下層	①(13.2) ②2.4 ③5.6	全面施釉後高台畳付を釉カキ取り 見込みに植物を描く	A精良　B良好　Cパールホワイト N/8.5(灰色味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産 高台畳付に砂が付着
456	57	磁器	染付皿	SD01上層	①(13.8) ②4.2 ③5.2	全面施釉後高台畳付を釉カキ取り 見込みに梅・蝶を描く	A細かい黒色粒子をごく少量含む　B良好 Cオイスター5Y7.5/1.0(白味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1630～40) 高台内側に砂が付着
457	57	磁器	染付皿	SD01砂層	①(13.7) ②2.5 ③6.6	全面施釉後高台畳付を釉カキ取り 見込みに植物を描く	A精良　B良好　Cパールホワイト N/8.5(やや灰色味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1650～60) 高台畳付に砂が少量付着
458	57	磁器	染付皿	SD01下層	①(16.8) ②3.2 ③(10.2)	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A細かい黒色粒子をやや多量含む　B良好 Cオイスター5Y7.5/1.0(緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	中国産(景徳鎮窯系)
459	57	磁器	染付杯	SD01下層	①(5.4) ②3.55 ③2.6	高台内以外を施釉　削り出し高台 植物を描く	A細かい黒色粒子をやや多量含む　B良好 Cアイボリーホワイト5Y9.0/1.0(白味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1630～40)
460	57	磁器	白磁杯	SD01下層	②3.0＋α ③2.4	内面～外面体部下位まで施釉 削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10Y8/1(明緑灰色7.5GY8/1釉を施す)	
461	57	磁器	白磁椀	SD01下層	①9.3 ②5.15 ③3.6	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 外面に蓮弁文か	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10Y8/1(明緑灰色10GY8/1釉を薄く施す内面と口縁部外面に貫入)	肥前産(1650～70) 高台畳付に砂が付着
462	57	磁器	染付椀	SD01下層	①(10.9) ②6.65 ③4.0	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 外面に圏線	A細かい黒色粒子をごく少量含む　B良好 C灰白色N8/(緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1650～60年代) 高台内側に砂が付着
463	57	磁器	染付 天目台	SD01下層	①(12.4) ②5.5＋α ③5.6	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 杯部に吹墨　皿部上面に魚・雲描く　皿部口縁にキザミ	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cパールホワイト N/8.5(青味を帯びた透明釉を薄く施す全面に貫入)	肥前産(1630～40)
464	57	磁器	染付瓶	SD01下層	②16.4＋α ④(12.0)	外面施釉　回転ナデ　外面に葡萄文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cパールホワイト N/8.5(青味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1630～40)
465	57	磁器	染付瓶	SD01下層	②15.3＋α ③6.9 ④10.65	外面施釉後畳付けを釉カキ取り 回転ナデ　外面に菊唐草文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cスノーホワイト N/8.5(青味を帯びた透明釉を薄く施す全面に貫入)	肥前産(1610～30)
466	57	磁器	白磁瓶	SD01下層	②20.2＋α ③7.2 ④11.9	内面頸部～外面施釉後畳付けを釉カキ取り　回転ナデ	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cスノーホワイト N/8.5(ブルーウォッシュ3PB8.5/1.0釉を薄く施す)	肥前産(17c後半)
467	57	陶器	瓶	SD01砂層	②10.2＋α	外面肩部に銅緑釉施釉後外面全面に透明釉施釉　回転ナデ	A細かい黒色粒子をごく少量含む　B良好 C黒色4YR4.0/2.0(緑釉露草色3PB5.0/10.0釉・透明釉を薄く施す)	肥前産(17c代)

遺物観察表8

468	58	磁器	青磁椀	SD01砂層	①(8.5) ②6.1 ③(4.4)	高台内以外に施釉　削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N8/(オリーブ灰色5GY6/1釉を薄く施す)	肥前産(1630～40)
469	58	陶器	椀	SD01	①(10.1) ②6.8 ③(3.9)	外面胴部まで鉄絵釉 全面に透明釉を施釉	A細かい白色粒子・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2(外暗オリーブ色7.5Y4/3・内灰黄色2.5Y6/2釉を薄く施す)	内野山窯系
470	58	陶器	椀	SD01砂層	①(10.6) ②7.3 ③5.1	内面～外面体部下位まで施釉 削り出し高台	A精良　B良好　Cキャメル4YR5.5/6.5(アンティックブラウン4YR3.0/6.0～油色5Y6.0/6.0釉を薄く施す)	肥前産(17c第2～3四半期) 釉の発色が悪い
471	58	陶器	椀	SD01上層	①(9.95) ②6.8 ③4.1	内面～外面体部下位まで施釉 削り出し高台	A精良　B良好　C灰黄褐色10YR6/2(暗オリーブ色7.5YR4/3～オリーブ黒色7.5YR2/2釉を薄く施す)	肥前産(1640～50) 体部内外の施釉部分にピンホール
472	58	磁器	白磁椀	SD01上層	①11.0 ②6.55 ③4.7	全面施釉後量付けを釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10YR8/1(明緑灰色7.5YR8/1釉を薄く施す 外面に貫入)	肥前産(17c後半) 全面にピンホール
473	58	陶器	椀	SD01下層	①(11.8) ②6.6 ③5.0	高台内以外に施釉　削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10Y8/1(オリーブ灰色10Y4/2～オリーブ黒色10Y3/2釉を薄く施す)	内野山窯系
474	58	陶器	椀	SD01砂層	②6.8＋α ③5.55	全面施釉後量付けを釉カキ取り	A精良　B良好　Cアイボリーホワイト5Y9.0/1.0(鳥の子色5Y9.0/2.0～アンティックブラウン4YR3.0/6.0釉を薄く施す　全面に貫入)	肥前産(17c前～中頃) 呉器手椀
475	58	陶器	椀	SD01下層	②4.4＋α ③5.3	全面施釉後量付けを釉カキ取り	A精良　B良好　Cアイボリーホワイト5Y9.0/1.0(枯草色5Y7.5/6.0釉を薄く施す　全面に貫入)	肥前産(17c第2～3四半期) 呉器手椀
476	58	陶器	皿	SD01	①(12.1) ②3.05 ③(4.7)	内面～外面体部上位に施釉 回転ナデ　削り出し高台	A精良　B良好　C褐灰色10YR6/1～にぶい黄橙色10YR6/3(暗灰黄色2.5Y5/2釉を薄く施す)	肥前産
477	58	磁器	皿	SD01下層	①(13.0) ②3.8 ③5.3	高台内以外に施釉　見込みに蛇の目釉カキ　削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cパールホワイト N/8.5(裏葉色3G7.0/2.0釉を薄く施す)	肥前産(波佐見産か　17c中～末)　口縁部や体部外面下半にピンホール
478	58	磁器	皿	SD01上層	①(12.95) ②3.65 ③5.2	高台内以外に施釉　見込みに蛇の目釉カキ　削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N8/(明オリーブ灰色2.5GY7/1釉をやや薄く施す)	肥前産(波佐見産か)
479	58	磁器	青磁椀	SD01下層	①(14.8) ②6.6 ③6.5	全面施釉後高台内を蛇の目釉カキ 見込みにスタンプ文(花文)	A細かい黒色粒子をやや多量含む　B良好 C灰白色10Y8/1(明オリーブ灰色5GY7/1釉を厚く施す)	龍泉窯系青磁 太宰府分類　Ⅳ類
480	58	磁器	青磁椀	SD01上層	①(16.8) ②6.5 ③6.6	量付け・高台内以外に施釉	A精良　B良好　C灰赤色2.5YR5/2(黄褐色2.5Y5/3釉をやや薄く施す)	龍泉窯系青磁 太宰府分類　1-1a類
481	58	磁器	青磁杯	SD01砂層	②1.7＋α ③4.7	全面施釉後量付けを釉カキ取り 見込みに双魚文　外面に蓮弁文	A精良　B良好　C灰白色10Y7/1(明緑灰色5G7/1釉をやや厚く施す)	竜泉窯系青磁 太宰府分類　Ⅳ類
482	58	磁器	染付皿	SD01下層	①(30.8) ②9.1 ③(10.3)	全面施釉後量付け内釉掻き取り	A精良　B良好　Cシルバーグレイ N/7.5(白味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に貫入)	肥前産(1630～40) 高台内側に砂付着
483	58	陶器	皿	SD01下層	②8.95＋α ③9.75	化粧土を拭き取り緑色釉を柄杓掛け　体部下位に回転ヘラ削り 見込みに目跡	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 C黄色4YR4.0/2.0(オリーブドラブ5Y4.5/2.0～アイボリーホワイト5Y9.0/1.0釉を薄く施す)	二彩手唐津
484	58	陶器	皿	SD01下層	①(32.2) ②8.8 ③13.0	化粧土を拭き取り緑色釉を柄杓掛け　体部下位に回転ヘラ削り 見込みに目跡	A細かい白色・黒色粒子をごく少量含む　B良好 Cテラコッタ7R5.0/6.5(ブロンズ5Y4.5/2.0～オリーブドラブ5Y4.5/2.0釉を薄く施す)	二彩手唐津(1610～17c第3四半期)
485	59	陶器	片口鉢	SD01下層	①19.4 ②11.1 ③7.8	内面～外面体部上位まで施釉 体部下位以下に回転ヘラ削り 見込みに目跡	A細かい白色粒子を少量含む　B良好 C褐色7.5YR4/3～褐灰色7.5YR4/1(褐灰色7.5YR6/1～4/1釉を薄く施す)	肥前産(17c第2～3四半期)
486	59	陶器	鉢	SD01砂層	①(19.2) ②7.9＋α	内面～外面体部中位まで施釉 回転ナデ	A細かい黒色粒子をごく少量含む　B良好 C褐灰色5YR5/1(暗赤褐色5YR3/3釉を薄く施す)	肥前産
487	59	陶器	椀か	SD01上層	②4.4＋α ③(5.7)	残存部は無釉 体部下位に回転ヘラ削り 高台をアーチ状に抉る	A白色粒子を少量含む　Bやや良好 Cにぶい赤褐色5YR5/4～浅黄橙色7.5YR8/6(褐色7.5YR4/3釉を薄く施す)	
488	59	陶器	四耳壺	SD01砂層	①(15.0) ②8.05＋α	外面施釉後口縁端部を釉拭き取り 口縁部は端部を折り合わせ成形	A1.0～3.0mm大の白色粒子をやや多量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/4(暗褐色10YR3/4～黄褐色2.5Y5/6～灰白色2.5Y8/1釉を薄く施す)	
489	59	陶器	壺	SD01砂層	①(7.4) ②3.7＋α	回転ナデ	A細かい白色粒子・黒色粒子を少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR6/1～灰白色N8/	口縁部歪む
490	59	陶器	盤	SD01砂層	②5.7＋α	内面～口縁部に施釉 回転ナデ	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰黄褐色10YR5/2(浅黄色2.5Y7/3釉を薄く施す)	中国産
491	59	磁器	青磁壺	SD01上層	②6.35＋α	内外面に施釉	A精良　B良好　C灰白色10YR7/1(灰オリーブ色5Y5/2釉を薄く施す)	
492	59	陶器	壺	SD01上層	②10.2＋α ③(11.0) ④(13.4)	外面に施釉　回転ナデ	A1.0～2.0mm大の白色粒子・黒色粒子を少量含む B良好　C外面は明緑灰色7.5YR7/1　内面は灰褐色5YR4/2(灰オリーブ色7.5YR5/2釉を薄く施す)	いわゆる丹徳利
493	59	瓦質土器	擂鉢	SD01砂層	②4.2＋α	回転ナデか　擂目有り	A細かい白色・黒色粒子をごく少量含む　Bやや良好 C褐灰色10YR4/1～にぶい黄褐色10YR5/3	
494	59	瓦質土器	擂鉢	SD01下層	②11.25＋α	口縁部にヨコナデ　内外面にハケ 擂目有り	A1.0～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰色N5/～N4/	外面に粘土紐接合痕が残る
495	59	瓦質土器	擂鉢	SD01砂層	②11.1	外面にハケ 擂目有り　口縁部に穿孔	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　B不良 C浅黄橙色7.5YR8/3～橙色7.5YR7/6	
496	59	瓦質土器	擂鉢	SD01砂層	②9.1＋α	外面にハケ 擂目有り	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　Bやや良好 C外面は褐灰色10YR5/1～灰黄褐色10YR6/2　内面は灰白色10YR7/1	
497	60	瓦質土器	片口擂鉢	SD01上層	①(31.0) ②10.3＋α	外面にハケ 擂目有り	A1.0～4.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C橙色7.5YR7/4～にぶい橙色7.5YR7/6	
498	60	瓦質土器	擂鉢	SD01下層	①(28.8) ②11.7＋α	外面にハケ 擂目有り	A精良　B不良　C外面は灰褐色7.5YR5/2　内面はにぶい褐色7.5YR5/3～浅黄橙色7.5YR8/3	
499	60	陶器	擂鉢	SD01上層	①(25.4) ②6.7＋α	口縁部外面に施釉　回転ナデ	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　B良好 C灰褐色7.5YR5/2(褐色7.5YR4/3釉を薄く施す)	
500	60	陶器	擂鉢	SD01下層	②5.35＋α	口縁部～外面体部上位に施釉 回転ナデ	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR4/1(暗赤褐色5YR3/6釉を薄く施す)	
501	60	瓦質土器	鉢	SD01下層	②7.9＋α	内外面にハケ　波状口縁	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄褐色10YR7/4	
502	60	瓦質土器	鉢	SD01砂層	②5.1＋α	口縁部にヨコナデ　内外面にハケ	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　Bやや良好 C外面は明褐色7.5YR5/6～褐灰色7.5YR5/1　内面は浅黄橙色7.5YR8/3	
503	60	瓦質土器	鉢	SD01下層	②7.85＋α	内面工具ナデ 外面にハケ後ナデ	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 C外面は褐灰色10YR5/1　内面はにぶい黄橙色10YR7/2	口縁部外面に煤付着
504	60	瓦質土器	鉢	SD01下層	①(28.0) ②6.0＋α	内面ハケ　外面にハケ後ナデ	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　B良好 C灰黄褐色10YR6/2～黄橙色10YR7/8	
505	60	瓦質土器	鉢	SD01上層	①(40.0) ②9.4＋α	内面ハケ　外面指頭圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C胎土は淡黄色2.5Y8/3　器壁中央は黄灰色2.5Y6/1	外面全体に煤付着
506	60	須恵器	平瓶	SD01砂層	②12.4＋α ③(11.9) ④(20.4)	カキ目	A2.0～3.0mm大の砂粒を多量含む　B良好 C外面は褐灰色7.5YR6/1～4/1　内面は灰色N6/	
507	61	瓦質土器	甕	SD01上層	①47.3～48.7 ②19.3＋α	口縁部にヨコナデ　内外面にハケ	A1.0～5.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 C外面は灰白色10YR8/2　内面は浅黄橙色10YR8/3	口縁部内面は粘土を貼り付け肥厚
508	61	石製品	砥石	SD01上層	長さ5.8＋α 最大幅6.1	3面の使用面残存	C灰褐色7.5YR6/2	砂岩製
509	61	土製品	土鈴	SD01砂層	②4.0 ④3.0	紐通し孔あり	A精良　B良好　Cにぶい橙色7.5YR7/3	
510	62	土師器	皿	SD02	①8.6 ②0.95 ③7.2	磨耗の為調整不明 外底面に板状圧痕	A細かい砂粒をやや多量含む　B不良 C灰黄色2.5Y7/2	

511	62	土師器	皿	SD02	①(9.0) ②1.1 ③7.2	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量含む　B不良 C灰黄色2.5Y7/2	
512	62	磁器	青磁椀	SD02	②4.25＋α ③6.1	高台内露胎 削り出し高台　見込みにスタンプ文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N/7 (オリーブ灰色2.5GY6/1釉を薄く施す)	龍泉窯系青磁　太宰府分類Ⅰ-1c類　「金玉満堂」のスタンプ文
513	62	陶器	壺	SD02	②9.5＋α	口縁部～体部上位に施釉(ムラのある施釉)	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 Cにぶい赤褐色5YR5/4 (暗オリーブ色5Y4/4釉を施す)	中国産
514	62	瓦質土器	鍋	SD02	①(38.8) ②16.9＋α	磨耗の為調整不明	A1.0～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C外面は橙色5YR6/8～7.5YR7/6　内面は浅黄橙色10YR8/3～にぶい黄橙色10YR7/3	
515	63	須恵器	杯身	SD03上層	①(17.2) ②4.85 ③(10.6)	内面～外面体部回転ナデ	A1.0～2.0mm大の砂粒をごく少量含む　Bやや良好 Cにぶい黄橙色10YR6/4～褐灰色10YR6/1	
516	63	須恵器	壺類	SD03下層	②3.7+α ③(10.5)	体部下位回転ヘラ削り 内底面に青海波当て具痕	A1.0～6.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C褐灰色7.5YR5/1	
517	63	磁器	青磁椀	SD03下層	②4.25＋α ③5.6	全面施釉後高台内を蛇の目釉カキ 外面体部下位に回転ヘラケズリ	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N8/(オリーブ灰色10Y4/2釉を厚く施す 全面に貫入・気泡を確認)	龍泉窯系青磁
518	63	磁器	白磁椀	SD03上層	②3.0＋α ③4.2	全面施釉 見込み・高台に目跡(砂目)	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10YR8/1～8/2 (明オリーブ灰色釉を薄く施す)	朝鮮産
519	63	磁器	白磁皿	SD03上層	①(11.3) ②2.85 ③(6.0)	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A細かい黒色粒子をごく少量含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色5GY8/1釉を薄く施す)	中国産
520	63	陶器	皿	SD03上層	①(11.2) ②2.2 ③(6.4)	全面施釉後口縁端部・畳付けを釉カキ取り	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C浅黄色2.5Y7/3～黄灰色2.5Y6/1 (ｵﾘｰﾌﾞ色5Y5/4釉を薄く施す)	瀬戸美濃産
521	63	陶器	椀	SD03上層	①(9.0) ②5.9 ③3.4	高台内露胎 削り出し高台　高台に目跡	A精良　B良好　Cオイスター5Y7.5/1.0 (オリーブドラブ5Y4.5/2.0釉を薄く施す)	肥前産(1610～20)
522	63	陶器	椀	SD03上層	①10.6 ②7.8 ③5.75	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A細かい白色・黒色粒子をごく少量含む　B良好 Cスノーホワイト N9.5 (クリームイエロー2Y9.0/6.0～れんが色4YR4.0/6.0釉を薄く施す　全面に貫入)	肥前産(1630～17c後半) 呉器手椀
523	63	磁器	染付椀	SD03上層	①(11.4) ②6.9 ③4.75	内面～高台外面まで施釉 削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　Bやや不良 Cパールホワイト N/8.5 (青味を帯びた透明釉を施す)	肥前産(1640～50)
524	63	磁器	染付椀	SD03下層	①11.2～12.15 ②5.9 ③4.2	全面施釉後畳付け釉カキ取り　見込みに草花、外面に梅を描く 高台内に「太明成化年製」銘	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cスノーホワイト N8.5 (青味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産(1650～60)
525	63	陶器	皿	SD03下層	①12.6 ②3.0 ③4.4	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 Cベージュ8YR7.5/1.0 (エクリュ8YR7.5/1.0釉を薄く施す)	肥前産(1630～50) 高台内側に砂付着
526	63	陶器	皿	SD03上層	①(14.0) ②3.0 ③4.2	内面～外面体部下位に施釉　回転ナデ　削り出し高台　見込みに目跡	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 Cイエローオーカー8YR6.0/6.5 (サロー5Y7.5/2.0釉を薄く施す)	肥前産(1610～40) 三川内窯に類例有り
527	63	磁器	染付瓶	SD03下層	②13.35＋α ③6.3	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 回転ナデ	A細かい黒色粒子をやや多量含む　B良好 Cスノーホワイト N8.5 (やや青味を帯びた透明釉を薄く施す)	肥前産
528	63	磁器	染付皿	SD03上層	①(22.4) ②6.15 ③7.3	全面施釉後口縁端部・畳付けを釉カキ取り　型打ち成形(内面菊花型)内面に山水文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cスノーホワイト N9.5 (やや緑味を帯びた透明釉を薄く施す　外面に貫入)	肥前産(1630～40)
529	63	陶器	鉢	SD03下層	①(19.2) ②8.2＋α	内面～外面体部中位まで施釉 回転ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C赤褐色2.5YR4/8～黒褐色10YR3/2 (灰白色N8/釉を薄く施す)	肥前産
530	64	瓦質土器	擂鉢	SD03下層	①(31.4) ②11.7 ③(14.3)	外面指頭圧痕後ハケ 内面に使用痕　擂目あり	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C外面は暗灰色N3/　内面は暗灰色N3/～灰白色N8/ 胎土は灰白色N8/	
531	64	瓦質土器	擂鉢	SD03下層	②7.4＋α	内外面ナデ	A1.0～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
532	64	瓦質土器	擂鉢	SD03上層	①(29.6) ②6.6＋α	内外面ハケ 擂目有り	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C外面は褐灰色7.5YR4/1～明褐灰色7.5YR7/1　内面は褐灰色7.5YR5/1	
533	64	陶器	擂鉢	SD03	②5.1＋α	口縁部外面施釉 擂目有り	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR5/1 (灰褐色7.5YR4/2釉を薄く施す)	備前焼
534	64	陶器	擂鉢	SD03上層	①(25.9) ②7.0＋α	口縁部外面施釉 擂目有り	A細かい砂粒をごく少量含む　Bやや良好 C明黄褐色10YR6/6 (灰白色10YR8/2釉を施す)	備前焼
535	64	陶器	片口擂鉢	SD03上層	②4.7＋α	口縁部外面に施釉 擂目あり	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR6/1～灰色N/6 (暗赤褐色5YR3/4釉を薄く施す)	備前焼
536	64	陶器	擂鉢	SD03上層	①(32.4) ②4.0＋α	口縁部～体部上位に施釉	A細かい黒色粒子をごく少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR5/1～橙色7.5YR6/6 (灰褐色5YR4/2釉を薄く施す)	
537	64	陶器	擂鉢	SD03上層	①(34.3) ②7.2＋α	口縁部内面に施釉 擂目有り	A精良　B良好 Cにぶい褐色7.5YR5/3 (褐色7.5YR4/3釉を施す)	
538	64	陶器	鉢	SD03上層	①(22.0) ②4.8 ③(19.0)	全面施釉後口縁端部を釉拭き取り 内面指頭圧痕あり	A細かい白色粒子を少量含む　Bやや良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4 (灰白色7.5YR7/1～にぶい橙色7.5YR7/3釉を薄く施す)	肥前産か上野産(16c末～17c初)
539	64	陶器	壺・甕類	SD03上層	②7.1＋α ③(14.3)	外面胴部下位まで施釉 外底面に目跡	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2 (褐色7.5YR4/6釉を薄く施す)	中国産か
540	64	陶器	こね鉢	SD03下層	②4.8＋α	内面に施釉　回転ナデ	A細かい白色・黒色粒子をやや多量含む　B良好 C明褐色7.5YR5/6 (灰白色10YR8/2釉を薄く施す)	中国産
541	64	陶器	耳壺	SD03上層	②7.5＋α	外面に線刻有り	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 C灰赤色2.5YR5/2～赤灰色2.5YR5/1 (灰オリーブ色5Y4/2釉を薄く施す)	中国産
542	65	須恵器	甕	SD03上層	②3.0＋α	外面頸部上位に波状文	A細かい白色・黒色粒子を少量含む　B良好 C褐灰色7.5YR6/1 (暗赤褐色5YR3/3釉を薄く施す)	
543	65	須恵器	甕	SD03下層	②3.8＋α	外面頸部上位に波状文	A細かい砂粒・黒色粒子をごく少量含む　B良好 C極暗赤褐色2.5YR2/2～黒褐色2.5Y3/2 (暗オリーブ灰色2.5GY4/1釉を薄く施す)	
544	65	須恵器	甕	SD03上層	①(15.4) ②8.0＋α	胴部外面叩き痕　内面に頸部付近ハケ状痕跡、胴部当て具痕	A1.0～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰色N5/～灰黄褐色10YR5/2	
545	65	石製品	石鍋	SD03上層	②6.9＋α	削りによる成形	C外褐灰色7.5YR5/1～内灰褐色7.5YR6/2	滑石製　外面に煤付着
546	65	瓦質土器	火鉢	SD03上層	①29.7 ②28.5 ③24.0	ハケ後ヨコナデ	A0.5～4.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 C浅黄橙色10YR8/3～8/4	
547	65	瓦質土器	火鉢	SD03上層	②14.8＋α ③(28.8)	ハケ後ヨコナデ	A細かい砂粒・雲母を多量に含む　B不良 C外面はにぶい褐色7.5YR5/4～灰褐色　内面は褐灰色7.5YR5/1～灰褐色6/2	脚部が1ヵ所残存
548	65	瓦質土器	火鉢	SD03下層	①(43.8) ②17.4＋α	内面ハケ後ナデ 外面にヘラミガキ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C外面は褐灰色10YR5/1　内面は暗灰色N3/～橙色7.5YR6/8　器壁中央は灰白色N7/	
549	65	瓦質土器	鉢	SD03上層	①(45.5) ②7.4＋α	外面口縁部ハケ後ヨコナデ 内面・外面体部ハケ目	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2～にぶい黄色2.5Y6/3	外面全体に煤付着
550	65	瓦質土器	鉢	SD03下層	①(49.0) ②9.2＋α	口縁部外面ハケ後ナデ	A1.0～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C外面はにぶい褐色7.5YR6/3　内面は灰褐色7.5YR6/2～にぶい橙色7.5YR7/4	外面全体に煤付着

遺物観察表10

551	66	石製品	砥石	SD03上層	長さ6.0＋α 幅7.3＋α 厚さ2.2	5面の使用面残存	C黄灰色2.5Y4/1～6/1	砂岩製
552	66	石製品	砥石	SD03下層	長さ5.85＋α 最大幅7.55 厚さ2.1	2面の使用面残存	C灰白色2.5Y8/1～黄褐色10YR5/8	石英粗面岩製
553	66	石製品	砥石	SD03下層	長さ9.55＋α 幅5.8＋α 厚さ2.3＋α	2面の使用面残存	C灰白色2.5Y8/1～黄褐色10YR5/8	石英粗面岩製
554	67	磁器	白磁椀	SD04	②1.7＋α ③(6.1)	内面に施釉 削り出し高台	A1.0～2.0mm大の砂粒・黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色10YR7/1 (明オリーブ灰色2.5GY7/1 釉を薄く施す)	
555	67	土師器	小皿	SD07	①(9.0) ②1.45 ③6.9	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む B やや良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
556	67	土師器	甕	SD07	②7.20＋α	口縁部にヨコナデ 内外面にナデ後ハケ	A1.0～2.0mm大の砂粒をやや多量含む B やや良好 C浅黄橙色10YR8/4	
557	68	木製品	下駄	SD01下層	最長21.7 最大幅8.5 最大厚2.1	差歯孔4ヵ所		角型の差歯露卯下駄
558	68	木製品	下駄	SD01下層	最長21.4 最大幅8.7 最大 厚2.3	差歯孔4ヵ所		角型の差歯露卯下駄
559	68	木製品	下駄	SD01下層	最長21.1 最大幅8.6 最大 厚2.1	差歯孔2ヵ所		角型の差歯露卯下駄
560	68	木製品	下駄	SD01下層	最長21.15 最大幅(8.8) 最大厚2.7	差歯孔4ヵ所		角型の差歯露卯下駄
561	68	木製品	下駄	SD03下層	最長22.15 最大幅8.2 最大厚2.5 高さ5.3＋α	差歯孔4ヵ所		角型の差歯露卯下駄 後歯残存
562	68	木製品	下駄	SD03下層	最長22.0 最大幅8.0 最大厚2.8 高さ7.2	差歯孔2ヵ所		角型の差歯露卯下駄 歯は撥形
563	69	漆器	皿	SD01下層	①(9.8) ②2.65 ③(4.2)	内面に赤漆塗布 外面赤漆による丁子紋か		蓋の可能性有り
564	69	漆器	皿	SD01下層	②3.05＋α			
565	69	漆器	椀	SD01下層	②4.3＋α	内外面粗く漆を塗布		
566	69	漆器	椀	SD01下層	②3.9＋α ③5.3	内外面漆塗布 器壁比較的薄い 口縁部端反		
567	69	漆器	椀	SD01下層	①13.6 ②6.1＋α ③(7.0)	内外面漆塗り		高台の高さに差が一定でない 可能性あり
568	69	木製品 建築	部材	SD01下層	長さ18.25 幅8.6＋α	臍穴あり		
569	69	木製品	曲物 (底板)	SD01	④9.0 短径8.4 厚さ0.5～0.55	表面に漆塗布 裏面に設計線らし き痕跡		柾目材を使用
570	69	木製品	曲物 (底板)	SD01下層	④12.3 短径11.0＋α 厚さ0.5			柾目材を使用
571	69	木製品	曲物 (底板)	SD01下層	径12.6＋α 厚さ0.4	縁辺から約3mm内側に沿って漆付 着		柾目材を使用
572	69	木製品	竪杵状 製品	SD03下層	最長24.8 軸の厚さ2.1 上・下端幅3.3・3.1	削りによる加工		心持材を使用 使用痕なし
573	69	金属 製品	鉛弾	SD03上層	直径1.05		Cにぶい黄橙色10YR7/2	火縄銃の弾丸か。6.4g
574	70	石製品	茶臼 (上臼)	SE03下層	直径17.8 厚さ7.9～8.7	7分画 側面に相対する挽き木孔 有り その周辺は3段曼形の浮き 彫り装飾	C褐灰色10YR4/1～にぶい黄橙色10YR6/4	砂岩製
575	70	石製品	粉挽臼 (上臼)	SE03上層	擂目面半径15.6＋α 厚さ7.6～10.5	側面に挽き木孔が2ヵ所 1ヵ所浅い窪み	C褐灰色10YR6/1～灰黄褐色10YR6/2	凝灰岩製
576	71	石製品	茶臼 (上臼)	SX01	擂目面径16.8 厚さ8.5～11.1	側面に相対する挽き木孔有り 挽 き木孔周辺に2段方形浮き彫り装 飾	C褐灰色10YR5/1～灰黄褐色10YR6/2	砂岩製
577	71	石製品	茶臼 受皿部	SD01砂層	②4.4＋α		C褐灰色10YR6/1～にぶい黄橙色10YR6/4	凝灰岩製、下臼の受け部
578	71	石製品	茶臼 (下臼)	SD03上層	②4.0＋α		C灰黄褐色10YR6/2～にぶい黄橙色10YR7/3	砂岩製、下臼の受け部
579	71	石製品	粉挽臼 (上臼)	SD03下層	②5.7＋α	側面に工具痕が見られる	C黄灰色2.5Y5/1～オリーブ黒色5Y3/1	凝灰岩製
580	71	石製品	茶臼 (下臼)	SD03上層	②8.4＋α		C褐灰色10YR5/1～明黄褐色10YR7/6	砂岩製
581	71	石製品	粉挽臼 (下臼)	SD03上層	②3.0＋α	側面に工具痕が見られる	C褐灰色10YR6/1～5/1	凝灰岩製
582	71	石製品	粉挽臼 (上臼)	SD03上層	②4.1＋α	上面・側面に工具痕が見られる	C褐灰色10YR5/1～黒褐色10YR3/1	凝灰岩製
583	71	石製品	粉挽臼 (下臼)	SP58	半径11.85＋α 厚さ約5.0		C褐灰色10YR5/1～にぶい黄橙色10YR7/2	凝灰岩製
584	72	瓦	丸瓦	SD01(B区)上層	厚さ(丸瓦1.3)(玉縁1.1) 玉縁長(5.5) 幅(14.6)	細かい斜格子叩き 玉縁凸面にヨ コナデ・不定方向のナデ 顎部に ヨコナデ 凹面に布目圧痕	A0.5～5.0mm大の砂粒を多量含む B良好 C灰色5Y6/1	玉縁部側端面には分割界面が 残る
585	72	瓦	道具瓦	SD01(D区)砂層	厚さ(2.7)	凸面は縦位の削り後半裁竹管状工 具による鱗紋様 凹面に縦ナデ・ 粘土綴じ痕・工具痕？ 燻し焼き	A0.5～5.0mm大の砂粒・雲母を多量含む B良好 C表面は暗灰色N3/～灰色4/ 内部は黄灰色2.5Y6/1	断面に幅3cmの横位の粘土綴 じ痕が3状残る。巻き上げ技 法か？近世軟瓦の胴部に似る
586	72	瓦	丸瓦	SD01(D区)黄褐色土	厚さ(2.9)	細かい斜格子叩き 凹面は布目圧 痕上をまばらに縦ナデすり消し	A0.5～5.0mm大の橙色・白色砂粒を多量含む B良好 C青灰色5B6/1～灰色N6/	玉縁部側端面には分割界面が 残る
587	72	瓦	平瓦	SD02(A区)	厚さ(2.6)	目の粗い縄叩き 凹面に糸切り痕・布目圧痕	A0.5～7mm大の砂粒を多量含む B軟質 C凸面表面は褐灰色10YR5/1 他部は橙色5YR6/6	表面風化が激しい 側面に小粘土塊付着
588	72	瓦	丸瓦	SD02	厚さ(2.3)	凸面に縦ナデ 凹面は布目圧痕すり消し	A0.5～4.0mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C灰色N6/～5	側端面には分割界面が残る
589	72	瓦	丸瓦	SD03上層	厚さ(2.6)	目の粗い縄叩き後まばらに縦ナデ 凹面に布目圧痕	A0.5～5mm大の砂粒を多量含む B軟質 C一部表面は黄灰色2.5Y5/1 他は灰白色2.5Y8/2	表面風化が激しい
590	72	瓦	丸瓦	SD03(A区)下層	玉縁凸面に横ナデ	凹面に布目圧 痕	A0.5～5mm大の砂粒を多量に含む B やや軟質 C一部表面は灰黄色2.5Y6/2 他は橙色7.5YR7/6	玉縁顎面は補充粘土貼り付け 後成形
591	72	瓦	丸瓦	SD03(A区)下層	厚さ(2.0)	凸面縦ナデ 凹面に目の細かい布 目圧痕 側端面は凹端側に縦ナデ	A0.5～2.0mm大の白色砂粒をごく少量含む B良好 C表面は灰色N4/ 胎土は灰白色5Y8/1	直径1.3cmの釘穴あり 燻し 焼き
592	72	瓦	丸瓦	SD03(C区)下層	厚さ(1.9)	細かい斜格子叩き後すり消しか 凹面に布目圧痕	A0.5～0.6mmの砂粒を多量含む B軟質 C浅黄橙色10YR8/3	表面風化が激しい
593	73	瓦	平瓦	SD03(C区)下層	厚さ(1.3)	単位の大きい斜格子叩き後まばら に縦ナデ 凹面に布目圧痕	A0.5～0.6mm大の砂粒を多量含む B良好 C凸面は灰オリーブ色5Y6/2 凹面は暗青灰色5B4/1	側端面には分割界面が残る
594	73	瓦	平瓦	SD03(B区)下層	厚さ(2.3)	凸面はナデ 縄叩き後すり消しか 凹面は布目圧痕のナデ消し	A0.5～5.0mm大の砂粒を多量含む B やや軟質 C一部表面は黄灰色2.5Y4/1 他部は灰白色5Y7/1	表面風化が激しい
595	73	瓦	平瓦	SD03(C区)下層	厚さ(1.5)	目の細かい斜格子叩き後まばらに 縦ナデ 凹面に布目圧痕 側端面は縦ナデか	A0.5～4.0mm以下の白色砂粒を多量含む B良好 C一部は灰黄色2.5Y6/2 他部は青灰色10BG6/1	凸面は斜格子叩き後すり消し、 さらに斜格子叩きをまばらに 施した可能性
596	73	瓦	平瓦	SD03(C区)上層	厚さ(1.5)	凸面に不定方向のナデ 広・狭端 に近い部分は横ナデ 凹面は一部 に布目圧痕 広・狭端面に横ナデ	A0.5～4.0mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C胎土は灰色5Y6/1 断面中心部は灰色5Y5/1	
597	116	瓦質 土器	火鉢	SD03(A区)上層	①37.6 ②32.0 ③25.8	内外面ハケ後外面にミガキ 内面 胴部下位にナデ 脚部貼付け	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む B良好 C黒褐色10YR3/1～灰黄褐色10YR6/2	

4　区

遺物番号	図	種　類	器　種	出　土　地　点	法量cm ①口径 ②器高 ③底径 (高台径) ④最大径	形　態　・　技　法　の　特　徴	A 胎土　B 焼成　C 色調（釉調）	備　　考
601	78	土師器	小皿	SP92 (SB02)	①(8.8) ②1.05 ③(6.9)	回転ナデ後見込みに不定方向のナデ　外底面に糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片をやや多量含む B良好　Cにぶい黄橙色10YR7/2	
602	78	石製品	砥石	SP92 (SB02)	長さ8.25＋α 幅11.0＋α 厚さ7.0	3面の使用面残存	C灰色7.5Y5/1～灰褐色5YR4/2	砂岩製
603	78	土師器	小皿	SP158 (SB03)	①(8.4) ②1.6 ③(6.0)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C灰白色10YR8/2	
604	78	土師器	杯	SP158 (SB03)	①(12.2) ②2.9 ③(8.1)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
605	78	瓦質土器	鉢	SP520 (SB04)	②3.05＋α	指頭圧後内面はハケ　外面はナデ	A0.5～5.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好　C器表面はにぶい橙色10YR7/3～7.5YR7/3 器壁中央は橙色5YR6/8	
606	78	陶器	椀	SP439 (SB04)	②2.25＋α	体部上位が屈曲	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10YR7/1（褐色7.5YR4/4釉を薄く施す）	天目椀
607	78	土師器	小皿	SP719 (SB05)	①(7.5) ②1.2 ③(6.0)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2～褐灰色10YR5/1	
608	78	土師器	小皿	SP339 (SB05)	①(7.8) ②1.35 ③(3.4)	回転ナデ　外底面に糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/4	
609	78	土師器	小皿	SP711 (SB05)	①(8.9) ②1.8 ③(6.6)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B不良　Cにぶい黄橙色7.5YR7/4	
610	78	石製品	用途不明品	SP320 (SB05)	長さ2.85＋α 幅2.2＋α 最大厚1.7		C灰色N6/	滑石製
611	78	磁器	青磁椀	SP419 (SB06)	②2.95＋α	外面に鎬蓮弁文	A精良　B良好　C明緑灰色10GY7/1（オリーブ灰色2.5GY6/1釉を施す）	竜泉窯系青磁 太宰府分類　Ⅱ-b類
612	82	土師器	小皿	SE01中層	①9.8 ②1.0～1.4 ③7.15	回転ナデ 外底面にヘラ切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B不良 C灰白色2.5Y8/1～淡橙色5YR8/3	
613	82	土師器	椀	SE01下層	①(13.0) ②3.2＋α	回転ナデ	A細かい砂粒をやや多量に含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/3～灰白色10YR7/1	
614	82	土師器	椀	SE01中層	②2.3	口縁部に回転ナデ　体部下位～底部に指頭圧　内面にコテあて痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C灰白色10YR8/2～浅黄橙色10YR8/3	
615	82	土師器	椀	SE01中層	②3.4＋α	回転ナデ　内面にミガキ 外面に工具痕	A0.5～4.0mm大の砂粒をやや多量に含む Bやや不良　C灰白色10YR8/2	
616	82	黒色土器	椀	SE01上層	①(13.8) ②6.2 ③5.8	内外面にミガキ　底部に高台貼付けに伴うナデ　外底面にヘラ切り痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C黒色N2/1～橙色5YR6/6	黒色土器 B類
617	82	瓦器	椀	SE01最下層	①15.15 ②5.25 ③6.95	体部下位～底部に指頭圧 内面にミガキ・不定方向ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C灰白色2.5Y8/1～黒色N2/	
618	82	土師器	甕	SE01上層	②3.7＋α	口縁部ヨコナデ　内面は体部はケズリ　外面ハケメ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや良好 C褐灰色10YR5/1～にぶい黄橙色10YR6/3	
619	82	土師器	杯	SE02中層	①10 ②1.05～1.3 ③6.0	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0ｍｍ大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰白色10YR8/1	内外面に墨痕
620	82	土師器	杯	SE02上中層	①(11.8) ②2.5 ③(6.7)	回転ナデ 外底面に糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む Bやや良好　C灰黄褐色10YR6/2	
621	82	土師器	杯	SE02上中層	②3.05＋α	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕	A細かい砂粒を少量に含む　B良好 C灰白色10YR8/2～褐灰色10YR6/1	
622	82	瓦質土器	皿	SE02上中層	②1.55	回転ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C器表面は黒色N2/～黒褐色10YR3/1　器壁中は灰白色10YR8/1	
623	82	陶器	椀	SE02中層	②4.2＋α ③5.45	腰部以上はハケによる化粧土 全面透明釉 量付けに目跡（胎土目）	A細かい白色粒子・黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰色N6/（緑味を帯びた透明釉を薄く施す　全体に細かい貫入・気泡）	朝鮮産　粉青沙器
624	82	銅製品	銅銭	SE02上層	直径2.3　厚さ0.1	劣化により銭種不明		４枚が重なり合う
625	82	磁器	染付皿	SE02中層	②1.9＋α	量付け以外に施釉	A所々に小さな隙間　B良好 C灰白色N8/（青味を帯びた透明釉を薄く施す）	中国産　小野分類　Ｂ１群
626	82	磁器	青磁椀	SE03井筒内	①2.2＋α	外面に蓮弁文	A細かい白色砂粒を少量含む　B良好 C灰色N6/1（灰オリーブ色7.5Y5/2釉を薄く施す）	竜泉窯系青磁
627	82	瓦質土器	擂鉢	SE03裏込め	②4.9＋α	指頭圧後ハケ　内面に使用痕 ５本単位の擂目	A細かい砂粒・雲母片をやや少量含む　B良好 C胎土は浅黄色2.5Y7/3　器壁中央は灰色N4/	
628	82	土師器	杯	SE04	①(14.1) ②2.45 ③8.5	回転ナデ後見込み・外面体部に不定方向ナデ　外底面に板状圧痕	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2	
629	82	土師器	杯	SE04灰白色土	①(13.2) ②2.6 ③(9.0)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に板状圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/3～橙色2.5YR6/8	
630	82	木製品	用途不明品	SE04裏込め	最長径4.65 最大厚4.6	両端を丸く加工		芯持ち材を使用
631	82	木製品	用途不明品	SE04裏込め	最長9.55 直径4.3	両端を加工		芯持ち材を使用
632	82	木製品	用途不明品	SE04裏込め	最長6.7 最大幅6.05 最短幅4.95	全面を不定形に加工 穿孔人為的か不明		芯持ち材を使用
633	82	木製品	用途不明品	SE04裏込め	最長径6.3 最短径5.95 最大厚4.4	轆頭形に加工		
634	83	木製品	転用品	SE05	長さ26.6＋α 幅9.4＋α 厚さ1.55	溝状彫り込み		
635	83	木製品	転用品	SE05	長さ27.3＋α 幅5.7＋α 厚さ1.6	溝状彫り込み　表面２ヵ所に貫通孔　１側面１ヵ所に穿孔		
636	83	木製品	転用品	SE05	長さ35.25 幅10.2 厚さ2.1			
637	83	木製品	転用品	SE05	最長53.5 最短17.2 厚さ2.4～3.0	１側面５ヵ所に穿孔		桶類の底板か
638	83	木製品	転用品	SE05	最長57.6 最短23.2 厚さ2.6～1.9	１側面４ヵ所に穿孔		桶類の底板か
639	83	木製品	転用品	SE05	長さ60.0＋α 幅14.5＋α 厚さ1.4～1.5	表面３ヵ所に溝状彫り込み　表面２ヵ所に貫通孔		
640	83	木製品	転用品	SE05	長さ92.5＋α 幅13.0＋α 厚さ1.5～1.8	表面に側面に沿った溝状彫り込み 彫り込み内８ヵ所に穿孔		
641	84	木製品	転用品	SE05	最長52.0 最大幅27.8 厚さ1.5	表裏面に切断痕　両側面に各４ヵ所に穿孔　下側面５ヵ所に穿孔		枡形木組の転用
642	84	木製品	転用品	SE05	最長51.9 最大幅28.4 厚さ1.5	表裏面に切断痕　両側面４ヵ所 下側面５ヵ所穿孔		枡形木組の転用
643	84	木製品	転用品	SE05	長さ72.8 最大幅27.9 厚さ1.1	表裏面に切断痕　両側縁近くに貫通孔　下側面に７ヵ所の穿孔		枡形木組の転用
644	84	木製品	転用品	SE05		表裏面に切断痕　両側縁近くに貫通孔　下側面７ヵ所に穿孔		枡形木組の転用
645	85	土師器	杯	SE05	①(12.3) ②2.9 ③7.6	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C橙色5YR7/6～にぶい黄橙色10YR7/2	

遺物観察表12

646	85	瓦質土器	鍋	SE05裏込め	②4.7＋α	指頭圧後口縁部はヨコナデ 内外面はハケ	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C胎土は灰白色2.5Y7/1～褐灰色10YR6/2　器壁中央は黄灰色2.5Y6/1	
647	85	土師器	丸底杯	SE06	①(14.8) ②3.7 ③(9.6)	回転ナデ 外底面にヘラ切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや良好 C褐灰色10YR5/1～にぶい黄橙色10YR6/3	
648	85	木製品	底板	SE06	直径32.0＋α 厚さ0.9	表面に無数の傷跡		曲物類の底板か
649	85	木製品	杭	SE06	長さ75.4＋α 最長径6.1 最短径5.2	一方の端部を鋭利に加工		
650	89	瓦器	椀	SX01	①(15.6) ②5.2～6.2 ③7.1	内外面ミガキ 外面体部下位は指頭圧痕	A細かい砂粒を少量に含む　B良好 C灰白色2.5Y8/1～灰色N6/	
651	89	瓦質土器	甕	SX02	②3.85＋α	外面に格子目叩き痕 内面～頸部はナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C器表面は灰色N5/　胎土は灰白色2.5Y8/1　胎土中央は灰色N5/	
652	89	陶器	壺	SX02	②2.7＋α	口縁部に施釉　内面はムラのある施釉　上端面に目跡(胎土目)	A細かい茶色粒子を多量に含む　B良好　Cにぶい黄橙色10YR6/3(黄褐色2.5Y5/6釉をごく薄く施す)	中国産
653	89	土師器	移動式カマド	SX03	②11.3＋α	内面は削り　外面・底部はナデ	A0.5～5.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C浅黄橙色7.5YR8/4～にぶい褐色7.5YR5/4	焚口部の破片か
654	89	石製品	石鍋	SX04	②4.6＋α	削りによる成形	C灰白色10YR7/1～灰黄色10YR6/2	鍔部～下位は煤付着
655	89	土師器	杯	SX08	①(11.2) ②2.8 ③(8.6)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む Bやや不良　Cにぶい黄橙色7.5YR6/4	
656	89	石製品	石鍋	SX11	①(28.8) ②4.25＋α	削りによる成形	C灰色N5/～黒褐色7.5YR3/1	鍔部～下位は煤付着
657	89	磁器	白磁皿	SX12	①(7.8) ②1.7 ③(6.8)	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cエクリュ8YR7.5/1.0(オイスター5Y7.5/1.0釉を薄く施す)	太宰府分類 IX類
658	89	磁器	青磁椀	SX12	②3.3＋α	外面に蓮弁文	A精良　B良好　C灰色5Y6/1(灰オリーブ色5Y5/2釉をごく薄く施す　全体に細かい貫入)	竜泉窯系青磁
659	89	磁器	青磁椀	SX12	②3.05＋α	外面に蓮弁文	A精良　B良好　C褐灰色5YR6/1(黄褐色2.5Y5/4釉をごく薄く施す　全体に細かい貫入)	竜泉窯系青磁
660	89	磁器	青磁椀	SX12	②4.3＋α ③5.3	見込みに花文　外面に鎬蓮弁文	A所々に小さい隙間　B良好　Cシルバーグレイ N7.5(裏集色3G7.0/2.0釉をやや厚く施す)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
661	89	磁器	白磁皿	SX13	①(10.5) ②2.9＋α	施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子をやや少量含む　B良好 C灰白色2.5Y7/1(灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す)	太宰府分類 IX類
662	89	磁器	青磁椀	SX13	②4.1＋α	外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色7.5Y8/1(オリーブ灰色2.5GY5/1釉を薄く施す)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
663	89	磁器	白磁皿	SX14	①(11.0) ②3.75 ③(6.8)	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り 外底面は板状工具で釉をのばす	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色2.5Y8/1(灰白色10Y8/1釉を薄く施す)	太宰府分類 IX-1b類
664	89	須恵質土器	こね鉢	SX14上層	②2.6＋α	磨耗の為調整不明	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C灰白色5Y8/1	東播系
665	89	磁器	青磁椀	SX14上層	②3.3＋α	外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子をやや少量含む　B良好 C灰色N5/(灰オリーブ色7.5Y5/2釉を薄く施す　全体に細かい貫入)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
666	89	磁器	青磁椀	SX14	②5.0＋α	外面に鎬蓮弁文	A所々に小さい隙間　B良好　C灰色N7/(緑灰色7.5GY6/1釉を薄く施す　気泡を多量に含む)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
667	92	土師器	小皿	SX15	②1.25＋α	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい白色砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 C橙色7.5YR7/6	
668	92	土師器	小皿	SX15	②1.55＋α	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや少量含む　Bやや不良 C橙色7.5YR6/6	
669	92	土師器	小皿	SX15	①(9.2) ②1.4 ③(8.0)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片をやや少量含む Bやや不良　Cにぶい橙色7.5YR7/4	
670	92	磁器	青磁椀	SX15	②3.4＋α	外面に蓮弁文	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 C灰白色N8/(灰オリーブ色7.5Y5/3釉を薄く施す全体に細かい貫入)	竜泉窯系青磁
671	92	瓦質土器	鍋	SX15上層	②2.25＋α	内面ハケ　外面ナデ 口縁部上端に刻み目	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや良好 Cにぶい黄橙色10YR6/3～褐灰色10YR4/1	
672	92	瓦質土器	鍋	SX15	②6.6＋α	内外面ハケメ 口縁部上端に刻み目	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C黒色N1.5/～橙色7.5YR6/6	
673	92	瓦質土器	鉢	SX15	②4.4＋α	内面ハケ　外面ハケ後ナデ	A細かい砂粒を少量含む　Bやや不良 C灰白色N8/～N7/	
674	92	須恵質土器	こね鉢	SX15上層	②3.2＋α	回転ナデ　口縁部に自然釉	A細かい砂粒・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N7/	東播系
675	92	石製品	石鍋	SX15上層	①(21.9) ②5.5＋α	削りによる成形	C灰色N6/	鍔部以下に煤付着
676	92	銅製品	用途不明品	SX15	長さ3.05 ②0.65 厚さ0.25～0.3		C明オリーブ灰色5GY7/1	2.55g
677	92	土師器	杯	SX18	①(12.8) ②2.3 ③(8.4)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C灰白色10YR8/2	
678	92	磁器	青磁椀	SX18	②3.3＋α	外面に蓮弁文	A細かい白色粒子をやや多量に含む　B良好 C橙色5YR7/6(オリーブ色5Y5/4釉を薄く施す)	竜泉窯系青磁
679	92	磁器	白磁皿	SX18	②1.9＋α	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り	A所々に小さい隙間が見られる　B良好 C灰白色N8/(灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す)	太宰府分類 IX類
680	92	磁器	白磁皿	SX18	①(10.5) ②2.2 ③(6.8)	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色10YR7/1釉を薄く施す　全体に細かい貫入)	太宰府分類 IX類
681	92	須恵質土器	こね鉢	SX18	②3.6＋α	内面不定方向ナデ	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰白色N7/　外面口縁部は灰色N5/	東播系
682	92	瓦質土器	鉢	SX18	②3.9＋α	ハケ後ヨコナデ	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好　C器表面は暗灰色N3/　器壁内は灰白色N8/	
683	92	土製品	羽口	SX18	長さ5.9＋α 幅3.5＋α 最大厚2.1	内面に溶解した付着物	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C内面側は明赤褐色2.5Y5/6　外面側は灰白色N7/	
684	92	土師器	小皿	SX20(B区)	①7.9 ②1.0～1.4 ③6.9	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　Bやや不良 C浅黄橙色7.5YR8/4	
685	92	土師器	小皿	SX20(B区)	②1.2＋α	磨耗の為調整不明	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B不良 C橙色5YR6/6～灰白色10YR8/2	
686	92	磁器	青磁椀	SX20(A区)	②3.5＋α	外面に鎬蓮弁文	A精良　B良好　C灰色N6/(緑灰色7.5GY5/1釉を薄く施す　全体的に気泡を含む)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
687	92	磁器	青磁椀	SX20(A区)	②3.5＋α ③5.8	高台内露胎 外面に鎬蓮弁文	A所々に小さい隙間　B良好　C灰白色N8/～浅黄橙色7.5YR8/6(緑灰色7.5GY6/1釉を薄く施す　全体に貫入・気泡が見られる)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
688	92	磁器	青磁椀	SX20(A区)	②5.0＋α	外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　C灰白色N7/(オリーブ灰色2.5GY5/1釉を薄く施す　全体的に気泡が見られる)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
689	92	瓦質土器	鉢	SX20	②2.9＋α	ヨコナデ後不定方向ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C灰白色5Y7/1	
690	92	瓦質土器	鉢	SX20	②8.6＋α	指頭圧後ハケ	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰白色5Y7/1～暗灰色N3/	
691	92	土師器	小皿	SX21	①(8.0) ②1.1 ③(7.1)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C橙色7.5YR7/6	
692	92	磁器	白磁椀	SX21	②2.7＋α		A精良　B良好　C灰白色N7/1(灰白色7.5Y7/2釉を薄く施す)	太宰府分類 II類か

693	92	磁器	白磁椀	SX21	②3.8＋α	玉縁口縁	A精良　B良好　C灰白色2.5Y8/2（灰白色2.5Y8/2釉をごく薄く施す）	太宰府分類 Ⅳ類
694	92	土製品	用途不明品	SX21	長径4.05　短径3.25	楕円球状に成形	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや不良　Cにぶい赤褐色5YR5/3～にぶい橙色5YR7/3	
695	92	磁器	白磁皿	SX22	②2.5＋α	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り　外底面は板状工具で釉をのばす	A所々に小さい隙間が見られる　B良好　C灰白色5Y7/1（灰白色N7/釉をごく薄く施す）	太宰府分類 Ⅸ類
696	92	磁器	青磁椀	SX22	②2.95＋α	見込みの釉を輪状カキ取り　外面に櫛目文　高台に重ね焼きの痕跡	A精良　Bやや良好　C浅黄橙色10YR8/3（黄褐色2.5YR8/3釉を薄く施す）	同安窯系青磁 太宰府分類 Ⅲ-2類
697	92	土師器	小皿	SX23	①(7.8) ②1.3 ③(6.9)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい赤褐色粒子を多量　雲母片を少量含む B良好　C橙色7.5YR6/6	
698	92	瓦器	椀	SX23	②1.95＋α ③(6.0)	磨耗の為調整不明	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C胎土はにぶい黄橙色10YR7/2　器壁中央は灰色N4/	
699	92	磁器	青磁椀	SX23	②1.3＋α		A精良　B良好　C灰白色N7/（オリーブ灰色10Y5/2釉を薄く施す）	同安窯系青磁か
700	92	磁器	白磁皿	SX23	②1.2＋α		A精良　B良好　C灰白色N8/（灰白色7.5Y7/2釉をごく薄く施す）	太宰府分類 Ⅴ類かⅥ類
701	92	石製品	石鍋	SX23	①(19.8) ②5.5＋α	削りによる成形	C灰色N6/	滑石製 鍔部以下に煤付着
702	95	土師器	小皿	SX24	①(7.8) ②1.25 ③6.0	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色7.5YR8/4	
703	95	土師器	杯	SX24	①(11.6) ②3.65 ③8.5	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色7.5YR8/3～にぶい橙色7.5YR7/3	
704	95	土師器	杯	SX24	①12.1 ②2.9～3.35 ③8.6	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色10YR8/4	
705	95	土師器	杯	SX24	①(12.0) ②2.85 ③(8.3)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色10YR8/4	
706	95	土師器	杯	SX24	①12.3 ②2.9 ③8.7	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色7.5YR8/4～灰褐色7.5YR5/2	
707	95	土師器	杯	SX24	①(13.0) ②2.85 ③(9.0)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4～褐灰色10YR5/1	
708	95	土師器	杯	SX24	①(14.25) ②3.1 ③8.8	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・赤褐色粒子・雲母片を多量に含む B不良　Cにぶい橙色2.5YR6/4～灰黄褐色10YR6/2	
709	95	磁器	青磁椀	SX24	②3.5＋α ③6.6	高台内露胎　外面に蓮弁文	A精良　B不良 C浅黄橙色7.5YR8/3（灰白色10YR8/2釉を薄く施す）	竜泉窯系青磁
710	95	土師器	小皿	SX26	①(7.4) ②1.1 ③(5.4)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4～橙色7.5YR6/6	
711	95	須恵質土器	こね鉢	SX26	②8.2＋α	内面に使用痕	A0.5～6.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰色5Y4/1	東播系
712	95	須恵質土器	こね鉢	SX27上層	②1.95＋α	ヨコナデ後不定方向ナデ	A細かい砂粒を多量に含む　B良好 C灰色N5/	東播系
713	95	陶器	甕類か	SX27上層	②1.7＋α	口縁部外面に施釉　回転ナデ	A0.5～3.0mm大の白色砂粒を多量に含む　B良好 C橙色5YR6/6（黒褐色5YR2/2釉をごく薄く施す 内面露胎部は暗黄褐色5YR3/3）	中国産か
714	95	瓦質土器	鍋	SX27上層	②3.7＋α	ハケ後ヨコナデ 口縁部上端に刻み目	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/4～黒褐色10YR3/1	
715	95	土師器	小皿	SX28	①9.15 ②1.8 ③6.45	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・赤褐色粒子を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4	
716	95	土師器	小皿	SX28	①9.65 ②1.85 ③6.9	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・赤褐色粒子を多量に含む　B良好 Cにぶい褐色7.5YR6/3～にぶい橙色7.5YR7/4	
717	95	土師器	杯	SX28	①(16.5) ②3.0 ③10.5	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・赤褐色粒子・雲母片を多量に含む　B良好　Cにぶい橙色7.5YR6/4	
718	95	土師器	高台付杯	SX28	②2.9＋α ③(10.0)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む　B良好　Cにぶい橙色7.5YR5/4～褐灰色7.5YR5/1	
719	95	瓦器	椀	SX28	①(16.6) ②6.4 ③(6.3)	内面にミガキ　体部外面中位に稜	A細かい砂粒を少量含む　Bやや不良　C器表面は灰白色2.5YR8/2～黒色N2/　器壁中央は黒色N2/	
720	95	土師器	小皿	SX29	①9.1　②1.05　③6.3	磨耗の為調整不明	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C灰黄褐色10YR6/2～にぶい黄橙色10YR6/4	
721	95	土師器	杯	SX29	①(15.8) ②2.75 ③9.0	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・赤褐色粒子を多量に含む　Bやや不良 C浅黄橙色7.5YR8/3	
722	95	磁器	白磁皿	SX29	①9.9 ②2.5 ③5.0	内面～外面体部下位まで施釉 削り出し高台	A精良　B良好　Cオイスター5Y7.5/1.0（フロストグレイ3G7.5/1.0釉を薄く施す）	太宰府分類 Ⅲ-2類
723	95	磁器	白磁椀	SX29	①17.65 ②7.05～7.3 ③5.85	口縁部～体部下位まで施釉 外面体部に削り　削り出し高台 口縁端部が屈曲	A所々に大小の隙間が見られる　B良好 C灰黄色2.5Y7/2（灰白色7.5Y8/1釉を薄く施す 全体に大小の貫入）	太宰府分類 Ⅴ類
724	95	土製品	塊土か	SX29	長さ5.2＋α 幅4.4＋α 厚さ2.0＋α	残存面に軟質のハケ状痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量含む　Bやや不良 Cにぶい褐色7.5YR5/4～にぶい黄橙色10YR7/4	
725	95	磁器	青磁椀	SX30	②3.8＋α	外面に蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色5Y7/1（灰オリーブ色7.5Y5/3釉を薄く施す 全体に細かい貫入）	竜泉窯系青磁
726	95	磁器	白磁椀	SX28～30	②2.0＋α ③(6.4)	内面～体部下位まで施釉 削り出し高台	A細かい黒色粒子を少量含む　Bやや良好　Cクリーム色2Y9.0/2（サロー5Y7.5/2.0釉を薄く施す）	太宰府分類 Ⅴ類か
727	95	土師器	高台付杯	SX28～30	①(18.0) ②4.2 ③(9.7)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面はヘラ切り痕か	A細かい砂粒を多量に含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
728	95	土師器	高台付杯	SX30	①(17.7) ②4.95 ③(9.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒・赤褐色粒子を多量に含む Bやや良好　C灰黄色2.5Y6/2～灰黄褐色10YR6/2	
729	95	瓦器	椀	SX30	①(16.4) ②5.5 ③(6.4)	磨耗の為調整不明	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C褐灰色10YR4/1～灰色5Y4/1	
730	95	瓦器	椀	SX30	①(17.0) ②5.8 ③(6.2)	内外面ミガキ 体部下位以下に指頭圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C黒褐色10YR3/1～灰白色2.5Y7/1	
731	95	土師器	小皿	SX31	②1.0＋α	磨耗の為調整不明	A細かい砂粒をやや多量に含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色5YR7/4～灰白色7.5Y8/2	
732	95	陶器	小盤	SX31	②3.1＋α ③(12.8)	内面に施釉	A細かい砂粒・茶色粒子を多量に含む　B良好　外表面は褐色7.5YR4/3　胎土は灰色N6/（灰黄色2.5Y7/2釉を薄く施す）	中国産
733	98	土師器	小皿	SX33	①(8.3) ②0.9 ③(6.1)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
734	98	土師器	小皿	SX33	①(8.6) ②1.3 ③6.5	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
735	98	土師器	小皿	SX34	①(7.75) ②1.2 ③5.5	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
736	98	土師器	小皿	SX34	①(8.6) ②1.25 ③(6.7)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
737	98	土師器	杯	SX34	①12.0 ②2.6 ③8.5	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色7.5YR7/3	口縁部の一部に煤付着
738	98	土師器	杯	SX34	①(13.5) ②2.4 ③(9.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
739	98	磁器	青磁椀	SX34	②4.8＋α	外面に蓮弁文	A精良　B不良　Cエクリュ8YR7.5/7.0（オリーブドラブ5Y4.5/2.0釉を薄く施す）	竜泉窯系青磁
740	98	瓦質土器	鉢	SX34	②5.8＋α	指頭圧後ナデ	A0.5～4.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰白色2.5Y8/1	
741	98	石製品	砥石	SX34	長さ9.0＋α 最大幅6.5 厚さ4.6＋α	3面の使用面残存	C黄灰色2.5Y6/1	砂岩製

遺物観察表14

742	98	土師器	小皿	SX36上層	①7.7 ②1.3 ③5.9	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4～にぶい褐色7.5YR5/3	
743	98	土師器	杯	SX36上層	①(12.8) ②2.35 ③(9.5)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C灰黄褐色10YR5/2～褐灰色10YR4/1	
744	98	土師器	皿	SX39	①(13.5) ②2.8 ③(9.3)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～4.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 C浅黄橙色10YR8/3	
745	98	陶器	鉢	SX39	②3.15＋α	ヨコナデ	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C褐灰色5YR5/1～灰褐色5YR5/2	中国産
746	98	陶器	鉢	SX39	②6.95＋α ③(17.0)	内面に使用痕	A0.5～4.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C内面は褐灰色10YR6/1　外面は褐灰色5YR4/1 底面は橙色7.5YR7/6	中国産
747	98	土師器	小皿	SX40	①(8.3) ②1.0 ③(6.8)	回転ナデ 見込み・底面不定方向のナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
748	98	土師器	杯	SX40	①12.85 ②2.55 ③9.3	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/3～灰黄色2.5Y7/2	
749	98	磁器	白磁皿	SX40	①(9.2) ②2.5 ③(5.05)	全面施釉後口縁端部を釉カキ取り	A精良　B良好　Cオイスター5Y7.5/1.0(ミストグリーン3GY7.5/2.0釉を薄く施す)	太宰府分類 IX-1 a類
750	98	磁器	青磁椀	SX40	②2.6＋α ③5.6	内面～高台外面まで施釉 量付けに4ヵ所の赤褐色部有り	A小さい隙間が見られる　B良好　C垂色4YR6.0/2.0 (ブロンズ5Y4.0/5.5釉を薄く施す)	竜泉窯系青磁か
751	98	磁器	青磁椀	SX40	①(16.0) ②5.1＋α	外面に鎬蓮弁文	A精良　B良好　C灰汁色5Y5.0/1.0(オリーブドラブ5Y4.5/2釉を薄く施す)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
752	98	陶器	甕	SX40	②6.4＋α	口縁部はヨコナデ　内面体部は当て具痕	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C明黄褐色2.5YR5/8(にぶい褐色7.5YR5/3釉をごく薄く施す)	中国産
753	98	須恵質土器	こね鉢	SX40	①(27.4) ②8.35 ③(11.3)	回転ナデ後内面にナデ　内面に使用痕　外面に指頭痕　外底面に回転糸切り後ナデ　口縁部に自然釉	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C灰色7.5Y5/1	東播系
754	98	土師器	小皿	SX41上層	①7.7 ②1.2～1.35 ③5.85	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
755	98	土師器	小皿	SX41上層	①(7.8) ②1.2 ③6.2	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
756	98	土師器	小皿	SX41上層	①8.1 ②1.35～1.6 ③6.4	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/4	
757	98	土師器	小皿	SX41下層	①(8.8) ②1.25 ③(7.2)	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片・赤褐色をやや多量に含む Bやや良好　C灰黄色2.5Y7/2	
758	98	土師器	杯	SX41上層	①12.8 ②2.65～3.0 ③9.3	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B良好 C浅黄橙色10YR8/4	
759	98	磁器	青白磁合子	SX41上層	①(8.4) ②1.35＋α	内面・外面体部上位に施釉　口縁部はヨコナデ　外面体部に菊弁文	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好　C灰白色7.5Y8/1(オリーブ灰色10Y5/2釉を薄く施す)	中国産
760	98	磁器	青磁椀	SX41上層	②4.2＋α	外面に蓮弁文	A精良　B良好　C灰白色N7/(灰オリーブ色7.5Y5/2 釉を薄く施す　全体に貫入)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-a類
761	98	磁器	青磁椀	SX41上層	②4.7＋α	外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 C灰色N6/(オリーブ灰色2.5GY6/1釉を薄く施す 全体に気泡が入る)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
762	98	磁器	青磁椀	SX41上層	②4.5＋α	外面に鎬蓮弁文	A精良　B良好　C灰白色N8/(緑灰色10GY6/1釉を 薄く施す　全体に気泡が入る)	竜泉窯系青磁 太宰府分類 II-b類
763	98	陶器	小盤	SX41上層	②2.8＋α	内面～口縁端部まで施釉 白化粧を施す　ヨコナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰色N6/～灰オリーブ色5Y6/2(灰白色7.5Y7/1釉 を薄く施す)	中国産
764	100	土師器	小皿	SX42上層	①(7.9) ②1.4 ③(6.2)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B良好 C淡赤橙色2.5Y7/4	
765	100	土師器	小皿	SX42上層	①(8.15) ②1.2 ③(6.4)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2～褐灰色10YR5/1	
766	100	土師器	杯	SX42下層	①11.3 ②2.7 ③7.85	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C浅黄橙色7.5YR8/4	
767	100	土師器	杯	SX42上層	①12.25 ②2.5 ③8.55	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好　Cにぶい橙色7.5YR7/4	
768	100	土師器	杯	SX42上層	①(12.5) ②2.7 ③9.7	見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を少量含む Bやや不良　C橙色5YR7/3	
769	100	土師器	杯	SX42下層	①(13.8) ②2.9 ③(10.0)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
770	100	磁器	青磁椀	SX42上層	②4.1＋α	残存部全体に施釉 口縁部がやや外反	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好　C灰白色 N7/(灰色10Y6/1釉をごく薄く施す　内面に貫入)	
771	100	磁器	青磁皿	SX42上層	②1.1＋α	底面以外に施釉　見込みに施文	A精良　B良好　C胎土は灰白色N8/　露体部は灰色7.5Y5/1(明オリーブ灰色5GY7/1釉を薄く施す 全体に気泡・貫入が入る)	竜泉窯系青磁
772	100	磁器	白磁椀	SX42下層	②3.1＋α ③(7.4)	内面～外面体部下位まで施釉　外面体部にヘラ削り　削り出し高台	A所々に小さい隙間　B良好　Cベージュ8YR7.5/2.0 (サロー5Y7.5/2釉を薄く施す)	
773	100	陶器	耳壺	SX42上層	②3.3＋α	回転ナデ	A細かい黒色粒子を多量に含む　B不良　C黄橙色 7.5YR7/8(黒褐色10YR3/1釉をごく薄く施す)	中国産 焼成不良の為釉の発色が悪い
774	100	陶器	鉢	SX42上層	①(21.3) ②5.9	内外面に施釉　回転ナデ 口縁部上端に目跡	A細かい白色砂粒を少量含む　B良好　Cテラコッタ 7R5.0/6.5(コーヒーブラウン8YR3.5/6.0釉をごく薄く施す)	中国産
775	100	石製品	砥石	SX42下層	長さ7.1＋α 幅5.5＋α 最大厚3.1	3面の使用面残存	C灰白色7.5YR8/1～淡赤橙色2.5YR7/4	砂岩製
776	100	石製品	砥石	SX42上層	長さ8.0 幅5.6＋α 厚さ2.8	5面の使用面残存	C黄灰色2.5Y6/1～5/1	砂岩製
777	100	土師器	小皿	SX43	①(7.85) ②1.1 ③6.2	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C灰黄褐色10YR5/2	
778	100	土師器	小皿	SX43	①(9.2) ②1.3 ③(6.7)	磨耗の為調整不明 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　Bやや不良 C橙色7.5YR7/6～灰白色10YR7/1	
779	100	磁器	白磁皿	SX43	②1.4＋α ③3.0	内面～外面体部中位まで施釉 回転ナデ　底面にヘラ削り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色5Y8/1(浅黄色5Y7/3釉をごく薄く施す 全体に細かい貫入)	
780	100	陶器	鉢	SX43	②3.6＋α	ヨコナデ	A細かい砂粒を多量に含む　B良好　C灰オリーブ色 5Y5/2～灰色N6/	中国産
781	100	瓦質土器	甕	SX43	②6.6＋α ③11.0	外面指頭圧後工具ナデ 内面ハケ　外底面に板状圧痕	A細かい砂粒を多量に含む　B良好　C器表面は灰色 N4/　胎土は灰色10Y6/1	
782	100	須恵質土器	こね鉢	SX43	②4.25＋α	回転ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C灰白色N7/ 口縁部外面は灰色N5/	東播系
783	100	須恵質土器	こね鉢	SX43	②4.1＋α	回転ナデ後内面に不定方向ナデ	A0.5～4.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰色N5/	東播系
784	100	須恵質土器	こね鉢	SX43	①(29.0) ②9.9 ③(13.3)	回転ナデ後内面に不定方向ナデ 見込みに使用痕	A0.5～5.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C灰白色N7/　口縁部外面は灰色N6/	東播系
785	103	土師器	小皿	SX45	①(8.0) ②1.1 ③(6.0)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
786	103	土師器	小皿	SX45	①8.5 ②1.3 ③6.6	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
787	103	土師器	高台付小皿	SX45	①8.3 ②2.25 ③7.25	回転ナデ	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好　C橙色7.5YR7/6	
788	103	土師器	高台付小皿	SX45	①8.6 ②2.1 ③6.8	磨耗の為調整不明 外底面にヘラ切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む Bやや不良　C橙色7.5YR7/6	

789	103	石製品	砥石	SX45	長さ10.3＋α 幅9.4＋α 厚さ1.9～2.75	3面の使用面残存	C灰色5Y5/1	砂岩製
790	103	磁器	壺か 合子	SX47	②9.0＋α ③(5.8)	内面に施釉 外面に菊弁文 貼付け高台か	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色5Y8/1（灰白色10Y7/1釉を薄く施す）	
791	103	磁器	青磁椀	SX47	①(15.8) ②5.55＋α	残存部全体に施釉 外面に蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰褐色7.5YR6/2（灰オリーブ色釉を薄く施す 全体に細かい貫入）	竜泉窯系青磁
792	103	土師器	杯	SX48	①12.5 ②2.7 ③9.0	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片・茶色粒子をやや多量に含む B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4～灰黄褐色5/2	
793	103	陶器	擂鉢	SX48	②2.5＋α	内面はナデ 外面体部下位はヘラ削り 5条1単位の擂目	A0.5～3.0mm大の白色粒子・黒色粒子を多量に含む B良好 C器表面は褐色7.5YR4/3～黒褐色7.5YR3/1 胎土は橙色5YR6/4～褐灰色5YR5/1	
794	103	土師器	小皿	SX49	①(8.6) ②0.9 ③(6.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を少量含む B良好 Cにぶい橙色10YR7/2～褐灰色10YR5/1	
795	103	土師器	小皿	SX49	①8.7 ②0.9～1.2 ③6.4	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好 C黄灰色2.5Y6/1～浅黄橙色10YR8/4	
796	103	土師器	小皿	SX49	①8.9 ②1.0 ③6.95	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・茶色粒子を多量に含む B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
797	103	土師器	小皿	SX49	①(8.9) ②0.9 ③(7.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片・赤褐色粒子をやや多量に含む B良好 Cにぶい橙色7.5Y7/3	
798	103	土師器	小皿	SX49	①(9.0) ②0.9 ③(6.5)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を少量含む B良好 Cにぶい橙色10YR7/2～褐灰色10YR5/1	
799	103	瓦器	皿	SX49	①(10.7) ②1.8 ③5.6	内外面ミガキ	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む Bやや良好 C灰色N4/	
800	103	瓦器	椀	SX49	①16.6 ②5.2＋α	回転ナデ 内外面ミガキ	A細かい砂粒をやや多量に含む Bやや良好 C灰白色N8/～暗灰色N3/	
801	103	瓦器	椀	SX49	①17.45 ②5.5～5.9 ③7.85	内外面ミガキ 体部下位以下は指頭圧	A0.5～3.0mm大の砂粒をやや多量に含む B良好 C灰白色N8/～暗灰色N3/	
802	103	磁器	白磁椀	SX49	②4.0＋α ③(5.4)	内面～体部下位まで施釉 体部下位に回転ヘラ削り	A細かい黒色粒子を多量に含む B良好 Cオイスター5Y7.5/1.0（油色5Y6.0/6.0釉を薄く施す）	太宰府分類 V類
803	103	磁器	白磁椀	SX49	①(16.8) ②3.9＋α	残存部全体に施釉	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 Cシルバーグレイ N7.5（オイスター5Y7.5/1.0釉を薄く施す）	太宰府分類 V類か
804	103	土製品	土壁か	SX49	長さ5.1＋α 幅4.7＋α 厚さ4.4＋α	圧痕面が2面	A0.5～3.0mm大の砂粒 植物（混和材）を多量に含む C橙色7.5YR7/6	スサ入り
805	103	石製品	碁石	SX49	長径2.95 短径2.45 厚さ1.1		C灰白色10Y8/1	石英製。11.35g
806	103	土師器	小皿	SX50	①8.2 ②1.15～1.35 ③6.6	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む Bやや良好 Cにぶい黄橙色10YR7/4～褐灰色10YR5/1	
807	103	土師器	小皿	SX50	①(8.4) ②1.2 ③(6.6)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片をやや少量含む B不良 C浅黄橙色7.5YR8/4～褐灰色10YR4/1	
808	103	土師器	高台付 小皿	SX50	①10.5 ②2.2～2.3 ③6.1	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 内外面にミガキ	A細かい砂粒をやや多量に含む Bやや不良 C暗灰色N3/～灰白色10YR8/2	
809	103	瓦器	椀	SX50	①(16.6) ②5.1～5.3 ③(7.1)	内外面ミガキ 体部下位は指頭圧	A細かい砂粒を少量含む B良好 C灰色N4/～灰白色5Y8/1	
810	103	瓦器	椀	SX50	①(16.6) ②5.35 ③(6.5)	内外面ミガキ 体部下位は指頭圧	A細かい砂粒・黒色粒子をやや少量含む B良好 C褐灰色10YR6/1～暗灰色N3/	
811	103	瓦器	椀	SX50	①16.35 ②5.0～5.75 ③ 6.05	内外面ミガキ 体部下位は指頭圧	A細かい砂粒・雲母片をやや少量含む B良好 C暗灰色N3/～灰白色N8/	
812	103	土師器	小皿	SX51	①(8.0) ②1.7 ③(6.8)	回転ナデ 外底面に糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む Bやや不良 C灰黄褐色10YR4/2～灰色5Y4/1	
813	103	土師器	小皿	SX51	①(9.5) ②0.95 ③(7.8)	見込みにナデ 外底面に糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む B不良 C灰白色10YR8/1	
814	103	磁器	青磁椀	SX51	②3.25＋α	残存部全体に施釉 外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子をやや多量に含む B良好 C灰白色N8/（オリーブ灰色10Y5/2釉を薄く施す 全体に気泡を含む）	竜泉窯系青磁 太宰府分類 Ⅱ-b類
815	103	磁器	白磁椀	SX51	②2.35＋α	残存部全体に施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を多量に含む B良好 C灰白色N8/（灰白色10Y7/1釉を薄く施す 全体に気泡を含む）	太宰府分類 Ⅸ類
816	103	鉄滓		SX51	長さ3.2 幅2.15 最大厚1.55		C灰色N4/	
817	109	磁器	青磁椀	SX52	②5.0＋α	残存部全体に施釉 外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色N7/（オリーブ灰色2.5GY6/1釉をやや厚く施す 全体に気泡を含む）	竜泉窯系青磁 太宰府分類 Ⅱ-b類
818	109	土師器	杯	SX55上層	①(12.0) ②2.95 ③(8.1)	回転ナデによる成形 底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好 C灰黄灰色10YR6/2～橙色7.5YR6/6	
819	109	磁器	青磁椀	SX55上層	①(14.8) ②5.1＋α	残存部全面に施釉 外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 Cねずみ色N5.5（オリーブグリーン3GY3.5/5.0釉を厚く施す 全体に気泡を含む）	竜泉窯系青磁 太宰府分類 Ⅱ-b類
820	109	磁器	青磁椀	SX57	②3.05＋α	残存部全体に施釉	A細かい黒色粒子をやや多量に含む B良好 C灰白色N8/（オリーブ灰色2.5GY6/1釉を薄く施す 全体に貫入）	
821	109	磁器	青磁椀	SX58	②2.3＋α	残存部全体に施釉 外面に蓮弁文	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 C灰白色10YR8/1（浅黄色2.5Y7/3釉を薄く施す）	竜泉窯系青磁
822	109	土製品	用途 不明品	SX58	長径5.45 短径5.0 厚さ1.1	表面に植物質圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む C灰黄褐色10YR6/2～橙色7.5YR6/6	
823	109	鉄製品	刀子か	SX58	長さ5.3＋α 幅1.1 厚さ0.35			
824	109	陶器	椀	SX60	②2.3＋α	全面施釉 見込み・外底面に目跡	A細かい砂粒・黒色粒子を多量に含む B良好 Cにぶい橙色5YR6/4（オリーブ灰色5GY5/1釉を施す 白化粧か）	朝鮮産
825	109	瓦質 土器	擂鉢	SX61	②8.0＋α	指頭圧による成形後ヨコナデ 8状1単位の擂目	A0.5～7.0mm大の砂粒・赤色粒子を多量に含む B良好 C灰色N6/～暗赤褐色2.5YR3/4	
826	109	土師器	小皿	SX62	①(9.0) ②1.05 ③(6.8)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の赤褐色粒子・暗灰色粒子をやや多量に含む B良好 C橙色5YR6/6	
827	109	土師器	小皿	SX62	①(8.6) ②1.15 ③6.6	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
828	109	瓦器	椀	SX62	①(16.6) ②5.6 ③(7.6)	内外面ミガキ	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む B良好 C灰色N4/～暗灰色N3/	
829	109	土師質 土器	鍋	SX64	②3.55＋α	内外面ハケ	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好 C明赤褐色5Y5/6	
830	109	土師器	小皿	SX68	②0.75	磨耗のため調整不明	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む B不良 C浅黄橙色10YR8/4	
831	109	土師器	小皿	SX68	②1.55	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む Bやや不良 C灰白色10YR8/2	
832	109	土師器	小皿	SX68	②1.5	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/2～黒褐色2.5Y3/1	
833	109	土師器	杯	SX68	①(11.2) ②2.65 ③(7.6)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒・雲母片・赤褐色粒子を多量に含む Bやや良好 Cにぶい橙色7.5YR7/3	
834	109	土師器	杯	SX68	①(12.3) ②2.45～2.5 ③7.8	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒をやや多量に含む Bやや不良 C灰黄褐色10YR6/2	
835	109	磁器	青磁椀	SX68（A区）	②1.5＋α ③(7.6)	底部は釉掻き取り	A精良 B良好 C灰汁色5Y5.0/1.0（スレートグリーン3G4.0/2.0釉をやや厚く施す 全面に貫入）	碁笥底

遺物観察表16

836	109	磁器	青磁椀	SX68(A区)	②3.2＋α ③5.7	外面に櫛目文 内面～外面体部下位まで施釉後見込みで蛇の目釉カキ	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cスカイグレイ3PB7.0/1.0(モスグリーン3GY5.5/5.5釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	同安窯系青磁
837	109	磁器	白磁椀	SX68	②2.75＋α	施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色　N8/(灰白色10YR8/1釉を薄く施す　全面に貫入)	太宰府分類 Ⅸ類
838	109	磁器	白磁椀	SX68	②2.6＋α ③3.8	内面～高台外面まで施釉 見込みに施文　削り出し高台	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N8/　露胎部は浅黄色5Y7/3(灰白色N8/釉を薄く施す)	枢府系白磁
839	109	陶器	天目椀	SX68	②1.9＋α	白化粧の上から褐釉施釉 その後口縁端部の釉拭き取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　C灰白色10YR8/2(暗オリーブ色7.5Y4/3釉を薄く施す)	中国産
840	109	土師器	ミニチュア土器	SX68	①(5.1) ②3.7 ③3.2	手づくね	A0.5～2.0mm大の砂粒・赤褐色粒子を多量に含む B良好　C橙色5YR6/8	
841	109	土師器	小皿	SX69	①(8.0) ②1.7 ③(6.4)	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・赤褐色粒子を少量含む　B良好 C浅黄橙色10YR8/4～褐灰色10YR5/1	
842	109	土師器	小皿	SX69	①(8.0) ②1.2 ③(6.4)	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　Bやや良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4	
843	109	土師器	小皿	SX70	①(8.4) ②1.2 ③(7.6)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B不良 Cにぶい黄橙色10YR6/4～橙色7.5YR6/6	
844	109	土師器	杯	SX70	①(12.6) ②2.7 ③(10.6)	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を多量に含む　B不良 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
845	109	磁器	青磁椀	SX70	②1.9＋α	外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好　Cねずみ色N5.5(灰汁色5Y5.0/1.0釉をやや厚く施す)	鷹見窯系青磁 太宰府分類 Ⅱ-b類
846	109	磁器	青磁椀	SX70	②4.0＋α	残存部全面施釉 内外面に櫛目文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cスカイグレー3PB7.0/1.0(モスグリーン3GY5.5/5.5釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	同安窯系青磁
847	109	土師器	小皿	SX71	①(7.0) ②1.95 ③(5.2)	回転ナデ　内面に指頭痕 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をやや少量含む　B不良 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
848	109	土師器	小皿	SX71	①(8.8) ②1.2 ③(7.2)	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む Bやや不良　Cにぶい橙色7.5YR6/4	
849	109	瓦器	椀	SX71	②4.95＋α ③(6.6)	体部中位以上は回転ナデ　体部下位以下は指頭圧　内外面にミガキ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰色N4/～灰白色N8/	
850	109	鉄滓		SX71	長さ5.2　幅4.6　厚さ2.5			
851	111	土師器	小皿	SX72	①(8.8) ②1.2 ③6.45	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2～にぶい橙色7.5YR7/4	
852	111	土師器	小皿	SX72(A区)	①(8.8) ②1.1 ③(6.4)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C灰白色10YR8/2	
853	111	土師器	小皿	SX72	①(9.2) ②1.3 ③(6.6)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・赤褐色粒子を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR7/6	
854	111	瓦器	小皿	SX72	①(9.3) ②1.4 ③(7.2)	回転ナデ後内面にミガキ 外底面に糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C器表面は暗灰色N3/　胎土は灰白色N8/	
855	111	瓦器	椀	SX72(B区)	①(16.3) ②4.1～4.7 ③5.7	内外面にミガキ　体部下位は指頭圧痕　底部に板状圧痕	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰色N4/～灰白色N7/	
856	111	瓦器	椀	SX72(B区)	①(16.5) ②5.3 ③(5.8)	内外面にミガキ	A0.5～3.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 C灰白色5Y7/1～黒色N2/	
857	111	瓦器	椀	SX72(B区)	①(16.8) ②5.3 ③(5.8)	内外面にミガキ 体部下位は指頭圧痕	A細かい砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰白色2.5Y7/1～灰色N4/	
858	111	瓦器	椀	SX72(B区)	①(16.6) ②5.35 ③6.4	内外面にミガキ 体部下位は指頭圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰白色7.5Y7/1～灰色N5/	
859	111	瓦器	椀	SX72(B区)	①17.1 ②5.6～6.0 ③7.35	体部下位に指頭圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C灰白色2.5Y8/1～灰色N4/	
860	111	磁器	白磁椀	SX72(A区)	①(15.5) ②3.4＋α	残存部全面に施釉　ヘラ削り	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色10Y7/1釉を薄く施す)	太宰府分類 Ⅳ類
861	111	磁器	白磁椀	SX72(B区)	①(17.5) ②7.0 ③(5.3)	内面から体部下位まで施釉 ヘラ削り	A0.5～2.0mm大の黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す)	太宰府分類 Ⅴ-4a類
862	111	磁器	白磁椀	SX72	①(17.4) ②5.6＋α	内面から体部下位まで施釉 ヘラ削り	A精良　B良好　C灰白色7.5Y7/1(灰白色7.5Y7/1釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	太宰府分類 Ⅴ類
863	111	磁器	白磁椀	SX72(A区)	②3.5＋α ③6.3	内面から体部下位まで施釉 ヘラ削り	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色10Y8/1釉を薄く施す)	太宰府分類 Ⅴ類
864	111	磁器	白磁椀	SX72(A区)	②5.05＋α ③6.7	内面から体部下位まで施釉 蛇の目釉掻き　ヘラ削り	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N8/(灰白色N8/釉を薄く施す	太宰府分類 Ⅴ類か
865	111	陶器	四耳壺	SX72	①(9.6) ②16.2＋α	回転ナデ　口縁部～胴部に施釉 口縁部上端に目跡	A0.5～2.0mm大の砂粒・黒色粒子をやや多量に含む B良好　C橙色5YR6/3～灰色10Y6/1(灰オリーブ色5Y6/2～黄色5Y7/6釉をごく薄く施す)	中国産
866	111	土師質土器	鍋	SX72	②9.15＋α	指頭圧後ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4～褐灰色7.5YR5/1	外面に煤付着
867	111	土師質土器	鍋	SX72	①35.6 ②7.6＋α	指頭圧後ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C器表面は褐灰色10YR4/1～黒褐色10YR3/1 胎土は橙色2.5YR6/8	
868	111	土製品	土壁か	SX72	長さ5.55 幅5.45＋α 厚さ3.6＋α	壁面屈曲　　内側に竹？の圧痕	A0.5～3.5mm大の砂粒・植物を多量に含む Cにぶい橙色7.5YR7/4～灰黄褐色10YR6/2	
869	111	鉄滓		SX72(A区)	長さ6.1 幅4.5 厚さ1.8			
870	113	弥生土器	壺	SD01(A区)	②2.65＋α	磨耗の為調整不明	A0.5～3.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/4	
871	113	石器	石核	SD01(B区)	長さ2.05 幅1.75 厚さ1.3		C黒色N1.5/	西北九州産黒曜石
872	114	須恵器	杯蓋	SD04(B区)1層	①(14.5) ②1.75 天井径(9.7)	天井部に回転ヘラ削り	A細かい白色砂粒・黒色砂粒を少量含む　B良好 C灰白色10YR7/1	
873	114	土師器	小皿	SD04(A区)2層	①7.1 ②1.4 ③4.8	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや良好 C浅黄橙色7.5YR8/4	
874	114	磁器	白磁椀	SD04(C区)1層	②5.4＋α ③6.8	外面体部下位まで施釉 見込みに蛇の目釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N8/(明緑灰色7.5GY8/1釉をやや厚く施す)	太宰府分類 Ⅷ類
875	114	磁器	白磁皿	SD04(C区)2層	②1.9＋α ③4.2	外面体部下位まで施釉 高台をアーチ状に抉る	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cスノウホワイト N9.5(リリーホワイト3G9.0/1.0釉を薄く施す	中国産 森田分類D群
876	114	磁器	青磁椀	SD04(A区)1層	①(14.9) ②6.6 ③4.3	外面体部下位まで施釉　内外面に櫛目文	A精良　B不良　Cにぶい黄橙色10YR6/4～灰黄褐色10YR6/2(灰白色10YR8/1釉をごく薄く施す)	同安窯系青磁 太宰府分類Ⅰ-1b類　二次焼成を受け釉が白色化している
877	114	磁器	青磁椀	SD04(A区)1層	①16.3 ②5.1 ③6.6	外面体部下位まで施釉 内外面に櫛目文・花文	A細かい黒色砂粒を少量含む　B良好　Cシルバーグレー N7.5(モスグリーン3GY5.5/5.5釉を薄く施す)	同安窯系青磁 太宰府分類 Ⅰ-1b類
878	114	陶器	椀	SD04(C区)1層	②1.85＋α ③(5.6)	全面施釉　量付け・見込みに目跡削り出し高台	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好　C灰白色7.5YR8/1(灰色味を帯びた透明釉を薄く施す)	朝鮮産
879	114	陶器	椀	SD04(C区)1層	①(10.5) ②3.5 ③(4.2)	全面施釉 見込み・量付けに目跡	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好　C灰白色10Y8/1(緑味を帯びた透明釉をごく薄く施す)	朝鮮産
880	114	陶器	椀	SD04(A区)2層	①(7.9) ②5.7＋α	外面胴部にハケによる白化粧 全面に透明釉	A0.5～2.0mm大の白色・黒色粒子を多量含む B良好　C灰色N7/(緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	朝鮮産
881	114	磁器	染付椀	SD04(A区)1層	②1.9＋α ③(5.8)	見込み・外面体部下位露胎　内外面施釉部との境に圏線巡らす。	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色10YR8/2浅黄橙色10YR8/3(灰白色5YR7/2釉を薄く施す)	漳州窯系
882	114	磁器	染付皿	SD04(B区)1層	②1.7＋α ③(3.4)	全面施釉後底部を釉カキ取り 碁笥底	A所々に小さい隙間が見られる　B良好　Cパールホワイト N8.5(青味を帯びた透明釉をやや薄く施す)	中国産

883	114	陶器	染付椀	SD04（A区）2層	①11.25 ②5.0 ③8.4	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 口縁部外面の一部に緑色釉	A精良　B良好　C生成色8YR9.0/1.0（やや黄味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産（17c後半） 呉器手椀
884	114	磁器	染付椀	SD04（B区）1層	①(10.4) ②7.0 ③4.8	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cアイボリホワイト5Y9.0/1.0（白味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産
885	114	磁器	染付皿	SD04（A区）1層	①13.8 ②3.25 ③4.8	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A精良　B良好　Cオイスター5Y7.5/1.0（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産（1610～40）
886	114	磁器	染付皿	SD04（B区）1層	①14.1 ②3.3 ③5.0	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 内面に瓜を描く	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cスノウホワイト N9.5（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産
887	114	磁器	染付皿	SD04（A区）2層	①13.3 ②3.6 ③5.5	全面施釉後畳付けを釉カキ取り 内面に瓜を描く	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 Cパールホワイト N8.5（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す　全面に細かい貫入）	肥前産（1630～40）
888	114	磁器	染付皿	SD04（A区）2層	①(13.4) ②2.8 ③(6.8)	全面施釉後畳付けを釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む B良好 Cシルバーグレイ N7.5（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す全面に細かい貫入）	肥前産（1650～70） 高台内面に砂付着
889	115	磁器	染付瓶	SD04（A区）2層	①6.1 ②16.15	外面施釉　内面口縁部に回転ナデ	A細かい茶色粒子を多量に含む　B良好　Cシルバーグレイ N7.5（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す）	肥前産
890	115	磁器	染付瓶	SD04（A区）2層	②8.7＋α ③6.3	外面施釉後畳付け釉カキ取り	A細かい茶色粒子を多量に含む　B良好　Cシルバーグレイ N7.5（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す）	肥前産　889と同一個体か
891	115	磁器	染付瓶	SD04（A区）2層	①5.65 ②12.9＋α	外面施釉	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好　Cスノウホワイト N9.5（やや青味を帯びた透明釉を薄く施す）	肥前産（1650～70）
892	115	磁器	白磁壷	SD04（C区）1層	②10.4＋α ③(9.0)	高台外面まで施釉 胴部下位にヘラ削り	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好 C灰白色N7/（やや緑味を帯びた透明釉を薄く施す）	
893	115	瓦質土器	火鉢か	SD04（A区）2層	②5.9＋α	口縁部上端面はミガキ 内外面胴部はハケ	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　Bやや良好 C外面は褐灰色7.5YR5/1　胎土は明褐灰色7.5YR7/2 器壁中央は褐灰色10YR6/1	
894	115	瓦質土器	鉢	SD04（B区）1層	②6.8＋α	内外面にハケ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/4～明黄褐色10YR7/6	
895	115	瓦質土器	鉢	SD04（A区）2層	①(27.0) ②4.4＋α	外面ハケ　内面工具ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C黒色7.5YR2/1～褐色7.5YR4/3	
896	115	陶器	大皿	SD04（A区）2層	①36.8 ②12.8 ③12.8	白化粧後一部拭き取り　緑色釉 鉄釉柄杓掛け後、透明釉施す 外面体部中位以下ヘラ削り	A0.5～3.0mm大の白色・茶色粒子を少量含む B良好　Cれんが色4YR4.0/6.0（やや白味を帯びた透明釉をごく薄く施す）	肥前産（17c第2～3四半期）
897	115	陶器	鉢	SD04（A区）2層	②6.7＋α	体部内面に飴釉施釉　外面に飴釉 ・灰色釉を柄杓掛け　回転ナデ	A細かい黒色砂粒を少量含む　B良好　C器表面はにぶい赤褐色5YR5/4　器壁中央は黄灰色2.5Y6/1	肥前産（17c前半）
898	116	陶器	擂鉢	SD04（A区）2層	①(31.6) ②14.1 ③11.6	口縁部に施釉　回転ナデ 外底面に回転糸切り痕 底部側面に目跡	A細かい白色砂粒を少量含む　B良好 C橙色5YR6/6～にぶい橙色5YR6/4（にぶい赤褐色5YR5/4釉をごく薄く施す）	肥前産
899	116	瓦質土器	火鉢	SD04（A区）2層	①37.0 ②36.1 ③(27.0)	内面ハケメ　外面ミガキ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 C浅黄橙色10YR8/3～8/4	
900	117	瓦質土器	火鉢	SD04（B区）1層	②9.0＋α	外面体部下位工具ナデ	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　Bやや良好 C外面は褐灰色10YR4/1　内面は灰白色10YR7/1～褐灰色10YR6/1　器壁中央は灰色N6/	
901	117	瓦質土器	壁	SD04BCベルト上層	①(26.9) ②8.6＋α	指頭圧後ハケ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/3～にぶい黄橙色10YR7/2	
902	117	瓦質土器	壁	SD04BCベルト上層	②19.1＋α ③(23.0)	指頭圧後ハケ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　B不良 C浅黄橙色10YR8/3～にぶい黄橙色10YR7/2	
903	117	土師質土器	鍋	SD04（A区）1層	①(48.0) ②13.9＋α	指頭圧後ハケ 口縁部上端面に刻み目状の圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒をやや多量に含む　Bやや良好　C内面はにぶい黄橙色10YR7/3～6/3　外面は黒褐色10YR3/1～黒色10YR1.7/1	
904	117	石製品	砥石	SD04（A区）1層	長さ10.95＋α 幅7.15＋α 厚さ4.7＋α	3面の使用面残存	C灰白色10YR8/1～浅黄橙色10YR8/4	石英粗面岩製
905	117	石製品	滑石か	SD04（A区）1層	長さ6.1＋α 幅6.6 厚さ2.4	削りによる成形	C黄灰色2.5Y6/1	滑石製 石鍋の転用か
906	117	土製品	土鈴	SD04（B区）1層	②7.25＋α 最大径6.5		A0.5～2.0mm大の黒色・黄褐色粒子を少量含む B良好　C浅黄橙色10YR8/3	
907	117	石製品	石錘（丸鞘）	SD04（B区）1層	最大長3.35 最大幅2.35 厚さ0.5	両面に3対の潜り孔	C明オリーブ灰色5GY7/1	蛇紋岩製か。7.2g
908	118	陶器	椀	SD05（B区）下層	①11.1 ②3.55 ③4.6	全面施釉　回転ナデ 見込み・畳付けに目跡	A0.5～2.0mm細かい白色・黒色粒子をやや多量に含む　B不良　C褐灰色10YR5/1～4/1	朝鮮産 焼成不良の為釉の発色が悪い
909	118	陶器	盤	SD05BC間ベルト下層	②2.95＋α	口縁部に施釉	A細かい砂粒・黒色粒子をやや多量に含む　B良好 C灰白色10Y8/1（オリーブ黄色5Y6/4釉を薄く施す全面に細かい貫入）	中国産
910	118	磁器	瓶類	SD05（B区）	②2.7＋α ③(9.2)	全面施釉 外面に施文　高台内に目跡	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N7/（灰オリーブ色7.5Y5/3釉を薄く施す全面に細かい貫入）	越州窯系青磁か
911	118	石製品	砥石	SD05	長さ7.95＋α 幅4.5＋α 厚さ3.25	2面の使用面残存	C褐灰色10YR6/1	砂岩製
912	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①6.4 ②1.5 ③4.1	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
913	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①6.6 ②1.3 ③4.0	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
914	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①(6.55) ②1.2 ③4.0	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2～6/4	
915	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①(6.2) ②1.65 ③(3.4)	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
916	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①(6.85) ②1.65 ③3.9	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2	
917	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①7.2 ②1.7 ③4.0	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 C灰黄色2.5Y7/2～黄褐色10YR5/6	
918	119	土師器	小皿	SD06（K区）(SD07)	①(7.4) ②0.85 ③(4.4)	回転ナデ後内外底面に不定方向ナデ	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C灰白色10YR7/1	
919	119	土師器	小皿	SD06（I区）(SD07)	①(7.0) ②1.7 ③4.35	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A0.5～3.0mm大の砂粒・雲母片を多量に含む B良好　Cにぶい黄橙色10YR6/4	
920	119	土師器	小皿	SD06（H区）上層	①7.4 ②1.2 ③6.0	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/4	
921	119	土師器	小皿	SD06（H区）上層	①7.5 ②1.5 ③6.3	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色7.5YR6/4	
922	119	土師器	小皿	SD06（G区）上層	①7.5 ②1.45 ③5.95	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 C浅黄橙色7.5YR8/4	
923	119	土師器	小皿	SD06（F区）上層	①7.85 ②1.45 ③5.35	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒をやや多量に含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
924	119	土師器	小皿	SD06（F区）上層	①8.0 ②1.6 ③5.8	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C浅黄橙色7.5YR8/3	
925	119	土師器	小皿	SD06（B区）下層	①8.15 ②1.2 ③6.1	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕	A細かい雲母片をやや多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
926	119	土師器	小皿	SD06（H区）上層	①(9.6) ②1.5 ③(7.8)	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
927	119	土師器	杯	SD06上層	①10.65 ②2.15 ③7.3	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　Bやや良好 Cにぶい橙色7.5YR7/3	
928	119	土師器	杯	SD06（H区）上層	①(11.8) ②3.0 ③(7.6)	回転ナデ後見込みにナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	

遺物観察表18

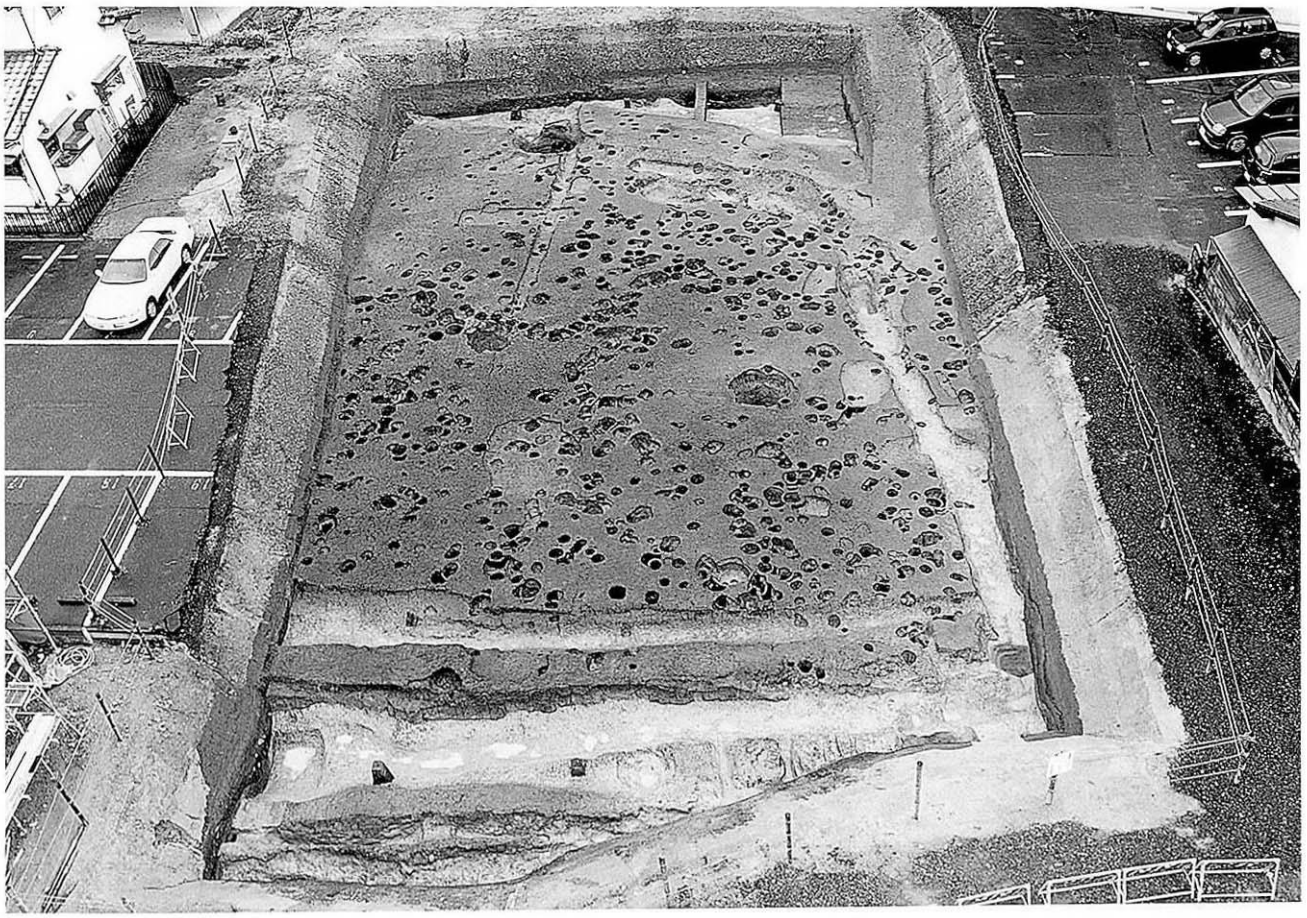
929	119	土師器	杯	SD06(H区)上層	①(11.8) ②2.8 ③(8.4)	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　Bやや良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
930	119	土師器	杯	SD06(H区)下層	①12.4 ②2.95 ③7.6	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
931	119	土師器	杯	SD06(A区)南側深部	①(12.4) ②3.0 ③8.2	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 C明褐灰色7.5YR7/2～にぶい黄褐色10YR7/3	
932	119	土師器	杯	SD06(H区)上層	①12.1 ②3.0 ③8.3	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
933	119	土師器	杯	SD06(G区)上層	①(12.6) ②3.7 ③8.4	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2～黄灰色2.5Y5/1	
934	119	土師器	杯	SD06(H区)上層	①(12.3) ②2.7 ③8.0	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
935	119	土師器	杯	SD06上層	①12.6 ②2.65 ③8.1	回転ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3～黄灰色10YR5/1	
936	119	土師器	杯	SD06(H区)上層	①(12.6) ②3.15 ③(8.7)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/2	
937	119	土師器	杯	SD06(G区)上層	①(12.6) ②2.65 ③(8.6)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～5.0mm大の砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3	
938	119	土師器	杯	SD06(G区)上層	①(13.3) ②2.1 ③8.85	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒をごく少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4～浅黄橙色10YR8/3	
939	119	土師器	杯	SD06(A区)南側深部	①(13.4) ②2.8 ③8.6	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片をごく少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/3～黄灰色2.5Y5/1	
940	119	土師器	杯	SD06(G区)	①12.7 ②3.3 ③9.2	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4～浅黄橙色10YR8/3	
941	119	土師器	杯	SD06ABベルト下層	①13.35 ②2.7 ③9.4	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C浅黄橙色7.5YR8/6	
942	119	土師器	杯	SD06下層	①11.6 ②3.1 ③6.9	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 C浅黄橙色10YR8/3	
943	119	土師器	杯	SD06(C区)	①(10.9) ②2.35 ③4.4	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 Cにぶい橙色7.5YR7/3	見込みに擬痕有り
944	119	磁器	青磁椀	SD06(J区)上層	②3.4＋α ③5.55	内面～高台外面まで施釉 外面に鎬蓮弁文	A細かい黒色粒子・白色粒子を少量含む　B良好 Cスカイグレイ3PB7.0/1.0　露胎部はれんが色4YR4.0/6.0(モスグリーン3GY3.5/5.5釉を薄く施す)	亀泉窯系青磁 太宰府分類　Ⅱ-b類
945	119	磁器	青磁皿	SD06(H区)上層	②2.3＋α ③5.8	内面～外面底部まで施釉 内面に草花文　底部は蛇の目凹底	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 Cシルバーグレイ N7.5　露胎部は灰白色5Y7/2(ミストグリーン3GY7.5/2.0釉を薄く施す)	
946	119	陶器	皿	SD06(F区)上層	①(10.8) ②3.05 ③(5.2)	全面施釉　回転ナデ 見込み・高台に目跡(砂目)	A細かい黒色粒子を多量に含む　B良好　C灰汁色5Y5.0/1.0(やや緑味を帯びた透明釉を薄く施す)	朝鮮産
947	119	磁器	青磁皿	SD06(A区)上層	①(11.7) ②3.5 ③(7.1)	全面施釉後見込み・高台内を蛇の目釉カキ　高台内に目跡	A細かい黒色粒子・白色粒子を少量含む　B良好 Cねずみ色N5.5(ろくしょう3G5.0/5.0釉を厚く施す)	
948	119	磁器	白磁皿	SD06(H区)上層	①(9.5) ②2.2 ③(4.6)	外面体部上位まで施釉後見込みを蛇の目釉カキ　外面体部以下はヘラ削り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cオイスター5Y7.5/1.0(サロー5Y7.5/2.0釉をやや薄く施す)	太宰府分類　Ⅲ-1類
949	119	磁器	白磁皿	SD06(B区)上層	①(10.2) ②2.15＋α	施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cパールホワイト N8.5(リリーホワイト3G9.0/1.0釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	太宰府分類　Ⅸ-1b類
950	119	磁器	白磁皿	SD06(B区)上層	①(10.4) ②2.4 ③6.2	施釉後口縁端部を釉カキ取り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cスノウホワイト N8.5(リリーホワイト3G9.0/1.0釉を薄く施す)	太宰府分類　Ⅸ-1b類
951	119	磁器	白磁皿	SD06(F区)上層	①(10.0) ②2.1＋α	外面体部上位まで施釉	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 Cページュ8YR7.5/2.0(ホワイトリリー3GY9.0/2.0釉を薄く施す　全面に細かい貫入)	
952	119	磁器	白磁椀	SD06(J区)上層	①(16.0) ②4.6＋α	残存部全面施釉 体部外面ヘラ削り	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cオイスター5Y7.5/1.0(やや黄味を帯びた透明釉を施す)	太宰府分類Ⅴ類かⅧ類
953	120	磁器	白磁椀	SD06(J区)下層	①10.0 ②3.2 ③3.5	全面施釉　体部下位ヘラ削り 見込み・高台に目跡(砂目)	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好　Cシルバーグレイ N7.5(やや白味を帯びた透明釉を施す)	朝鮮産
954	120	陶器	椀	SD06(K区)下層(SD07)	①(11.6) ②3.85 ③3.1	全面施釉　見込みに目跡	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 C灰白色2.5Y8/2(灰白色10Y7/1釉を薄く施す全面に細かい貫入)	朝鮮産
955	120	陶器	椀	SD06(C区)	②2.65＋α ③(4.8)	全面施釉　回転ナデ 見込みに目跡	A細かい白色・黒色粒子を多量に含む　B良好 C橙色7.5YR6/6(灰褐色5YR6/2釉をごく薄く施す)	朝鮮産
956	120	磁器	青白磁合子	SD06(B区)上層	①(5.3) ②1.65＋α	胴部上位に施釉　回転ナデ 外面に菊弁文	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cアイボリホワイト5Y9.0/1.0(ミストグリーン3GY7.5/2釉を薄く施す)	
957	120	磁器	青磁	SD06(K区)上層(SD07)	②4.75＋α	残存部全面施釉　透かし孔有り	A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 Cパールホワイト N8.5(ろくしょう3G5.0/5.0釉を厚く施す)	香炉か
958	120	磁器	染付椀	SD06(B区)下層	①(12.8) ②4.8＋α		A細かい黒色粒子をやや多量に含む　B良好 Cスノウホワイト N9.5(青味を帯びた透明釉をやや厚く施す)	中国産
959	120	磁器	染付皿	SD06(J区)(SD07)	①(10.5) ②1.75＋α		A細かい茶色粒子をごく少量含む　B良好 C灰白色N8/(やや青味を帯びた透明釉を施す)	中国産 小野分類染付皿B1群
960	120	磁器	注口部	SD06(H区)上層	②5.7＋α	注口部内外面に施釉	A細かい黒色粒子を少量含む　B良好 Cシルバーグレイ N7.5(青味を帯びた透明釉をやや厚く施す)	
961	120	陶器	鉢	SD06(B区)上層	②5.7＋α	回転ナデ	A細かい砂粒・茶色粒子を多量含む　B良好 C器表面は褐灰色7.5YR5/2　胎土は灰褐色7.5YR4/2	中国産
962	120	陶器	鉢	SD06(A区)上層	②2.8＋α	口縁部に施釉　回転ナデ	A0.5～5.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C胎土は褐灰色5YR4/1　器壁中央は灰白色N7/(にぶい赤褐色2.5YR4/3釉をごく薄く施す)	中国産
963	120	陶器	壺	SD06(A区)上層	①(15.4) ②3.4＋α	回転ナデ 口縁部内面に目跡	A細かい白色・黒色粒子をやや多量に含む　B良好 Cイエローオーカー8YR6.0/6.5(サロー5Y7.5/2.0釉をごく薄く施す)	中国産
964	120	陶器	壺	SD06(K区)上層(SD07)	①(14.0) ②3.1＋α	口縁部～頸部に施釉	A細かい砂粒・黒色粒子を多量に含む　B良好 C橙色2.5YR6/6(赤灰色2.5YR5/1釉をごく薄く施す)	肥前産
965	120	陶器	壺	SD06(H区)下層	①(15.7) ②2.8＋α	残存部全面施釉 口縁部上端面に目跡(貝目)	A細かい砂粒を多量に含む　B良好　Cすおう色10RP4.0/6.0(ブロンズ5Y4.0/5.5釉をごく薄く施す)	肥前産(16c末～17c初)
966	120	瓦質土器	蓋	SD06(A区)上層	①(16.6) ②2.4＋α	回転ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや良好 C胎土はにぶい黄橙色10YR6/4　器壁中央は灰色N4/	
967	120	瓦質土器	鉢	SD06(C区)	①(23.1) ②5.5 ③(14.8)	内面ナデ　外面ハケ	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好　C器表面は褐灰色10YR4/1～5/1　胎土はにぶい黄橙色10YR7/2 器壁中央は褐灰色10YR5/1	把手が付く
968	120	瓦質土器	鉢	SD06(B区)下層	①(24.3) ②5.75 ③(14.7)	内面ナデ　外面ハケ	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 C器表面は褐灰色10YR6/1～4/1　器壁中央は灰白色10YR8/2	
969	120	瓦質土器	鍋	SD06(H区)上層	①(26.8) ②8.4＋α	口縁端部はヨコナデ 内外面はハケ	A細かい砂粒を多量に含む　B良好　C器表面は黒褐色7.5YR3/1　胎土は明赤褐色2.5YR5/6	外面に煤付着
970	120	瓦質土器	鍋	SD06(C区)上層	①(30.0) ②11.2＋α	口縁端部はヨコナデ 内面はハケ　外面ナデ	A細かい砂粒・雲母片をやや多量に含む　B良好 C外面は褐色7.5YR4/3　内面はにぶい赤褐色5YR5/4	外面に煤付着
971	120	瓦質土器	鍋	SD06(C区)下層	①(34.1) ②12.2＋α	口縁端部はヨコナデ 内面はハケ　外面ナデ	A細かい砂粒・雲母片を多量含む　B良好 C器表面橙色5YR6/6　器壁中央明褐灰色7.5YR7/1	外面に煤付着
972	120	瓦質土器	鍋	SD06(G区)上層	②8.2＋α	内面ハケ　外面ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや良好 C橙色7.5Y6/6	外面に煤付着

973	120	瓦質土器	鍋脚部	SD06(A区)下層	②8.3＋α	指頭圧痕	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C器表面は暗灰色N3/　器壁中央は浅黄橙色7.5YR8/3	
974	121	須恵質土器	こね鉢	SD06(A区)上層	②3.8＋α	回転ナデ　口縁部外面に自然釉	A細かい白色砂粒・黒色粒子を少量含む　B良好 C灰白色N7/	東播系
975	121	須恵質土器	こね鉢	SD06(A区)上層	②2.4＋α	回転ナデ　口縁部外面に自然釉	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C灰色N7/	東播系
976	121	須恵質土器	こね鉢	SD06(A区)上層	②4.5＋α	回転ナデ　口縁部外面に自然釉	A0.5～3.0mm大の砂粒・黒色粒子を少量含む B良好　C灰白色N7/	東播系
977	121	陶器	擂鉢	SD06(G区)上層	①(28.0) ②5.7＋α	回転ナデ　口縁部外面に自然釉 擂目有り	A0.5～2.0mm大の砂粒をやや多量に含む　B良好 C灰色N5/　外面口縁部～体部上位は灰白色N7/	備前産
978	121	陶器	擂鉢(片口)	SD06(H区)下層	①(28.1) ②6.1＋α	回転ナデ　口縁部外面に自然釉 擂目有り	A0.5～3.0mm大の砂粒・黒色粒子を多量に含む B良好　C橙色5YR7/6　外面口縁部～体部上位は褐灰色5YR6/1	備前産
979	121	瓦質土器	擂鉢	SD06(B区)下層	②4.7＋α	擂目有り　内面ハケ 外面ハケ後ナデ	A0.5～2.0mm大の砂粒を少量含む　Bやや不良 C灰白色10YR8/1	
980	121	瓦質土器	鍋	SD06(J区)上層(SD07)	②5.7＋α	外面ハケ	A0.5～2.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや良好 C外面は灰褐色5YR4/2　内面は褐色7.5YR4/3	
981	121	瓦質土器	擂鉢	SD06(K区)下層	①(28.7) ②12.7 ③(17.0)	内外面にハケ 内面に使用痕・擂目有り	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや不良 C胎土は浅黄橙色10YR7/3～褐灰色10YR6/1 器壁中央は灰白色N7/	
982	121	瓦質土器	湯釜	SD06(L区)上層	①(19.0) ②5.9＋α	内面ハケ　外面ヘラミガキ 外面肩部に菱形のスタンプ文	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　Bやや良好 C器表面は褐灰色5YR4/2　胎土はにぶい橙色7.5YR7/4	
983	121	瓦質土器	火鉢脚部	SD06(G区)上層	②4.85＋α	磨耗の為調整不明 外面に沈線による施文	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む　B不良 C器表面は褐灰色7.5YR5/1　胎土は灰黄色2.5Y7/2 器壁中央は黄灰色2.5Y5/1	
984	121	瓦質土器	火鉢	SD06(F区)上層	②5.1＋α	内面はハケ後ナデ 外面はヘラミガキ 口縁部外面にスタンプ文	A0.5～4.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 C器表面は褐灰色10YR4/1　胎土は灰白色10YR8/1 器壁中央は褐灰色10YR5/1	
985	121	瓦質土器	火鉢	SD06(B区)下層	①(34.0) ②10.6＋α	指頭圧後内面～突帯部はナデ 突帯部以下はヘラミガキ	A細かい砂粒を少量含む　B良好　C器表面は灰色N4/～浅黄色2.5Y7/3　胎土は浅黄色2.5Y7/3 器壁中央は灰色N6/	
986	121	陶器	甕	SD06(B区)上層	②13.0＋α ③(13.2)	底部～体部にヨコナデ	A0.5～10.0mm大の砂粒・茶色粒子を多量に含む B良好　C灰褐色5YR5/2～明赤褐色2.5YR5/6(褐灰色5YR4/1釉をごく薄く施す)	
987	121	弥生土器	甕	SD06(K区)下層(SD07)	②5.5＋α	ヨコナデ	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR7/4～にぶい橙色7.5YR6/4	
988	122	石製品	石鍋	SD06(A区)下層	①(26.6) ②9.2＋α	削りによる成形	C灰白色N7/	外面に煤付着
989	122	石製品	砥石	SD06(H区)上層	長さ9.0＋α 幅3.5＋α 厚さ1.65＋α	3面の使用面残存	C灰色5Y6/1	砂岩製
990	122	石製品	砥石	SD06(B区)下層	長さ7.2＋α 幅3.1＋α 厚さ1.7＋α	2面の使用面残存	C暗灰色N3/	砂岩製
991	122	石製品	砥石	SD06(C区)	長さ4.8＋α 幅3.8 厚さ2.6＋α	3面の使用面残存	C灰白色N7/～灰色N6/	石英粗面岩製
992	122	石製品	砥石	SD06(I区)(SD07)	長さ6.3＋α 幅6.3＋α 厚さ1.5	2面の使用面残存	C灰色5Y6/1	砂岩製
993	122	石製品	砥石	SD06(G区)上層	長さ5.2＋α 幅5.9＋α 厚さ3.6＋α	3面の使用面残存	C灰色7.5Y6/1	片岩製
994	122	石製品	砥石	SD06(K区)(SD07)	長さ9.7＋α 幅6.2＋α 厚さ2.15	4面の使用面残存	C褐灰色10YR6/1～灰黄褐色10YR6/2	砂岩製
995	122	石製品	砥石	SD06(H区)上層	長さ8.5＋α 幅7.6 厚さ2.6	5面の使用面残存	C灰色5Y6/1	砂岩製
996	122	土師器	ミニチュア土器	SD06(K区)上層(SD07)	①3.25 ②4.1 ③2.4	手づくね	A細かい砂粒を少量含む　Bやや不良 Cにぶい黄橙色10YR6/3	
997	122	土製品	土錘	SD06(C区)上層	②2.1＋α		A精良　B不良 C灰白色10YR7/1～浅黄橙色10YR8/3	
998	122	石製品	碁石	SD06(A区)上層	長径1.9 短径1.6 厚さ0.5	表面を研磨	C灰色N6/	頁岩製。2.25g
999	122	石製品	碁石	SD06(B区)上層	長径2.3 短径1.65 厚さ0.9		C灰白色N6/	石英製
1000	122	鉄滓		SD06(A区)上層	長さ2.6 幅1.95 厚さ1.5		C黄灰色2.5Y5/1～暗灰黄色2.5Y5/2～黄褐色2.5Y5/3	重量11.85g
1001	122	鋼製品	用途不明品	SD06(F区)上層	②1.35＋α			
1002	122	石製品	用途不明品	SD06(M区)	長さ5.8＋α 幅2.65 厚さ1.6～3.35	削りによる成形	C灰色N6/～5/	滑石製　3区SE06出土444に似るが穿孔なし
1003	122	石製品	石皿丁	SD06(G区)下層	長さ3.9＋α 幅4.1 厚さ0.7	研磨	C暗紫灰色5RP3/1	輝緑凝灰岩製
1004	123	木製品	剣状木製品	SD06(I区)(SD07)	長さ18.3 幅0.5～1.55 厚さ0.5～0.8			
1005	123	木製品	人形か	SD06(J区)下層(SD07)	長さ10.5＋α 幅3.05＋α 厚さ0.4～0.6			墨痕？有り
1006	123	木製品	羽子板	SD04(B区)2層	長さ28.6 幅1.0～7.6 厚さ1.2	板部の基部はやや歪な二手切り 板部腐食		
1007	123	木製品	用途不明品	SD06(I区)下層(SD07)	長さ17.0 幅4.4 ②4.4	長方形に加工した芯持材を断面「コ」字形になるように刳り貫く		
1008	123	木製品	用途不明品	SD06	長さ43.5＋α 厚さ1.5 ②1.9～2.8	3ヵ所に凸状加工 長方形の穿孔(臍穴か)		家具・調度具の一部か
1009	124	石製品	板碑	SE02石組内	縦12.0＋α 横13.0＋α 厚さ14.15	表面に梵字		砂岩製
1010	124	石製品	板碑	SD04　1層下部	縦15.3＋α 横15.1 最大厚9.3	表面に梵字		砂岩製
1011	124	石製品	茶臼(下臼)	SE02上中層	擂目面半径9.0 ②12.7 受皿径13.7＋α		C灰白色5Y7/1	凝灰岩製
1012	124	石製品	茶臼(下臼)	SD06(C区)上層	擂目面半径8.0＋α ②7.7＋α	磨耗の為擂目がほぼ消滅	C灰白色5Y7/2	凝灰岩製
1013	124	石製品	粉挽臼(下臼)	SE02石組内	半径15.8 厚さ6.0	表裏面に擂目有り	C灰白色5Y7/1	砂岩製
1014	124	石製品	粉挽臼(上臼)	SD04(B区)2層	半径14.6＋α ②9.9～11.6	磨耗の為擂目がほぼ消滅 側面に加工痕	C灰色7.5Y5/1	砂岩製
1015	124	石製品	粉挽臼(上臼)	SD04BCベルト上層	半径10.95＋α ②4.3～7.2		C灰色5Y5/1	凝灰岩製
1016	125	瓦	平瓦	SD04(C区)1層	厚さ(1.5)	目の細かい斜格子叩き後縦ナデ 凹面は一部に布目圧痕残存	A0.5～5.0mm大の砂粒を含む　B良好 C灰白色5Y8/1	側端面には分割界面が残る。凸面に粘土片が融着か　凹面布目圧痕は突出した部分のみ明瞭。
1017	125	瓦	丸瓦	SD04(C区)1層	厚さ(1.3)	縦ナデ後目の細かい正格子叩きまばらに分布　凹面は目の粗い布目圧痕	A0.5～5.0mm大の砂粒を含む　B良好 C灰白色2.5Y8/2	側端面には分割界面が残る
1018	125	瓦	平瓦	SD04(D区)上層	厚さ(1.7)	目の大きい斜格子叩きまばらに分布　凹面は布目圧痕上にまばらな斜め方向のナデ	A0.5～5.0mm大の白色砂粒多く含む　Bやや不良 C灰白色7.5Y8/1	側端面には分割界面が残る
1019	125	瓦	丸瓦	SX03	厚さ(2.1)	目の粗い縄叩き後横ナデ 凹面に布目圧痕	A0.5～8.0mm大の白色砂粒多く含む　B不良 C一部は橙色2.5YR　他部は灰白色10YR8/2	玉縁顎面は粘土で補充し成形

遺物観察表20

1020	125	瓦	丸瓦	SX03	厚さ(2.0)	目の大きい斜格子叩きまばらに分布　凹面に目の粗い布目圧痕	A0.5～2.0mm大の白色砂粒多く含む　B良好 C灰色N7/	側端面には分割界面が残る
1021	127	土師器	杯	SP100	①13.8 ②2.9 ③9.5	磨耗の為調整不明 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～2.0mmの砂粒をやや多量に含む　Bやや不良 C浅黄橙色7.5YR8/4～にぶい橙色7.5YR7/3	
1022	127	土師器	杯	SP318	①12.8 ②2.7 ③9.45	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 C橙色7.5YR6/6	
1023	127	土師器	小皿	SP681	①9.0 ②1.3 ③6.8	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR7/3～橙色2.5YR6/6	
1024	127	土師器	小皿	SP681	①(10.2) ②1.25 ③8.3	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒を少量含む　Bやや良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4	
1025	127	瓦器	椀	SP681	①16.4 ②5.2 ③7.35	回転ナデ後ミガキ 高台内に指頭圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　Bやや不良 C灰色5Y5/1～暗灰色N3/	
1026	127	土師器	小皿	SP279	①8.2 ②1.35 ③6.2	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい黄橙色10YR6/3	
1027	127	土師器	小皿	SP279	①8.4 ②1.55 ③6.25	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
1028	127	土師器	小皿	SP279	①8.4 ②1.65 ③6.7	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A0.5～3.0mm大の砂粒を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4	
1029	127	土師器	小皿	SP279	①8.85 ②1.65 ③6.8	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A0.5～4.0mm大の砂粒・雲母片を少量含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR6/4	
1030	127	土師器	杯	SP279	①(13.0) ②2.35 ③(9.8)	回転ナデ後見込みに不定方向ナデ 外底面に回転糸切り痕・板状圧痕	A細かい砂粒・雲母片を少量含む　B良好 C橙色7.5YR6/6	
1031	127	土師器	杯	SP279	①(12.45) ②3.1 ③8.5	回転ナデ　外底面に回転糸切り痕	A細かい砂粒・雲母片を多量に含む　B良好 Cにぶい橙色7.5YR7/4	
1032	127	磁器	白磁 合子	SP677・678	①(7.7) ②1.5 天井径(6.0)	内外面天井部・体部外面に施釉 回転ナデ　型打ちによる施文	A精良　B良好　Cスノウホワイト N9.5 (リリーホワイト3G9.0/1.0釉を薄く施す)	
1033	127	石製品	暴石	SP270	長径1.95 短径2.0 厚さ0.65		C暗灰色N3/	頁岩製。3.75g
1034	127	石製品	暴石	SP435	長径1.95 短径1.7 厚さ0.8		C灰白色2.5Y8/1	石英製。3.8g
1035	127	石製品	暴石	SP456	長径2.1 短径1.85 厚さ1.05		C灰白色2.5Y8/1	石英製。5.25g

図　　版

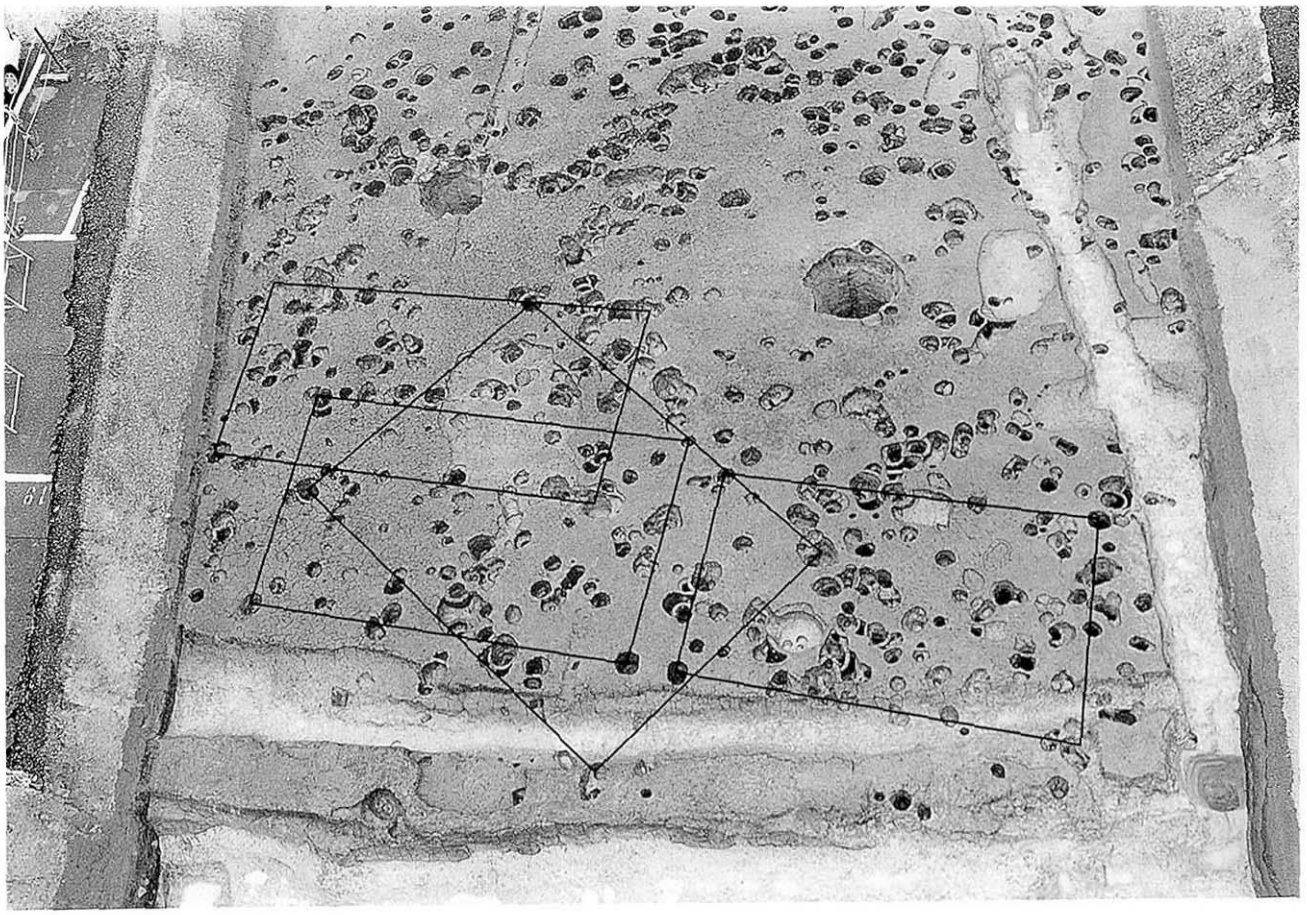


（1）1区　調査区全景（南西から）



（2）1区　SB01・03・04（北東から）

図版 2



（1） 1区　SB06～08・10（南西から）



（2） 1区　SD03～07（南東から）



（1）1区　SE01
完掘状況
（西から）



（2）1区　SE02
遺物出土状況
（東から）



（3）1区　SE02
完掘状況
（東から）

図版 4



（1）1区　SE03
井筒検出状況
（北から）



（2）1区　SE03
井筒完掘状況
（北から）



（3）1区　SX05
完掘状況
（北から）



（1）1区　SX06
完掘状況
（東から）



（2）1区　SX11完掘状況（北から）



（3）1区　SX22完掘状況（北東から）

図版 6



（1）1区　SX10
完掘状況
（北東から）



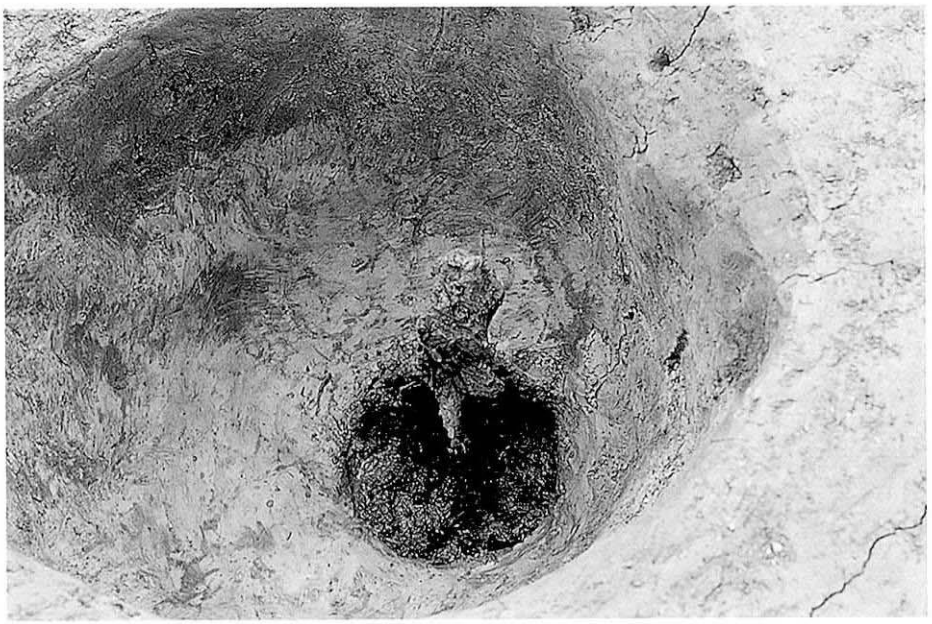
（2）1区　SD03･05
土層観察状況
（南東から）



（3）1区　SD06
土層観察状況
（南東から）



（1）1区　SD07
土層観察状況
（南東から）

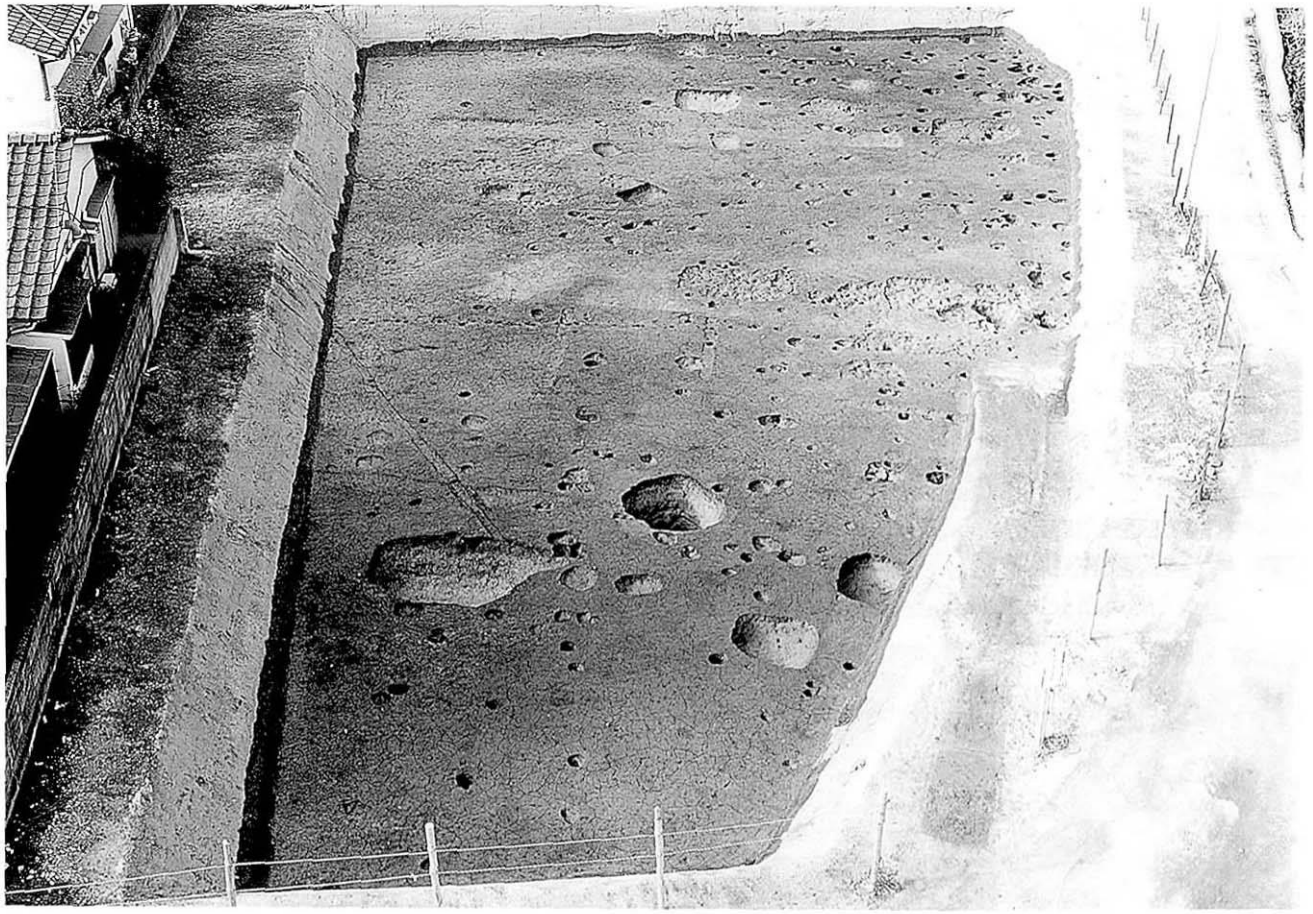


（2）1区　SP357
（SB 10）
柱材検出状況
（北東から）

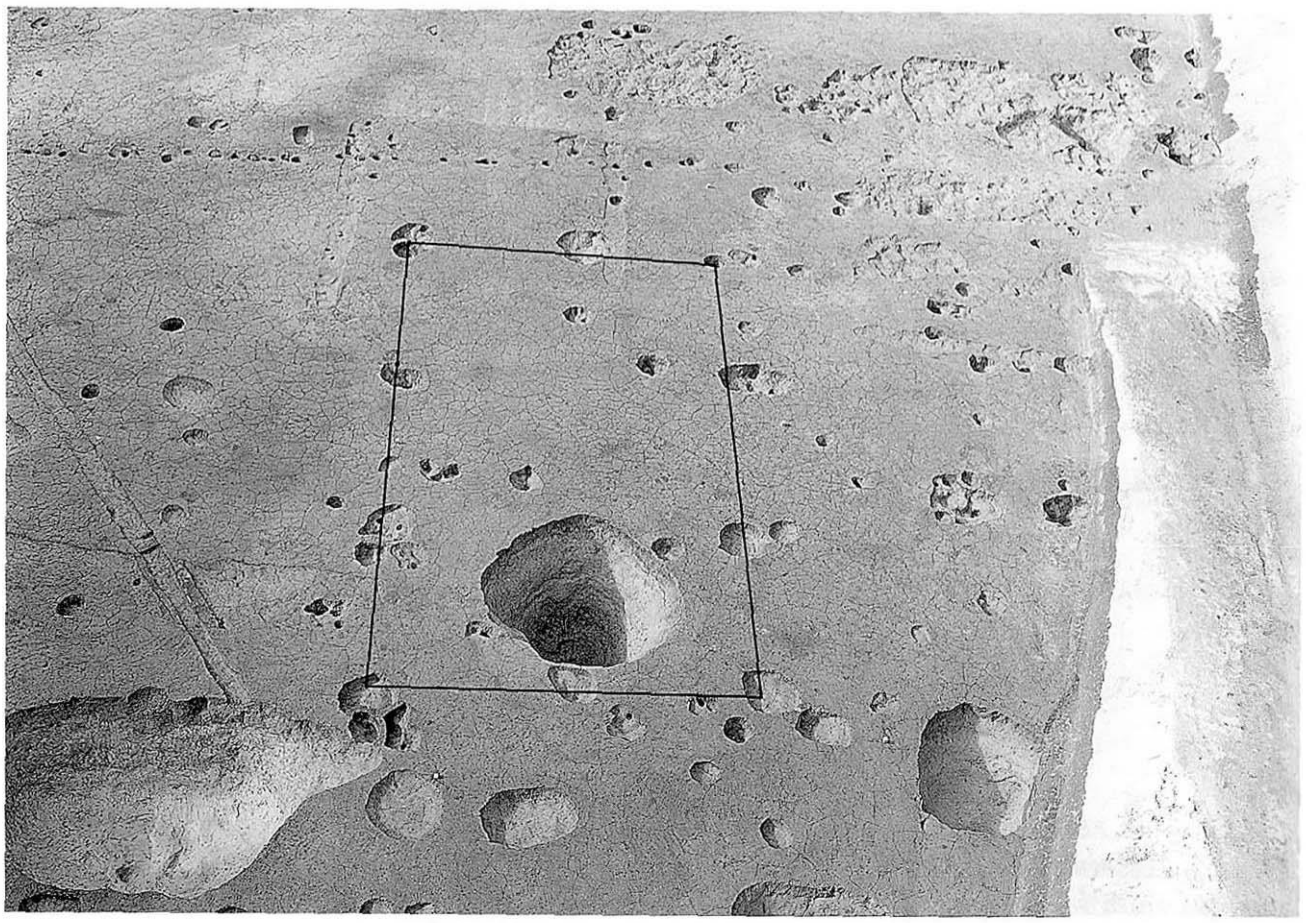


（3）1区　SP552
柱材検出状況
（南西から）

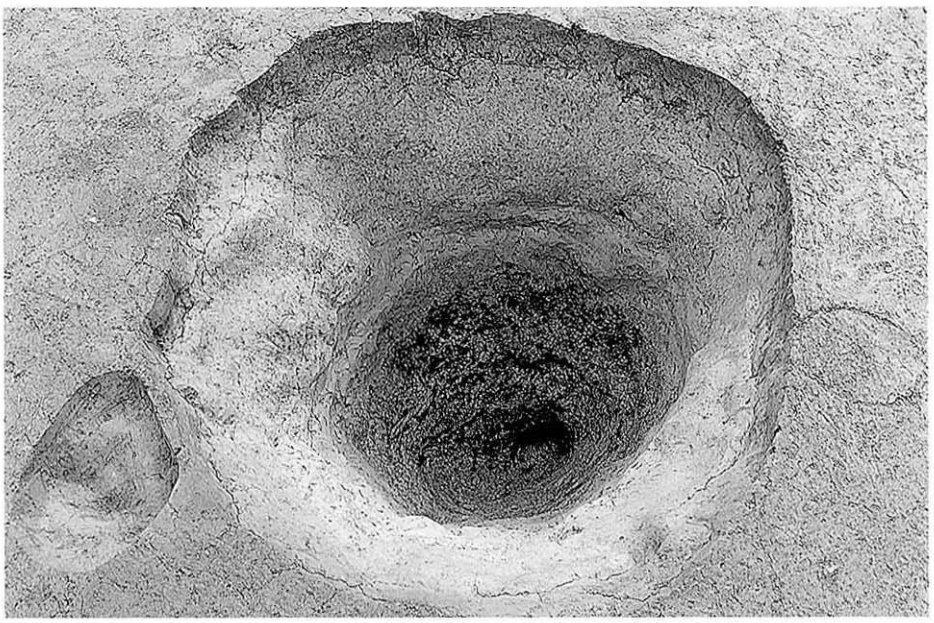
図版 8



（1） 2区　調査区全景（北東から）



（2） 2区　SB01完掘状況（北東から）



（1） 2区　SE01
完掘状況
（北から）

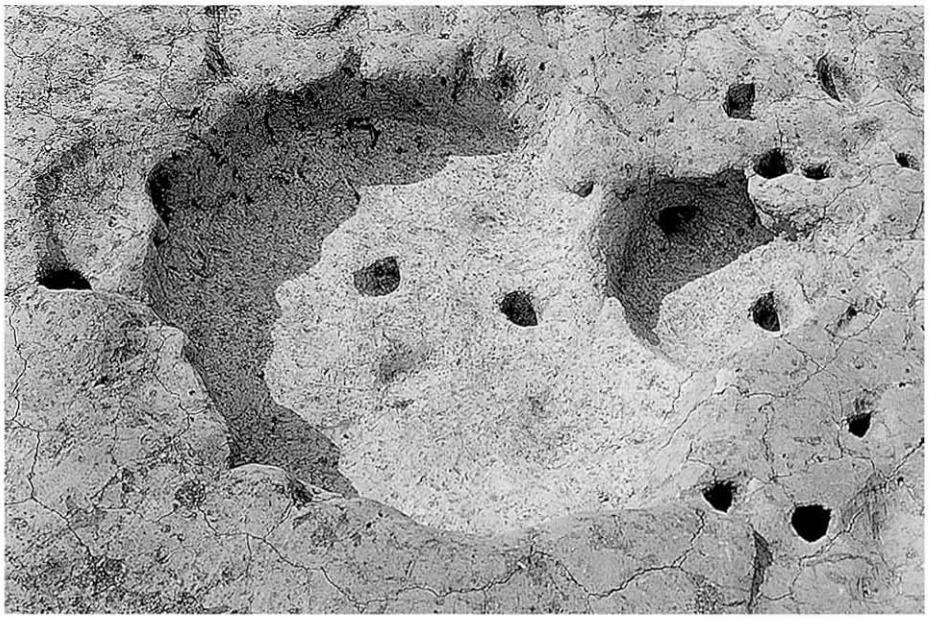


（2） 2区　SX06
完掘状況
（東から）

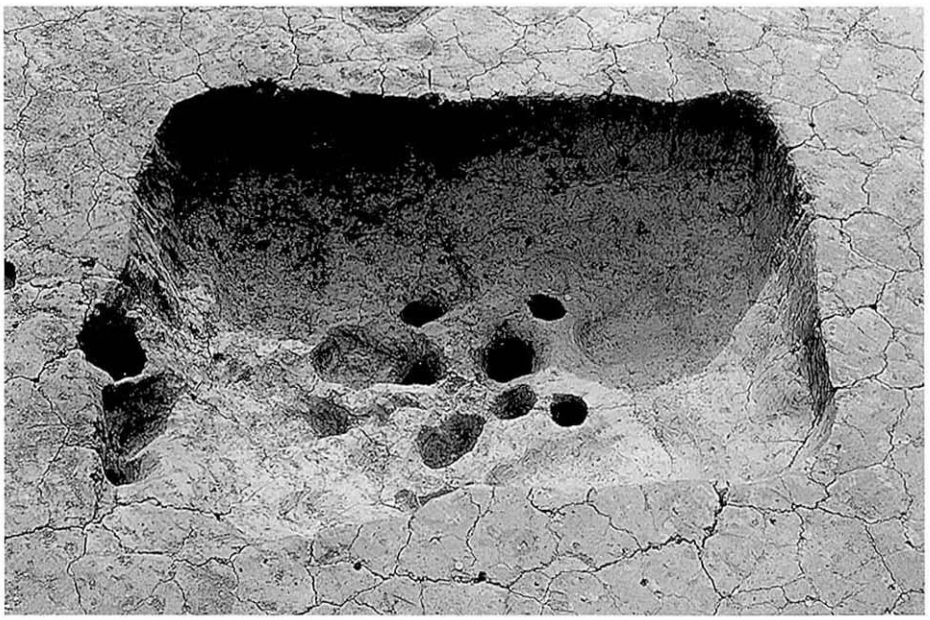


（3） 2区　SX07
完掘状況
（東から）

図版10



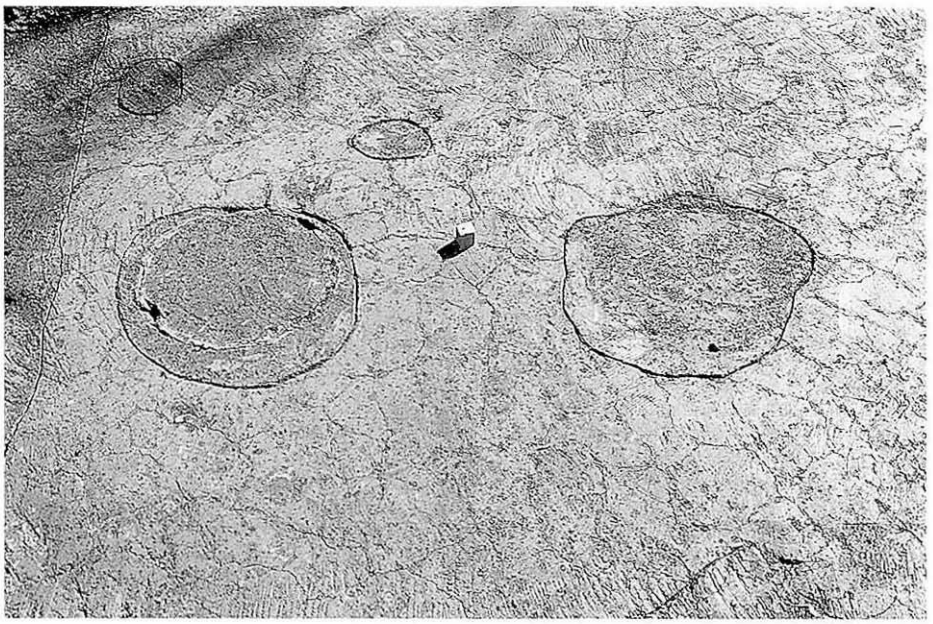
（1） 2区　SX10
完掘状況
（北東から）



（2） 2区　SX16
完掘状況
（北から）



（3） 2区　SX17
完掘状況
（西から）



（1） 2区　SX08・20
検出状況
（北西から）

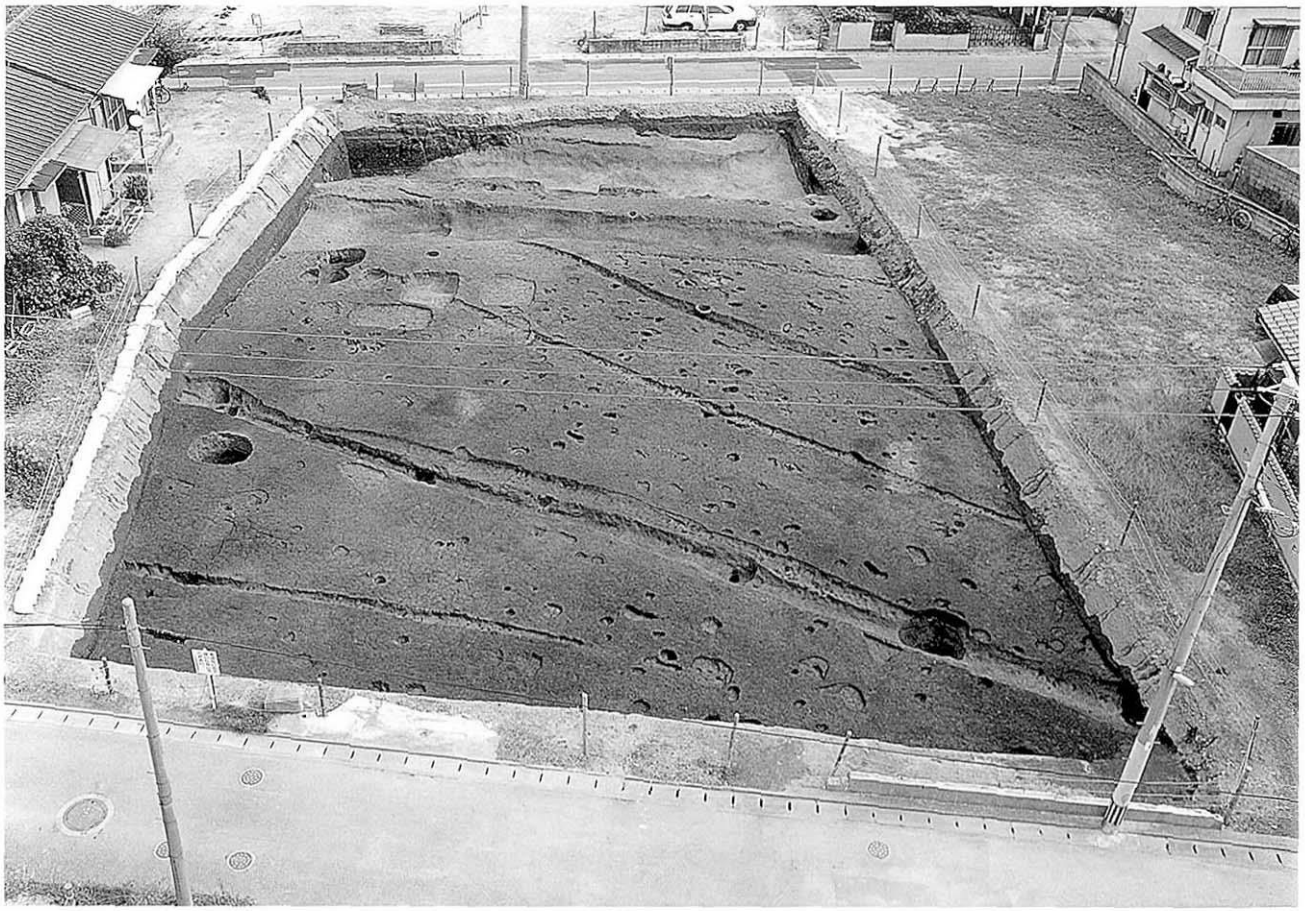


（2） 2区　SX08・20
遺物出土状況
（北西から）

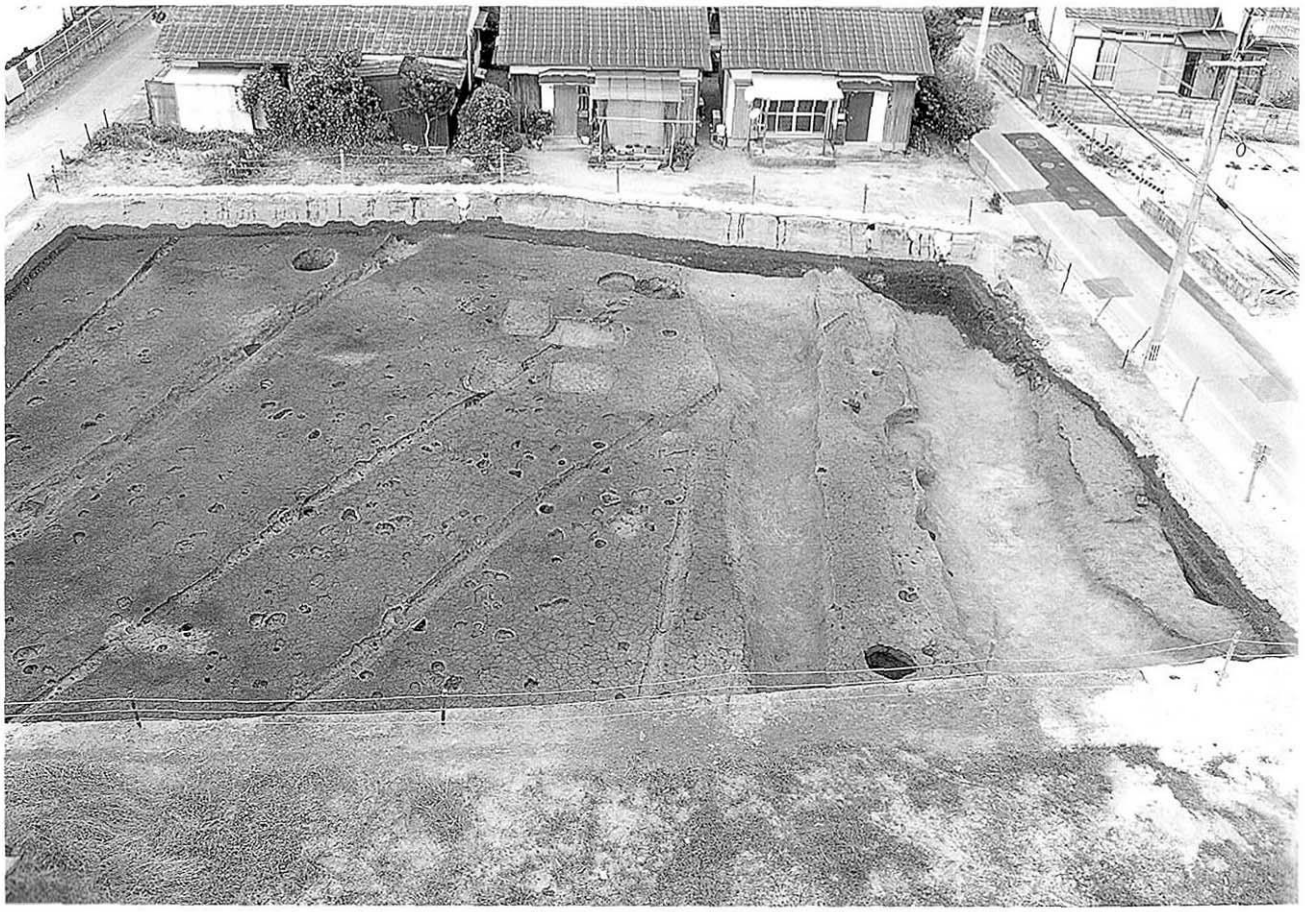


（3） 2区　SX08・20
完掘状況
（北西から）

図版12



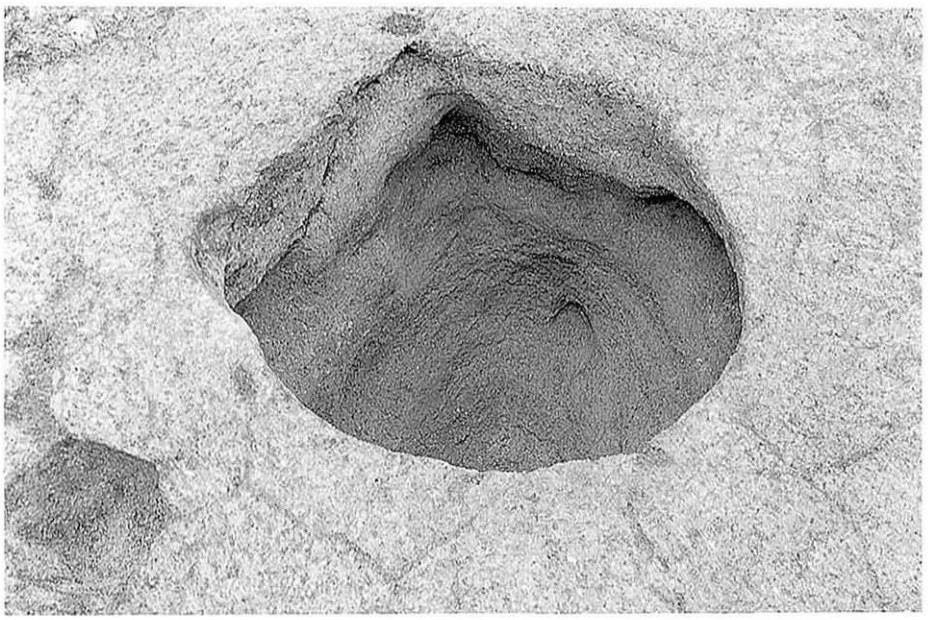
（1）３区　調査区全景（南西から）



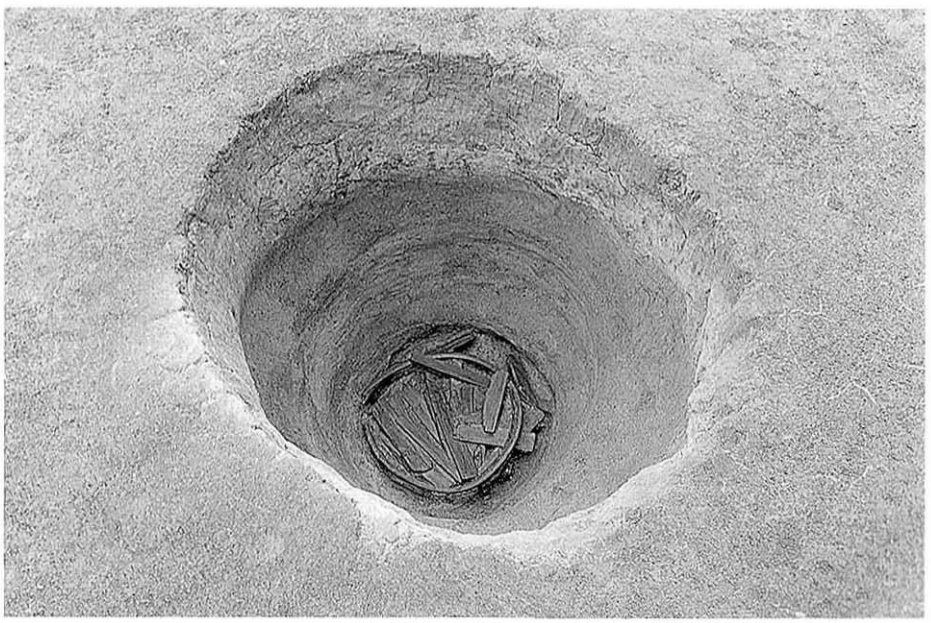
（2）３区　全　景（南東から）



（1）3区　SE01
完掘状況
（南西から）



（2）3区　SE02
完掘状況
（北から）



（3）3区　SE03
井筒部材出土
状況（北東か
ら）

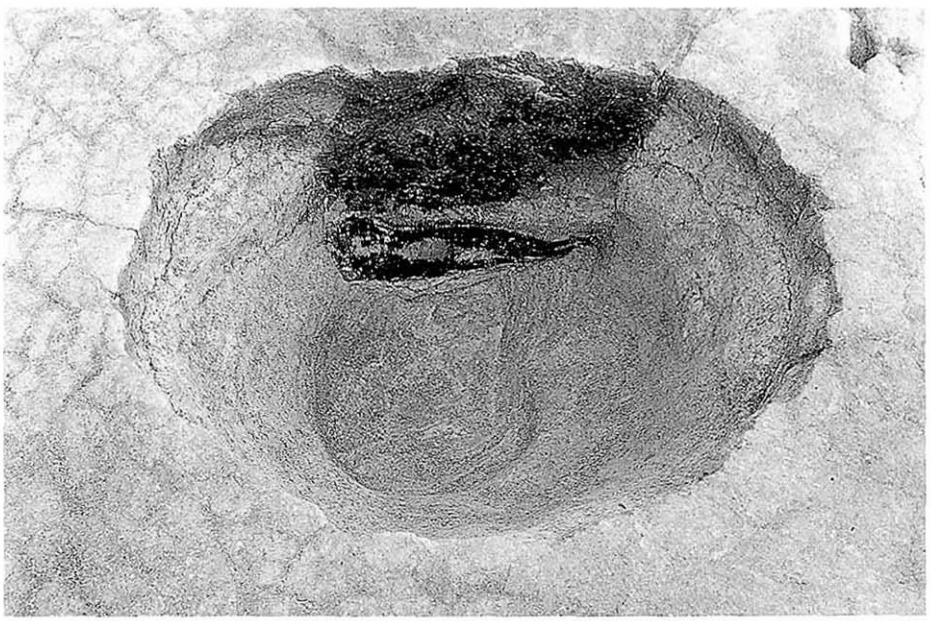
図版14



（1） 3区　SE03
完掘状況
（北東から）



（2） 3区　SE04
遺物出土状況
（南から）



（3） 3区　SE04
完掘状況
（南西から）



（1）3区　SE05
完掘状況
（南から）



（2）3区　SE06
完掘状況
（北西から）



（3）3区　SX01
茶臼出土状況
（西から）

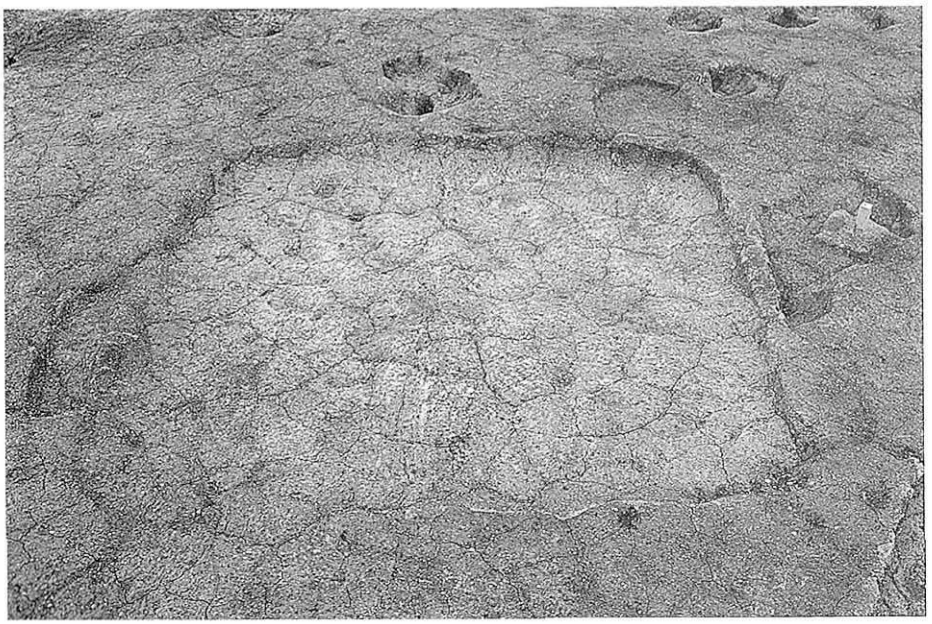
図版16



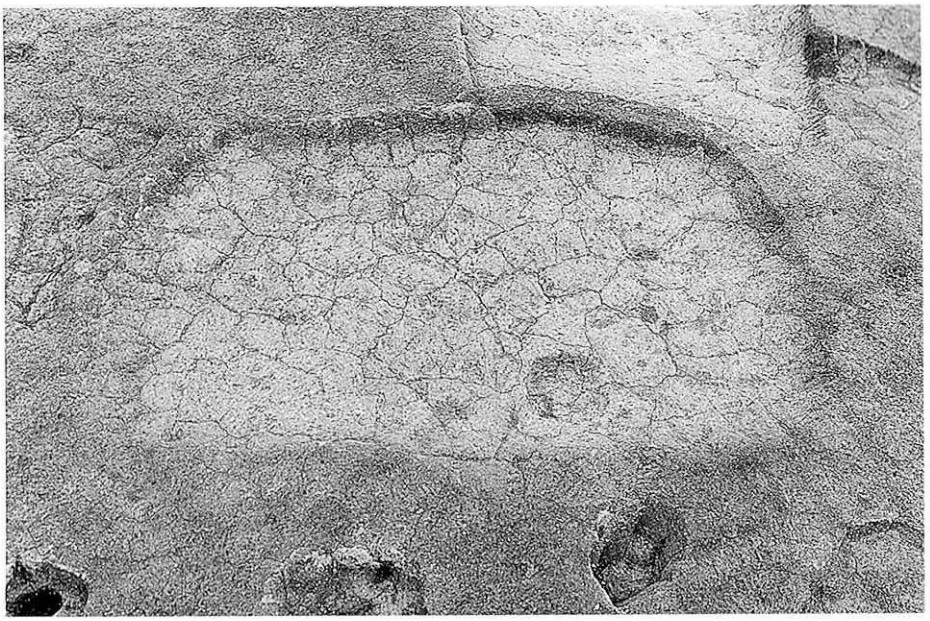
（1） 3区　SX01
完掘状況
（南から）



（2） 3区　SX04
完掘状況
（西から）



（3） 3区　SX05
完掘状況
（南から）



（１） ３区　SX07
完掘状況
（南西から）

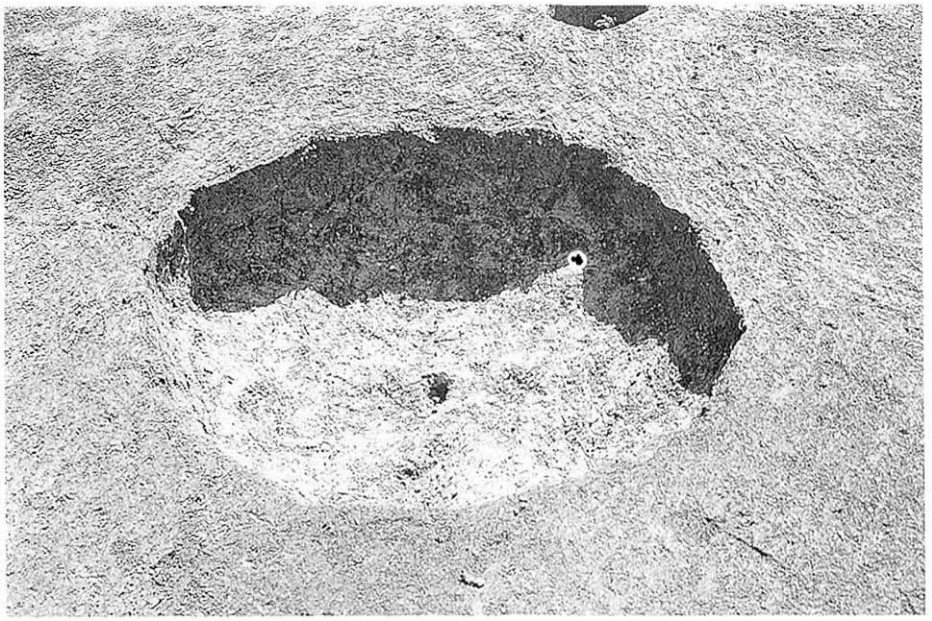


（２） ３区　SX08
完掘状況
（北から）



（３） ３区　SX09
完掘状況
（北西から）

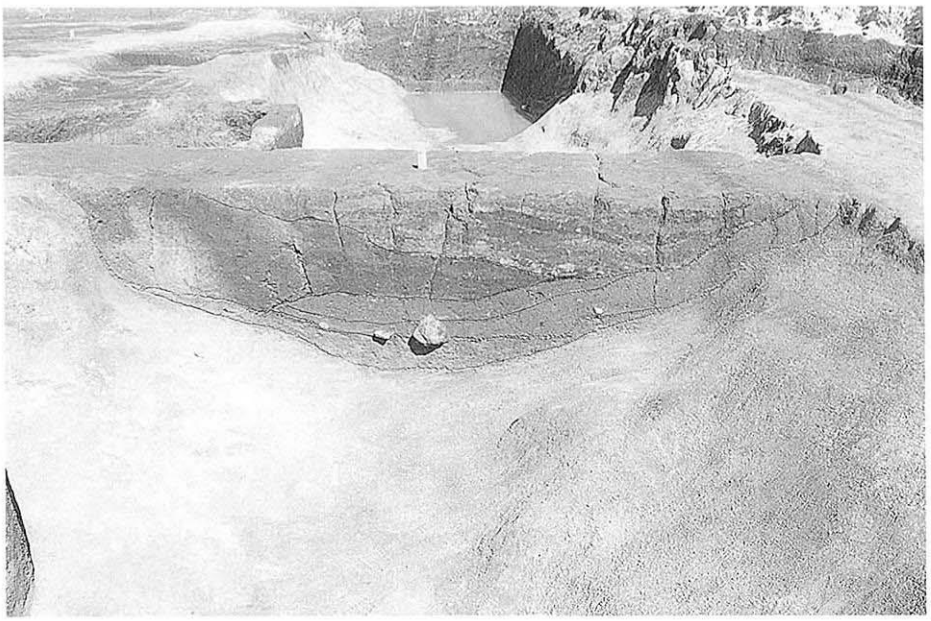
図版18



（1） 3区　SX17
完掘状況
（北から）



（2） 3区　SP01
鉄製品出土状況
（東から）



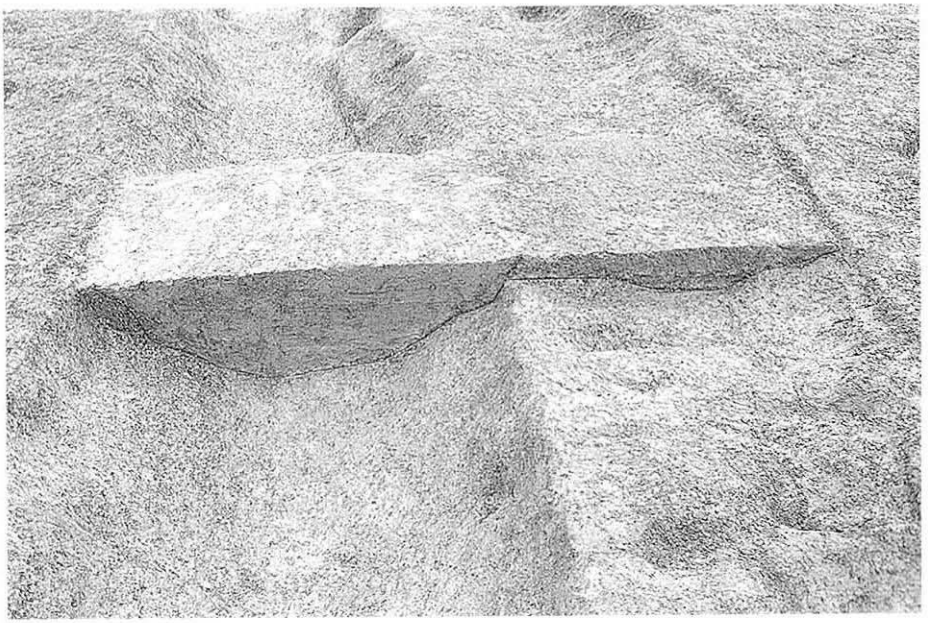
（3） 3区　SD01
土層観察状況
（南東から）



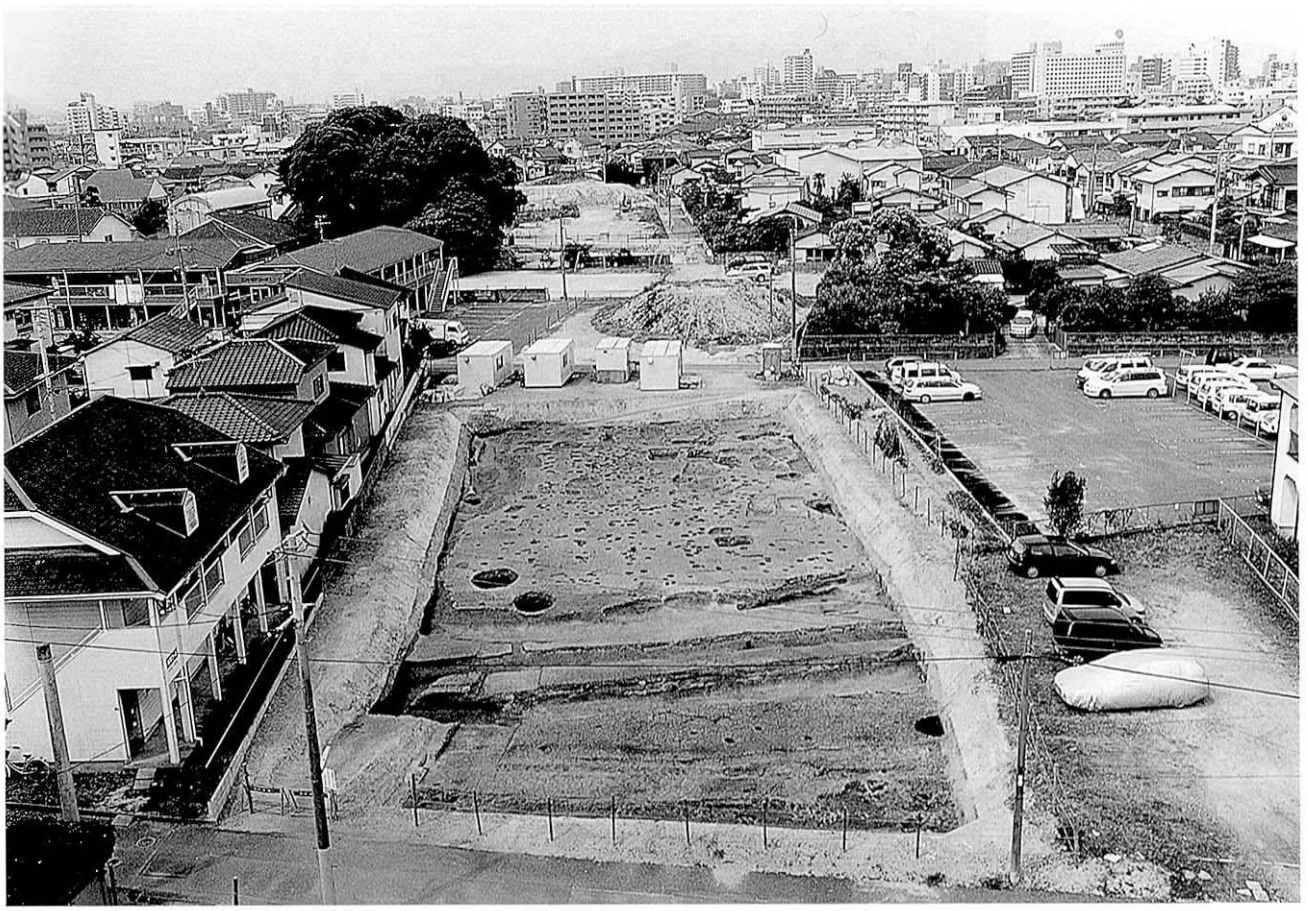
（1） 3区　SD03
下駄・鯨骨出
土状況
（北から）



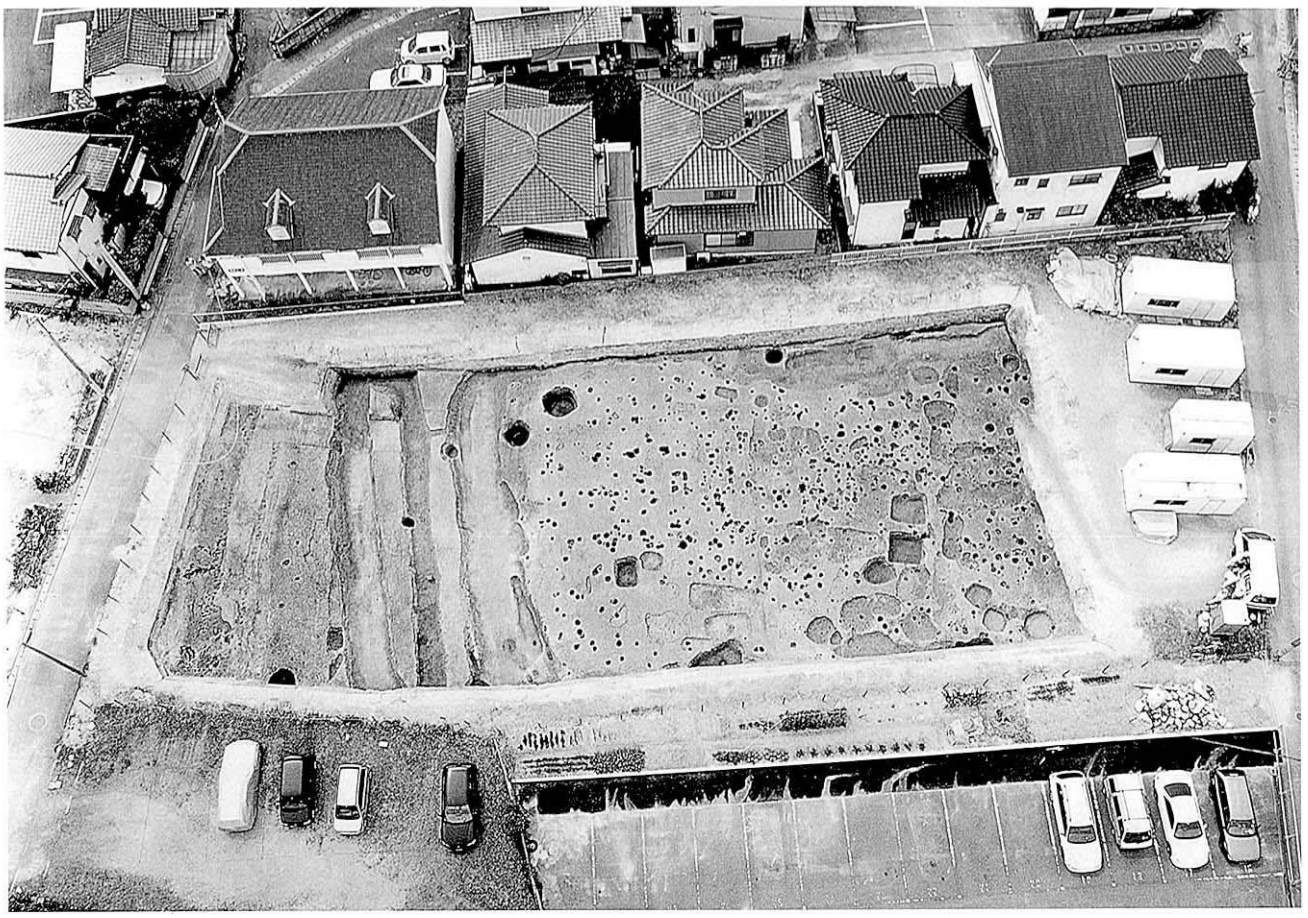
（2） 3区　SD03
土層観察状況
（南から）



（3） 3区　SD07
土層観察状況
（南から）



（1）４区　北東から県道建設予定地を望む



（2）４区　調査区全景（真上より）

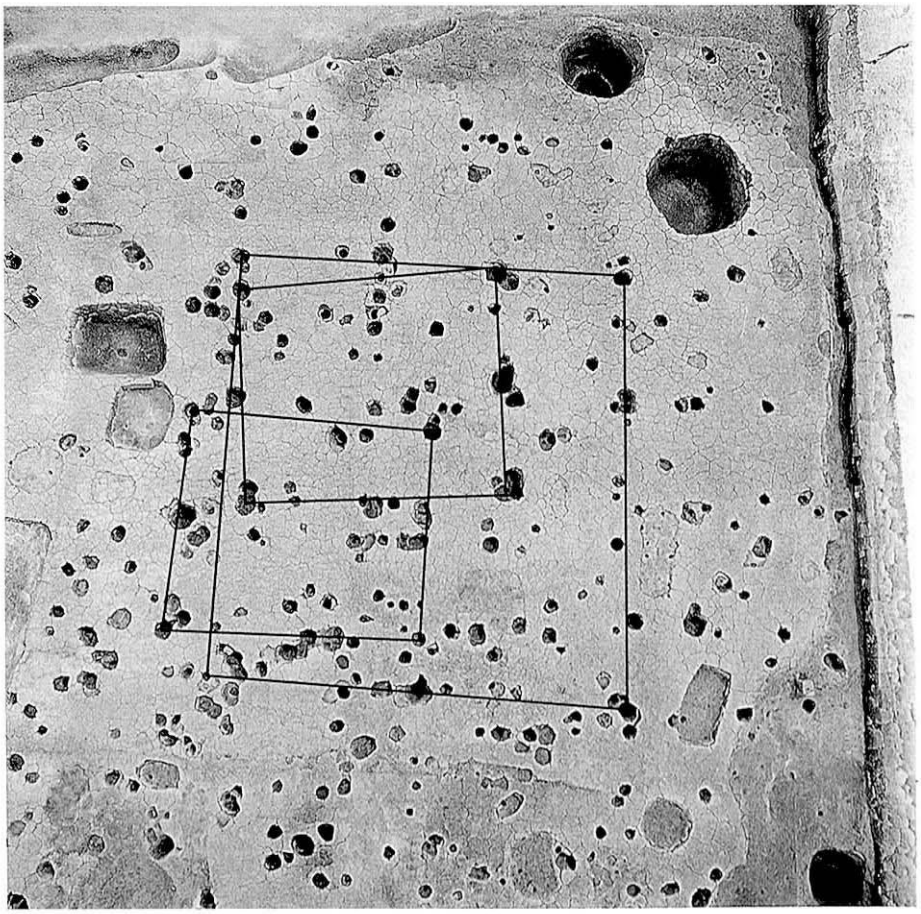


（1） 4－2・3区　調査区全景



（2） 4－2区　調査区全景

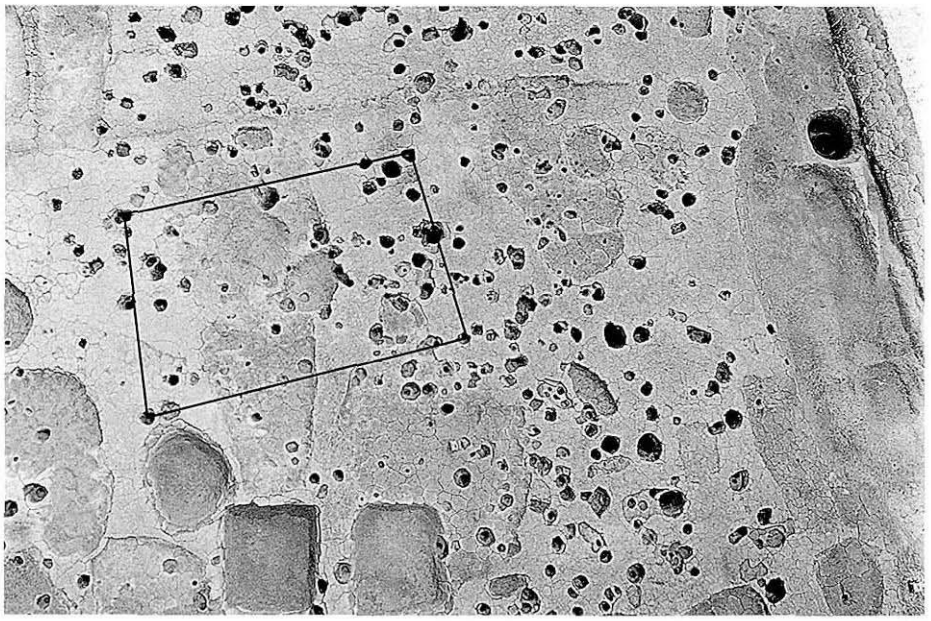
図版22



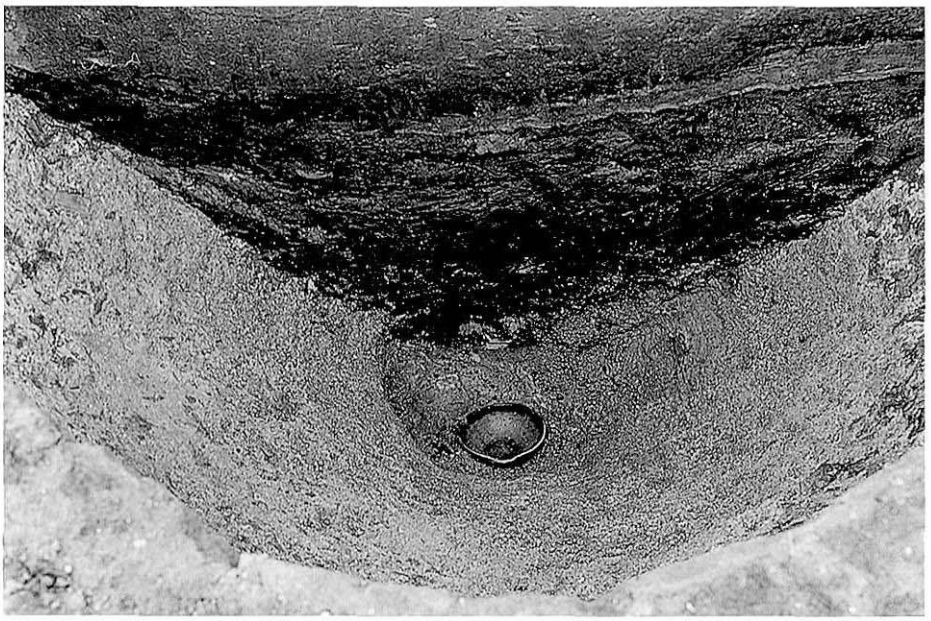
（１） ４区　SB01・02・06完掘状況（南西から）



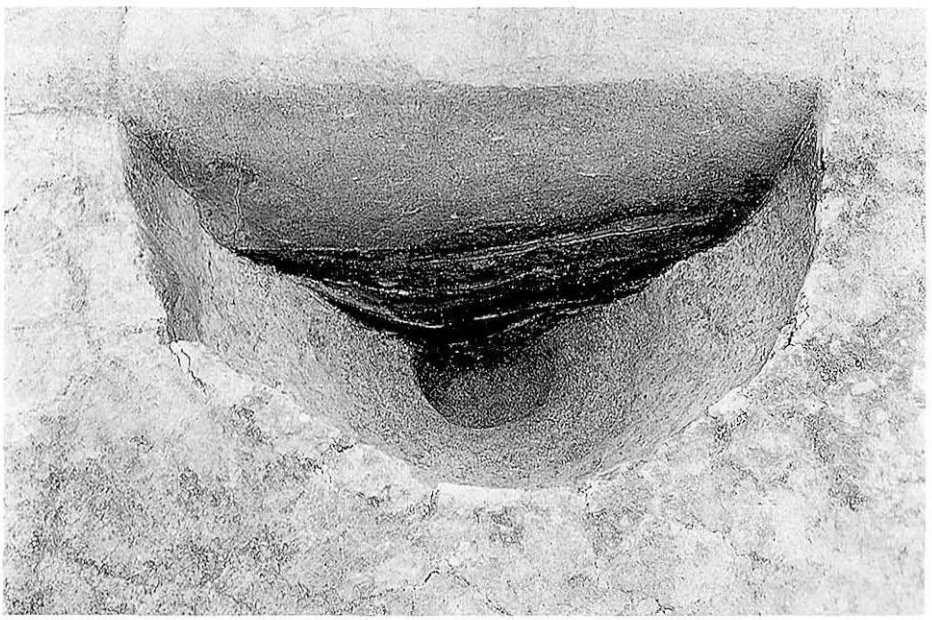
（２） ４区　SD04～06完掘状況（北西から）



（1） 4区　SB03
完掘状況
（南西から）



（2） 4区　SE01
遺物出土状況
（南東から）



（3） 4区　SE01
完掘状況
（南東から）

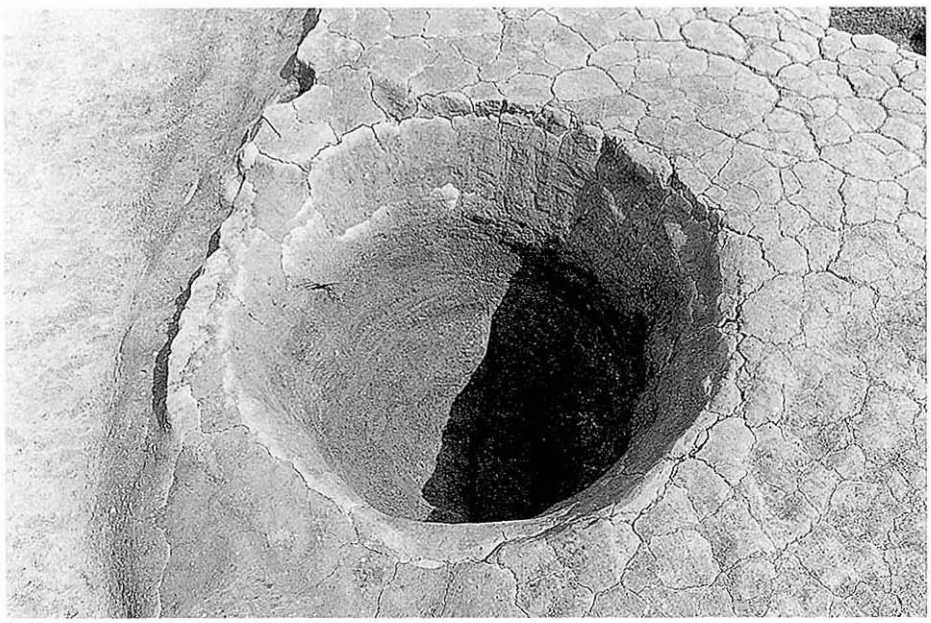
図版24



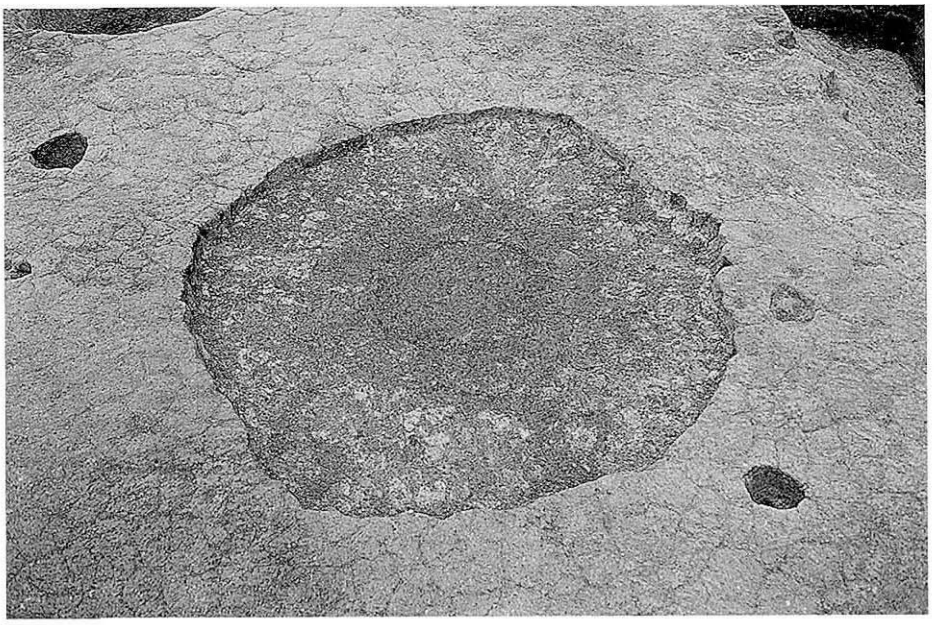
（1） 4区　SE02
墨書土器出土状況
（西から）



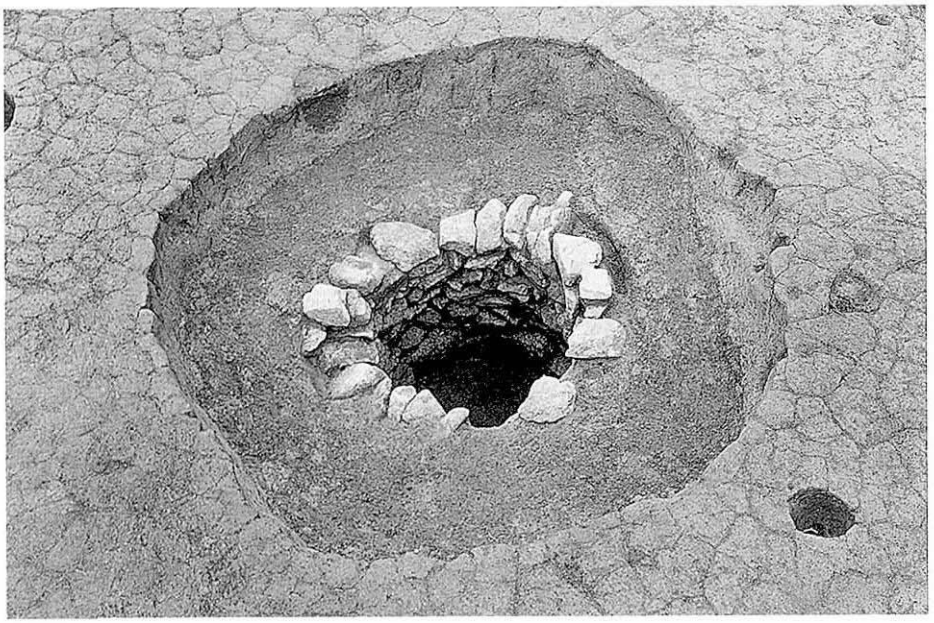
（2） 4区　SE02
井筒内完掘状況
（西から）



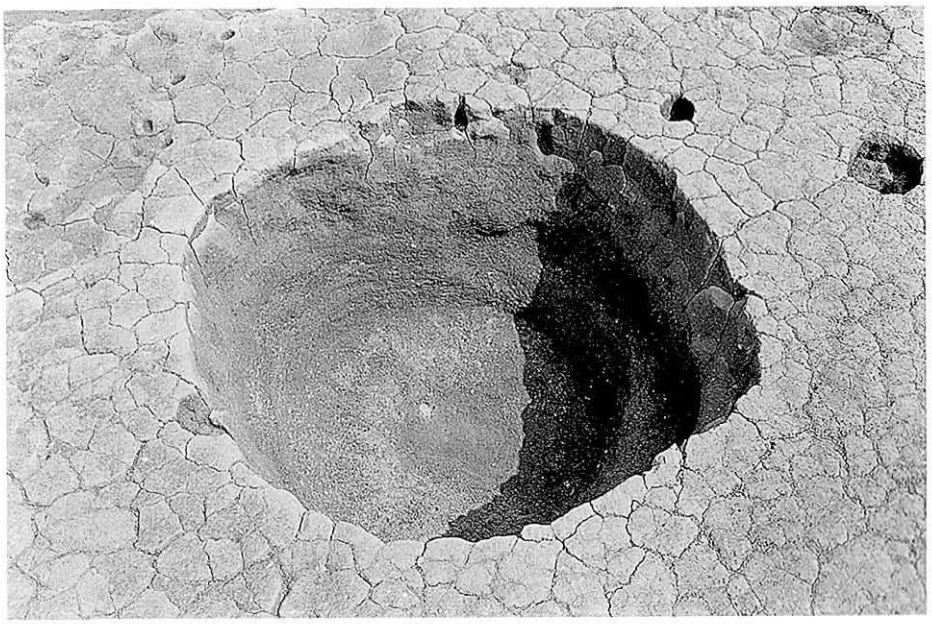
（3） 4区　SE02
完掘状況
（西から）



（１） ４区　SE03
検出状況
（南西から）



（２） ４区　SE03
石組内完掘状況
（南西から）



（３） ４区　SE03
完掘状況
（北西から）

図版26



（1） 4区　SE04
井筒内完掘状況
（北から）



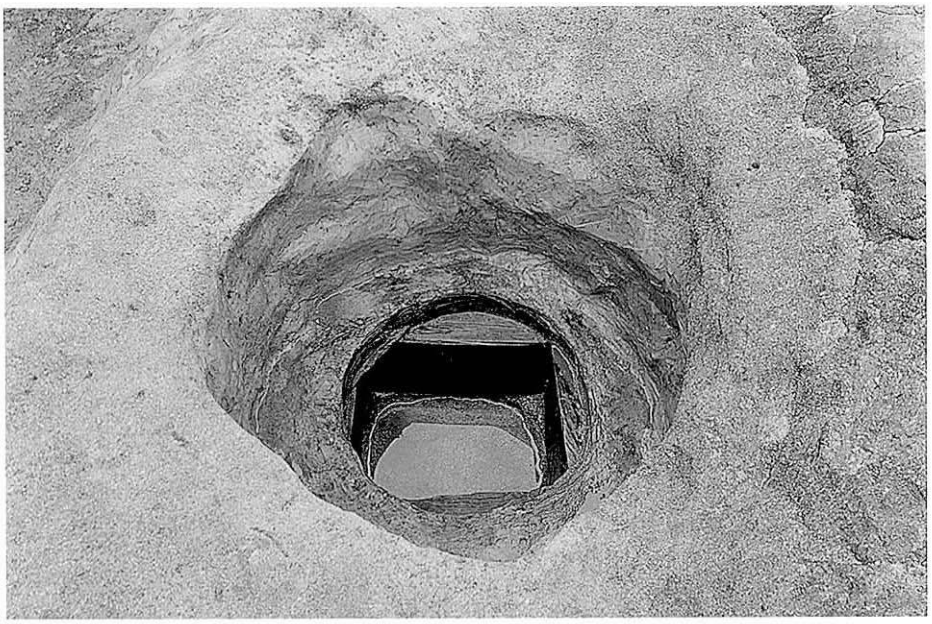
（2） 4区　SE04
球状木製品出土
状況（東から）



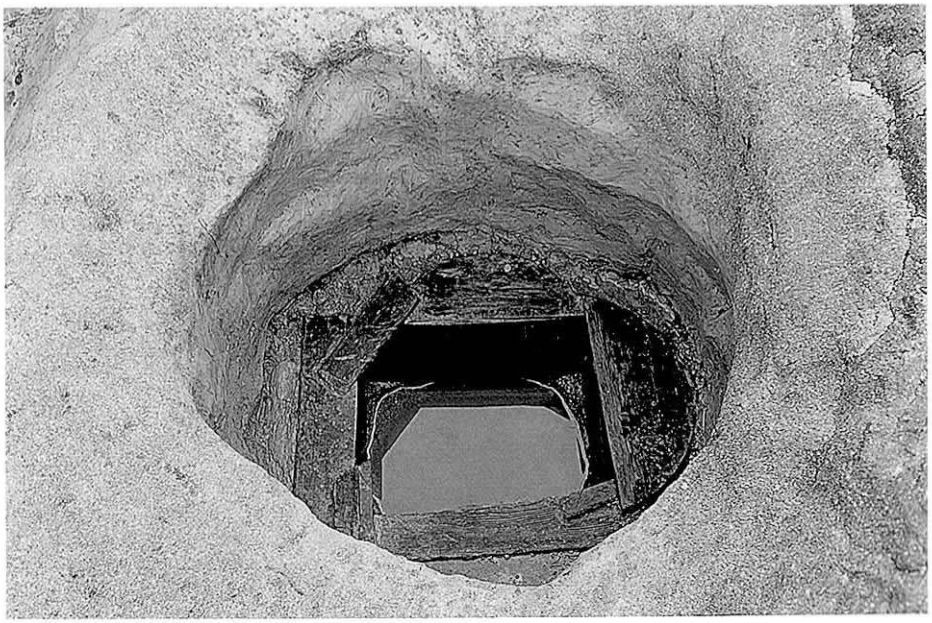
（3） 4区　SE04
木片出土状況
（東から）



（１） ４区　SE04
完掘状況
（北西から）

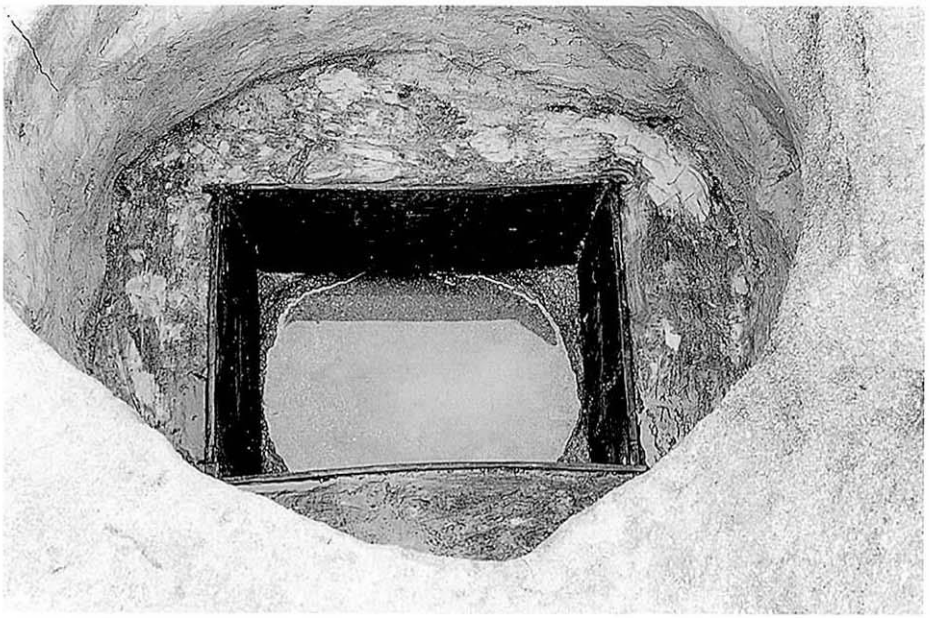


（２） ４区　SE05
井筒内完掘状況
（東から）

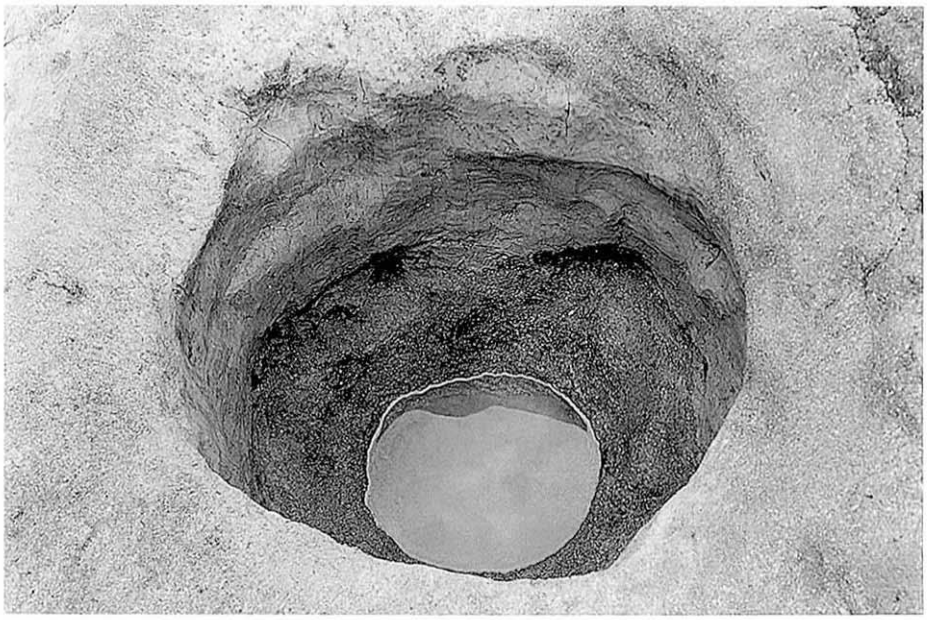


（３） ４区　SE05
井筒最上部除去
状況（東から）

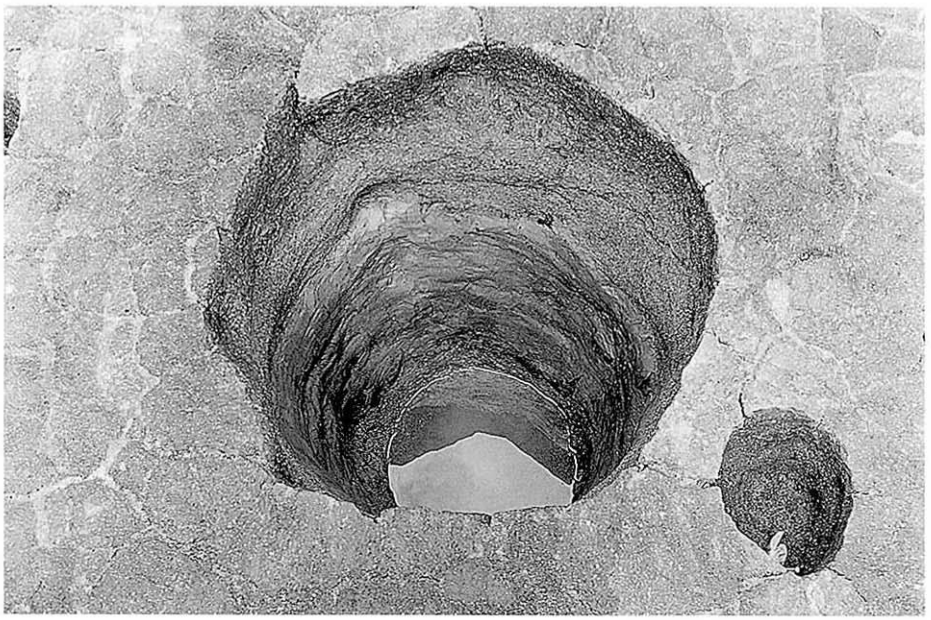
図版28



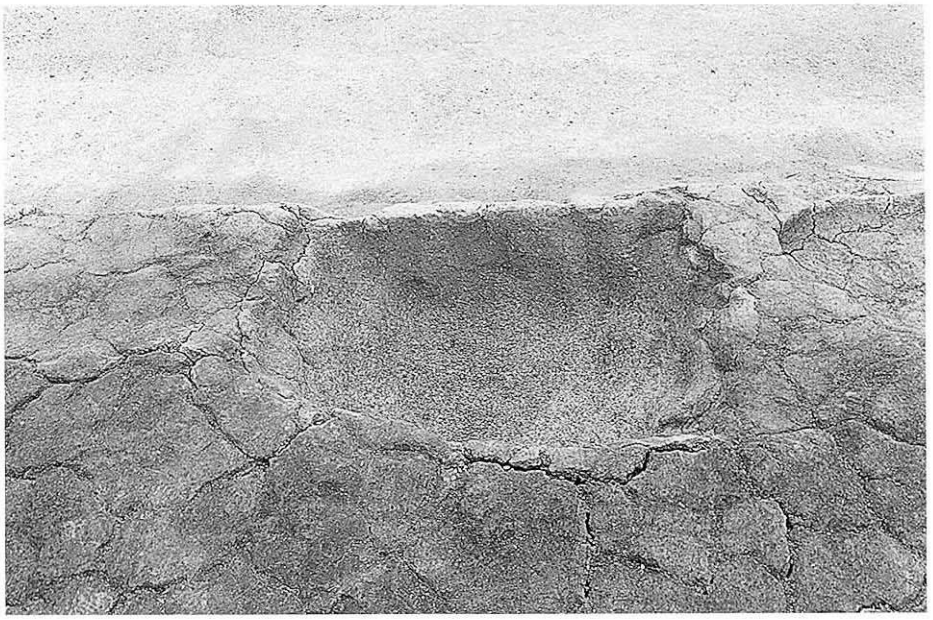
（1） 4区　SE05
井筒下部木組
状況（東から）



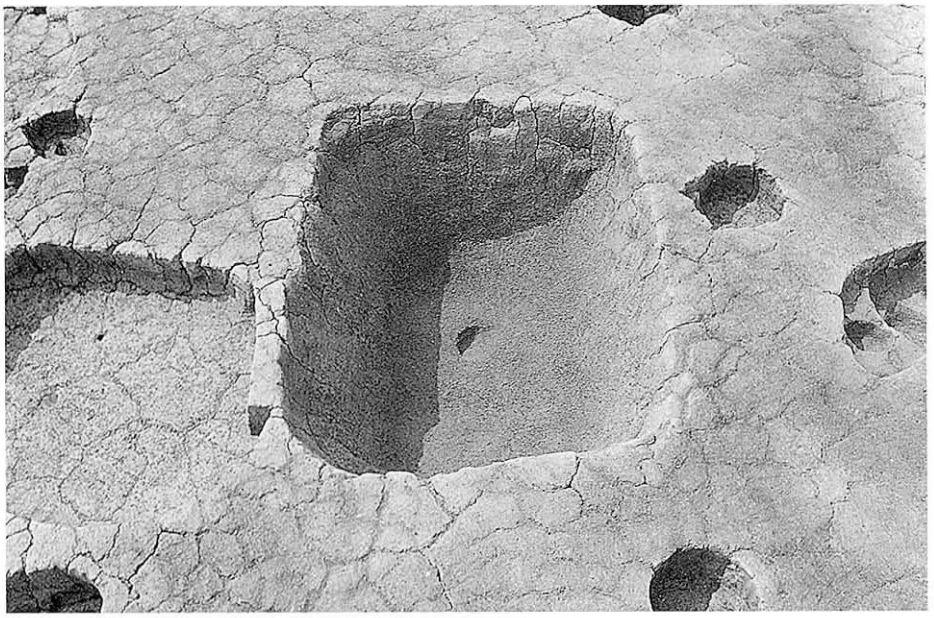
（2） 4区　SE05
完掘状況
（東から）



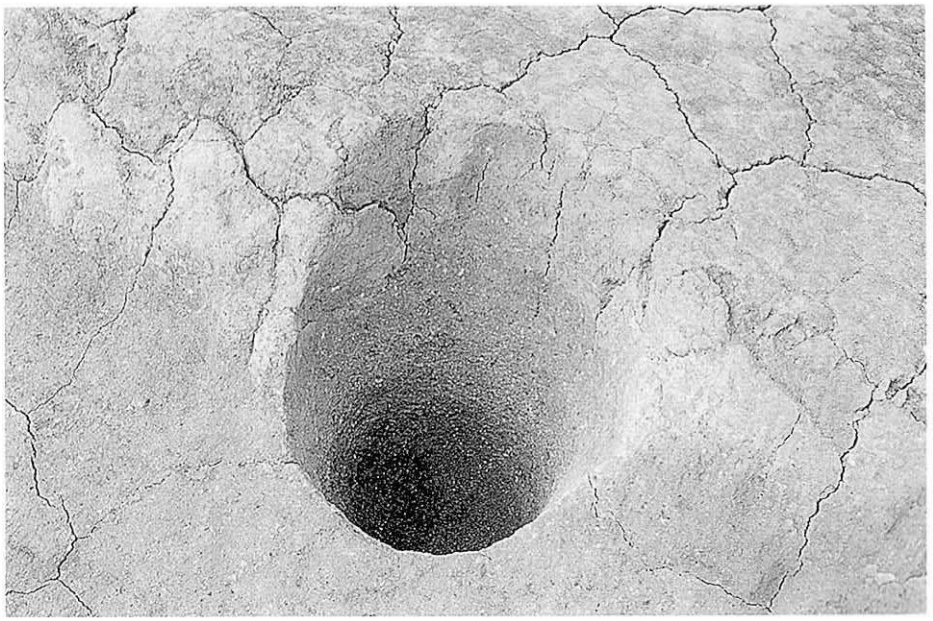
（3） 4区　SE06
完掘状況
（南東から）



（1）4区　SX02
完掘状況
（東から）



（2）4区　SX04
完掘状況
（南東から）

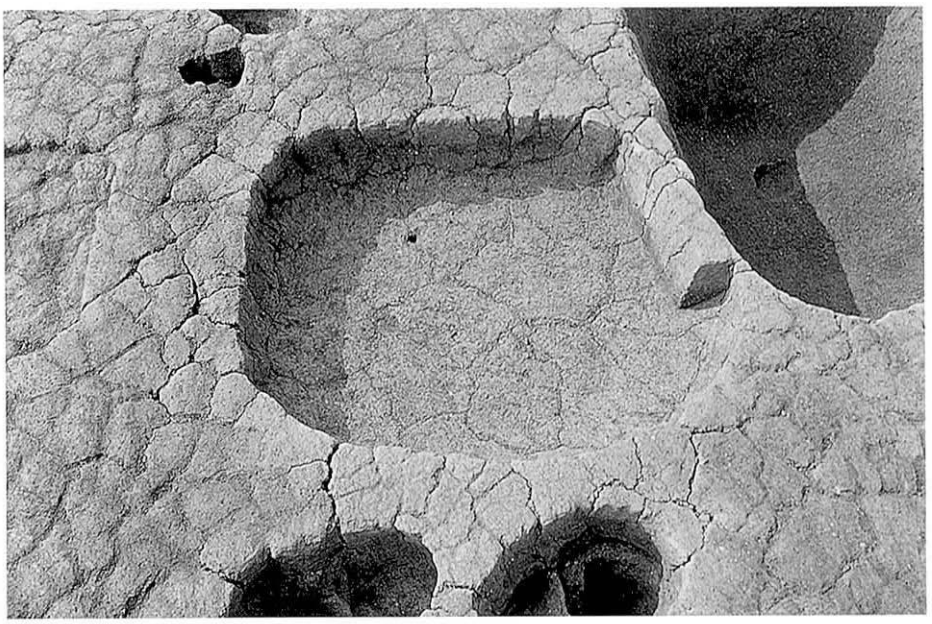


（3）4区　SX10
完掘状況
（南から）

図版30



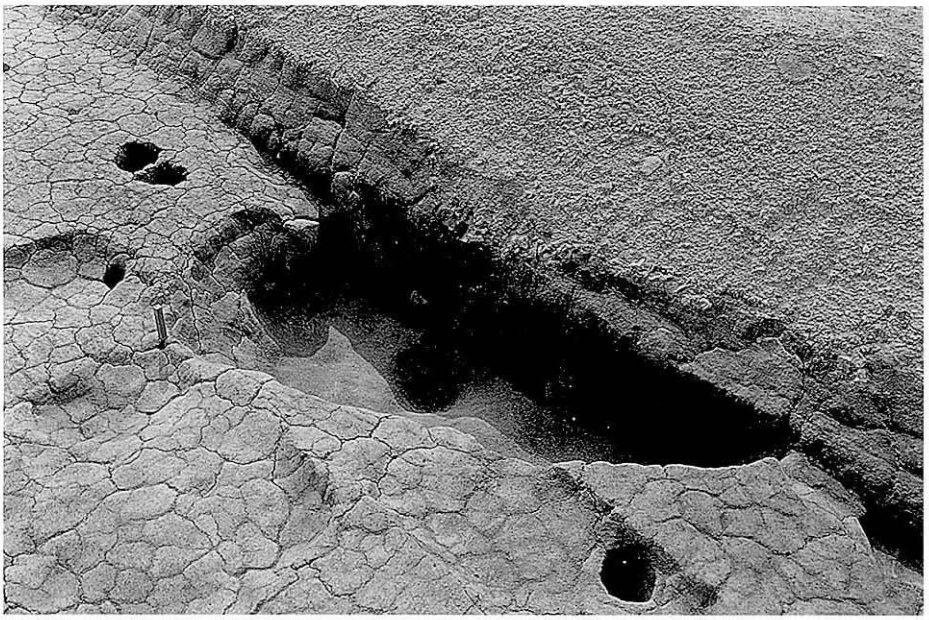
（1）4区　SX11
完掘状況
（南から）



（2）4区　SX12
完掘状況
（南から）



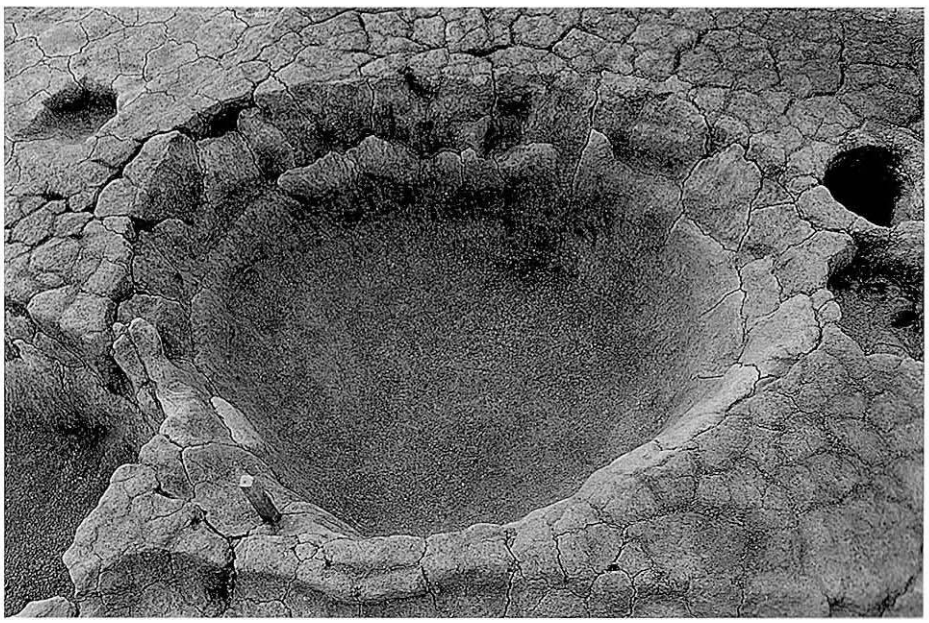
（3）4区　SX13・14
完掘状況
（南から）



（1）4区　SX15
完掘状況
（東から）

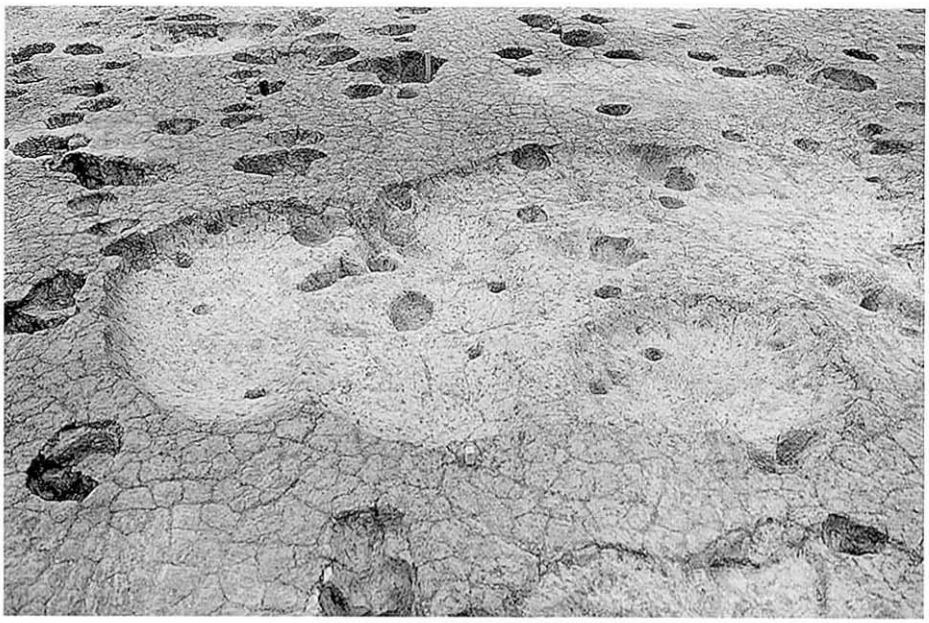


（2）4区　SX22～
25・33完掘状況
（東から）



（3）4区　SX27
完掘状況
（南東から）

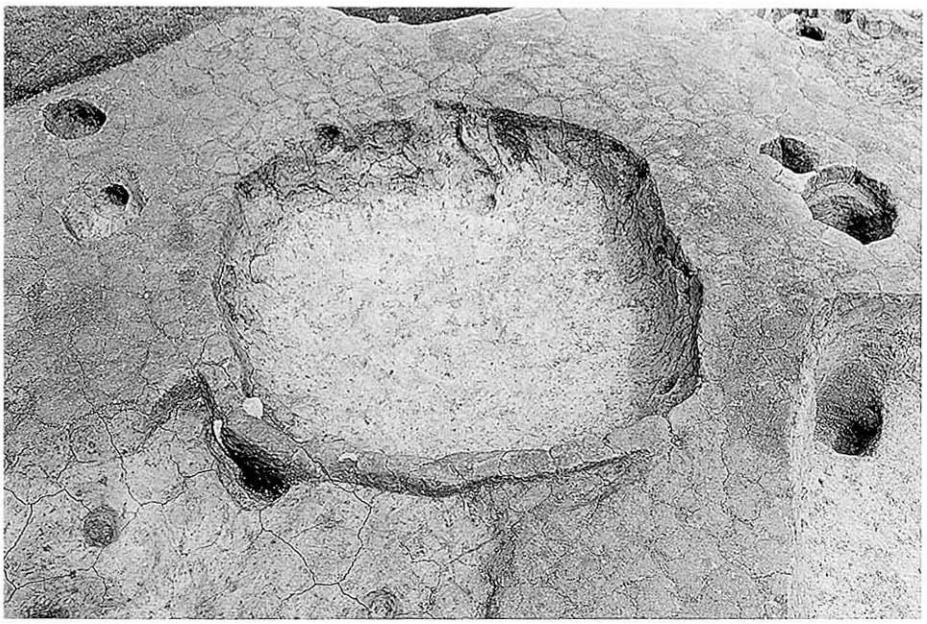
図版32



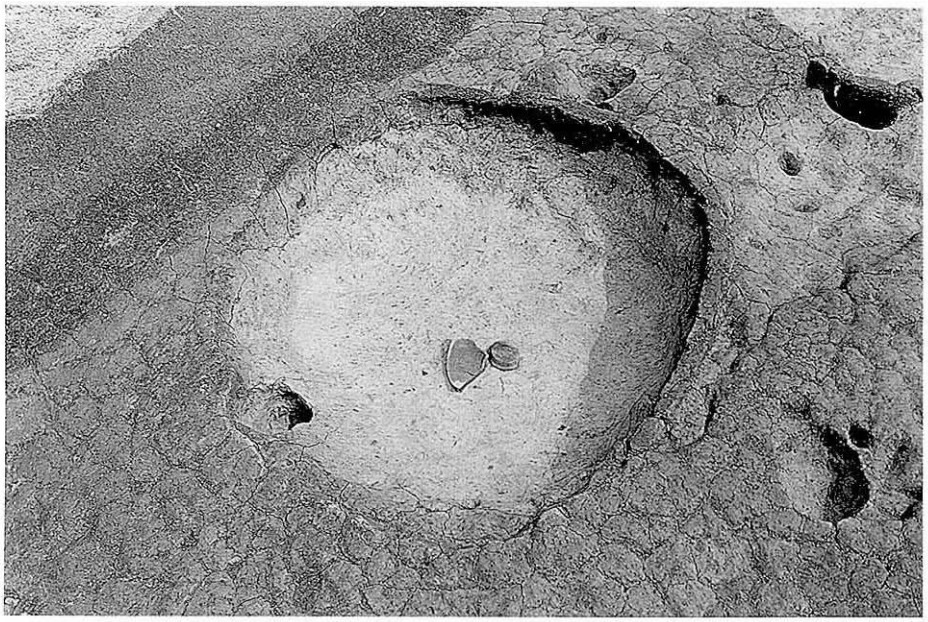
（1）4区　SX28～30完掘状況（南東から）



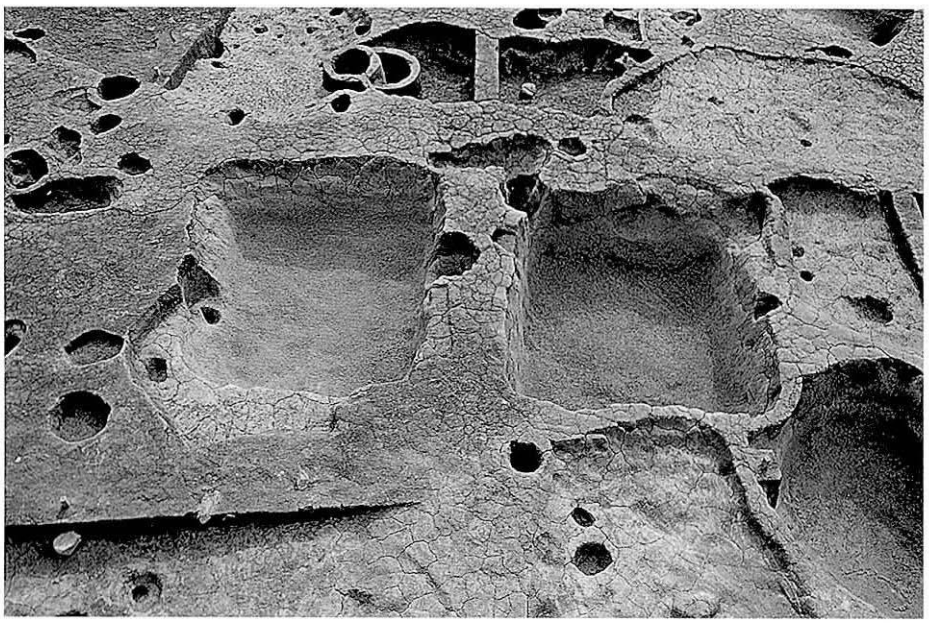
（2）4区　SX38完掘状況（南西から）



（3）4区　SX39完掘状況（南から）



（１） ４区　SX40
遺物出土状況
（南から）

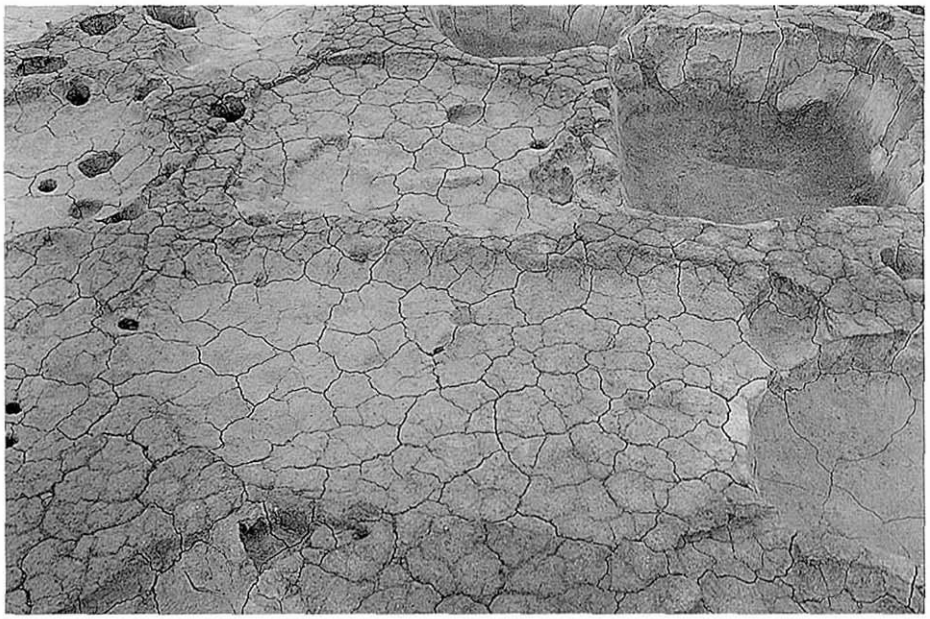


（２） ４区　SX41・
42完掘状況
（東から）

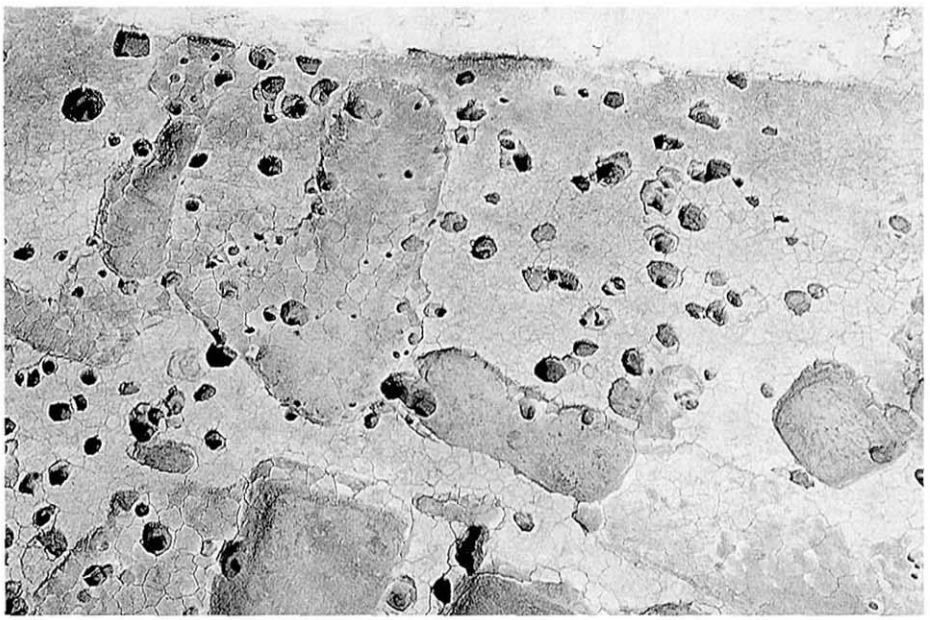


（３） ４区　SX47
完掘状況
（東から）

図版34



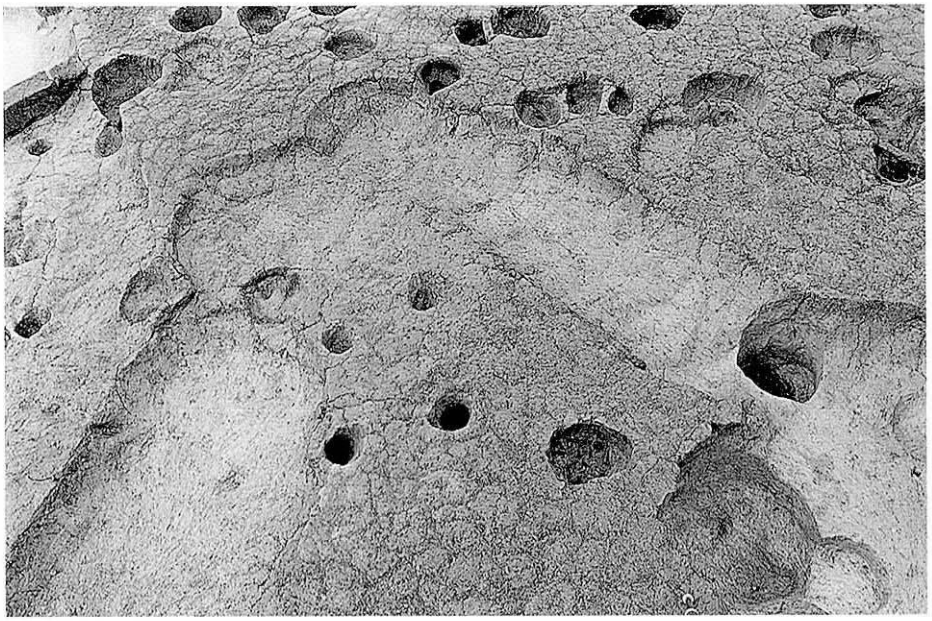
（1） 4区　SX45・48完掘状況（西から）



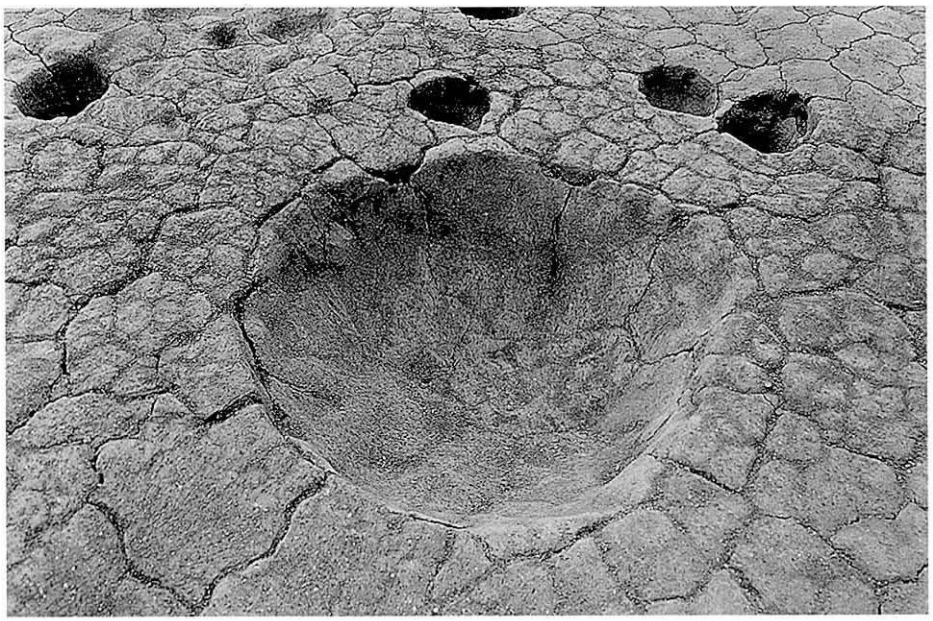
（2） 4区　SX49～51完掘状況（北東から）



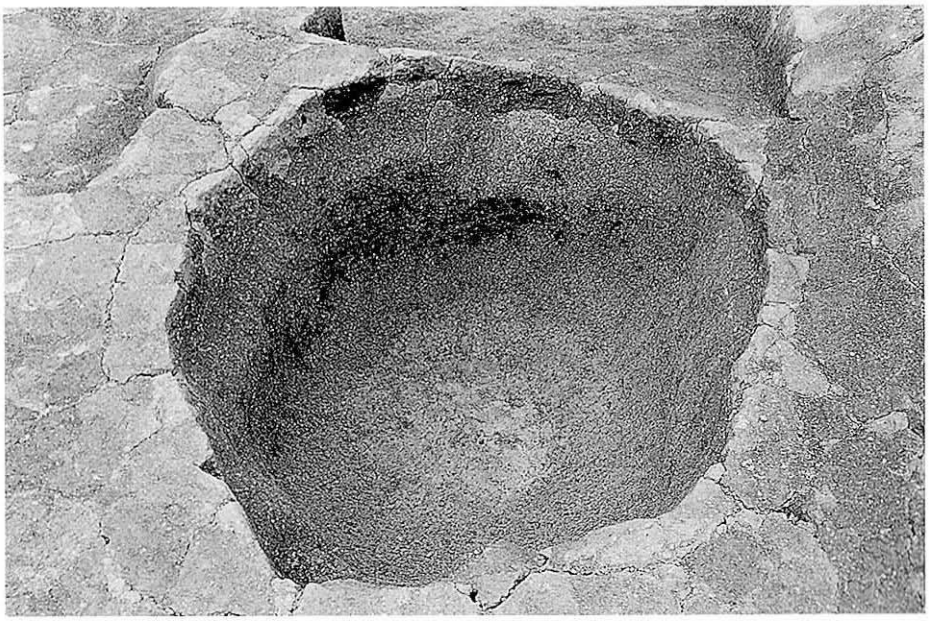
（3） 4区　SX54完掘状況（南東から）



（１） ４区　SX56・57完掘状況（南から）



（２） ４区　SX58完掘状況（南から）



（３） ４区　SX62完掘状況（北西より）

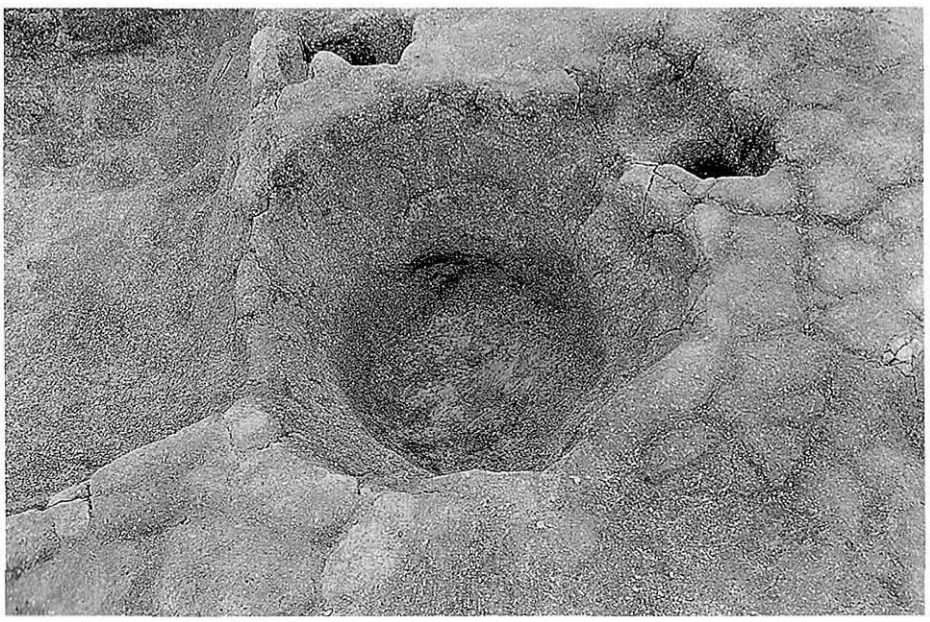
図版36



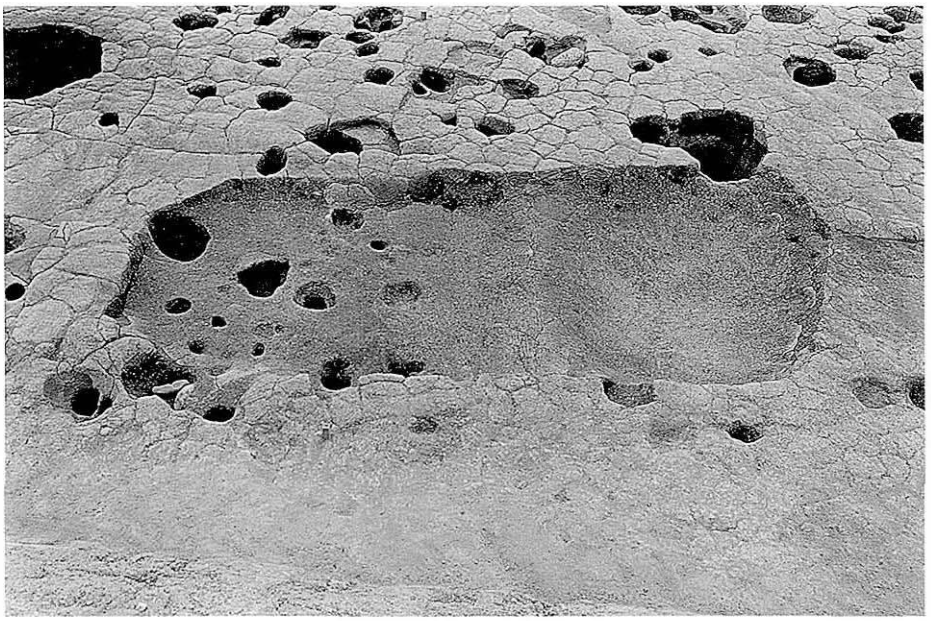
（1） 4区　SX68
完掘状況
（北東から）



（2） 4区　SX69
完掘状況
（南から）



（3） 4区　SX71
完掘状況
（南東から）



（1）4区　SX72
完掘状況
（南西から）



（2）4区　SP100
遺物出土状況
（北から）



（3）4区　SP681
遺物出土状況
（西から）

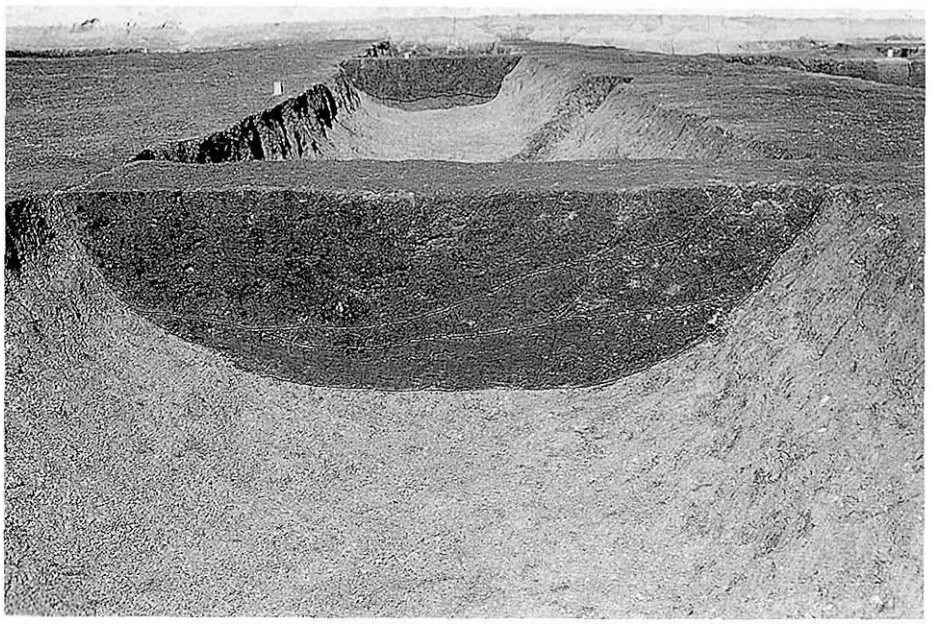
図版38



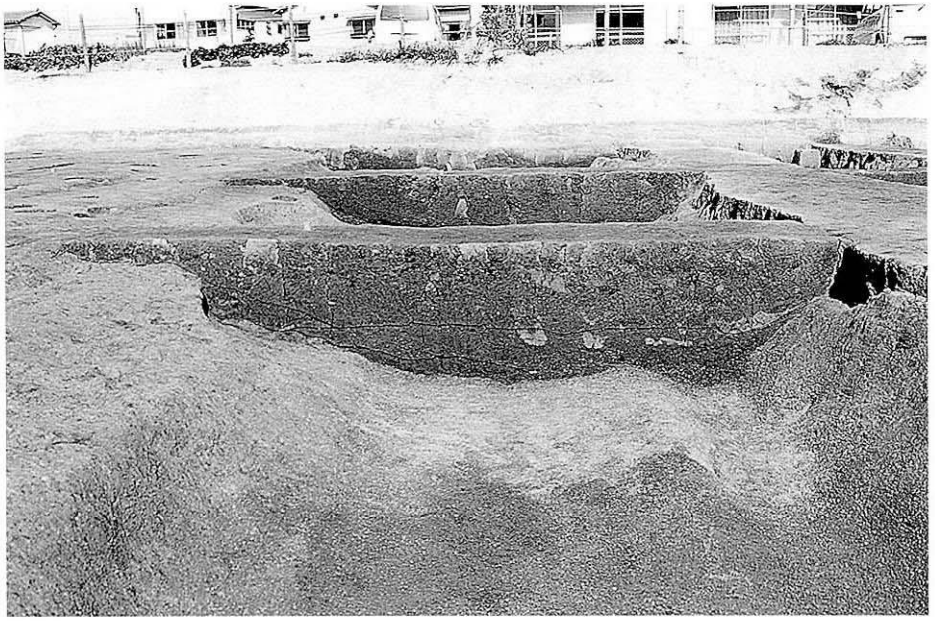
（1） 4区　SD04
羽子板出土状況
（東から）



（2） 4区　SD04
土層観察状況
（南東から）



（3） 4区　SD05
土層観察状況
（南東から）



（1） 4区　SD06
土層観察状況
（南東から）

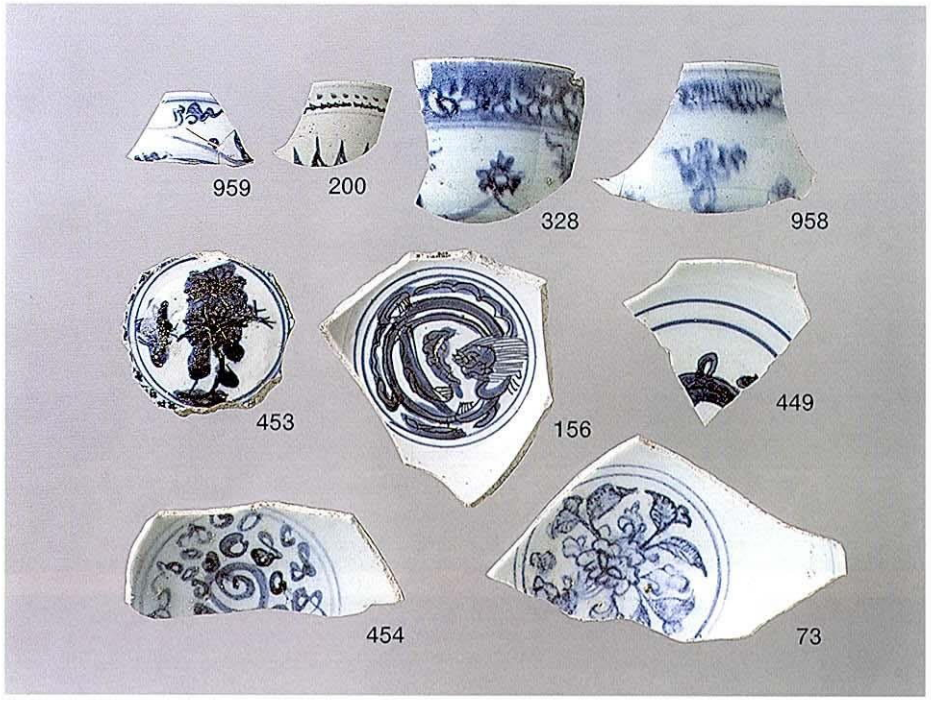


（2） 4区　SD06
完掘状況
（南西から）



（3） 4区　SD06
調査区南隅完掘
状況（東から）

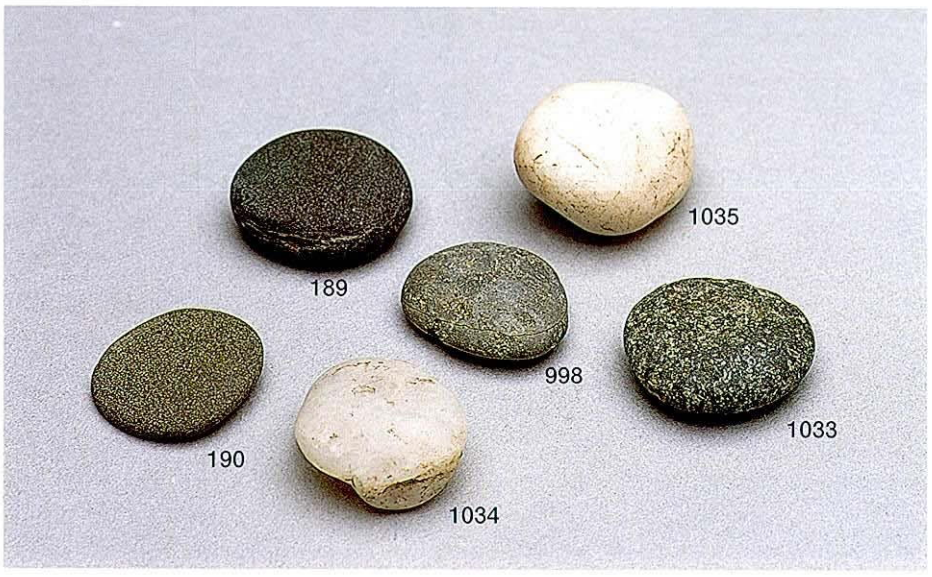
図版40



（1）中国産染付
（景徳鎮窯系）



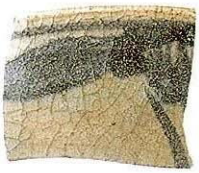
（2）朝鮮産陶器
（右前端は除く）



（3）碁　石



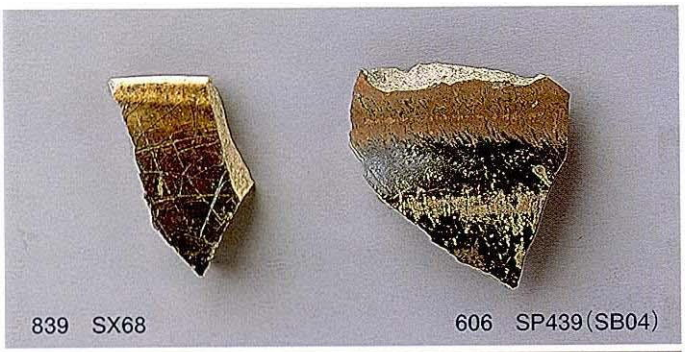
448　SX01



153　SD08



199　SP53



839　SX68　　606　SP439(SB04)



463　SD01



34　SE01



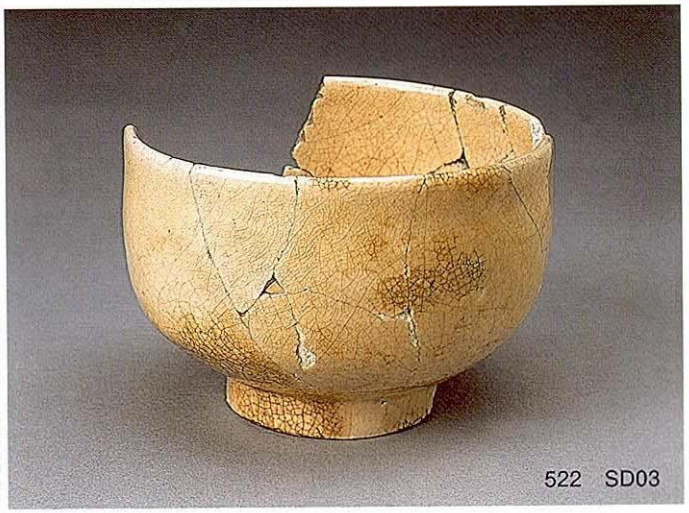
134　SD07



409　SE04



485　SD01



522　SD03

図版42



896　SD04



103　SD05



907　SD04



128　SD05



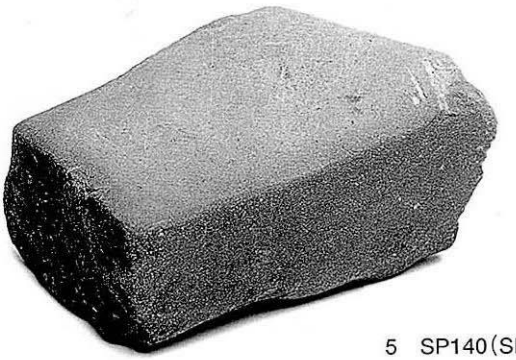
431　SE05



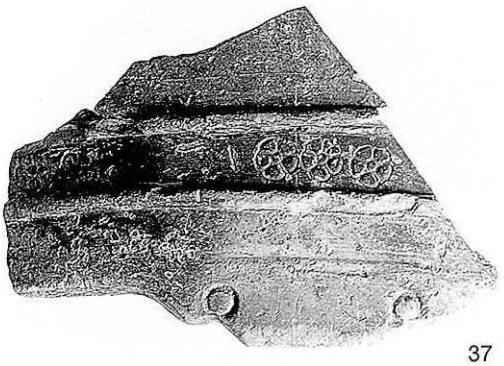


563　SD01

1006　SD04



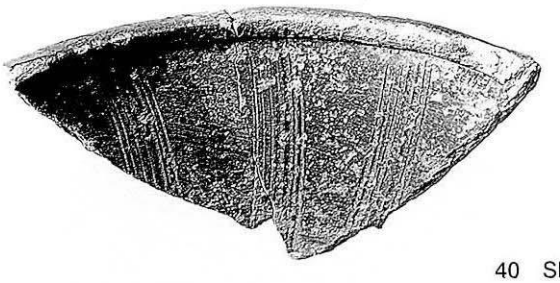
5　SP140(SB03)



37　SE01



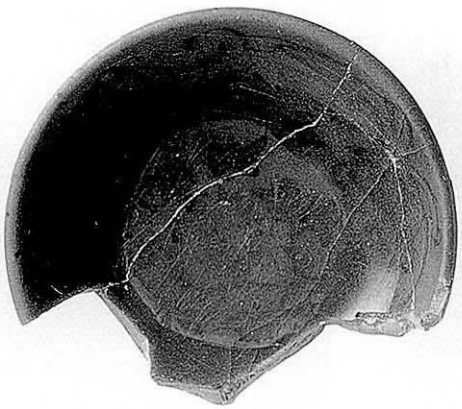
8　SP02(SB05)



40　SE01



22　SE01





29　SE01

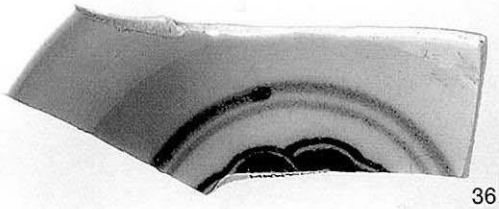




33　SE01

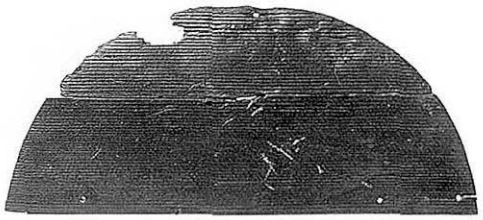


34　SE01

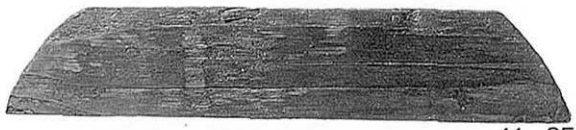


36　SE01

1区　出　土　遺　物



43　SE01

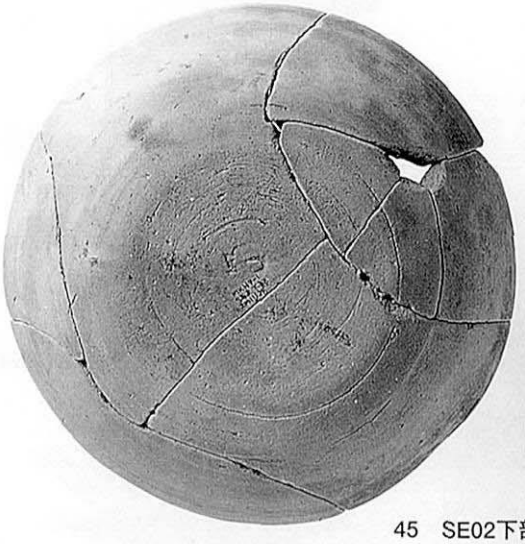


44　SE01

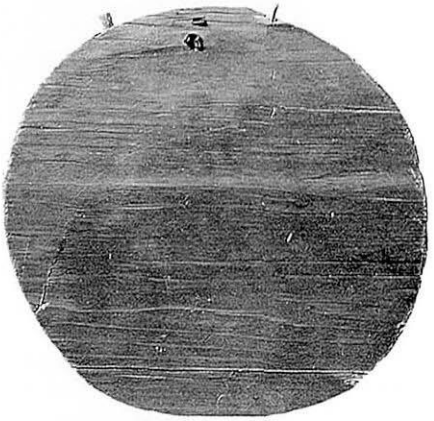


51　SE02





45　SE02下部

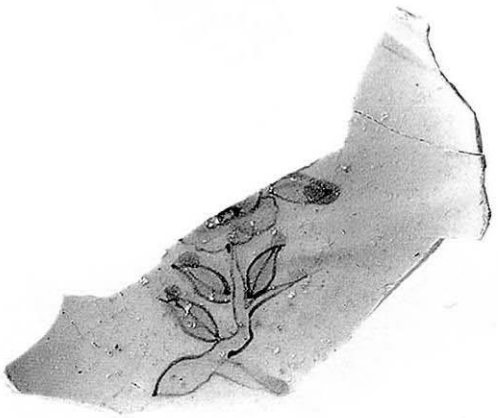




52　SE02

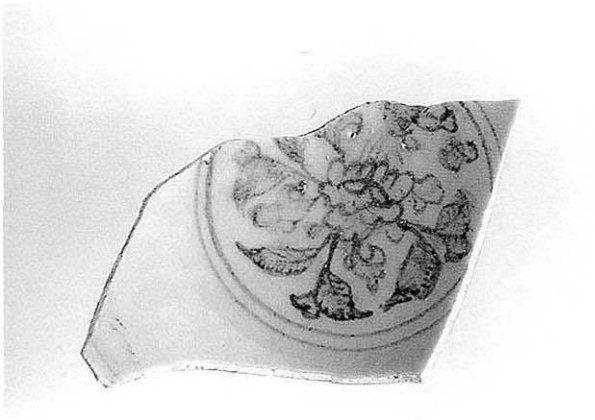


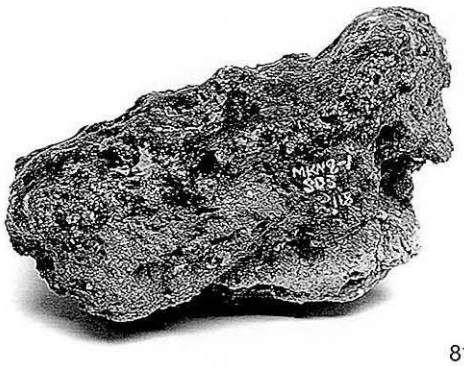
49　SE02



74　SD03

1区　出　土　遺　物





81　SD03



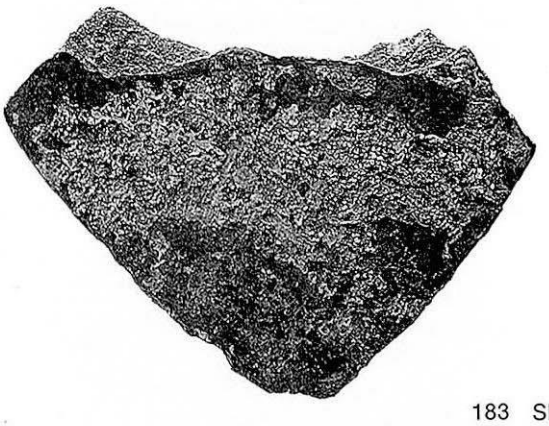
73　SD03



188　SD03



78　SD03



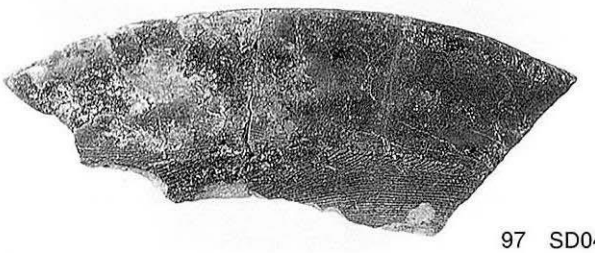
183　SD03



79　SD03



91　SD04



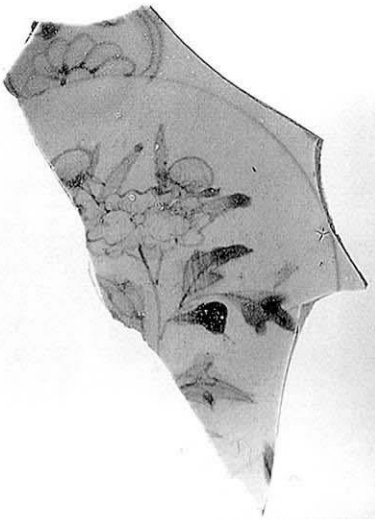
97　SD04

1区　出　土　遺　物

図版46



88　SD04



104　SD05



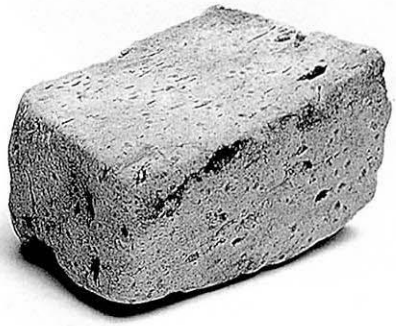
94　SD04



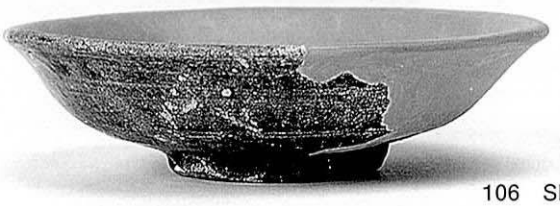
120　SD05



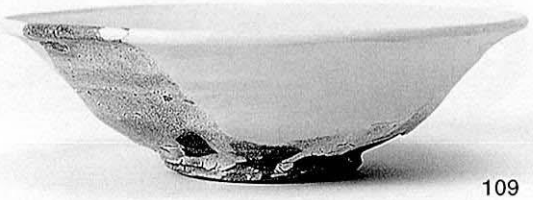
101　SD05



98　SD04



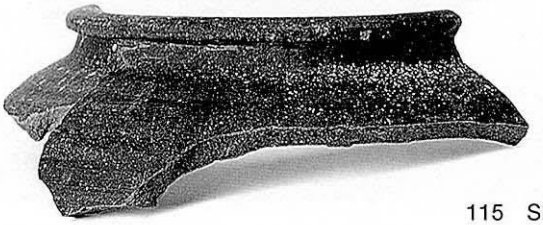
106　SD05



109　SD05

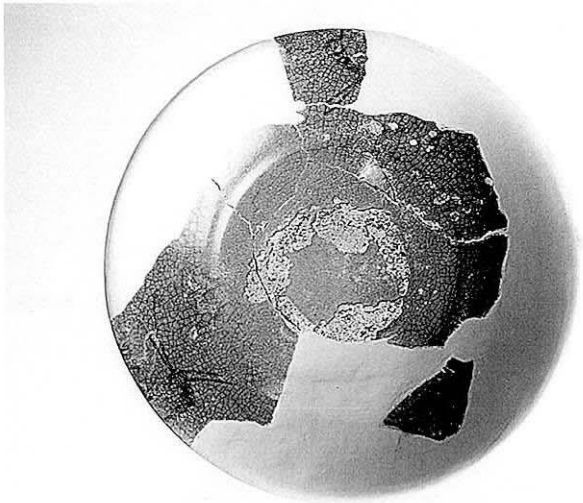


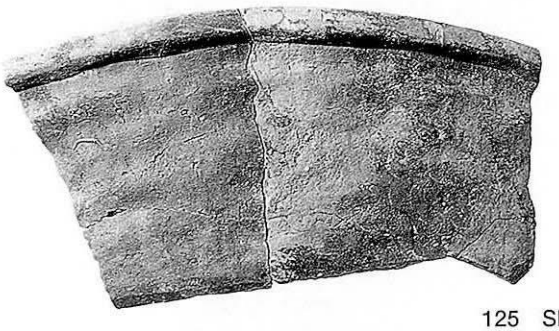
100　SD05



115　SD05

1区　出　土　遺　物

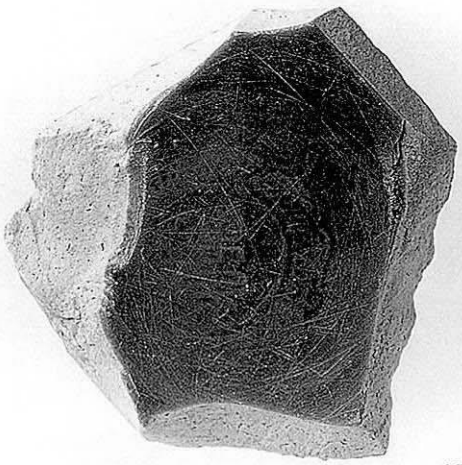




125　SD05



105　SD05



152　SD08



107　SD05



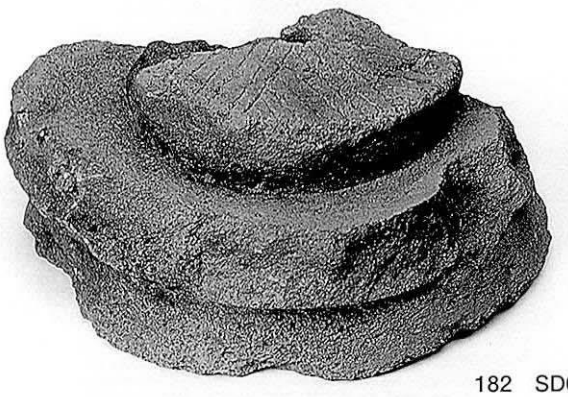
142　SD07



108　SD05

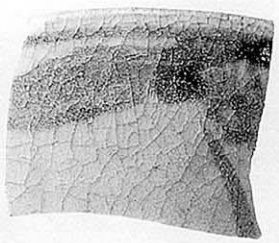


118　SD05

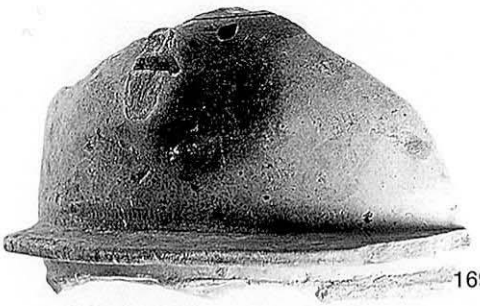


182　SD08

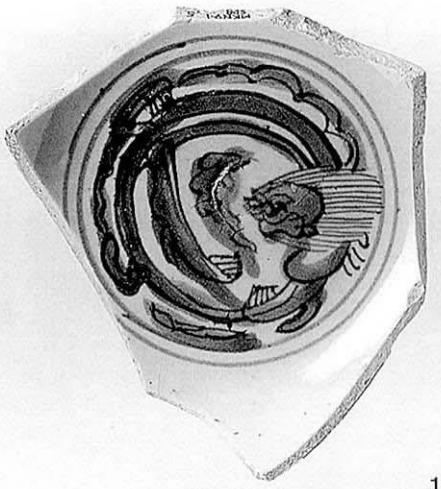
1区　出　土　遺　物



153　SD08



169　SD08



156　SD08



167　SD08



154　SD08



166　SD08



161　SD08



173　SD08

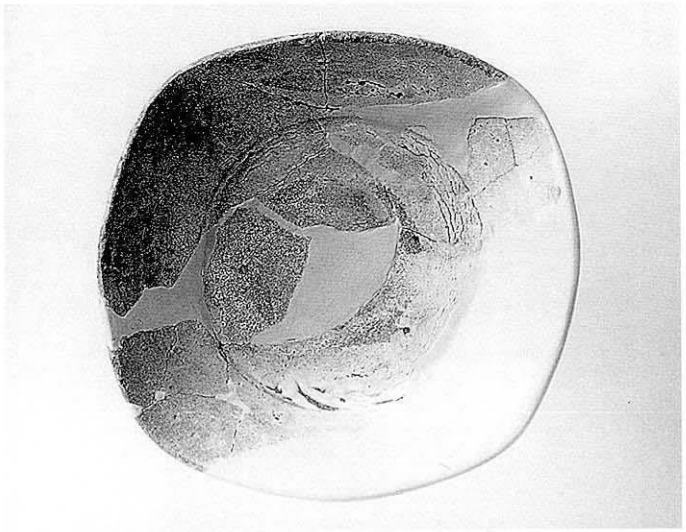


162　SD08

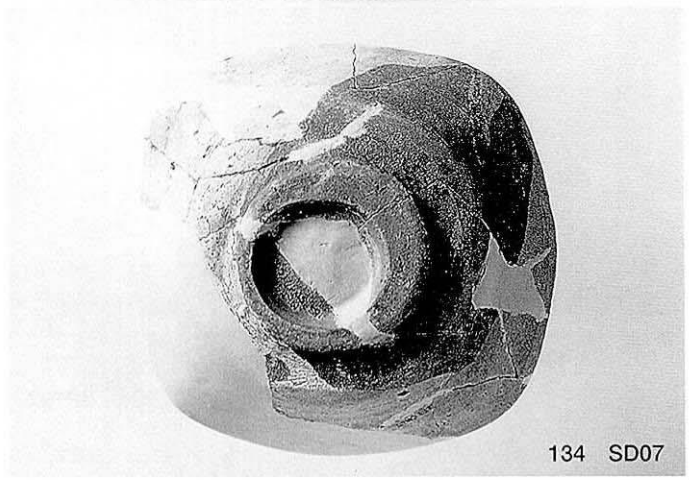


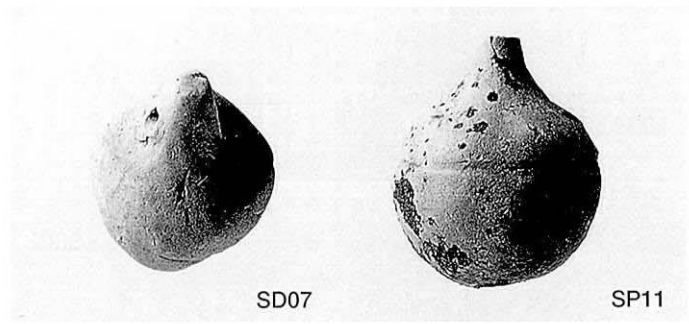
176　SD08

1区　出　土　遺　物

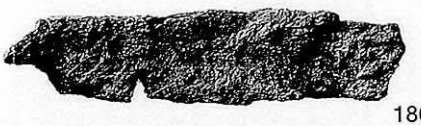





134　SD07


SD07　SP11


184　SP402


186　SP128

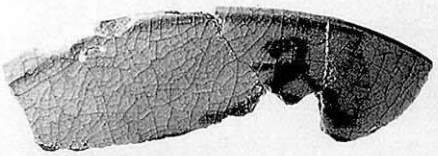

187　検出面

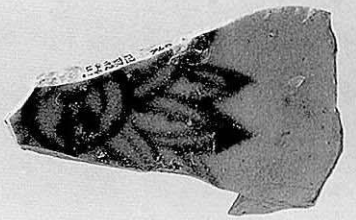

189　SP326

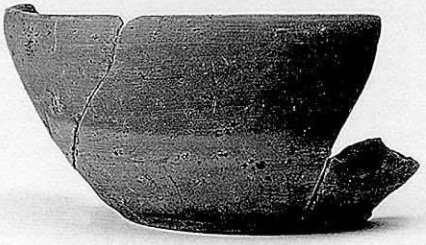

190　SP526


205　SP50


206　SP96～99


199　SP53


201　SP535

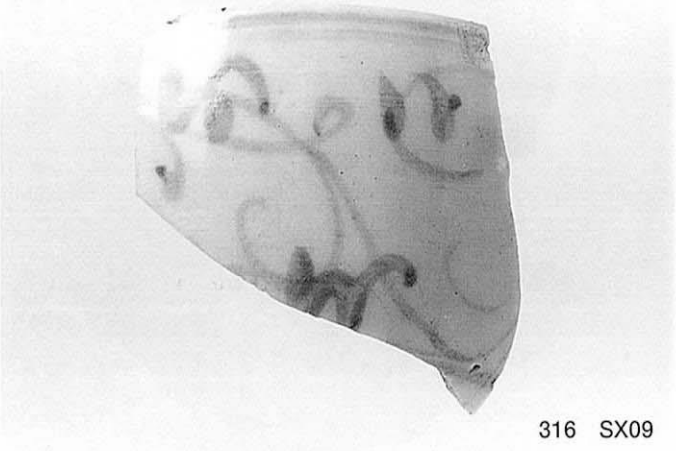

194　SP481

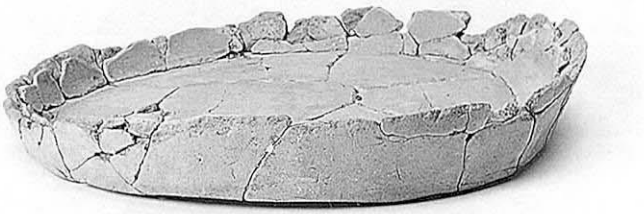
1区　出　土　遺　物


312　SX06

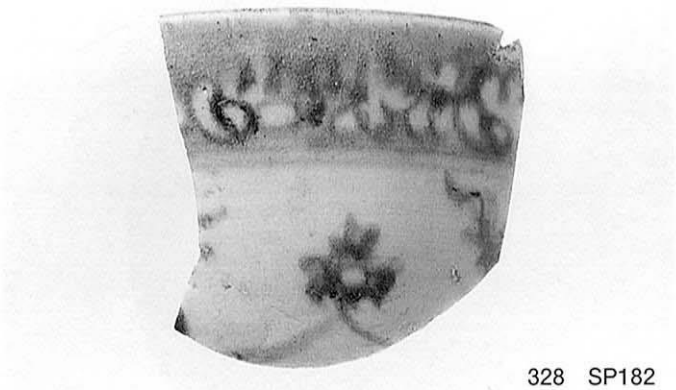

317　SX09


313　SX07

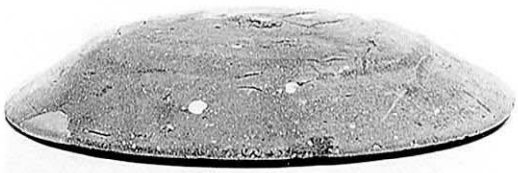

316　SX09


321　SX08

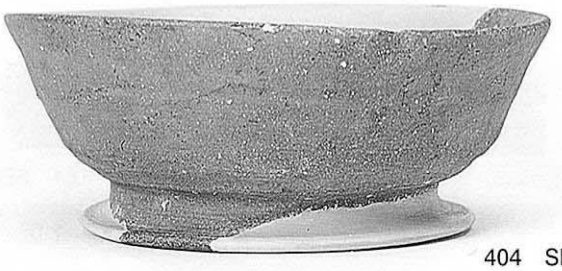

318　SX10


328　SP182

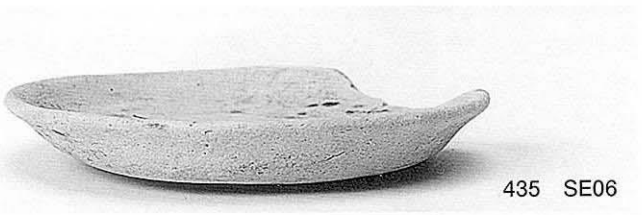

319　SX10


403　SE02


320　SX10


404　SE02

2区・3区　出　土　遺　物



435　SE06



434　SE06



437　SE06



438　SE06



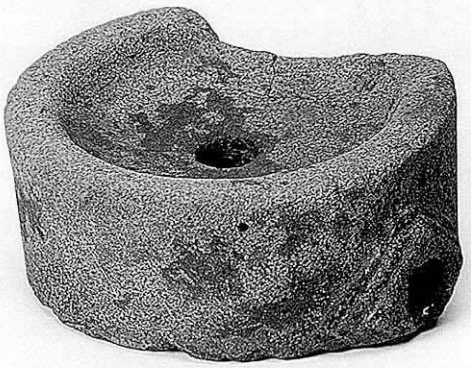
427　SE05



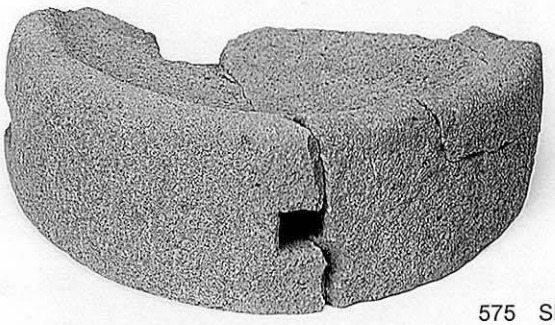
429　SE05



422　SE05



574　SE03



575　SE03



410　SE04



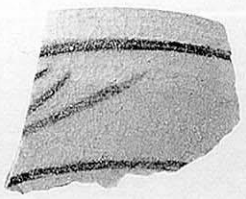
409　SE04

3区　出　土　遺　物

図版52



439　SE06



448　SX01



441　SE06



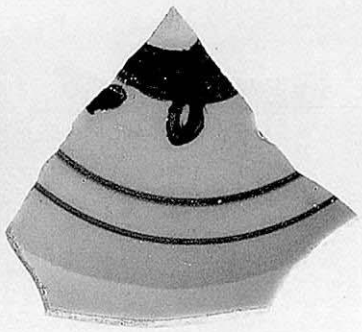
451　SX07

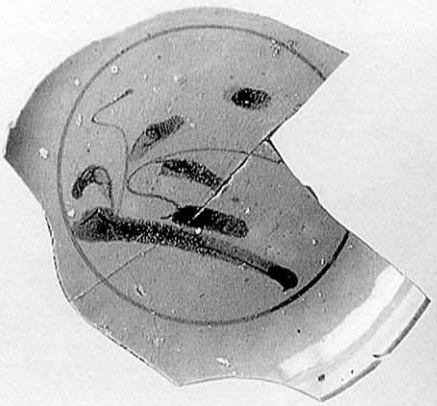


576　SX01

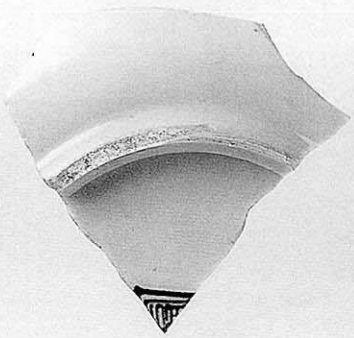


453　SD01

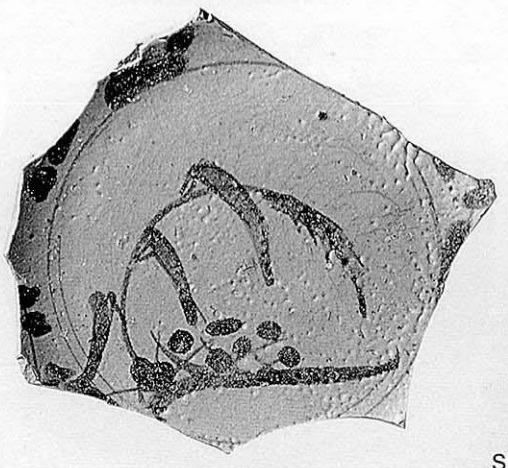




455　SD01

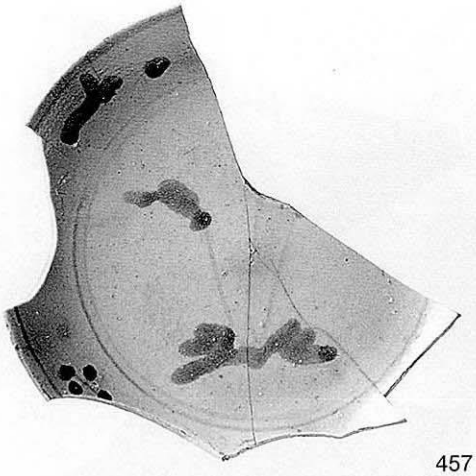


449　SX01

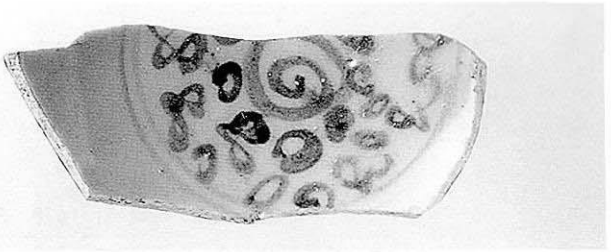


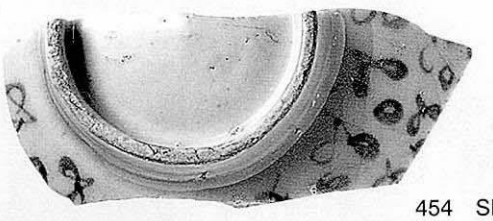
SD01

3区　出　土　遺　物

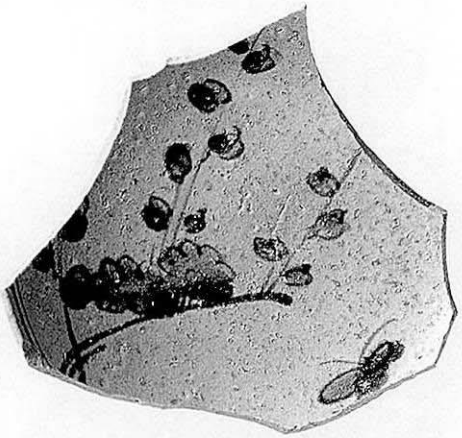


457　SD01





454　SD01



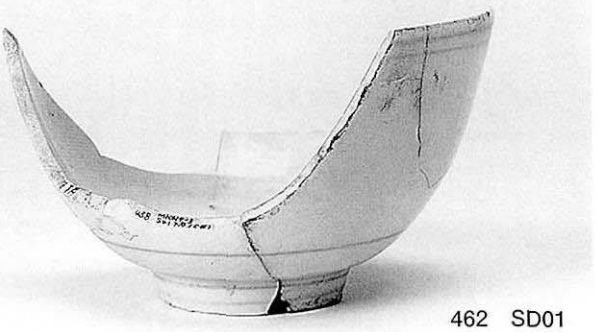
456　SD01



461　SD01



458　SD01



462　SD01



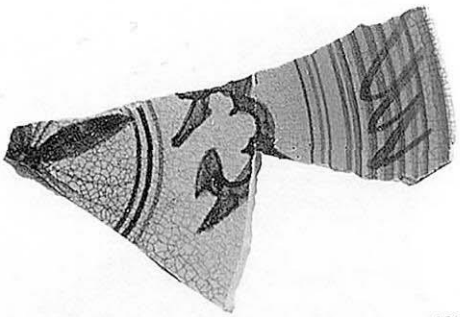
459　SD01



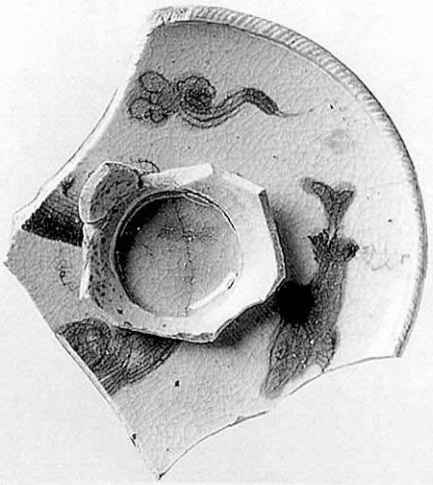
467　SD01



478　SD01



482　SD01





471　SD01



463　SD01



473　SD01



465　SD01

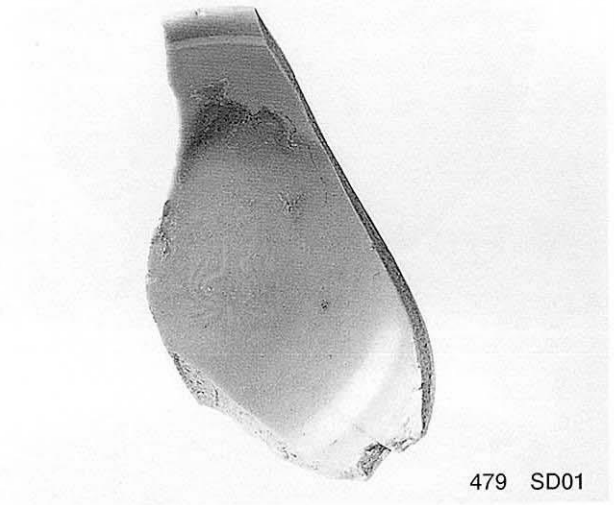


466　SD01



464
SD01

3区　出　土　遺　物



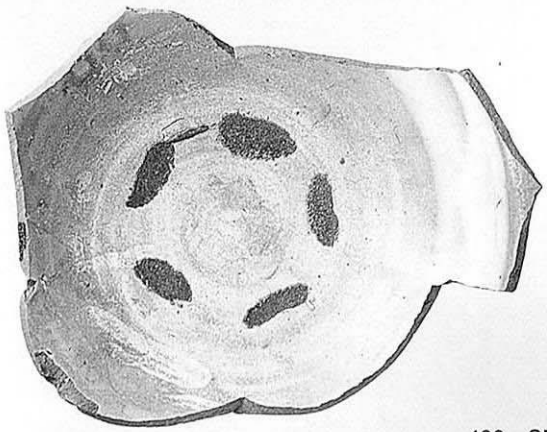
479　SD01



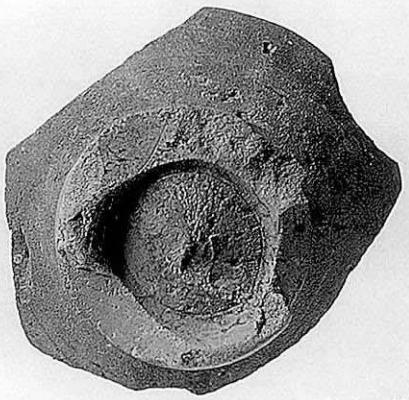
477　SD01



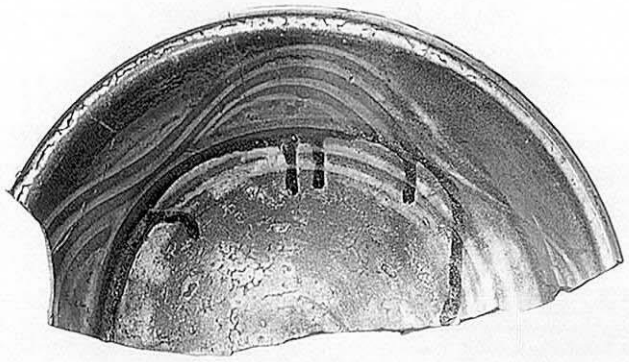
481　SD01

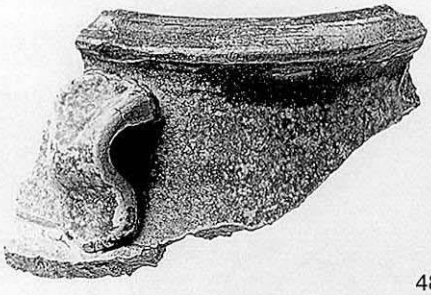


483　SD01

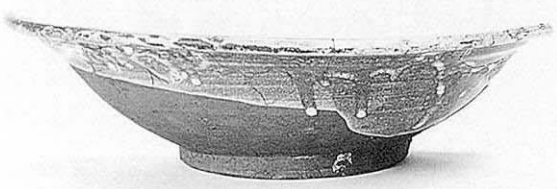


487　SD01

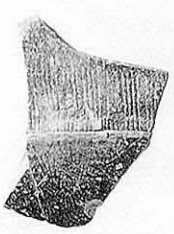




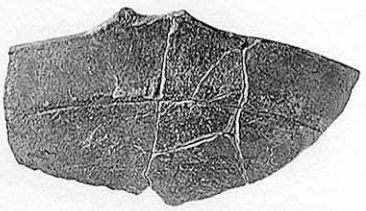
488　SD01



484　SD01

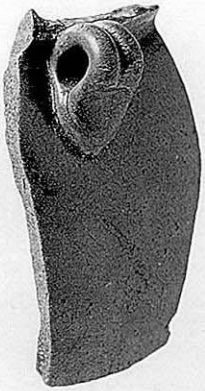


501　SD01



504　SD01

3区　出　土　遺　物



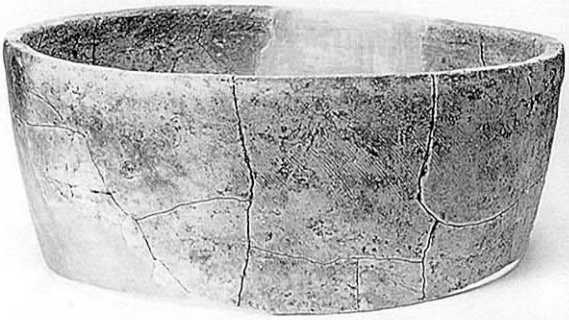
491　SD01



485　SD01



509　SD01



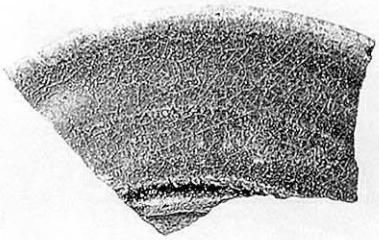
507　SD01



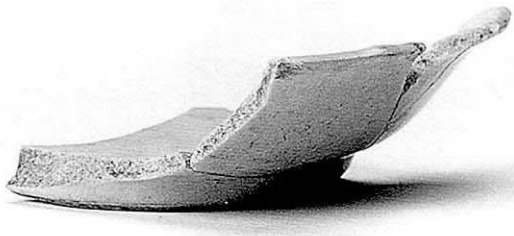
585　SD01



522　SD03



520　SD03



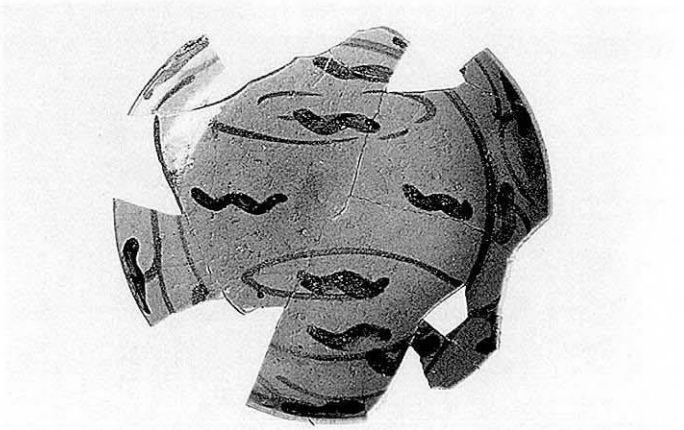
519　SD03

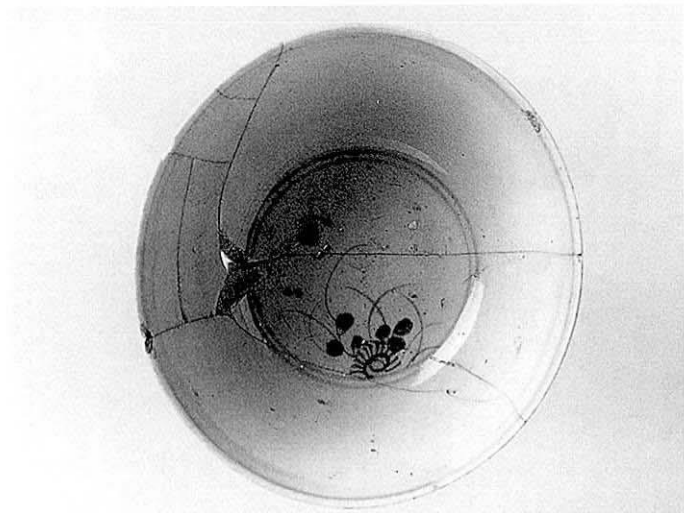


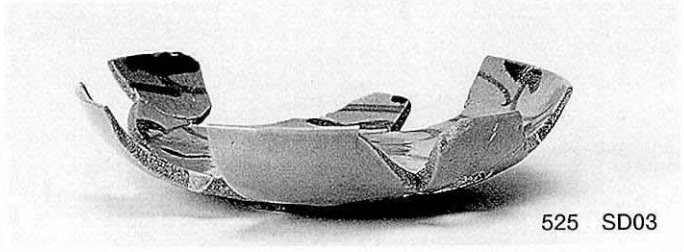
521　SD03

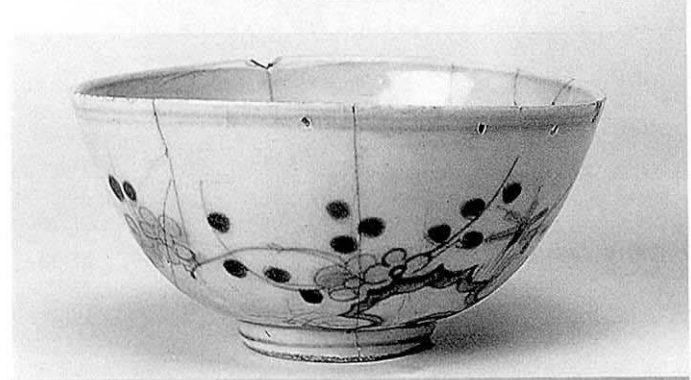
3区　出　土　遺　物

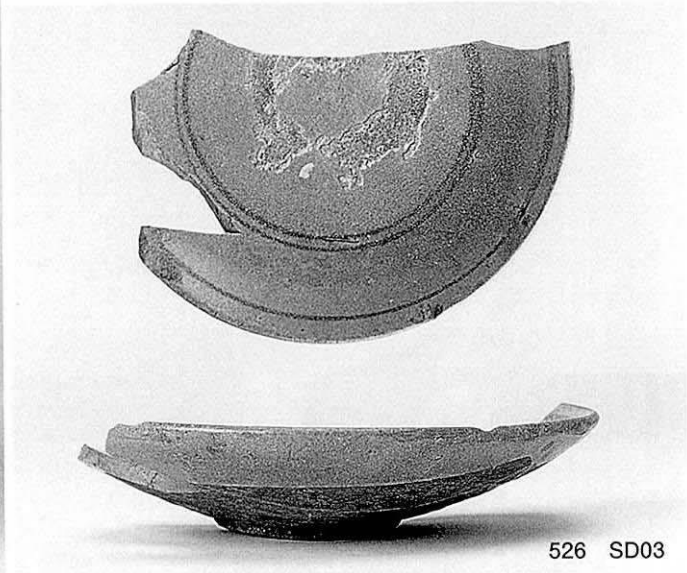

522　SD03





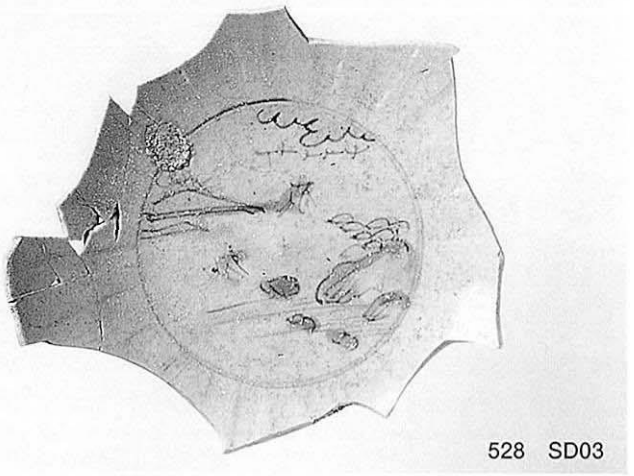

525　SD03



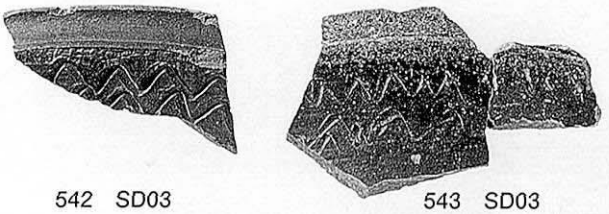

526　SD03


524　SD03


527　SD03

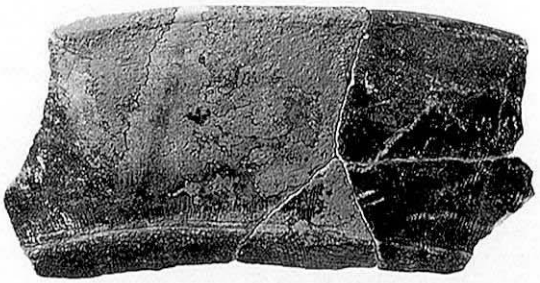


528　SD03

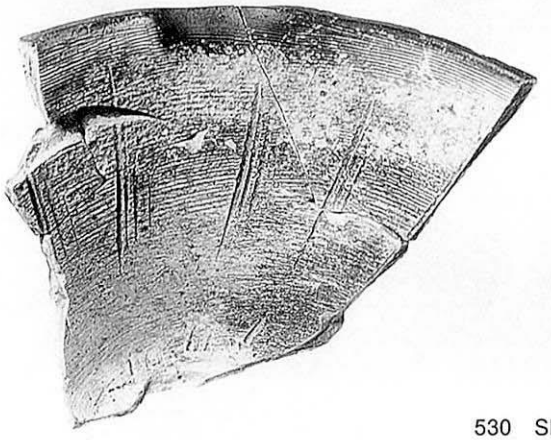


542　SD03

543　SD03



550
SD03

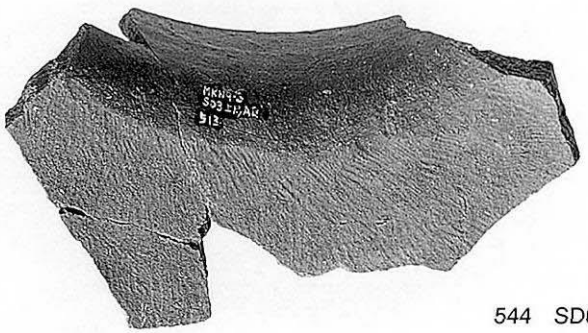


530　SD03



597　SD03



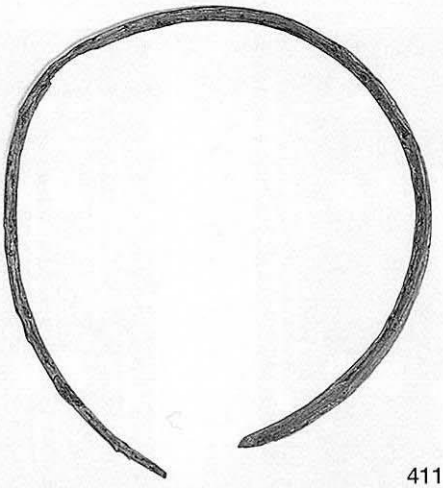


544　SD03

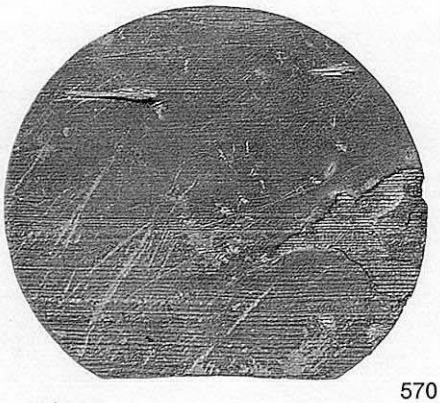


546　SD03

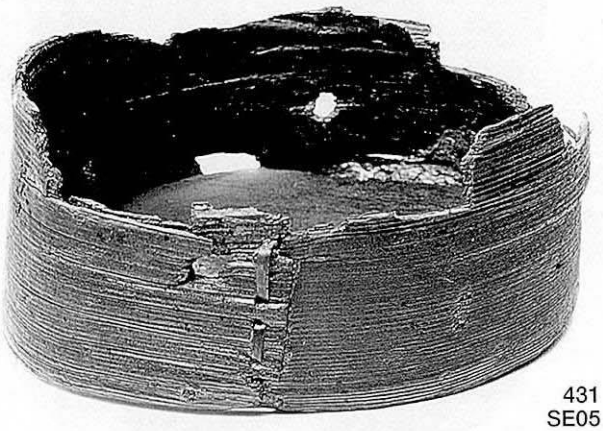
3区　出　土　遺　物



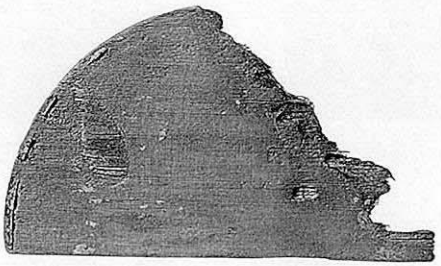
411　SE03



570　SD01



431
SE05



571
SD01



563　SD01



565　SD01



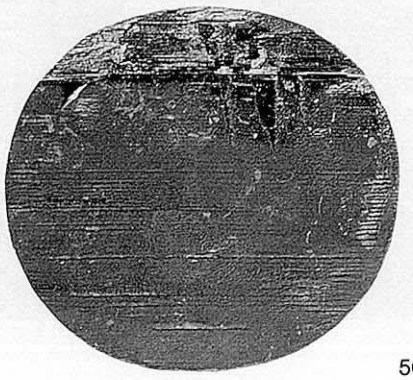
573　SD03



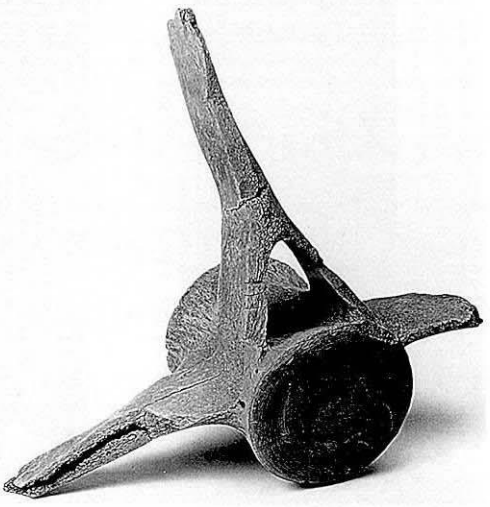
564　SD01



572
SD03

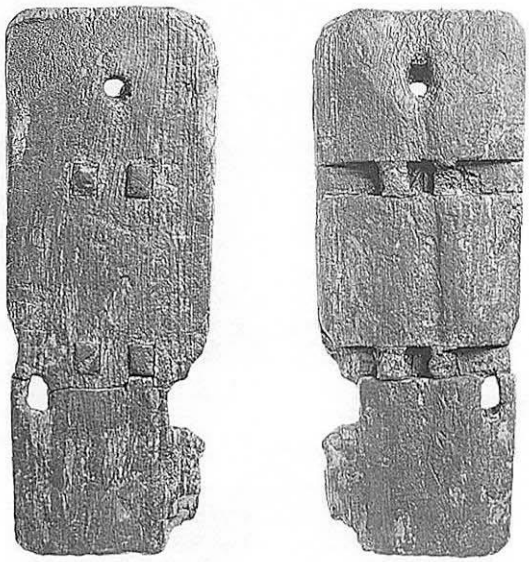


569　SD01

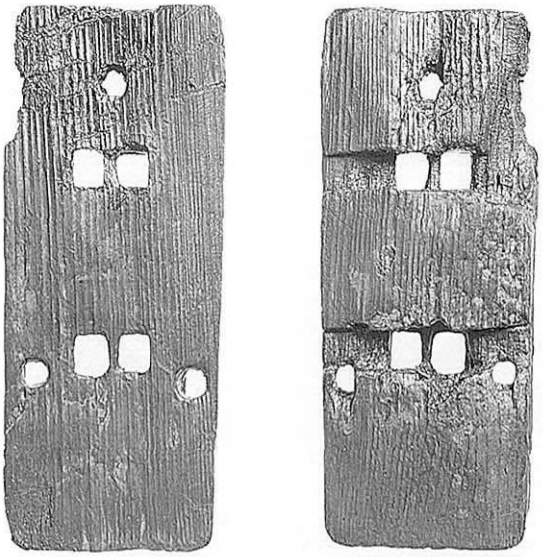


SD03

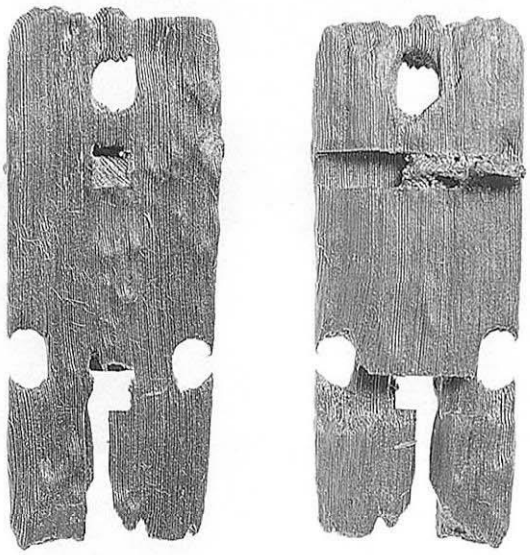
3区　出　土　遺　物



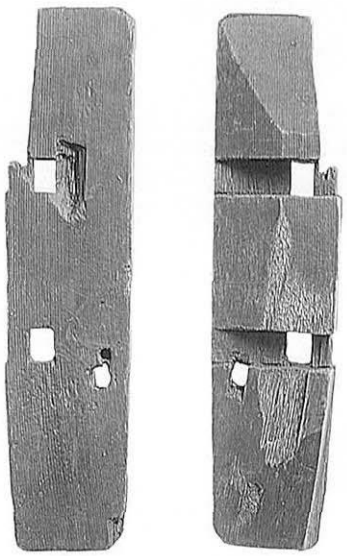
557　SD01



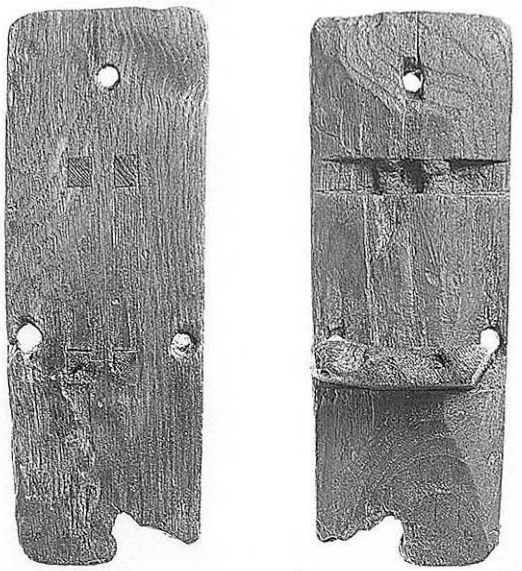
558　SD01



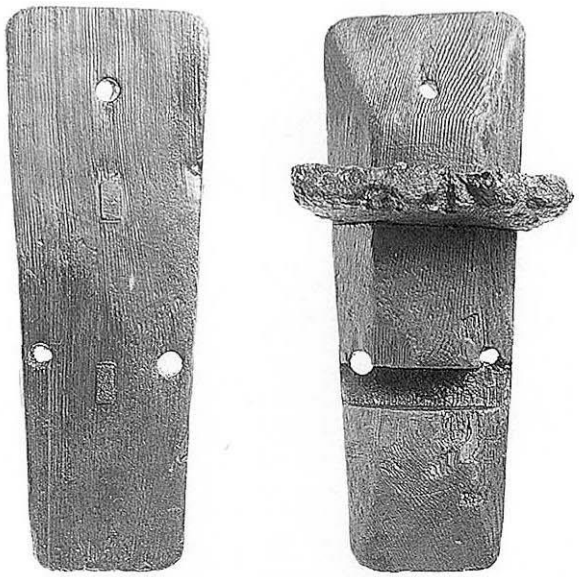
559　SD01



560　SD01



561　SD03

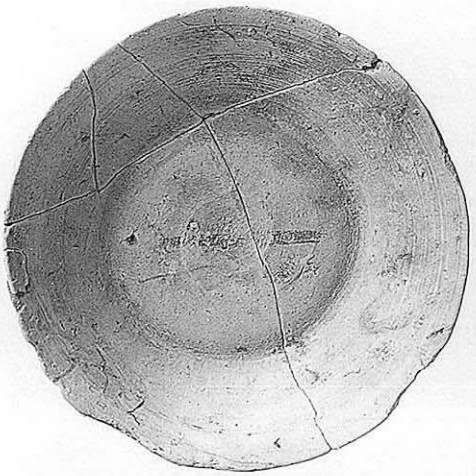


562　SD03

3区　出　土　遺　物



610　SP320(SB05)





602　SP92(SB02)



619　SE02



624　SE02





616　SE01



630　SE04



617　SE01



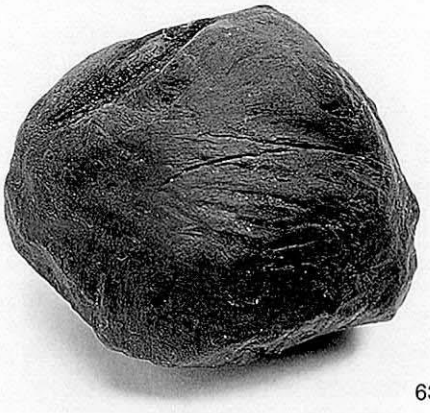
623　SE02



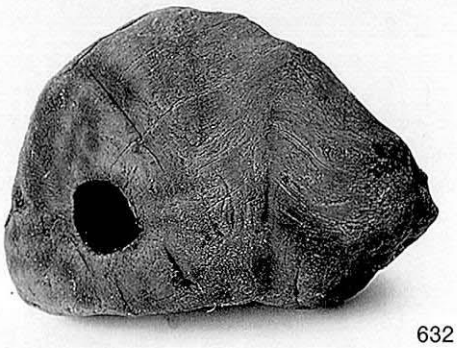
631　SE04

4区　出　土　遺　物

図版62



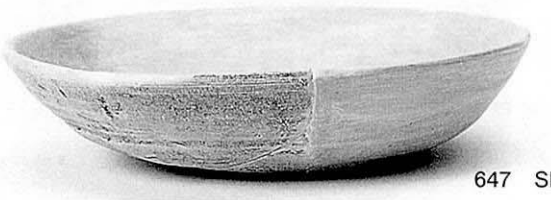
633　SE04



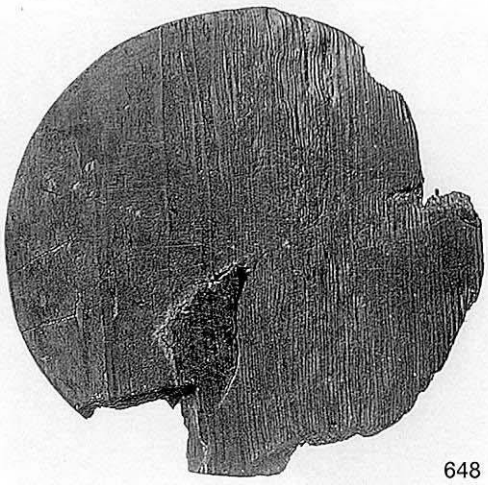
632　SE04



645　SE05



647　SE06



648　SE06



650　SX01



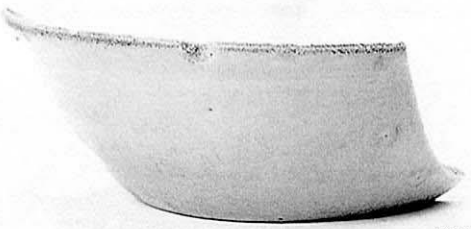
653　SX03



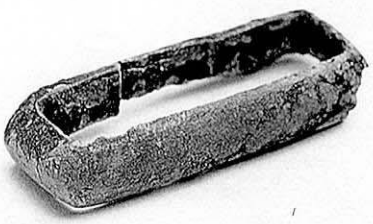
654　SX04



657　SX12



663　SX14



676　SX15

4区　出　土　遺　物



685 SX20



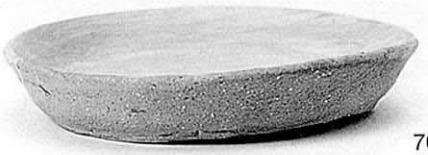
SX22



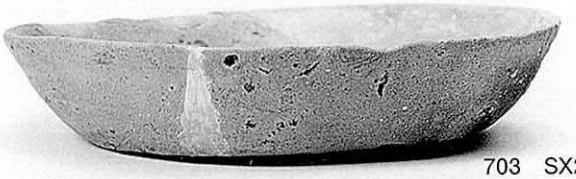
694 SX21



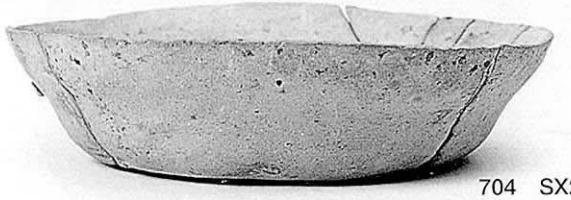
683 SX18



702 SX24



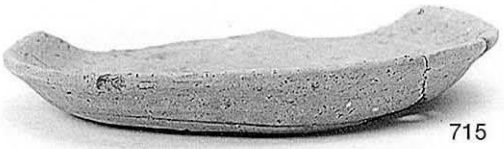
703 SX24



704 SX24



706 SX24



715 SX28



716 SX28



717 SX28



719 SX28



722 SX29



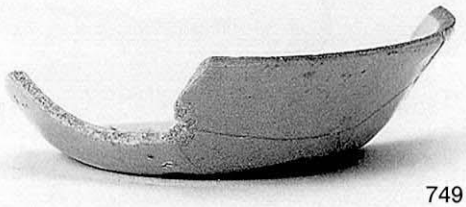
723 SX29



724 SX29


728 SX30

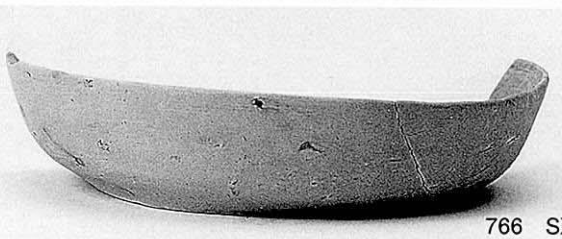

742 SX36


749 SX40


753 SX40


754 SX41


756 SX41


766 SX42


758 SX41

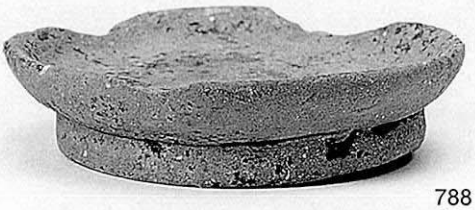

759 SX41

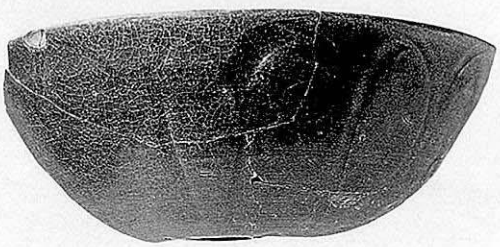

762 SX41

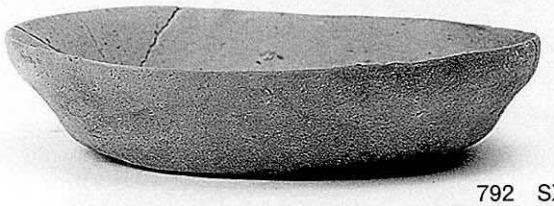

765 SX42


767 SX42


787 SX45


788 SX45


791 SX48

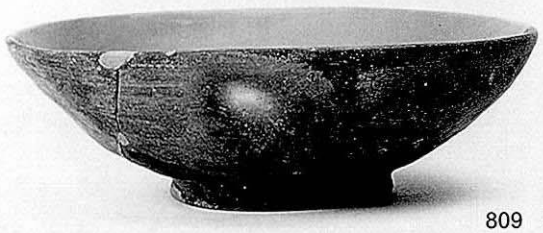

792 SX48


796 SX49

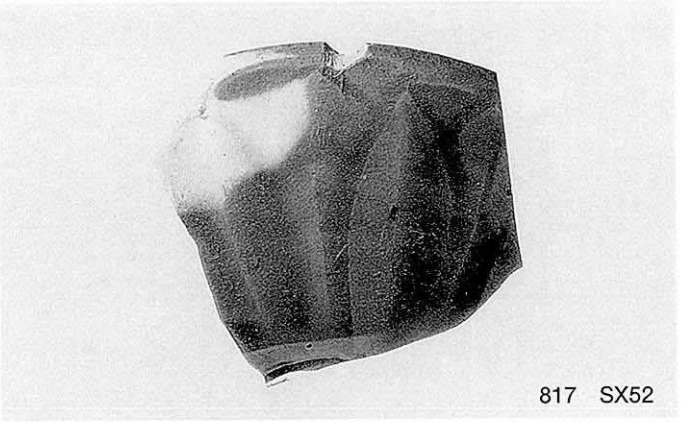

801 SX49

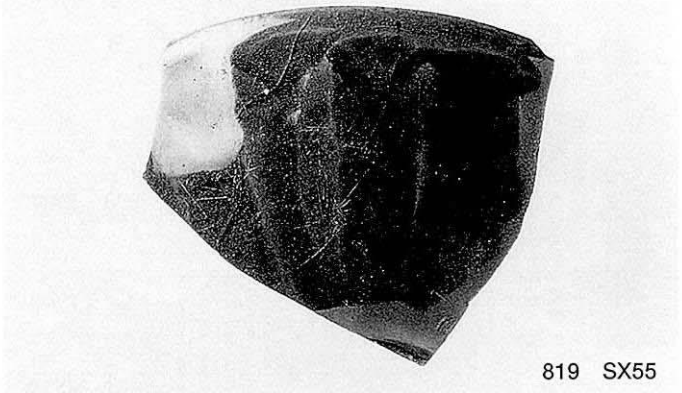

806 SX50


808 SX50


809 SX50


811 SX50

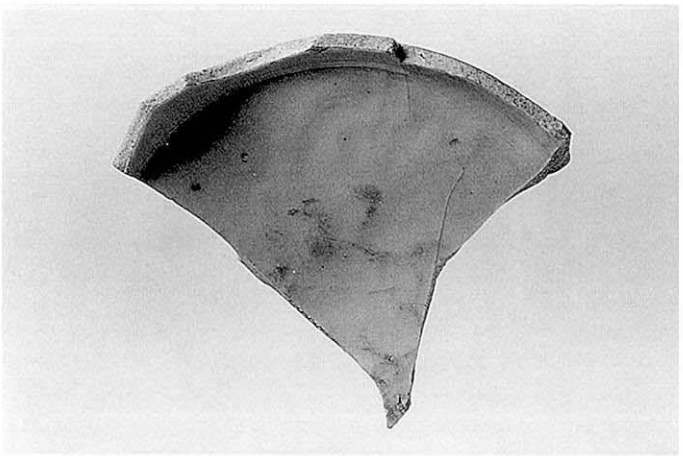

817 SX52


819 SX55


818 SX55


822 SX58


840 SX68





838　SX68



851　SX72



854　SX72



855　SX72



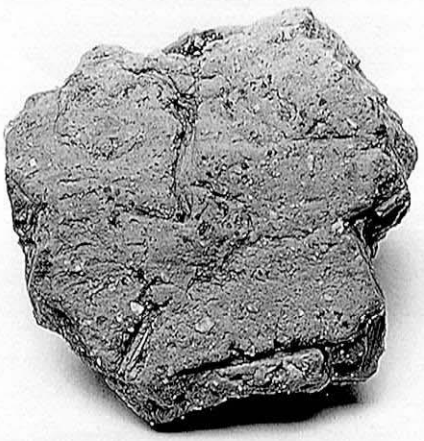
857　SX72



859　SX72



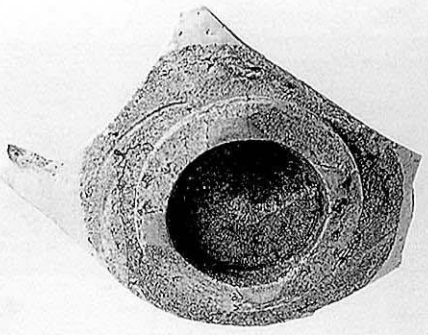
865　SX72



868　SX72



869　SX72



875　SD04

4区　出　土　遺　物



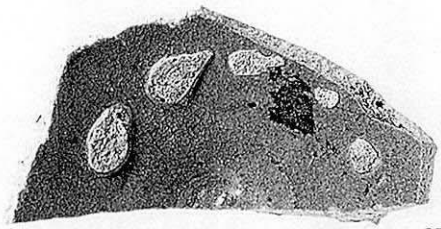
873 SD04



876 SD04



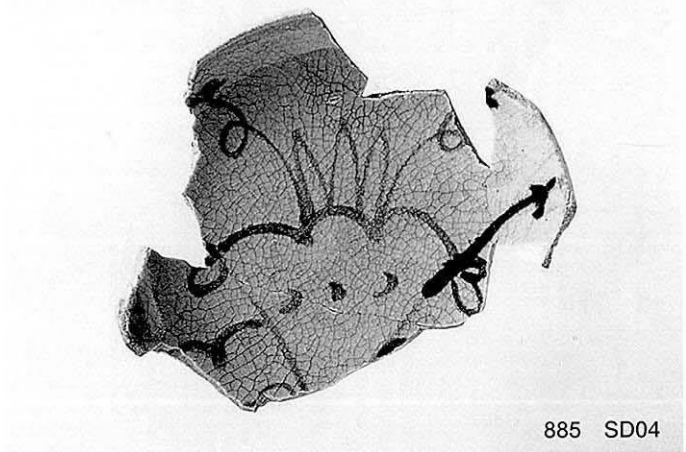
877 SD04



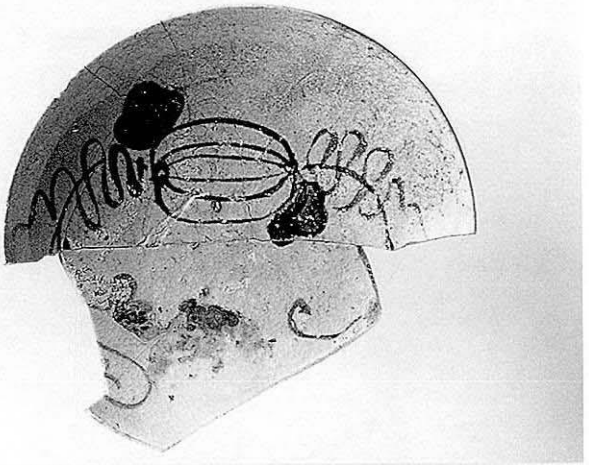
878 SD04

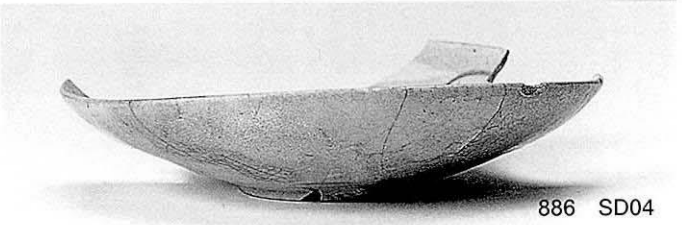


879 SD04

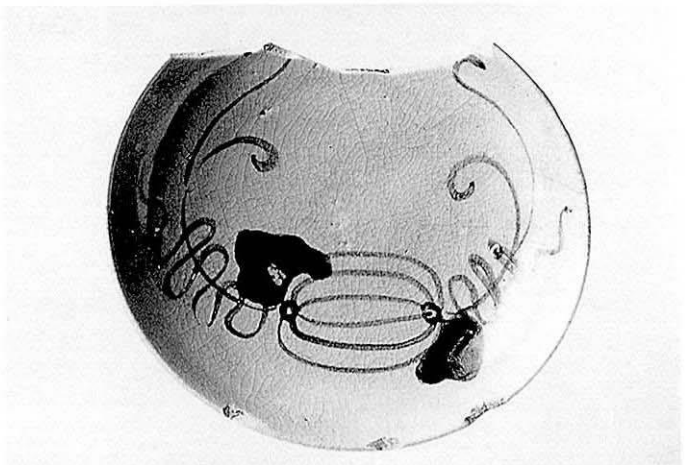


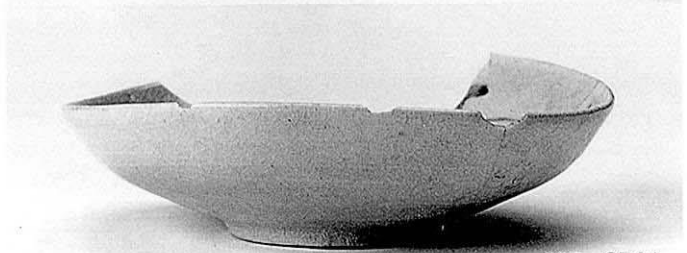
885 SD04



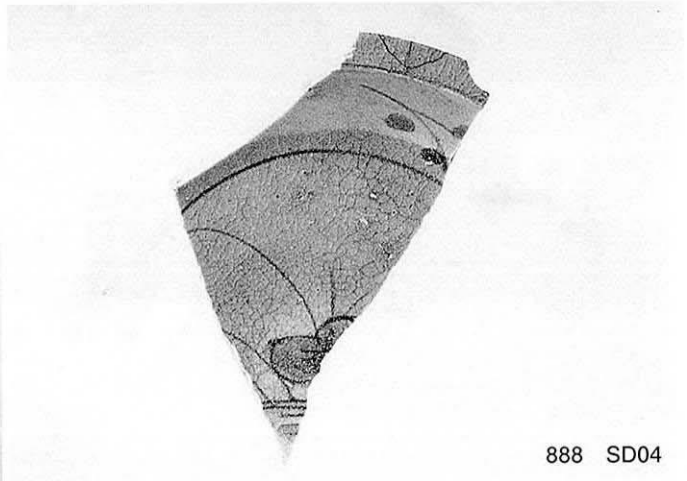


886 SD04



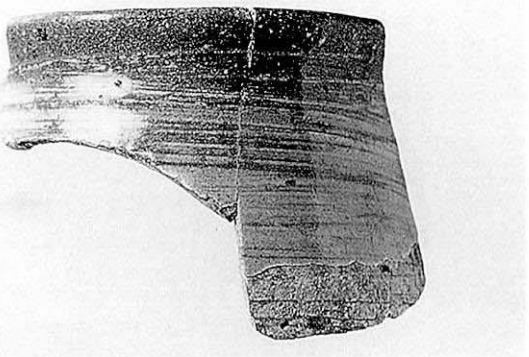


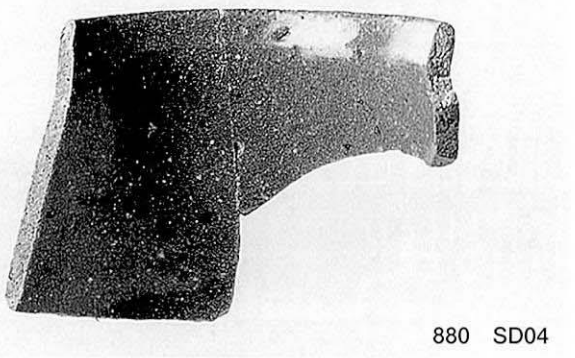
887 SD04



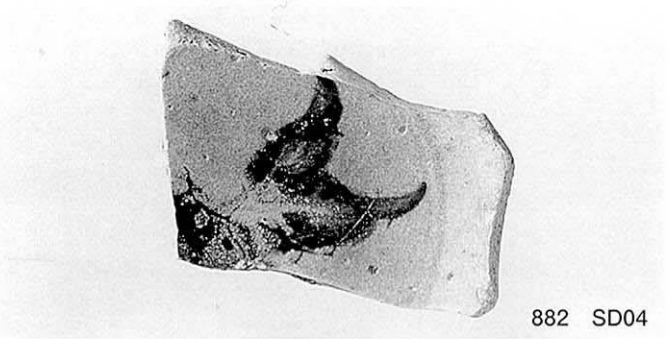
888 SD04

図版68





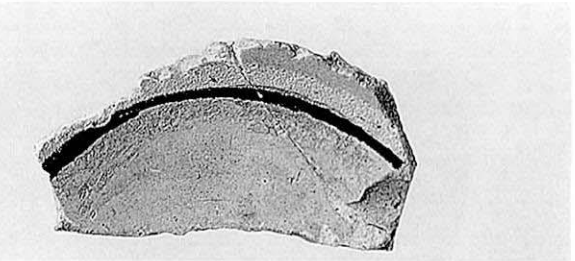
880　SD04

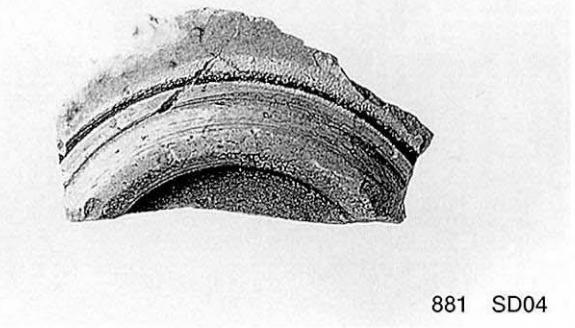


882　SD04

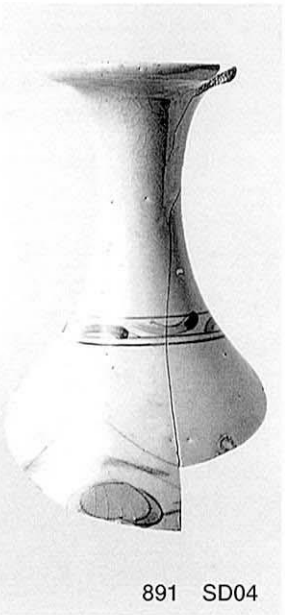


883　SD04





881　SD04



891　SD04

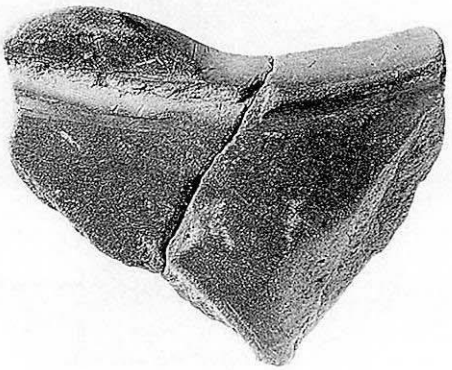


889　SD04

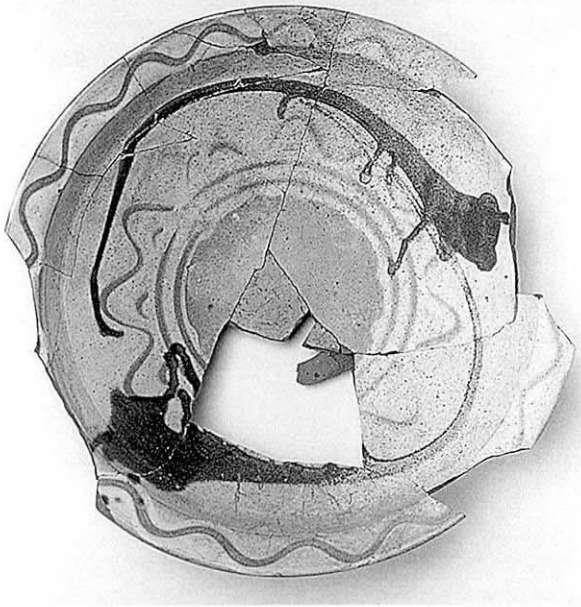
4区　出　土　遺　物

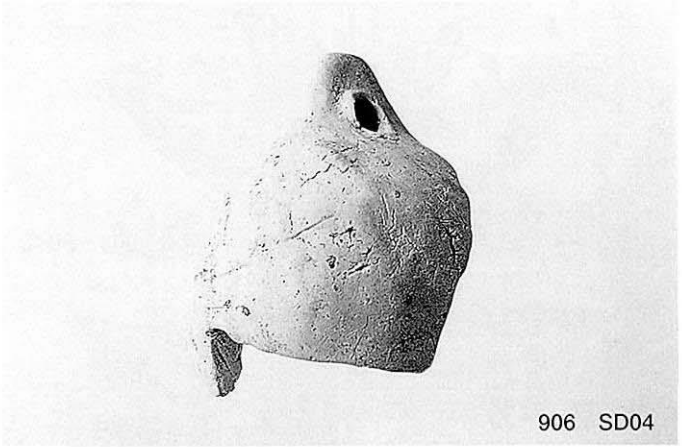


884　SD04

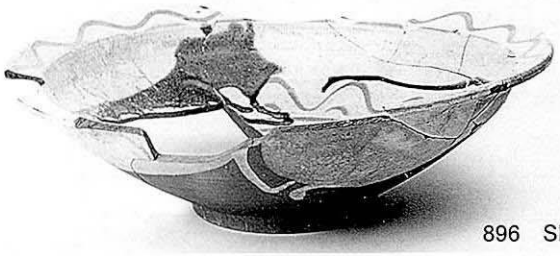


893　SD04





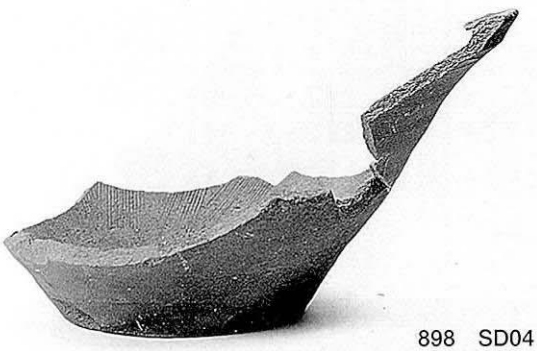
906　SD04



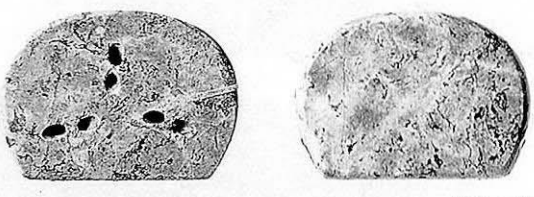
896　SD04



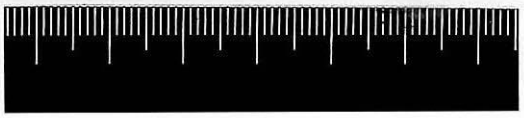
905　SD04



898　SD04



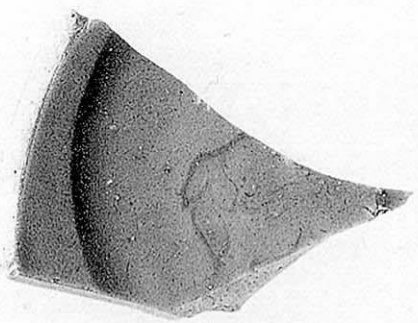
907　SD04



4区　出　土　遺　物



912～917　SD06



945　SD06



931　SD06



948　SD06



908　SD05



953　SD06



940　SD06



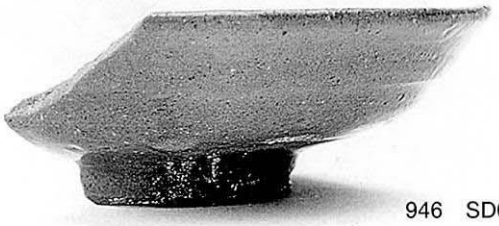
947　SD06



941　SD06



954　SD06



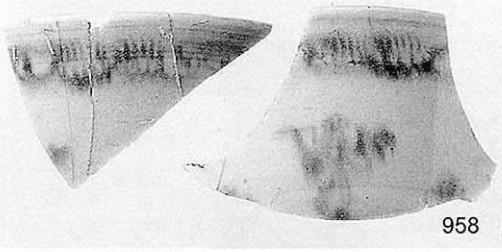
946　SD06



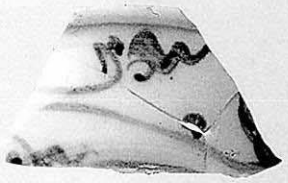
943　SD06



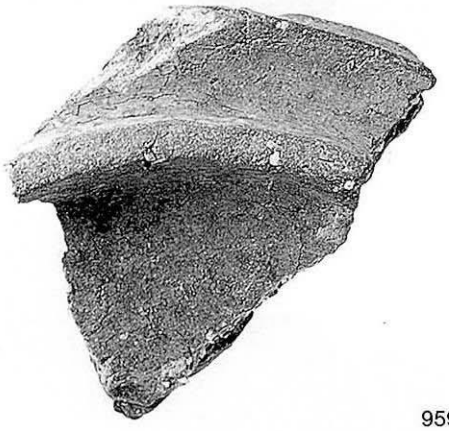
957　SD06



958 SD06



966 SD06



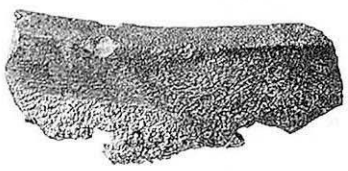
959 SD06



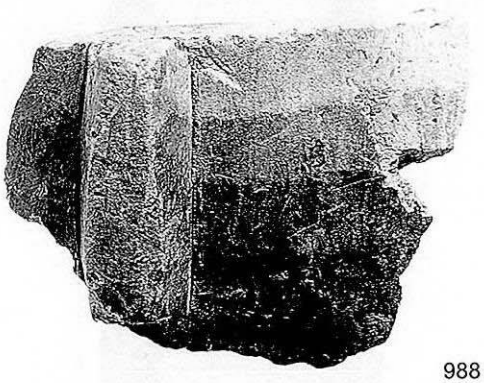
982 SD06



1002 SD06



1001 SD06



988 SD06



996 SD06



1003 SD06



1025 SP681



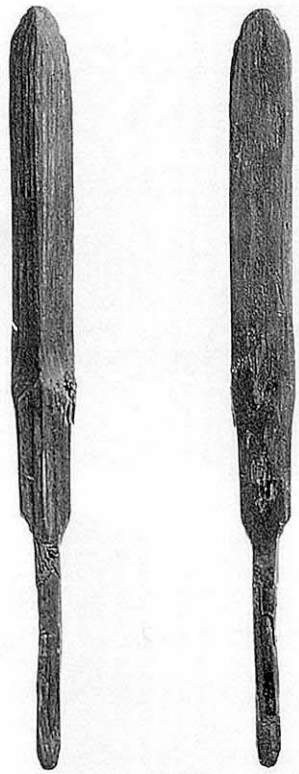
1033 SP270



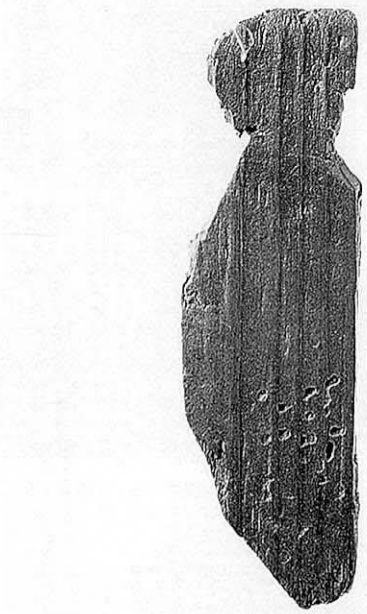
1034 SP435

4区 出 土 遺 物

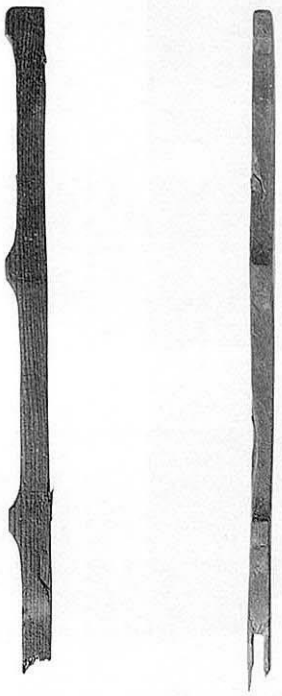
図版72



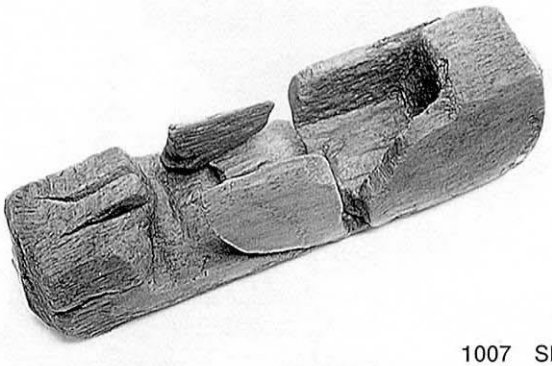
1004　SD06



1005　SD06



1006　SD06

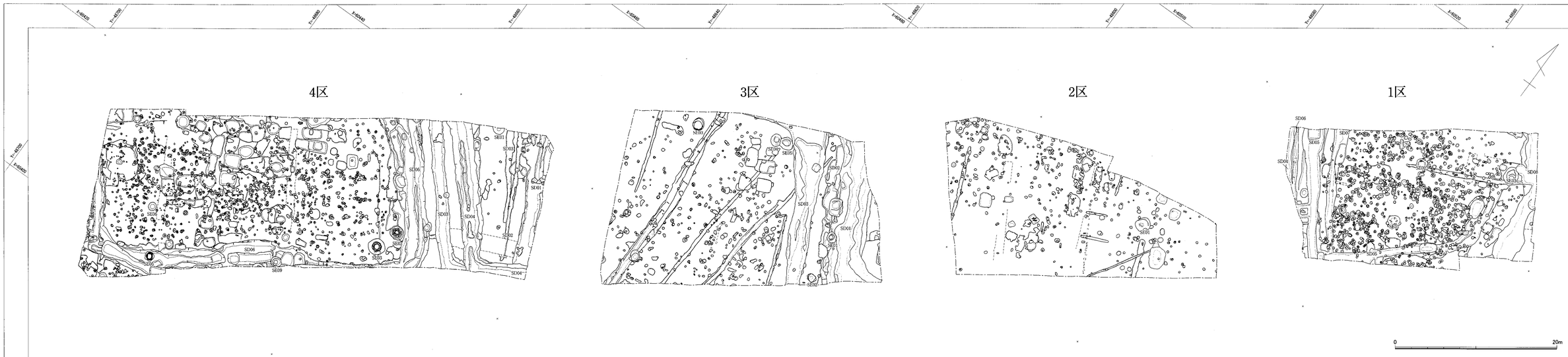


1007　SD06

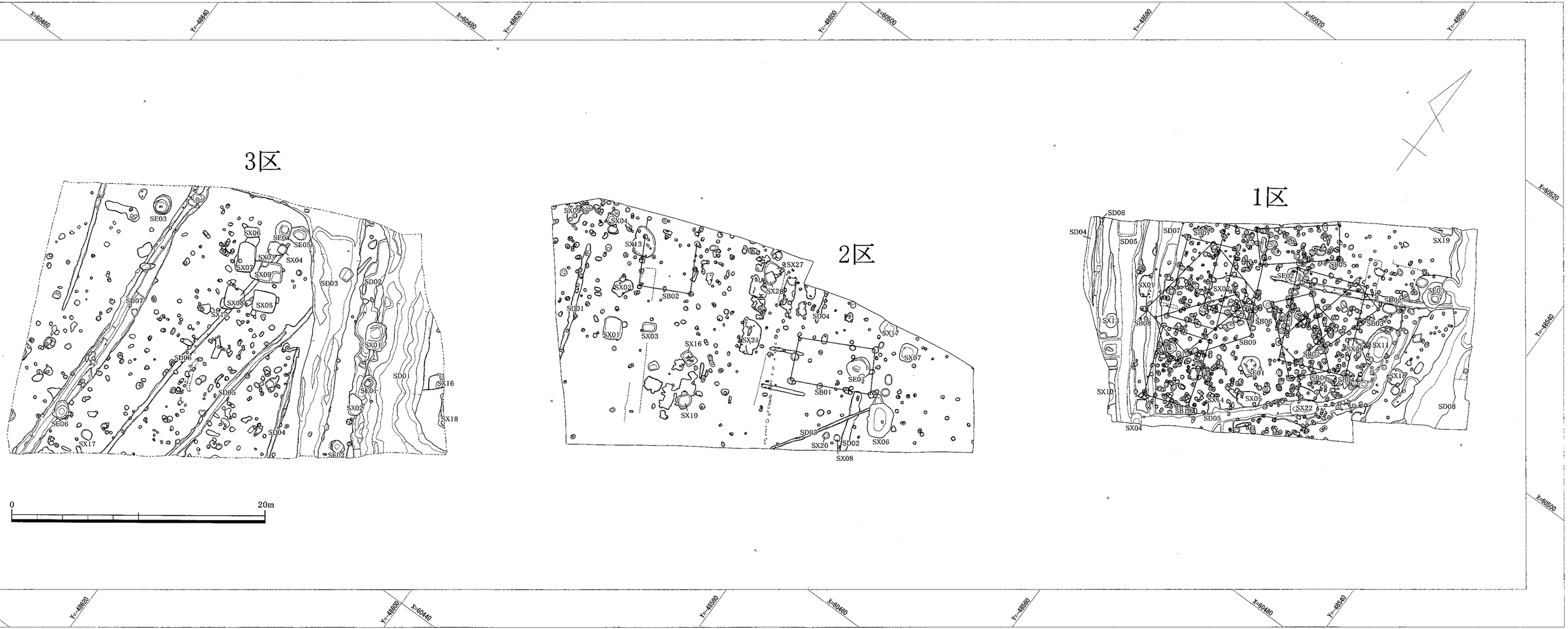


42　1区SE01

4区　出　土　遺　物



付図　御笠の森遺跡　第９次調査　調査区配置図（1/200）



付図１　御笠の森遺跡第９次調査遺構配置図（１～３区）(1/200)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	みかさのもりいせき
書 名	御笠の森遺跡Ⅰ
副 書 名	県道那珂川宇美線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻 次	1
シ リ ー ズ 名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第63集
編 著 者 名	林　潤也・平島　義孝
編 集 機 関	大野城市教育委員会
所 在 地	〒816-0934　福岡県大野城市曙町２－２－１　ＴＥＬ 092-501-2211
発 行 年 月 日	西暦2004年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
御笠の森遺跡	福岡県 大野城市 山田２・ ３丁目			33°32′35″	130°28′32″	2001.10.1 ～ 2004.2.20	5152m²	県道建設

所収遺跡名	種名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御笠の森遺跡	集落	弥生 ～ 江戸	掘立柱建物跡 井戸跡 溝 土坑	弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・瓦・石帯・石臼・下駄・独楽・羽子板・網枠・鉛玉	古代末～近世前半期を主体とした集落遺跡。溝で囲まれた方形区画を多数確認。『筑前国続風土記』に記載のある「山田村」に相当。

大野城市文化財調査報告書

第63集

平成16年３月31日

発行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町２－２－１

印刷　正光印刷株式会社
福岡市中央区赤坂１丁目３－７